

講 義 要 項

— syllabus —



目次

1304001	数学入門	横山 哲也	2 Q	1
1401000	哲学	尾崎 有紀	1 Q	3
2101001	情報基礎演習 I	(M-A) 薦田 勇智	前期	5
2101002	情報基礎演習 I	(S) 薦田 勇智	前期	7
2101003	情報基礎演習 I	(D) 薦田 勇智	前期	9
2101004	情報基礎演習 I	(A) 薦田 勇智	前期	11
2101005	情報基礎演習 I	(M-B) 薦田 勇智	前期	13
2101006	情報基礎演習 I	(M-C) 薦田 勇智	前期	15
3101101	基礎英語 I	(M-信濃) 信濃 吉彦	1 Q	17
3101102	基礎英語 I	(M-岡島) 岡島 徳昭	1 Q	19
3101103	基礎英語 I	(M-石田) 石田 暁子	1 Q	21
3101104	基礎英語 I	(M-井坂) 井坂 肇	1 Q	23
3101105	基礎英語 I	(SDA-西崎) 西崎 毅	1 Q	25
3101106	基礎英語 I	(SDA-宮嶋) 宮嶋 達也	1 Q	27
3101107	基礎英語 I	(SDA-横田) 横田 肇	1 Q	29
3101108	基礎英語 I	(SDA-井坂) 井坂 肇	1 Q	31
3201101	ドイツ語入門 I	(M) 河田 一郎	1 Q	33
3201102	ドイツ語入門 I	(S・D・A) 河田 一郎	1 Q	35
4101001	ｽﾎｰﾝ総合	(M-A) 佐藤和・米野・岡田	前期	37
4101002	ｽﾎｰﾝ総合	(M-B) 佐藤和・米野・岡田	前期	39
4101003	ｽﾎｰﾝ総合	(M-C) 佐藤和・米野・岡田	前期	41
4101004	ｽﾎｰﾝ総合	(S-A) 三嶋・天野	前期	43
4101005	ｽﾎｰﾝ総合	(S-B) 三嶋・天野	前期	45
4101006	ｽﾎｰﾝ総合	(DA-M) 石井 祐治	前期	47
4101007	ｽﾎｰﾝ総合	(DA-W) 岡田 武志	前期	49
4101008	ｽﾎｰﾝ総合	(D-B) 石井 祐治	前期	51
4101009	ｽﾎｰﾝ総合	(A-B) 三嶋 康嗣	前期	53
5102100	ｼｬｰｸの基盤と専門職(専門)	上原 正希	3 Q	55
5201000	美術学概論 I	竹内 美帆	3 Q	57
5301001	基本製図	向井 正伸	前期	59
5401000	経営学総論	信濃 吉彦	1 Q	61
5403000	経営組織論	猪尾 紀幸	2 Q	63
6200501	ｽﾀｰｱｯﾌﾟ演習 (M)	河野 善文	1 Q	65
6200502	ｽﾀｰｱｯﾌﾟ演習 (S)	松下・後藤	1 Q	67
6200503	ｽﾀｰｱｯﾌﾟ演習 (D)	三上 いずみ	1 Q	69
6200504	ｽﾀｰｱｯﾌﾟ演習 (A)	赤木 良子	前期	71
6209201	ｷｬﾘｱ支援演習 I	(M) 井坂 肇	後期	73
6209202	ｷｬﾘｱ支援演習 I	(S) 後藤 啓倫	後期	75
6209203	ｷｬﾘｱ支援演習 I	(D) 堤 美穂子	後期	77
6209204	ｷｬﾘｱ支援演習 I	(A) 伊藤 裕康	後期	79
6331000	ﾎｰﾙﾊﾞｰｸﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	信濃・安藤	後期	81
7023100	精神保健福祉の原理 I	西野 克俊	1 Q	83
7210001	専門演習 IA	由水 伸	前期	85
7210002	専門演習 IA	信濃 吉彦	前期	87
7210003	専門演習 IA	河野 善文	前期	89
7210006	専門演習 IA	岡島 徳昭	前期	91
7210008	専門演習 IA	青山 浩之	前期	93
7210009	専門演習 IA	石山 玄幸	前期	95
7210010	専門演習 IA	天野 雅人	前期	97
7210011	専門演習 IA	石井 祐治	前期	99
7210012	専門演習 IA	篠原 諒介	前期	101
7210014	専門演習 IA	小林 大州介	前期	103
7210064	専門演習 IA	藤根 収	前期	105
7210065	専門演習 IA	松下 守邦	前期	107
7210069	専門演習 IA	吉江 幸子	前期	109
7210070	専門演習 IA	西野 克俊	前期	111
7210071	専門演習 IA	畠山 明子	前期	113
7210074	専門演習 IA	堀川 厚志	前期	115
7210075	専門演習 IA	宮崎 剛司	前期	117
7210076	専門演習 IA	蛭名 美穂	前期	119
7210078	専門演習 IA	吉澤 英里	前期	121
7305101	基礎ﾌﾞﾗｲﾄﾞ I	林 春生	2 Q	123
7383161	専門研究 IA	北嶋 洋一	前期集中	125
7383164	専門研究 IA	安田 祐造	前期集中	127
7383165	専門研究 IA	林 春生	前期集中	129
7383166	専門研究 IA	梅田 力	前期集中	131
7383168	専門研究 IA	三上 いずみ	前期集中	133
7383170	専門研究 IA	竹内 美帆	前期集中	135
7383171	専門研究 IA	浩而 魅諭	前期集中	137
7383172	専門研究 IA	堤 美穂子	前期集中	139
7503000	建築設計演習 I	野村 和也	前期	141
7541000	建築表現 I	君 興治	前期	143
7623061	建築研究 I	安藤 淳一	前期集中	145
7623062	建築研究 I	伊藤 裕康	前期集中	147
7623063	建築研究 I	佐藤 善太郎	前期集中	149
7623064	建築研究 I	佐々木 哲之	前期集中	151
7623066	建築研究 I	長森 正	前期集中	153
7623067	建築研究 I	小笠原 健	前期集中	155
7623068	建築研究 I	君 興治	前期集中	157
7623069	建築研究 I	向井 正伸	前期集中	159
7623071	建築研究 I	赤木 良子	前期集中	161
7706000	ｺﾐｭﾈｰｼｮﾝ論	山 本 一彦	3 Q	163
7824000	絵画	浩而 魅諭	後期	165
9101100	教職論	木村 浩紀	1 Q	167
T99999	テスト用講義 1	テスト教員 1	前期	169
1305000	統計学入門 (M)	伊藤 裕康	2 Q	171
1305001	統計学入門 (SDA)	伊藤 裕康	2 Q	173
1404000	法学	青山 浩之	2 Q	175
2102001	情報基礎演習 II	(M-A) 由水・薦田・佐藤雅	後期	177
2102002	情報基礎演習 II	(S) 宮崎・薦田	後期	179
2102003	情報基礎演習 II	(D) 薦田・佐藤雅	後期	181
2102004	情報基礎演習 II	(A) 薦田・佐藤雅・伊藤	後期	183
2102005	情報基礎演習 II	(M-B) 由水・薦田・佐藤雅	後期	185

2102006	情報基礎演習Ⅱ (M-C)	由水・薦田・佐藤雅	後期	187
3102101	基礎英語Ⅱ (M-信濃)	信濃 吉彦	2 Q	189
3102102	基礎英語Ⅱ (M-岡島)	岡島 徳昭	2 Q	191
3102103	基礎英語Ⅱ (M-石田)	石田 暁子	2 Q	193
3102104	基礎英語Ⅱ (M-井坂)	井坂 肇	2 Q	195
3102105	基礎英語Ⅱ (SDA-西崎)	西崎 毅	2 Q	197
3102106	基礎英語Ⅱ (SDA-宮嶋)	宮嶋 達也	2 Q	199
3102107	基礎英語Ⅱ (SDA-横田)	横田 肇	2 Q	201
3102108	基礎英語Ⅱ (SDA-井坂)	井坂 肇	2 Q	203
3202101	トイ語入門Ⅱ (M)	河田 一郎	4 Q	205
3202102	トイ語入門Ⅱ (S・D・A)	河田 一郎	4 Q	207
4102001	健康科学 (M)	米野・佐藤和・三嶋・石井・岡田	3 Q	209
4102002	健康科学 (S)	尾西 則昭	4 Q	211
4102003	健康科学 (D・A)	米野・三嶋・石井・岡田	4 Q	213
5103100	社会保障Ⅰ	上原 正希	3 Q	215
5202000	美術学概論Ⅱ	寺嶋 弘道	3 Q	217
5302000	建築設計製図	佐々木哲・向井	後期	219
5402000	簿記論	岩立 顕一郎	2 Q	221
6101061	基礎ゼミⅠA	竹内 美帆	前期	223
6101062	基礎ゼミⅠA	後藤 啓倫	前期	225
6101063	基礎ゼミⅠA	戸佐 晃一	前期	227
6101064	基礎ゼミⅠA	米野 宏	前期	229
6101065	基礎ゼミⅠA	佐藤 和裕	前期	231
6101068	基礎ゼミⅠA	三嶋 康嗣	前期	233
6101069	基礎ゼミⅠA	井坂 肇	前期	235
6101071	基礎ゼミⅠA	石井 祐治	前期	237
6101072	基礎ゼミⅠA	篠原 諒介	前期	239
6101074	基礎ゼミⅠA	杉本 大輔	前期	241
6101075	基礎ゼミⅠA	横田 肇	前期	243
6101076	基礎ゼミⅠA	櫻井 美帆子	前期	245
6101077	基礎ゼミⅠA	湯浅 頼佳	前期	247
6101078	基礎ゼミⅠA	尾西 則昭	前期	249
6101079	基礎ゼミⅠA	西崎 毅	前期	251
6101082	基礎ゼミⅠA	宮嶋 達也	前期	253
6101085	基礎ゼミⅠA	向井 正伸	前期	255
6101086	基礎ゼミⅠA	佐藤 恵利	前期	257
6101087	基礎ゼミⅠA	千葉 聡美	前期	259
6101089	基礎ゼミⅠA	河田 一郎	前期	261
6101090	基礎ゼミⅠA	大島 康雄	前期	263
6101093	基礎ゼミⅠA	木村 浩紀	前期	265
6101094	基礎ゼミⅠA	薦田 勇智	前期	267
6101095	基礎ゼミⅠA	佐藤 雅一	前期	269
6101096	基礎ゼミⅠA	塩崎 大輔	前期	271
6101097	基礎ゼミⅠA (再)	河田 一郎	前期	273
6101098	基礎ゼミⅠA	安田 祐造	前期	275
6101100	基礎ゼミⅠA	堤 美穂子	前期	277
6101101	基礎ゼミⅠA	浩而 魅論	前期	279
6101102	基礎ゼミⅠA	赤木 良子	前期	281
6101103	基礎ゼミⅠA	伊藤 裕康	前期	283
6101104	基礎ゼミⅠA	岡田 武志	前期	285
6210101	キャリア支援演習Ⅱ (M)	井坂 肇	前期	287
6210102	キャリア支援演習Ⅱ (S)	後藤 啓倫	前期	289
6210103	キャリア支援演習Ⅱ (D)	堤 美穂子	前期	291
6210104	キャリア支援演習Ⅱ (A)	伊藤 裕康	前期	293
6405000	地域共生 (学科別)	プログラム	学務課 通年	295
7021100	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	近藤 亜弥	2 Q	297
7211001	専門演習ⅠB	由水 伸	後期	299
7211002	専門演習ⅠB	信濃 吉彦	後期	301
7211003	専門演習ⅠB	河野 善文	後期	303
7211006	専門演習ⅠB	岡島 徳昭	後期	305
7211008	専門演習ⅠB	青山 浩之	後期	307
7211009	専門演習ⅠB	石山 玄幸	後期	309
7211010	専門演習ⅠB	天野 雅人	後期	311
7211011	専門演習ⅠB	石井 祐治	後期	313
7211012	専門演習ⅠB	篠原 諒介	後期	315
7211014	専門演習ⅠB	小林 大州介	後期	317
7211064	専門演習ⅠB	藤根 収	後期	319
7211069	専門演習ⅠB	吉江 幸子	後期	321
7211070	専門演習ⅠB	西野 克俊	後期	323
7211071	専門演習ⅠB	畠山 明子	後期	325
7211074	専門演習ⅠB	堀川 厚志	後期	327
7211075	専門演習ⅠB	宮崎 剛司	後期	329
7211076	専門演習ⅠB	松下 守邦	後期	331
7211078	専門演習ⅠB	蛭名 美穂	後期	333
7211081	専門演習ⅠB	吉澤 英里	後期	335
7305201	基礎ゼミⅡ	林 春生	4 Q	337
7385161	専門研究ⅠB	北嶋 (佐藤正)	後期集中	339
7385164	専門研究ⅠB	安田 祐造	後期集中	341
7385165	専門研究ⅠB	林 春生	後期集中	343
7385166	専門研究ⅠB	梅田 力	後期集中	345
7385168	専門研究ⅠB	三上 いずみ	後期集中	347
7385170	専門研究ⅠB	竹内 美帆	後期集中	349
7385171	専門研究ⅠB	浩而 魅論	後期集中	351
7385172	専門研究ⅠB	堤 美穂子	後期集中	353
7514000	建築設計演習Ⅱ	日野 桂子	後期	355
7543000	建築表現Ⅱ	安藤・君	後期	357
7624061	建築研究Ⅱ	安藤 淳一	後期集中	359
7624062	建築研究Ⅱ	伊藤 裕康	後期集中	361
7624063	建築研究Ⅱ	佐藤 善太郎	後期集中	363
7624064	建築研究Ⅱ	佐々木 哲之	後期集中	365
7624066	建築研究Ⅱ	長森 正	後期集中	367
7624067	建築研究Ⅱ	小笠原 健	後期集中	369
7624068	建築研究Ⅱ	君 興治	後期集中	371
7624069	建築研究Ⅱ	向井 正伸	後期集中	373
7624071	建築研究Ⅱ	赤木 良子	後期集中	375
7714001	中小企業論	石山 玄幸	1 Q	377
7718000	社会心理学	佐藤 和裕	2 Q	379
7819000	行外漫画概論Ⅰ	竹内 美帆	前期	381
9102001	教育原理 (MDA)	西崎 毅	3 Q	383
1113100	芸術へのアプローチ	梅田 力	2 Q	385

1405001	経済学 (S)	河野 善文	4 Q	387
1405002	経済学 (M・D・A)	小林 大州介	4 Q	389
2103300	データベース基礎	薦田 勇智	3 Q	391
3103101	英語入門Ⅰ (M)	岡島 徳昭	2 Q	393
3103102	英語入門Ⅰ (S)	横田 肇	2 Q	395
3103103	英語入門Ⅰ (D・A)	宮嶋 達也	2 Q	397
3203101	中国語入門Ⅰ	孫 暢	2 Q	399
5104100	社会保障Ⅱ	上原 正希	4 Q	401
5206001	デッサンⅠ (A)	橘 春香	前期	403
5206002	デッサンⅠ (B)	橘 春香	前期	405
5304000	建築システム論	向井 正伸	4 Q	407
5406001	ホーミング・システム論	信濃 吉彦	4 Q	409
6102061	基礎ゼミナルⅠB	竹内 美帆	後期	411
6102062	基礎ゼミナルⅠB	後藤 啓倫	後期	413
6102063	基礎ゼミナルⅠB	戸佐 晃一	後期	415
6102064	基礎ゼミナルⅠB	米野 宏	後期	417
6102065	基礎ゼミナルⅠB	佐藤 和裕	後期	419
6102068	基礎ゼミナルⅠB	三嶋 康嗣	後期	421
6102069	基礎ゼミナルⅠB	井坂 肇	後期	423
6102071	基礎ゼミナルⅠB	石井 祐治	後期	425
6102072	基礎ゼミナルⅠB	篠原 諒介	後期	427
6102074	基礎ゼミナルⅠB	杉本 大輔	後期	429
6102075	基礎ゼミナルⅠB	横田 肇	後期	431
6102076	基礎ゼミナルⅠB	櫻井 美帆子	後期	433
6102077	基礎ゼミナルⅠB	湯浅 頼佳	後期	435
6102078	基礎ゼミナルⅠB	尾西 則昭	後期	437
6102079	基礎ゼミナルⅠB	西崎 毅	後期	439
6102081	基礎ゼミナルⅠB	宮嶋 達也	後期	441
6102085	基礎ゼミナルⅠB	向井 正伸	後期	443
6102086	基礎ゼミナルⅠB	佐藤 恵利	後期	445
6102087	基礎ゼミナルⅠB	千葉 聡美	後期	447
6102089	基礎ゼミナルⅠB	河田 一郎	後期	449
6102090	基礎ゼミナルⅠB	大島 康雄	後期	451
6102093	基礎ゼミナルⅠB	木村 浩紀	後期	453
6102094	基礎ゼミナルⅠB	薦田 勇智	後期	455
6102095	基礎ゼミナルⅠB	佐藤 雅一	後期	457
6102096	基礎ゼミナルⅠB	塩崎 大輔	後期	459
6102097	基礎ゼミナルⅠB (再)	河田 一郎	後期	461
6102098	基礎ゼミナルⅠB	安田 祐造	後期	463
6102100	基礎ゼミナルⅠB	堤 美穂子	後期	465
6102101	基礎ゼミナルⅠB	浩而 魁論	後期	467
6102102	基礎ゼミナルⅠB	赤木 良子	後期	469
6102103	基礎ゼミナルⅠB	伊藤 裕康	後期	471
6102104	基礎ゼミナルⅠB	岡田 武志	後期	473
6209401	キャリア支援演習Ⅲ (M)	石山 玄幸	通年	475
6209402	キャリア支援演習Ⅲ (S)	後藤 啓倫	通年	477
6209403	キャリア支援演習Ⅲ (D)	堤 美穂子	通年	479
6209404	キャリア支援演習Ⅲ (A)	伊藤 裕康	通年	481
6332000	みらい創造プログラム	河野・信濃・石山・篠原	通年	483
7212001	専門演習ⅡA	由水 伸	前期集中	485
7212002	専門演習ⅡA	信濃 吉彦	前期集中	487
7212003	専門演習ⅡA	河野 善文	前期集中	489
7212006	専門演習ⅡA	岡島 徳昭	前期集中	491
7212008	専門演習ⅡA	青山 浩之	前期集中	493
7212009	専門演習ⅡA	石山 玄幸	前期集中	495
7212010	専門演習ⅡA	天野 雅人	前期集中	497
7212011	専門演習ⅡA	石井 祐治	前期集中	499
7212012	専門演習ⅡA	篠原 諒介	前期集中	501
7212014	専門演習ⅡA	小林 大州介	前期集中	503
7212063	専門演習ⅡA	上原 正希	前期集中	505
7212064	専門演習ⅡA	藤根 収	前期集中	507
7212065	専門演習ⅡA	松下 守邦	前期集中	509
7212068	専門演習ⅡA	大島 康雄	前期集中	511
7212069	専門演習ⅡA	吉江 幸子	前期集中	513
7212070	専門演習ⅡA	西野 克俊	前期集中	515
7212071	専門演習ⅡA	島山 明子	前期集中	517
7212074	専門演習ⅡA	堀川 厚志	前期集中	519
7212075	専門演習ⅡA	宮崎 剛司	前期集中	521
7212076	専門演習ⅡA	蛭名 美穂	前期集中	523
7212079	専門演習ⅡA	吉澤 英里	前期集中	525
7302000	立体構成Ⅰ	梅田 力	前期	527
7305500	ワークショップ基礎Ⅰ	佐藤 正人	前期	529
7387161	専門研究ⅡA	林 春生	前期集中	531
7387162	専門研究ⅡA	上坂 恒章	前期集中	533
7387164	専門研究ⅡA	安田 祐造	前期集中	535
7387165	専門研究ⅡA	北嶋 洋一	前期集中	537
7387166	専門研究ⅡA	梅田 力	前期集中	539
7387168	専門研究ⅡA	三上 いずみ	前期集中	541
7387170	専門研究ⅡA	浩而 魁論	前期集中	543
7545001	建築計画Ⅱ	安藤 淳一	2 Q	545
7557500	建築士のための基礎数学	横山 哲也	1 Q	547
7625061	建築研究Ⅲ	安藤 淳一	前期集中	549
7625062	建築研究Ⅲ	伊藤 裕康	前期集中	551
7625063	建築研究Ⅲ	佐藤 善太郎	前期集中	553
7625064	建築研究Ⅲ	佐々木 哲之	前期集中	555
7625066	建築研究Ⅲ	長森 正	前期集中	557
7625067	建築研究Ⅲ	小笠原 健	前期集中	559
7625068	建築研究Ⅲ	君 興治	前期集中	561
7625069	建築研究Ⅲ	向井 正伸	前期集中	563
7625071	建築研究Ⅲ	赤木 良子	前期集中	565
7711001	経済学概論	河野 善文	4 Q	567
7717000	ホーミング行政学	三嶋 康嗣	1 Q	569
7726001	基礎統計演習 (M)	河野 善文	4 Q	571
7726002	基礎統計演習 (S)	杉本 大輔	4 Q	573
7726003	基礎統計演習 (D・A)	伊藤 裕康	4 Q	575
9103000	教育史	西崎 毅	2 Q	577
2103500	データベース・プログラム	薦田・近澤	後期	579
3104101	英語入門Ⅱ (M)	岡島 徳昭	4 Q	581
3104102	英語入門Ⅱ (S)	横田 肇	4 Q	583
3104103	英語入門Ⅱ (D・A)	宮嶋 達也	4 Q	585

3204101	中国語入門Ⅱ	孫 暢	4 Q	...	587
5105100	社会学と社会システム	松下 守邦	4 Q	...	589
5207001	デザインⅡ (A)	山本 真紀	後期	...	591
5207002	デザインⅡ (B)	山本 真紀	後期	...	593
5303100	建築材料	小笠原 健	2 Q	...	595
5308000	建築構造力学Ⅱ	長森 正	4 Q	...	597
6103063	基礎ゼミⅡA	戸佐 晃一	前期	...	599
6103064	基礎ゼミⅡA	米野 宏	前期	...	601
6103065	基礎ゼミⅡA	佐藤 和裕	前期	...	603
6103068	基礎ゼミⅡA	三嶋 康嗣	前期	...	605
6103069	基礎ゼミⅡA	井坂 肇	前期	...	607
6103072	基礎ゼミⅡA	篠原 諒介	前期	...	609
6103073	基礎ゼミⅡA	後藤 啓倫	前期	...	611
6103074	基礎ゼミⅡA	杉本 大輔	前期	...	613
6103075	基礎ゼミⅡA	横田 肇	前期	...	615
6103076	基礎ゼミⅡA	櫻井 美帆子	前期	...	617
6103077	基礎ゼミⅡA	湯浅 頼佳	前期	...	619
6103078	基礎ゼミⅡA	尾西 則昭	前期	...	621
6103079	基礎ゼミⅡA	西崎 毅	前期	...	623
6103082	基礎ゼミⅡA	宮嶋 達也	前期	...	625
6103083	基礎ゼミⅡA	横山 哲也	前期	...	627
6103085	基礎ゼミⅡA	向井 正伸	前期	...	629
6103086	基礎ゼミⅡA	佐藤 恵利	前期	...	631
6103089	基礎ゼミⅡA	大島 康雄	前期	...	633
6103095	基礎ゼミⅡA	竹内 美帆	前期	...	635
6103096	基礎ゼミⅡA	千葉 聡美	前期	...	637
6103097	基礎ゼミⅡA	山 本 一 彦	前期	...	639
6103099	基礎ゼミⅡA	河田 一郎	前期	...	641
6103100	基礎ゼミⅡA	木村 浩紀	前期	...	643
6103101	基礎ゼミⅡA (再)	河田 一郎	前期	...	645
6103102	基礎ゼミⅡA	薦田 勇智	前期	...	647
6103103	基礎ゼミⅡA	石井 祐治	前期	...	649
6103104	基礎ゼミⅡA	安田 祐造	前期	...	651
6103105	基礎ゼミⅡA	塩崎 大輔	前期	...	653
6203001	キャリアデザイン (S・D・A)	山 本 一 彦	前期	...	655
6203002	キャリアデザイン (M)	山 本 一 彦	前期	...	657
6333000	防災・治水プログラム	安藤 淳一	後期	...	659
7004300	社会福祉の原理と政策Ⅰ	上原 正希	1 Q	...	661
7037000	発達心理学Ⅰ	蛭名 美穂	1 Q	...	663
7213001	専門演習ⅡB	由水 伸	後期集中	...	665
7213002	専門演習ⅡB	信濃 吉彦	後期集中	...	667
7213003	専門演習ⅡB	河野 善文	後期集中	...	669
7213006	専門演習ⅡB	岡島 徳昭	後期集中	...	671
7213008	専門演習ⅡB	青山 浩之	後期集中	...	673
7213009	専門演習ⅡB	石山 玄幸	後期集中	...	675
7213010	専門演習ⅡB	天野 雅人	後期集中	...	677
7213011	専門演習ⅡB	石井 祐治	後期集中	...	679
7213012	専門演習ⅡB	篠原 諒介	後期集中	...	681
7213014	専門演習ⅡB	小林 大州介	後期集中	...	683
7213063	専門演習ⅡB	上原 正希	後期集中	...	685
7213064	専門演習ⅡB	藤根 収	後期集中	...	687
7213069	専門演習ⅡB	吉江 幸子	後期集中	...	689
7213070	専門演習ⅡB	西野 克俊	後期集中	...	691
7213071	専門演習ⅡB	畠山 明子	後期集中	...	693
7213074	専門演習ⅡB	松下 守邦	後期集中	...	695
7213075	専門演習ⅡB	堀川 厚志	後期集中	...	697
7213077	専門演習ⅡB	宮崎 剛司	後期集中	...	699
7213079	専門演習ⅡB	蛭名 美穂	後期集中	...	701
7213082	専門演習ⅡB	吉澤 英里	後期集中	...	703
7304000	立体構成Ⅱ	梅田 力	後期	...	705
7305600	イラストレーション基礎Ⅱ	佐藤 正人	後期	...	707
7389068	専門研究ⅡB	三上 いずみ	後期集中	...	709
7389161	専門研究ⅡB	林 春生	後期集中	...	711
7389162	専門研究ⅡB	上坂 恒章	後期集中	...	713
7389164	専門研究ⅡB	安田 祐造	後期集中	...	715
7389165	専門研究ⅡB	北嶋 洋一	後期集中	...	717
7389166	専門研究ⅡB	梅田 力	後期集中	...	719
7389172	専門研究ⅡB	浩而 魅論	後期集中	...	721
7626061	建築研究Ⅳ	安藤 淳一	後期集中	...	723
7626062	建築研究Ⅳ	伊藤 裕康	後期集中	...	725
7626063	建築研究Ⅳ	佐藤 善太郎	後期集中	...	727
7626064	建築研究Ⅳ	佐々木 哲之	後期集中	...	729
7626066	建築研究Ⅳ	長森 正	後期集中	...	731
7626067	建築研究Ⅳ	小笠原 健	後期集中	...	733
7626068	建築研究Ⅳ	君 興治	後期集中	...	735
7626069	建築研究Ⅳ	向井 正伸	後期集中	...	737
7626071	建築研究Ⅳ	赤木 良子	後期集中	...	739
7702000	マーケティング論	田中 修身	1 Q	...	741
7710001	社会学	戸佐 晃一	2 Q	...	743
7719000	トレーニング科学Ⅰ	篠原 諒介	3 Q	...	745
7823000	プレゼンテーションツール	佐藤 善・伊藤 裕	後期集中	...	747
9106001	教育心理学 (S)	吉澤 英里	1 Q	...	749
9106002	教育心理学 (MDA)	吉澤 英里	1 Q	...	751
9110000	社会科・公民科教育法Ⅰ	松下 守邦	前期	...	753
3301001	外国語コミュニケーション (M)	岡島 徳昭	4 Q	...	755
3301002	外国語コミュニケーション (S)	信濃 吉彦	4 Q	...	757
3301003	外国語コミュニケーション (D・A)	宮嶋 達也	4 Q	...	759
3401000	日本語Ⅰ	高橋 真弥	2 Q	...	761
5106100	心理学と心理的支援	吉澤 英里	3 Q	...	763
5203001	平面構成Ⅰ	北嶋 洋一	前期	...	765
5208000	西洋美術史Ⅰ	竹内 美帆	1 Q	...	767
5306100	建築環境Ⅰ	佐々木 哲之	1 Q	...	769
6104063	基礎ゼミⅡB	戸佐 晃一	後期	...	771
6104064	基礎ゼミⅡB	米野 宏	後期	...	773
6104065	基礎ゼミⅡB	佐藤 和裕	後期	...	775
6104068	基礎ゼミⅡB	三嶋 康嗣	後期	...	777
6104069	基礎ゼミⅡB	井坂 肇	後期	...	779
6104072	基礎ゼミⅡB	篠原 諒介	後期	...	781
6104073	基礎ゼミⅡB	後藤 啓倫	後期	...	783
6104074	基礎ゼミⅡB	杉本 大輔	後期	...	785

6104075	基礎ゼミⅡB	横田 肇	後期	787
6104076	基礎ゼミⅡB	櫻井 美帆	後期	789
6104077	基礎ゼミⅡB	湯浅 頼佳	後期	791
6104078	基礎ゼミⅡB	尾西 則昭	後期	793
6104079	基礎ゼミⅡB	西崎 毅	後期	795
6104082	基礎ゼミⅡB	宮嶋 達也	後期	797
6104083	基礎ゼミⅡB	横山 哲也	後期	799
6104085	基礎ゼミⅡB	向井 正伸	後期	801
6104086	基礎ゼミⅡB	佐藤 恵利	後期	803
6104089	基礎ゼミⅡB	大島 康雄	後期	805
6104092	基礎ゼミⅡB	竹内 美帆	後期	807
6104093	基礎ゼミⅡB	千葉 聡美	後期	809
6104094	基礎ゼミⅡB	山 本 一彦	後期	811
6104096	基礎ゼミⅡB	河田 一郎	後期	813
6104097	基礎ゼミⅡB	木村 浩紀	後期	815
6104099	基礎ゼミⅡB	薦田 勇智	後期	817
6104100	基礎ゼミⅡB	石井 祐治	後期	819
6104102	基礎ゼミⅡB	安田 祐造	後期	821
6104103	基礎ゼミⅡB	塩崎 大輔	後期	823
6334000	イラスト・マンガプログラム	佐藤正・三上	後期	825
7004400	社会福祉の原理と政策Ⅱ	上原 正希	2 Q	827
7038000	発達心理学Ⅱ	蛭名 美穂	3 Q	829
7214001	卒業論文	由水 伸	後期集中	831
7214002	卒業論文	信濃 吉彦	後期集中	833
7214003	卒業論文	河野 善文	後期集中	835
7214006	卒業論文	岡島 徳昭	後期集中	837
7214008	卒業論文	青山 浩之	後期集中	839
7214009	卒業論文	石山 玄幸	後期集中	841
7214010	卒業論文	天野 雅人	後期集中	843
7214011	卒業論文	石井 祐治	後期集中	845
7214012	卒業論文	篠原 諒介	後期集中	847
7214015	卒業論文	小林 大州介	後期集中	849
7214063	卒業論文	上原 正希	後期集中	851
7214064	卒業論文	藤根 収	後期集中	853
7214069	卒業論文	吉江 幸子	後期集中	855
7214070	卒業論文	西野 克俊	後期集中	857
7214071	卒業論文	畠山 明子	後期集中	859
7214074	卒業論文	松下 守邦	後期集中	861
7214075	卒業論文	堀川 厚志	後期集中	863
7214078	卒業論文	宮崎 剛司	後期集中	865
7214079	卒業論文	(9月期卒) 大島 康雄	前期集中	867
7214080	卒業論文	蛭名 美穂	後期集中	869
7214085	卒業論文	吉澤 英里	後期集中	871
7330000	漫画Ⅰ	三上 いずみ	前期	873
7390061	卒業制作・研究	林 春生	後期集中	875
7390062	卒業制作・研究	上坂 恒章	後期集中	877
7390064	卒業制作・研究	安田 祐造	後期集中	879
7390065	卒業制作・研究	北嶋 洋一	後期集中	881
7390066	卒業制作・研究	梅田 力	後期集中	883
7390068	卒業制作・研究	三上 いずみ	後期集中	885
7390071	卒業制作・研究	浩而 魅論	後期集中	887
7506000	建築史	赤木 良子	1 Q	889
7627061	卒業研究	安藤 淳一	後期集中	891
7627062	卒業研究	伊藤 裕康	後期集中	893
7627063	卒業研究	佐藤 善太郎	後期集中	895
7627064	卒業研究	佐々木 哲之	後期集中	897
7627066	卒業研究	長森 正	後期集中	899
7627067	卒業研究	小笠原 健	後期集中	901
7627068	卒業研究	君 興治	後期集中	903
7627069	卒業研究	向井 正伸	後期集中	905
7627071	卒業研究	赤木 良子	後期集中	907
7720000	トニク科学Ⅱ	篠原 諒介	4 Q	909
7724000	経営戦略論	信濃 吉彦	3 Q	911
7846000	財務分析論	石山 玄幸	2 Q	913
9104001	教育行政学	木村 浩紀	2 Q	915
9113000	社会科・公民科教育法Ⅱ	松下 守邦	後期	917
1406000	社会学 (S・D・A)	松下 守邦	4 Q	919
1406001	社会学 (M)	山 本 一彦	4 Q	921
1408000	環境学	西原 智昭	前期集中	923
3402000	日本語Ⅱ	高橋 真弥	4 Q	925
5101101	ワークの基礎と専門職	櫻井 美帆	1 Q	927
5110101	児童・家庭福祉	杉本 大輔	4 Q	929
5204001	平面構成Ⅱ	北嶋 洋一	後期	931
5209000	西洋美術史Ⅱ	竹内 美帆	4 Q	933
6104098	基礎ゼミⅡB (再)	河田 一郎	後期	935
6224000	インターシップ・キャリアプログラムⅠ	キャリア支援センター職員	通年	937
7012200	ワーク演習	畠山・松下・杉本	後期	939
7041000	保育原理	吉江 幸子	1 Q	941
7332000	漫画Ⅱ	三上 いずみ	後期	943
7516000	建築計画Ⅰ	安藤 淳一	1 Q	945
7542000	フロンティアⅠ	伊藤 裕康	後期	947
7580000	鉄筋コンクリート構造	長森 正	2 Q	949
7721001	経営情報論	薦田 勇智	2 Q	951
7727000	シロ経済学	河野 善文	2 Q	953
9107000	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	塩崎 大輔	前期	955
9119100	特別活動の指導法	大庭 隆	3 Q	957
9201000	生涯学習概論	藤根 収	1 Q	959
1204000	政治学入門	後藤 啓倫	2 Q	961
3403000	日本語Ⅲ	高橋 真弥	2 Q	963
5106000	心理学	吉澤 英里	2 Q	965
5109100	医学概論	宮崎 剛司	1 Q	967
5205000	色彩環境論	安田 祐造	2 Q	969
5312000	建築施工	小笠原 健	2 Q	971
6225000	インターシップ・キャリアプログラムⅡ	キャリア支援センター職員	通年	973
7043000	保育者論	吉江 幸子	2 Q	975
7305000	デザイン概論Ⅰ	北嶋 洋一	1 Q	977
7712000	日本経済史	小林 大州	2 Q	979
7733200	まちづくり論	松本 懿	2 Q	981
7825000	日本画	岡 恵子	前期	983
7828000	建築設備	君 興治	2 Q	985

9108000	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	塩崎 大輔 後期	...	987
9125100	生徒・進路指導論	高井 雅一 4Q	...	989
3404000	日本語Ⅳ	高橋 真弥 4Q	...	991
5111100	高齢者福祉	櫻井 美帆子 2Q	...	993
5207101	デザインⅢ	西田 陽二 前期	...	995
5307000	建築構造力学Ⅰ	長森 正 2Q	...	997
6226000	インターシップ・キャリアプログラムⅢ	キャリア支援センター職員 通年	...	999
7280000	子どもの理解と援助	穴水 ゆかり 2Q	...	1001
7307000	デザインの概論Ⅱ	堤 美穂子 4Q	...	1003
7555000	CAD演習Ⅱ	君 興治 前期	...	1005
7572000	北国の建築と住まい	安藤 淳一 1Q	...	1007
7713000	西洋経済史	小林 大州介 3Q	...	1009
7734000	会社法	青山 浩之 4Q	...	1011
7738000	スポーツ医学	黒川 泰任 4Q	...	1013
7826000	洋画	安田 祐造 前期	...	1015
9105000	教育課程論	西崎 毅 4Q	...	1017
1402000	日本史	及川 琢英 1Q	...	1019
5114100	障害者福祉	畠山 明子 1Q	...	1021
5207201	デザインⅣ	西田 陽二 後期	...	1023
5309000	建築法規Ⅰ	佐藤 善太郎 1Q	...	1025
5407001	スポーツ経営管理論	天野 雅人 1Q	...	1027
6227000	インターシップ・キャリアプログラムⅣ	キャリア支援センター職員 通年	...	1029
7085000	保育内容総論	佐藤 慶知 3Q	...	1031
7309000	工芸実習Ⅰ	梅田 力 前期	...	1033
7531100	図学(建築図学を含む)	赤木 良子 前期	...	1035
7590000	CAD演習Ⅲ	佐藤善・伊藤裕 後期	...	1037
7741000	スポーツ指導論	高井 雅一 3Q	...	1039
9121001	教育方法論	藤根 収 2Q	...	1041
1206100	日本国憲法 (M)	青山 浩之 2Q	...	1043
1206101	日本国憲法 (S・D・A)	後藤 啓倫 2Q	...	1045
1207000	外国の歴史	横田 肇 3Q	...	1047
5108100	権利擁護を支える法制度	神内 秀之介 3Q	...	1049
6335000	海外短期留学プログラム	信濃 吉彦 通年	...	1051
7288000	身体表現	尾西 則昭 2Q	...	1053
7311000	工芸実習Ⅱ	島田・中島知・楠本 後期	...	1055
7544000	アクションプログラムⅡ	向井 正伸 後期	...	1057
7553000	CAD演習Ⅰ	佐藤善・伊藤裕 後期	...	1059
7566000	建築表現Ⅲ	君 興治 前期	...	1061
7733400	観光マシメント論	五ノ井 壽一 2Q	...	1063
7751001	レクリエーション概論	尾西 則昭 3Q	...	1065
7786001	スポーツ文化論	細川 光法 2Q	...	1067
9111000	美術科教育法Ⅰ	竹内 美帆 前期	...	1069
9117100	道德教育の指導法	佐藤 雅一 1Q	...	1071
1208000	日本事情	佐藤 恵利 1Q	...	1073
5310001	福祉環境計画論	佐々木 哲之 1Q	...	1075
5404000	経営管理論	信濃 吉彦 3Q	...	1077
6336000	海外研修プログラム	信濃 吉彦 後期	...	1079
7006101	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	櫻井 美帆子 1Q	...	1081
7291000	造形表現Ⅰ	浩而 魅論 4Q	...	1083
7364000	彫刻Ⅰ	梅田 力 前期	...	1085
7568000	建築表現Ⅳ	安藤・君 後期	...	1087
9114000	美術科教育法Ⅱ	竹内 美帆 後期	...	1089
9130001	教育実習(事前・事後指導) (3年)	天野 雅人 通年	...	1091
9130002	教育実習(事前・事後指導) (4年)	天野 雅人 通年	...	1093
5113100	保健医療と福祉	宮崎 剛司 3Q	...	1095
6337000	グローバル英語プログラム (2年目・4年)	岡島・信濃 通年	...	1097
6337001	グローバル英語プログラム (3年目・5年)	岡島・信濃 後期集中	...	1099
7007101	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	櫻井 美帆子 2Q	...	1101
7289000	音楽表現Ⅰ	小黑 万里子 3Q	...	1103
7365000	彫刻Ⅱ	梅田 力 後期	...	1105
7550000	建築法規Ⅱ	佐藤 善太郎 2Q	...	1107
7560000	デザインの概論	北嶋 洋一 1Q	...	1109
7746000	ユースレートフィックス論	岩立 顕一郎 1Q	...	1111
9115000	工芸科教育法Ⅰ	三上 いずみ 前期	...	1113
9132000	教育実習Ⅱ	藤根堀川千葉木村塩崎高井天野篠原三上竹内 後期集中	...	1115
3401500	上級日本語プログラム	竜野 征一郎 通年	...	1117
7008100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	大島 康雄 1Q	...	1119
7055000	特別支援教育総論	堀川 厚志 1Q	...	1121
7331000	ビジュアルデザインⅠ	田中 靖之 前期	...	1123
7340000	インテリアデザインⅠ	赤木 良子 1Q	...	1125
7520100	建築材料実験	長森 正 2Q	...	1127
7742000	管理会計論	岩立 顕一郎 4Q	...	1129
7775100	ビジネス英語	石田 暁子 1Q	...	1131
9118000	工芸科教育法Ⅱ	三上 いずみ 後期	...	1133
9133000	教育実習Ⅲ	藤根堀川千葉木村塩崎高井天野篠原三上竹内 後期集中	...	1135
6342000	幼稚園教員養成プログラム	学務課 通年	...	1137
7009100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	大島 康雄 2Q	...	1139
7056000	肢体不自由者の心理・生理・病理	坂上 俊樹 2Q	...	1141
7335000	ビジュアルデザインⅡ	田中 靖之 後期	...	1143
7525001	都市計画	安藤 淳一 1Q	...	1145
7539100	エンバサデザイン演習	安藤 淳一 後期	...	1147
7751100	障がい者スポーツⅠ	荒井 秀樹 前期集中	...	1149
7787001	スポーツ心論	守屋 俊甫 前期	...	1151
9134000	教職実践演習(中・高)	藤根堀川千葉木村塩崎高井天野篠原三上竹内 後期	...	1153
5115100	社会福祉調査の基礎	杉本 大輔 4Q	...	1155
6343000	小学校教員養成プログラム	学務課 通年	...	1157
7318100	グラフィックデザインⅠ	堤 美穂子 前期	...	1159
7581000	鋼構造	長森 正 3Q	...	1161
7751200	障がい者スポーツⅡ	荒井・米野 後期集中	...	1163
7847000	ICTスキル演習Ⅰ	由水 伸 4Q	...	1165
9126000	保健体育科教育法Ⅰ	高井 雅一 前期	...	1167
6338000	介護職員初任者研修プログラム	生涯学習課 通年	...	1169
7010100	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	畠山 明子 1Q	...	1171
7058000	知的障害者の心理・生理・病理	堀川 厚志 3Q	...	1173
7319100	グラフィックデザインⅡ	北嶋 洋一 後期	...	1175
7510000	建築設計演習Ⅲ	野村 和也 前期	...	1177
7583000	建築生産	小笠原 健 3Q	...	1179
7752000	スポーツとヘルスケア	三嶋 康嗣 1Q	...	1181
7848000	公共マシメント論	山 本 一彦 2Q	...	1183
9128000	保健体育科教育法Ⅱ	森 靖明 後期	...	1185

6339000	公務員試験対策プログラム キャリア支援センター職員 通年	・・・	1187
7011100	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 畠山 明子 4Q	・・・	1189
7061000	聴覚障害教育総論 室岡 弘明 2Q	・・・	1191
7318200	グラフィックデザインⅠ 林 春生 前期	・・・	1193
7571000	建築設計演習Ⅳ 向井 正伸 後期	・・・	1195
7575000	建築構造力学Ⅲ 小笠原 健 1Q	・・・	1197
7753000	スポーツと栄養 湯浅 頼佳 4Q	・・・	1199
9129000	保健体育科教育法Ⅲ 高井 雅一 後期	・・・	1201
5117000	福祉サービスの組織と経営 大島 康雄 1Q	・・・	1203
6340000	教員採用試験対策プログラム 木村・千葉 通年	・・・	1205
7062000	視覚障害教育総論 木村 浩紀 3Q	・・・	1207
7319200	グラフィックデザインⅡ 林 春生 後期	・・・	1209
7508000	住宅設計演習Ⅰ 君 興治 前期	・・・	1211
7818000	ユースケ方法論 伊藤 博 3Q	・・・	1213
9131000	保健体育科教育法Ⅳ 高井 雅一 後期	・・・	1215
5119100	刑事司法と福祉 西野 克俊 2Q	・・・	1217
6341000	宅地建物取引士試験対策プログラム 小笠原 健 通年	・・・	1219
7013100	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ 上原 正希 前期	・・・	1221
7551000	住宅設計演習Ⅱ 君 興治 後期	・・・	1223
7782400	地域政策論 石山・信濃 後期	・・・	1225
7821000	写真表現Ⅰ 林 春生 前期	・・・	1227
9137000	特別な教育的ニーズの理解とその支援 藤根・木村 4Q	・・・	1229
7014100	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ 杉本・櫻井 後期	・・・	1231
7152000	カウンセリング論 蛭名 美穂 1Q	・・・	1233
7573100	建築環境Ⅱ 伊藤 裕康 3Q	・・・	1235
7822000	写真表現Ⅱ 林 春生 後期	・・・	1237
9138001	総合的な学習の時間の指導法(2年) 西崎 毅 4Q	・・・	1239
7016100	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 櫻井・杉本・大島 後期	・・・	1241
7059000	肢体不自由教育Ⅰ 千葉 聡美 3Q	・・・	1243
7586000	建築法規Ⅲ 佐藤 善太郎 2Q	・・・	1245
7733500	おもしろマンガ論 五ノ井 壽一 1Q	・・・	1247
7820000	イラスト漫画概論Ⅱ 竹内 美帆 後期	・・・	1249
9139000	介護等体験指導 堀川・木村 4Q	・・・	1251
7024100	精神保健福祉の原理Ⅱ 西野 克俊 2Q	・・・	1253
7336000	イラストレーションⅠ 浩而 魅論 前期	・・・	1255
7588000	建築法規Ⅳ 佐藤 善太郎 4Q	・・・	1257
9127001	教育相談(カウンセリングを含む。) 蛭名 美穂 1Q	・・・	1259
9140001	学校インターンシップ(学校体験活動)(3年) 天野 雅人 通年	・・・	1261
9140002	学校インターンシップ(学校体験活動)(4年) 天野 雅人 通年	・・・	1263
7337000	イラストレーションⅡ 浩而 魅論 後期	・・・	1265
7589000	建築の職能と倫理 君 興治 1Q	・・・	1267
7849000	グローバルビジネスⅠ 後藤 啓倫 3Q	・・・	1269
9141000	教育とICT活用 由水 伸 2Q	・・・	1271
7022100	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ 近藤 亜弥 3Q	・・・	1273
7331100	キャラクターデザインⅠ 三上 いずみ 2Q	・・・	1275
7607000	測量学 長森 正 3Q	・・・	1277
7025100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ 西野 克俊 1Q	・・・	1279
7332100	キャラクターデザインⅡ 三上 いずみ 4Q	・・・	1281
7521000	施工管理技士演習Ⅰ 小笠原 健 4Q	・・・	1283
7851000	ビジネスリサーチⅠ 4Q	・・・	1285
7198000	スクールソーシャルワーク論 上原 正希 1Q	・・・	1287
7367001	漫画Ⅲ 鴨 修平 前期	・・・	1289
7556000	応用物理 伊藤 裕康 1Q	・・・	1291
7852000	ビジネスリサーチⅡ 小林 大州介 1Q	・・・	1293
7370001	漫画Ⅳ 五十嵐・鴨 後期	・・・	1295
7557000	応用数学 横山 哲也 3Q	・・・	1297
9138000	総合的な学習の時間の指導法(3年) 西崎 毅 3Q	・・・	1299
9102002	教育原理(S) 西崎 毅 3Q	・・・	1301
7278000	子ども家庭支援論 杉本 大輔 1Q	・・・	1303
7341000	キャラクターデザインⅡ 安藤 淳一 2Q	・・・	1305
7379000	彫刻Ⅲ 国松・梅田力 前期	・・・	1307
7855000	デジタルデザインⅠ 阿部 裕樹 1Q	・・・	1309
7380000	彫刻Ⅳ 国松・梅田力 後期	・・・	1311
7614000	建築学特講Ⅰ 柿沼 博彦 後期	・・・	1313
7856000	デジタルデザインⅡ 阿部 裕樹 2Q	・・・	1315
7366001	工芸実習Ⅲ(ガラス工芸) 楠本 祐弘 前期	・・・	1317
7366002	工芸実習Ⅲ(陶芸) 中島 知之 前期	・・・	1319
7366003	工芸実習Ⅲ(版表現) 森迫 晁夫 前期	・・・	1321
7366004	工芸実習Ⅲ(木工芸) 島田 晶夫 前期	・・・	1323
7483000	保育内容演習Ⅰ(健康) 宮崎 剛司 2Q	・・・	1325
7615000	建築学特講Ⅱ 柿沼 博彦 後期集中	・・・	1327
7294000	乳児保育Ⅰ 吉江 幸子 2Q	・・・	1329
7369001	工芸実習Ⅳ(テキスタイル) 三上 いずみ 後期	・・・	1331
7369002	工芸実習Ⅳ(金工) 梅田 力 後期	・・・	1333
7369003	工芸実習Ⅳ(染色) 中島 義博 後期	・・・	1335
7369004	工芸実習Ⅳ(版表現) 鳴海 伸一 後期	・・・	1337
7542200	一級対策製図Ⅰ 君 興治 前期	・・・	1339
7295000	乳児保育Ⅱ 吉江 幸子 3Q	・・・	1341
7373000	東洋・日本美術史Ⅰ 苦名 真 1Q	・・・	1343
7542300	一級対策製図Ⅱ 小笠原 健 後期	・・・	1345
7374000	東洋・日本美術史Ⅱ 苦名 真 3Q	・・・	1347
7532200	一級建築士演習Ⅰ 君 興治 1Q	・・・	1349
7786100	スポーツ原理 高井 雅一 1Q	・・・	1351
7353000	映像表現Ⅰ 北嶋 洋一 前期	・・・	1353
7482000	保育の計画と評価 吉江 幸子 4Q	・・・	1355
7532300	一級建築士演習Ⅱ 安藤 淳一 2Q	・・・	1357
7733300	体育史 尾西 則昭 1Q	・・・	1359
7296000	子どもの健康と安全 宮崎 剛司 4Q	・・・	1361
7354000	映像表現Ⅱ 北嶋 洋一 後期	・・・	1363
7532400	一級建築士演習Ⅲ 小笠原 健 3Q	・・・	1365
7791000	運動学(運動方法学を含む。) 米野・天野 3Q	・・・	1367
7322200	グラフィックデザインⅢ 林 春生 前期	・・・	1369
7484000	保育内容演習Ⅱ(人間関係) 松下 守邦 4Q	・・・	1371
7532500	一級建築士演習Ⅳ 赤木 良子 4Q	・・・	1373
7792000	学校保健 天野 雅人 2Q	・・・	1375
7322300	グラフィックデザインⅣ 林 春生 後期	・・・	1377
7485000	保育内容演習Ⅲ(環境) 佐藤 慶知 2Q	・・・	1379
7542400	二級対策製図Ⅰ 向井 正伸 前期	・・・	1381
7744000	経営分析論 石山 玄幸 1Q	・・・	1383
7797000	生理学 黒川 泰任 2Q	・・・	1385

7542500	二級対策製図Ⅱ	佐藤善・向井 後期	...	1387
7768001	人的資源管理論	信濃 吉彦 2Q	...	1389
7799000	衛生学及び公衆衛生学	宮崎 剛司 2Q	...	1391
7293000	言語表現	太田 俊一 3Q	...	1393
7522200	二級建築士演習Ⅰ	向井 正伸 1Q	...	1395
7805000	精神保健Ⅰ	近藤 亜弥 2Q	...	1397
7337100	イラストレーションⅢ	佐藤 正人 前期	...	1399
7522300	二級建築士演習Ⅱ	向井 正伸 2Q	...	1401
7806000	精神保健Ⅱ	近藤 亜弥 3Q	...	1403
7103000	知的障害教育Ⅰ	藤根 収 3Q	...	1405
7337200	イラストレーションⅣ	佐藤 正人 後期	...	1407
7522400	二級建築士演習Ⅲ	佐藤善・向井 3Q	...	1409
7599000	アクション・ドラマⅥ	小笠原 健 4Q	...	1411
7789100	体づくり運動	是枝 亮 2Q	...	1413
7830000	技法・材料研究	安田 祐造 前期	...	1415
7104000	病弱者の心理・生理・病理	千葉 聡美 3Q	...	1417
7319600	7メーションⅠ	梅田 真紀 3Q	...	1419
7522500	二級建築士演習Ⅳ	佐藤善・向井 4Q	...	1421
7800100	器械運動	廣田 修平 1Q	...	1423
7096000	自然地理学Ⅰ	鈴木 正章 前期集中	...	1425
7319700	7メーションⅡ	梅田 真紀 4Q	...	1427
7604000	建築積算	佐々木 哲之 2Q	...	1429
7795201	陸上競技	石井 祐治 前期集中	...	1431
7098000	自然地理学Ⅱ	鈴木 正章 後期集中	...	1433
7521100	施工管理技士演習Ⅱ	小笠原 健 1Q	...	1435
7801100	水泳	戸佐 晃一 後期集中	...	1437
7017100	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	大島 康雄 前期	...	1439
7795100	球技Ⅰ(バスケボール)	天野 雅人 前期	...	1441
7018100	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	櫻井・杉本・大島 後期	...	1443
7318300	WEBデザインⅠ	山腰 雅樹 3Q	...	1445
7796100	球技Ⅱ(バレーボール)	天野 雅人 前期	...	1447
7019100	ソーシャルワーク実習Ⅰ	櫻井・杉本・大島 後期集中	...	1449
7319300	WEBデザインⅡ	山腰 雅樹 4Q	...	1451
7794100	球技Ⅲ(バドミントン)	戸佐 晃一 後期	...	1453
7020100	ソーシャルワーク実習Ⅱ	櫻井・杉本・大島 後期集中	...	1455
7531000	図学	赤木 良子 前期	...	1457
7758000	イノベーションマネジメント論	阿部 裕樹 3Q	...	1459
7802101	球技Ⅳ(ソフトボール)	米野 宏 前期	...	1461
7827000	造形論	浩而 魁論 前期	...	1463
7026100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅳ	西野 克俊 1Q	...	1465
7353000	エンタテインメントⅠ	上坂 恒章 前期	...	1467
7803100	球技Ⅴ(ラグビー)	佐藤 和裕 後期	...	1469
7844000	デジタルデザイン	上坂 恒章 1Q	...	1471
7027100	精神障害の心理学Ⅰ	近藤 亜弥 3Q	...	1473
7357000	エンタテインメントⅡ	上坂 恒章 後期	...	1475
7759000	eビジネス論	阿部 裕樹 4Q	...	1477
7804100	球技Ⅵ(サッカー)	木島 敦 前期	...	1479
7845000	エンタテインメント	堤 美穂子 2Q	...	1481
7116000	精神保健福祉援助演習Ⅰ	大島 康雄 1Q	...	1483
7731000	ビジネスプランニング論	猪尾 紀幸 2Q	...	1485
7807100	ダンス	是枝 亮 後期	...	1487
7118000	精神保健福祉援助演習Ⅱ	大島 康雄 2Q	...	1489
7763000	ビジネス法務	青山 浩之 3Q	...	1491
7790100	柔道	三嶋 康嗣 後期	...	1493
7120000	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	西野 克俊 後期	...	1495
7765000	産業心理学	吉澤 英里 3Q	...	1497
7130000	精神保健福祉援助実習Ⅰ	大島 康雄 前期集中	...	1499
7105000	民法	青山 浩之 3Q	...	1501
7169000	精神保健福祉援助実習Ⅱ	大島 康雄 前期集中	...	1503
7812000	カタルシス論	石山 玄幸 1Q	...	1505
7593001	職業指導(Ⅱ)	岩立 顕一郎 2Q	...	1507
7764000	コミュニティ心理学	吉澤 英里 1Q	...	1509
7782200	地域情報論	猪尾 紀幸 1Q	...	1511
7282000	スクールソーシャルワーク演習	上原 正希 2Q	...	1513
7750000	ブローディング論	由水 伸 前期集中	...	1515
7279000	社会的養護Ⅰ	杉本 大輔 2Q	...	1517
7297000	社会的養護Ⅱ	中瀬 陽一 3Q	...	1519
7486000	保育内容演習Ⅳ(言葉)	太田 俊一 2Q	...	1521
7487000	保育内容演習Ⅴ(表現)	吉江 幸子 3Q	...	1523
7132000	子どもの食と栄養	湯浅 頼佳 2Q	...	1525
7137000	障害児保育Ⅰ	坂上 俊樹 1Q	...	1527
7319400	WEBデザインⅢ	山腰 雅樹 1Q	...	1529
7142000	障害児保育Ⅱ	坂上 俊樹 4Q	...	1531
7319500	WEBデザインⅣ	山腰 雅樹 2Q	...	1533
7798000	スポーツ生理学	天野 雅人 3Q	...	1535
7298000	子育て支援	杉本 大輔 2Q	...	1537
7141000	保育実習指導Ⅰ	吉江 幸子 通年	...	1539
7817000	クラフト・コンパニオニング	由水 伸 3Q	...	1541
7140000	保育実習Ⅰ	湯浅・吉江 後期集中	...	1543
7146000	病弱教育	千葉 聡美 2Q	...	1545
7145000	知的障害教育Ⅱ	藤根 収 2Q	...	1547
7158000	発達障害等教育総論	堀川 厚志 1Q	...	1549
7148001	特別支援教育実習(事前指導)(3年)	藤根 収 通年	...	1551
7148002	特別支援教育実習(事前指導)(4年)	木村 浩紀 前期	...	1553
7121000	社会心理学	松下 守邦 4Q	...	1555
7732000	国際政治論	後藤 啓倫 3Q	...	1557
7754000	国際経営論	信濃 吉彦 1Q	...	1559
7730000	国際経済論	小早川 俊哉 3Q	...	1561
7782300	金融論	小林 大州介 3Q	...	1563
7761000	産業社会論	山 本 一彦 1Q	...	1565
7810000	倫理学概論	尾崎 有紀 4Q	...	1567
7143002	人文地理学Ⅰ	塩崎 大輔 1Q	...	1569
7031100	社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント	上原 正希 3Q	...	1571
7015100	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	杉本 大輔 前期	...	1573
7175100	精神医学と精神医療Ⅰ	伊東 隆雄 前期	...	1575
7176100	精神医学と精神医療Ⅱ	伊東 隆雄 後期	...	1577
7029100	精神保健福祉援助演習Ⅲ	上原・大島 1Q	...	1579
7166000	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	大島 康雄 前期	...	1581
7168000	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	西野 克俊 後期	...	1583
7172000	精神保健福祉援助実習Ⅲ	西野 克俊 後期集中	...	1585

7283000	スクール・ワーク実習指導	上原 正希	通年	・ ・ ・	1587
7284000	スクール・ワーク実習	上原 正希	後期集中	・ ・ ・	1589
7181000	保育実習指導Ⅱ	吉江 幸子	通年	・ ・ ・	1591
7183000	保育実習指導Ⅲ	湯浅 頼佳	通年	・ ・ ・	1593
7179000	保育実習Ⅱ	吉江 幸子	後期集中	・ ・ ・	1595
7180000	保育実習Ⅲ	湯浅 頼佳	後期集中	・ ・ ・	1597
7299000	保育実践演習	吉江 幸子	後期	・ ・ ・	1599
7194000	特別支援教育実習	堀川・千葉・藤根・木村	後期集中	・ ・ ・	1601
7192000	特別支援教育実習(事後指導)	木村・千葉	後期	・ ・ ・	1603
1104001	北海道誌	塩崎 大輔	3 Q	・ ・ ・	1605
7188000	日本政治史	後藤 啓倫	1 Q	・ ・ ・	1607
7186000	日本文化史	及川 琢英	2 Q	・ ・ ・	1609
7144002	人文地理学Ⅱ	塩崎 大輔	3 Q	・ ・ ・	1611
7103110	社会福祉事業史	小早川 俊哉	4 Q	・ ・ ・	1613
7184000	社会思想史	後藤 啓倫	2 Q	・ ・ ・	1615
7190000	国際法	細川 光法	4 Q	・ ・ ・	1617
7834000	福祉士試験対策基礎講座Ⅰ	上原 正希	前期	・ ・ ・	1619
7835000	福祉士試験対策基礎講座Ⅱ	上原・杉本	後期	・ ・ ・	1621
7032100	福祉士国家試験対策プログラム	大島 康雄	通年	・ ・ ・	1623

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	数学入門 (科目ナンバリング：MAT071046)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：横山 哲也)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。					

概要

履修目標							
学生が教養力を身につけるために、「自然と環境」を幅広く学ぶための科目で、大学で必要となる数学の基礎知識をしっかりと身に付け、次に、高校の数学から大学の数学への橋渡しができる力を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。							
到達目標							
様々な分野で活躍する人材に求められる課題探求能力のうちの、基本的な数学知識の修得と思考能力の向上を図ることができる。さらに、それらのことを通して、数学において重要なのは答えではなく計算過程（思考過程の説明）であることを理解し習慣づけることができる。							
授業全体の内容と概要							
数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。 数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・無理式・一次方程式・連立方程式・二次方程式・高次方程式・一次関数・二次関数・三角関数・集合・順列と組み合わせ・確率などについて、豊富な練習問題をこなすことによって、数学を解くことの実感と意味をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。							
授業の方法							
最近では、学生が積極的に参加する形での授業が要望されている。そこで、本講義では、教科書に沿って板書により授業を進める中で、学生自らが習熟度の向上を実現させるために、積極的に質問や要望を述べることが求められる。また、学生が課題を提出した後に板書にて解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・課題等の提出方法については授業中に支持するので、授業を欠席することのないよう留意すること。 ・講義に対して積極的に取り組むこと。 ・解らないところは積極的に質問すること。 ・授業で求めている以上の習熟度の向上を望む場合には、申し出ること。適切に対応します。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績は、11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	30%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	数学の基礎知識が完全に修得できた。	数学の基礎知識が修得できた。	数学の基礎知識がほぼ修得できた。	数学の基礎知識が大体修得できた。	数学の基礎知識が修得できなかった。
思考能力の向上	数学の思考能力が完全に向上した。	数学の思考能力が向上した。	数学の思考能力がほぼ向上した。	数学の思考能力が大体向上した。	数学の思考能力が向上しなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	授業中に不明な点を全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を解決して解決し思考過程の習慣化が大体できた。	思考過程の習慣化ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	数学入門 (科目ナンバリング：MAT071046)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：		横山 哲也		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『大学新入生のための数学入門（増補版）』	石村 園子	共立出版			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス。シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明及び基礎学力試験科目を修了して「身に付く力」についての説明	基礎学力試験のための準備をする（90分）	基礎学力試験問題を再度解く（90分）
2	整数と計算	数の分類・性質と四則計算の基本を理解する（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
3	分数・小数・繁分数	教科書の問題を丁寧に解く練習をする（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
4	展開・因数分解	展開と因数分解における公式を覚え、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
5	平方根	平方根の性質と計算方法を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
6	分数式・無理式の計算	教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
7	一次方程式	一次方程式の解き方とその利用について理解する（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
8	連立方程式	連立方程式の解き方とその利用について理解する（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
9	二次方程式・高次方程式	二次方程式と高次方程式の解き方およびその利用について理解する（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
10	一次関数とグラフ	一次関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
11	二次関数	二次関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
12	三角関数	三角関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
13	集合	集合の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
14	順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
15	確率及び授業改善アンケートの実施	確率の意味を理解し、教科書の問題を丁寧に解く（90分）	教科書の問題を再度解く（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説、フィードバックする科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	哲学 (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	尾崎 有紀 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 尾崎 有紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

次に英米系大学の分析問題において主体的に論じられる大主題と、哲学における論議的な能力の知識を得る。この際、学生主体の論理的思考力と表現力を高め、社会における幅広い問題について主体的に思索し、他者と意見を交わすための重要な多様な能力を身につける。この際、学生主体の論議力と表現力、実践的に学習する意欲。これらのことによって、大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用できるスケジュールスキル、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できるスタディスキルを取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2に対応する。

到達目標

これまで哲学において論じられてきた主題と主要な考え方について説明することができる。論理的思考力と表現力に基づいたコミュニケーション能力によって、他者と協調することができる。大学生に求められる一般常識や態度を学習面・生活面で活用でき、また、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できる。

授業全体の内容と概要

はじめに、英米系の方の哲学の議論について知る上で基礎となる、論理学について概説する。ここで、「前提」や「結論」、「演繹」や「帰納」などの、推論に関する基礎概念について解説する。これに基づいて、認識論や存在論、意味論、心の哲学などのトピックを紹介していく。この際、伝統的・古典的な主題を紹介することに加え、人工知能など現代的な主題との関連性を扱う。

授業の方法

授業は板書とパワーポイント資料を用いた講義形式で行う。また、確認テスト、グループワーク（1回）、レポート課題（1回）を実施する。確認テストとレポート課題については、フィードバックとし、回収後に解説と講評を行う。不測時における授業や補講等、オンラインにて授業を実施する場合がある。また、欠席者に対する講義はオンデマンドにて授業を提供する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語を禁止する。レポートは、「関連文献が適切に押さえられているか」、「論理的な破綻がないか」、「オリジナルな考察が見られるか」、の3点から評価する。優先順位もこの順とする。講義で扱っていない内容や、自分の主観的な考えのみを書いたものには点数を与えない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	20%	30%	0%

ループブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
推論や論証に関する基礎概念の習得	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができ、実践に応用することができた。	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、これらを用いて自ら論証の具体例をつくることができた。	推論や論証に関する基礎概念をよく理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できなかった。
哲学的主題の理解	哲学的主題を深く理解でき、当該主題について自ら独創的な考察をすることができた。	哲学的主題を深く理解できた。当該主題について自ら批判的な考察をすることができた。	哲学的主題をよく理解できた。	哲学的主題を理解できた。	哲学的主題を理解できなかった。
現代の主題との関連づけ	哲学的な問題意識と現代の主題を深く関連付けることができ、現代の主題について考える新たな視点と自らの見解を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代の主題を深く関連付けることができ、現代の主題について考える新たな視点を得ることができた。	哲学的な問題意識と現代の主題をよく関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代の主題を関連付けることができた。	哲学的な問題意識と現代の主題を関連付けることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現し、他者と議論することができた。	高い意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができ、発言などを通じて自らの意見を表現することができた。	意欲と関心を持って積極的に授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができた。	意欲と関心を持って授業に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	哲学 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	尾崎 有紀 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 尾崎 有紀)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	講義内容の復習 (90分)
2	哲学の例－確率の意味論－	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
3	帰納法と「帰納法の正当化問題」	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
4	演繹法と仮説演繹法	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
5	多義性と概念的問題	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
6	反駁	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
7	知識の分類と認識論	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
8	言語と存在論	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
9	言語哲学と意味論 (1) 問題の端緒	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
10	言語哲学と意味論 (2) 様々な意味論の問題点1	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
11	言語哲学と意味論 (3) 様々な意味論の問題点2	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
12	中間まとめ	これまでの授業内容について復習しておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
13	確率の意味論 (1)	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
14	確率の意味論 (2)	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
15	心の哲学	主題について事前に調べておく (90分)	授業内容の復習 (90分)
16	まとめ 授業関連のフィードバックおよび科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業内容について復習しておく (90分)	授業内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『省察』	ルネ・デカルト	筑摩書房	2006年	978-4480089656	
2	『プロレゴメナ』	イマニュエル・カント	岩波書店	1977年	978-4003362631	
3	『言語哲学入門』	服部裕幸	勁草書房	2003年	978-4326153695	
4	『哲学の道具箱』	ジュリアン・パッジーニ	共立出版	2007年	978-4320005730	
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、藤田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（藤田）	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teams を利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身に付ける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付けれる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。

到達目標

- ・ ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・ Microsoft Teams を利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタンディスキル)
- ・ Microsoft Word を使った文書を作成でき、他の講義やレポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・ Microsoft PowerPoint を作成して発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、教壇・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」
「SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teams を利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

※実習時は、大学に備え付けのPCその他、自己所有のノートPC (Windows・Mac) を使用してもよい。
 ※すべてのノートPCを使用する場合は、Microsoft Office を使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ※課題作成については著作権等の盗用(剽窃) 無きよう、十分配慮すること。
 ※不測時における授業や補習等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評價前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointをを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointをを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061042）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、藤田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（藤田）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントと	シラバスを読む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
2	◇大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記号	Wordの書式設定について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
11	◇Wordまとめ	これまでのWordの内容について復習する（45分）	メモやノートを整理する（45分）
12	●PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	メモやノートを整理する（45分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（45分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	発表練習（45分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習（45分）	発表を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(S) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水) ・2号館7階(薦田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかなで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタディスキル)
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
 - 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」
 - 「SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作物等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。 ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力が速く、Word の機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Word の機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Word の機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Word の機能を利用して、定型文書作成を時間がかなりなかっても作成できた。	文字入力が遅く、Word の機能活用まで至らなかった。
PowerPoint を使った発表資料作成と表現力	PowerPoint を使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPoint を使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPoint を使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPoint を使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(S) (科目ナンバリング：S0F061042)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水) ・2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 雅一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明科目を修了して「身に付く	シラバスを読む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	◇ Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	◇ Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記画	Wordの書式設定について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
5	◇ 情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
6	◇ 情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
7	◇ 情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
8	◇ 情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
9	◇ 情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
10	◇ 情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
11	◇ Word まとめ	これまでのWordの内容について復習する（45分）	メモやノートを整理する（45分）
12	● PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
13	● 情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	メモやノートを整理する（45分）
14	● 情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（45分）
15	● 情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	発表練習（45分）
16	● 情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習（45分）	発表を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(D) (科目ナンバリング：S0F061042)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、藤田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)・2号館7階(藤田)	
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 雅一)			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teams を利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身に付ける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。

到達目標

- ・ ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・ Microsoft Teams を利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタンディスキル)
- ・ Microsoft Word を使った文書を作成でき、他の講義やレポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・ Microsoft PowerPoint を作成して発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

- ・ 本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・ 実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
- ・ 実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・ 本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
- ・ 本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
 - 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」
 - 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

※実習時は、ノートに備え付けのPCの他、自己所有のノートPC (Windows・Mac) を使用してもよい。
 ※自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Office を使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ※課題作成については著作権等の盗用(剽窃) 無きよう、十分配慮すること。
 ※不測时における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評價前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守るうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(D) (科目ナンバリング：S0F061042)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水) ・2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 雅一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認(科目を修了して「身に付く力」 の説明含む)、学内のネットワーク、アカウントと	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	◇大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	◇Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	◇Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記号	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	◇Wordまとめ	これまでのWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	●PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習(45分)
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	発表練習(45分)
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習(45分)	発表を振り返る(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(A) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)・由水 伸(経営学科・教授)・藤田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)・2号館7階(藤田)	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)			CAP制	○
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teams を利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。

到達目標

- ・ ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・ Microsoft Teams を利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタディスキル)
- ・ Microsoft Word を使った文書を作成でき、他の講義やレポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・ Microsoft PowerPoint を使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
 ・実習開始前までは、Microsoft Wordを使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
 ・実習開始後は、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
 ・本科目は、数理、データサイエンス、AI、IT教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
 ・本科目は、以下のSDGsと関連授業科目である。
 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」
 「SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teams を利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

※実習時は、ノートに備え付けのPCの他、自己所有のノートPC (Windows・Mac) を使用してもよい。
 ※自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Office を使うように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ※課題作成については著作権等の盗用(剽窃) 無きよう、十分配慮すること。
 ※不測时における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評價前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できた。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力が優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力が優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ(A) (科目ナンバリング：S0F061042)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水) ・2号館7階(薦田)		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 雅一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認(科目を修了して「身に付く力」 の説明含む)、学内のネットワーク、アカウントと	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	◇大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	◇Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	◇Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記画	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	◇Wordまとめ	これまでのWordの内容について復習する(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	●PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	メモやノートを整理する(45分)
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習(45分)
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う(45分)	発表練習(45分)
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習(45分)	発表を振り返る(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-B） （科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、藤田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（藤田）	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teams を利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身に付ける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付けれる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。

到達目標

- ・ ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・ Microsoft Teams を利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタンディスキル)
- ・ Microsoft Word を使った文書を作成でき、他の講義やレポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・ Microsoft PowerPoint を作成して発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
 ・実習前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
 ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
 ・本科目は、教壇・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
 ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」
 「SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teams を利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

※実習時は、ノートに備え付けのPCの他、自己所有のノートPC (Windows・Mac) を使用してもよい。
 ※自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Office を使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ※課題作成については著作権等の盗用(剽窃) 無きよう、十分配慮すること。
 ※不測时における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評價前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守るとうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力・表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-B） （科目ナンバリング：S0F061042）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、鷹田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（鷹田）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントと	シラバスを読む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
2	◇大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記画	Wordの書式設定について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
11	◇Wordまとめ	これまでのWordの内容について復習する（45分）	メモやノートを整理する（45分）
12	●PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	メモやノートを整理する（45分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（45分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	発表練習（45分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習（45分）	発表を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-C） （科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、 藤田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（藤田）	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teams を利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・Microsoft PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身に付ける。
- ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身に付けれる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。

到達目標

- ・ ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。(スチューデントスキル)
- ・ Microsoft Teams を利用したオンラインまたは対面の受講ができる。(スタンディスキル)
- ・ Microsoft Word を使った文書を作成でき、他の講義やレポート、卒業論文に活用できる。(アカデミックスキル)
- ・ Microsoft PowerPoint を作成して発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。(アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
 ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
 ・実習後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
 ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
 ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」
 「SDGs9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teams を利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

※実習時は、ノートに備え付けのPCの他、自己所有のノートPC (Windows、Mac) を使用してもよい。
 ※自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Office を使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ※課題作成については著作権等の盗用(剽窃) 無きよう、十分配慮すること。
 ※不測时における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評價前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分を守るだけでなく周囲にも働きかけていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っていた。	ネット上のセキュリティとマナーを守るとうとする意識がなかった。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢があった。	ログインをして、必要なことはすべてできた。	ログインをして基本的な部分は利用できた。	利用する方法が分からなかった。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができた。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できた。	文字入力速度が十分に、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できた。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できた。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力・表現力は十分にであった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力・表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M-C） （科目ナンバリング：S0F061042）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教授）、鷹田 勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水） ・2号館7階（鷹田）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、学内のネットワーク、アカウントと	シラバスを読む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
2	◇大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇Microsoft Officeの全般的な	ネットワーク上のマナーについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの記画	Wordの書式設定について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
5	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
6	◇情報の整理 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
7	◇情報の整理 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（45分）	操作方法を復習する（45分）
8	◇情報の整理 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
9	◇情報の整理 ・複雑な表組	表について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
10	◇情報の整理 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
11	◇Wordまとめ	これまでのWordの内容について復習する（45分）	メモやノートを整理する（45分）
12	●PowerPointの基本操作 ・基礎課題を通じてPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
13	●情報発信 ・各自自由にテーマ決める ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	メモやノートを整理する（45分）
14	●情報発信 ・中間報告 ・資料に対するフィードバックを行う	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	フィードバックを受けて資料の修正、発表練習（45分）
15	●情報発信 ・発表	授業中に終わらなかった作業を行う（45分）	発表練習（45分）
16	●情報発信 ・発表 ・授業評価改善アンケート	発表練習（45分）	発表を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	信濃 吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：信濃 吉彦）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。					

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語に関して、その構造の理解し身に付けることを目指す。具体的には翻訳アプリが身近にない状態でも基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎的文法事項の理解）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

「辞書さえあれば英語は大丈夫!」といった自信を持つことができる。

授業全体の内容と概要

品詞（特に動詞と名詞）を中心とした言語構造（5文型）と様々な場面における基礎表現を身につける。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
<VoiceTra（ボイストラ）はNICT（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。平常点とは出席・授業参加度・授業記録のことを指す。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英語に関するレポート課題を複数回実施し採用する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。特に、1回目の授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。13回以上の出席を基準とし12回の出席を確保できないものは再履修とする。 平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きなかつ自主的な課題の提出には、加点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で92点以上の得点を挙げた。	定期試験で82点以上の得点を挙げた。	定期試験で72点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる読解・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成をみた。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつあった。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台づくりの努力が見られた。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もしない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けていた。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られた。	積極性は乏しいものの、不の明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	信濃 吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：		信濃 吉彦		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井 康佑	開拓社	2010	9784758915304	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」 の説明含む）	専用のノートを準備し テキストのpp.3-25を読み込む（45分）	自分の弱点確認（45分）
2	英語と日本語の違い	テキストの pp.26-29 を読み込む （45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
3	英語の基本文型①	テキストのpp.29-36 を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
4	英語の基本文型②	授業1～3の総復習（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
5	英語の動詞とその使い方①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
6	英語の動詞とその使い方②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
7	品詞に関するイメージ①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
8	品詞に関するイメージ②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
9	英文の構造を理解する①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
10	英文の構造を理解する②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
11	文型確認小テスト	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
12	時制①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
13	時制②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ② テストリビュー 授業改善アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（45分）	期末試験に備える（45分）
16	試験（60分）及び授業総評（30分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証：辞	試験準備（120分）	授業内容の振り返り（60分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：岡島 徳昭）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
文法、読解、作文などの演習をとし英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。							
授業全体の内容と概要							
英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習を通し、英語運用能力の向上を図る。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の4技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席重視。テキスト・辞書持参 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席が必要。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M・岡島） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：		岡島 徳昭		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「英検準2級 合格への道」』	坂部俊行，岡島徳昭 他	南雲堂	2011	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関する ガイダンス。シラバスの説明（科目を修了して「身	シラバスを読むこと。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
2	Lesson 1 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
3	Lesson 1 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (90分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
4	Lesson 2 語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
5	Lesson 2 語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
6	Lesson 3 語句空所補充 読解の基礎練習 Robots that Appear	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
7	Lesson 3 語句空所補充 読解の基礎練習 Robots that Appear	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
8	中間テスト	試験の準備学習。 (45分)	試験の復習。 (45分)
9	Lesson 4 語句空所補充 読解の基礎練習 Lighthouse Homes	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
10	Lesson 4 語句空所補充 読解の基礎練習 Lighthouse Homes	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
11	Lesson 5 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
12	Lesson 5 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
13	Lesson 6 語句空所補充 読解の基礎練習 Virtual Reality	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
14	Lesson 6 語句空所補充 読解の基礎練習 Virtual Reality	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
15	全体復習 Simulation Test (P74-5)	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	石田 暁子（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：石田 暁子）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項を板書することによって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。同じ名称のクラスが複数あるので、自分のクラスを間違えないよう、確認の上、履修登録すること。教科書も異なるので購入時に注意は必要。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１０回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０％	０％	３０％	０％	３０％	０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	石田 暁子（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：		石田 暁子		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋 哲徳 他	朝日出版社	2017	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	テキストp.2～5予習（45分）	授業内容復習 （45分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.6 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
3	一般動詞の種類・語形変化・否定文・疑問文	テキストp.8～11 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.12 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
5	疑問詞を用いた疑問文の作り方	テキストp.14～16 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.17予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
7	進行形の基本・否定文・疑問文	テキストp.19～21 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.22 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
9	未来形の表現・否定文・疑問文	テキストp.24～26 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.27 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
11	完了形の種類・基本・用法・否定文・疑問文	テキストp.29～34 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.35 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
13	基本的な前置詞と代名詞の格変化	テキストp.36～39 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.40 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （45分）	期末試験準備 （45分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（60分）・講評・解説し、フィードバックする。（30分）	期末試験準備 （45分）	期末試験内容復習 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	1 Q		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）			研究室等所在	1号館3階	
単位数	1（単位認定責任者：井坂 肇）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。

「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・15分以上の遅刻は欠席とみなす

・遅刻2回で欠席1回とする

・授業には必ずテキストを持参すること。

・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上。 教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で80点以上の得点を上げた。	定期試験で65点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で40点以上の得点を上げた。	定期試験で40点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：		井坂 肇）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook (New Edition)』	桐原書店編集部 編	桐原書店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK これからの英文法 [New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅰを修了して「身に付く力」についての説	事前にシラバスを読んでおく (45分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	第1章 文型（1）	第1章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
3	第2章 文型（2）	第2章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
4	Plus 文型	Plus文型の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
5	第3章 時を表す表現（1）	第3章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
6	第4章 時を表す表現（2）	第4章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
7	第5章 完了形（1）	第5章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
8	第6章 完了形（2）	第6章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	小テストの準備 (45分)	小テスト内容復習 (45分)
10	第7章 助動詞（1）	第7章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
11	第8章 助動詞（2）	第8章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
12	第9章 助動詞（3）	第9章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
13	第10章 受動態（1）	第10章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
14	第11章 受動態（2）	第11章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
15	期末試験	期末試験準備 (45分)	期末試験内容復習 (45分)
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅰを修了して「身に付いた力」について検 証する	授業内容予習 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1				
開講時期	1 Q		授業形態		演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎） (科目ナンバリング：ENL041029)						
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）			研究室等所在		2号館6階	
単位数	1		（単位認定責任者：西崎 毅）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG.4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、タブレットの文字記入機能等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等に対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。教科書は基礎英語Ⅰ・Ⅱを通じて使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○授業の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
○授業資料は適切に管理し、学修に役立てること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
○講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用は禁止する。
○講義中の私語・居眠りは厳に禁むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
○単位認定に必要な最低出席回数は11回。 ○成績評価は、定期試験の点数（60％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（40％）を基に総合的に判断して行う。 ○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。 ○講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60％	0％	0％	0％	40％	0％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で9割以上の得点を上げた。	定期試験で8割以上の得点を上げた。	定期試験で7割以上の得点を上げた。	定期試験で6割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が6割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては期待される最低限のレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関しては期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関しては期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1		
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041029）				
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 （単位認定責任者：西崎 毅）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英文法から学ぶ基本英語Polish Up Your English』	登美 博之 / Bill Benfield	成美堂	2015	9784791900701	
2	『リスニング教材は別途購入案内する。』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 文の構造（動詞と5文型）	英語についての自己の課題を考えておくこと。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
2	文型（S+V）、文型（S+V+C）、文型（S+V+O） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
3	文型と修飾語句（形容詞、副詞） リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
4	文型（S+V+O+O）、文型（S+V+O+C） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
5	5文型の総復習 リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
6	文の要素と名詞相当語・句・節① リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
7	文の要素と名詞相当語・句・節② リスニング演習 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
8	文の要素と名詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
9	文の要素と形容詞相当語・句・節① リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
10	文の要素と形容詞相当語・句・節② リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
11	文の要素と形容詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
12	文の要素と副詞相当語・句・節① リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
13	文の要素と副詞相当語・句・節② リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （90分）
14	文の要素と副詞相当語・句・節③ リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
15	文の構造の総復習 リスニング演習・英語による発表 課題のフィードバック、授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	前回までの学修内容を復習すること。（45分）
16	60分の試験、30分の解説、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの学修内容を復習すること、（45分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する。 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年、建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：宮嶋 達也）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 （45分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（45分）
2	Grammar 5sentence patternsⅠ(5文型)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
3	Grammar 5sentence patternsⅡ(5文型)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
4	Unit 1 Speaking About Yourself	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
5	Unit 2 What Do You Do?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
6	Unit 3 What Does He Look Like?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
8	Unit 4 Where Are You From?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
9	Grammar Gerunds and InfinitivesⅠ(動名詞&不定詞)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
10	Grammar Gerunds and InfinitivesⅡ(動名詞&不定詞)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
11	中間テスト	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
12	Unit 5 Likes and Dislikes	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
13	Unit6 What's She Like?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
15	Review 1	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
16	Final Exam. 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（45分） 授業で説明を受けた解説を復習。（45分）	

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041029）					
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：横田 肇）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を身につける。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションの基礎を学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。 建築学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
1) 学生が英語の基本的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。 2) 平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。 3) 平易な英会話ができるようになる。							
授業全体の内容と概要							
毎回、所定のテキストに基づき、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて、関連する読解、作文、会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。							
授業の方法							
毎回、所定のテキストに即し、パワーポイントと板書等により各項目の全体的な説明（一斉）を行う。その後、個人・グループワークによる練習問題の解答を行う。解答の終了後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目
保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎的な理解が完全にでき、十分な応用力がついた。	英文法の基礎的な理解がほぼできており、いくらか応用できる力がついた。	英文法の基礎的な理解が大体できた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が正確・完全に読解でき、十分に応用することができた。	テキストの英文がほぼ理解でき、いくらか応用できた。	テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分の理解ができなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041029）				
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：横田 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Simply Grammar 改訂版』	K.Saito	南雲堂	2 0 1 7	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読んでおく。（４５分）	アルファベットの基礎について調べる。（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）発音の基礎、単語の成り立ち、アルファベットの基礎	アルファベットの基礎について調べる（４５分）	アルファベットの基礎について調べる（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）be動詞の使い方説明と練習。	教科書Unit1 説明文の予習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）be動詞の使い方説明と練習。	Unit1 練習問題の予習（４５分）	Unit1 練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）be動詞の使い方説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	Unit1 練習問題の予習（４５分）	Unit1 練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）一般動詞の使い方説明と練習。	Unit2 説明文の予習（４５分）	Unit2 説明文の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）一般動詞の使い方説明と練習。	Unit2 練習問題の予習（４５分）	Unit2 練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）一般動詞の使い方説明と練習。	Unit2 練習問題の予習（４５分）	Unit2 練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）一般動詞の使い方説明と練習。	Unit2 練習問題の予習（４５分）	Unit2 練習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）動詞の使い方の注意すべき点 説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	Unit1・2 全体の確認（４５分）	Unit1・2 全体の確認（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）動詞の使い方の注意すべき点 説明と練習。	Unit1・2 全体の確認(４５分)	Unit1・2 全体の確認（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。	Unit1・2 全体の確認（４５分）	Unit1・2 全体の確認（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。	J配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）英文の構造の注意すべき点 説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
15	総復習（既習事項の復習） 説明と練習。	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
16	定期試験。60分の試験終了後、30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。 この科目で身に付けた力についての説明。	Unit1・2 全体、配布資料の確認（４５分）	Unit1・2 全体、配布資料の確認（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1							
開講時期	1 Q		授業形態		演習		必修・選択		必修	
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-井坂） (科目ナンバリング：ENL041029)									
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇（経営学科・専任講師）				研究室等所在		1号館3階			
単位数	1		(単位認定責任者：井坂 肇)					CAP制		○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし		左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容							
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照									

概要

履修目標							
英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。							
</							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で80点以上の得点を上げた。	定期試験で65点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で40点以上の得点を上げた。	定期試験で40点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1		
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041029）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1（単位認定責任者：井坂 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook (New Edition)』	桐原書店編集部 編	桐原書店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK これからの英文法 [New Edition]』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅰを修了して「身に付く力」についての説	事前にシラバスを読んでおく (45分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	第1章 文型（1）	第1章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
3	第2章 文型（2）	第2章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
4	Plus 文型	Plus文型の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
5	第3章 時を表す表現（1）	第3章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
6	第4章 時を表す表現（2）	第4章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
7	第5章 完了形（1）	第5章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
8	第6章 完了形（2）	第6章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	小テストの準備 (45分)	小テスト内容復習 (45分)
10	第7章 助動詞（1）	第7章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
11	第8章 助動詞（2）	第8章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
12	第9章 助動詞（3）	第9章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
13	第10章 受動態（1）	第10章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
14	第11章 受動態（2）	第11章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
15	期末試験	期末試験準備 (45分)	期末試験内容復習 (45分)
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅰを修了して「身に付いた力」について検 証する	授業内容予習 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
ドイツ語の初級文法と簡単な会話を身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光・留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。							
授業全体の内容と概要							
授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。							

修学サポート（合理的配慮）
新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：		河田 一郎		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ドイツ語ルネサンス〈第3版〉』	本郷・佐藤ほか	三修社	2013	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講する。	シラバスの内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
2	「ドイツ語の発音について」 発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメント	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
3	「ドイツ語の動詞について」 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
4	「不規則変化動詞について」 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
5	「SEINとHABENについて」 SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
6	「名詞と冠詞について」 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
7	「名詞の複数形について」 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
8	「人称代名詞について」 人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
9	「定冠詞類について」 ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
10	「不定冠詞類について」 ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
11	「前置詞について」 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
12	「3・4格支配の前置詞について」 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
13	「接続詞について」 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
14	「ヒアリング練習」 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
15	「前期学修内容の復習」 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
16	「定期試験」 試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目標が身についたか	試験に向け全体を復習すること。（90分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門Ⅰ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051034）				
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 （単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話を身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験 5 級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのDVD 等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き、翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅰ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051034）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ドイツ語ルネサンス（第3版）』	本郷・佐藤ほか	三修社	2013	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講す	シラバスの内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
2	「ドイツ語の発音について」 発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメント	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
3	「ドイツ語の動詞について」 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
4	「不規則変化動詞について」 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
5	「SEINとHABENについて」 SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
6	「名詞と冠詞について」 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
7	「名詞の複数形について」 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
8	「人称代名詞について」 人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
9	「定冠詞類について」 ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
10	「不定冠詞類について」 ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
11	「前置詞について」 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
12	「3・4格支配の前置詞について」 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
13	「接続詞について」 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
14	「ヒアリング練習」 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
15	「前期学修内容の復習」 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
16	「定期試験」 試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目標が身につい	試験に向け全体を復習すること。（90分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合 (M-A) (科目ナンバリング：HSS031027)					
授業担当者 (所属・職名)	岡田 武志 (経営学科・助教)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：岡田 武志)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目。							
授業の方法							
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（M-A） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	岡田 武志（経営学科・助教）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：岡田 武志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（M-B） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 和裕（経営学科・准教授）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 和裕）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。							
授業の方法							
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の手等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。	
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。	
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。	
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（M-B） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 和裕（経営学科・准教授）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 和裕）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（M-C） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：米野 宏）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目。							
授業の方法							
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面にに応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（M-C） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：米野 宏）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（S-A） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：三嶋 康嗣）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をおとして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をばたさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできないうる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（S-A） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：三嶋 康嗣）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して身に付く力の説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	護身術	護身術について確認しておく（45分）	護身術について理解しておく（45分）
16	まとめ 科目を修了して身に付く力の検証 授業改善アンケートの実施 授業最終回において議評をし、フィードバックする	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（S-B） (科目ナンバリング：HSS031027)						
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）			研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：		三嶋 康嗣）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をおとして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、自づ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をたさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合 (S-B) (科目ナンバリング：HSS031027)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者：三嶋 康嗣)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス、科目を修了して「身に付く力」についての説明 ガイダンス	事前にシラバスを読んで認識しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく (45分)	身体のケアを怠らない (45分)
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく (45分)	身体のケアを怠らない (45分)
4	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく (45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく (45分)
5	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
6	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
7	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
8	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく (45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく (45分)
9	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
10	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
11	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
12	ニュースポーツ (スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック)	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
13	ニュースポーツ (スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック)	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
14	ニュースポーツ (スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック)	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
15	護身術	護身術について確認しておく (45分)	護身術について理解しておく (45分)
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく (45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（DA-M） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	石井 祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：石井 祐治）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。スポーツの基礎的な知識と技術を身につける。							
授業全体の内容と概要							
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。 に」の関連科目						SDG4.「質の高い教育をみんなに」	
授業の方法							
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。 スポーツの基礎的知識と技術を身につけることができたかを評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を優れたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことを身につけた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことを身につけた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことを身につけた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことを身につけることができなかった。	
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分に身につける事ができた。	各種目の運動技能が7割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が5割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が3割程度身につける事ができた。	各種目の運動技能が全く身につける事ができなかった。	
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。	
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（DA-M） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	石井 祐治（経営学科・特任講師）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：石井 祐治）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明 身に付けるべき学習内容の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアを怠らない（45分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット） ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	まとめ（授業改善アンケートの実施） 学習して身に付ける事ができたかフィードバックして検証	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年 建築学科・1年			
開講時期	前期		授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（DA-W） （科目ナンバリング：HSS031027）						
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）岡田 武志（経営学科・助教）			研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：三嶋 康嗣）		CAP制		×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をおとして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。
建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1 ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。

2 アクセサリー（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。

3 携帯電話の電源は必ず切る。

4 貴重品・多額の現金は持参しない。

5 爪・髪の手等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。

＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、自づ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。	
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。	
知識・理解（ルール、審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年 建築学科・1年			
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（DA-W） （科目ナンバリング：HSS031027）						
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師） 岡田 武志（経営学科・助教）			研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：		三嶋 康嗣）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義,実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（D-B） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	石井 祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	（単位認定責任者：石井 祐治）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	学生の授業内容や生活指導の相談を正課授業外に研究室前の掲示ボード等を参照して実施する					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。 スポーツの基礎的な知識と技能を身につける。							
授業全体の内容と概要							
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。 スポーツを通じて知識と技能を身につける。					SDG4、「質の高い教育をみんなに」の関連科目		
授業の方法							
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。知識と技能を身につけるよう学生自身の成長を身につけさせる。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。 スポーツの知識と技能を身につけたかどうかを評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことを身につける事ができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことを身につける事ができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことを身につける事ができなかった。	
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。	
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。	
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	講義,実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合 (D-B) (科目ナンバリング：HSS031027)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	学生の授業内容や生活指導の相談を正課授業外に研究室前の掲示ボード等を参照して実施する					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明 身に付ける力の内容を理解させる	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく (45分)	身体のケアを怠らない (45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく (45分)	身体のケアを怠らない (45分)
4	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく (45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく (45分)
5	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
6	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
7	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
8	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
9	ボールゲーム／ネット型 (卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
10	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) 基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく (45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく (45分)
11	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
12	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
13	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
14	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
15	ボールゲーム／ゴール型 (バスケットボール、フットサル、アルティメット) ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施) 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして検証	種目の特性やルールについて理解しておく (45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツ総合（A-B） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）岡田 武志（経営学科・助教）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：三嶋 康嗣）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をととして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合（A-B） （科目ナンバリング：HSS031027）					
授業担当者 （所属・職名）	三嶋 康嗣（経営学科・専任講師）岡田 武志（経営学科・助教）			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：三嶋 康嗣）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） ガイダンス	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック、キンボール、ポッチャ、モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) (科目ナンバリング：SWS111002)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

1. ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解する。

2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。

3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。

4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

1. ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解することができる。

2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。

3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。

4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

1. ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について学ぶ。

2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について学ぶ。

3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について学ぶ。

4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について学ぶ。

5. ソーシャルワーカーなどから、お話を聞き学ぶ。

6. 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。

2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。

3. 適宜質問を促し、質問に対応する。

4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。

5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。

2. 適宜質問に対応する。

3. 自然災害などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。

4. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

5. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30%の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解する。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解することができた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について理解する。	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について理解する。	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) (科目ナンバリング：SWS111002)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図解でわかるソーシャルワーク』	鈴木 孝典・鈴木 裕介	中央法規	2023年	9784805889589	価格 / 2,420 (本体 / 2,200)
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅰ ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅱ 社会福祉士の職域及び福祉行政等における専門職	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
3	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅲ 民間の施設・組織における専門職及び諸外国の動向	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象Ⅰ ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象Ⅱ ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅠ ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅡ ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅢ ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実態	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
9	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅰ 多機関による包括的支援体制	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅱ フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅲ ソーシャルサポートネットワーク	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
12	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容Ⅰ 多職種連携及びチームアプローチの意義	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容Ⅱ 機関・団体間の合意形成と相互関係	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
14	まとめ (事例研究) 及びレポートに対するフィードバック (解説) を行う	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	美術学概論Ⅰ (科目ナンバリング：AEA211001)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学に関する 多様な視点を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
社会や文化におけるの美術の意義や歴史、美術に関して問われてきたことを学び、多様な視点を理解する。 美術に関する表現活動を行う者として、芸術文化一般についての視野を広げ、批評的な考え方を持つことができる。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
美術に関するこれまでの論点を理解できる。 美術作品を制作し鑑賞するための、基礎能力を養う。 自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
これまで美術に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、社会における美術作品の意義を捉えなおし、美術について多様な視点から考える力を養う。							
授業の方法							
講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程必修 高・美術

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	美術学概論Ⅰ (科目ナンバリング：AEA211001)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学に関する 多様な視点を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業のオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	美術作品とは何か 美術作品を「読む」ということ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
3	美術の技法とジャンル (1) 技法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	美術の技法とジャンル (2) ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	社会と美術 (1) 美術の社会的役割 社会を見るための意	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	社会と美術 (2) 美的価値と社会	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	美術と文化 「文化」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	小テスト (1) 美術における「作者」とは何か 近代美術における「作者」の誕生	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	美術における「オリジナリティ」とは何か 小テストの結果について授業内でコメントしてフィードバックする	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
10	モダニズムとポストモダニズム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
11	美術館 (1) 美術館とは何か 美術館の役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
12	美術館 (2) 美術館の歴史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
13	美術館 (3) 美術館の現在の課題 (日本的課題)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
14	美術とジェンダー 女性作家の問題 女性の表象	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
15	まとめ 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	これまでの授業内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『西洋美術史入門』	池上英洋	ちくまプリマー新書	2012	9784480688767	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング：APT311001)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・講師）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：向井正伸）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
実技形式の授業であり、建築製図に必要な道具とその使い方、手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。							
到達目標							
図面作成の基礎的能力、木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。							
授業全体の内容と概要							
課題内容は、毎回授業時間内に完成できる程度のものである。ただし時間内に完成できない場合は、演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし、次回授業開始時まで完成させること。 「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため、毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については、提出ごとにチェックをし、不備・誤りの部分についての指摘をおこない、手直し後に再提出する。なお、指導教員がSAの学生とともに、一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実技科目であること、建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため、欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること（最低出席回数22回以上），積極的に基礎技術習得に取り組むこと。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
製図道具を自己で事前に準備し、それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し、正確に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない、使いこなすことができなかった。	
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ、自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため、図面を作成することができなかった。	
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完成する。	すべての課題を余裕をもって期限内に作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成完成できた。	おおむね期限内に課題を作成完成できた。	すべての課題が期限内に作成完成することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング：APT311001)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：向井正伸）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方、授業スケジュールの解説、科目を修了して「身に付く力」についての	シラバスの事前確認（90分）	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認（90分）
2	ガイダンス（製図道具及び製図台の解説）	シラバスの確認（90分）	際の注意事項と製図道具の確認（90分）
3	線の練習 1－1 実線・破線の種類	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
4	線の練習 1－2 実線・破線の描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
5	線の練習 2－1 線の太さと強さの意味	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
6	線の練習 2－2 線の太さと強さの描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
7	建築記号 1－1（文字・数字の表記方法）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
8	建築記号 1－2（階段の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
9	建築記号 2－1（壁・開口部の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
10	建築記号 2－2（平面図の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
11	木造住宅模写 1－1（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
12	木造住宅模写 1－2（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
13	木造住宅模写 2－1（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
14	木造住宅模写 2－2（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
15	木造住宅模写 3－1（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
16	木造住宅模写 3－2（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	木造住宅模写 4－1（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
18	木造住宅模写 4－2（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
19	木造住宅模写 5－1（1階平面図 柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
20	木造住宅模写 5－2（1階平面図 詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
21	木造住宅模写 5－3（1階平面図 外構の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
22	木造住宅模写 6－1（2階平面図 柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
23	木造住宅模写 6－2（2階平面図 詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
24	木造住宅模写 7－1（エスキース図面の解説）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
25	木造住宅模写 7－2（柱の割付の考え方）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
26	木造住宅模写 7－3（建具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
27	木造住宅模写 7－4（設備の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
28	木造住宅模写 7－5（家具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
29	木造住宅模写 7－6（外構の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
30	木造住宅模写 7－7（図面の確認）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
31	講評会 1（提出課題の講評と解説）	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認（90分）
32	講評会 2（提出課題の講評と解説） 授業アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認と振り返り（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング：MAN411001, MAN511001)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者：信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

経営学の全体的な流れを中心に、本学科の各分野で必要となる基礎的な内容を理解し、伝統的な理論から現在一般化している理論等を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

実社会で必要となる考え方（意思決定等）に必要とされる基本的な理論・事柄を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、重要人物名とその功績等は必ずノート（または専用データベース）にまとめることを日々のルーティンとする。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し経営学の全体的な内容を俯瞰的に学習する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容ややり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマボの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。日々の連絡等にはMSチームズを有効的に活用すること。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない事柄は調べて書き残す癖をつけること。ノート提出は平常点の最大75%に換算する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で92点以上の得点を挙げた。	定期試験で84点以上の得点を挙げた。	定期試験で76点以上の得点を挙げた。	定期試験で68点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業や課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	授業や課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	授業や課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	授業や課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	学習活動への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とbalancingへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における専門用語や理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する努力が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング：MAN411001, MAN511001)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『初学者のための経営学概論』	前田 卓雄 他	株式会社 同友館	2021	9784496055515	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	専用のノートを準備する (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
2	経営学の重鎮①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
3	経営学の重鎮②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
4	経営学の重鎮③	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
5	経営組織	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
6	人的資源管理	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
7	モチベーション論	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
8	リーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
9	経営戦略①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
10	経営戦略②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
11	種々の分析手法①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
12	種々の分析手法②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
13	種々の分析手法③	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
14	種々の分析手法④	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 企業の社会的責任 授業に係る諸評・随時によるフィードバック	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験 (60分) 及び総括 (30分)	試験に備える (150分)	本科目の総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マンガ経営戦略全史』	三谷 宏治	株式会社日経BP	2023	9784296116522	
2	『日常が学びに変わる！経営学の本』	中川 功一	翔泳社	2019	9784798160757	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング：MAN412003, MAN512003)					
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：猪尾 紀幸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。					

概要

履修目標							
経営組織とは、何なのか。こういった構造や活動をするのか。その基礎を理解し経営組織・組織管理についての基礎知識を身につける							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
2年次以降の専門分野の活動に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズム（特に意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメント）が理解できている。							
授業全体の内容と概要							
経営活動の基本要素であるに意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメントに関する基本知識を理解・習得する。 SDG 4、「質の高い教育をみんなに」のテストケースとして授業中の発言を重視し、ハンドアウトやプリントを多用する。							
授業の方法							
座学においてPCによるプロジェクタ投影と配布資料による講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。教科書に関する事前学習は当たり前のことで予習のページを指定する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席および授業参加度を重視し、20分以上の遅刻および15分以上の途中退出は欠席扱いとする。授業中の私語、居眠り、携帯・スマートホン利用は厳禁。これを破った場合は欠席扱いとする。また、本科目は座席を指定する。板書の撮影は許可するが次回の授業までに必ずノートに転記すること。加えて、平素の学習状況を確認するためノートチェックを行う。10回以上の出席がない学生は評価の対象としない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので必ず相談して欲しい。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回（厳守）。12回以上の出席を標準とし、これに満たない場合は平常点の加点を失う。教科書を持参しない学生に関しては評価対象としない。本科目は後期科目なので2回目以降の授業で教科書未持参の学生には履修中止を勧告する。よって、教科書未購入の学生の履修は、これを認めない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解し、事例の組織形態を理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
思考力・判断力・表現力	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション論を展開できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーションの在り方を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの形態を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
主体性	リーダーシップを完全に理解し、自らもリーダーシップを発揮し様々な意見を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ論を理解できた。	リーダーシップを理解し、リーダーシップの目的を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	経営組織論 (科目ナンバリング：MAN412003, MAN512003)					
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：		猪尾 紀幸)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『経営組織入門』	上林憲雄・庭本佳子	文真堂	2020	9784830950698	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	経営組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	組織形態と活動	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	組織の基本原理	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	意思決定	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	「やる気」を高める・・・モチベーション理論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	「やる気」を高める・・・モチベーション理論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	リーダーシップ論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	リーダーシップ論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	チームワークとチームマネジメント①	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	チームワークとチームマネジメント②	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	イノベーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	ネットワーク ノートチェック指示	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	総括レビュー 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	試験に向け全体を復習する。(90分)
16	定期試験及び解説 (60分の試験終了後、30分で総括を行う) 授業に係る講評・解説によるフィードバック	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受け講義全体を復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	経営学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習 (M) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)・河野 善文 (経営学科・教授)・青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階 (信濃)・1号館2階 (河野)・1号館4階 (青山)・2号館8階 (河田)・2号館7階 (薦)	
単位数	1	(単位認定責任者: 信濃 吉彦)			CAP制
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
本授業は大学の「初年次教育」に位置付けられ、大学生として必要な基礎力（スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル）を身に付けることを目的とします。具体的には、自ら考える力、詳しく調べる力、自分の意見を表現する力を養成します。この目的を達成するために、講義と演習を組み合わせて行います。これにより、学生は高校から大学への円滑な移行をサポートし、大学での生活面や学習面で必要となる多様な能力を身に付けることが期待されます。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
日々の学習において未来につながるエビデンスやデータベースを構築し、知的根幹を築いてもらう。 大学の授業のなかで以下の目標にもけた取り組みができる。 ・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる（スチューデントスキル）：時間管理やコミュニケーションスキルなど、大学生活における基本的なスキルを養育します。 ・学びを深めるために必要となる基本的なスキルを学習面で活用できる（スタディスキル）：板書の写しではない自分なりのノートが作れる、資料を読み、必要な文献情報と要点をノートに整理できる。 ・専門的な学習や研究に必要なスキル・能力を学習面で活用できる（アカデミックスキル）：学術的なりサーチ、構成と書式の整ったレポートを作成できる論文作成、プレゼンテーションなど、専門的な学習や研究に必要なスキルを修得します。							
授業全体の内容と概要							
授業内容は、日々のノートテイキング、授業のポイント作成、調べ方講座、各種文型等の読み方・書き方、レポートに関してなど「聞く」「調べる」「読む」「書く」「まとめる」を学習し自分のものとしてしてもらう。特にレポートの書き方を通して客観表現の重要性を理解し大学生としての自覚を持ってもらう。さらに、研究倫理およびコンプライアンスについて学ぶ 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
教員が担当分野に関連したオムニバス形式で授業を進める。本科目は出席を重視する。欠席可能回数は三回までとし、これを超えた場合は単位認定の対象となしない。事後学習においては、教員が各回の課題のテーマを指定する。定期試験は実施せず、最終的に各自でレポートを作成して提出する。また、教員によってはプリント配布する場合があるが、各回の授業内容を各自がノートにまとめる形で授業をする。特定の教科書を指定しないため、事後学習を行うさいには、各自が作成した授業ノートが必要となる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
13以上の出席を以てグレーディングの対象とする。科目の性格上、1年生での履修完了が求められる。不合格になった学生は1年生に間に必ず再履修すること。原則2年度以降の再履修認めない。 本講座は定期試験を実施しないため、各回の演習課題（平常点）ならびに最終レポートの評価で単位認定を行う。欠席があると単位の取得は難しい。							

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回以上 また、最終レポート提出を1回課し評価の対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	0%	60%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	レポートで90点以上の得点を挙げた。	レポートで80点以上の得点を挙げた。	レポートで70点以上の得点を挙げた。	レポートで60点以上の得点を挙げた。	レポートで60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を確立するための努力をしている。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力が見られる。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるがなかなか定着していない。	日々の授業・レポートへの取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が見受けられない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。
レポートの構成と書式	レポートの書式と構成を理解し、本学経営学科が求める内容を十分に理解しいつでも実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をほぼ理解し、本学経営学科が求める内容を理解し実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をおおむね理解し、今後の活動に耐え得るレベルには到達できている。	レポートの書式と構成に關して最低限必要な内容を理解することにこまっており、実施にはこまやかな支持が必要と思われる。	レポートの書式と構成を理解できなかったため今後の活動に支障をきたすレベルにとどまった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ 演習 (M) (科目ナンバリング: BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)・河野 善文 (経営学科・教授)・青山 浩之 (経営学科・教授)・		研究室等所在	2号館6階 (信濃)・1号館2階 (河野)・1号館4階 (青山)・2号館8階 (河田)・2号館7階 (藤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーションシラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反映の説明 (信濃担当教員)、各学	本授業の専用のノートを1冊用意して、DP・シラバスの要点をまとめる (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
2	学生主体の学び、履修ルール、学修成果等 (学務課)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
3	大学生として必要な基礎力 (スチューデントスキ GPS-Academic実施と社会人基礎力等 (I R企画課)) 大学生として必要な基礎力 (スチューデントスキ	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
4	話を聞き、ノートを取る1：大学と高校までの板書の違いとノートテイキングの重要性 (河野) 大学生として必要な基礎力 (スタディスキル)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
5	話を聞き、ノートを取る2 (河野)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
6	話を聞き、ノートを取る3 (河野)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
7	文章を読み、ノートを取る1 (青山) 大学生として必要な基礎力 (スタディスキル)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
8	文章を読み、ノートを取る2 (青山)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
9	文章を読み、ノートを取る3 (青山)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
10	資料を読み、読書ノートを作成する1 (藤田) 大学生として必要な基礎力 (スタディスキル)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
11	資料を読み、読書ノートを作成する2 (藤田)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
12	資料を読み、読書ノートを作成する3 (藤田)	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む (45分)
13	レポートを書く・考えたことを表現する1 (信濃) 大学生として必要な基礎力 (アカデミックスキル)「学問上のコンプライアンス、研究倫理、研究イン	前回ノートを読み返す (45分)	ノートをまとめレポートに取り組む (45分)
14	レポートを書く・考えたことを表現する2 (信濃)	レポートを組む (45分)	ノートをまとめレポートに取り組む (45分)
15	レポートを書く・考えたことを表現する3 (信濃) 最終レポート課題の確認	レポートを組む (45分)	ノートを完成させる (45分)
16	レポートを書く・考えたことを表現する4 (信濃) 最終レポート課題の確認 授業総括	レポート提出または準備 (45分)	本科目の総復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ [※] 演習 (S) (科目ナンバリング: BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・准教授)・松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館4階・1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
本科目の履修目標は、社会福祉学科における学生としての基本的スキルである、「スチューデントスキル」、「スタディスキル」、「アカデミックスキル」を学習することにより、学生自らが主体的に学ぶ態度を身に付けることである。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
次の3つを主に学習する。 ①大学生として、主体的な学び方を習得し、行動することができる。（スチューデントスキル） ②論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。（スタディスキル） ③学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。（アカデミックスキル）							
授業全体の内容と概要							
本授業は、生活面や学習面において高校から大学への円滑な移行を促すための「初年次教育」である。入学後に必要となる大学生としての能力を身に付けるために以下のことを学ぶ。 スチューデントスキルを身に付けるために、社会福祉学科で学ぶ意義、履修に関すること、社会人基礎力について学ぶ。 スタディスキルを身に付けるために、大学での学びを深めるために必要な論理的な思考について学ぶ。 アカデミックスキルを身に付けるために、専門的な学習や研究に必要な学術レポートの書き方、研究倫理・コンプライアンス・研究インテグリティ、対人援助を行う職業倫理について学ぶ。 以上を通じて、本学を使いこなせる学生としての主体的な意識を養ってほしい。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、テキスト、授業資料を使用し、解説する。Teamsやポータルサイトなどで授業資料を提供する。 課題はFormsなどを利用し、適宜、理解度を把握しながら履修学生へ応答する。 学生の質問等は、授業前後の教室にて積極的に伝えてほしい。Teamsによる質問相談にも回答するので利用してほしい。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻、欠席、事務手続き等の対応ルール、授業中のマナーなどは、オリエンテーションにて確認する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。 この基準は、評価に必要な基準であるが、評価の十分条件にはならない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	6 0 %	4 0 %	0 %	0 %	0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
大学生としての主体的な学び方を習得し、行動することができる。	学生として行動することを模範的に理解をし、発展的な実践ができた。	学生として行動することを正確に理解し、充分に主体的な実践ができた。	学生として行動することを基礎的に理解し、主体的な実践ができた。	学生として行動することの理解は部分的にとどまるが、実践があった。	学生として行動することの理解に大きな欠落があり、実践は乏しかった。
学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。	学術レポートの形式を精密に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は熟練していた。	学術レポートの形式を正確に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は明瞭であった。	学術レポートの形式を基礎的理解があり、引用、文献リストを作成しており、表現は適切であった。	学術レポートの形式基礎的理解が部分的にとどまり、引用、文献リスト、文章表現は十分ではなかった。	学術レポート形式の基礎的理解に欠落があり、引用、文献リスト、文章表現は欠陥があった。
論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。	タイトルと文章全体が一貫しており、整合性があり、結論は示唆的であった。	タイトルと文章全体が一貫性を備えており、結論は明瞭であった。	タイトルと文章全体において、論理的に主張がなされ、説得力があり、結論は適切であった。	タイトルと文章全体の論理性は、部分的にとどまり整合性に欠け、結論を明確化する必要があった。	タイトルと文章全体の論理性は、一貫性が乏しく、全面的修整の必要があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ 演習 (S) (科目ナンバリング: BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・准教授)・松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館4階・1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版 スキルを学ぶ21のワーク』	桑田てるみ	実教出版	2 0 1 5	9784407336146	
2	『星槎道都大学 学生便覧 2 0 2 5 年度版』	星槎道都大学学務部編		2 0 2 5		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、社会福祉学科のディプロマ・ポリシー (DP) の説明等 (社会福祉学科長)、本科目を修了して「身に着く力」	シラバスの内容をよく読んでおく。(45分)	今回の学習内容について、シラバス、学生便覧などを復習する。(45分)
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生本位の教育の意識付け等 (学務課)	授業前に、学生便覧、テキストなどの学習範囲について予習する。(45分)	今回の学習内容について、学生便覧、テキストなどを復習する。(45分)
3	GPS-Academic概要説明及び活用による社会人基礎力向上の意識付け (IR企画課)	授業前に、学生便覧、テキストなどの学習範囲について予習する。(45分)	今回の授業内容について、学生便覧、テキストを復習する。(45分)
4	オリエンテーション (後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
5	ノートテイキング、学術倫理 (後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
6	学術レポートの書き方、レポートの構成を知る (松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
7	学術レポートの書き方、信頼できる情報を集める (松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
8	学術レポートの書き方、引用し、文献リストを作る (松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
9	学術レポートの書き方、正しい文法と学術表現をする (松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
10	論理的な考え方、問いを立てる (後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
11	論理的な考え方、情報を集め、分類する (後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
12	論理的な考え方、論理を組み立てる (後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
13	論理的な考え方、文章化する (後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
14	学術レポートの作成 (後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
15	学術レポートの提出 (後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証、授業改善アンケートの実施 (後藤・松下)	本科目のまとめの準備をする。(45分)	本科目全体の学習振り返りをする。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『科学の健全な発展のために』	日本学術振興会		2 0 1 5		
2	『大学教育の分野別質保証 参照基準 社会福祉学分野』	日本学術振興会		2 0 1 5		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ [※] 演習 (D) (科目ナンバリング：BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・学生自らが「学生主体の学び（学生本位の教育）」を意識し、実践的に学習する。 ・本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を奨励し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。 自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮する。 研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努める。 自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出す。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する科目							
到達目標							
・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル） ・学びを深めるために必要となる基本的なスキルを学習面で活用できる。（スタディスキル） ・専門的な学習や研究に必要なスキル・能力を学習面で活用できる。（アカデミックスキル）							
授業全体の内容と概要							
これから大学で制作していくにあたってのスキルを学ぶ。 学問上の研究倫理、コンプライアンス、研究インテグリティについて学ぶ。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業内容はPowerPointや配布資料を用いて説明し、授業後にTeamsに保存、振り返り可能。 課題説明後、制作、発表、Teamsに提出する。 プレゼンテーション、グループワーク、個人制作、フィールドワークあり。 質問には随時対応する。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必要な機材は学生各自で準備すること。 授業の始めに説明をするので遅刻はしないこと。 提出期限を守ること。 欠席する場合は事前に連絡すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は1.1回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体的な学びの促進	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を充分発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができなかった。
研究に向かう姿勢の醸成	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努め、研究に活かすことができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努めることができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考えることができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができなかった。
将来の方向性の明確化	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出し、今後の目標を定めることができた。	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出すことができた。	自己の興味や専門性を知り、将来の方向性について考えることができた。	自己の興味や専門性を知ることができた。	自己の興味や専門性を知ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ 演習（D） （科目ナンバリング：BAS001001）					
授業担当者 （所属・職名）	三上 いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：三上 いずみ）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ディプロマ・ポリシー（DP）説明等（学科長） 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・「身に付く力」について・便宜の	シラバスを読んでおく（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生 本位の教育の意識付け等（学務課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
3	GPS-Academic概要説明及び活用による社会人 基礎力向上の意識付け（ＩＲ企画課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
4	グループワーク①「他己紹介」インタビュー作業	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
5	グループワーク②「他己紹介」口頭発表（グループ ごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
6	学問上のコンプライアンス、研究倫理 教員へのアポイントメント、生成AIの活用、図書館 の活用	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
7	作品制作の取り組み方① 組み立て	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
8	作品制作の取り組み方② 口頭発表（ひとり１分間 ）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	課題を次授業開始時までに完成提出する。（４５分）
9	展覧会プロジェクト① 情報収集	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
10	展覧会プロジェクト② 企画・立案・役割分担	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
11	展覧会プロジェクト③ 中間報告（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
12	展覧会プロジェクト④ スライド作成１	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
13	展覧会プロジェクト⑤ スライド作成２	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
14	展覧会プロジェクト⑥ スライドによる発表（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
15	展覧会プロジェクト⑦ まとめと展開	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
16	講評によるフィードバック・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ ^o 演習 (A) (科目ナンバリング：BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科教員		研究室等所在		各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	赤木 (一級建築士)、安藤 (一級建築士)、小笠原 (一級建築士)、君 (一級建築士)、佐々木 (一級建築士)、佐藤 (一級建築士)、向井 (一級建築士)			
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

学生は大学卒業後、「自分で考え、調べ、自分のアイディアや意見を表現する力」を社会から求められる。本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、ステューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得し活用することで、大学生として必要となる多様な能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。また、授業で学んだ知識を理解できており、学びを深めるために必要となるスキル・能力を活用して自らの考えを論理的に表現(レポート、議論など)することができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 11、住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

建築学科教員がオムニバス形式で授業を担当する。授業では、大学生活の概観、学問上の研究倫理・コンプライアンス・研究インテグリティ、授業理解のためのスキル、実験や調査を進めるスキル、考えをまとめるスキル、考えたことを表現するスキル、レポート作成のスキルなどについて身につける。人に伝えるための授業のため、予習・復習時間を利用して教員と時間外に積極的なコミュニケーションを心がけてほしい。

授業の方法

各教員によって異なり、板書・パワーポイント・視聴覚メディア等による多種の授業形態により展開する。回によってはグループワークによるフィールドワークも行い、プレゼンテーションの作成と発表も行う。提出課題や発表に対しては講評を行い、フィードバックする。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等ではオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は口頭説明にも注意を向けノートを取る。授業で発表した内容、授業で活動した内容も含めて評価の対象となる。

提出物は必ず期限までに提出すること。また、インターネットや文献からのコピーや書き写したものは採点の対象としない(0点とする)。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築に関わる知識の修得	授業で学んだ知識や内容について、ノートに分かりやすくまとめることができたほか、他人に簡潔に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、他人に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、ノートにまとめることができた。	授業で学んだ知識について理解できた。	授業で学んだ知識について理解できなかった。
プレゼンテーション能力の育成	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて自分の考えを論理的かつ簡潔に表現することができ、画面のスライドを用いて分かりやすく説明できた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使って自分の考えを論理的に表現することができた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使いこなすことができた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できなかった。
主体性を持ったグループワーク活動	グループワークにおいて、行動計画の立案や実際の学習活動を積極的に行い、グループ全体の行動に主体的に関わることができた。	自分の分担する役割を十分に果たすだけでなく、他のメンバーとサポートし合うことができた。	グループのメンバー同士と円滑にコミュニケーションをとることができた。	自分の分担する役割を果たすことができた。	自分の分担する役割を果たすことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	スタートアップ 演習 (A) (科目ナンバリング：BAS001001)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科教員		研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	赤木 (一級建築士)、安藤 (一級建築士)、小笠原 (一級建築士)、君 (一級建築士)、佐々木 (一級建築士)、佐藤 (一級建築士)、向井 (一級建築士)			
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『BRUTUS特別編集 合本 建築を楽しむ教科書』	マガジンハウス【編】	マガジンハウス	2022	9784838755707	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、大学（芸術学部・建築学科）で学ぶ意義、本学ディプロマ・ポリシー（DP）説明等、研究倫理・コード	シラバスと左記の学習内容を読み、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
2	大学で学ぶ上の履修関連のティップス及び学生本位の教育の意識付け等（学務課）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
3	GPS-Academic 概要説明及び活用による社会人基礎力向上の意識付け（IR企画課）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
4	建築の基礎知識と技能 建築用語の理解（佐々木 哲之）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
5	建築の学びについて1 建築学生の大学生活の送り方（君 興治）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
6	建築の学びについて2 建築の仕事について（君 興治）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
7	実験・実習の進め方 実験の意義と方法・手順、レポートや論文の書き方（長森 正）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
8	ひとかじり建築史 〜北海道の近代建築〜（赤木 良子）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
9	情報リテラシー、大学図書館の役割と活用、オンラインデータベースの使用手法、生成AIの活用、資料検索、情報モラル等（図書館情報館）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
10	建築士資格取得に向けて（小笠原 健）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
11	都市を豊かにする建築空間（向井 正伸）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
12	建築を学ぶ先にある進路について（安藤 淳一）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
13	まちウォッチング1 まちの景観デザインについて（佐藤 善太郎・伊藤 裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
14	まちウォッチング2 北広島駅周辺のフィールドワーク（佐藤 善太郎・伊藤 裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
15	グループワーク1 撮影した景観写真を用いたグループ発表準備（佐藤 善太郎・伊藤 裕康）	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）
16	グループワーク2 景観調査結果のグループ発表（佐藤 善太郎・伊藤 裕康） 発表内容に係る講評によるフィードバック	指定した事項について調べ、修得目標を立てる（45分）	授業内容の振り返りと自身の最終修得目標達成度を測定する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：S0E011009）						
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室			
単位数	1（単位認定責任者：		経営学科・キャリア支援委員）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。							
授業全体の内容と概要							
まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。							
授業の方法							
就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後は検定の受験を紹介し、希望者を募る。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上とキャリアタスUCに登録すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践に於いては到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせて各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：S0E011009）					
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1（単位認定責任者：経営学科・キャリア支援委員）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリアパスUCの登録（全学科合同） ・この科目の内容と目的の理解・評価方法	シラバス全体を一読しておくこと（45分）	授業内容の整理（45分）
2	公務員の仕事について（全学科合同） 北海道警察 北広島市消防本部	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
3	働くことについて考える 札幌弁護士会 弁護士 渡部氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
4	ビジネス能力検定基礎①（全学科合同） 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバスとテキストの確認（45分）	授業内容の整理（45分）
5	ビジネス能力検定基礎②（全学科合同） 株式会社キャリアス 森山氏	当該範囲のシラバスとテキストの確認（45分）	授業内容の整理（45分）
6	GPS-Academic フィードバックガイダンス ベネッセ・キャリア	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
7	トークセッション 株式会社キャリアス 青木氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
8	企業による講和①	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
9	企業による講和②	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
10	企業による講和③	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
11	企業による講和④	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
12	インターンシップ 入門編（全学科合同） 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
13	インターンシップ 報告会（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局 アナウンス部 兼 情報局 スポーツ部 五十嵐氏（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
15	株式会社自然農園 制作部 マネージャー 渡谷氏（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
16	小テスト→まとめ（全学科合同） ビジネス能力検定ジョブパス3級の紹介 授業改善アンケートの実施	全授業内容整理と小テストの準備（45分）	全授業内容のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009）					
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員			研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室	
単位数	1（単位認定責任者：社会福祉学科・キャリア支援委員）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。							
授業全体の内容と概要							
まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。							
授業の方法							
就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。 不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上 キャリアタスクの登録					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践に於いては到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009）					
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1（単位認定責任者：		社会福祉学科・キャリア支援委員		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリアタスクの登録（全学科合同） この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	札幌弁護士会所属 たかさき・渡部法律事務所 弁護士 渡部 敏広 先生 テーマ：「働くことについて考える授業」（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	ビジネス能力検定基礎①（全学科合同） テーマ：「電話、メール等のマナーについて」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	ビジネス能力検定基礎②（全学科合同） テーマ：「ビジネスマナーについて」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	GPS-Academicフィードバックガイダンス（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	トークセッション 株式会社キャリアタスク 青木様 テーマ：「将来についてなんでも質問トークセッション」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	インターンシップ 入門編（全学科合同） テーマ：「インターンシップの実践」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	インターンシップ 報告会（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局 アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十嵐 裕介 様	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部 マネージャー 渡谷 智恵丸 様	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	まとめ（全学科合同） 授業改善アンケートの実施 授業のフィードバック	全授業内容整理（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：SOE011009）					
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）			研究室等所在	キャリア支援委員研究室	
単位数	1（単位認定責任者：キャリア支援委員（デザイン学科））		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。							
授業全体の内容と概要							
まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。							
授業の方法							
就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。 不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回以上。 キャリアパス0Cへの登録が完了していること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践に於いては到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：S0E011009）						
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）			研究室等所在	キャリア支援委員研究室		
単位数	1（単位認定責任者：		キャリア支援委員（デザイン学科）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	「学科別業界研究」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	「働くことについて考える授業」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	「電話・メール等のマナーについて」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	「ビジネスマナーについて」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	「GPS-Academicの見方について」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	「将来についてなんでも質問トークセッション」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	「学科別業界研究」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	「学科別業界研究」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	「学科別業界研究」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	「学科別業界研究」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	「インターンシップの実際」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	「マイナビ2026登壇」 「インターンシップ報告会」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局 アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十嵐 裕介氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部 マネージャー 浜谷 智恵丸氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を終了して「身に付く力」についての検証	当該範囲のシラバス確認（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ(A) (科目ナンバリング：S0E011009)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識とその必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては積極的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践に於いては到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みむことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：S0E011009）					
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：伊藤 裕康）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明ガイダンス・キャリアパス登録（全学科合同）	シラバス全体を一読しておくこと（45分）	授業内容の整理（45分）
2	学科別業界研究	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
3	働くことについて考える授業	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
4	電話・メール等のマナーについて	当該範囲のシラバスとテキストの確認（45分）	授業内容の整理（45分）
5	ビジネスマナーについて	当該範囲のシラバスとテキストの確認（45分）	授業内容の整理（45分）
6	GPS・Academicの見方について	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
7	将来についてなんでも質問トークセッション	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
8	学科別業界研究1	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
9	学科別業界研究2	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
10	学科別業界研究3	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
11	学科別業界研究4	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
12	インターンシップの実際	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
13	インターンシップ報告会	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
14	「やりたいことから頑張れる」～今こそ「好き」を見つける行動を	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
15	日常で使えるプレゼン力「プレ伝！」	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
16	総評によるフィードバック授業改善アンケートの実施科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（45分）	学習の振り返り（事後）（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラム (科目ナンバリング: APT091055)				
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一(建築・教授)、信濃 吉彦(経営・教授) 、石山 玄幸(経営・准教授)、畠山 明子		研究室等所在	2号館6階(信濃) 他 各教員の 研究室を確認すること	
単位数	2	(単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。				

概要

履修目標

履修学生は、我が街に在るボールパーク（エスコンフィールド北海道およびピレリッジ）に関する学び・調査・分析・講演を通して知識を獲得する。さらに、北広島市の発展に寄与することも視野に入れている。各回の担当教員の専門域を通じてボールパークを総合的に分析し、街の発展に寄与できる知識やアイデア提案をするための素地を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP4、DP 5に対応する。

到達目標

ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

授業全体の内容と概要

本講座は座学と見学、講演の3本柱で構成される。座学は6名の教員が担当する。見学と講演会を正当な理由なく欠席した場合は単位認定しない。最低出席回数は13回とし、その他に課題やレポートを義務づける。

授業の方法

授業回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。未知の言葉や理論に出会った時には必ず書いてから教員に確認のうえノートにまとめること。手ぶらでの出席は欠席とする。単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。現場100回という言葉を胸にボールパークのセミプロを目指してあらゆる情報を貪欲に収集してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

発表回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と驚愕は厳に禁ずる。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。未知の言葉や理論に出会った時には必ず調べから教員に確認のフーストにしながら進めること。講壇での出席は希望とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談によって、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポート行ふ。従って、該当すると思われる学生は必ず経営学科信濃教授まで事前相談に伺うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	15%	0%	0%	70%	15%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	ボールパークおよび周辺の状況を詳しく理解し、事例に対応した理想的な提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を十分に理解し、事例に対応した新たな提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解し、学習事例を理解できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解していた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解できていなかった。
思考力・判断力・表現力	ボールパーク特にFビレッジの現状を完全に理解し、現状改善に向けた持論を展開できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を十分に理解し、現状改善の在り方を提示できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解し、現状改善の考え方を理解できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解していた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解できていなかった。
主体性	学生の視点から本講座の目的を完全に理解し、クラスメートに対しても様々な意見を提案できた。	学生の視点から本講座の目的を十分に理解し、意見を展開を試みることができた。	学生の視点から本講座の目的を理解し、意見を提示できた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行っていた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行う事ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ボールパークプログラム (科目ナンバリング：APT091055)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一(建築・教授)、信濃 吉彦(経営・教授) 、石山 玄幸(経営・准教授)、畠山 明子		研究室等所在	2号館6階(信濃) 他 各教員の 研究室を確認すること		
単位数	2 (単位認定責任者：		信濃 吉彦)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 担当：信濃・鈴木 シラバスの説明、 授業計画 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み込み、ノートを準備し初回の学習内 容に関する情報の収集を開始する。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
2	BPと夢・幸福・平和 日本のボールパークの状況 (目標設定) 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
3	BPマーケティング(顧客創造、デザイン) 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
4	BPとイノベーション(オペレーション、デザイン)	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
5	BPとホスピタリティ 担当：畠山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
6	BPとヘルスケア 担当：湯浅	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
7	BPと環境(SDGs) 担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
8	講演 ファイターズのスポーツビジネス 演者 株式会社ファイターズ スポーツ&エンター テイメント担当部署	講演予定の内容に沿った情報収集に努め、質問事項 や確認事項をノートにまとめる。(90分)	講演の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
9	BP建設までの経緯と現状 北海道日本ハムファイタ ーズの場合 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
10	BP提案 北海道日本ハムファイターズへの提案(学 生のアイデア) 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
11	BP概要#1 北海道日本ハムファイターズBP 敷地計 画、建築概要 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
12	BP概要#2 北海道日本ハムファイターズBP 建築概 要、周辺エリア、避難施設計画 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
13	BPファイナンス(財務・マネー) BPと北広島市の まちづくり#1 担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
14	BPと地域のwin win(地域マネジメント) BPと北広 島市のまちづくり#2 担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
15	BPと未来の街(行政マネジメント) 担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。 (90分)
16	総括&これからの北広島 担当：安藤・信濃 授業改善アンケート結果反映の検証とフィードバ ック	本講座を振り返って、確認事項や満足度をノートに まとめ、質問事項や確認事項をまとめておく。 (90分)	自分なりに本講座の感想をまとめてノートに記録す ること。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122038)				
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎と なる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。

②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。

③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。

④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。

⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。

⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。

⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。

②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。

③SDG3「すべての人に健康と福祉を」関連科目。

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。

②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。

③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。

⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。

②必要な資料等は適宜配布する。

③20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。	
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。	
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122038)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規出版株式 会社	2 0 2 1	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	障害者福祉の思想と原理について シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び 科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
2	障害者福祉の理念について①（ノーマライゼーシ ョン、ソーシャルインクルージョン等）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
3	障害者福祉の理念について②（エンパワメント、自 立生活、機会均等等）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
4	障害者福祉の歴史的展開について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
5	国際機能分類について（ICIDH、ICFの理解）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
6	制度における「精神障害者」の定義について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
7	精神障害の障害特性について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
8	諸外国の動向について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
9	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事につ いて①（相馬事件、ライシャワー事件）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事につ いて②（宇都宮病院事件、大和川病院事件）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事につ いて③（池田小事件、相模原事件）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
12	社会的障壁の理解について①（欠格事項、強制不妊 手術など）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
13	社会的障壁の理解について②（コンフリクトの種類 など）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
14	社会的障壁の理解について③（人権侵害、アルコー ル・薬物問題など）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
15	まとめ「障害者福祉」、「日本における事件」、「 社会的障壁」等について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
16	試験（60分の試験終了後、30分でフィードバック を行い、科目を終了して『身に付く力』について の検証）	試験のための学習（90分）	試験の振り返りを行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技, 実験	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢・学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。
授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。
到達目標
多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。
授業全体の内容と概要
ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。
授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
アクティブラーニングの実施方法
○ プレゼンテーション ○ グループワーク ○ フィールドワーク ○ PBL
模範授業 ○ ロールプレイ ○ 調査学習 反転授業
○ ディスカッション ○ 実験・実習・実技 ○ 双方向授業 その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
授業 16 回のうち出席 13 回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。 毎回の授業における課題の過程と結果が得点として精算される。 最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。 原則として S 評価は授業全出席者に限る。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力をしっかりと獲得した。	まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は概ね十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んでいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが楽しめた。	疑問点を積極的に質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	聞き手に回りがちであったが、授業はこなしていた。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理 解に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 本専門演習の学習上の注意点、授業	シラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	◇ 学習環境の整備 ・ネットワークとPCの設定確認 ・機材の性能評価	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	◇ ハードウェア (1) PCの分解 各パーツの役割の理解	PCパーツの役割の調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	◇ ハードウェア (2) PCの組み立て 各パーツの性能と試ステ、システムの総合性能	PCパーツの役割の調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	◇ オペレーティングシステム (1) インストール (Linux) と環境設定	オペレーティングシステムの役割 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	◇ オペレーティングシステム (2) インストール (Linux) と環境設定	オペレーティングシステムの種類 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	◇ オペレーティングシステム (3) Linuxの性能評価	LINUXの利用分野 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	◇ アプリケーション (1) ・オフィスソフト	オフィスソフトの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	◇ アプリケーション (2) ・画像編集ソフト	の種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	◇ アプリケーション (3) ・音声編集ソフト	音声編集ソフトの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	◇ アプリケーション (4) ・動画編集ソフト	動画編集ソフトの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	◇ アプリケーション (4) ・ユーティリティソフト	ユーティリティソフトの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	◇ ネットワーク ・ネットワークプロトコル (TCP/IP) ・クラウドコンピューティング	プロトコルの7階層 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	◇ ネットワークセキュリティと知的財産権 ・ファイアーウォールとセキュリティソフト ・知的財産権、ネット利用のモラルとマナー	ネット利用のモラルとマナー (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	◇ 生成AI ・生成AIの種類と特徴 ・効果的な利用法	生成AIの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	振り返りとまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの授業振り返り (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらに研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる貢献が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいた議論に取りくめる。

授業全体の内容と概要

経済学の概念とその応用を学ぶ。経済学について学んだことを知識としてた理解するだけでなく、その考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりませて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学的重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえてグループ討議による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学の問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学の問題としてとらえる程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用できなかった。	
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取り組めた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。	
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取り組めた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	シラバス等の確認とまとめ (45分)
2	経済的厚生について	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
3	経済的厚生に関する事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
4	経済的厚生に関する事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
5	経済的厚生に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
6	経済学的費用について	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
7	経済学的費用の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
8	経済学的費用の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
9	経済学的費用に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
10	合理性の問題について	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
11	合理性の問題の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
12	合理性の問題の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
13	合理性の問題に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
14	前期演習のまとめ	これまでの演習について振り返る (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
15	前期学生生活・修学の振り返り	半期の学生生活について振り返る (45分)	半期の学生生活について振り返りをまとめる (45分)
16	補講課題等へのコメント (フィードバック) 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりない ものを補う (45分)	演習ノートの整理 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として具象に学ぶ姿勢と目的が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な真摯力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 岡島 徳昭)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。 「SDG8.働きがいも経済成長も」の関連科目。 「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。							
授業の方法							
専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。 専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。 ※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらになる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不の明点を質問したりする姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることではなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 個別面談・履修登録チェック	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	オリエンテーション・アセスメントテスト 株式会社(1)－設立・株式 キャリアデザイン(1) キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社(2)－設立・株式 キャリアデザイン(2) キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の機関設計(1) キャリアデザイン(3) 大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の機関設計(2) キャリアデザイン(4) 大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の機関設計(3) キャリアデザイン(5) 大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の機関設計(4) 事例研究 キャリアデザイン(6) キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の機関設計(5) 事例研究 キャリアデザイン(7) キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の機関設計(6) 事例研究 キャリアデザイン(8) 自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制－骨格と役割(1) 株主総会 キャリアデザイン(9) 自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制－骨格と役割(2) 株主総会・取締役・取締役会 キャリアデザイン(10) キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制－骨格と役割(3) 取締役・取締役会 キャリアデザイン(11) キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制－骨格と役割(4) 取締役・取締役会 キャリアデザイン(12) 大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制－骨格と役割(5) 事例研究 キャリアデザイン(13) 大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制－骨格と役割(6) 事例研究 キャリアデザイン(14) 大学とキャリア 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	株式会社の経営体制－骨格と役割(7) 事例研究 個別面談・履修指導 科目を修了して「身に付く力」の検証	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標							
当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材になることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎能力を身に付けることを期待する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP全てに対応する。							
到達目標							
当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。							
授業全体の内容と概要							
当ゼミナールは、グループディスカッションの基本を学ぶことから始める。基本を学んだ後は、ゼミナールでの研究テーマの決定、実行、検証、つまりPDCAサイクルを活用しながら、組織で行動しながら、成果を出すという方法を学んでいきます。							
授業の方法							
当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性は欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以て社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も変動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石山 玄幸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 ①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	研究テーマの決定	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	担当教員による講評とフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

スポーツパフォーマンスを感じ覚ではなく客観的事実（データ）から評価できる。その過程を通して、①保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識が説明できる、②様々な人々と協調して一緒に仕事ができる、③マネジメント力を発揮しプロジェクトを実行できる、④社会人基礎力を向上させ学んだ知識を現場に適用し有効に活用することができる。ことを目標とする。

授業全体の内容及概要

①スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。②調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案（Excel、Word、Power Pointなどを使用）について学ぶ。③グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に働きかけることを目的とした様々な活動を行う。調査結果等のプレゼンテーションには質疑応答の機会を設けてフィードバックを行う。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践経験（体験活動）に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以て社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらに研究・理解に振り向け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに向けて前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション；シラバスの説明（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力を身につける）。授業改善アンケート結果反映の説明。	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	スポーツ科学のスポーツ現場への応用	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	研究法の基礎（実験系）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	研究法の基礎（調査系）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	研究法の基礎（文献系）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	実験・調査・分析法の基礎①柔軟性	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	実験・調査・分析法の基礎②筋力	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	実験・調査・分析法の基礎③瞬発力、アジリティ、クイックネス、反応速度	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	実験・調査・分析法の基礎④持久力（30-151FT、VOY01RT、他）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	研究計画の立案①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	研究計画の立案②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	実地調査①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	実地調査②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	調査データの分析	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	調査結果のまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	調査結果発表（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力が身についたか検証）、調査結果に対する諸評をし、フィードバックを行う。授業改	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
- ・トレーニング内容の改善および実践。

陸上競技の知識と技能を身につけさせる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被験者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行い知識と技能を身につけさせる。

- ・トレーニング
- ・各部活における新たな指導法
- ・レース分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組みトレーニングの実践。
トレーニング経過を発表し、意見交換を行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

状態に応じてトレーニング内容を変更するなど、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。トレーニング結果をもとに試合など評価する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。
陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解して、陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	理解して陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	おおむね理解して陸上競技の知識と技能を身につける事ができた。	理解できていない力所があり、陸上競技の知識と技能を身につける事が十分ではない。	陸上競技の知識と技能を身につける事が全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	ガイダンス (45分)	学習内容の復習 (45分)
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	トレーニング実践①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	トレーニング実践②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	トレーニング実践③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	トレーニング実践④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	トレーニング実践⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	トレーニング実践⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして 検証	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。 ・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。							
授業全体の内容と概要							
主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など							
授業の方法							
・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。 ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	学習内容の復習 (45分)
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	ブレ測定①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	ブレ測定②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	ブレ測定③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	ブレ測定④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	ブレ測定⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	ブレ測定⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：小林 大州介）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に對する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：小林 大州介)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	前期授業の総括について、前期の講評を行う。 授業に係る解説によるフィードバック 科目を終了して「身に付く力」の検証	前期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。

各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。

調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。

担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 11 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 「担当教員によるガイダンス」	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業1 「課題演習の進め方について」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	担当教員による授業2 「演習等の役割分担、ディスカッション」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	担当教員による授業3 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	担当教員による授業4 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	担当教員による授業5 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	担当教員による授業6 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	担当教員による授業7 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
9	担当教員による授業8 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	担当教員による授業9 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	担当教員による授業10 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	担当教員による授業11 「教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	担当教員による授業12 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	担当教員による授業13 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	担当教員による授業14 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
16	総括 専門ゼミⅠAのまとめ・発表 演習の講評・フィードバック	予習課題 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『生徒指導提要 改訂版』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4491051758	
2	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（45分）	スケジュールと準備学習の整理（45分）
2	アカデミック・シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
3	アカデミック・シンキング基礎2（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
4	アカデミック・シンキング基礎3（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
5	アカデミック・シンキング基礎4（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
10	文献講読1（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト、資料の整理（45分）
11	文献講読2（分担報告）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト文献精読（45分）
12	文献講読3（分担報告）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト文献精読（45分）
13	文献講読4（分担報告）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト文献精読（45分）
14	文献講読5（分担報告）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト文献精読（45分）
15	文献講読6（分担報告）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト文献精読（45分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	テキスト資料の読解（45分）	次学期への課題設定（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	鹿応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直しガイド」』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標																								
こども・高齢・障害分野に興味関心を持ち、文献を調べる方法を理解する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 具体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学部のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。																								
到達目標																								
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。																								
授業全体の内容と概要																								
「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業の方法																								
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>P B L</td></tr><tr><td>○</td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td>○</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L	○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L																	
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 ・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回以上とするが全回出席が望ましい。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実現したい内容の意見	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をともに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標							
ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。 ②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。 ③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。 ④コミュニケーション能力などの向上を図る。							
授業全体の内容と概要							
①授業のSLL話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。 ②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。 ③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。 ④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。 講義は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 10 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。	
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。	
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス、科目を終了して『身に 付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	グループワーク①準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	グループワーク①実施	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	グループワーク②準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	グループワーク②実施	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	グループワーク③準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	グループワーク③実施	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	グループワーク④準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	グループワーク④実施	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	グループワーク⑤準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	グループワーク⑤実施	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	グループホーム振り返り	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	グループワーク振り返り	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	まとめ	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	まとめ	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括 科目を終了して『身に付く力』についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ⅠA」に所属した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできなかった。	
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポートを執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。	
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	テキスト購読・ディスカッション①	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	テキスト購読・ディスカッション②	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	テキスト購読・ディスカッション③	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	テキスト購読・ディスカッション④	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	テキスト購読・ディスカッション⑤	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	テキスト購読・ディスカッション⑥	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	テキスト購読・ディスカッション⑦	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
9	テキスト購読・ディスカッション⑧	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	テキスト購読・ディスカッション⑨	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	調査活動準備①	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	調査活動準備②	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	調査活動準備③	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	調査活動準備④	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	調査活動準備⑤	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
16	総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室（2号館・8階）		
単位数	1（単位認定責任者：堀川 厚志）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育を中心とする関連分野について、教育学、社会福祉学をはじめとする教育学、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日の課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ⅠA」を担当した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日の課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室（2号館・8階）		
単位数	1（単位認定責任者：堀川 厚志）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を 行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 (活動の目的、方法、年間の活動計画等)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	障害のある子に対する教育及び各自の関心事、課題等の提起と確認、共有4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有3	予習課題 (45分)	振り返りの確認 (45分)
9	各自関心事を取り巻く今日的課題等の確認、共有4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	プレゼン資料による各自関心事を取り巻く今日的課題等の発表、全体共有1	前半の振り返り (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	プレゼン資料による各自関心事を取り巻く今日的課題等の発表、全体共有2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明 文献研究等の研究デザイン（時期、内容、方法）の立案についての説明等	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案2 文献研究の実施1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	各自の追究するテーマ等に関する研究デザインの立案3 文献研究の実施2	予習課題 (45分)	全体の振り返りと次年度方針の確認 (45分)
16	前期の実施内容の振り返り 後期の推進予定の確認	全体の振り返り (45分)	全体の振り返りと次年度方針の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086,)				
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をともに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

・専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

・自分の研究テーマを効果的にプレゼンテーションする力を養うとともに、学友の発表を傾聴し、適切な質問を行うスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP1，DP2，DP3，DP4，DP5に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。
「専門演習ⅠA」に所属した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿ってレポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路軌画でできる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自分、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身につける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1 課題演習の進め方について	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	担当教員による授業2 演習などの役割分担・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	担当教員による授業3	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	担当教員による授業4	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	担当教員による授業5	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	担当教員による授業6	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	担当教員による授業7	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	担当教員による授業8	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	担当教員による授業9	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	担当教員による授業10	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	担当教員による授業11	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	担当教員による授業12	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	担当教員による授業13	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	担当教員による授業14	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括 専門ゼミⅠAのまとめ・発表 科目を修了して「身につける力」の検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし、研究室で対応。					

概要

履修目標							
臨床心理学の中で興味関心のあることについて文献を調べる方法を理解する。 ゼミ生同士意見を出し合い、コミュニケーションを図る。 主体的に卒業論文のテーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、自らの考えを明確にする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP 1，DP 2，DP 3，DP 4，DP 5に対応する科目。							
到達目標							
・自分の方向性をみつけ、自ら解決できる力をつける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・卒業論文の研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。							
授業全体の内容と概要							
体験格を差」をテーマとして、それに関連するテキストを講読する。 各章の担当を決め、レジュメを作成し発表を行う。テキスト講読後は、卒業論文のテーマを考える。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。 したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。 「専門演習ⅠA」に所属した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 テキストを必ず購入すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数 1 1 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	1 0 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこからさらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆でき、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆できる。	具体的なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得されることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得されることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得されることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし、研究室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体験格差』	今井悠介	講談社現代新書	2024	9784065353639	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	テキスト講読と発表①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	テキスト講読と発表②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	テキスト講読と発表③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	テキスト講読と発表④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	テキスト講読と発表⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	テキスト講読と発表⑥	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	テキスト講読と発表⑦	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	テキスト講読と発表⑧	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	テキスト講読のまとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒業論文のテーマを探す①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒業論文のテーマを探す②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒業論文のテーマに関する文献検索①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒業論文のテーマに関する文献検索②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒業論文のテーマに関する文献検索③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)			研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者：吉澤 英里)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標
心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を文献研究、調査、実験、ディスカッションなどを通して獲得する。

授業の位置づけ
社会福祉学部 のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目

到達目標
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかむ。 ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
心理学の文献を講読し、ディスカッションをする。 質問は随時対応し、レポートへはコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 基本は対面授業となるが、不測の事態の際にはオンラインでの授業や補講等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○ PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○ 反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○ その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項
オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ⅠA」に所属した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。 修学サポートについて) 事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題について、情報獲得ツールを駆使して達成できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート路執筆できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容がいずれもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠA (科目ナンバリング：SEM133145, SEM433086,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して「身に付く力」の説明 担当教員によるガイダンス ゼミの運営方針（役割分担）の決定	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	担当教員による授業2（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	担当教員による授業3（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	担当教員による授業4（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	担当教員による授業5（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	担当教員による授業6（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	担当教員による授業7（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	担当教員による授業8（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	担当教員による授業9（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	担当教員による授業10（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	担当教員による授業11（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	担当教員による授業12（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	担当教員による授業13（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	担当教員による授業14（グループワーク）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	これまでの総括 科目を修了して「身に付く力」の 検証 各学生の研究進捗状況に対する個別のフィードバック	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習,実習		必修・選択	必修
科目名称	基礎デザインⅠ (科目ナンバリング: DES211016)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。 頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。 また、自己レベル認識を持てるようにする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事ができる。							
授業全体の内容と概要							
学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。 SDG 12., つくる責任、つかう責任に準じる。							
授業の方法							
身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところをプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。 三菱鉛筆のハイユニの4H～4Bを使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。 A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と消しゴム、カルトンを用意してください。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は10回以上 課題提出は全点必ず。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	20%	0 %

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え（パース）、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	モノの形を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない、それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	材質感を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない、それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に描り上げ、手を通して紙に表現する事を学ぶ。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	想像物を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない、それを絵として表現出来ない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習,実習		必修・選択	必修
科目名称	基礎デザインⅠ (科目ナンバリング: DES211016)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、デザインとは？ 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	基本形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	想像形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	想像形2 鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	基本形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	基本形3 鉛筆デザインスケッチ、想像形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	想像形3 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	基本形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	基本形4 鉛筆デザインスケッチ、想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	想像形4 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	デザイン概念 総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在		2号館5階	
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるであろう各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、実践を想定したシミュレーションが可能な能力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。 「SDG9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。							
授業の方法							
始めに情報メディアデザインを正しく認識させるための事前学習と共に年間計画を作成する。 次に単体のメディア、後半ではメディアミックスによる企画をプレゼンテーションするためのツールを段階的に構想し、制作し、発表する。 各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された課題の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に関する内容になっていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションとして成功している。	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションである。	提出された課題は効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションではあるが成功してはいない。	提出された課題に視覚効果に対する意識が希薄であり、プレゼンテーションとして不完全である。	提出された課題に視覚効果に対する意識が殆ど見られず、プレゼンテーションとして成立していない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題とプレゼンテーションの融合が不完全である。	完成提出された課題とプレゼンテーションの内容が分離している。	完成提出された課題によるプレゼンテーションができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
2	ガイダンス 研究室の方針について	シラバスの確認。（４５分）	研究テーマの試案。（４５分）
3	年間計画（前期）の作成	研究テーマの試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
4	年間計画（前期）の提出と添削	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の試案。（４５分）
5	年間計画（前期）修正版の完成提出	年間計画の試案。（４５分）	年間計画の完成。（４５分）
6	研究テーマの発表①	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
7	研究テーマの発表②	発表準備。（４５分）	研究テーマの考察。（４５分）
8	具体的な研究内容の提出①	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
9	具体的な研究内容の提出②	提出準備。（４５分）	進行確認。（４５分）
10	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
11	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
12	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
13	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
14	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
15	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
16	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究内容の中間発表①	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
18	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
19	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
20	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
21	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
22	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
23	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
24	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
25	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
26	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
27	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
28	進行と工程の確認	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
29	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
30	研究内容の中間発表②	発表準備（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
31	前期研究内容のフィードバック 後期の研究についての確認	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）
32	授業改善アンケート記入 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前期研究内容のまとめ（４５分）	後期研究のための準備（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者：安田祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査員歴任等			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
1,2年次に身につけた基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを作品に展開すること。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを表現力のある作品として示すこと。							
授業全体の内容と概要							
基礎的な点についての復習を行いながら、各々の履修者の感性や思いを表現するに最も相応しい技法や材料について模索し作品にまとめ上げること。また、それらの作品を外部に発表し、第三者による評価を受け、各々のそれからの制作の糧とすること。							
授業の方法							
各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドバイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。 http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を創り上げること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	社会状況を把握し自らの願いや理想について充分に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてほぼ表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてある程度に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想について、不十分ながら表現できている。	社会状況を把握して居る自らの願いや理想について表現できていない。
技法や材料について	自らの表現意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をほぼ的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確というには難があるものの自らの判断で選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確に選択した制作をしていない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等を十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をほぼ十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をある程度に十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を、不十分ながら捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：安田祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査員歴任等			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション-授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をおす。(45分)	1,2年次までに修得した技法や材料等について復習する。(45分)
2	作品の構想の練り方について	構想の練り方について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し構想の方法を検討する。(45分)
3	構想の取りまとめについて一大きさや形を主に	表現の意図に照らし相応しい支持体の大きさとかたちについても検討する。	本時の授業での講義も参照し支持体の大きさとかたちについて確定する(45分)
4	構想の取りまとめについて一構図を主に	構図について、他者の方法を参照し、予め学習する	本時の授業での講義も参照し、構図についても検討する。
5	構想の取りまとめについて一色彩調和を主に	表現の意図に照らし、色の感情について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、表現の意図に相応しい配色を検討する。(45分)
6	構想の取りまとめについて一質感を主に	質感の表現法について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	様々の情報をもとに、自らの作品の構想を取りまとめる。(45分)
7	転写の仕方について	構想を下絵として取りまとめ、転写の方法について、他者の方法を参照しながら、最も相応しいものを検討する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、転写の方法についても検討する。(45分)
8	転写作業について	転写に必要な用材をあらかじめ準備する。(45分)	本時の授業での作業に不備がないかを点検する。(45分)
9	転写作業の仕上げについて	前時の授業での作業に不備がないかを点検し、あればその箇所を明確化する。(45分)	本時の授業で終えた転写作業に不備がないかを点検する。(45分)
10	下描きの仕方について	表現の意図に照らし、最も相応しい用材を予め用意する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作に最も相応しい下描きの方法を検討する。(45分)
11	下描き一大まかな面の把握を主に	大づかみの描写、面の把握について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	細部にこだわり過ぎていないか、作品の骨格が捉えられているかを点検する。(45分)
12	下描き一立体感や空間感の表現を主に	立体感や空間感の表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	立体感や空間感の表現について、不備がないかを点検する。(45分)
13	下描き一本描きに及ぼす効果を主に	絵画は、いくつもの絵具の層によって形成され、下層が上層に影響を及ぼす点について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	下描きに用いた絵具が、本描きの絵具の層に及ぼす影響を勘案し、自作について点検する。(45分)
14	下描き一本描きに及ぼす効果－とりわけ色彩を主に	それぞれの絵具の被覆力や透明性について、予め学習する。(45分)	下描きについて検討する。(45分)
15	下描き一本描きに及ぼす効果－とりわけ質感を主に	絵具の粘度や厚みや筆触等による質感表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作での質感表現について計画を立てる。(45分)
16	下描き－仕上げ	下描きの本描きに及ぼす影響を総合的に考え下描きの仕上げに備える。(45分)	下描きを上描きにどのように活かすかについて計画を立てる。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間発表会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	教師や他の学生からのアドバイスを参照し、これまでの制作にどのようなようにそれらを反映させるかについて計画を立てる。(45分)
18	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に1	絵具の被覆力や透明性を勘案し自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
19	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に2	細部にこだわることなく、大きな骨格を捉えることについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
20	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に3	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	それぞれの面の明度とそれら相互の差－コントラスト－について点検する。(45分)
21	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に4	色値－ヴァルルー－について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	画面に飛び出て見える箇所がないか、穴が開いて見える箇所がないかについて点検する。(45分)
22	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に5	それぞれモチーフの前後関係や隔たり感が的確に表現されつつあるかを点検する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
23	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に6	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
24	中間発表会2	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
25	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に1	他の技法も取り入れた混合技法について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	技法だけでなく、絵具の濃度や展色剤に手を入れる方法についても学習する。(45分)
26	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に2	べた塗り、点描、ハッチング等の筆触－タッチ－についても他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	質感を表現する上で、筆触や絵具の厚み等の及ぼす効果について検討する。(45分)
27	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に3	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
28	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に4	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に5	作品に込めたものを表現できつつあるかを点検する(45分)	表現の意図をゆがめたり阻害したりする箇所の有無を点検する。(45分)
30	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に6	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点はないかを点検する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
31	合評会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
32	合評会2、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる	絵画作品を制作することの意義について感がる。(45分)	他の学生たちのそれぞれの作品の良さについて、また、自らの作品とこれまでの制作について文章化する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)				
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 林 春生)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 国産企業にて経験した業績を持って、プロダクトデザインの技術を教え、モノづくり関係に		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋修項目を超えたレベルを達成している	屋修項目をほぼ達成している	屋修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを十分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生			
開講時期	前期集中	授業形態	実習		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 国際企業にて経験した実績を持って、プロダクトデザインの技術を教える、モノづくり関係に			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明。	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。 (45分)	市場調査を行う。(45分)
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
3	市場で何が起きているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。(45分)	仮説をまとめる。(45分)
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。(45分)	第三者からの意見を考察する。(45分)
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。(45分)	アイデアを考察。(45分)
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
12	デザインプレゼンテーション1	アイデアを考察。(45分)	第三者からの意見を取り入れる。(45分)
13	デザインスケッチ	第三者からの意見を取り入れる。(45分)	アイデアを考察。(45分)
14	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
15	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
16	デザインプレゼンテーション2	アイデアを考察。(45分)	第三者の意見を考察。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザインスケッチ	第三者の意見を考察。(45分)	第三者の意見を考察。(45分)
18	デザインスケッチ	第三者の意見を考察。(45分)	アイデアを構築。(45分)
19	デザインスケッチ	アイデアを構築。(45分)	アイデアを構築。(45分)
20	レンダリングスタート	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
21	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)分
22	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)分
23	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
24	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
25	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
26	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
27	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
28	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。(45分)	プレゼンボードの構成を考える。(45分)
29	プレゼンテーション	まとめ(45分)	まとめ(45分)
30	プレゼンテーション	まとめ(45分)	まとめ(45分)
31	プレゼンテーション、バックアップ	まとめ(45分)	第三者の意見を聞く、まとめる(45分)
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。 。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	まとめ(45分)	振り返りまとめ(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標 制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。							
授業の位置づけ デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標 自律して制作を行う事が出来る。							
授業全体の内容と概要 彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究1Aでは、特に自らスケジュールを管理して、制作を行う事が目標である。							
授業の方法 学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 研究ノートを提出する事。 作品を1点以上完成させる事。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を2つ、または1つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週2回（8時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週1回（4時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務、 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、 作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
2	活動計画	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
3	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
4	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
5	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
6	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
7	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
8	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
9	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
10	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
11	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
12	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
13	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
14	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
15	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
16	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
18	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
19	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
20	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
21	チュートリアル3	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
22	チュートリアル3	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
23	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
24	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
25	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
26	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
27	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
28	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
29	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
30	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
32	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。 適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。 自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。 自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。 卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。							
授業全体の内容と概要							
基礎的なデザインやコンセプトの構築を学ぶ。まず自己の興味・関心を深く掘り下げ、テーマを設定するスキルを養成する。 初歩的なリサーチ手法を学び、作品のアイデアの具体化を目指す。 テーマの選定、リサーチ方法の導入、簡単な作品制作。							
授業の方法							
授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。 アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。 個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。 学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業を有意義にするための自覚を求める。 自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。 責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は8割以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得解できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：		三上 いずみ)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスについて	シラバスを呼んでおくこと（45分）	配布資料の確認（45分）
2	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
3	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
4	自己分析に基づくテーマ選定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
5	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
6	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
7	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
8	リサーチ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
9	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
10	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
11	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
12	リサーチ結果に基づくアイデアスケッチの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
13	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
14	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
15	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
16	初期作品制作の開始、フィードバックを受けた改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
18	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
19	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
20	中間レビューの準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
21	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
22	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
23	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
24	フィードバックを元にした作品の改良	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
25	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
26	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
27	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
28	作品の最終段階への仕上げと完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
29	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
30	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	完成後の考察（45分）
31	最終プレゼンテーション準備と発表、振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学術研究に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を、文献講読、調査、ディスカッション等実践的な演習によって学ぶ。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
自分の研究テーマに関する専門用語などの知識や、研究を進めるための基礎的な学力（作品分析能力、資料調査能力など）を身につける。 自分の興味関心から研究テーマを深め、研究計画を作成する力を身につける。 個人発表やディスカッションなどを通して、自分の考えを適切に他者に伝える表現力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
それぞれゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業							
授業の方法							
授業では文献講読やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
その他のデザイン学科のゼミとは異なり、卒業論文執筆を目指す学生のためのゼミである。オリエンテーション時の説明を聞いたうえで、事前の面談により所属を決定する。 研究内容に合わせて、講読する文献を選び分析・調査方法の検討を行う。 自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。 個人発表では、自らの研究テーマについて短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２２回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究計画の作成	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点からテーマを考察し、研究計画を作成できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分なりの研究計画を作成できた。	研究計画を作成することができた。	研究計画を作成することができなかった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（論文執筆能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを越えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点を提示し、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を記述し他者と意見交換をすることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	研究計画 (1) : テーマを考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
3	研究計画 (2) : 題材を考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
4	研究計画 (3) : 研究方法を考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
5	研究計画 (4) : 研究のスケジュールを検討する	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
6	文献調査の方法 (1) : 資料収集の方法	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
7	文献調査の方法 (2) : 図書館の使い方	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
8	文献調査の方法 (3) : 調査の種類・方法	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
9	文献調査の方法 (4) : 分析結果のまとめ方	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
10	文献講読 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
11	文献講読 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
12	文献講読 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
13	文献講読 (4)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
14	文献講読 (5)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
15	文献講読 (6)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
16	文献講読 (7)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田晩生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』	山田奨治	ミネルヴァ書房	2017	9784623079421	
3	『マンガ・スタディーズ』	吉村和真、ジャクリーヌ・ベル ント編	人文書院	2020	9784409001134	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	文献講読 (8)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
18	文献講読 (9)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
19	文献講読 (10)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
20	文献講読 (11)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
21	ディスカッション／個別指導 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
22	ディスカッション／個別指導 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
23	ディスカッション／個別指導 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
24	資料のまとめ方 (1) レジュメの作成	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
25	資料のまとめ方 (2) 発表原稿の作成	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
26	発表資料の作り方 (1) パワーポイントの作成	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
27	発表資料の作り方 (2) レポートの作成	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
28	中間発表 (1)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
29	中間発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
30	中間発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
31	中間発表のフィードバック 研究計画を再考する	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	これまでの授業の復習をおこなう (4 5分)
32	まとめ 専門研究ⅠBに向けて 授業アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	これまでの授業の復習をおこなう (4 5分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて作品制作を通して問題解決能力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得する。							
授業全体の内容と概要							
探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。							
授業の方法							
授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見直しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。美術の基礎基本を強固にできたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力 テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性 研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む（45分）	アートの意味・意義について考える 課題（45分）
2	アートの意味・意義 ディスカッション	アートの意味・意義についてまとめる 課題（45分）	テーマを考える 課題（45分）
3	年間計画作成1（研究のテーマ 研究の手順 調べること 試すこと 手段 方法 など）	テーマを決める 課題（45分）	計画を練る 課題（45分）
4	年間計画作成2（研究のテーマ 研究の手順 調べること 試すこと 手段 方法 など）	計画を練る 課題（45分）	研究テーマ発表準備 課題（45分）
5	研究テーマの発表1 ディスカッション	研究テーマの発表準備 課題（45分）	発表内容の再検討 課題（45分）
6	研究テーマの発表2	発表準備 課題（45分）	課題（45分）
7	研究1調べる	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
8	研究2調べる	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
9	研究3調べる	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
10	研究4調べる	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
11	研究5調べたことをまとめる 試作、実験など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
12	研究6調べたことをまとめる 試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
13	研究7研究試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
14	研究8試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
15	中間報告会 ディスカッション	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
16	中間報告会	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究テーマの見直し1調べたり試した結果に基づきテーマを見直す	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
18	研究テーマの見直し2調べたり試した結果に基づきテーマを見直す	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
19	研究9試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
20	研究10試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
21	研究11試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
22	研究12試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
23	研究13試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
24	研究14試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
25	研究15試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
26	研究16試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
27	研究17試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
28	中間報告書の作成1初稿の添削	授業内容継続 課題（45分）	添削を基に修正 課題（45分）
29	中間報告書の作成2完成稿の提出	添削を基に修正作 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
30	中間報告書のプレゼンテーション1	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
31	中間報告書のプレゼンテーション2	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
32	専門研究ⅠBへ向けての課題 当該科目の第1回目に示した身につく力について検証	授業内容継続 課題（45分）	専門研究ⅠBに向けての準備 課題（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		堤 美穂子	CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
現代社会の視覚情報伝達メディアにおいて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
本授業は、現代社会において必要とされる各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、実践を想定したシミュレーションが可能な能力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。 「SDGs. 1～17」の関連授業。							
授業の方法							
始めに情報メディアデザインを正しく認識させるための事前学習と共に年間計画を作成する。 次に単体のメディア、後半ではメディアミックスによる企画をプレゼンテーションするためのツールを段階的に構想し、制作し、発表する。 各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。 制作に必要なアプリケーションの操作方法については、授業で活用できるよう事前にアプリケーションが提供されるチュートリアル等で習得しておく。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自主的かつ対外的な活動を多く求められるため、学外と積極的にコミュニケーションを行う必要がある。 各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された課題が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された課題の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に関連した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションとして成功している。	提出された課題が効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションである。	提出された課題は効果的な視覚効果を考え、技術や演出を取り入れた内容のプレゼンテーションではあるが成功してはいない。	提出された課題に視覚効果に対する意識が希薄であり、プレゼンテーションとして不完全である。	提出された課題に視覚効果に対する意識が殆ど見られず、プレゼンテーションとして成立していない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	完成提出された課題を基に効果的なプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題を基にプレゼンテーションが行えている。	完成提出された課題とプレゼンテーションの融合が不完全である。	完成提出された課題とプレゼンテーションの内容が分離している。	完成提出された課題によるプレゼンテーションができない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠA (科目ナンバリング：SEM233088)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		堤 美穂子	CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの業務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題 の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認。(45分)	年間計画の試案。(45分)
2	年間計画(前期)の作成	年間計画の試案。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
3	年間計画(前期)の提出と添削	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	添削を基に修正作業。(45分)
4	年間計画(前期)修正版の完成提出	添削を基に修正作業。(45分)	リフレクションの記載。研究テーマの発表準備。(45分)
5	研究テーマの発表①	フィードバックの確認。研究テーマの発表準備。(45分)	発表内容の再検討。(45分)
6	研究テーマの発表②	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。発表内容の再検討。(45分)
7	研究内容のプレゼンテーションについて～作業工程の立案	フィードバックの確認。発表内容の再検討。(45分)	授業内容の継続。(45分)
8	研究内容のプレゼンテーションについて～作業工程のデータ化	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
9	取材活動① 取材要件の整理	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
10	取材活動② 取材計画	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
11	取材活動③ 情報収集活動	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
12	取材活動③ 情報収集活動	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
13	取材活動④ 収集した情報整理とデータ化	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
14	取材活動④ 収集した情報整理とデータ化	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
15	取材活動⑤ 収集した情報の確認と添削	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	添削を基に修正作業又は授業内容の継続。(45分)
16	取材活動⑤ 収集した情報の確認と添削	添削を基に修正作業又は授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究テーマのコンセプトを文章化①	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
18	研究テーマのコンセプトを文章化②	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
19	企画書作成① コンセプトと収集データのまとめ	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
20	企画書作成② 内容の構成(情報の視覚化～設計)	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
21	企画書作成③ 視覚効果と演出技法	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
22	企画書作成④ メディアの選択	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
23	企画書作成⑤ デザイン制作	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
24	企画書作成⑤ デザイン制作	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
25	企画書作成⑤ デザイン制作	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
26	企画書作成⑤ デザイン制作	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
27	企画書作成⑥ 初稿の完成提出	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
28	企画書の作成⑦ 初稿の添削	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。添削を基に修正作業。(45分)
29	企画書の作成⑧ 完成稿の提出	フィードバックの確認。添削を基に修正作業。(45分)	プレゼンテーションの準備。(45分)
30	企画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備。(45分)	リフレクションの記載。プレゼンテーションの準備又はプレゼンテーション内容の再確認。(45分)
31	企画書のプレゼンテーション②	フィードバックの確認。プレゼンテーションの準備又はプレゼンテーション内容の再確認。(45分)	プレゼンテーション内容の再確認。(45分)
32	専門研究ⅠBへ向けての課題 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション内容の再確認。(45分)	リフレクションの記載。専門研究ⅠBに向けての準備。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築設計演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT312003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）・野村 和也（建築学科・非常勤講師）			研究室等所在	2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：向井 正伸）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
建築設計を学ぶはじめての授業として、空間デザインと設計、そして製図を含むプレゼンテーションの基礎を学ぶ。本講では、併用住宅の設計を通して、コンセプト立案からソーニンング・プランニングを行い計画内容を的確に表現する能力を身につける。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
与条件を踏まえ、自分なりの考えを持って建築が設計ができる。製図規約に従って設計図面の描写によって表現することができる。							
授業全体の内容と概要							
建築設計は思いつきのアイデアをカタチにするだけでは不十分で、明確なビジョンと多角的な視点を持って設計を行うことが大切である。そのため、授業は対話によるエスキスを中心に展開し、エスキスを通じてビジョンを明確化し、多角的視点での設計ができるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
授業は、初めに板書と配布資料等により課題解説をおこない、エスキス・作図を個別でチェックをする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
製図道具は必ず携帯すること。授業では途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action)を積極的に行うこと。授業はエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が必要である。課題制作のために、自宅に製図道具を備えておくことも不可欠である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数は11回以上)					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。	
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。	
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築設計演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT312003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）・野村 和也（建築学科・非常勤講師）			研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス、授業の進め方と課題提出までのスケジュール、科目を修了して「身に付く力」についての説明、授業改善アンケート結果	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	課題内容を復習(90分)
2	第一課題 エスキスチェック1	課題コンセプト立案(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
3	第一課題 エスキスチェック2	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
4	第一課題 エスキスチェック3	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
5	第一課題 発表・講評会	プレゼン資料にまとめ提出(90分)	講評内容を振り返る(90分)
6	第二課題 課題発表	敷地調査を行う(90分)	課題内容を復習(90分)
7	第二課題 エスキスチェック1	コンセプトを立案する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
8	第二課題 エスキスチェック2	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
9	第二課題 エスキスチェック3	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
10	第二課題 エスキスチェック4	改善案を作成する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
11	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
12	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
13	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
14	第二課題 作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(90分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会 授業改善アンケートの実施、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての説明	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	振り返り（予備日）	ポートフォリオ作成準備(90分)	ポートフォリオ作成(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅰ (科目ナンバリング：AHD321039)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：安藤 淳一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのため考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現Ⅰ」において履修学生は、空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。							
授業全体の内容と概要							
毎回、課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。							
授業の方法							
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこととする。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 (工業) 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(ただし最低出席回数10回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し習得した上で実践する。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおおむねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おおむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること、それを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができない。作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	建築表現Ⅰ (科目ナンバリング：AHD321039)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：安藤 淳一)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	点景1（空の表現）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	点景2（樹木の表現 立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（点景）	使用道具の確認と準備（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	色彩1（建具）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩2（建築外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	表札の製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（トレードマークと表札）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
12	フリーハンド表現 課題説明 平面図・立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	フリーハンド表現 平面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	フリーハンド表現 立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（平面図と立面図）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられる。履修学生は、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。さらに「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんだこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。	
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。	
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：		佐藤 善太郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者： 佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括として講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)				
授業担当者 (所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)		研究室等所在	アトリエ棟1階	
単位数	1 (単位認定責任者：長森 正)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「建築研究！」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行い、したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えると共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5 に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にもオンライン授業を実施する場がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションができた。	研究テーマについてディスカッションができた。	研究テーマについてほぼディスカッションができた。	研究テーマについておおむねディスカッションができた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：君 興治）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおかた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。	
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおいた自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。	
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行ってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標

「建築研究Ⅰ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんだこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅰ (科目ナンバリング：SEM333084)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員			研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス／シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケート科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	展開科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング：SOC412014, SOC512008)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

概要

履修目標							
コミュニケーションという人間行動の意味を知り、小集団・組織から社会全体にいたるまで、さまざまな場面での社会的相互作用としてのコミュニケーションについて考察し、理解する力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
コミュニケーションの理論について単に知識を習得するだけでなく、日々の生活場面におけるコミュニケーション行動のもつ意味と、コミュニケーションをめぐる現代的な問題について自ら考える姿勢をもてるようになることができる。							
授業全体の内容と概要							
まず、コミュニケーションの原理、形式、過程、メディアに目を向ける。次に組織コミュニケーション、とりわけネットワークおよびリーダーシップとフォロワーシップに焦点を当て、経営組織をコミュニケーションの視点から考察する。最後に、広く社会的コミュニケーションをとり上げ、特にオーディエンスの権利はどうあるべきかを追究し、合わせて現代社会のコミュニケーション問題を考える。							
授業の方法							
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合の評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答であった。	同部分が80%以上90%未満の正答であった。	同部分が70%以上80%未満の正答であった。	同部分が60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織コミュニケーションを中心に、さまざまなコミュニケーション問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	展開科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング：SOC412014, SOC512008)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	科目ガイダンス……全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法、シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、前年度授業アンケート	シラバス内容の事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習・確認 (90分)
2	I..人間行動としてのコミュニケーション ……コミュニケーションとはどのような営みか	コミュニケーション概念についての事前考察 (90分)	コミュニケーションが人と人との社会的相互作用であることの復習・理解 (90分)
3	II..コミュニケーションの形式と過程 ……類型とモデル	人間の社会的相互作用にどのような型があるかについての事前考察 (90分)	コミュニケーションについての学問的な「類型とモデル」の復習・理解 (90分)
4	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 1. フォーマル・コミュニケーションとインフォーマル・コミュニケーション	組織と基礎集団におけるコミュニケーションの違いについての事前考察 (90分)	組織のフォーマルとインフォーマルの両面性についての復習・理解 (90分)
5	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 2. コミュニケーション・ネットワークと集団の効果性	組織の中にあるネットワークの種類についての事前考察 (90分)	ネットワークの種類とその機能的特徴についての復習・理解 (90分)
6	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (1) マネジメントとリーダーシップ	組織コミュニケーションでのリーダーシップについての事前考察 (90分)	良いマネジメントを超える対人的影響力についての復習・理解 (90分)
7	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	リーダーシップをとらえる視点についての事前考察 (90分)	古典的リーダーシップ理論の特質・限界についての復習・理解 (90分)
8	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	「個人的属性」に根拠を求めないリーダーシップ理論についての事前考察 (90分)	集団・組織機能向上とリーダーシップの関係についての復習・理解 (90分)
9	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 4. リーダーシップとフォロワーシップ	組織メンバーの行動とフォロワーシップについての事前考察 (90分)	リーダーシップとフォロワーシップの不可分性についての復習・理解 (90分)
10	III..組織コミュニケーションとリーダーシップ 4. リーダーシップとフォロワーシップ	フォロワーシップにはどのようなタイプがあるかについての事前考察 (90分)	フォロワーシップが組織機能に不可欠であることについての復習・理解 (90分)
11	IV..社会的コミュニケーション 1. コミュニケーションとメディア	コミュニケーションにとってメディアとは何かについての事前考察 (90分)	メディア類型についての復習・理解 (90分)
12	IV..社会的コミュニケーション 2. メディアと社会的現実	われわれにとっての社会的現実とは何かについての事前考察 (90分)	メディア環境と社会的現実の構成のされ方との関係についての復習・理解 (90分)
13	IV..社会的コミュニケーション 3. オーディエンスの権利 ……「知る権利」と「アクセス権」	現代のオーディエンスにとって必要となる権利についての事前考察 (90分)	メディア環境とオーディエンスの権利の関係についての復習・理解 (90分)
14	V..現代コミュニケーションの特質と諸問題	人々の社会的相互作用に生じている問題についての事前考察 (90分)	社会的技術の変化によるコミュニケーション問題についての復習・理解 (90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック (90分)	試験対応のための復習・理解 (90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備 (90分)	解説内容の確認・理解 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	絵画 (科目ナンバリング：AEA22117)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標						
学生が、教育現場に於ける美術科目の意味や役割を考え、絵画分野の課題に取り組む活動を経てより深く理解する。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２６回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を十分に習得できる。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を十分に習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能をおよそ習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を最低限習得できた。	現場で教えるべき画材や技法の知識、技能を習得できなかった。
思考・判断 生徒作品を見て、生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考える。人を育てるという意味を考える。課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択をする。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択が十分でできた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択ができた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択がややできた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来ると同時に、課題制作に於いて最適な画材の選択や描画法の選択が最低限できた。	人を育てるという意味を考えながら生徒の疑問や問題を瞬時に見つけ、最適な声掛けや対応を瞬時に考えることが出来なかつた。
ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組む。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが十分出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことがやや出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが最低限出来た。	ディスカッションなどの場で、主体的に協働し問題解決に取り組むことが出来なかつた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	絵画 (科目ナンバリング：AEA22117)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
2	学校現場（札幌公立小中高校）について 教職について	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
3	課題1水彩画1 ロールプレイ ディスカッション	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
4	課題1水彩画2 問題点・課題・心構え	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
5	課題1水彩画3 モチーフデッサン	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
6	課題1水彩画4 下描き	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
7	課題1水彩画5 透明水彩絵の具の基本	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
8	課題1水彩画6 透明水彩絵の具の基本	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
9	課題1水彩画7 三原色で色付け	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
10	課題1水彩画8 三原色で色付け	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
11	課題1水彩画9 三原色で色付け	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
12	課題1水彩画10 三原色で色付け	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
13	課題1水彩画11 完成 提出	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
14	課題1水彩画12 講評会に向けてプレゼンテーションの資料作り	授業内容の継続 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
15	課題1水彩画13 講評会（フィードバック）プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
16	課題1水彩画14 講評会（フィードバック）プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題2自画像1 ロールプレイ ディスカッション	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
18	課題2自画像2 問題点・課題・心構え	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
19	課題2自画像3 デッサン	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
20	課題2自画像4 下描き	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
21	課題2自画像5 アクリル絵の具の使い方	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
22	課題2自画像6 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
23	課題2自画像7 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
24	課題2自画像8 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
25	課題2自画像9 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
26	課題2自画像10 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
27	課題2自画像11 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
28	課題2自画像12 制作	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
29	課題2自画像13 完成 提出	授業内容の継続 課題（45分）	授業内容の継続 課題（45分）
30	課題2自画像14 講評会に向けてプレゼンテーションの資料作り	授業内容の継続 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
31	課題2自画像15 講評会を行う（フィードバック）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
32	課題2自画像16 講評会を行う（フィードバック）授業改善アンケート実施 当該科目の第1回目に示した身につく力の検証	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論 (科目ナンバリング：EDU141150, EDU241093,)				
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者： 木村 浩紀)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標							
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）について理解する。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
教師の役割や責務について、歴史・関係法規・保護者等の視点から考察し、教師の使命と責任並びに求められる教師像を把握するとともに、これから求められる役割について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
毎回設定するテーマに関して、理論的・体系的に講義するとともに、そのテーマに関する内容について、レポートを作成することで、主体的に学ぶ活動を実施する。 「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成（要点はチャットでも）して提出する。 各回のテーマごとに意見や感想を発表する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。							

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目 教職課程（全学科）必修科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	40%	0%	0%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
教職の意義・関連法規と求められる教師像	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。	
授業テーマに関するレポートの説明	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	教職論 (科目ナンバリング：EDU141150, EDU241093,)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教職概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2022	978-4-313-61146-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」、「講義の	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	教職の意義	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	教職観と理想の教師像	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	教師と教員養成の歴史	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	教員の任用と服務(1)	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	教員の任用と服務(2)	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	教師の役割と仕事(1)	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	教師の役割と仕事(2)「多様化する教師の役割期待」	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	管理職・主任の役割	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	教師の職場環境と保護者・地域社会との連携	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	教師の資質向上と研修、チーム学校に求められる教員の在り方	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	教育実習の意義と心得	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	教職への進路選択と教員採用選考	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	面接・模擬授業にどう臨むか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	教職論のまとめ(フィードバック)	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分)(フィードバックと身に付く力の検証) 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	2年生		
開講時期	前期	授業形態	講義, 演習	必修・選択	選択
科目名称	テスト用講義1 (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

授業上、修学サポート（合理的配慮）に関する内容

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	2年生			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	テスト用講義 1 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明／授業改善アンケート結果反映の説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
9	演習問題 (度数分布表・平均値・分散)	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
16	授業改善アンケートの実施／定期試験 (60分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習すること (90分)	試験内容について復習すること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	統計学入門（M） （科目ナンバリング：STS071047）					
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：伊藤 裕康）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。							
到達目標							
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。							
授業全体の内容と概要							
数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。 記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び教科書を用いて講義し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を提示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いて各PC上でも見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。 ・Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 (M) (科目ナンバリング：STS071047)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身につく力」についての説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスをよく読み、次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
2	度数分布表の作成	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
3	ヒストグラムと相対度数	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
4	代表値の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
5	度数分布と平均値	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
6	散布度と偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
7	分散と標準偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
8	相関係数と回帰直線	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
9	演習問題 (度数分布表・平均値・分散)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
10	確率の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
11	確率変数について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
12	確率変数の平均値と分散	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
13	確率分布について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
14	正規分布と標準化について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
15	正規分布表を用いた演習 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	専門用語の意味と統計処理の復習をすること (90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験範囲について復習すること (90分)	試験内容について復習すること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉・デザイン・建築学科・2年		
開講時期	2 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（SDA） （科目ナンバリング：STS071047）					
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：		伊藤 裕康）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには「ばらつき」が存在する。この「ばらつき」の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。							
到達目標							
記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。							
授業全体の内容と概要							
数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。 記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び教科書を用いて講義し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を提示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いて各PC上でも見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。 ・Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉・デザイン・建築学科・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門（SDA） （科目ナンバリング：STS071047）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：伊藤 裕康）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスをよく読み、次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
2	度数分布表の作成	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
3	ヒストグラムと相対度数	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
4	代表値の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
5	度数分布と平均値	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
6	散布度と偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
7	分散と標準偏差	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
8	相関係数と回帰直線	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
9	演習問題（度数分布表・平均値・分散）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
10	確率の考え方	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
11	確率変数について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
12	確率変数の平均値と分散	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
13	確率分布について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
14	正規分布と標準化について	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
15	正規分布表を用いた演習 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験範囲について復習すること（90分）	試験内容について復習すること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	法学 (科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者：青山 浩之)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

法律は、市民生活や経済活動を送るうえで欠かせないものである。条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる知識を身に付ける

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむづかしさや抵抗感を取り除き、法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、日本において法律の基礎となる六つの法典、憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法について、条文をベースに解説する。
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG10・人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第3回から第14回の計12回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは、講義の理解を深めるために4回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回（前年実績）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。①②についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Microsoft Forms の小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 私語などの迷惑行為は厳禁。
- 講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- 六法を持参することを推奨。
- 確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 ※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えているが、解答は答えている	改善すべき点があるが、解答は一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	法学 (科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		青山 浩之	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（90分）	復習（90分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 法とは何かー法と道徳、法の目的・種類	シラバスの確認 法とは何かを考える調べ学習（90分）	復習（90分）
3	法の適用と解釈ー法と裁判 確認テスト1（前年実績）	法と裁判についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分），確認テストの復習
4	日本国憲法の基本原理ー基本的人権 確認テスト1講義内で解説（フィードバック）	基本的人権についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
5	日本国憲法の基本原理ー権力分立	権力分立二についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
6	日本国憲法の基本原理ー国民主権と国会	国民主権と国会についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
7	民法ー全体像と基本原理 確認テスト2（前年実績）	民法と基本原理についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分），確認テストの復習
8	民法ー契約 確認テスト2講義内で解説（フィードバック）	契約についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
9	民法ー権利主体と法律行為 ビデオ視聴1（前年実績）	権利主体と法律行為についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
10	民法ー物権 民事訴訟法ー全体像と目的 確認テスト3（前年実績）	物権と民事訴訟法についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
11	会社法ー全体像と株式会社のしくみ 確認テスト3講義内で解説（フィードバック）	会社法と株式会社のしくみについての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
12	刑法ー法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義	法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
13	刑法ー犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論 確認テスト4（前年実績）	犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分），確認テストの復習
14	刑法ー犯罪の構成要件，犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習（90分）	犯罪の構成要件，犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
15	まとめ 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第3回から第14回まで復習（90分）。	試験範囲の確認，第3回から第14回まで復習（90分）
16	定期試験（60分） 定期試験の解説，採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験範囲の確認，第3回から第14回まで復習（90分）	復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ポケット六法 令和7年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	2025年	9784641009257	
2	『法学入門』	矢戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	
3	『大学生生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・豊谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	2022年	9784641126312	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-A） （科目ナンバリング：S0F061043）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、薦田 勇智（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（S） （科目ナンバリング：S0F061043）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、薦田 勇智（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（D） （科目ナンバリング：S0F061043）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、薦田 勇智（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（A） （科目ナンバリング：S0F061043）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、薦田 勇智（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
・本授業では、Microsoft Excelの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。 ・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。 ・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。 ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身につける。																								
授業の位置づけ																								
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。																								
到達目標																								
・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル） ・基本的な関数（SUM、AVERAGE、IFなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル） ・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル） ・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル） ・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるEXCELスキルを身につける。（スチューデントスキル）																								
授業全体の内容と概要																								
・本授業では、Microsoft Excelの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。 ・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、SUM、AVERAGE、IF、VLOOKUPなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。 ・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。 ・最終的には、業務や研究に活用できるEXCELスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通じて実践力を高める。 ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。 ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」																								
授業の方法																								
・ICTを活用した講義体制となる。 ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td></td><td>プレゼンテーション</td><td></td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td>○</td><td>反転授業</td></tr><tr><td></td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC（Windows／Mac）を使用してもよい。 ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。 ・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要なとなる最低出席回数は13回以上。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。 ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意図して学習に取り組んだ。誤りに気づくことができ、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意欲が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難し。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しみ、課題に取り組んでいない。または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（A） （科目ナンバリング：S0F061043）					
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）、薦田 勇智（経営学科・専任講師）、由水 伸（経営学科・教		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・2号館7階（薦田）・1号館2階（由水）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-B） （科目ナンバリング：					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-C） （科目ナンバリング：					

概要

履修目標							
・本授業では、Microsoft Excelの基本的な操作方法を習得し、データの整理や計算、視覚的な表現を行うスキルを身につけることを目指す。 ・Excelは、ビジネスや学術研究、日常業務など幅広い分野で活用されており、本授業では実践的な課題を通じて、実務に応用できる知識を習得する。 ・基本的な関数やデータの可視化手法を学び、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立つスキルを養う。 ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となるPCスキルを身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。							
到達目標							
・Excelの基本操作（セルの入力・編集、オートフィル、書式設定、印刷設定など）を理解し、適切に使いこなせる。（スタディスキル） ・基本的な関数（SUM、AVERAGE、IFなど）を習得し、データ分析や簡単な集計ができる。（アカデミックスキル） ・データの整理・並び替え・フィルタリングを適切に行い、視覚的にわかりやすい表を作成できる。（アカデミックスキル） ・グラフ作成機能を活用し、データを効果的に可視化できる。（アカデミックスキル） ・実践的な課題を通じて、業務や研究に活用できるEXCELスキルを身につける。（スチューデントスキル）							
授業全体の内容と概要							
・本授業では、Microsoft Excelの基本操作を学び、データの整理や分析、可視化のスキルを身につける。 ・セルの入力・編集、書式設定、オートフィルなどの基本操作を習得し、SUM、AVERAGE、IF、VLOOKUPなどの関数を活用したデータ処理を学ぶ。 ・データの並び替えやフィルタリング、ピボットテーブルを用いた分析手法を実践し、グラフ作成によるデータの可視化も行う。 ・最終的には、業務や研究に活用できるEXCELスキルを習得し、レポート作成やプレゼンテーション資料作成に活かすことを目標とする。初心者にも分かりやすく、演習課題を通じて実践力を高める。 ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。 ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」							
授業の方法							
・ICTを活用した講義体制となる。 ・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC（Windows／Mac）を使用してもよい。 ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。 ・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要なとなる最低出席回数は13回以上。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。 ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学習目標の達成度	各回の学習目標を完全に理解し、適切に応用できる。全ての課題を積極的に取り組み、課題に対して創造的なアプローチを示した。	学習目標はほぼ理解し、課題に対して適切なアプローチを取る。多少の工夫が見られ、概ね課題をこなしている。	学習目標は理解しているが、適用が不完全である。課題への取り組みがやや消極的であるが、基礎的な部分は達成している。	学習目標の理解に差があり、課題の一部に苦戦している。基礎的な理解が不足しており、応用が難しい。	学習目標がほとんど理解できていない。課題に対する取り組みが少なく、学習内容に大きなギャップがある。
反復学習と自己改善の態度	毎回積極的に復習を行い、理解度の向上に努めた。誤りを素早く修正し、自分の理解を深めるために積極的に努力した。	定期的に復習し、自己改善を意図して学習に取り組んだ。誤りに気づくことで、改善しようとする意欲を示した。	時々復習を行い、誤りの修正も試みたが、自己改善のための意欲が少し弱い。	復習の頻度が少なく、誤りの修正が遅れがち。自己改善に対する意識が弱く、積極性に欠ける。	復習がほとんど行われておらず、誤りの修正ができていない。自己改善に対する努力が見られない。
実践力と問題解決能力	学んだ内容を自分の作業に即座に応用し、問題解決を積極的に行った。複雑な課題も工夫して解決し、他者に説明できるレベルの理解を示した。	学んだ内容を実践に落とし込み、問題解決に積極的に取り組んだ。課題解決が概ねスムーズに進んだが、一部工夫が必要だった。	学んだ内容を実践するが、いくつかの問題解決に時間がかかる。解決方法が単純であるが、概ね課題をクリアした。	実践において学んだ内容の適用が遅れ、問題解決が難し。必要なステップを見落とし、解決方法に誤りがあった。	学んだ内容を実践することができず、問題解決に苦しみ、課題に取り組んでいない。または解決策を見出せなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M-C） （科目ナンバリング：					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇オリエンテーション ・シラバスの確認（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読む（45分）	Excelの基本操作を試す（45分）
2	◇情報の整理 ・Excelの基本操作 ・セルの入力、編集、書式設定	Excelを起動し基本操作を確認（45分）	操作手順を復習し実践（45分）
3	◇情報の整理 ・データ整理、数式 ・並び替え、フィルタリング、数式の使い方	データ整理の方法を調査（45分）	自作データで整理を試す（45分）
4	◇情報の整理 ・基本関数① ・SUM、AVERAGE関数の活用	教科書で関数の基礎を確認（45分）	簡単な表を作成し計算（45分）
5	◇情報の整理 ・基本関数② ・IF関数を用いた条件分岐	IF関数の構文を調べる（45分）	条件付き計算を実践（45分）
6	◇情報の整理 ・関数の応用① ・XLOOKUP関数の利用	XLOOKUPの使い方を学習（45分）	例題を用いて検索機能を練習（45分）
7	◇情報の整理 ・関数の応用② ・COUNTIF、SUMIFの活用	COUNTIF、SUMIFの構文確認（45分）	条件付き集計を練習（45分）
8	◇情報の整理 ・関数のネスト ・複数の関数を組み合わせた計算方法	ネスト関数の基本を学習（45分）	実際にネスト関数を使った計算を試す（45分）
9	◇情報の整理 ・データの可視化 ・条件付き書式やスパークライン	可視化のメリットを調べる（45分）	実データに適用してみる（45分）
10	◇情報の整理 ・表の作成 ・見やすい表の作成・書式設定	書式設定の基本を確認（45分）	さまざまな表を作成（45分）
11	◇情報の整理 ・グラフの作成① ・棒グラフ、円グラフなどの基本作成	グラフの種類を調べる（45分）	異なるグラフを作成（45分）
12	◇情報の整理 ・グラフの作成② ・折れ線グラフや複合グラフの作成	複合グラフの使い方を調べる（45分）	複数のグラフを作成（45分）
13	◇情報の整理 ・ピボットテーブル① ・ピボットテーブルの基礎	ピボットテーブルの作成方法を調べる（45分）	自作データで基本的な集計を実施（45分）
14	◇情報の整理 ・ピボットテーブル② ・ピボットテーブルを活用した高度な集計	高度な集計方法を調べる（45分）	ピボットテーブルの応用を実践（45分）
15	◇総合演習 ・確認テストを行い、フィードバックを返す ・授業改善アンケートの実施	これまでの課題を振り返る（45分）	フィードバックを基に試験勉強を行う（45分）
16	◇定期試験	これまでの内容を復習（45分）	試験結果を振り返る（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	信濃 吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：信濃 吉彦）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。					

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎運用を場面ごとに理解することをし身に付けることを目的とする。具体的には翻訳アプリを併用しながら基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎会話および定型・応用表現）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

基礎英語Ⅰの内容をさらに深め、「辞書さえあれば英語は大丈夫!」といった自信を持つことができる。加えて、会話力へ繋がる文法事項・表現方法を習得することができる。

授業全体の内容と概要

場面における会話の運用や日常の基礎表現を英語で行うことができるようVoiceTraを併用しながら、学習する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。なお、経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
<VoiceTra（ボイストラ）はNICT（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英文日記を課し、採用する。
前向きな課題の提出には、加点する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。初回授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。13回以上の出席を基準とし12回の出席を確保できないものは再履修とする。 平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で92点以上の得点を挙げた。	定期試験で82点以上の得点を挙げた。	定期試験で72点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、英語の理解において必要となる文法・語法を学び、英語によるコミュニケーション力の基礎がほぼ確立している。	課題に取り組み、英語の語彙力や文法・語法への理解が深まりつつある。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーション力の重要性や基本文法の理解に対する努力が見られる。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、英語による情報交換の基本に対する進歩が見られず、自分なりの学習ができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られる。	積極性は乏しいものの、不 明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身に付けようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	信濃 吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：信濃 吉彦）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井 康佑	開拓社	2010	9784758915304	基礎英語Ⅰと同じ
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」 の説明含む）	専用のノートを準備する（45分）	自分の弱点確認 （45分）
2	基礎英語Ⅰの復習①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
3	基礎英語Ⅰの復習②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
4	日常表現と定型句①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
5	日常表現と定型句②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
6	アメリカの大学①	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
7	アメリカの大学②	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
8	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
9	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
10	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
11	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
12	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
13	テキストの指定範囲を学習する	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
14	ノートチェック	テキストの指定範囲を読む（45分）	ノートの作成。課題・宿題（45分）
15	文法の補足とテストビュー 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（45分）	期末試験に備える（45分）
16	試験（60分）及び授業総評（30分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証：手	試験準備（120分）	授業内容の振り返り（30分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：岡島 徳昭）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
文法、読解、作文などの演習をとおし、英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。							
授業全体の内容と概要							
英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習をとおし、英語運用能力の向上を図る。 「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の4技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席重視、テキスト・辞書持参 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M・岡島） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：岡島 徳昭）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「英検準2級 合格への道」』	坂部俊行、岡島徳昭 他	南雲堂	2011	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。シラバスの説明（科目を修了して「身	シラバスを読むこと。 (45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
2	Lesson 7 語句空所補充 読解の基礎練習 Choosing a Pet	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
3	Lesson 7 語句空所補充 読解の基礎練習 Choosing a Pet	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
4	Lesson 8 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
5	Lesson 8 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
6	Lesson 9 語句空所補充 読解の基礎練習 Gaming and Relation-	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
7	Lesson 9 語句空所補充 読解の基礎練習 Gaming and Relation-	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
8	中間テスト	試験の準備学習。(45分)	試験の復習。 (45分)
9	Lesson 10 語句空所補充 読解の基礎練習 Music before	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
10	Lesson 10 語句空所補充 読解の基礎練習 Music before	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
11	Lesson 11 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
12	Lesson 11 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
13	Lesson 12 語句空所補充 読解の基礎練習 Crayola Crayo	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
14	Lesson 12 語句空所補充 読解の基礎練習 Crayola Crayo	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
15	全体復習 Simulation Test (P-76)	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック	リーディングアサシメントと単語学習。(45分)	授業中に学んだことを復習。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	2 Q		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	石田 暁子（非常勤講師）			研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：石田 暁子）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。							
授業全体の内容と概要							
英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳していただくことを課題とし、学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認する。最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書は、前期の「基礎英語Ⅰ」と同じものを継続して使用する。一回目の授業から持参すること。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１０回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０％	０％	３０％	０％	３０％	０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	石田 暁子（非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：		石田 暁子）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋 哲徳 他	朝日出版社	2017	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	テキストp.42～45 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.46 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
3	助動詞の基本的用法・過去形	テキストp.47～49 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.50 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
5	受動態	テキストp.51～53 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.54予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
7	現在分詞と過去分詞の用法	テキストp.55～58 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.59 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
9	不定詞の基本と用法	テキストp.61～64 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.65 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
11	動名詞の基本と用法	テキストp.67～70 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.71 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
13	接続詞の種類・時制の一致	テキストp.73～76 予習（45分）	授業内容復習 （45分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.77 予習 （45分）	授業内容復習 （45分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （45分）	期末試験準備 （45分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（60分） 講評・解説し、フィードバックする。（30分）	期末試験準備 （45分）	期末試験内容復習 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 （単位認定責任者：井坂 肇）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。							
授業全体の内容と概要							
所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。							
授業の方法							
講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・15分以上の遅刻は欠席とみなす ・遅刻2回で欠席1回とする ・授業には必ずテキストを持参すること。 ・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上。 教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で80点以上の得点を上げた。	定期試験で65点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で40点以上の得点を上げた。	定期試験で40点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：		井坂 肇）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook (New Edition)』	桐原書店編集部 編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK これからの英文法 [New Edition] 』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」についての説	事前にシラバスを読んでおく (45分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	第12章 不定詞（1）	第12章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
3	第13章 不定詞（2）	第13章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
4	第14章 不定詞（3）	第14章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
5	第15章 動名詞（1）	第15章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
6	第16章 動名詞（2）	第16章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
7	第17章 分詞（1）	第17章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
8	第18章 分詞（2）	第18章の予習 (45分)	小テスト内容復習 (45分)
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	小テストの準備 (45分)	授業内容復習 (45分)
10	第19章 比較（1）	第19章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
11	第20章 比較（2）	第20章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
12	第21章 関係詞（1）	第21章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
13	第22章 関係詞（1）	第22章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
14	第23章 関係詞（1）	第23章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
15	期末試験	期末試験準備 (45分)	期末試験内容復習 (45分)
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」について検 討する	授業内容予習 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1					
開講時期	2 Q		授業形態		演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西崎） (科目ナンバリング：ENL041030)							
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）				研究室等所在	2号館6階		
単位数	1		（単位認定責任者：西崎 毅）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照							

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SD64.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、タブレットの文字記入機能等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等に対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。教科書は第1Qの基礎英語Ⅰで使用したものを継続して使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
- 授業資料は適切に管理し、学修に役立てること。
- 授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
- 講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用は禁止する。
- 講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
- 講義中の「退室」は、許可を得ること。
- 座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
- 上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
○単位認定に必要な最低出席回数は11回。 ○成績評価は、定期試験の点数（60％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（40％）を基に総合的に判断して行う。 ○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。 ○講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60％	0％	0％	0％	40％	0％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で9割以上の得点を上げた。	定期試験で8割以上の得点を上げた。	定期試験で7割以上の得点を上げた。	定期試験で6割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が6割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては期待される最低限のレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関しては期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関しては期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1			
開講時期	2 Q		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西崎） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基礎英語Ⅰで使用したテキストを継続使用する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 5文型の復習① リスニング・リーディング活動	英語についての自己の課題を考えておくこと。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
2	5文型の復習② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
3	5文型の復習③ リスニング・リーディング活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
4	準動詞① リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
5	準動詞② リスニング・リーディング活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
6	準動詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
7	準動詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
8	接続詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
9	接続詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
10	接続詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
11	接続詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
12	関係詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
13	関係詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
14	関係詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
15	関係詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 課題のフィードバック、授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （45分）	前回までの学修内容を復習すること。（45分）
16	60分の試験、30分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの学修内容を復習すること。（45分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価すること。 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年、建築学科・1年		
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮嶋） （科目ナンバリング：ENL041030）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1（単位認定責任者：宮嶋 達也）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・英語他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 （45分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（45分）
2	Modal VerbsⅠ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
3	Modal VerbsⅡ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
4	Unit 7 Tell Me About Your Family	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
5	Unit 8 Communication	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
6	Unit 9 How Are You Feeling?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
8	Grammar Present perfectⅠ（完了形）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
9	Grammar Present perfectⅡ（完了形）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
10	中間テスト	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
11	Unit 10 Memories	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
12	Unit 11 How Healthy Are You?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
13	Unit 12 You Can Fly!	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
15	Review 1	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（45分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （45分）
16	Final Exam. 試験終了後にフィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（45分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041030）					
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：横田 肇）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を理解する。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションについて理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。
建築学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

1) 学生が英語の基礎的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎的理解と習得ができています。
2) 平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができる能力を身に付けている。
3) 平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに即し、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて関連する読解、作文、英会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、テキストに即し、パワーポイントと板書、配布資料により各項目の全体的な説明（一斉）を行ない、その後、個人・グループワークによる練習問題（課題）の解答を行う。解答後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目
保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎が完全に理解できており、十分に活用することができた。	英文法の基礎がほぼ理解できており、ある程度活用することができた。	英文法の基礎が大体理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が完全に理解でき、十分に活用することができた。	テキスト内の英文がほぼ理解でき、ある程度活用することができた。	テキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科1年		
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横田） （科目ナンバリング：ENL041030）				
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：横田 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Simply Grammar 改訂版』	K.Saito	南雲堂	2 0 1 7	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明	シラバスを読んでおく（４５分）	Unit3 練習問題の予習（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）未来形説明と練習。	Unit3 練習問題の予習（４５分）	Unit3 練習問題の復習（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）未来形説明と練習。	Unit3 練習問題の予習（４５分）	Unit3 練習問題の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）助動詞説明と練習。	Unit4 練習問題の予習（４５分）	Unit4 練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）助動詞説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	Unit4 練習問題の予習（４５分）	Unit4 練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）冠詞説明と練習。	Unit5 練習問題の予習（４５分）	Unit5 練習問題の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）冠詞説明と練習。	Unit5 練習問題の予習（４５分）	Unit5 練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）代名詞説明と練習。	Unit6 練習問題の予習（４５分）	Unit6 練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）前置詞説明と練習。	Unit7 練習問題の予習（４５分）	Unit7 演習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）前置詞説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	Unit7 練習問題の予習（４５分）	Unit7 練習問題の復習（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）接続詞説明と練習。	Unit8 説明文の予習（４５分）	Unit8 練習問題の復習（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）進行形説明と練習。	Unit9 説明文の予習（４５分）	Unit9 練習問題の復習（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）受動態説明と練習。	Unit10 説明文の予習（４５分）	Unit10 練習問題の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）完了形説明と練習。 既習範囲の理解の確認のための小テストを実施	Unit11 説明文の予習（４５分）	Unit11 練習問題の復習（４５分）
15	英文法と英語の運用について（14）完了形説明と練習。	Unit11 練習問題の予習（４５分）	Unit11 全体の復習（４５分）
16	定期試験。60分の試験終了後、30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。 この科目で身に付ける力についての説明。	既習事項の復習（４５分）	既習事項の復習（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1					
開講時期	2 Q		授業形態		演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井坂） (科目ナンバリング：ENL041030)							
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇（経営学科・専任講師）				研究室等所在	1号館3階		
単位数	1		（単位認定責任者：井坂 肇）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照				
オフィスアワー								

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。

「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・15分以上の遅刻は欠席とみなす

・遅刻2回で欠席1回とする

・授業には必ずテキストを持参すること。

・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で80点以上の得点を上げた。	定期試験で65点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で40点以上の得点を上げた。	定期試験で40点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1		
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井坂） （科目ナンバリング：ENL041030）				
授業担当者 （所属・職名）	井坂 肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者：井坂 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook (New Edition)』	桐原書店編集部 編	桐原商店	2022	9784342207372	
2	『総合英語FACTBOOK これからの英文法 [New Edition] 』	大西泰斗、ポール・マクベイ	桐原書店	2022	9784342207259	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」についての説	事前にシラバスを読んでおく (45分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	第12章 不定詞（1）	第12章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
3	第13章 不定詞（2）	第13章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
4	第14章 不定詞（3）	第14章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
5	第15章 動名詞（1）	第15章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
6	第16章 動名詞（2）	第16章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
7	第17章 分詞（1）	第17章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
8	第18章 分詞（2）	第18章の予習 (45分)	小テスト内容復習 (45分)
9	小テスト 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	小テストの準備 (45分)	授業内容復習 (45分)
10	第19章 比較（1）	第19章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
11	第20章 比較（2）	第20章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
12	第21章 関係詞（1）	第21章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
13	第22章 関係詞（1）	第22章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
14	第23章 関係詞（1）	第23章の予習 (45分)	授業内容復習 (45分)
15	期末試験	期末試験準備 (45分)	期末試験内容復習 (45分)
16	授業最終回において講評をし、フィードバックする 基礎英語Ⅱを修了して「身に付いた力」について検 証する	授業内容予習 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：GER051035）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。							
授業の位置づけ							
経営科目のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
ドイツ語検定試験 5 級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。							
授業全体の内容と概要							
授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：GER051035）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ドイツ語ルネサンス（第3版）』	本郷・佐藤ほか	三修社	2013	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講す	シラバスの内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
2	【語法の助動詞について】 語法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
3	【語法の助動詞の用法について】 語法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
4	【ヒアリング練習】 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
5	【形容詞について】 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
6	【形容詞の比較・副詞的用法について】 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
7	【分離動詞について】 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
8	【動詞の3基本形について】 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
9	【過去形の変化について】 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
10	【完了形について】 ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
11	【完了形の用法について】 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
12	【関係代名詞について】 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
13	【受動態について】 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
14	【Zu不定詞について】 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
15	【接続法について】 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
16	【定期試験】 試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目標が身につい	試験に向け全体を復習すること。（90分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門Ⅱ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051035）				
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 （単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターを身に付ける。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

全科目のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験 5 級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法やドイツの文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。

また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3					
開講時期	4 Q		授業形態		講義	必修・選択	選択	
科目名称	ドイツ語入門Ⅱ（S・D・A） （科目ナンバリング：GER051035）							
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）				研究室等所在	2号館8階		
単位数	2		（単位認定責任者：河田 一郎）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照				
オフィスアワー								

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ドイツ語ルネサンス（第3版）』	本郷・佐藤ほか	三修社	2013	9784384122732	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）授業改善アンケート結果反映の説明。この科目を受講す	シラバスの内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
2	「語法の助動詞について」 語法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。小テストを行ったときは、そのつど授業内でコメントし、	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
3	「語法の助動詞の用法について」 語法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
4	「ヒアリング練習」 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
5	「形容詞について」 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
6	「形容詞の比較・副詞的用法について」 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
7	「分離動詞について」 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
8	「動詞の3基本形について」 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
9	「過去形の変化について」 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
10	「完了形について」 ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
11	「完了形の用法について」 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
12	「関係代名詞について」 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
13	「受動態について」 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
14	「zu不定詞について」 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
15	「接続法について」 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（90分）	授業の内容を復習しておくこと。（90分）
16	「定期試験」 試験前に授業改善アンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目標が身につい	試験に向け全体を復習すること。（90分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	経営学科・2年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (M) (科目ナンバリング：HSS031028)				
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授) 佐藤 和裕 (経営学科・准教授) 三嶋 康嗣 (経営学科・専任講義)		研究室等所在	1号館3階 (米野) 1号館2階 (佐藤)	1号館2階 (三嶋) 1号館2階 (岡)
単位数	2 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
生涯教育の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けての望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を身につける。						
授業の位置づけ						
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。						
到達目標						
人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できる力を身につける。						
授業全体の内容と概要						
授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義について、および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は、生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。 「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。						
授業の方法						
5名の教員がオムニバス形式で行う。各教員ともパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進捗に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。各教員が担当したテーマにおいて小テストも実施する。小テストの実施方法や評価等については各教員から改めて連絡する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	
						PBL 反転授業 その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
授業に関係のない私語は慎むとともに、携帯電話等の電源は必ず切ること。 授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。 健康に関する知識と能力を身につけたか試験等で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。さらに人間の健康観において歴史的変遷も理解していた。体力の概念についても免疫や筋について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力、防衛体力について深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解した。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での処方も理解できた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かになった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど得られなかった。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的な深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識もえられた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識は得られた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識、意識、関心がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	3 Q		授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (M) (科目ナンバリング：HSS031028)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授) 佐藤 和裕 (経営学科・准教授) 三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)			研究室等所在	1号館3階 (米野) 1号館2階 (佐藤) 1号館2階 (三嶋) 1号館2階 (石井) 1号館2階 (岡田)	
単位数	2 (単位認定責任者：米野 宏)		CAP制 ☐			
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野、	三和書籍	2023	798-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、健康の概念 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	体力の概念 (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	運動と健康 (運動と身体変化) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	栄養と生活 (栄養素) (担当：石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	栄養と生活 (食生活) (担当：石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	栄養と生活 (エネルギー代謝) (担当：石井)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	運動やスポーツに伴う身体の変化 (担当：佐藤)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	現代人の身体と運動 (担当：佐藤)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	現代人の身体と運動 (生涯スポーツ) (担当：佐藤)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	スポーツ外傷 (担当：三嶋)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	スポーツ障害 (担当：三嶋)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	救急処置 (担当：三嶋)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	最近の健康問題 (生活習慣病) (担当：岡田)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	最近の健康問題 (中毒) (担当：岡田)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	最近の健康問題 (感染症、精神の病気) (担当：岡田)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	健康科学 (S) (科目ナンバリング：HSS031028)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：尾西 則昭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	本学および専門学校において、健康科学の授業を担当した経験を活かして指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
生涯学習の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ科学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を身に付けさせる。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する。							
到達目標							
人間の健康や体力の向上に向け、科学的な知識を身に付ける。 自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できるようになる。							
授業全体の内容と概要							
授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。終了後、振り返りシートに理解できたこと、あるいは理解できなかったことを書いてもらい次回の講義で解説する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
積極的に取り組むことを期待します。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。 授業に臨む際に求められる態度、姿勢、授業に集中して聞くこと。 授業中の私語は慎んでください。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康および体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念や体力の構成要素について深く知識を理解することができた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についておおむね理解できた。	WHOの健康の概念や体力の構成要素についての基礎的な知識が比較的理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素について多少理解できた。	WHOの健康概念や体力の構成要素についてほとんど理解できなかった。
運動および栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識を深く理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する専門的な知識をおおむね理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が比較的理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する基本的な知識が多少理解できた。	健康な生活における運動および栄養に関する知識が理解できなかった。
現代の健康問題に対する知識と懸念	生活習慣病や健康問題についての知識を深く理解できた。	生活習慣病や健康問題についておおむね理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が比較的理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識が多少理解できた。	生活習慣病や健康問題について基礎的な知識を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (S) (科目ナンバリング: HSS031028)				
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	本学および専門学校において、健康科学の授業を担当した経験を活かして指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果 反映と、本科目を修了して「身に付く力」について 説明する。学生報告の役割分担を確認する。	事前にシラバスを読んで確認する。（9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
2	体力の概念	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
3	運動と健康①（運動と身体変化）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
4	運動と健康②（運動の効果）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
5	運動と健康③（運動の処方）、小テスト① 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする。	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
6	栄養と生活①（栄養素）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
7	栄養と生活②（食生活）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
8	運動と身体①（トレーニングの原理）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
9	運動と身体②（運動とエネルギー）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
10	運動と身体③（スポーツと怪我）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
11	救急処置の原則	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
12	スポーツと救急処置、小テスト② 小テストの結果について授業内でコメントをしてフィードバックする。	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
13	健康問題①（生活習慣病）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
14	健康問題②（薬物・喫煙）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
15	健康問題③（アルコール）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 （9 0分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 （9 0分）
16	自己研究の健康科学の理解と生活習慣の理解の総括。 授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証、授業改善アンケート	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。 （9 0分）	解説の内容を確認する（9 0分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野、	三和書房	2023年	978-4-86251-487-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	健康科学 (D・A) (科目ナンバリング：HSS031028)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)、米野 宏 (経営学科・准教授)、三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階 (佐藤)、1号館3階 (米野)、1号館2階 (三嶋)、1号館2階 (石井)、1号館2階 (岡)	
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 和裕)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯教育の一環として、健康やスポーツについての基礎的かつ化学的知識を深めさせるとともに、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けての望ましい健康観を確立し、豊かな人間性を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

人間の健康や体力の向上に向けて、科学的な知識を身につける。自らの健康問題やスポーツ活動に一層深い関心を持って、生涯の健康づくりに留意できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

授業の序盤は、健康観の変遷や健康の定義について、および体力の概念について概説する。中盤は、運動と身体、栄養と身体について概説する。終盤は、生活習慣病や薬物依存などの現代における健康問題について概説する。
「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

5名の教員がオムニバス形式で行う。各教員ともパワーポイントや板書による講義形式で行うが、進展に応じ、質問やビデオ視聴などで理解を深めさせる。各教員が担当したテーマにおいて小テストも実施する。小テストの実施方法や評価等については各教員から改めて連絡する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語は慎むとともに、携帯電話等の電源は必ず切ること。
授業の習熟度を判断するために小テストを提示するので、欠席しないようにすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。
健康に関する知識と能力を身につけたか試験等で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康及び体力に対する概念の理解	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。さらに人間の健康観において歴史的変遷も理解していた。体力の概念についても免疫や筋について深い知識を持っていた。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識もあり行動体力、防衛体力について深い理解があった。	WHOの健康の概念以外にも深い理解があった。体力についても構成要素以外の知識があった。	WHOの健康の概念や体力の構成要素については理解した。	人間の健康観や体力についての知識や理解力がほとんど欠けていた。
運動及び栄養に関する知識と理解	健康な生活における運動及び栄養に関する専門的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かであり、実践する上での処方も理解できた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識が比較的豊かになった。	健康な生活における運動及び栄養に関する基本的な知識が得られた。	健康な生活における運動及び栄養に関する知識や関心がほとんど得られなかった。
現代の健康問題に対する知識と関心	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、専門的な深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対して、比較的深い知識があり予防に対する関心や意識も強くなった。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識があり予防に対する関心や意識も得られた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する基本的な知識は得られた。	生活習慣病や薬物、飲酒などの健康問題に対する知識、意識、関心がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年			
開講時期	4 Q		授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	健康科学（D・A） （科目ナンバリング：HSS031028）						
授業担当者 （所属・職名）	佐藤 和裕（経営学科・准教授）、米野 宏（経営学科・准教授）、三嶋 康嗣（経営学科・専任講			研究室等所在	1号館2階（佐藤）、1号館3階（米野）、1号館2階（三嶋）、1号館2階（石井）、1号館2階（岡田）		
単位数	2（単位認定責任者：		佐藤 和裕）			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツや健康についての基礎的な科学的知識を深め、将来の社会生活における健全な生活実践へ向けて、望ましい健康観を指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『大学生のための健康科学』	上林、小島、尾西、小山、佐藤、中川、米野、石井、天野、	三和書籍	2023	978-4-86251-487-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、健康の概念 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
2	体力の概念 （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
3	運動と健康（運動と身体変化） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
4	栄養と生活（栄養素） （担当：石井）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
5	栄養と生活（食生活） （担当：石井）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
6	栄養と生活（エネルギー代謝） （担当：石井）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
7	運動やスポーツに伴う身体の変化 （担当：佐藤）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
8	現代人の身体と運動 （担当：佐藤）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
9	現代人の身体と運動（生涯スポーツ） （担当：佐藤）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
10	スポーツ外傷 （担当：三嶋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
11	スポーツ障害 （担当：三嶋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
12	救急処置 （担当：三嶋）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
13	最近の健康問題（生活習慣病） （担当：岡田）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
14	最近の健康問題（中毒） （担当：岡田）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
15	最近の健康問題（感染症、精神の病気） （担当：岡田）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（90分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（90分）
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（90分）	解説の内容を確認する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅰ (科目ナンバリング：SWS111003)				
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。
2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。
3. 社会保障制度の財政について理解する。
4. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP 4に対応する。

到達目標

1. 社会保障が生まれた背景と発展過程について理解できる。
2. 社会保障の理念の変化について説明することができる。
3. わが国の社会保障が直面している制度的、政策的課題について関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

社会保障の理念、機能、歴史的展開、財政問題などを検討しながら、社会保障とは何かについて基礎的理解を深める。
「SDG1. 貧困をなくそう」、「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
3. 適宜質問を促し、質問に対応する。
4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30%の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて少子高齢社会の課題について理解できた。	社会保障がかかえている問題と課題について理解できた。	今日における社会保障の意義を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できなかった。
思考・判断	経済社会の変化を踏まえた今後の社会保障の見直しの是非について考えることができた。	少子高齢社会における社会保障の課題について対応策を考えることができた。	社会保障の理念の変化と社会保障の保障水準の関係について考えることができた。	社会保障の理念の変化について説明することができた。	社会保障の理念の変化について説明することができなかった。
関心・意欲	社会保障が直面する諸課題について諸外国との比較で対応策を考える意欲を示した。	社会保障が直面する諸課題について対応策考えることができた。	社会保障が直面する諸課題の解決に関心を寄せることができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会保障Ⅰ (科目ナンバリング：SWS111003)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2 0 2 1	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
2	現代社会と社会保障 (2)－経済環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
3	現代社会と社会保障 (3)－労働環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
4	社会保障とは何か (1)－社会保障の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
5	社会保障とは何か (2)－社会保障の役割と意義、社会保障の理念・目的・対象	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
6	社会保障とは何か (3)－社会保障の機能	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
7	社会保険と社会扶助の関係 (1)－社会保険の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
8	社会保険と社会扶助の関係 (2)－社会扶助の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
9	公的保険と民間保険	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
10	社会保障と財政 (1)－社会保障の財源調達方法	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
11	社会保障と財政 (2)－社会保障給付費、国民医療費	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
12	社会保障と財政 (3)－国民負担率、社会保障と経済	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
13	諸外国の社会保障制度 (1)－諸外国における社会保障制度の歴史と概要	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
14	諸外国の社会保障制度 (2)－社会保障制度の国際比較	教科書を読み授業範囲の予習をする (90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (90分)
15	授業改善アンケートの実施。 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業最終回において講評をし、フィードバックする	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	美術学概論Ⅱ (科目ナンバリング：AEA211002)					
授業担当者 (所属・職名)	寺嶋 弘道 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：寺嶋 弘道)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を 実践的に指導する。			
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標

人間の創造性と感性の所産である美術について、東西の多様な表現に触れながらそこに表された思想、信条、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播と影響の実相を探究する。
また、学修者自身が美の所在を考え自らの言葉で表現し、またはその内容を他者に伝えることができるようになることをめざす。
もって、創造性の発現を促す美的体験の重要性を理解し、創作活動やさまざまな生産・製作活動の分野で社会に貢献できるクリエイティブな思考力を醸成する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP 3、DP 4に対応する。

到達目標

1東西の美術の諸相を理解し、様式や表現に関する基礎用語を適切に用いることができる。

2さまざまな美術作品の特質について理解を深め、具体的な事例をあげて美の所在を説明できる。

3芸術文化の創造と伝播、技術や技法の発案と継承について着目し、視覚芸術をめぐるさまざまな視点から考察することができる。

4文化財の保護や美術研究の場としての美術館の役割を理解し、その機能と活動を説明できる。

授業全体の内容と概要

古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿を現している。

本授業では、地域と時代を俯瞰して人類の美の所産をめぐりつつ、その表現様式や美術潮流などの基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマや造形的な特質について時間と空間を往来しながら作家や作品にアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。

さらにこれらの美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。

「SGS9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連項目

授業の方法

・各回の授業では作品画像をパワーポイントで提示しながら、講義形式で授業を進める。

・対面授業の実施を基本とするが、課題の提出やパワーポイントのデータ、参考資料の配布は所定の学内WEBシステムを介して行うので、ICT環境を整えておくこと。

・授業の内容に応じて、テーマに対するディスカッション、フリートーク、動画の視聴を併用する場合がある。

・ほぼ毎回の授業で、授業テーマまたは履修目標に関連したミニレポート、調査学習を伴うセルフワークを課題として提示する。本授業ではこれらの課題作成・考察内容を重視するので、期限までに作成し提出すること（期末評価用のため期限を越えても必ず提出のこと。遅延は減点対象）。

・ミニレポート・セルフワークは必要に応じ、提出期限後の授業で解説・評価・指導内容を例示し、またはICTを活用してフィードバックする。また、Teams、chatなどにより学修支援を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・教科書は使用しない。各回授業ごとに適宜、資料を配布する。参考図書は授業内で紹介する。

・各回の授業終了後は配布データ・資料、ノート、参考図書等を読み返し、講義テーマを復習すること。

・予習として、次回授業のタイトルをもとにテーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、画集、図書、インターネット等で下調べをしておくこと。

・美術文化関係の展覧会や画集、テレビ番組、映画等を普段から積極的に見るほか、観覧が有用な美術館については授業内に紹介するので、実作品を鑑賞し自学自習に取り組むこと。

・やむをえず欠席、遅刻する場合は、事前もしくは事後にチャットまたはメールで担当教員まで連絡すること。その事由によっては、課題の提出をもって出席とみなす場合がある。規則によって手続きが必要な欠席については学務課に届け出ること。

・2コマ続きの時間割の場合、それぞれのコマごとに準備学習および事後学習が必要となるため、相応の自宅学習時間を確保すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定には、全16回の授業のうち期末の定期試験を除く計15回の三分の二以上の出席が必要（10回以上）。これに満たない者には期末定期試験の受験資格を付与しない。 ・成績評価は、期末の定期試験またはレポート試験20％、ミニレポート及びセルフワーク等60％、中間テスト10％、今週のおすすめアート報告書（受講確認票）10％の比率で点数を配分し、それらの提出状況と記述内容を評価して総合判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
20％	0％	60％	10％	10％	0％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
さまざまな表現様式・思潮・美術用語の理解	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いて論考をまとめることができた。	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相を理解し、基礎的な美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相に関心を持ち、基礎的な美術用語を用いることができた。	美術の諸相への関心や基礎的な美術用語への学びが不十分だった。
美術の本質や文化の伝播・影響に関する多角的探究	芸術や文化に内在する美の本質を論理的に考察し、自らの言葉で多角的視点から的確に論述することができた。	芸術や文化に内在する美の本質を考察し、自らの言葉で多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に内在する美の有り様を考察し、多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に現れた美の有り様に基づき、説明することができた。	芸術や文化の美の有り様について、十分に考察するには至らなかった。
多様な芸術や文化に対する独創性・創造性の考察	芸術文化の創造、技術の継承について理解を深め、そのオリジナリティをさまざまな視点から分析し考察することができた。	芸術文化の創造、技術の継承について理解を深め、そのオリジナリティを分析し考察することができた。	芸術文化の継承について理解し、そのオリジナリティを考察することができた。	芸術文化の継承について関心を持ち、そのオリジナリティに気づくことができた。	芸術文化の継承やそのオリジナリティについて十分に考察するには至らなかった。
文化財の保護活用と芸術の社会性に関する理解	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を深く理解し、批評文・意見文などで自分の考えを的確に論述することができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、批評文・意見文などで自分の考えをまとめることができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、説明文・感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能に関心を持ち、感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能を理解するには至らなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	美術学概論Ⅱ (科目ナンバリング：AEA211002)					
授業担当者 (所属・職名)	寺嶋 弘道 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：寺嶋 弘道)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を 実践的に指導する。			
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。	シラバスを読んでおくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
2	文化財へのアプローチ① 世界遺産探訪－もう一人の平山郁夫とその美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
3	文化財へのアプローチ② 岡本太郎の縄文発見！@東京国立博物館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
4	文化財へのアプローチ③ 世界のロイヤルコレクション－ルーヴル・故宮・正倉院	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
5	文化財へのアプローチ④ 大英博物館にて－憧れの古代ギリシャ・ローマ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
6	視覚芸術の相克① 栄光のルネサンス－画家ダ・ヴィンチVS彫刻家ミケランジェロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
7	視覚芸術の相克② 運慶・快慶、見参！－もののふの時代を生きる道中間テスト（到達目標の点検・確認）	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
8	視覚芸術の相克③ 印象派の前と後－西欧アカデミズムと美の革新中間テストの解答例にコメントしてフィードバック	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
9	視覚芸術の相克④ 神々の黄昏－ロダンとカウディをめぐる「新」彫刻展	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
10	視覚芸術の相克⑤ 近代ニッポン・文明開化150年の光と影	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
11	オリジナリティとは① 厚岸・正行等：『よみがえった模倣』から探る美の真相	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
12	オリジナリティとは② 漢斎泉英と浮世絵の図像学－江戸庶民の美意識	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
13	オリジナリティとは③ 合掌－クローン仏像に手を合わせるココロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
14	文化の伝播と創造① パフォーミングアート：茶の湯－もてなしの心としづら	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
15	文化の伝播と創造② ホワイトキューブのジレンマ－ポップカルチャー時代の美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと (60分)	授業の要点を文献・WEB等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポートを作成し提出すること。(120分)
16	文化の伝播と創造③ 中心と周縁－森村泰昌『まねぶ美術史』から 期末試験の実施、授業改善アンケートの実施、科目	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やWEB等で下調べをしておくこと。	授業の要点を文献・WEB等で再確認し、全期のノートを整理すること。期末試験の不明点を再点検すること。(60分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング：APT311002)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在		1号館4階、2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：佐々木 哲之)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について、技術と製図の基本を修得することを目指す。木造では軸組構法が主となるが、構造・構法の考え方や高断熱・高気密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では、壁構造とラーメン構造の構造計画、外壁・地下室・屋上防水等の詳細図、積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1，DP3，DP4に対応する。							
到達目標							
時間内に課題を完成させることができ、期日を守ることの重要性を身に付ける。木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って，正しく表現できる。							
授業全体の内容と概要							
木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い，毎週提示され授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により欠回の提出を認めている。課題は採点の後返却される。							
授業の方法							
課題解説，製図，およびそれらの指導は，すべて製図室に行われる。したがって，指定された製図道具を各自必ず持参し，授業に臨むこととなる。また，課題ごとに配布する資料と板書による説明をし，そのうち製図を始める。再提出や追加課題に備えて，自宅に製図板，製図道具等を揃えておくことが不可欠である。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので，遅刻してきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので，遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。 30分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻4回で欠席1回とみなすので注意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
2コマ連続実技なので、単位認定に必要な最低出席回数は22回以上、かつ全課題提出とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本技術について①寸法とスケール②図面の表示記号③線の種類と描き方④建築図面の理解⑤空間の理解	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤については不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について表現が不十分であった。	①～⑤について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。	①～⑤について理解、表現とも不十分であった。
木造軸組み工法の各種図面において①柱の位置②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていた。しかし⑤は理解できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解、表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解、表現とも不十分であった。
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において①柱割②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解、表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解、表現とも不十分であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング：APT311002)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階、2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 佐々木 哲之)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス1 授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること（45分）	授業計画の内容と履修内容を復習すること（45分）
2	ガイダンス2 製図のルール、作図方法	製図のルール、作図方法を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
3	寒冷地の木造建築－1a平面図（柱の配置、軸組構法）	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
4	寒冷地の木造建築－1b平面図（壁の断熱と大壁・真壁）	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
5	寒冷地の木造建築－2a 展開図の描き方、建具表の表現	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
6	寒冷地の木造建築－2b 展開図と建具表の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
7	寒冷地の木造建築－3a 基礎の断熱、寒冷地の1階床組	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
8	寒冷地の木造建築－3b 基礎伏図と1階床伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
9	寒冷地の木造建築－4a 2階荷重の伝播、小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
10	寒冷地の木造建築－4b 2階床伏図と小屋伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
11	寒冷地の木造建築－5a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
12	寒冷地の木造建築－5b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－1a 柱スパンと柱の断面寸法、外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－2a 断面の考え方、表現方法	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－2b 断面図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－3a 梁・スラブと階高、断熱方法、天井の構法	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－3b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－4a 防水（屋上防水、地下室の防水と断熱）	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－4b 防水（屋上防水、地下室の防水と断熱）	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－5a外装 コンクリート打放し、カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－5b 立面図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
23	鉄筋コンクリート造壁構造－1a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
24	鉄筋コンクリート造壁構造－1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
25	鉄筋コンクリート造壁構造－2a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
26	鉄筋コンクリート造壁構造－2b 平面詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
27	鉄骨構造－1a 柱スパンと柱の断面寸法、外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
28	鉄骨構造－1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
29	鉄骨構造－2a 床・屋根スラブの造り方、壁下地と仕上材 次回の製図内容を予習すること（90分）	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
30	鉄骨構造－2b 部分詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（45分）	製図内容を復習し、図面を完成すること（45分）
31	講評会・1	講評会にむけて、今までの製図課題を予習すること（45分）	製図内容を復習し、課題図面を見直すこと（45分）
32	講評会・2 授業改善アンケートの実施	講評会にむけて、今までの製図課題を予習すること（45分）	製図内容を復習し、課題図面を見直すこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング:ACC411007, ACC511004)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岩立 顕一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

概要

履修目標							
簿記とは、企業の取引を一定のルールに従って、記録、計算および整理し、報告書を作成する一連の手続きのことであり、広く社会的にも重要な役割を果たしている。また、簿記の基本原理は、会計学の理論的な側面を理解するためにも重要な基礎となる。 本講義は、簿記の一連の手続きを理解し、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の作成と読解できることを身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
・ 5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）の意味を理解し、具体的な簿記一巡の手続きを習得する。 ・ 決算手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成することができる。 ・ 完成した財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を読み取ることができる。							
授業全体の内容と概要							
本講義は、簿記・会計の初心者を対象に、商業簿記に関する授業を行い、簿記の仕組みを基礎から学ぶ。 授業中は、テキストの解説のみならず、設例を用いた解説や演習問題に解答する時間を設ける。 授業では、小テストを毎回実施する。小テストの提出をもって、出欠確認を行う。 小テストの解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。							
授業の方法							
簿記の学習は、実際に自分で問題を解くことで、体得するという性質がある。したがって、講義内では、問題演習を積極的に行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
簿記は、学習の積み重ねが必要な科目であるため、講義には毎回出席すること。また、復習を欠かさず行うこと。 シラバス記載のテキストは、2024年4月時点の最新版を使用する。このテキストは、通常の書店では販売しておらず、また買い間違えを防ぐため、全学の教科書購入サイトを通じて購入すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1.1回以上。 「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）を理解し、正しい金額を算定できる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、即座に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間内に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間をかけつつも、資料から勘定の計算ができる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できなかった。
決算手続きを理解できる。	決算手続きを理解した上で、速やかに財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間内に財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間をかけつつも、財務諸表を作成することができる。	決算手続きを最低限理解している。	決算手続きを理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容に基づき、基本的な経営分析ができる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴を説明できる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴に気づくことができる。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	簿記論 (科目ナンバリング：ACC411007, ACC511004)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者：岩立 顕一郎)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日商簿記3級テキスト・問題集・解答集3冊セット』	片山 寛 監修	キャリアック	2023年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (簿記概論) シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスとテキストの序文を読んでおく (90分)	問題演習に取り組む (90分)
2	資産・負債・資本と貸借対照表	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
3	収益・費用と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
4	仕訳と総勘定元帳への転記	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
5	試算表の作成	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
6	決算手続き	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
7	現金・預金	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
8	商品売買	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
9	売上債権・仕入債務	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
10	有形固定資産	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
11	株式会社の資本と税金	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
12	決算整理 (1) 売上原価・貸倒れ・減価償却	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
13	決算整理 (2) 収益・費用の前払・前受・未収・未払	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
14	財務諸表の作成	テキストの指定箇所を予習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
15	総復習と問題演習 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を復習する (90分)	問題演習に取り組む (90分)
16	定期試験と解説 (60分の試験終了後、残りの30分で解説)	これまでの内容を復習する (90分)	定期試験の解説内容を確認する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に着け理解する。 文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。 ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。							
授業全体の内容と概要							
マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。 後半では、各自でマンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーカルチャーについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。							
授業の方法							
授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、１０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かし、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かし、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	学内施設・システムの活用方法 (1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
3	学内施設・システムの活用方法 (2) 図書館の活用方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
4	マンガの特徴について考える(1)メディア	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
5	マンガの特徴について考える(2)表現 ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
6	マンガの特徴について考える (3) アニメーションとの比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ (1) マンガ作品の分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ (2) プレゼンテーションの方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
9	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ (1) 資料のまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
10	個人発表 (1)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
11	個人発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
12	個人発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
13	個人発表 (4)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
14	レポートの書き方について	レポート作成の準備をする (45分)	レポートを作成する (45分)
15	期末レポート提出 まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)
16	期末レポートの解説、フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションの仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
自分で調べたことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。 学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。 自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。							
授業の方法							
授業は次のように進める。 ①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。 ②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員でディスカッションをする。 ③担当教員による講評を行う。 ④レポート作成に向けた準備を進める。 輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者と協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 後藤 啓倫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
2	自己紹介、アイスブレイク、テキストの決定	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
3	テキストの内容報告とディスカッション (1)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
4	テキストの内容報告とディスカッション (2)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
5	テキストの内容報告とディスカッション (3)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
6	テキストの内容報告とディスカッション (4)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
7	テキストの内容報告とディスカッション (5)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
8	テキストの内容報告とディスカッション (6)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
9	テキストの内容報告とディスカッション (7)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
10	テキストの内容報告とディスカッション (8)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
11	テキストの内容報告とディスカッション (9)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
12	テキストの内容報告とディスカッション (10)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
13	レポートの進捗状況の報告 (1)	関連資料の収集 (45分)	議論内容の整理 (45分)
14	レポートの進捗状況の報告 (2)	関連資料の収集 (45分)	議論内容の整理 (45分)
15	レポート作成	レポート (課題) の準備 (45分)	レポート (課題) の準備 (45分)
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート (課題) の準備 (45分)	レポート (課題) の仕上げ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標							
本授業では、学生生活において健康の保持増進を目指すために必要な食事（栄養）、睡眠、運動などについて理解を深める。また、人体の構造と機能について理解を深めることで、生活習慣との関係性についても学習する。 健康の保持増進に向けて運動習慣、食生活・睡眠の見直しなどを実践し健康的な学生生活を身につける。 また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することを身につけ、高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。							
授業全体の内容と概要							
各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。 各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。 各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。							
授業の方法							
DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。 グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。 Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
受講者数10人まで 受講条件は運動部活動に所属していること、事前に面談をした学生							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を良く理解している	人体の骨格の構造や機能をほぼ理解している	人体の骨格の構造や機能がある程度理解している	人体の骨格の構造や機能を理解している	人体の骨格の構造や機能を理解していない	
人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を良く理解している	人体の筋肉の構造や機能をほぼ理解している	人体の筋肉の構造や機能がある程度理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解していない	
人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を良く理解している	人体の脳の構造や機能をほぼ理解している	人体の脳の構造や機能がある程度理解している	人体の脳の構造や機能を理解している	人体の脳の構造や機能を理解していない	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身につく力」の 説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンス内容を理解しておく (45分)
2	個人面談 (履修方法・時間割・学生生活)	履修方法・時間割を確認しておく (45分)	履修方法・時間割を把握しておく (45分)
3	個人面談 (履修方法・時間割・学生生活)	履修方法・時間割を確認しておく (45分)	履修方法・時間割を把握しておく (45分)
4	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅰ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく (45分)
5	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅱ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく (45分)
6	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅲ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の骨格の構造や機能を理解しておく (45分)
7	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅰ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく (45分)
8	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅱ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく (45分)
9	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅲ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく (45分)
10	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅳ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく (45分)
11	人体の脳の構造や機能の理解Ⅰ	人体の脳の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく (45分)
12	人体の脳の構造や機能の理解Ⅱ	人体の脳の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の脳の理解してお構造や機能く (45分)
13	人体の脳の構造や機能の理解Ⅲ	人体の脳の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく (45分)
14	人体の脳の構造や機能の理解Ⅳ	人体の脳の構造や機能を確認しておく (45分)	人体の脳の構造や機能を理解しておく (45分)
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。							
授業の方法							
小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在		1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (スポーツと私)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ニューススポーツを考える (屋外競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ニューススポーツを考える (屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 1 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 2 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーション (屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション (屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は自立学習シートのレポートを作成し発表する。発表に対してディスカッションを行う。後半はグループでテーマを決めプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目							
授業の方法							
授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。 注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。 発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。 経営学科のラグビー部所属学生を対象とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	自立学習シートの作成 (自己紹介)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
3	自立学習シートの作成 (高校の思い出)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
4	自立学習シートの作成 (本学を選び、本学で学びたい理由)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
5	自立学習シートの作成 (自分の将来について)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
6	自立学習シートの作成 (自分の健康について)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
7	自立学習シートの作成 (大学生に必要なことは何か)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
8	自立学習シートの作成 (どのような学生生活を送りたいか)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
9	プレゼンテーションの準備 (グループ別)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
10	「健康とスポーツ」について考える (グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
12	「生涯スポーツ」について考える (グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
14	「生活と健康」について考える (グループワーク)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を復習し理解する。 (45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (スポーツとの関わり)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	スポーツを考える (ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	スポーツを考える (ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	スポーツを考える (ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	スポーツを考える (ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーションの準備 1 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーションの準備 2 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇（経営学科・助教）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：井坂 肇）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
トレーニングデータ不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻2回で1回の欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく越えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇（経営学科・助教）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：井坂 肇）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	シラバスの内容を理解しておく (45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
10	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
11	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
12	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
13	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
14	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク グループワークの成果についてフィードバックを行	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
15	エビデンスに基づいたトレーニング⑤ 論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
16	まとめ (科目を修了して「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
陸上競技（駅伝）を通じて、家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。							
授業全体の内容と概要							
陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。知識と技能を身につけて指導力を身につけさせる。							
授業の方法							
資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回とみなします。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数13回以上 陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果を重視する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を履えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を深く理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識をおおむね理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を比較的理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を多少理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を理解して身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できる能力を身につける事ができた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバスの説明」 身に付く力をつけるための授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認にする。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	陸上（駅伝）と健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	(まとめ) 授業に係る講評・解説によるフィードバック 学習内容を身に付ける事ができたかをフィードバック	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解し身に付けることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった	
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）（国際的に活躍するエリートアスリート）	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」の検証 フィードバック（国際的に活躍するエリートアス	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
本基礎ゼミナールでは社会科学に関する専門書を全員で音読し、現代社会における処々の課題を歴史的・グローバルに鳥瞰し、現代社会の諸問題を解析するための基本的視座を獲得する。基礎ゼミナールⅠAでは「憲法」をテーマにし、その歴史的意義と現代日本における諸課題を検討する。社会科学の専門書に対する基礎的な読解力を身に着ける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1，DP 2，DP 5 に対応する。							
到達目標							
・社会科学に対する興味を喚起し、自発的に文献を読み込む技術を習得できる。 ・現代社会が抱える諸課題について、各媒体を検索する技術を習得できる。 ・社会科学全体に共通する諸課題を検討することによって、2 年時以降の社会福祉学の学習の基盤となる視座を構築できる。							
授業全体の内容と概要							
小室直樹著『日本人のための憲法原論』（集英社インターナショナル）を主要参考文献とし（各講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、その他『NEWS WEEK』等の記事を適宜配布し、国際社会を視野に入れたグローバルな社会分析ができる。							
授業の方法							
・各講義ごとに教員が資料を配布し、個々に音読してもらい、内容を解説・議論する。 ・講義プリントは講義の前の週に配布するので熟読しておくこと。 ・学生からの要望には可能な限り答えるが、教育上不適切と思える要望には応じない。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
全学科の全コースが履修可能である。 ライン、チャット等に「欠席」の申告がない、あるいは欠欠等の連絡がない場合は欠席とみなす。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席日数10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「憲法」に関する参考文献・資料の内容を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの政治・憲法についての基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
中世の欧米社会史から近世日本社会史までの外観を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの「社会史」「近世日本史」の基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
憲法が効果的に機能するための要因を理解する。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	日本国憲法と大日本帝国憲法の違いと各々の課題を理解できた。	高校のテキスト「日本の政治」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできてなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校のテキストの読み直し (45分)	配布資料の読み込み (45分)
2	日本国憲法は生きているか	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
3	誰のために憲法はあるか	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
4	全ては議会から始まった	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
5	民主主義は神様が作った	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
6	かくして議会は誕生したーイギリス憲法小史	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
7	民主主義と資本主義は双子だった	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
8	初めに契約ありき	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
9	「民主主義のルール」とは	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
10	憲法の敵は何か	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
11	平和主義者が戦争を作る	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
12	20世紀を変えたヒトラーとケインズ	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
13	天皇教の原理	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
14	田中角栄の遺産	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
15	憲法は甦るか。前回までの授業内容についての小試験を行い、内容の評価、添削を実施し、授業内でフィードバックする。	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
16	総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
1) 学生が世界と日本の歴史と文化について、基礎的な知識と考え方を身につける。 2) 初歩的なプレゼンテーション、文章作成の技術を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
1) 受講者において、北海道を中心に世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、説明できること。 2) 受講者において、初歩的なコミュニケーションの技術が身につけていること。							
授業全体の内容と概要							
講義と資料により北海道の歴史を原始・古代から現代までとり、合わせて、各地域の文化についても考察する。教員による現地取材も提供、活用しつつ考察を進める。							
授業の方法							
1) 毎回、教員による短い講義を行う。(資料・画像・動画を併用) 2) 1)に基づいて、出席者全員で討論をする。 3) 教員の講評によるフィードバック。 1)～3)を毎時間くり返す。ときどき、簡単な実演や体験学習を取り入れる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項							
欠席、遅刻はしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
基礎的知識の習得	歴史と文化の基礎的な知識が十分に理解され、習得できた。合わせて、応用する力も習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が十分に理解され、習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識がおおよそ理解され、習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が指示によって習得できた。	歴史と文化の基礎的な知識が指示によって習得できなかった。	
コミュニケーション能力	積極的な議論と明確な主張・提案ができ、しっかりとした情報発信ができた。	的確な議論と提案ができ、情報発信がある程度できた。	議論と提案、情報発信の基礎が身に付いていた。	指示によって議論と情報発信が進行できた。	指示による議論と情報発信ができなかった。	
好奇心・態度	歴史と文化を理解し、知ろうとする意欲と好奇心に着目、発展的な学習が進行できた。	歴史と文化に関する好奇心があり、自発的な学習ができた。	歴史と文化に関する知識を意欲的に学んでいた。	指示する内容の学習を進行することができた。	指示する内容の学習を進行できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。諸注意。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。 (45分)	歴史と文化の基礎事項の復習（45分）
2	歴史と文化一般に関する講義と討論。	歴史と文化の基礎事項の予習（45分）	歴史と文化の基礎事項の復習（45分）
3	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の原始・古代)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
4	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の中世)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
5	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の中世)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
6	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。（北海道の近世） 既習範囲の確認のためのミニレポートの作成とコメント	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
7	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の近世)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
8	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の近世)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
9	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の近代)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
10	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。（北海道の近代） 既習範囲の確認のためのミニレポートの作成とコメント	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
11	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の近代)	北海道史の基礎事項、の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
12	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の現代)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
13	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の現代)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
14	北海道の歴史と文化に関する講義と討論。 (北海道の現代)	北海道史の基礎事項の予習（45分）	北海道史の基礎事項の復習（45分）
15	前期のまとめと期末レポート作成（1）	レポート（課題）の準備（45分）	レポート（課題）の準備（45分）
16	期末レポート作成（2）、コメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証と説明。	レポート（課題）の準備（45分）	レポート（課題）の仕上げ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉に対する視野を広げるとともに、福祉従事者としての基本的な態度を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する科目。

到達目標

職業の一つとして社会福祉を捉えたうえで、チームワークについて理解できる。

授業全体の内容と概要

様々な福祉実践の場を知るとともに、そこで求められる社会福祉の知識や技術の概要について学ぶ。
「SDG 3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマの内容についてグループで議論をした内容をまとめ、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので答えること。
③2回以降は授業毎に記録を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業に関する資料を毎回配布する。
⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等にてオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①30分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、欠席や遅刻をする際には事前に連絡をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クラスのメンバーと協調できる。	リーダーシップを発揮し、他者へのサポートができた。	他者を尊重するとともに、自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
第三者が理解できる記録を作成できる。	記録をもとに考察ができた。	SWIHIに沿って記述できた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
社会福祉の視点を持つことができる。	他の職業と比較し、福祉の仕事の独自性を述べることでできた。	福祉の仕事の独自性を述べることでできた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を終了して身に付く力の説明 アイスブレーキング	自己紹介を行うので、内容を整理しておく（45分）	アイスブレーキングの効果を考察する。（45分）
2	基本的な文章の書き方	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	記録のポイントを配布資料ノートで確認する。（45分）
3	基本的なレポートの書き方	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	レポートの書き方のポイントを配布資料ノートで確認する。（45分）
4	福祉の仕事を目指す理由①	今回の内容の発表内容を整理する。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
5	福祉の仕事を目指す理由②	今回の内容の発表内容を整理する。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
6	福祉の職場①	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	役割分担した内容について調べて整理する。（45分）
7	福祉の職場②	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	役割分担した内容について調べて整理する。（45分）
8	中間まとめ	1回から7回の内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
9	福祉に関する資格①	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	役割分担した内容について調べて整理する。（45分）
10	福祉に関する資格②	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（45分）	役割分担した内容について調べて整理する。（45分）
11	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。①	福祉従事者が著した書籍を図書館で借りる。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
12	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。②	福祉従事者が著した書籍を読む。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
13	福祉サービス利用者と福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。③	福祉サービス利用者が著した書籍を図書館で借りる。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（45分）
14	福祉従事者に求められる資質について話し合う。	福祉サービス利用者が著した書籍を読む。（45分）	4回から14回の授業をとおり、福祉従事者に求められる資質についてレポートにまとめ、提出をする（45分）
15	福祉従事者に求められる資質について発表をする。レポートを添削して返却し、フィードバックする。	発表内容を整理する。（45分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。レポートのコメントについて考察する。（45分）
16	まとめと、科目を修了して身に付く力』についての検証をする。 授業最終回において議評をする	15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（45分）	全体を振り返り、今後の課題を考察する。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解する。提示されたテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力が高まり、また、「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）

・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身に付けることを目標とする。
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席状況（3分の2以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性, 傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができなかった。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味, 関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル, 表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ, 態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わるこことができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ティップス・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考 える。(45分)	シラバスについて確認する。「身に着く力」につい て考察する。ゼミ内での自分の役割について考える (45分)
2	「食生活の重要性を考えるⅠA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
3	「食生活の重要性を考えるⅠA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
4	「食生活の重要性を考えるⅠA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
5	「食生活の重要性を考えるⅠA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
6	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
7	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
8	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
9	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
10	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
11	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
12	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
13	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
14	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
15	「食生活の重要性を考えるⅠA」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック 実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証	まとめの準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。「身に着く力」について 再度考察する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につけさせる。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。							
授業全体の内容と概要							
生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。							
授業の方法							
資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回とみなします。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 13 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	90%	0%	10%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを比較的理解しやすき説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：尾西 則昭)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバスの説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。	事前にシラバスを読んで確認にする。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	人間の生活と健康の調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	人間の生活と健康の調査 ⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	健康プログラム調査・議評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証、授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学習姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は１１回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	０％	８０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：西崎 毅)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 自己紹介、決意表明	シラバスを熟読し、履修条件を確認すること。 （45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
2	学力とは何かを考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
3	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
4	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
5	学力とは何か発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
6	国際社会が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
7	我が国が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
8	国際社会と我が国が育成を目指す学力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
9	国際的な学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
10	国際的な学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
11	我が国の学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
12	我が国の学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
13	北海道の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
14	北海道の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
15	北広島市の小中学校の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
16	北広島市の小中学校の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 前期の学修の総括及び反省、演習のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
デザインを通して自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目指す。						
自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を描き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。						
昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、企業へのPOP制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど						
授業の位置づけ						
全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。						
到達目標						
(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にすることができる。 (2) 適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつことができる。 (3) 活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の課題を設定することができる。						
授業全体の内容と概要						
授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのかを考え楽しく活動する						
授業の方法						
グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に臨む。授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
受講定員15名						
受講条件						
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。						
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。						
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人						
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人						
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人						
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があつた。	自主的・協働的に活動に取り組む、コミュニケーション能力や行動力があつた。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあつた。	自らの考えでアクションを起すことはなく、最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあつた。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮嶋 達也)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備 シラバスの熟読 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
13	Creative activities 6	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
14	Creative activities 7	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
16	前期活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、より良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前半では都市や建築が時代とともにどのように変化し今に至ったかを学ぶ。特に現代都市や建築の骨格とも言える機能主義に至るまでの過程を学び、都市や建築が抱える課題を理解する。適宜中間テスト又はレポートを実施し、理解度を確認する。後半では主に北広島市及び近隣都市を中心に都市や建築について調査分析を行い、都市空間をアップデートする提案を構想し、表現・発表を行う。

☐SDGs 3.すべての人に健康と福祉を ☐SDGs 1 1.住み続けられるまちづくりを ☐SDGs 1 2.つくる責任 つかう責任

授業の方法

前半ではパワーポイントを用いた講義を行う。資料として適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。後半では各自調査分析等を行う。各自のパソコンを使う場合がある。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	☐	調査学習		反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	さまざまな都市・建築空間	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
3	建築都市の歴史1（古代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
4	建築都市の歴史2（古代・中世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
5	建築都市の歴史3（近世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
6	建築都市の歴史4（近代 バリ大改造）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
7	建築都市の歴史4（近代 田園都市）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
8	建築都市の歴史5（近代 モダニズム）	参考書籍等を用いて予習する（45分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
9	建築都市の歴史6（現代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
10	現代のまちを考える	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
11	グループワーク 説明	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
12	グループワーク 調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	グループワーク 作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	グループワーク 作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	グループワーク 発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	まとめ及び振り返りテストの実施、授業改善アンケートの実施、総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明)自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習 (45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	授業内容復習 (45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	後期学習範囲の総括 (「身につく力」の検証)および反省・最終課題の提出 授業に係る諸評・離脱によるフィードバック	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：千葉 聡美)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 科目を履修して『身に付く力』についての説明 自己紹介（教員になるための抱負を含む）	教職志望の理由をまとめること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
2	○教員になるために必要なことを考える①自分の出会った先生 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
3	○教員になるために必要なことを考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
4	○教員という仕事について考える①体験から考える ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
5	○教員という仕事について考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
6	○教員に求められる資質能力について考える①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
7	○教員に求められる資質能力について考える②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
8	○子供たちを取り巻く状況を知る①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
9	○子供たちを取り巻く状況を知る②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
10	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
11	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
12	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える③意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
13	○学習指導要領について考える①学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
14	○学習指導要領について考える②学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
15	○学習指導要領について考える③現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （45分）
16	前期の学修を総括してフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在		2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。
就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１３回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：		河田 一郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」授業の進め方・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）。授業改善に向けたアンケートと授業反映の説明。この科	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目標が身についたかどうか、ブレ	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「基礎テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 後期の「基礎ゼミナールⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って導立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題（いじめ問題、不登校、特別支援教育等）の指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。 教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。							
授業全体の内容と概要							
教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。 教育にかかわる法令、客申などの通読 教育に関する諸課題についての調べ学習 教師に求められる教職教育等の学び 「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目							
授業の方法							
教育にかかわる法令、客申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。 教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教師に求められる教職教育等について演習を行う。 課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 板書や教材提示装置を活用する。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 ○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 ○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可） ○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。 ○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力を達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題（いじめ問題、不登校、特別支援教育等）の指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 「シラバス」の進め方「科目を修了して身に付く力」の説明	教育の諸問題についてまとめること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
2	○教育の諸課題について考える① 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
3	○教育の諸課題について考える② 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
4	○教育の諸課題について考える③ 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
5	○教育の諸課題の解決策を考える①1 ・教師の仕事について考える 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
6	○教育の諸問題の解決策を考える①2 ・教師の仕事について考える 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
7	○教育の諸課題の解決策を考える①3 教師の仕事について考える 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
8	○教育の諸課題の解決策を考える②1 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
9	○教育の諸課題の解決策を考える②2 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
10	○教育の諸課題の解決策を考える②3 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
11	○教育の諸課題の解決策を考える②4 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
12	○教育の諸課題の解決策を考える②5 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室、特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
13	○教育の諸課題の解決策を考える③1 ・不登校について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
14	○教育の諸課題の解決策を考える③2 ・不登校について意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
15	○教育の諸課題の解決策を考える③3 ・不登校について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
16	前期の学修の総括及び反省（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	前期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてeスポーツを捉えることが出来るようになる。 ・適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。 ・視野（選択肢）を広く持つことが出来るようになる。 ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
・大学という環境に早く慣れる ・eスポーツとは何なのかを知る							
授業全体の内容と概要							
・履修登録や授業、Microsoft関係等新しく扱うものについて学ぶ。（スタディスキル） ・日本、全世界でプレイされているeスポーツタイトルについて学ぶ。（アカデミックスキル） ・eスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。（アカデミックスキル） ・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。（スチューデントスキル）							
授業の方法							
・不測の事態が無い限り対面にて行う。 ・LMSにて課題提示、提出を求める。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。 ・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。 ・遊びではなく学習の場であることを理解する。 ・自身のPC（できればデスクトップPC）を持っていることが望ましい。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報を集めて考える力	e スポーツに関する多角的な調査を行い、データや事例を適切に活用し、根拠に基づいた深い考察ができていた。	しっかりと調査し、データや事例を用いた分析ができていたが、一部深掘りが不足していた。	基本的な調査は行われており、論理的な考察があったが、やや浅い部分があった。	調査の範囲が限定的で、分析に一貫性がなかった。論拠が弱かった。	調査が不十分で、主観的な意見が多く、論理的な分析ができていなかった。
チームで取り組む力	チームワークを重視し、積極的に役割を果たし、ゼミの成果に大きく貢献していた。	チーム内での役割を果たし、協力的な姿勢を持っていた。	最低限の役割は果たしていたが、積極的な貢献は少なかった。	グループ活動への関与が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。	グループ活動にほとんど参加せず、貢献が見られなかった。
考えを整理して伝える力	e スポーツに関する考察を論理的にまとめ、構成も明確で説得力があった。	e スポーツのテーマについて論理的にまとめているが、一部整理不足が見られた。	基本的な内容は書かれていたが、論理的な展開や構成が弱かった。	内容が断片的で、論理的な構成になっていない部分が多かった。	文章がまとまっておらず、考察も浅く、論理的な説明ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	・オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	履修登録を行う (45分)
2	・勉強の仕方を知る ・課題の取り組み方について知る ・グループワークについて知る	学生便覧を読み込む (45分)	メモやノートを整理する (45分)
3	・eスポーツの基礎知識を学ぶ ・チームを作る	eスポーツについて調べる (45分)	メモやノートを整理する (45分)
4	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
5	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
6	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
7	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
8	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
9	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
10	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
11	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
12	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
13	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
14	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
15	・eスポーツの実践 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	チームで作戦を考え、練習する (45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出 (45分)
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観、教育観、教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。

②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。

③現代社会が抱える問題点やその価値観をしっかり把握する。

④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観を形成し、これからの時代に必要となる教育とその方法を模索する。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」に関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通じ、自分のことばで語ることも重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)。文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	【ヒギナーズセミナーⅠ①】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修 の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
3	【ヒギナーズセミナーⅠ②】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修 の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	【コンセンサスゲーム・ディスカッション基礎】 グループディスカッションへの取り組み方について 解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる （４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
5	【コンセンサスゲーム・演習課題①】 グループディスカッションの練習を行う。	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	【コンセンサスゲーム・演習課題②】 グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する （４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
7	【コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎】 プレゼンテーションの目的や構成などについて解説 する。	プレゼンテーションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
8	【コンセンサスゲーム・事例研究①】 提示された企業活動の事例について、グループごと に調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
9	【コンセンサスゲーム・事例研究②】 提示された企業活動の事例について、グループごと に調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する （４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
10	【総合演習①】 提示された内容について、グループごとに取り組む。	これまでの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
11	【総合演習②】 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
12	【総合演習③】 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
13	【総合演習④】 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
14	【総合演習⑤】 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
15	【総合演習⑥（成果発表会）】 提示された内容について、グループごとに組み 組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）
16	【まとめ・総評】 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための基礎的な能力を養う。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
フィールドワークの基礎を習得する。 調査結果をレポートにまとめる能力の基礎を習得する。							
授業全体の内容と概要							
本授業は北広島市や北海道におけるフィールドワークを通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。 「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
基本的には徒歩または公共交通機関を利用した、フィールドワークを中心に行う。 フィールドワークで得た結果をまとめ、発表する。 資料やレポート等のやり取りはTeamsを活用する。 地理院地図などの地理情報システム（GIS）を活用する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
■出席について 毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。							
■フィールドワークについて フィールドワークの性質上、土曜等に授業を実施する場合がある。 フィールドワーク中に発生する交通費等は自己負担とする。 フィールドワーク中は必ず教員の指示に従うこと。							
■その他 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法の基礎	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
フィールドワークの基礎	フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた	フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	フィールドワークをすることができた。	フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図を活用することができた。	地図を活用することができた。	地図を活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス、科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地域調査法①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地域調査法②	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
4	地域調査法③	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	フィールドワーク①	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	フィールドワーク②	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	フィールドワーク③	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	フィールドワーク④	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	フィールドワーク⑤	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	フィールドワーク⑥	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	調査結果まとめ①	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	調査結果まとめ②	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	調査結果発表①	発表準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	調査結果発表②	発表準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	レポート作成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 これまでの講評をしとフィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA（再） （科目ナンバリング：BAS001003）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎ゼミナールⅠA再履修者。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA（再） （科目ナンバリング：BAS001003）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明。 授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この 科目を受講すること、誰よりも早く、就活を勝ち 取る。その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授 業について講評を行い、フィードバックする。第1 回目で示した達成目標が身についたかどうか、ブレ	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
絵画の基本・様々な素材の性質や取り扱い方について、さらに絵画の果たすべき役割や意義について学修する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し身に着ける。							
授業全体の内容と概要							
10号程度の大きさの支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩の技法で制作する。							
授業の方法							
事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどがある程度の確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 【古今の作品について（構図を主に）】	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。 (90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材の性質について	洋画作品の構造と用材、木材の性質について予習する。 (90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方について予習する。 (90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。 (90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラでの下書き エッグテンペラ用展色剤の処方、下書きについて	エッグテンペラの展色剤の処方について予習する。 (90分)	本時の制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 1	油彩絵具の透明性や被覆力等について予習する。90分	油彩絵具の透明性や被覆力等について復習する。 (90分)
8	油彩による上書き 1 大まかな面を把握し、かつ下書きを活かした描写について	下書きを活かした大まかな油彩による上書きについて検討する。(90分)	下書きを活かした大まかな油彩による上書きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上書き 2 立体感や奥行き感と色彩調和に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上書き 3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。 (90分)
11	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 3	筆触・タッチについて予習する。(90分)	意図とおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上書きとエッグテンペラによる加筆 5	色価・パルルールに狂いのある箇所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバック	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 堤 美穂子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題 の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザイン思考を理解し、社会における問題意識に対し、デザインによって解を求め、改善にあたる力を獲得することを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
以下の①②を有する、デザイナー気質の獲得をめざす。 ①自分の違和感や意見をもって他者に説明できると同時に、異なる意見にも耳を傾け、他を尊重した解をもとめようとする統合力。②結論や解決を急ぐのではなく、改善を繰り返すことでより高い理想へと近づこうとする探究心。							
授業全体の内容と概要							
デザインを、生きる力として身につけるために、問題提起や問いの提供によって物事や社会を心の目で見、多視点で捉えられるようになるなど、人間としての幅を拡張する。またデザイン事例をもとにした観察・議論等によって、デザインに埋め込まれた人間の意図を読み解く力を養う。							
授業の方法							
はじめにPPT資料を用いたデザイン思考に関するレクチャーを受け、知識を習得。グループに分かれて個人が持ち寄った問題意識について話し合い、テーマをひとつに絞り込む。活動計画をたててチームでフィールドワークを企画し、エスノグラフィックアプローチを試みる。議論を重ね、改善のプランをたて、プロトタイプングを繰り返して、そのプロセスをプレゼンテーションする。 各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。 毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。 不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針および規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学をサポートする。 講義中の録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
本質的な問題意識、他者への伝達	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができたため、チームが取り組む議題となった	社会や物事に対する本質的な問題意識をもち、それを他者に説明し共感を得ることができた	社会や物事に対する問題意識をもち、それを他者に説明し理解を得ることができた	社会や物事に対する問題意識はあるが、それを他者に説明できなかった	社会や物事に対する問題意識をもつことができなかった
デザイン思考	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活・他の学習や取り組みなどにも結びつけて活用・実践することができた	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活・他の学習や取り組みなどにも結びつけて考えることができた	デザイン思考を理解したが、本講義で実行するまでに至らなかった。	デザイン思考の理解が不十分だった。	デザイン思考をまったく理解できなかった。
主体性・判断力・統合力	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重し、よりよい解を得るための統合力が発揮できた	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重し、よりよい解を得ようと考え、努力した	自分の意見と同様に、他者の意見も公平に尊重しようとした	自分の意見を抑え、他者の意見のみ尊重しようとした（または自分の意見のみ尊重し、他者の意見を抑えた）	自分の意見を発言せず、他者の意見に対する意見も発言しなかった
表現力・行動力	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自らのアイディアが活用されるなど、活動の価値の向上に大いに貢献できた	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、アイディア創出や議論の活発化を促すなど自分の役割以上の貢献を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして積極的に参加し、自分の役割を果たした	グループでの活動においてリーダーまたはフォロワーとして参加したが、自分の役割やチームへの貢献が不十分だった	グループでの活動において参加意欲が見られず、自分の役割も果たせなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 堤 美穂子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、 「デザイン思考①」理論 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認、自らの問題意識や生活の中の違和感に目を向ける (45分)	リフレクションの記載。問題意識や違和感を探索する (45分)
2	「デザイン思考①」理論振り返り、 「問題意識や違和感」個人発表、ディスカッション、グループ分け	フィードバックの確認。問題意識や違和感に気づき、個人発表の準備をする (45分)	リフレクションの記載。「問題意識や違和感」の振り返り下げ (45分)
3	「デザイン思考②」/広義のデザインについて」理論 グループディスカッション/テーマの決定	フィードバックの確認。「デザイン思考①」の復習 (45分)	リフレクションの記載。活動計画の準備 (45分)
4	「デザイン思考②」振り返り、 「テーマとその改善アイデア」についての議論	フィードバックの確認。テーマに対する改善アイデアを考えてくる (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
5	「テーマとその改善アイデア」についての発表、 活動計画の策定	フィードバックの確認。発表準備 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
6	「テーマとその改善アイデア」再検討、 「活動のアウトライン (テーマ・改善アイデア・活動計画)」発表	フィードバックの確認。活動のアウトライン発表準備 (45分)	リフレクションの記載。活動計画に基づく情報収集と調査 (45分)
7	「活動計画に基づく情報収集と調査」状況報告	フィードバックの確認。活動計画に基づく情報収集と調査報告の準備 (45分)	リフレクションの記載。情報収集と調査の継続 (45分)
8	取材活動①/準備 取材内容・要件・取材先の候補と申し入れ 取材申し入れのマナーについて (メール文面等の指	フィードバックの確認。取材活動のための準備 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
9	取材活動②/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
10	取材活動③/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
11	取材活動④/情報整理とデータ化	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
12	取材活動⑤/情報整理とデータ化の報告	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
13	デザイン作成①/個人アイデアの発表・議論・アイデア決定→作業の振り分け	フィードバックの確認。デザインアイデア発表の準備 (45分)	リフレクションの記載。割り当てられた役割・個人作業 (45分)
14	デザイン作成②/個人作業の集約・統合・プロトタイプینگ	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
15	デザイン作成③/プレゼンテーション資料の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続 (45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続 (45分)
16	プレゼンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業最終回において議論をし、フィードバックする	フィードバックの確認。プレゼンテーションの準備 (45分)	リフレクションの記載。基礎ゼミナールⅠBに向けての準備 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『誰のためのデザイン？増補・改訂版 一認知科学者のデザイン原論』	D.A. ノーマン	新曜社	2015		
2	『芸術教育シリーズ17 デザインへのまなざしー豊かに生きるための思考術 私たちのデザイン1』	早川克美	幻冬舎	2014		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドアートアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験や実績を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が、イラストレーションを制作するために必要となる素養を考え、身につけるための活動を通し、大学での学修に必要な基礎的知識、協働の姿勢、学修態度を学び取るとともに、基本的な技術、技能の習得方法を考え、実践する姿勢や方法を学ぶ取る。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
準備学習、事後学習をしっかりを行い、主体性を持って協働して学ぶ態度を身につける。 大学生活で学ぶ全般と本ゼミに於いて学ぶ技能、技術を統合してイラストレーション制作に反映する。 プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など大学で学ぶための素養を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
授業はイラストレーションを中心とした題目についての講義やディスカッション、課題制作などを行い、イラストレーション全般についての知識や技能を学び取れるよう展開していく。物の見方、形のとらえ方といった美術全般にわたる基礎基本の習得は特に力を入れる。具体的には屋外でのスケッチや、1分クロッキー、5分クロッキー、動いている物の素描、デッサンなどを行う。初めての大学生活の不安や戸惑いを解消させ、主体的に学習できるように一人一人との対話を重視し、授業を展開する。							
授業の方法							
授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで行う。必要に応じてDVDなど視聴覚メディアを適宜使用。説明後、課題制作。講評会に於いて課題のフィードバックを行う。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
立体平面に拘らず描写力をつけたい人、美術教師を目指す人、画家やイラストレーターを目指す人などを対象とする。授業の内容は履修の学生の素養に合わせ適宜変更する可能性がある。無遅刻無欠席は社会人としての素養であることを理解できていること。毎回画材を持参（F6（またはA3）以上のクロッキー帳またはスケッチブック、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系から8系まで5種類ほど）、カッター、色鉛筆）							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規定などにに基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修態度・姿勢	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。協働して学ぶ姿勢が十分に身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。協働して学ぶ姿勢が身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣としてある程度は身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学習により振り返るといった一連の流れが習慣として身に付かなかった。
描写力・技術力	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物を見る力や描写力などの基本技能が身に付き、それを自分の作品に十分反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物を見る力や描写力などの基本技能が身に付き、それを自分の作品に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物を見る力や描写力などの基本技能が身に付いた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がある程度は身に付いた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描く上で基本となる物を見る力や描写力などの基本技能が身に付かなかった。
表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付き、周囲の士気を上げることができた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が十分に身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がある程度は身に付いた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付かなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドアートアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験や実績を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明、当該科目を修了して身にきく力について、準備学習・事後学習（1分クロッキー）の説明）	シラバスを読む（45分）	自己紹介シートの作成、課題（45分）
2	自己紹介を通して自分の好みや画風その他の紹介、今後協同していく学生たちのことをよく知る、事前学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	自己紹介シートを用い発表の意マージトレーニングをする、課題（45分）	イラストレーションとは何かを調べる、課題（45分）
3	イラストレーションとは、ディスカッション、事前学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	イラストレーションとは何かシートにまとめる、課題（45分）	イラストレーションを制作する上で必要となる力を考える、課題（45分）
4	イラストレーションを制作する上で必要となる力とは、事前学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	イラストレーションを制作する上で必要となる力についてシートにまとめる、課題（45分）	課題（45分）
5	日々の取り組み課題講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
6	スケッチ・フィールドワーク1物を見る力、事前学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
7	スケッチ・フィールドワーク2構成、事前学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
8	スケッチ・フィールドワーク3要素の取捨選択、事前学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
9	日々の取り組み課題及びスケッチの講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
10	日々の取り組み課題及びスケッチの講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
11	人物素描1瞬時に形をとらえる、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
12	人物素描2バランス・骨・筋肉、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
13	人物素描3動きをとらえる、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
14	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習の内容の説明	課題（45分）	課題（45分）
15	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、事前学習・事後学習の内容の説明	課題（45分）	課題（45分）
16	日々の取り組み課題及び人物素描の講評会（フィードバック）、ディスカッション、当該科目の第1回目で示した「身につく力」の検証	課題（45分）	講評会で得られた、意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)			研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者：		赤木 良子)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標							
手で描くことを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。 実際の美術作品等を見ることを通して、美的かつ建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1, DP2, DP5 に対応する。							
到達目標							
ある程度のスケッチを描けるようになる。 ある程度の作品理解ができる。 理解したコンセプトを形にできる。							
授業全体の内容と概要							
スケッチを継続的に行なって、定期的に全員で共有する。 美術作品を見て、作品を理解する。 作品から理解したコンセプトを用いて自分の作品を制作する。							
授業の方法							
課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。 グループワーク、個人の作品制作や、課題授業を行い、作品の講評によりフィードバックする。 学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。 パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。 課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）を行なった	8割以上出来ていた。	6～7割出来ていた。	半分できていた。	3割できていた。	全く出来ていなかった。
芸術作品を理解できた（ワークシートによる評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現できていた	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格 (一級建築士、インテリアコーディネーター)			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する (45分)	自宅学習課題 (45分)
2	コミュニケーションワーク	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
3	手の演習	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
4	課題1 (演習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
5	課題2 (演習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
6	課題の共有と講評によるフィードバック	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
7	作品鑑賞 (事前学習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
8	テーマ課題1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
9	テーマ課題1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
10	テーマ課題2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
11	テーマ課題2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
12	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
13	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
14	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
15	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
16	講評によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り (事前) (45分)	学習の振り返り (事後) (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
手で描くことを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。実際の美術作品等を見ることを通して、美的かつ建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
ある程度のスケッチを描けるようになる。ある程度の作品理解ができる。理解したコンセプトを形にできる。							
授業全体の内容と概要							
スケッチを継続的に行って、定期的に全員で共有する。美術作品を見て、作品を理解する。作品から理解したコンセプトを用いて自分の作品を制作する。							
授業の方法							
課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。グループワーク、個人の作品制作や、課題授業を行い、作品の講評によりフィードバックする。 学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。 パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。 課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき1 0 分以上の遅刻に関して、遅刻 2 回を 1 回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）を行なった	8割以上出来ていた。	6～7割出来ていた。	半分できていた。	3割できていた。	全く出来ていなかった。
芸術作品を理解できた（ワークシートによる評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現できていた	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス/シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明、科目を修了して「身に付く力」について の説明	シラバスを事前に把握する (45分)	自宅学習課題 (45分)
2	コミュニケーションワーク	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
3	手の演習	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
4	課題1 (演習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
5	課題2 (演習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
6	課題の共有と講評によるフィードバック	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
7	作品鑑賞 (事前学習)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
8	テーマ課題1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
9	テーマ課題1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
10	テーマ課題2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
11	テーマ課題2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
12	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
13	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
14	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
15	課外学習 (美術館での作品鑑賞)	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
16	講評によるフィードバック、授業改善アンケートの 実施、科目を修了して「身に付く力」についての検 査	学習の振り返り (事前) (45分)	学習の振り返り (事後) (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	岡田 武志 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：岡田 武志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に着ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話することが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠA (科目ナンバリング：BAS001003)					
授業担当者 (所属・職名)	岡田 武志 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 岡田 武志)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (スポーツとの関わり)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	スポーツを考える (ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	スポーツを考える (ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	スポーツを考える (ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	スポーツを考える (ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーションの準備 1 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーションの準備 2 グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (ゴール型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (ゴール型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (ネット型競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (ネット型競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(M) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：経営学科・キャリア支援委員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。 様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実態を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。 そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習とする。 本科目を修了して、社会人になるための基礎知識を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ること、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。							
授業全体の内容と概要							
一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。							
授業の方法							
毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。 概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。 講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。 学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。 職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施する。 授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）の両方で行う期間を設定する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上とキャリアタスUCに登録すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身に付けている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を達成できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(M) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：経営学科・キャリア支援委員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(キャリアタスUC登録・この科目の内容と目的の理解・評価方法・科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	お金のセミナー 株式会社HBN 樋江井氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業レディネス・テスト①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	インターンシップについて① 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	インターンシップについて②	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	トークセッション 株式会社キャリアタス 青木氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	職業レディネス・テスト②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別企業講演①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別企業講演②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査受検 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	GPS-Academic フィードバックガイダンス ベネッセ・キャリア	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	履歴書講座 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	プレゼンテーション力講座 株式会社自然農園 瀧谷氏	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(S) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：社会福祉学科・キャリア支援委員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。

様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実態を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。

そして、自らが進路として目指す業界や分野を見つけ、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習とする。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。

概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。

講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。

学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。

職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施する。

授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）で行う期間を設定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業において、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。

授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。

遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席数は13回以上 キャリアタスクに登録済みであること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	80%	%	%	20%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「ビジネスの第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知り、その知識を基に自身の卒業後のビジョンをシミュレーションできる。」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を實踐できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね實踐できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(S) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：社会福祉学科・キャリア支援委員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション この科目の内容と目的の理解・評価方法 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバス全体を一読しておくこと（45分）	授業内容の整理（45分）
2	お金のセミナー 株式会社HBN 樋江井氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
3	職業レディネス・テスト①	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
4	インターンシップについて① 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
5	インターンシップについて②	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
6	トークセッション 株式会社キャリアタス 青木氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
7	職業レディネス・テスト②	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
10	学科別企業講演①	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
11	学科別企業講演②	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
12	SPI能力検査受検 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
13	GPS-Academicフィードバックガイダンス	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
14	履歴書講座 株式会社リクルート 吉田氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
15	プレゼンテーション力講座 株式会社自然農園 瀧谷氏	当該範囲のシラバス確認（45分）	授業内容の整理（45分）
16	授業内フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容整理と小テストの準備（45分）	全授業内容のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(D) (科目ナンバリング：S0E081054)						
授業担当者 (所属・職名)	キャリア支援委員（デザイン学科）			研究室等所在	キャリア支援委員研究室		
単位数	1		(単位認定責任者：キャリア支援委員（デザイン学科）)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。 様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。 そして、自らが進路として目指す業界や分野を見つけ、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習とする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ること、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。							
授業全体の内容と概要							
一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動に於ける重要なポイントなどを学ぶ。							
授業の方法							
毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。 概要説明は PowerPointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。 講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。 学生は毎回の講話を聴き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。 職業レディネステスト、SPI性格検査のも本授業にて実施する。 授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）の両方で行う期間を設定する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席数は13回以上 キャリアパス0Cに登録済みであること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している。」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全くできていない。	
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を達成できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識の理解が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。	
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達し、それに向けての具体的な活動を開始することができる。」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(D) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室		
単位数	1	(単位認定責任者：キャリア支援委員（デザイン学科）)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション ・科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	お金のことセミナー 税金や社会保険、求人票について	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	職業レディネス・テスト	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	インターンシップについて① インターンシップ参加に向けて	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	インターンシップについて② 大学インターンシップのご案内 インターンシップのマナーについて	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	インターンシップについて 質問トークセッション	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	職業レディネステスト フィードバック	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	社会人基礎力について①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	社会人基礎力について②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別企業講演Ⅰ	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	学科別企業講演Ⅱ	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	SPI能力検査受検	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	GPS-Academic フィードバックガイダンス	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	履歴書講座 ガクチカAIを使って経験の棚卸	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	日常で使えるプレゼン力「ブレ伝！」②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を終了して「身に付く力」についての検証	当該範囲のシラバス確認（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(A) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

就職活動に対する早期意識付けの一環として行われる授業である。様々な分野の業界で働く社会人の講話を聴くことで、様々な仕事の実際を知り、働くとはどのようなことか、生計を立てるという活動に込められた意味について具体的に学ぶ。そして、自らが進路として目指す業界や分野を見付け、それを目標としながら、まずはインターンシップに取り組むための準備学習とする。本科目を修了して、社会人になるための基礎知識を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を知り、その第一線で働く社会人たちが如何にして現在の立場に至ったのかについて知ることで、学生が卒業後のビジョンをシミュレーションし、それに向けての具体的な活動を開始するための手掛かりを得る。

授業全体の内容と概要

一般企業から公務員まで、さらには各学科の分野別に設定された内容を基にして、各種業界で働く職業人を講師として招き、その講話を通じて、業界についての詳細な情報、業界人として身に付けておくべき知識や成功の秘訣、今後のインターンシップ参加や就職活動における重要なポイントなどを学ぶ。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界、各関係者の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowePointなどにてスライドが作成され、他に配布物としてプリントや資料が用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、質問や要望などの解決に対応する。学生は毎回の講話を聞き、授業終了後にはその振り返りをレポートとして提出する。授業形態として全学科合同で学ぶ期間と学科別（分野別）で行う期間を設定する。不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各授業において、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備しておくこと。遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回であり、キャリアスVCに登録することを条件とする。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能 「社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を理解している」	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態を十分に理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態をほぼ理解している。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態の理解が不十分である。	社会で営まれる様々な公共的活動やビジネスの形態が全く理解できていない。	
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力を身に付けている」	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力が実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができる応用力が概ね実践できるレベルに到達した。	社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に臨むことができるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要とされる一般常識が不十分であり、就職活動に臨むレベルには到達していない。	社会人に必要とされる一般常識を理解できておらず、就職活動に臨む段階にない。	
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始することができる」	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルに概ね到達した。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには未だ到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できるレベルには到達していない。	就職活動を前提とし、それに向けての具体的な活動を開始できる段階にない。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	キャリア支援演習Ⅱ(A) (科目ナンバリング：S0E081054)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明オリエンテーション、しごと研究講座	シラバス全体を一読しておくこと (45分)	活動内容の整理 (45分)
2	税金や社会保険、求人票について	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
3	職業レディネステスト受験	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
4	インターンシップ参加に向けて	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
5	大学インターンシップの案内インターンシップのマナーについて	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
6	インターンシップについての質問トークセッション	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
7	職業レディネステストのフィードバック	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
8	社会人基礎力① A班：グループワーク演習 B班：コミュニケーション	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
9	社会人基礎力② A班：コミュニケーション B班：グループワーク演習	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
10	企業講演Ⅰ	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
11	企業講演Ⅱ	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
12	SPI能力検査	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
13	GPS-Academicのフィードバック	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
14	履歴書講座	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
15	企業講演Ⅲ	当該範囲のシラバスの確認 (45分)	活動内容の整理 (45分)
16	授業改善アンケートの実施 総評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業内容の振り返り (事前) (45分)	全授業内容の振り返り (事後) (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・プログ	対象学科・配当	全学科学科 1年～4年			
開講時期	通年	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択	
科目名称	地域共生（学科別）プログラム (科目ナンバリング：ARS092056)					
授業担当者 (所属・職名)	各授業担当者		研究室等所在	各授業担当者		
単位数	1 (単位認定責任者：		各授業担当者)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	星槎大学併修の為該当なし					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『各科目のシラバス参照』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	各イベントによる	イベントに係る継続的な準備（各45分）	イベントに係る継続的な整理（各45分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (科目ナンバリング：PSS122036)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健とはなにか、精神保健の諸課題に対する精神保健福祉士に必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①精神保健分野の動向と現代の課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①人間生態学における精神的健康概念について理解する。
②精神保健医療福祉の歴史と、精神障害にも対応した地域包括システムなどの現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解する。
③精神保健活動の3つの対象、精神の健康に関する心的反応について理解する。
④家族や各発達段階に関連する精神保健の課題と支援について理解する。
⑤勤労者への精神保健的課題とアプローチについて理解する。
「SDGs1. 貧困をなくそう」「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs5. ジェンダー平等を実現しよう」「SDGs8. 働きがいも経済成長も」「SDGs11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返りをMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③毎回の授業前にMicrosoft Formsを通して事前学習を提示するため、必ず確認してから授業に望む。
④授業資料の配布にMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（10点）、第16回目に実施する定期試験（90点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	10%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の實際に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ (科目ナンバリング：PSS122036)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要科目を修了して「身に付く力」についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
4	家族に関する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
5	家族に関する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
6	家族に関する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することと生じる精神保健上の課題、反復違法行為と）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
16	定期試験（60分の試験）、授業改善アンケートの実施、授業全体のフィードバックなど	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 学習上の注意点、授業改善アンケート	シラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	◇ IoTを活用した業務のDX料の研究 IoTとは 活用事例を通したIoTとDXの理解	IoTについて予習 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	◇IoTを支える技術 (1) 情報ネットワーク インターネット クラウドコン ピューティング	コンピューターネットワークとインターネット (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	◇IoTを支える技術 (2) 各種センサーとその応用	センサーの種類と特徴 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	◇IoT機器の理解 (1) 電子工作の基礎知識 電気の特性 交流と直流 LEDの利用を通して電子デバイスを理解する	電子デバイスの理解 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	◇IoT機器の理解 (2) 電子工作の基礎知識 簡単な電子工作	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	◇IoT機器の理解 (3) センサーを用いた機器の製作	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	◇IoT機器の理解 (4) 無線操作可能なIoT機器の製作	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	◇市販のIoT機器と応用利用 (1) インターネットを利用したIoT機器の利用 温度計とスイッチ	市販のIoT機器の調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	◇市販のIoT機器と応用利用 (2) センサーを利用したIoT機器の利用	市販のIoT機器の調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	◇市販のIoT機器と応用利用 (3) 複数のセンサーやデバイスを組み合わせたセキュリ ティシステムの構築	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	◇市販のIoT機器と応用利用 (3) 複数のセンサーやデバイスを組み合わせたセキュリ ティシステムの製作	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究 (1) IoT機器を活かして仮想の業務をDX化する	DXについて予習 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究 (2) IoT機器を活かして仮想の業務をDX化するには	指示された予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	◇IoT機器を活かした業務のDX化のあり方の研究 (3) IoT機器を活かして仮想の業務をDX化するには (前 発表会	指示された予習課題 (45分)	発表資料作成 (45分)
16	「IoT機器を活かした業務のDX化」 講評と採点	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらに研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が生まれ、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員			研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の基本となる重要概念を学ぶ。学んだことを知識としてた理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークを
おりませて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する
。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察すること
を演習する。演習では、個人的考察にくわえて集団討論による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する
場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象
学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学の問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学の問題としてとらえる程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用できなかった。	
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取り組めた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。	
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取り組めた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の	シラバスを読む (45分)	シラバス等の確認とまとめ (45分)
2	時間割引について	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
3	時間割引の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
4	時間割引の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
5	時間割引に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
6	インセンティブについて	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
7	インセンティブの事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
8	インセンティブの事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
9	インセンティブに関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
10	ゲーム理論について	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
11	ゲーム理論の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
12	ゲーム理論の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
13	ゲーム理論に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
15	後期学生生活z・修学の振り返り	後期の学生生活について振り返る (45分)	振り返りをまとめる (45分)
16	補講課題等へのコメント (フィードバック) 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う (45分)	演習ノートの整理 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 岡島 徳昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。 「SDG8.働きがいも経済成長も」の関連科目。 「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。							
授業の方法							
専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。 専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。 ※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不の明点を質問したりする姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることではなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	株式会社の経営体制－骨格と役割 (7) 事例研究 大学の学びとキャリア (1) 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制－骨格と役割 (8) 事例研究 大学の学びとキャリア (2) 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制－責任 (1) 役員 大学の学びとキャリア (3) 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制－責任 (2) 役員 大学の学びとキャリア (4) 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制－責任 (3) 事例研究 大学の学びとキャリア (5) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制－責任 (4) 事例研究 大学の学びとキャリア (6) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制－責任 (5) 事例研究 大学の学びとキャリア (7) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制－骨格と役割 (5) 指名委員会 等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア (8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制－骨格と役割 (6) 監査役・監 査役会 大学の学びとキャリア (9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制－骨格と役割 (7) 会計参与・ 会計監理人 就職活動の準備 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制－骨格と役割 (8) 事例研究 就職活動の準備 (2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制－骨格と役割 (9) 事例研究 就職活動の準備 (3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制－骨格と役割 (10) 事例研究 就職活動の準備 (4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制－骨格と役割 (11) 事例研究 就職活動の準備 (5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 ①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション；シラバスの説明（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力を身につける）。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	研究計画の立案①先行研究の文献調査（文献検索の方法、読み方）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	研究計画の立案②研究方法、研究倫理について	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	研究計画の立案③実験・調査依頼文の作成	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	実験・調査依頼	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	アンケート調査	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	スポーツパフォーマンス測定調査①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	スポーツパフォーマンス測定調査②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	スポーツパフォーマンス測定調査③	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	スポーツパフォーマンス測定調査④	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	調査結果のデータ分析①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	調査結果のデータ分析②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	調査結果報告資料作成①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	調査結果報告資料作成②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	調査結果報告発表①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	調査結果発表（スポーツパフォーマンスをデータから評価できる能力が身についたか検証）、調査結果に対する評価をし、フィードバックを行う。授業改	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・自分自身で行っているトレーニングの効果を検証する。 ・トレーニング内容を確立する。 陸上競技に知識と技能を身につけ指導する力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。							
授業全体の内容と概要							
主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 ・トレーニング ・新たなトレーニング方法の検証 ・レース分析 ・簡単な動作分析 など 陸上競技の基礎的な知識と技能を身につけさせる。							
授業の方法							
自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み取り組んでいく。 途中経過をゼミで発表し、意見交換を行う。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各自状態によってトレーニング内容が変わってくるため、日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニングおよびレース内容をもとに評価する。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 陸上競技の大会等結果から知識と技能を身につけたか評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	おおむね陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけた。	陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけていない力所がある	全く陸上競技の知識と技能を理解する能力を身につけていない。
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング: SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 身に付ける力の内容と授業内容とシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス (45分)	学習内容の復習 (45分)
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	トレーニング①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	トレーニング②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	トレーニング③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	トレーニング④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	トレーニング⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	トレーニング⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
- ・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。

統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。

- ・トレーニング
- ・各部活における新たな指導法
- ・ゲーム分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

- ・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
- ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	ブレ測定①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	ブレ測定②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	ブレ測定③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	ブレ測定④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	ブレ測定⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	ブレ測定⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：小林 大州介）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実遂力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	後期授業の総括・講評を行う。 授業に係る解説によるフィードバック 科目を終了して「身に付く力」の検証	後期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標																								
専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。																								
授業全体の内容と概要																								
特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。 各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。 調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業の方法																								
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>☐</td><td>プレゼンテーション</td><td>☐</td><td>グループワーク</td><td>☐</td><td>フィールドワーク</td><td>☐</td><td>P B L</td></tr><tr><td>☐</td><td>模擬授業</td><td>☐</td><td>ロールプレイ</td><td>☐</td><td>調査学習</td><td>☐</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>☐</td><td>ディスカッション</td><td>☐</td><td>実験・実習・実技</td><td>☐</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L	☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業	☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L																	
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業																	
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。 担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 11 回以上。					

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1 「特別支援学校教育についてのディスカッション」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	担当教員による授業2 「後期の演習及び研究についての説明と協議」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	担当教員による授業3 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	担当教員による授業4 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	担当教員による授業5 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	担当教員による授業6 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	担当教員による授業7 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	担当教員による授業8 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	担当教員による授業9 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	担当教員による授業10 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	担当教員による授業11 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	担当教員による授業12 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	担当教員による授業13 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	担当教員による授業14 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括 専門演習ⅠBのまとめ（発表） 演習の講評・フィードバック	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
こども・高齢・障害分野に興味関心を持ち、文献を調べる方法を理解する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。							
授業全体の内容と概要							
「専門テーマ：「自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 専門演習ⅠAから継続する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・専門演習ⅠAから継続して受講。 ・不測の事態不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 ・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回以上とするが全回出席が望ましい。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実現したい内容の意見	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。 ②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。 ③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。 ④コミュニケーション能力などの向上を図る。							
授業全体の内容と概要							
①授業のSW話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。 ②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。 ③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。 ④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々な授業形態を行う。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	現場見学（福祉サービス事業所） シラバスの説明、科目を終了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	現場見学（福祉サービス事業所）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	現場見学（精神科診療所）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	現場見学（精神科診療所）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	現場見学振り返り（福祉サービス事業所）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	現場見学振り返り（精神科診療所）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	現場見学振り返り（地域活動支援センター）	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	卒業論文準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	卒業論文準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	卒業論文準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	卒業論文準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	卒業論文準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	まとめ	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括 科目を終了して『身に付く力』についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

「専門演習ⅠB」の目的は、知的トレーニングを積み重ねてくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探索する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。

・個々の学生がそれぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。

・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。

・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。

・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ⅠA」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習ⅡAB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むたに、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になったっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための草立てができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の意見を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	調査活動準備①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	調査活動準備②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	調査活動実施①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	調査活動実施②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	調査活動実施③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	調査活動実施④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	調査活動振り返り①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	調査活動振り返り②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	調査活動振り返り③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	調査活動振り返り④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	調査活動振り返り⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	調査活動まとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	調査活動まとめ②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	調査活動まとめ③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	調査報告会、総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表のスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日の課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ⅠA」を担当した教員が後期の「専門演習ⅠB」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日の課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	50%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（活動の目的、方法、活動計画等） 前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認 各自の追究するテーマ、内容等（概要）の確認1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	各自の追究するテーマ、内容等（概要）の確認2 調査研究等の各自の研究デザイン（期間、内容、方法等）の確認1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	調査研究等の各自の研究デザイン（期間、内容、方法等）の確認2 各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、 整理2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、 整理3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、 整理4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	各自の研究デザインに基づく文献研究と情報収集、 整理5	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
9	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	文献研究と情報収集、整理した内容等の全体報告資料の作成3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	プレゼン資料による全体報告会1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	プレゼン資料による全体報告会2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	後期の振り返りと今後の取組への方針	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	今後のまとめに向けた確認1	全体の振り返り (45分)	全体の振り返りと今後のまとめに向けた確認 (45分)
16	今後のまとめに向けた確認2	全体の振り返り (45分)	全体の振り返りと今後のまとめに向けた確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標							
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP 1，DP 2，DP 3，DP 4，DP 5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。 各自が関心を持つ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。 調査研究や文献研究の方法、情報の整理や要約の仕方について、自ら積極的に取り組む。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
・各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。 ・Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 ・「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 ・大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 ・後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	1 0 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門演習ⅠBのまとめ（発表） 科目を修了して「身に付ける力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

概要

履修目標							
卒論準備（アカデミック・シンキング）の基礎理解をおこなう。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。 学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。							
授業全体の内容と概要							
・専門ゼミ初年度の1年間を通して、アカデミック・シンキングを学修する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。 ・次の①から④について段階的理解をすすめる。 ①学術論文のスタイルを確認する。 （書く作業のなかで思考を深める。先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ） ②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて 図書館情報館レファレンスサービスを受け取寄せる。 ③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。 社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。 ④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。 （定義を確認する、比較する、相違点や類似点を見つける）							
授業の方法							
社会福祉学科Teams「2025年度 専門演習Ⅰ履修方法」（2025年2月投稿）には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」がある。アカデミック・シンキングのための文献精読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースバケット利用が可能になる。 コースバケットは、履修学生に必要なと思われる教材資料など、以下のものをまとめたものである。 準備学習に必要な教材（論文コピー、報告書など）、課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料） 授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報、授業者への相談質問のための案内							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえた。問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集して確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な前立の構成である。学術論文の引用が明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなく、改善の余地があった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理解」である引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割は、他のおもむね理解して協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、他のおもむね理解して行動をおこなうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック・シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
3	アカデミック・シンキング基礎2（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
4	アカデミック・シンキング基礎3（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
5	アカデミック・シンキング基礎4（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
10	文献講読1（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
11	文献講読2（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
12	文献講読3（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
13	文献講読4（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
14	文献講読4（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
15	文献講読5（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	資料の読解（４５分）	次年度への課題設定（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	鹿応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直しガイド」』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
2	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	希望テーマに沿った文献収集	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒論テーマ決定のための準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマ決定のための準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマ決定のための準備	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括、講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標							
心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、調査、実験、ディスカッションなど通して獲得する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できた	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート路執筆できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅠB (科目ナンバリング：SEM133146, SEM433087,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」の 説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ生による発表とディスカッション1	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	ゼミ生による発表とディスカッション2	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	ゼミ生による発表とディスカッション3	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	ゼミ生による発表とディスカッション4	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	ゼミ生による発表とディスカッション5	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	ゼミ生による発表とディスカッション6	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	ゼミ生による発表とディスカッション7	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	ゼミ生による発表とディスカッション8	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	ゼミ生による発表とディスカッション9	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	ゼミ生による発表とディスカッション10	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	ゼミ生による発表とディスカッション11	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	ゼミ生による発表とディスカッション12	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	ゼミ生による発表とディスカッション13	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	ゼミ生による発表とディスカッション14	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括（卒業研究に向けて、各学生の研究進捗状況への 個別のフィードバック） 科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	必修/高・美	
科目名称	基礎デザインII (科目ナンバリング：DES211017)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 デザインとは？授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	課題1 グラフィック デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	課題1ロゴ デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	課題2ロゴ デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	課題2ロゴ デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	課題3ロゴ デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	課題3ロゴ デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	課題3ロゴ デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	課題プロダクト1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	課題プロダクト2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	課題プロダクト2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	課題プロダクト3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	課題プロダクト3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	プレゼンテーション、デザイン概念 総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目 を修了して『身に付く力』についての検証。	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在		2号館5階	
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
本授業に於いては、現代社会に於いて必要とされるであろう各種視覚情報メディアについて、その効果的な利用法と高度な演出を学び、実際のビジネス案件に携われる能力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数運用し、効果的な情報提供を行うための企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。							
授業の方法							
効果的なメディアミックスを企画立案し、設計・制作し発表する。 各種メディアや情報形態に關しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された作品の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に關した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品の完成度を高めるために必要な視覚効果と演出が意図して十分に取り入れられ成功している。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が意図して十分に取り入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が取り入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が不十分である。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が見られない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザーサビリティを考えた設計に至っており、成功している。	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザーサビリティを考えた設計に至っている。	提出された作品が社会性・公共性を意図しており、ユーザーサビリティを考えた部分が見られる。	提出された作品が社会性・公共性を意図しきれておらず、ユーザーサビリティに対する考え方が不十分である。	提出された作品に社会性や公共性が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認。（４５分）	専門研究ⅠAの内容を再確認。（４５分）
2	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・再構成の検討 ・再案の検討	シラバスの確認。（４５分）	専門研究ⅠAの内容を再確認。（４５分）
3	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・年間計画（後期）の完成	年間計画（後期）作成。（４５分）	授業内容の整理。（４５分）
4	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・年間計画（後期）の完成	年間計画（後期）作成。（４５分）	授業内容の整理。（４５分）
5	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
6	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
7	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
8	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
9	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
10	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
11	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	授業内容の継続。（４５分）
12	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
13	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
14	研究内容を前提とした情報の視覚化を行う	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
15	中間発表③	発表準備。（４５分）	情報の視覚化についての考察（４５分）
16	中間発表③	発表準備。（４５分）	情報の視覚化についての考察（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
18	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
19	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
20	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
21	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
22	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
23	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
24	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
25	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
26	研究内容のプレゼンテーション	研究活動。（４５分）	研究活動。（４５分）
27	最終発表	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
28	最終発表	発表準備。（４５分）	研究内容の考察。（４５分）
29	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計③	研究内容の記録と整理。（４５分）	研究内容の記録と整理。（４５分）
30	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計①	研究内容の記録と整理。（４５分）	研究内容の記録と整理。（４５分）
31	専門研究Ⅰのまとめと次年度の課題	次年度構想。（４５分）	次年度構想。（４５分）
32	授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	次年度構想。（４５分）	次年度構想。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者：安田祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査員歴任等			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
1,2年次に身につけた基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを作品に展開すること。授業の展開の仕方は、専門研究ⅠAと変わりが無いが、復習をしながら、さらに深く研究することを目標とする。専門研究ⅠBにおいて制作する作品は新たなものとする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
基礎的な素養を礎に、各々の履修者の感性や思いを、専門研究ⅠAで創り上げた作品より、さらに表現力のある作品として示すこと。							
授業全体の内容と概要							
基礎的な点についての復習を行いながら、各々の履修者の感性や思いを表現するに最も相応しい技法や材料について、さらに深く模索し作品にまとめ上げること。また、それらの作品を外部に、積極的に発表し、第三者による評価を受け、各々のそれからの制作の糧とすること。							
授業の方法							
各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドバイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。 http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を創り上げること。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	社会状況を把握し自らの願いや理想について充分に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてほぼ表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想についてある程度に表現できている。	社会状況を把握し自らの願いや理想について不十分なから表現できている。	社会状況を把握して居ず自らの願いや理想について表現できていない。
技法や材料について	自らの表現意図に応じた技法や材料を充分に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をほぼ的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確というには難があるものの自らの判断で選択した制作をしている。	自らの表現意図に応じた技法や材料を的確に選択した制作をしていない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等を十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をほぼ十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等をある程度に十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を不十分なから捉えて制作している。	面や立体感や空間感等を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	安田祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：安田祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査員歴任等			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション-授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をおす。(45分)	1,2年次までに修得した技法や材料等について復習する。(45分)
2	作品の構想の練り方について	構想の練り方について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し構想の方法を検討する。(45分)
3	構想の取りまとめについて一大きさや形を主に	表現の意図に照らし相応しい支持体の大きさとかたちについても検討する。	本時の授業での講義も参照し支持体の大きさとかたちについて確定する(45分)
4	構想の取りまとめについて一構図を主に	構図について、他者の方法を参照し、予め学習する。	本時の授業での講義も参照し、構図についても検討する。
5	構想の取りまとめについて一色彩調和を主に	表現の意図に照らし、色の感情について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、表現の意図に相応しい配色を検討する。(45分)
6	構想の取りまとめについて一質感を主に	質感の表現法について、他者の方法を参照し、予め学習する。(45分)	様々の情報をもとに、自らの作品の構想を取りまとめる。(45分)
7	転写の仕方について	構想を下絵として取りまとめ、転写の方法について、他者の方法を参照しながら、最も相応しいものを検討する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、転写の方法についても検討する。(45分)
8	転写作業について	転写に必要な用材をあらかじめ準備する。(45分)	本時の授業での作業に不備がないかを点検する。(45分)
9	転写作業の仕上げについて	前時の授業での作業に不備がないかを点検し、あればその箇所を明確化する。(45分)	本時の授業で終えた転写作業に不備がないかを点検する。(45分)
10	下描きの仕方について	表現の意図に照らし、最も相応しい用材を予め用意する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作に最も相応しい下描きの方法を検討する。(45分)
11	下描き一大まかな面の把握を主に	大づかみの描写、面の把握について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	細部にこだわり過ぎていないか、作品の骨格が捉えられているかを点検する。(45分)
12	下描き一立体感や空間感の表現を主に	立体感や空間感の表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	立体感や空間感の表現について、不備がないかを点検する。(45分)
13	下描き一本描きに及ぼす効果を主に	絵画は、いくつもの絵具の層によって形成され、下層が上層に影響を及ぼす点について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	下描きに用いた絵具が、本描きの絵具の層に及ぼす影響を勘案し、自作について点検する。(45分)
14	下描き一本描きに及ぼす効果-とりわけ色彩を主に	それぞれの絵具の被覆力や透明性について、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、上描きに用いる絵具について検討する。(45分)
15	下描き一本描きに及ぼす効果-とりわけ質感を主に	絵具の粘度や厚みや筆触等による質感表現について、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの制作での質感表現について計画を立てる。(45分)
16	下描き一仕上げ	下描きの本描きに及ぼす影響を総合的に考え下描きの仕上げに備える。(45分)	下描きを上描きにどのように活かすかについて計画を立てる。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	中間発表会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	教師や他の学生からのアドバイスを参照し、これからの制作にどのようにそれらを反映させるかについて計画を立てる。(45分)
18	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に1	絵具の被覆力や透明性を勘案し自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
19	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に2	細部にこだわることなく、大きな骨格を捉えることについて、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
20	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に3	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	それぞれの面の明度とそれら相互の差-コントラスト-について点検する。(45分)
21	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に4	色値-ヴァルルー-について、他者の作品を参照するなどして、予め学習する。(45分)	画面に飛び出て見える箇所がないか、穴が開いて見える箇所がないかについて点検する。(45分)
22	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に5	それぞれのモチーフの前後関係や隔たり感が的確に表現されつつあるかを点検する。(45分)	本時の授業での制作を振り返り足りない箇所や過剰な箇所がないかを点検する。(45分)
23	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一大まかな面の把握を主に6	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
24	中間発表会2	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
25	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に1	他の技法も取り入れた混合技法について、他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	技法だけでなく、絵具の濃度や展色剤に手を入れる方法についても学習する。(45分)
26	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に2	べた塗り、点描、ハッチング等の筆触-タッチ-についても他者の作品を参照して、予め学習する。(45分)	質感を表現する上で、筆触や絵具の厚み等の及ぼす効果について検討する。(45分)
27	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に3	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
28	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に4	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に5	作品に込めたものを表現できつつあるかを点検する(45分)	表現の意図をゆがめたり阻害したりする箇所の有無を点検する。(45分)
30	本描き一立体感、空間感、質感、色彩調和等を勘案しながら一細部の描出を主に6	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点はないかを点検する。(45分)	本時の授業までの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
31	合評会1	教師や他の学生から、どの点についてのアドバイスを受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化する。(45分)
32	合評会2、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる	絵画作品を制作することの意義について感がる。(45分)	他の学生たちのそれぞれの作品の良さについて、また、自らの作品とこれまでの制作について文章化する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング: SEM233089)				
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 デザイン事務所 3年 国際企業で得た、経験、実績を持ってプロダクトデザイン全 般を指導します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
プロダクトデザイナーに成る事。						
授業の位置づけ						
デザイン学科のDP1、DP2, DP3、DP4に対応する。						
到達目標						
プロダクトデザイナーとしてモノの本質を見極める力、問題点や改善点を探求する力、それらを見直して自らオリジナルの解答（デザイン）を創造できる力、自分のデザインを第三者に伝える力を身に着ける。						
授業全体の内容と概要						
現状の問題点抽出の為、マーケットリサーチを行い、気づき、切り口を持って、オリジナルのデザインを行う。それらを第三者に伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける。第三者からのフィードバックを受けて、更にデザイン改良を行う。 写真機材も使用して表現を拡げる。						
授業の方法						
各種マーカー、PMパッドA3、鉛筆、色鉛筆、サインペン、白鉛筆、PC（フォトショッブ、イラストレーター）ICT利用。 写真機材						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の為の最低出席回数は22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点を見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しかつた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを十分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	3年生			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 国際企業で得た、経験、実績を持ってプロダクトデザイン全 般を指導します。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。45分	市場調査を行う。45分
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
3	市場で何が起きているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。45分	市場調査を行う。45分
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。45分	仮説をまとめる。45分
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。45分	第三者からの意見を考察する。45分
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。45分	アイデアを考察。45分
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
12	デザインプレゼンテーション1	アイデアを考察。45分	第三者からの意見を取り入れる。45分
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。45分	アイデアを考察。45分
14	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
15	デザインスケッチ	アイデアを考察。45分	アイデアを考察。45分
16	デザインプレゼンテーション2	アイデアを考察。45分	第三者の意見を考察。45分

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザインスケッチ、写真撮影	第三者の意見を考察。45分	第三者の意見を考察。45分
18	デザインスケッチ、写真撮影	第三者の意見を考察。45分	アイデアを構築。45分
19	デザインスケッチ、写真撮影	アイデアを構築。45分	アイデアを構築。45分
20	レンダリングスタート	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
21	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
22	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
23	レンダリング	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
24	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
25	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
26	プレゼンパネル作成	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
27	プレゼンパネル作成、写真撮影	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
28	プレゼンパネル作成、写真等を効果的に使用する。	プレゼンボードの構成を考える。45分	プレゼンボードの構成を考える。45分
29	プレゼンテーション	まとめ45分	まとめ45分
30	プレゼンテーション	まとめ45分	まとめ45分
31	プレゼンテーション、バックアップ	まとめ45分	第三者の意見を聞く、まとめる45分
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。 科目を修了して『身に付く力』についての検証。	まとめ45分	振り返りまとめ45分

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング: SEM233089)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標						
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。						
授業の位置づけ						
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
自律して制作を行う事が出来る。						
授業全体の内容と概要						
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究1Bでも、引き続き自らスケジュールを管理して、制作を行う事が目標である。						
授業の方法						
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○
						PBL
						反転授業
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 研究ノートを提出する事。 作品を1点以上完成させる事。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を2つ、または1つより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週2回（8時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週1回（4時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務、 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、 作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
2	活動計画	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
3	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
4	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
5	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
6	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
7	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
8	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
9	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
10	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
11	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
12	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
13	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
14	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
15	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
16	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
18	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
19	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
20	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
21	チュートリアル3	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
22	チュートリアル3	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
23	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
24	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
25	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
26	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
27	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
28	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
29	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
30	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。 適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。 自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。 自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。 卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。							
授業全体の内容と概要							
前期で学んだ基礎を活かし、具体的な作品制作に取り組む。 フィードバックを通じ、自分のアイデアを繰り返し直すプロセスを学び、クリエイティブな試行錯誤を重ねる。 中間制作、フィードバックセッション、作品の改良。							
授業の方法							
授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。 アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。 個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。 学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業を有意義にするための自覚を求める。 自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。 責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は8割以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：		三上 いずみ)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業の概要説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと（45分）	配布資料の確認（45分）
2	前学期の振り返りとテーマの再設定 新しいリサーチ計画の立案	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
3	前学期の振り返りとテーマの再設定 新しいリサーチ計画の立案	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
4	前学期の振り返りとテーマの再設定 新しいリサーチ計画の立案	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
5	新たなテーマに基づく初期リサーチの開始	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
6	新たなテーマに基づく初期リサーチの開始	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
7	新たなテーマに基づく初期リサーチの開始	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
8	新たなテーマに基づく初期リサーチの開始	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
9	リサーチ結果を元にしたコンセプトの強化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
10	リサーチ結果を元にしたコンセプトの強化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
11	リサーチ結果を元にしたコンセプトの強化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
12	リサーチ結果を元にしたコンセプトの強化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
13	レファレンス分析とそれに基づく制作計画の具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
14	レファレンス分析とそれに基づく制作計画の具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
15	レファレンス分析とそれに基づく制作計画の具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
16	レファレンス分析とそれに基づく制作計画の具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	作品制作の開始とフィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
18	作品制作の開始とフィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
19	作品制作の開始とフィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
20	作品制作の開始とフィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
21	制作の進行と作品の調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
22	制作の進行と作品の調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
23	制作の進行と作品の調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
24	制作の進行と作品の調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
25	プレゼンテーション資料の作成とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
26	プレゼンテーション資料の作成とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
27	プレゼンテーション資料の作成とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
28	プレゼンテーション資料の作成とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
29	最終プレゼンテーションの実施と成果の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
30	最終プレゼンテーションの実施と成果の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	完成後の考察（45分）
31	最終プレゼンテーションの実施と成果の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
32	講評・授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

論文執筆に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を、文献講読、調査、ディスカッション等実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分の研究テーマに関する専門用語などの知識や、論文を作成するための基礎的な学力（分析・調査能力など）を身につける。

自分の興味関心から研究テーマを深め、研究計画を作成する力を身につける。

自分の考えを適切に他者に伝えられる論文を執筆する表現力を身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

授業では文献講読やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。

授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

その他のデザイン学科のゼミとは異なり、卒業論文執筆を目指す学生のためのゼミである。オリエンテーション時の説明を聞いたうえで、事前の面談により所属を決定する。

研究内容に合わせて、講読する文献を選び分析・調査方法の検討を行う。

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。

個人発表では、自らの研究テーマについて短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。

授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２２回以上とする。					
</					

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究計画の作成	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点からテーマを考察し、研究計画を作成できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分なりの研究計画を作成できた。	研究計画を作成することができた。	研究計画を作成することができなかった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を超えて、独自性のある調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を超えて、必要な調査や分析ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（論文執筆能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点を提示し、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を記述し他者と意見交換をすることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガ研究者として論文執筆や展覧会実施などの経験を持つ教員が実務経験を生かして授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	研究計画 (1) : テーマを考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
3	研究計画 (2) : 題材を考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
4	研究計画 (3) : 研究方法を考える	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
5	研究計画 (4) : 研究のスケジュールを検討する	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
6	先行研究の調査・文献講読 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
7	先行研究の調査・文献講読 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
8	先行研究の調査・文献講読 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
9	先行研究の調査・文献講読 (4)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
10	先行研究の調査・文献講読 (5)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
11	先行研究の調査・文献講読 (6)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
12	先行研究の調査・文献講読 (7)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
13	題材に関する調査・分析 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
14	題材に関する調査・分析 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
15	題材に関する調査・分析 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
16	題材に関する調査・分析 (4)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田晩生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』	山田奨治	ミネルヴァ書房	2017	9784623079421	
3	『マンガ・スタディーズ』	吉村和真、ジャクリーヌ・ベル ント編	人文書院	2020	9784409001134	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	題材に関する調査・分析 (5)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
18	題材に関する調査・分析 (6)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
19	題材に関する調査・分析 (7)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
20	ディスカッション／個別指導 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
21	ディスカッション／個別指導 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
22	ディスカッション／個別指導 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
23	ディスカッション／個別指導 (4)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
24	論文の書き方 (1)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
25	論文の書き方 (2)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
26	論文の書き方 (3)	学習内容に沿って事前準備を行う (4 5分)	各自研究を進める (4 5分)
27	論文の書き方 (4)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
28	個人発表 (1)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
29	個人発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
30	個人発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	各自研究を進める (4 5分)
31	個人発表のフィードバック 研究計画を再考する	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	これまでの授業の復習をおこなう (4 5分)
32	まとめ 専門研究ⅡAに向けて 授業アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	これまでの授業の復習をおこなう (4 5分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて、作品制作を通して問題解決能力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得する。

授業全体の内容と概要

探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。

授業の方法

授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見直しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習と事後学習を欠かさず行うこと

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能、画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。美術の基礎基本を強固にできたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力 テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性 研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (パレオアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスの確認 (45分)	課題 (45分)
2	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
3	研究1試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
4	研究2試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
5	研究3試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
6	研究4試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
7	中間報告書作成1	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
8	中間報告1ディスカッション	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
9	中間報告2	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
10	研究5試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
11	研究6試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
12	研究7試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
13	研究8試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
14	中間報告書作成2	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
15	中間報告3ディスカッション	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
16	中間報告4	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究9試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
18	研究10試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
19	研究11試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
20	研究12試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
21	研究13試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
22	研究14試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
23	研究15試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
24	研究16試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
25	研究17試作、習作、実験、作品 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
26	研究報告書作成3	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
27	研究報告書作成4	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
28	講評会 (フィードバック) プレゼンテーション1発表と質疑応答	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
29	講評会 (フィードバック) プレゼンテーション1発表と質疑応答	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
30	講評会 (フィードバック) プレゼンテーション2修正し再発表	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
31	次年度の研究テーマについて	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
32	専門研究Ⅰまとめ 次年度の課題 当該科目の第1回目に示した身につく力の検証	授業内容継続 課題 (45分)	専門研究Ⅱに向けて準備 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 堤 美穂子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題 の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
現代社会の視覚情報伝達メディアにおいて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
本授業は、現代社会において必要とされる各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、実践を想定したシミュレーションが可能な能力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特定の情報を社会に提供する手段として適切なメディアを単体もしくは複数運用し、効果的な情報提供を行うための企画・設計段階を重視したデザインワークを行う。 「SDGs.1〜17」の関連授業。							
授業の方法							
効果的なメディアミックスを企画立案し、設計・制作し発表する。 各種メディアや情報形態に關しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。 制作に必要なアプリケーションの操作方法については、授業で活用できるよう事前にアプリケーションが提供するチュートリアル等で習得しておく。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自主的かつ対外的な活動を多く求められるため、学外と積極的にコミュニケーションを行う必要がある。 各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識と技術両面の向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容であり、知識又は技術のいずれかの向上を意識したものになっている。	提出された作品が視覚情報伝達を主体とした内容である。	提出された作品の視覚情報伝達に関する内容が不十分である。	提出された課題が視覚情報伝達に關した内容になっていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品の完成度を高めるために必要な視覚効果と演出が意図して十分に取入れられ成功している。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が意図して十分に取入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が取り入れられている。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が不十分である。	提出された作品の完成度を高めるための視覚効果と演出が見られない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザーサビリティを考えた設計に至っており、成功している。	提出された作品が社会性・公共性を意図しておりユーザーサビリティを考えた設計に至っている。	提出された作品が社会性・公共性を意図しており、ユーザーサビリティを考えた部分が見られる。	提出された作品が社会性・公共性を意図しきれておらず、ユーザーサビリティに対する考え方が不十分である。	提出された作品に社会性や公共性が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅠB (科目ナンバリング：SEM233089)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 堤 美穂子)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認。(45分)	専門研究ⅠAの内容を再確認。(45分)
2	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・再構成の検討 ・再案の検討	専門研究ⅠAの内容を再確認。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
3	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・作業工程の変更確認 ・年間計画(後期)の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
4	専門研究ⅠAからの引継ぎ事項について ・年間計画(後期)の完成	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
5	情報の視覚化① ・メディアの検討	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
6	情報の視覚化① ・メディアの検討	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
7	情報の視覚化② ・設計内容とボリュームの試案	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	修正事項の確認。(45分)
8	情報の視覚化② ・設計内容とボリュームの試案	修正事項の確認。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
9	情報の視覚化③ ・作品構成の試案	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
10	情報の視覚化③ ・作品構成の試案	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
11	情報の視覚化④ ・設計図の試案	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
12	情報の視覚化④ ・設計図の試案	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。修正事項の確認。(45分)
13	情報の視覚化④ ・設計図の完成	フィードバックの確認。修正事項の確認。(45分)	プレゼンテーションの完成(45分)
14	情報の視覚化④ ・設計図の完成	次年度計画の試案。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
15	情報の視覚化⑤ ・設計図のプレゼンテーションと質疑応答	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続又は質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)
16	情報の視覚化⑤ ・設計図のプレゼンテーションと質疑応答	授業内容の継続又は質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)	リフレクションの記載。質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	情報の視覚化⑥ ・設計図の修正	フィードバックの確認。質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)	授業内容の継続。(45分)
18	情報の視覚化⑥ ・設計図の修正	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
19	情報の視覚化⑥ ・作品(メディア)の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
20	情報の視覚化⑥ ・作品(メディア)の作成	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
21	情報の視覚化⑥ ・作品(メディア)の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
22	情報の視覚化⑥ ・作品(メディア)の作成	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
23	情報の視覚化⑦ ・作品(メディア)のデータ確認	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
24	情報の視覚化⑧ ・作品(メディア)の追加・修正	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続。(45分)
25	情報の視覚化⑨ ・作品(メディア)の完成～提出	フィードバックの確認。授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
26	プレゼンテーション① ・発表と質疑応答	授業内容の継続。(45分)	リフレクションの記載。授業内容の継続又は質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)
27	プレゼンテーション① ・発表と質疑応答	フィードバックの確認。授業内容の継続又は質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)	質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)
28	プレゼンテーション② ・修正事項を基にした再発表	質疑応答を踏まえた追加修正。(45分)	リフレクションの記載。発表内容の記録と整理。(45分)
29	プレゼンテーション② ・修正事項を基にした再発表	フィードバックの確認。発表内容の記録と整理。(45分)	発表内容の記録と整理。(45分)
30	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計①	発表内容の記録と整理。(45分)	リフレクションの記載。次年度構想の継続。(45分)
31	次年度の研究テーマについて ・構想と仮設計②	フィードバックの確認。次年度構想の継続。(45分)	次年度構想の継続。(45分)
32	専門研究Ⅰのまとめと次年度の課題 科目を修了して「身に付く力」についての検証	次年度構想の継続。(45分)	リフレクションの記載。専門研究Ⅱに向けての準備。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築設計演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT312004)					
授業担当者 (所属・職名)	日野 桂子 (建築学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：日野 桂子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりの持ちて設計、監理をしています。その実 務の経験から建築設計の手法を伝える。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 授業の進め方と課題提出までのスケジュール。実務	シラバスを読んでおくこと (45分)	レポート作成 (45分)
2	住宅建築 (または美術館) 1 設計課題。大学生の 自分の家または推薦するアーティストの美術館 配 置計画、ゾーニング、エスキスチェック	レポート作成 (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
3	住宅建築 (または美術館) 2 設計課題。大学生の 自分の家または推薦するアーティストの美術館 配置 図、平面図、立面図、断面図 エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
4	住宅建築 (または美術館) 3 設計課題。大学生の 自分の家または美術館 配置図、平面図、立面図、 断面図 作図チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
5	住宅建築 (または美術館) 4 設計課題。大学生の 自分の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図 チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
6	住宅建築 (または美術館) 5 設計課題。大学生の 自分の家または美術館 配置図、平面図、立面図、 断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
7	住宅建築 (または美術館) 6 設計課題。大学生の 自分の家または美術館 配置図、平面図、立面図、 断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
8	住宅建築 (または美術館) 7 課題提出 講評会に よるフィードバック	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと (45分)	レポート作成 (45分)
9	住宅建築8 設計課題。自分が設計に取り入れたい 建築物のレポート提出。中間領域のある家族の家 配置計画、ゾーニング エスキスチェック	レポート作成 (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
10	住宅建築9 設計課題。 中間領域のある家族の家 配置計画、ゾーニング エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
11	住宅建築10 設計課題。 中間領域のある家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
12	住宅建築11 設計課題。 中間領域のある家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
13	住宅建築12 設計課題。 中間領域のある家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェッ ク	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
14	住宅建築13 設計課題。 中間領域のある家族の家 配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェッ ク	与えられた課題の構想を考えると (45分)	与えられた課題に取り組むこと (45分)
15	住宅建築14 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと (45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと (45分)
16	授業改善アンケートの実施 最終回において課題提出物に対して評価しフィード バック。	教員のフィードバックに対する準備をしておくこと (45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅱ (科目ナンバリング：AHD321040)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 （単位認定責任者：安藤 淳一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。履修学生は、空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDFP3, DP4, DP5に対応する。

到達目標

立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとこなう。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現、後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成し提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 (工業) 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をとおね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。	
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおねできた。	スケジュール管理ができなかった。	
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること、そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	建築表現Ⅱ (科目ナンバリング：AHD321040)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 安藤 淳一)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	立体構成1（壁）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	立体構成2（床）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（壁・床）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	立体構成3（タワー）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	立体構成4（スカイハウス）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（タワー・スカイハウス）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	立体構成5（サイコロの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	立体構成6（建築模型の製作1） 建築模型とは	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	立体構成6（建築模型の製作2） 建築模型の作り方	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（建築模型）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
13	プレゼンテーション（建築模型の写真撮影）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	プレゼンテーション（プレゼンテーションパネルの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（プレゼンテーションパネル）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられる。履修学生は、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんのこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。	
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。	
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 善太郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。	
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。	
研究に取組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案し、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：		佐藤 善太郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすることができること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを見つけ出すため、建築学から興味・関心のある分野に関する内容を理解する。	研究テーマを積極的に見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができた。	研究テーマをほぼ自力で見つけ出すことができた。	研究テーマをおおむね自力で見つけ出すことができた。	研究テーマを見つけ出すことができなかった。
研究テーマ探求のための資料収集と整理をする。	資料を積極的に収集することができた。	資料を自力で収集することができた。	資料をほぼ自力で収集することができた。	資料をおおむね自力で収集することができた。	資料を収集することができなかった。
研究テーマを決定する過程でのディスカッションとプレゼンテーションをする。	研究テーマについて積極的にディスカッションできた。	研究テーマについてディスカッションできた。	研究テーマについてほぼディスカッションできた。	研究テーマについておおむねディスカッションできた。	研究テーマについてのディスカッションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括として講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案し、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：君 興治）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。	
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。	
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行ってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えたと共に、論考・提案できる能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。	
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。	
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案し、修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行ってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅱ」は、建築学修得の集大成、および卒業後の進路に大きく関わる4年次の「卒業研究」につながる科目として位置付けられ、各自が興味・関心のあるテーマについてより専門的な学習を行う。したがって、「卒業研究」を意識したプログラムの下に、研究テーマの選択、既往研究や事例の検索、文献・資料収集の手順等を身に付け、研究・調査・実験に着手できる環境を整えと共に、論考・提案できる能力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野を理解し、各自が進めるべく研究テーマを明確にすること、そのための基礎的な知識と考え方を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマに関わる資料をもとに学習する。	研究テーマについて積極的に個人で学習できた。	研究テーマについて個人で学習できた。	研究テーマについてほぼ個人で学習できた。	研究テーマについておおむね個人で学習できた。	研究テーマについて学習できなかった。
研究テーマに関わる学習の進捗状況を説明する。	学習の進捗状況を各段階に分けて説明できた。	学習の進捗状況を説明できた。	学習の進捗状況をほぼ説明できた。	学習の進捗状況をおおむね説明できた。	学習の進捗状況を説明できなかった。
研究に取り組むための計画・スケジュールを立案する。	計画・スケジュールを立案，修正できた。	計画・スケジュールを立案できた。	計画・スケジュールをおおむね立案できた。	計画・スケジュールをほぼ立案できた。	計画・スケジュールを立案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅱ (科目ナンバリング：SEM333085)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員			研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：)			指導教員	CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング：MAN413012, MAN523037)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照のこと。					

概要

履修目標

本講義の対象学年は1年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方等を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。科目を修了して、中小企業における基礎知識と大学生としての基本を身に付けることを期待する。

授業の位置づけ

経営学科のDP 1、DP 3、DP 4 に対応する。

到達目標

本講義の達成目標は、①企業という組織を理解している。②中小企業の特徴について述べることができる。③中小企業の問題点を述べるができる。④中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べるができる。⑤これからの中小企業について自分の視点から述べるができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には、中小企業の経営、経営革新、下請け構造、労働、金融などにポイントを絞り、事例考察などを織り交せたカリキュラム構成にしている。但し、学生の理解度に応じて、カリキュラムは、適宜、変更する場合がある。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。講義の際、筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%については、講義ノートの評価とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を 含み、論理性の優れた文章 を書いていた。	講義で学んだ内容を理解し た上で、自分の言葉で論理 的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解し た上で、自分の言葉で書い ていた。	講義で学んだ内容が書かれ ていた。	読み手に内容が伝わらな かった。
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した 上で、講義で学んだ考え方 を活用して、大企業との比 較の中で、中小企業の特徴 を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した 上で、講義で学んだ中小企 業の特徴を3つ以上述べる 事ができた。	中小企業の定義を理解した 上で、講義で学んだ中小企 業の特徴を最低1つでも述 べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を 理解していた。	そもそも中小企業とは何か を理解していなかった。
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用し て、中小企業の課題につい て、業種別に課題を述べる 事ができた。	講義で学んだ手法を活用し て、中小企業の課題を3つ 以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業 の課題を3つ以上述べる 事ができた。	最低限、中小企業の課題を 1つでも述べる事ができ た。	そもそも中小企業の課題を 見つける事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング：MAN413012, MAN523037)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明 (講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明 (科目を修了して	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	企業の基本 会社とは？企業活動とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
3	中小企業の定義 なぜ企業規模で分けるのか？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
4	中小企業の研究動向 学術研究とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
5	中小企業の経営問題① 経営とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
6	中小企業の経営問題② 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
7	中小企業の経営革新① 経営革新とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し(90分)準備すること。
8	中小企業の経営革新② 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
9	中小企業と下請けの関係 下請けとは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
10	中小企業と労働者 賃金とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
11	中小企業と金融① 財務諸表とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
12	中小企業と金融② 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
14	中小企業と産業連関構造 経済効果とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けて準備をする(90分)	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野鈺/村杜隆/前田啓一	同友館	2011年	9784496047589	
2	『21世紀中小企業論(第4版)：多様性と可能性を探る』	渡辺幸男/黒瀬直宏/向山 雅夫	有斐閣アルマ	2022年	9784641221956	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング：SPS422063, SPS522053)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養うことを身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の実践的应用について理解する。							
授業全体の内容と概要							
スポーツに対する科学としての心理学的視点（認知モデルの紹介）。スポーツにおける人間の行動特徴（モチベーション、行動の個人差）。スポーツにおける人間の行動マネジメント（メンタルトレーニング）スポーツにおける関係としての個人と集団（個人者集団と指導者集団との関係）。スポーツにおける心理学の活用事例（事例から自分自身への適用）。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのDVDも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに振り返りを行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目、スポーツ指導者（スポーツコーチングリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力がある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング：SPS422063, SPS522053)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本 スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	行動としてのスポーツ	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	スポーツにおける動機づけⅠ(動機づけを高める原理や方法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	スポーツにおける動機づけⅡ(コーチングの心理、技能の練習と指導)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	メンタルマネジメント、リラクセーション	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	他者観察(技術指導における効果的指導法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	個人差を考慮したコーチング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	日常生活における相談	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	運動感覚(筋感覚・内部知覚)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	運動学習	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	フィードバック、心理的サポート・集中力	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	イメージトレーニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	あがり、プレッシャー、スランプについて	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	性格、自己概念	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	心理的コンディショニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート・プリントで講義内容を確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	イラスト漫画概論Ⅰ (科目ナンバリング：AEA221118)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。
イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に付け理解する。
芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。
授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まる。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	イラスト漫画概論Ⅰ (科目ナンバリング：AEA221118)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業のオリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	文化としてのマンガ・イラスト (1) グローバル化する日本の「キャラ」文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
3	文化としてのマンガ・イラスト (2) 複製芸術としてのイラスト・マンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	性別文化としてのマンガ (1) 「少女」という言説 少女雑誌	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	日本の雑誌文化性別文化としてのマンガ (2) 少女マンガの革新性 竹宮恵子『風と木の詩』(1976)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	イラスト表現の位置づけ (1) 世界のポスター文化から見たイラスト文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	イラスト表現の位置づけ (2) 日本のイラストレーション史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	AI時代のイラスト・マンガを考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	震災とマンガ (1) 「少女マンガ」と現実の社会問題 ももち麗子『デিজナー』(2012)、荻原望都『なのは』	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
10	震災とマンガ (2) 他メディアとの比較 しりあがり寿『あの日からのマンガ』(2011)、竜田一人『いちえふ』(2014)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
11	新型コロナとマンガ／感染症とマンガ 朱戸アオ『リウーを待ちながら』(2017)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
12	マンガとミュージアム (1) マンガミュージアムとは何か？	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
13	マンガとミュージアム (2) マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
14	マンガとミュージアム (3) マンガ・アーカイブの意義 海外のマンガ展 北海道マンガミュージアム構築	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
15	まとめ 期末レポートの提出	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
16	期末レポートの解説・フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	これまでの授業内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究 欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）	
科目名称	教育原理（MDA） （科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，）					
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の進の活動を行う。必要に際する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完了する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容としラバスの授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関連してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として、思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価コメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等に対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行なうため、思考・考察、討論・発表等の活動を行う場合、積極的に参加すること。
○講義においては、P・C及びスマートフォンを活用する場合、特に指示がある場合は除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう事前にP・C及びスマートフォンの充電を十分に行うこと。故障を備えること。
○講義料等は、Microsoft Teams の「疫学編」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語、居眠りは厳禁むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませおくこと。
○講義中は演習のため、席席を指定する。
○講義中は演習のため「席上」「席下」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

○単位認定に必要な出席回数は13回。
○成績評価は、定期試験（50％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（40％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化し、成績に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○評価値は全体の10%、S評価とA評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋修項目を超えたレベルを達成している	屋修項目をほぼ達成している	屋修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて既に学習した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に及ぼされ、各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしなが自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめているが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが十分でなく、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、各論点の1割程度の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各論点の1割程度の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が数見られた。簡潔の記述の分量が期待される分量の5割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が数見られた。簡潔の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して賛同点や反論等を記述取ることができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、積極的であった。他の成員の意見の理解に不十分面があった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点が最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	教育原理（MDA） （科目ナンバリング：EDU121069, EDU241094,					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新教育原理 改訂2版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 教育の目的と本質について	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育と人間の成長・発達について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	社会の変動と教育について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	日本の教育（歴史と展開）について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	世界の教育（歴史と展開）について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	日本の教育制度と行政について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	主要国の学校制度と教育改革について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	学校と教師について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	教育の内容及び教育課程について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	教育の方法と技術について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	外国語活動の原理と方法について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施 課題、発表についてのフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、 科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのアプローチ (科目ナンバリング：ARL021018)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2F	
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (講座の概要・シラバス説明) 科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケートの意義と目的について	シラバスをよく読んでおく事	レポート作成準備 (90分)
2	アートの分類と定義	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
3	現代アート 概観	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
4	アート思考	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
5	制作による研究	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
6	素材	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
7	概念	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
8	表現	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
9	物語	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
10	空間	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
11	社会への介入	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
12	実践紹介1 アート実践と国際協力	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
13	実践紹介2 アート実践と地域創生	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
14	アーティスト取り扱い説明書	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと (90分)	レポート作成準備 (90分)
15	芸術産業創出へ向けて 提出されたレポートとスケッチブックへのフィードバック	レポート作成 (90分)	レポート作成 (90分)
16	レポートまとめ・講評 授業改善アンケートの結果を今後の授業に反映させる	レポート作成 (90分)	

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	経済学 (S) (科目ナンバリング：ECT161176)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP2に対応する。							
到達目標							
経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。							
授業全体の内容と概要							
経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。							
授業の方法							
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ（質問・対話）と演習問題をおこなう。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、試験を除く10回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済事象の理解	経済ニュースや資料を読み取って適切に説明できた。	経済ニュースや資料を読み取ってある程度説明できた。	経済ニュースや資料を調べて読み取ることができた。	経済ニュースや資料を調べてある程度読み取ることができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	経済学 (S) (科目ナンバリング: ECT161176)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画シラバスの説明 (科目を修了して「身に	経済学とは何かを考える (90分)	経済学とは何かノートにまとめる (90分)
2	日本の景気について: ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる (90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる (90分)
3	国内総生産からみた世界経済: ・国内総生産 (GDP) とは ・世界の国内総生産 (GDPによる世界地域比較)	国内総生産について調べる (90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる (90分)
4	希少な資源と生産活動: ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる (90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる (90分)
5	経済成長とは: ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる (90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる (90分)
6	経済成長と国民所得: ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる (90分)	経済成長についてノートにまとめる (90分)
7	実質値と名目値: ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる (90分)	実質値と名目値の違いをまとめる (90分)
8	需要と供給の作用: ・価格と需要量、供給量との関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる (90分)	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる (90分)
9	市場経済と価格: ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる (90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる (90分)
10	10 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える (90分)	経済的厚生の問題のまとめ (90分)
11	通貨と中央銀行: ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる (90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ (90分)
12	日銀の資金供給と金利: ・金利とは ・日銀と資金供給	金利について調べる (90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ (90分)
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは ・信用創造とは	通貨供給量について調べる (90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる (90分)
14	日銀と金融政策 ・金融政策に关するニュース ・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる (90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる (90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ これまでの演習にかんする解説・コメント (フィードバック) の振り返り	ノート見直しと不明点の確認 (90分)	ノートの整理 (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	各回の演習問題に再挑戦 (90分)	わからなかった試験問題の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マンキュー入門経済学 (第4版)』	N・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	2020	9784807918119	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学 (M・D・A) (科目ナンバリング: ECT461146 ECT361124)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介(経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボードに示す。				

概要

履修目標 近年世界経済は、中国の台頭やコロナ問題、ウクライナ情勢などといった不確実な情勢に対し大いに影響を受け、大変動の時期を迎えていると言える。ニュースや新聞などでも、こうした変動を示す文言を目にする事が多くなった。こうした世界情勢や大規模な経済変動を伝えるニュースに対し、学門の「分析的」で「冷静」な目をもって捉えることがますます重要になってきている。本講義では、学門としての経済学の基礎を学び、しっかりとした知識を構築する事により、日々伝えられるニュースを良く理解し、自分で分析し、判断出来る様になることを身に付けることを目的とする。																															
授業の位置づけ 経営学科のDP2に対応する。 デザイン学科のDP2に対応する。 建築学科のDP2に対応する。																															
到達目標 ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方、概説的な日本経済史などを学び、日常で起きている経済問題について理解、説明できるようにする。																															
授業全体の内容と概要 ミクロ経済学(交換・取引、均衡分析・余剰分析)、マクロ経済学(ケインズ経済学・経済成長)、ゲーム理論(囚人のジレンマ・交互ゲーム)、日本経済史といった各領域を、テキストに即して説明する。																															
授業の方法 PPTを使った講義形態が主。毎回演習問題を行い、自分の理解度をチェックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																															
アクティブラーニングの実施方法 <table> <tr> <td></td><td>プレゼンテーション</td><td></td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr> <tr> <td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr> <tr> <td></td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他(授業の方法参照)</td></tr> </table>									プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																								
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																								
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																								
履修上の注意事項 教科書を必ず携帯する事。毎回きちんと内容を把握する事。講義の最後に毎回演習問題を行う。																															

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のための最低出席回数11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学について	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。また、ミクロ経済学における分析の限界も説明することが出来る。	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。	「市場」のメカニズムを良く理解し、その均衡状態について説明することが出来る。	「市場」のメカニズムについて、一定の理解がある。	「市場」のメカニズムについて、理解が見られない。
マクロ経済学について	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その政策の問題点や、経済成長論についての理解がある。	総需要管理政策の意味を良く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その問題点を挙げる事が出来る。	総需要管理政策の意味を理解し、計算問題を解くことが出来る。	総需要管理政策がどのようなものかについて説明できる。	総需要管理政策についての理解が見られない。
ゲーム理論について	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームや交互ゲームの解を示すことが出来る。	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームを含む同時ゲームの解を示すことが出来る。	囚人のジレンマゲームを含む、同時ゲームの解を示すことが出来る。	同時ゲームの解を示すことが出来る。	ゲームの均衡解についての理解が見られない。
日本経済史について	戦後の日本経済の歴史について深く理解し、マクロ経済学的含意を使った説明が出来る。	戦後の日本経済史について深く理解し、その転換点についての説明が出来る。	戦後の日本経済史を理解し、説明できる。	戦後の日本経済の流れをある程度説明できる。	戦後の日本経済の流れを説明できる。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	経済学（M・D・A） （科目ナンバリング：ECT461146 ECT361124）					
授業担当者 （所属・職名）	小林大州介（経営学科・専任講師）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：		小林 大州介		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボードに示す。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『経済学概論』	矢口和宏、坂本直樹	株式会社みらい	2016		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する	教科書の序章を良く読んでおく。	講義で行ったことを良く復習する(90分)
2	経済活動における選択と意思決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
3	経済学の基礎/取引とは何か	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
4	ミクロ経済学基礎①市場価格と取引量の決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
5	ミクロ経済学基礎②市場均衡と余剰分析	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
6	ミクロ経済学応用編①企業の価格設定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
7	ミクロ経済学応用編②市場の失敗	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
8	マクロ経済学入門①国家の経済について	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
9	マクロ経済学入門②物価・失業とマクロ経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
10	マクロ経済学入門③政策で経済は成長するか	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
11	ゲーム理論とは何か？新しい経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
12	ゲーム理論・応用編	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
13	取引と選択決定・ミクロ経済の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
14	マクロ経済学・ゲーム理論の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
15	試験に向けて総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(90分)	講義で行ったことを良く復習する(90分)
16	期末試験 試験前に簡単に全講義を通じた講評を行う。 授業に係る講評・施設によるフィードバック	これまでの講義を良く復習しておく。	これまでの講義を通じて行ってきたことを良く復習する。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	データサイエンス基礎 (科目ナンバリング：STS061074)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 薦田 勇智)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『データサイエンス入門』	竹村彰通・姫野哲人・高田政治	学術図書	2 0 2 4	978-4-7806-0729-1	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、データサイエンスとは 授業改善アンケート結果反映の説明 当該科目を修了して「身に付く力」について説明	データサイエンスの定義について調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
2	社会で起きている変化	データサイエンスによる起きている身近な変化を調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
3	社会で活用されているデータ 情報収集（文献検索・データベース活用法等）	社会で活用されているデータについて調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
4	データ・AIの活用領域	AIについて調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
5	データ・AI活用のための技術	AIの事例について調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
6	データ活用とは	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
7	データ・AI活用の現場	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
8	データ・AI活用の最新動向	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
9	データ・AIを扱う上での留意事項①（ELSI、不正行為、個人情報）	個人情報について調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
10	データ・AIを扱う上での留意事項②（バイアス、AIの正しい活用）	バイアスについて調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
11	データを読む①（データの種類、データの代表値、データのばらつき）	平均値・中央値・最頻値について調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
12	データを読む②（相関と因果、母集団と抽出、統計情報の正しい理解）、組織の課題解決に資するデータ分析演習	相関と因果の違いについて調べる（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
13	データを説明する 情報の整理（ワープロ・表計算）	Excelの操作方法について復習する（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
14	データを扱う 情報発信（レポート・プレゼンテーション技法等）	Excelグラフの作成方法について復習する（90分）	確認テストの内容を復習する（90分）
15	データを守る上での留意事項とまとめ 定期試験の準備、フィードバック	情報セキュリティについて調べる（90分）	フィードバックを基に確認テストの内容を復習する（90分）
16	定期試験、授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全ての確認テストを復習する（90分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	英語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：ENL042031）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：岡島 徳昭）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
英文法の基本を復習し、コミュニケーション能力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。							
授業全体の内容と概要							
目次の欄に列挙されている文法事項にそって授業を進めていく。							
授業の方法							
講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては、必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書を必ず用意し、予習をすること。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１０回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容（語彙・文法・音声変化等）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：ENL042031）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：岡島 徳昭）		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英文法授業ノート』	北村 孝一郎	神田外語	2021	978-4-8315-3011-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	テキストp.2～3 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
2	助動詞 ① ②	テキストp.4～7 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
3	助動詞 ③ ④	テキストp.8～11 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
4	助動詞 ⑤ ⑥	テキストp.12～15 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
5	不定詞 ① ②	テキストp.16～19 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
6	不定詞 ③ ④	テキストp.20～23 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
7	不定詞 ⑤ ⑥	テキストp.24～27 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
8	不定詞 ⑦ 中間試験	テキストp.28～29 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
9	動名詞 ① ②	テキストp.32～35 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
10	動名詞 ③ ④ ⑤	テキストp.36～41 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
11	名詞 ① ② ③	テキストp42～47 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
12	名詞 ④ ⑤ ⑥	テキストp.48～53 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
13	冠詞 ・ 比較 ①	テキストp.54～57 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
14	比較 ② ③	テキストp.58～61 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
15	比較 ④ ⑤	テキストp62～65 予習（90分）	期末試験準備 （90分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（60分）・解説（30分） 授業に係る随時・随時によるフィードバック	期末試験準備 （90分）	期末試験内容復習 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	英語入門Ⅰ（S） （科目ナンバリング：ENL042031）						
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）			研究室等所在	2号館7階		
単位数	2		（単位認定責任者：横田 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー							

概要

履修目標							
学生が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を身に付ける。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力を身に付ける。なお、この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができていないこと。特に、基礎的な英文法の知識が身に付いていること、基礎的な英文の読解力が身に付いていること。							
授業全体の内容と概要							
毎回、基礎的な英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。							
授業の方法							
毎回、所定のテキストに沿って、1）その回の説明を行ない、2）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。 解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。 授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
欠席と遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎的事項の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほぼ完全に解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題がほぼ解けた。	テキストの説明の主要な部分が理解されており、テキストの問題が大体解けた。	英文法の初歩がほぼ理解されており、テキストの問題の基本的な部分が解けた。	英文法の初歩が理解できておらず、テキストの問題が全く解けなかった。
英文読解・作文の理解	テキストの英文が完全に読解でき、基本的な英文がしっかりと書けた。	テキストの英文がほぼ読解でき、基本的な英文が大体書けた。	テキストの英文が大体読解でき、簡単な英文が書けた。	テキストの英文の主要な部分が理解でき、単純な英文が書けた。	テキストの英文が全く理解できず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解でき、応用的な展開がしっかりとできた。	テキストの英会話文がほぼ理解でき、応用ができた。	テキストの英会話文が大体理解でき、若干応用ができた。	テキストの英会話文の主要な部分が理解できた。	テキストの英会話文が全く理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（S） （科目ナンバリング：ENL042031）				
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：横田 肇）		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『English! Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。（90分）	Unit1の予習（90分）
2	Unit1：be動詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit1の予習（90分）	Unit1の復習（90分）
3	Unit1：be動詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit1の予習（90分）	Unit1の復習（90分）
4	Unit2：一般動詞現在形の使い方（1） 説明と練習。	Unit2の予習（90分）	Unit2の復習（90分）
5	Unit2：一般動詞現在形の使い方（2） 説明と練習 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit2の予習（90分）	Unit2の復習（90分）
6	Unit3：過去形の使い方（1） 説明と練習。	Unit3の予習（90分）	Unit3の復習（90分）
7	Unit3：過去形の使い方（2） 説明と練習。	Unit3の予習（90分）	Unit3の復習（90分）
8	Unit4：現在進行形の使い方（1） 説明と練習。	Unit4の予習（90分）	Unit4の復習（90分）
9	Unit4：現在進行形の使い方（2） 説明と練習。	Unit4の予習（90分）	Unit4の復習（90分）
10	Unit5：未来形の使い方（1） 説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit5の予習（90分）	Unit5の復習（90分）
11	Unit5：未来形の使い方（2） 説明と練習。	Unit5の予習（90分）	Unit5の復習（90分）
12	Unit6：助動詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit6の予習（90分）	Unit6の復習（90分）
13	Unit6：助動詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit6の予習（90分）	Unit6の復習（90分）
14	Unit6：助動詞の使い方（3） 説明と練習。	Unit6の予習（90分）	Unit6の復習（90分）
15	既習事項のまとめ 説明と練習。	Unit1から6を通読する。（90分）	Unit1から6を通読する。（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。 この科目で身に付いた力についての検証。 授業改善アンケートの実施。	Unit1から6を通読する。（90分）	Unit1から6を通読する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042031）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1（単位認定責任者：宮嶋 達也）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。

ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを図れるようになる。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に、既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を活動、疑問点などとは個々に対応、或いはクラス全体へ解答を解説し、学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイなどを活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的な協力力に努む。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。

NAU_UNDO (<http://nau-un-do.com>) 提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとします。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリンクと意味語をテキストにおくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメイトに確認し、課題など必要な情報の手をつけてください。不測の事が起こる際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	10%	40%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はあるが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042031）				
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1（単位認定責任者：宮嶋 達也）		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 （90分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（90分）
2	Grammar 5sentence patternsⅠ(5文型)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
3	Pre-Unit from A to D	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
4	Unit 1 Where are you from?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
5	Unit 2 How are you?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
6	Unit 3 How many classes do you have?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
8	Unit4 How much food do you need for your party?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
9	Grammar Gerunds and InfinitiveⅠ(動名詞&不定 詞①)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
10	Grammar Gerunds and InfinitiveⅡ(動名詞&不定 詞②)	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
11	Mid-term Exam.	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
12	Unit 5 How many people are there in your family?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
13	Unit 6 When is your report due ?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
15	Review 1	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
16	Final Exam. 試験終了後、フィードバック及び授業 改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（90分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全年学・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ (科目ナンバリング: CH1051036)				
授業担当者 (所属・職名)	孫 暢 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るであろう語彙を身に付ける。中検準4級程度のレベルに到達することを旨とする。《中国語検定試験（中検）》は、主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とする。《中検》と「HSK」とは同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。

《中検》は、中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。

《HSK》は、中国語による設問に中国語で回答することを求め、中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。

したがって、中検は日本の企業での活躍を目指す方、HSKは中国大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方などに適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

中国語の発音や文法、あいさつや簡単な会話能力を身につける。また、中国語を通して、中国人の礼節や習慣なども身につけ、理解を深める。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身に付けられるようにする。
「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

格書により、「発音」・「挨拶」・「基本文」・「会話文」・「入れ替え練習と応用」・「新出単語」・「文法」・「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。中国語の学習を通して、中国の文化や歴史なども理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・履修者の定員は最大30名とします。（登録者数が上限を超えた場合は、抽選となります。）
- ・オリエンテーションへの出席は必須です。
 - ・通算GPAが2.0未満の学生は履修できません。
 - ・本講義では発音が特に重視されます。できる限り授業に参加し（試験日を除き最低11回の出席が必要）、正確な発音と聴解力を身につけるよう努めてください。また、ピンインと簡体字を習得し、正しく書けるようにする必要があります。
 - ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は11回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字読解・文法・読解等）	期末テストで9割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで8割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで7割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで6割以上、語彙・文法の誤りが若干あった。理解できていない部分があった。	期末テストで6割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（読解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまらなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ポットとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ (科目ナンバリング：CH1051036)				
授業担当者 (所属・職名)	孫 暢 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：孫 暢)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	講義ガイダンス：中国語のイメージの简单介绍、授業方法、他の注意事項 シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の	シラバスの内容確認 (90分)	教科書の確認 (90分)
2	第1課 発声：「拼音字母とは」、「拼音字母の構成および数」、「4つの声調の特徴」	教科書P12～P23の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
3	第2課 発声：「基礎韻母(単母音)とそこ発音」「声母表(子音)とその発音」「声調変化」	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
4	第3課 発声：「声母表(子音)とその発音」「複韻母・鼻韻母とその発音」	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
5	第4課 数字の教え方	教科書P30の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
6	第5課 課外活動：中国語を通じて動きましょう	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
7	第6課 基本あいさつ文：初対面・別れ・再会	教科書P32～P39の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
8	第7課 基本文：返事のことば、お礼・お詫びのことば	教科書P40～P47の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
9	第7課 基本文：お祝いことば、感情を表すことば	教科書P48～P51の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
10	第8課 数字の復習、月日・曜日・時刻	教科書P30の復習・P52の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
11	第9課 文法：中国語の主要文型(肯定文・否定文)	教科書P24～P25の予習 (90分)	教科書P26～P27の練習問題 (90分)
12	第10課 文法：自己紹介などで使う表現	教科書P54～P57の予習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
13	第11課 中国語の自己紹介文を作ろう	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
14	総復習Ⅰ 発音の復習、数字の復習、基本あいさつことばの復習	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
15	総復習Ⅱ フレーズの復習と実際応用練習	前回の授業内容復習 (90分)	授業内容の復習・練習 (90分)
16	期末テスト 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	テスト勉強 (90分)	テストへの反省など (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅱ (科目ナンバリング：SWS111004)				
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
1. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 2. 社会保障制度の体系と概要について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP3、DP 4 に対応する。							
到達目標							
1. わが国の社会保障制度の発展過程について説明できる。 2. 社会保険制度の具体的な仕組みについて理解できる。 3. 今後の社会保障制度のあり方について自らの考えを示すことができる。							
授業全体の内容と概要							
わが国の社会保障制度の中核をなしている年金保険、医療保険、介護保険等の社会保険のほか、児童扶養手当などの社会手当制度などについても制度の仕組みを理解するとともに、社会保険と民間保険の関係等についても理解を深める。 「SDG1. 貧困をなくそう」、「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜質問を促し、質問に対応する。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。 5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30％の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40％以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70％	0％	0％	0％	0％	30％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	少子高齢社会における安定的な社会保障体制構築の方向性について認識できた。	少子高齢社会における社会保障制度の見直しの必要性について説明できた。	わが国の国民皆保険・皆年金体制確立の経緯を理解できた。	わが国の社会保障制度の発展過程について説明できた。	わが国の社会保障制度の発展過程について説明できなかった。
思考・判断	全世代型社会保障体制の構築について思考することができた。	安定的な社会保障体制構築の必要性について思考することができた。	国民皆保険・皆年金体制の維持に向けて制度見直しの必要性を考えることができた。	社会保険の意義について考えることができた。	社会保険の意義について考えることができなかった。
関心・意欲	国際化が求められる日本社会と社会保障のあり方について関心を示した。	安定的な社会保障体制の構築に向けて自らの考えを示すことができた。	社会保障制度のあり方について自らの考えを示す意欲を持った。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができた。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会保障Ⅱ (科目ナンバリング：SWS111004)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2 0 2 1	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 わが国における社会保障制度の展開 (1)－社会保	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
2	わが国における社会保障制度の展開 (2)－国民皆保険・首年金体制の確立と社会保障の発展期	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
3	わが国における社会保障制度の展開 (3)－低成長期への移行と社会保障制度の改革期	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
4	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度①）－国民皆年金体制	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
5	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度②）－国民年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
6	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度③）－厚生年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
7	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度①）－国民皆保険体制	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
8	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度②）－被用者医療保険の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
9	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度③）－国民健康保険の概要、後期高齢者医療制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
10	わが国の社会保障制度の体系－介護保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
11	わが国の社会保障制度の体系－労災保険制度の概要、雇用保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
12	わが国の社会保障制度の体系－生活保護制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
13	わが国の社会保障制度の体系－社会手当制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
14	わが国の社会保障制度の体系－社会福祉制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
15	授業改善アンケートの実施。 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと（90分）	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅠ（A） （科目ナンバリング：AEA211006）					
授業担当者 （所属・職名）	橘 春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：橘 春香）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
デザイン現場に於ける円滑なコミュニケーション能力として最低限必要な伝達力を持つために、デッサン力を身につける。 イラストレーター等の職業に必要な基礎的なデッサン力を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
形を正確に捉えることができる。 光を理解し表現することができる。 構図をバランス良く配置できる。 空間を表現できる。							
授業全体の内容と概要							
モチーフの観察の仕方、二次元に於ける表現の仕方を学び、様々なモチーフを描いてみることでデッサン力を養う。							
授業の方法							
授業形態は実技を行う。必要な場合はプロジェクターを使用し講義を行う。各作品ごとに講評を行う。 提出した作品にコメント記入でフィードバックをし、返却する。 不測時にはオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各自画材を必ず持ってくること。 授業時間内の制作に取り組む姿勢、態度を重視する。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
欠席は6回までとする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確にとらえることができる	見えない部分や内部の構造を理解して描けている	複雑な形を基本の形態におきかえ正しく描けている	輪郭を正しくとらえて描けている	おおよその形の印象をとらえている	形態を把握しきれていない
光を理解し表現することができる	自然な光を表現でき、質感の描き分けもできる	自然な光を表現できる	光の方向が画面内で整理されている	明暗、ハーフトーンが描けている	画面内での光の設定ができない
構図をバランスよく配置できる	描く前から最終的な絵のイメージを持ち、意図が明確な構図をとることができる	画面全体を認識し、客観的な視点を持って、伝わりやすい構図をとることができる	ある程度バランスのいい構図を作ることができる	画面全体への意識がある	構図への意識がなく、コントロールできていない
空間を表現できる	空間を正確に認識し、それを表現できる知識と高い技術を持っている	空間を正確に認識し、それを表現するための知識と技術を使って表現している	空間を表現しようとする意図があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、自らの持っている技術で表現している	空間への意識があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、空間を表現しようとしている	空間への意識が欠けている

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅠ（A） （科目ナンバリング：AEA211006）					
授業担当者 （所属・職名）	橘 春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：橘 春香）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業の目的や流れを説明 道具の紹介や使い方の説明	シラバスを熟読しておくこと （45分）	道具を用意しておくこと（45分）
2	道具の使い方 グレースケール 簡単なスケッチ	道具を準備する（45分）	授業で学んだことを自分でもやってみる（45分）
3	光と影について講義 単品デッサン1ー1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	授業で学んだことを復習する（45分）
4	単品デッサン1ー2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
5	パースペクティブ講義 単品デッサン2ー1	パースについて調べておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
6	単品デッサン2ー2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
7	立方体デッサン1	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
8	立方体デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
9	基本の形態の捉え方講義 直方体デッサン1	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
10	直方体デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
11	自然物デッサン1	道具を整えておく 基本の形態の捉え方を復習しておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
12	自然物デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
13	手のクロッキー	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
14	手とモチーフ1	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
15	手とモチーフ2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
16	手とモチーフ3 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構図について講義 卓上デッサン1	構図について自分なりに予習する（45分）	学んだことを復習する（45分）
18	卓上デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
19	卓上デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
20	卓上デッサン4 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
21	静物デッサン（白バック）1	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
22	静物デッサン（白バック）2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
23	静物デッサン（白バック）3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
24	静物デッサン（白バック）4 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
25	人物クロッキー	人物をクロッキーしてみる（45分）	体の構造や骨格を理解する（45分）
26	人物デッサン1	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
27	人物デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
28	人物デッサン3 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
29	パースペクティブ講義 静物デッサン（背景あり）1	有名絵画のパースペクティブについて調べる（45分）	学んだことを復習する（45分）
30	静物デッサン（背景あり）2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
31	静物デッサン（背景あり）3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
32	静物デッサン（背景あり）4 講評 授業改善アンケートの記入	完成に向けて作品を制作する（45分）	前期で学んだことをおさらいする。作品をブラッシュアップする（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅠ（B） （科目ナンバリング：AEA211006）					
授業担当者 （所属・職名）	橘 春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：橘 春香）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
デザイン現場に於ける円滑なコミュニケーション能力として最低限必要な伝達力を持つために、デッサン力を身につける。 イラストレーター等の職業に必要な基礎的なデッサン力を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
形を正確に捉えることができる。 光を理解し表現することができる。 構図をバランス良く配置できる。 空間を表現できる。							
授業全体の内容と概要							
モチーフの観察の仕方、二次元に於ける表現の仕方を学び、様々なモチーフを描いてみることでデッサン力を養う。							
授業の方法							
授業形態は実技を行う。必要な場合はプロジェクターを使用し講義を行う。各作品ごとに講評を行う。 提出した作品にコメント記入でフィードバックをし、返却する。 不測時にはオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各自画材を必ず持ってくること。 授業時間内の制作に取り組む姿勢、態度を重視する。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
欠席は6回までとする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確にとらえることができる	見えない部分や内部の構造を理解して描けている	複雑な形を基本の形態におきかえ正しく描けている	輪郭を正しくとらえて描けている	おおよその形の印象をとらえている	形態を把握しきれていない
光を理解し表現することができる	自然な光を表現でき、質感の描き分けもできる	自然な光を表現できる	光の方向が画面内で整理されている	明暗、ハーフトーンが描けている	画面内での光の設定ができない
構図をバランスよく配置できる	描く前から最終的な絵のイメージを持ち、意図が明確な構図をとることができる	画面全体を認識し、客観的な視点を持って、伝わりやすい構図をとることができる	ある程度バランスのいい構図を作ることができる	画面全体への意識がある	構図への意識がなく、コントロールできていない
空間を表現できる	空間を正確に認識し、それを表現できる知識と高い技術を持っている	空間を正確に認識し、それを表現するための知識と技術を使って表現している	空間を表現しようとする意図があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、自らの持つ技術で表現している	空間への意識があり、必要な知識を学ぶ姿勢があり、空間を表現しようとしている	空間への意識が欠けている

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅠ（B） （科目ナンバリング：AEA211006）					
授業担当者 （所属・職名）	橘 春香（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：橘 春香）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	イラストレーター・絵本作家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業の目的や流れを説明 道具の紹介や使い方の説明	シラバスを熟読しておくこと （45分）	道具を用意しておくこと（45分）
2	道具の使い方 グレースケール 簡単なスケッチ	道具を準備する（45分）	授業で学んだことを自分でもやってみる（45分）
3	光と影について講義 単品デッサン1ー1	必要な道具を揃える すぐ描けるように整えておく（45分）	授業で学んだことを復習する（45分）
4	単品デッサン1ー2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
5	パースペクティブ講義 単品デッサン2ー1	パースについて調べておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
6	単品デッサン2ー2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
7	立方体デッサン1	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
8	立方体デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
9	基本の形態の捉え方講義 直方体デッサン1	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
10	直方体デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
11	自然物デッサン1	道具を整えておく 基本の形態の捉え方を復習しておく（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
12	自然物デッサン2 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
13	手のクロッキー	道具を整えておく モチーフについての観察をしておく（45分）	学んだことを復習する（45分）
14	手とモチーフ1	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
15	手とモチーフ2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
16	手とモチーフ3 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構図について講義 卓上デッサン1	構図について自分なりに予習する（45分）	学んだことを復習する（45分）
18	卓上デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
19	卓上デッサン3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
20	卓上デッサン4 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
21	静物デッサン（白バック）1	絵の構想を練る（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
22	静物デッサン（白バック）2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
23	静物デッサン（白バック）3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
24	静物デッサン（白バック）4 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
25	人物クロッキー	人物をクロッキーしてみる（45分）	体の構造や骨格を理解する（45分）
26	人物デッサン1	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
27	人物デッサン2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
28	人物デッサン3 講評	完成に向けて作品を制作する（45分）	講評で得たことを次回の作品でどう活かすか考える （45分）
29	パースペクティブ講義 静物デッサン（背景あり）1	有名絵画のパースペクティブについて調べる（45分）	学んだことを復習する（45分）
30	静物デッサン（背景あり）2	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
31	静物デッサン（背景あり）3	完成に向けて作品を制作する（45分）	完成に向けて作品を制作する（45分）
32	静物デッサン（背景あり）4 講評 授業改善アンケートの記入	完成に向けて作品を制作する（45分）	前期で学んだことをおさらいする。作品をブラッシュアップする（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング: BSM311014)				
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目，建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	0%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋修項目を超えたレベルを達成している	屋修項目をほぼ達成している	屋修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の部位・部材の名称	全ての構造物の部位・部材名称を理解し、他の人に説明できた。	全ての構造物の部位・部材名称を理解できた。	基本的な構造物に対して名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できなかった。
建築物各構造の特徴・構造原理	構造物の特徴・構造原理が全て理解でき、他の人に説明できた。	構造物の特徴・構造原理が全て理解できた。	基本的な構造物の特徴・構造原理が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できなかった。
建築構造形式の理解力	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を図・表などを示しながら記述することができた。	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を記述することができた。	建築構造形式の内容を理解し、基本的な内容を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築システム論 (科目ナンバリング：BSM311014)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、各種構造システム、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	コンクリート系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
3	鋼材系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
4	膜財系・基礎・制震の構造	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	（専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
5	荷重系の種類	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
6	木造系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
7	コンクリート系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
8	鉄筋・鉄骨と部材	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
9	鉄筋コンクリート系（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
10	鉄筋コンクリート系（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
11	鉄骨構造の詳細（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
12	鉄骨構造の詳細（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
13	鉄骨構造の接合（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
14	鉄骨構造の接合（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
15	鉄骨構造の接合（3）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	専門用語を理解し、配布資料を確認し復習する（90分）
16	授業改善アンケートの実施、フィードバック、定期試験、科目を修了して「身に付く力」についての様	授業内容全体について資料を整理して、試験に備える（90分）	授業内容全体について資料を整理する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図解テキスト 建築構造』	建築構造システム研究会編	彰国社			
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング：SPS422060, SPS512009)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
経営学の手法を使って、スポーツ組織の構造と運営に関して理解し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。							
授業全体の内容と概要							
資料が多いのできちんとノートにまとめ、その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを助ける。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義形式で授業を行う。様々な資料を多用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50％に換算する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60％	0％	20％	0％	20％	0％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組みマネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスシグへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング：SPS422060, SPS512009)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSP0	公益財団法人日本 スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	専用のノートを準備する (90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと (90分)
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
3	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
4	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
14	ノートチェック①	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
15	テストリビュー&ノートチェック② 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験および総括	試験に備える (150分)	本科目の総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
マンガ、アニメを中心とする表現の特性、産業としての側面や、専門用語などの知識を身に著け理解する。 文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。 ディスカッションや発表などを通して、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。 表現・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。							
授業全体の内容と概要							
マンガ、アニメを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養いながら、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。 『SDGs16、平和と公正をすべての人に』の関連科目。							
授業の方法							
授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることでできた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。オリエンテーション。科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	産業としてのマンガ (1) 雑誌文化と新しいビジネスモデル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
3	産業としてのマンガ (2) マンガ制作と流通。マンガ家の位置づけ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
4	「マンガ家」という仕事 (1) 制作方法の特殊性 (他メディアと比較して)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
5	「マンガ家」という仕事 (2) 制作方法の多様性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
6	「マンガ家」という仕事 (3) マンガ家の仕事の現場	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
7	マンガと社会 (1) 戦争を語るメディアとしてのマンガ。中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
8	マンガと社会 (2) 戦争を語るメディアとしてのマンガ。こうの史代『この世界の片隅に』読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
9	マンガと社会 (3) 戦争を語るメディアとしてのマンガ。こうの史代『この世界の片隅に』映画版との比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
10	プレゼンテーションの方法。レポートのまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
11	個人発表 (1)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
12	個人発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
13	個人発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
14	個人発表 (4)	個人発表の準備をする (45分)	レポートを作成する (45分)
15	期末レポートの提出。まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)
16	期末レポートの解説。フィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションの仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。 学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。 自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。							
授業の方法							
授業は次のように進める。 ①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。 ②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。 ③担当教員による講評を行う。 ④レポート作成に向けた準備を進める。 輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 後藤 啓倫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告とディスカッション（１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（２）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（３）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（４）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（５）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（６）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（７）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（８）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（９）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（１）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（２）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：戸佐 晃一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
前期に学習した人体の構造や機能について具体的な内容の理解を深め、食生活（栄養）・運動実践・睡眠などの生活習慣を見直すことに生かし、健康的な学生生活を身につける。 また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することを身につけ、高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。							
授業全体の内容と概要							
各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。 各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。 各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。							
授業の方法							
DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。 グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。 Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎ゼミナールⅠA受講者							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
栄養素の働きの理解	栄養素の働きを良く理解している	栄養素の働きをほぼ理解している	栄養素の働きをある程度理解している	栄養素の働きを理解している	栄養素の働きを理解していない	
内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を良く理解している	内臓臓器の構造や機能をほぼ理解している	内臓臓器の構造や機能をある程度理解している	内臓臓器の構造や機能を理解している	内臓臓器の構造や機能を理解していない	
運動の効果の理解	運動の効果を良く理解している	運動の効果をほぼ理解している	運動の効果をある程度理解している	運動の効果を理解している	運動の効果を理解していない	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身につく力」の 説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンス内容を理解しておく (45分)
2	個人面談 (前期成績・取得単位数・学生生活)	前期成績・取得単位数を確認しておく (45分)	前期成績・取得単位数を把握しておく (45分)
3	個人面談 (前期成績・取得単位数・学生生活)	前期成績・取得単位数を確認しておく (45分)	前期成績・取得単位数を把握しておく (45分)
4	栄養素の働きの理解Ⅰ	栄養素の働きを確認しておく (45分)	栄養素の働きを理解しておく (45分)
5	栄養素の働きの理解Ⅱ	栄養素の働きを確認しておく (45分)	栄養素の働きを理解しておく (45分)
6	栄養素の働きの理解Ⅲ	栄養素の働きを確認しておく (45分)	栄養素の働きを理解しておく (45分)
7	栄養素の働きの理解Ⅳ	栄養素の働きを確認しておく (45分)	栄養素の働きを理解しておく (45分)
8	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅰ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく (45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく (45分)
9	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅱ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく (45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく (45分)
10	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅲ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく (45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく (45分)
11	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅳ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく (45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく (45分)
12	運動の効果の理解Ⅰ	運動の効果を確認しておく (45分)	運動の効果を理解しておく (45分)
13	運動の効果の理解Ⅱ	運動の効果を確認しておく (45分)	運動の効果を理解しておく (45分)
14	運動の効果の理解Ⅲ	運動の効果を確認しておく (45分)	運動の効果を理解しておく (45分)
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。							
授業の方法							
小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。 プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身で終わった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション (学生スポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション (スポーツと金)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション (オリンピック)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション (スポーツの未来)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1 (スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2 (スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション (5分) 1～5番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション (5分) 5～10番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション (5分) 11番～	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション (15分) の準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (15分) の準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (15分) と質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (15分) と質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (15分) と質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を 営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにすることができる。							
授業全体の内容と概要							
授業に関しては、特定のテーマに沿って書籍やインターネットで調べプレゼンテーションを行い、ディスカッションも行う。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。 注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。 発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。 経営学科のラグビー部所属学生を対象とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	健康について考える (飲酒)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
3	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
4	健康について考える (喫煙)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
5	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
6	健康について考える (薬物)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
7	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
8	健康について考える (食生活)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
9	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
10	健康について考える (感染症)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
12	健康のための生涯スポーツを考える (障がい者とスポーツ)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
14	健康のための生涯スポーツを考える (高齢者とスポーツ)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。 (45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。 (45分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を復習し理解する。 (45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：		三嶋 康嗣)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション (スポーツの価値)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション (アマチュアスポーツとプロスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション (日本でのスポーツの発展)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション (学生スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1 (身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2 (身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	グループディスカッション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	グループディスカッション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーションと質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーションと質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーションと質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：井坂 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

スポーツパフォーマンス（主として野球における投球動作）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解し身に付けることを目的とする。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実施することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻2回で1回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇（経営学科・助教）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：井坂 肇）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	シラバスの内容を理解しておく (45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング⑥ 論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング⑦ 論文の読み方⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング⑧ 論文の読み方⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング⑨ 論文の読み方⑨	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
6	トレーニングデータの収集と理解⑥ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
7	トレーニングデータの収集と理解⑦ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
8	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
9	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
10	トレーニングデータの収集と理解⑧ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
11	トレーニングデータの収集と理解⑨ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
12	トレーニングの実践⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
13	トレーニングの実践⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
14	トレーニングデータの収集と理解⑩ データ解釈のグループワーク グループワークについてフィードバックを行う	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
15	エビデンスに基づいたトレーニング⑩ 論文の読み方⑩	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
16	まとめ (科目を修了して「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解して、知識と技能を身につけさせる。
授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。
到達目標
陸上競技（駅伝）を通じて、個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。 陸上競技の知識と技能を身につけさせる。
授業全体の内容と概要
陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明して身につけさせる。
授業の方法
資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフールドバックや要望等への対応は、少数数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
アクティブラーニングの実施方法
○ プレゼンテーション ○ グループワーク ○ フィールドワーク PBL
模倣授業 ロールプレイ 調査学習 反転授業
○ ディスカッション ○ 実験・実習・実技 ○ 双方向授業 その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項
「20分以上の遅刻は欠席とします。」 「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数13回以上 陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を深く理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝とて、健康について基礎的な知識をおおむね理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を多少理解して身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」 身に付けるべき力の内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	陸上(駅伝)と、健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	陸上(駅伝)と、健康についての調査② 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	陸上(駅伝)と、健康についての調査③ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	陸上(駅伝)と、健康についての調査④ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑤ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑥ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑦ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑧ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑨ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑩ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑪ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑫ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	陸上(駅伝)と、健康についての調査⑬ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	陸上(駅伝)と、健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	陸上(駅伝)と、健康調査全体のまとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 学習内容を身に付ける事ができたかをフィードバック	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解し身に付けることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった	
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) (国際的に活躍するエリートアスリート	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
16	まとめ フィードバック (国際的に活躍するエリートアスリ ートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達	測定準備及び論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
本ゼミナールではキリスト教・仏教・イスラム教・儒教の教義内容とその特色を概観し、各々を構造神学的に比較したうえで、それらを振興する人々のエートス（行動様式）の生成と、そこから導き出された現代国際社会の諸相を分析し、併せて日本社会における宗教の影響と、日本人のエートスについての思考を深めるようにする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1，DP2，DP5に対応する。							
到達目標							
・キリスト教、仏教、イスラム教、儒教の基本的協議を理解できる。 ・上記宗教のから導き出されるエートスを理解し、現代社旗への影響を理解できる。 ・現代日本社会における「宗教」とその機能を理解できる。							
授業全体の内容と概要							
小室直樹『日本人のための宗教原論ーあなたを宗教はどう助けてくれるかー』（徳間書店）を基本参考文献とし（講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、の著書を参考に、音読しながら購読し、必要に応じてディスカッションを行う。							
授業の方法							
・各講義ごとに参考文献を音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加える。また、ディスカッションも行う。 ・ゼミで使用するプリントは前の週に配布する。熟読することが望ましい。 ・学生の要望には可能な限り応じるが、教育上問題ありと思われる要望には応えられない。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
チャット、ライン等に「欠席理由」のしんこくがない、あるいは校間等の連絡がない場合は欠席とみなす。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の最低出席数10回以上をクリアすること					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キリスト教・仏教・イスラム教・儒教の基本的協議を理解する。	ゼミナールで行った内容について説明できる。ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	高校のテキストにおける「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
各宗教から導き出されるエートス（行動様式）を理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	マックス・ウェーバーの「エートス」の概念を理解できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本社会における宗教的機能について理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	小室直樹・山本七平の「日本教」について説明できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校の世界史の復習 (45分)	配布資料の熟読 (45分)
2	宗教のアウトライン1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
3	宗教のアウトライン2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
4	キリスト教1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
5	キリスト教2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
6	キリスト教3	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
7	キリスト教4	前回資料の読み込み (90分)	配布資料の熟読 (90分)
8	仏教1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
9	仏教2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
10	イスラム教1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
11	イスラム教2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
12	儒教1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
13	儒教2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
14	日本人と宗教1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
15	日本人と宗教2。前回までの授業内容の小試験を実施、講評・評価によるフィードバック。	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)
16	日本人と宗教3 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の熟読 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
基礎ゼミナールⅠAの継続として、 1) 学生が世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識と考え方を身につける。 2) 学生がコミュニケーションの基礎を身につける。 3) 文章作成の基礎を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
1) 受講者において、世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、理解できていること。 2) コミュニケーションの基礎が習得できていること。文章作成の基礎が習得できていること。							
授業全体の内容と概要							
日本、特に北海道とも近い東北の歴史と文化を地域ごとに考察する。松尾芭蕉『奥の細道』のルートに沿って考察していきたい。教員による現地取材も提供、活用する。							
授業の方法							
1) 教員による短い講義（資料、映像、動画を併用）。 2) 1)に基づく受講生全員による討論。 3) 教員によるフィードバック。 毎回、1)から3)をくりかえす。ときどき、簡単な体験学習を取り入れる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・調査能力	多様で正確な情報収集と編集・整理ができ、的確に発信できた。	正確な情報収集と整理ができ、的確に発信できた。	情報収集と整理の基礎が身に付いており、発信の基本ができていた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、発信の基本ができていた。	指示による情報収集・整理が、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論、明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎が身に付いており、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎ができていた。	指示によって議論、プレゼンテーションが適切に遂行できた。	指示による議論、プレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	日本の歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	日本の歴史と文化に関する的確な理解ができており、発展的な学習が期待できた。	日本の歴史と文化に関する基本的な理解ができており、深めることが期待できた。	指示によって日本の歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示による日本の歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：		横田 肇)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力についての説明。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
2	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北関東地方の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
3	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
4	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
5	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
6	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。南東北の歴史と文化。 既習範囲の確認のためのミニレポートの作成と発表	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
7	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 南東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
8	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
9	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
10	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
11	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
12	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
13	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	日本の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
14	日本の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 北東北の歴史と文化。	レポート作成の準備 (45分)	レポート作成の準備 (45分)
15	期末レポートの作成。	レポート作成の準備 (45分)	レポート作成の準備 (45分)
16	期末レポートの作成。コメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証と説明。	レポート作成の準備 (45分)	レポートの仕上げ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席があること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ループリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語を理解できる。	カタカナ語に該当する日本語を示すことができた。	カタカナ語の意味を答えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。	
実践的なコミュニケーションをロールプレイで展開できる。	適切な態度や言葉を用いてロールプレイができた。	ロールプレイでは、相手を尊重した姿勢をとることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。	
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：)		櫻井 美帆子	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して身に付く力の説明	入学後、福祉の授業の中で知ったA行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
2	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語②	入学後、福祉の授業の中で知ったカ行とサ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
3	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語③	入学後、福祉の授業の中で知ったタ行とナ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
4	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語④	入学後、福祉の授業の中で知ったハ行とマ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
5	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語⑤	入学後、福祉の授業の中で知ったヤ行とラ行とワ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
6	気をつけなければならない言葉や話し方	自分の言葉や話し方の特徴について箇条書きで整理する。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話をする。(45分)
7	コミュニケーションの意義・目的	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートに整理をする。(45分)
8	中間まとめ	1回から7回の内容を振り返り、疑問点や再度説明を希望する部分をまとめる。(45分)	1回から7回までで理解が不十分だった点を復習する。(45分)
9	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
10	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
11	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。③	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
12	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける①	9回～11回での学びを振り返る。(45分)	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をまとめる。(45分)
13	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける②	9回～11回での学びを振り返る。(45分)	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をまとめる。(45分)
14	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける③	9回～11回での学びを振り返る。(45分)	関わった人たちのコミュニケーションスタイルの良い点をレポートにまとめ提出する。(45分)
15	福祉現場の利用者や職員との交流を通し、コミュニケーションの実践力を身に着ける④ 添削したレポートを返却し、フィードバックする	クラスメイトから受けた助言をもとに、自分のコミュニケーションの特徴を整理する。(45分)	クラスメイトと教員からの助言をもとに自分のコミュニケーションの課題を整理する。(45分)
16	まとめと科目を修了して身に付く力』についての検証をする。 授業最終回で講評を行う	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、2年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

- ・ 本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
- ・ 「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解させ、併せて快適な学生生活を送ることが出来る様指導する。
- ・ 提示したテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力を高める工夫をし、また、「学びの方法」も修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

- ・ 大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）
- ・ 授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。（アカデミックスキル）

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質問には随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・ 出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
- SDG. 3 すべての人に健康と福祉をとの関連科目。
- ・ 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席状況（3分の2以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性, 傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味, 関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル, 表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ, 態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わるこことができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した際に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考 える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割 について考える。「身に着く力」について考察する (45分)
2	「食生活の重要性を考えるⅠB」①テーマの見つけ 方(新聞・図書・雑誌等)	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や 栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
3	「食生活の重要性を考えるⅠB」②プレゼンテーシ ョンテーマの見つけ方(ニュース・ネット等)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
4	「食生活の重要性を考えるⅠB」③プレゼンテーシ ョン資料の作成について	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
5	「食生活の重要性を考えるⅠB」④プレゼンテーシ ョン以外のテーマについて(フィールドワーク等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを 発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
6	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑤プレゼンテーシ ョン以外のテーマについて(調理実習等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを 発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
7	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑥プレゼンテーシ ョンとディスカッション(発表順1・2番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
8	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑦プレゼンテーシ ョンとディスカッション(発表順3・4番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
9	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑧プレゼンテーシ ョンとディスカッション(発表順5・6番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
10	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑨プレゼンテーシ ョン以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを 発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
11	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑩プレゼンテーシ ョン以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
12	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑪プレゼンテーシ ョンとディスカッション(発表順7・8番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
13	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑫プレゼンテーシ ョンとディスカッション(発表順9・10番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
14	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑬プレゼンテーシ ョン以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを 発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
15	「食生活の重要性を考えるⅠB」⑭プレゼンテーシ ョン以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修 得目標達成度を測定する。(45分)
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック 実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証	まとめの準備を行う。(45分)	1年間のゼミについて振り返りを行い、自身の修得 目標達成度を測定する。「身に着く力」について再 度考察する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：		尾西 則昭		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。	事前にシラバスを読んで確認するする。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	健康についての調査② 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	健康についての調査③ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	健康についての調査④ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	健康についての調査⑤ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	健康についての調査⑥ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	健康についての調査⑦ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	健康についての調査⑧ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	健康についての調査⑨ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	健康についての調査⑩ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	健康についての調査⑪ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	健康についての調査⑫ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	健康についての調査⑬ 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証、授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：西崎 毅)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身につく力」の説明を含む） Ⅰ.Aの反省・決意表明	シラバスを熟読しておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	北海道における学力向上策を考える。（思考・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	北海道における学力向上策を発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	教員に求められる資質・能力について考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	教員に求められる資質・能力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	教員に求められる資質・能力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	教員育成指標について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	教員育成指標について発表する。（発表・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	生徒指導とは何か考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	生徒指導の目的，定義について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	生徒指導の構造について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読 課題のフィードバック	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	生徒指導の構造について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	問題行動等とは何か（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	問題行動等の状況（全道・全国）について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	問題行動等の状況について発表する。（発表、質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	1年間の反省及び今後の決意 演習のフィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：宮嶋 達也)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標
デザインを通して自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目指す。 自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。 昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、企業へのPOP制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標
(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。 (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。 (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要
授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法
グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
						その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項
受講定員15名 受講条件 本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。 受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。 ①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人 ②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人 ③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があつた。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があつた。	自らの考えでアクションを起こすことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあつた。	自らの考えでアクションを起こすことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあつた。	自らの考えでアクションを起こすことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮嶋 達也)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	前期の活動における確認とフィードバック シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備 シラバスの熟読 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
16	1年間の活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画者、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市や街を形づくる。ゼミでは都市や建築のより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前期で学んだことを発展・応用させるため、いくつかの課題に取り組む。グループに分かれて都市や建築について調査分析を行い、空間的な提案をまとめ発表・ディスカッションを行う。 □SDGs3.すべての人に健康と福祉を □SDGs11.住み続けられるまちづくりを □SDGs12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題説明はパワーポイントを用いる。適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。グループに分かれて調査分析し、提案を作成する。パソコンを使うため、各自ノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。また、グループワークでは積極的に発言をし、議論をする。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	40%	20%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	課題1 説明	対象を事前に調べる（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
3	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
4	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
5	課題1 発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
6	課題2 説明	対象を事前に調べる（４５分）	講義内容を復習（４５分）
7	課題2 フィールドワーク	対象を事前に調べる（４５分）	フィールドワーク内容をまとめる（４５分）
8	課題2 調査結果取りまとめ	フィールドワーク内容をまとめる（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
9	課題2 調査結果取りまとめ	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
10	課題2 調査結果発表	調査分析を行い、まとめる（４５分）	発表を自己評価し、今後の課題を認識する（４５分）
11	課題2 作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
12	課題2 作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする。（４５分）
13	課題2 作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
14	課題2 作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
15	課題2 発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	まとめ・ディスカッション、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検	授業を振り返る（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化・日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を身につける。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ることも。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国（日本）での生活、大学生活をより豊かなものにする。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同行事の内容を企画し、準備、実施する。学生間での意見交換を通じて、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介をするところもある。それらを通じて日本語で伝えること、他者から学ぶ。大学英語コースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を兼ねることも多い。北広島市、北海道の問題や課題について考える。日本文化や日本事情を通して「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」について考える。知識を深める。

授業の方法

教材は教師の用意する。教材は紙媒体だけでなく、プロジェクターやパソコン、レリアなどにも使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に順に掛かる。授業内容では決まった人たちのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話を切り、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組め、「日本語で表現できないう」と思われないでもチャレンジすること求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数16回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	35%	5%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限承認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習,実習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 恵利)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明)自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習 (45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	授業内容復習 (45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	後期学習範囲の総括(身につく力の検証)および反省・最終課題の提出授業に係る講評・解説によるフィードバック	最終課題提出の準備 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 学修計画の作成 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○SDGsについて考える１ 設定の背景と１７の目標 学修計画の発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○SDGsについて考える２日本社会との関連 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○SDGsについて考える３教育との関連 授業で取り組むアイデアを交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○子どもたちの学力について考える１ 学力とは 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○子どもたちの学力について考える２生きる力 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○子どもたちの学力について考える３学力調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○生徒指導について考える１ 意義 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○生徒指導について考える２特別支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○生徒指導について考える３問題行動等 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○進路指導について考える１ 労働の現状 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○進路指導について考える２キャリア教育 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○障害のある子どもの保護者心理１ 出生 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○障害のある子どもの保護者心理２家族 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○障害のある子どもの保護者心理３支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修を総括してフィードバック及び反省 科目を履修して『身に付く力』について検証	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	８０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜く。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
それぞれゼミナール担当教員が学生に提示する「研究テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 前期の「基礎ゼミナールⅠA」の授業内容も含まれる。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマを明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践の指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。 教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。							
授業全体の内容と概要							
教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。 教育にかかわる法令、客申などの通読 教育に関する諸課題についての調べ学習 教師に求められる教職教育等の学習 「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目							
授業の方法							
教育にかかわる法令、客申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。 教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教師に求められる教職教育等について演習を行う。 課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 板書や教材提示装置を活用する。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 ○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 ○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可） ○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。 ○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを超えて達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 「シラバス」「ゼミの進め方」、「科目を修了して身に付く力」の説明	前期の課題を整理すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	○教育の諸課題の解決策を考える④1 ・いじめについて 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	○教育の諸課題の解決策を考える④2 ・いじめについて 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	○教育の諸課題の解決策を考える⑤1 ・虐待について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	○教育の諸課題の解決策を考える⑤2 ・虐待について 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	○教育の諸課題の解決策を考える④⑤3 ・いじめ・虐待について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	○教育の諸課題の解決策を考える⑥1 ・家庭・地域との連携 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	○教育の諸課題の解決策を考える⑥2 ・家庭・地域との連携 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	○教育の諸課題の解決策を考える⑥3 ・家庭・地域との連携 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	○教育の諸課題の解決策を考える⑦1 ・教師をめぐる課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	○教育の諸課題の解決策を考える⑦2 ・教師をめぐる課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	○教育の諸課題の解決策を考える⑦3 ・教師をめぐる課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	○教育の諸課題の解決策を考える⑧1 ・自由課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	○教育の諸課題の解決策を考える⑧2 ・自由課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	○教育の諸課題の解決策を考える⑧3 ・自由課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省(フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証) 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	後期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてeスポーツを捉えることが出来るようになる。 ・適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。 ・視野（選抜校）を広く持つことが出来るようになる。 ・スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で高校から大学への円滑な移行と、入学後に必要となる多様な能力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
・大学という環境に早く慣れる ・eスポーツとは何なのかを知る							
授業全体の内容と概要							
・履修登録や授業、Microsoft関係等新しく扱うものについて学ぶ。（スタディスキル） ・日本、全世界でプレイされているeスポーツタイトルについて学ぶ。（アカデミックスキル） ・eスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。（アカデミックスキル） ・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。（スチューデントスキル）							
授業の方法							
・不測の事態が無い限り対面にて行う。 ・LMSにて課題提示、提出を求める。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。 ・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。 ・遊びではなく学習の場であることを理解する。 ・自身のPC（できればデスクトップPC）を持っていることが望ましい。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報を集めて考える力	e スポーツに関する多角的な調査を行い、データや事例を適切に活用し、根拠に基づいた深い考察ができていた。	しっかりと調査し、データや事例を用いた分析ができていたが、一部深掘りが不足していた。	基本的な調査は行われており、論理的な考察があったが、やや浅い部分があった。	調査の範囲が限定的で、分析に一貫性がなかった。論拠が弱かった。	調査が不十分で、主観的な意見が多く、論理的な分析ができていなかった。
チームで取り組む力	チームワークを重視し、積極的に役割を果たし、ゼミの成果に大きく貢献していた。	チーム内での役割を果たし、協力的な姿勢を持っていた。	最低限の役割は果たしていたが、積極的な貢献は少なかった。	グループ活動への関与が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。	グループ活動にほとんど参加せず、貢献が見られなかった。
考えを整理して伝える力	e スポーツに関する考察を論理的にまとめ、構成も明確で説得力があった。	e スポーツのテーマについて論理的にまとめているが、一部整理不足が見られた。	基本的な内容は書かれていたが、論理的な展開や構成が弱かった。	内容が断片的で、論理的な構成になっていない部分が多かった。	文章がまとまっておらず、考察も浅く、論理的な説明ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)			研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	・オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	前期に何を行ったのか復習する (45分)
2	・eスポーツと企業	eスポーツ事業について調べる (45分)	レポート提出 (45分)
3	・eスポーツと法律	eスポーツに関する法律について調べる (45分)	レポート提出 (45分)
4	・eスポーツと教育	eスポーツを用いた教育について調べる (45分)	レポート提出 (45分)
5	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
6	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
7	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
8	・個人ワーク	選んだテーマについて調べる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
9	・個人発表 ・発表のフィードバック	発表練習する (45分)	フィードバックを受けて改善点をまとめる (45分)
10	・チームの作成 ・グループワークを行う	チームワークのテーマを考えておく (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
11	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
12	・中間発表	発表練習する (45分)	フィードバックを受けて改善点をまとめる (45分)
13	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
14	・グループワークを行う	グループで意見をまとめる (45分)	調べた内容をまとめてレポートを提出 (45分)
15	・最終発表 ・発表のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	発表練習する (45分)	フィードバックを受けて改善点をまとめる (45分)
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」（主体性・働きかけ力・実行力）・「考え抜く力」（課題発見力・計画力・創造力）・「チームで働く力」（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。

・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。

・グループの良質な関係性を構築でき、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーの一人として関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要

グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く魅力」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」「プレゼンテーション」・「デザイン制作物（ポスター・チラシ・Webサイトデザイン・ムービー）」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。

本科目は、以下のSDGs関連授業である。

- ・「SDG 8.働きがいも経済成長も」
- ・「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」
- ・「SDG16.平和と公正をすべての人に」
- ・「SDG17.パートナーシップで目標を達成しよう」

※その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法

グループ内で取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクトの開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後、各グループでディスカッション等を行なうが、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、発表といったP.D.C.Aサイクルを軸とする一連の工程を行う。都府大のバイスキャンディードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図るよう、次の学修支援を実施する。

- 授業時間外において質問及び相談がなされたとき、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。
- 全ての教材は、全てTeamsにアップロードし、配布する。
- グループワークにおいて、適切な円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
- 本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。
- 不測時における授業や補講等ではオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・所属学科の制限は設けない。
- ・課題制作（デザイン制作）を行う場合は、全学科対応できるように考慮した内容とする。
- ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
- ・取り組みの結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れて積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提條件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋頂項目を超えたレベルを達成している	屋頂項目をほぼ達成している	屋頂目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込む一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に、関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 雅一）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「オリエンテーション」 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	「ビギナーズセミナーⅡ①」 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修へ の取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
3	「ビギナーズセミナーⅡ②」 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修へ の取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	「コンセンサスゲーム・演習課題①」 グループディスカッションの練習を行う。	グループディスカッションのコツについて調べる （４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
5	「コンセンサスゲーム・演習課題②」 グループディスカッションの練習を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する （４５分）
6	「学内プロジェクト活動①」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
7	「学内プロジェクト活動②」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
8	「学内プロジェクト活動③」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
9	「学内プロジェクト活動④」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
10	「学内プロジェクト活動⑤」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
11	「学内プロジェクト活動⑥」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
12	「学内プロジェクト活動⑦」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
13	「学内プロジェクト活動⑧」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
14	「学内プロジェクト活動⑨」 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
15	「学内プロジェクト活動⑩（成果発表会）」 グループごとに取り組んだ内容について、プレゼン テーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	反省点をまとめる（４５ 分）
16	「まとめ・総評」 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容をまとめる（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング: BAS001004)				
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
地域調査に必要な情報収集・読解・まとめ・発表を行うための基礎的な能力を身につける。						
授業の位置づけ						
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。						
到達目標						
地域調査に必要な情報収集能力の基礎を身につける。 先行研究を取集・レビューし、まとめる基礎的な能力を身につける。 地理空間情報を活用する能力を身につける。						
授業全体の内容と概要						
本授業は北広島市や北海道における先行研究・GISの活用を通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめて表現する能力を育成する。 *「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業						
授業の方法						
前半は地域調査に必要な先行研究のレビューをまとめ、発表し議論する。 後半は地域調査に必要なGIS・地理空間情報活用方法を説明する。 最終的にそれらの成果をレポートにまとめる。 なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
■出席について 毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。						
■PCについて 本ゼミは地理情報システムを用いるためPCが必要となる。ノートPCを持っている人は持参すること。なお、ゼミ中に貸し出せるPCは3台までとする。						
■その他 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１２回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	５０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法基礎	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
情報収集・活用能力	複数の先行研究を収集し、高いレベルでまとめることができた。	複数の先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集することができた。	先行研究を収集することができなかった。
地理情報活用能力	GISを用いて、複数の地理空間情報を高いレベルで活用することができた。	GISを用いて、複数の地理空間情報を活用することができた。	GISを用いて、地理空間情報を活用することができた。	GISを活用することができた。	GISを活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地域に関する先行研究収集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	先行研究を収集すること。(90分)
3	地域に関する先行研究レビュー	先行研究を収集すること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
4	地域に関する先行研究発表①	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
5	地域に関する先行研究発表②	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
6	地域に関する先行研究発表③	発表準備をすること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
7	地理情報システム①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	地理情報システム②	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	地理情報システム③	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地理情報システム④	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	地理情報システム⑤	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	地理情報システム⑥	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	地域調査結果報告①	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	地域調査結果報告②	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	地域調査結果報告③	報告の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 全体を講評し、フィードバックする 科目を終了して『身に付く力』についての検証	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・2年（再履修）			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB（再） （科目ナンバリング：BAS001004）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在		2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎ゼミナールⅠB再履修者。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１３回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB（再） （科目ナンバリング：BAS001004）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜く。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
あえて、基礎ゼミナールⅠAと同様の内容で授業を展開し、習熟度を高めることを狙いとする。 絵画の基本、様々な用材の性質や取り扱い方について、さらに、絵画の果たすべき役割や意義について学修する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し身に着ける。							
授業全体の内容と概要							
10号程度の支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩の技法で制作する。							
授業の方法							
事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどある程度の確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明、古今の作品について（構図を主に）	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材の性質について	洋画作品の構造と用材、木材の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作木材の截断、木工具の取り扱い方について	木材の截断、木工具の取り扱い方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。(90分)
4	支持体製作地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを検討する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラの展色剤の処方について予習する。(90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油彩絵具の透明性や被覆力等について予習する。(90分)	油彩絵具の透明性や被覆力等について復習する。(90分)
8	油彩による上描き 1大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き 2色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き 3立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。(90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 3	筆触・タッチについて予習する。(90分)	意図とおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 5	色価・パルルールに狂いのある箇所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。(90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバック	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。(90分)	合評会で得られた、他者の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 堤 美穂子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題 の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
デザイン思考を身につけ、社会における自分独自の問題意識に対し、デザインによって解を求め、改善にあたる力を獲得することを目標とする。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。																								
到達目標																								
以下の①②③を有するデザイナーとして生きる力の獲得をめざす。 ①自分の違和感や意見をもって他者に説明できると同時に、他者の共感を得ようと努力するプレゼンテーション能力。②異なる意見にも耳を傾け、よりよい解を導き出そうとする統合力。③結論や解決を急ぐのではなく、改善を繰り返すことでより高い理想へと近づこうとする探究心。																								
授業全体の内容と概要																								
授業では、自ら独自の問題意識に気づき、デザインで課題を改善しようと試みる。他者の理解と共感を得、さらには他者の協力を得て、自分が社会に提案したいデザインを試作する。その過程では、プロトタイピングを繰り返すうちデザイン思考が身に付くと同時に、美意識を養い、かたがちなデザインの重要性についても学ぶ。																								
授業の方法																								
最初、個人の内面的な問題意識を見つけ、掘り下げ、本質的な課題の探索へと向かう。自分の現在地を他者に説明する時間を多く設け、プレゼンテーション能力を獲得しながら、他の学生の意見を聞き、共感を得ることを求めて自らを振り返りながら改善を繰り返す。最終的には、社会に役立つデザインとして世の中に提案できるレベルに到達することをめざす。 各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。 毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。 不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針および規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学をサポートする。 講義中の録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
本質的な問題意識をもち、他者への伝達ができる	社会や物事に対する問題意識をもち、掘り下げることで問題の本質に迫ることができ、それを他者に説明し共感を得ることができた	社会や物事に対する問題意識をもち、掘り下げることで問題の本質に迫ることができ、それを他者に説明し共感を得ることができた	社会や物事に対する問題意識をもち、それを他者に説明し理解を得ることができた	社会や物事に対する問題意識はあるが、それを他者に説明できなかった	社会や物事に対する問題意識をもつことができなかった
デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて活用・実践することができる	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて活用・実践することができた	デザイン思考を理解し、本講義をはじめ、自分の生活、他の学習や取り組みなどにも結びつけて考えることができた	デザイン思考を理解したが、本講義で実行するまでには至らなかった。	デザイン思考の理解が不十分だった。	デザイン思考をまったく理解できなかった。
主体性・判断力・統合力	自分の考えと同様に他者の意見も尊重し、よりよい解を得るための統合力が発揮できた	自分の考えと同様に他者の意見も尊重し、よりよい解を得ようと考え、努力したことができた	自分の考えと同様に、他者の意見も尊重し受け入れることができた	他者の意見を尊重するあまり、自分の考えを見失った（または自分の考えのみ尊重し、他者の意見に耳を貸さなかった）	自分の考えを伝えられず、他者の意見に対する意見も発言しなかった
表現力・行動力	他の学生との交流や議論に積極的に参加し、全員の学びにも貢献。自らの感性を働かせて多くの気づきを得、社会に役立つデザインを発想することができた。	他の学生との交流や議論に積極的に参加し、自らの感性を働かせて多くの気づきを得、独自のデザインを発想することができた。	他の学生との交流や議論に積極的に参加し、自らの感性を働かせて気づきを得、一定レベルのデザインを発想することができた。	他の学生との交流や議論に参加し、一定レベルのデザインを発想することができた。	他の学生との交流や議論に積極的に参加できず、一定レベルのデザインを発想することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 堤 美穂子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期の活動においての確認と振り返り シラバスの説明 「デザイン思考」理論 前期の振り返り	シラバスの確認、自らの問題意識や生活の中の違和感に目を向ける（45分）	リフレクションの記載。問題意識や違和感を探索する（45分）
2	「問題意識や違和感」個人発表（説明用1シート・1分、質疑応答1分） ペアリング、ディスカッション、個人テーマの振り下げ	フィードバックの確認。自らの問題意識や違和感を見つけ、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感」の振り下げ（45分）
3	「問題意識や違和感とその改善アイデア」個人発表（説明用1シート/前回の違いを明確に記載・1分、質疑応答1分）、ペアディスカッション、個人発表の準備をする（45分）	フィードバックの確認。自らの「問題意識や違和感」を振り下げ、「その改善アイデア」を考え、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感とその改善アイデア」の振り下げ（45分）
4	「問題意識や違和感とその改善アイデア」個人発表（説明用1シート/前回の違いを明確に記載・1分、質疑応答1分）、ペアディスカッション、個人発表の準備をする（45分）	フィードバックの確認。自らの「問題意識や違和感とその改善アイデア」を振り下げ、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感」の振り下げ（45分）
5	「問題意識や違和感とその改善アイデア」他者による発表（説明用1シート/これまでの経緯を明確に記載・ペアの学生が1分で説明、質疑応答1分/ペア）	フィードバックの確認。他者が取り組むテーマとアイデアについて簡単に解説できるような資料を新たに作成し発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「問題意識や違和感とその改善アイデア」の振り下げ（45分）
6	「活動のアウトライン（テーマ・改善アイデア・活動計画）」個人発表（説明用1シート・1分、質疑応答1分）	フィードバックの確認。「活動のアウトライン」を資料にまとめ、個人発表の準備をする（45分）	リフレクションの記載。「活動のアウトライン」の調整・修正など（45分）
7	「活動計画に基づく情報収集と調査」状況報告	フィードバックの確認。活動計画に基づく情報収集と調査報告の準備（45分）	リフレクションの記載。情報収集と調査の継続（45分）
8	取材活動①/準備 取材内容・要件・取材先の候補と申し入れ 取材申し入れのマナーについて（メール文面等の指	フィードバックの確認。取材活動のための準備（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
9	取材活動②/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
10	取材活動③/情報収集活動と報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
11	取材活動④/情報整理とデータ化	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
12	取材活動⑤/情報整理とデータ化の報告	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
13	デザイン作成①/アイデアの発表・検証・アイデア決定→作業の確認	フィードバックの確認。デザインアイデア発表の準備（45分）	リフレクションの記載。検証による修正・調整（45分）
14	デザイン作成②/プロトタイピング	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
15	デザイン作成③/プレゼンテーション資料の作成	フィードバックの確認。授業内容の継続（45分）	リフレクションの記載。授業内容の継続（45分）
16	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証 授業最終回において論評をし、フィードバックする	フィードバックの確認。プレゼンテーションの準備（45分）	リフレクションの記載。これまでの授業内容を振り返り理解を深める（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『誰のためのデザイン？増補・改訂版 一認知科学者のデザイン原論』	D.A. ノーマン	新曜社	2015		
2	『芸術教養シリーズ17 デザイン』	早川克美	幻冬舎	2014		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照					

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを制作するために必要となる素養を考え、身につけるための活動を通し、大学での学修に必要な基礎的知識、協働の姿勢、学修態度を学び取るとともに、基本的な技術、技能の習得方法を考え、実践的な姿勢や方法をより一層学び取る。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

準備学習、事後学習をしっかりと行い、主体性を持って協同して学ぶ態度をより一層身につける。
大学生活で学ぶ全般と本ゼミに於いて学ぶ技能、技術を統合してイラストレーション制作により一層反映する。
プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など大学で学ぶための素養をより一層身に付ける。

授業全体の内容と概要

授業はイラストレーションを中心とした題目についての講義やディスカッション、課題制作などを行い、イラストレーション全般についての知識や技能を学び取れるよう展開していく。物の見方、形のとらえ方といった美術全般に渡る基礎基本の習得には特に力を入れる。慣れてきた大学生活に於いての不安や戸惑いなどを解消させ、主体的に学修できるよう一人一人との対話を重視した授業を展開する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで行う。必要に応じてDVDなど視聴覚メディアを適宜使用。説明後、課題制作。講評会に於いてフィードバックを行う。不測時に於ける授業、補講などでオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平面立体に拘らず描写力を付けたい人、美術教師を目指す人、画家やイラストレーターを目指す人などを対象とする。授業の内容は履修の学生の素養に合わせ適宜変更する可能性がある。無遅刻無欠席は社会人としての素養であることを理解できていること。毎回画材を持参（F6（またはA3）以上のクロッキー帳またはスケッチブック、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系から8系まで5種類ほど）、カッター、色鉛筆（あれば水性と油性））主課題時はA3イラストレーションボード持参。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規定などにに基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	70 %	0 %	30 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修態度・姿勢	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が十分身に付いた	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。協働して学ぶ姿勢が身に付いた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてある程度身についた。	準備学習をした上で授業に臨み、授業に於いて学び取ったことを事後学修により振り返るといった一連の流れが習慣としてより一層身につかなかった
描写力・技術力	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に十分に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につき、自分の作品に反映できた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がある程度身についた。	イラストレーションの役割を理解し、イラストレーションを描くうえで基本となる物を見る力や描写力などの基本技能がより一層身につかなかった。
表現力（プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力）	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につき、周囲の士気を挙げることができた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層十分に身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がある程度は身についた。	授業全般、プレゼンテーション、ディスカッション、講評会などに於いて必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力がより一層身につかなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動している教師がその経験と実績を活かして実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明、当該科目を修了して身につく力について、準備学習・事後学習（1分クロッキー）の説明）	シラバスを読む（45分）	課題（45分）
2	ゼミ生をモデルにデッサン1、準備学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
3	ゼミ生をモデルにデッサン2、準備学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
4	ゼミ生をモデルにデッサン3、準備学習・事後学習（1分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
5	ゼミ生をモデルにデッサン4、準備学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
6	ゼミ生をモデルにデッサン5、準備学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
7	主課題1デフォルメとは、準備学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
8	主課題2動き・ポーズの考察、準備学習・事後学習（5分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
9	主課題3構図・配色の基本、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
10	主課題4構図・配色エスキース、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
11	主課題5制作1下書き、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
12	主課題6制作2線描き、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
13	主課題7制作3着色、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
14	主課題8制作4微調整・完成、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
15	講評会（フィードバック）プレゼンテーション、ディスカッション、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明	課題（45分）	課題（45分）
16	講評会（フィードバック）プレゼンテーション、ディスカッション、準備学習・事後学習（10分クロッキー）の説明、当該科目第1回目に示した「身	課題（45分）	講評会で得られた意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標							
手で作ることを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。 実際の建築作品等を見ることを通して、建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
前期から通して行なっているスケッチのスキルアップ 建築作品についてその概要や歴史等について調査し、まとめることができる 課題を通してコンセプトに沿った造形ができる（立体）							
授業全体の内容と概要							
前期から行なっているスケッチについて、定期的に全員で共有する。 建築作品を見て、作品の成り立ち、概要、歴史等について調査してレポートにまとめる。（発表ないしは公表を予定） 課題を通して、手による造形力を高める。							
授業の方法							
課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。 グループワーク、個人の作品制作や、課題授業も予定している。 要望や質問は、適宜コミュニケーションを取りながら対応する。 作品の講評によりフィードバックする。 学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。 パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。 課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）を行なった	8割以上出来ていた。	6～7割出来ていた。	半分できていた。	3割できていた。	全く出来ていなかった。
建築作品を理解できた（レポート提出による評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現できていた	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計実務経験、インテリアデザイン実務経験、資格（一級建築士、インテリアコーディネーター）			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室等にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 前期の振り返り（講評） ガイダンス/シラバス及び授業改善アンケート結果	シラバスを事前に把握する（４５分）	自宅学習課題（４５分）
2	見学課題の説明、レポートの書き方の解説	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
3	建築見学1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
4	建築見学2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
5	建築見学3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
6	建築見学4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
7	課題1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
8	課題2 中間講評によるフィードバック	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
9	作品鑑賞1	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
10	作品鑑賞2	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
11	テーマ課題3	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
12	テーマ課題4	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
13	テーマ課題5	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
14	テーマ課題6	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
15	発表・講評会	次回課題の予習（４５分）	自宅学習課題（４５分）
16	講評によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り（事前）（４５分）	学習の振り返り（事後）（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
手で作ることを通してデザインやアイデアを創出する基礎力を養う。実際の建築作品等を見ることを通して、建築的な感覚の素養を高めつつ作品を理解する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
前期から通して行なっているスケッチをスキルアップする。 建築作品についてその概要や歴史等について調査し、まとめることができる。 課題を通してコンセプトに沿った造形ができる（立体）。							
授業全体の内容と概要							
前期から行なっているスケッチについて、定期的に全員で共有する。 建築作品を見て、作品の成り立ち、概要、歴史等について調査してレポートにまとめる。（発表ないしは公表を予定） 課題を通して、手による造形力を高める。							
授業の方法							
課題や方法についてその都度、パワーポイントや配布資料を用いて行う。グループワーク、個人の作品制作や、課題授業を行い、作品の講評によりフィードバックする。学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
制作に用いる、購入する道具をガイダンスにて案内する。 パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。 課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
指示した継続課題（自宅制作）の実施	8割以上出来ていた。	6～7割出来ていた。	半分でできていた。	3割できていた。	全く出来ていなかった。
建築作品の理解（レポート提出による評価を予定）	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトをアイデアに落とし込み、作品として表現	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、前期の振り返り(講評)/シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する (45分)	自宅学習課題 (45分)
2	見学課題の説明、レポートの書き方の解説	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
3	建築見学1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
4	建築見学2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
5	建築見学3	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
6	建築見学4	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
7	課題1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
8	課題2 中間講評によるフィードバック	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
9	作品鑑賞1	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
10	作品鑑賞2	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
11	テーマ課題3	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
12	テーマ課題4	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
13	テーマ課題5	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
14	テーマ課題6	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
15	発表・講評会	次回課題の予習 (45分)	自宅学習課題 (45分)
16	講評によるフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	学習の振り返り(事前) (45分)	学習の振り返り(事後) (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	岡田 武志 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：岡田 武志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に着ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。							
授業の方法							
小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅠB (科目ナンバリング：BAS001004)					
授業担当者 (所属・職名)	岡田 武志 (経営学科・助教)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者： 岡田 武志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション (スポーツの価値)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション (アマチュアスポーツとプロスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション (日本でのスポーツの発展)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション (学生スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1 (身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2 (身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	グループディスカッション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	グループディスカッション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーションと質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーションと質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーションと質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（M） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1（単位認定責任者：経営学科・キャリア支援委員）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
就職活動に必要な常識を身につけ学び、さらには年度の終盤で開始されるであろう就職活動に必要な準備を行う。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
就職活動を開始するために必要な心構えを身に付け、実践にあたって必要な準備を整えられること。							
授業全体の内容と概要							
就職活動に関わる代理店や業界から来学する講師により情報提供を受け、さらには就職活動の流れや留意事項を把握するため内定に至った先輩たちの体験談などを聴くなど、週毎に内容・テーマを変えて行われる。 そして、学びを実践する場として学内合同企業説明会を全員参加で行う。							
授業の方法							
毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎授業毎に振り返りシートを記入提出し、添削を受ける。学内合同企業説明会は、服装や持ち物など、事前指導に沿って準備して臨む。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
シラバスを読み授業の進行確認をすること。 初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。 講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講話中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上とキャリアタスクの登録					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「毎回の講話内容を把握し、実践で生かす力が身に付いている」	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、自らの就職活動に役立てるために整理された内容になっている。作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容をほぼ把握した内容になっている。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の理解について不十分であり、作文量も少ない。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話を理解できておらず、作文量も不足している。
思考力・判断力・表現力 「講師から求められる課題や、実践訓練的な要求に積極的に応えられている」	提出された課題の内容が充実しており、授業内容を分析し考えられている。積極的に授業参加しようとする意思が感じられる。	提出された課題の内容が充実しており、授業から知識を得ようとする意識を持っている。	提出された課題の内容が適切であり、授業で伝えられる知識の吸収についても問題が無い。	提出された課題の内容が不完全であり、授業への参加意思が低い。	求められる課題の提出がされておらず。授業への参加意思が著しく低い。
主体性・多様性・協働性 「必要とされる情報を、積極自らに取り込み、就職活動に生かそうとする意思を持っている」	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。質疑応答への参加など積極性も高い。	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。	講話の内容を的確に把握し、情報を整理することができている。	講話の内容把握が不完全であり、情報の整理も未熟である。	講話の内容把握が理解できていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（M） （科目ナンバリング：S0E012011）				
授業担当者 （所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員		研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員 研究室	
単位数	1（単位認定責任者：経営学科・キャリア支援委員）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義の概要/スタートアップ・シラバスの説明・オリエンテーション（科目を修了して「身に付く」）	シラバスを読み、授業の流れを把握する。（４５分）	授業から伝えられる情報収集について、その目的を明確にする。（４５分）
2	インターンシップの準備と対策①/マイナビ登録・インターンシップに参加する意味①・マイナビ2026登録	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
3	インターンシップの準備と対策②/リクナビ登録・インターンシップの準備と対策②・リクナビ登録	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
4	合説について/就職活動のスケジュール・合同企業説明会の周り方、質問など・就職活動の主なスケジュール	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
5	人事担当者講演・企業側から見る履歴書の意味や面接の意味など	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
6	GPS-Academicのフィードバック・GPS-Academicを用いての自己PR作成の方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
7	ビジネスマナー・実際のマナーを学んでみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
8	学科毎企業説明会・企業説明会 ～ 各学科2社ずつ企業を呼び説明会の実施	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
9	SPI/履歴書作成講座①・履歴書の作成方法やSPI試験の概要等	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
10	履歴書作成講座②・履歴書の作成方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
11	履歴書を書いてみる・学んだ事を参考に実際に記載してみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
12	面接対策講座・面接の種類と概要・面接、グループディスカッションの対策方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
13	SPI模擬受検・言語・非言語問題を解いてみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
14	就職内定報告会・各学科の就職内定者の報告会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
15	学科毎企業説明会・企業説明会 ～ 各学科2社ずつ企業を呼び説明会の実施	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
16	まとめ/フィードバック・就職情報サイト利用方法・キャリア支援センターの利用方法・支援方法	全授業内容を振り返っておくこと。（４５分）	全授業内容を整理し、その実践について考え、準備する。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（S） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員			研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室	
単位数	1（単位認定責任者：社会福祉学科・キャリア支援委員）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

概要

履修目標

就職活動に必要な常識を身につけ学び、さらには年度の終盤で開始されるであろう就職活動に必要な準備を行う。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。

到達目標

就職活動を開始するために必要な心構えを身に付け、実践にあたって必要な準備を整えられること。

授業全体の内容と概要

就職活動に関わる代理店や業界から来学する講師により情報提供を受け、さらには就職活動の流れや留意事項を把握するため内定に至った先輩たちの体験談などを聴くなど、週毎に内容・テーマを変えて行われる。
そして、学びを実践する場として学内合同企業説明会を全員参加で行う。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。
講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎授業毎に振り返りシートを記入提出し、添削を受ける。学内合同企業説明会は、服装や持ち物など、事前指導に沿って準備して臨む。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

シラバスを読み授業の進行確認をすること。
初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。
講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「毎回の講話内容を把握し、実践で生かす力が身に付いている」	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、自らの就職活動に役立てるために整理された内容になっている。作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容をほぼ把握した内容になっている。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の理解について不十分であり、作文量も少ない。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話を理解できておらず、作文量も不足している。
思考力・判断力・表現力 「講師から求められる課題や、実践制験的な要求に積極的に応えられている」	提出された課題の内容が充実しており、授業内容を分析し考えられている。積極的に授業参加しようとする意思が感じられる。	提出された課題の内容が充実しており、授業から知識を得ようとする意識を持っている。	提出された課題の内容が適度であり、授業で伝えられる知識の吸収についても問題が無い。	提出された課題の内容が不十分であり、授業への参加意思が低い。	求められる課題の提出がさけておらず、授業への参加意思が著しく低い。
主体性・多様性・協働性 「必要とされる情報を、積極自らに取り込み、就職活動に生かそうとする意思を持っている」	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。質疑応答への参加など積極性も高い。	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。	講話の内容を的確に把握し、情報を整理できている。	講話の内容把握が不完全であり、情報の整理も未熟である。	講話の内容把握が理解できていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（S） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員 研究室		
単位数	1（単位認定責任者：社会福祉学科・キャリア支援委員）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義の概要/スタートアップ シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読み、授業の流れを把握する。（４５分）	授業から伝えられる情報収集について、その目的を明確にする。（４５分）
2	インターンシップの準備と対策① 新リクナビ登録	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
3	インターンシップの準備と対策② マイナビ登録 マイナビWUCH Plusの受験	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
4	就職活動のスケジュール	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
5	人事担当者講演 企業側からみる履歴書や面接の意味など	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
6	GPS-Academicのフィードバック GPS-Academicを用いての自己PR作成の方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
7	ビジネスマナー	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
8	学科毎企業説明会 企業説明会 ～ 各学科2社ずつ企業を呼び説明会の実施	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
9	SPI/履歴書作成講座① 履歴書の作成方法やSPI試験の概要等	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
10	履歴書作成講座② 履歴書の作成方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
11	履歴書を書いてみる 学んだ事を参考に実際に記載してみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
12	面接対策講座 面接の種類と概要 面接、グループディスカッションの対策方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
13	SPI模擬受検 言語・非言語問題を解いてみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
14	就職内定報告会 各学科の就職内定者の報告会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
15	学科毎企業説明会 企業説明会 ～ 各学科2社ずつ企業を呼び説明会の実施	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
16	まとめ/授業内フィードバック 就職情報サイト利用方法 キャリア支援センターの利用方法・支援方法	全授業内容を振り返っておくこと。（４５分）	全授業内容を整理し、その実践について考え、準備する。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（D） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室		
単位数	1（単位認定責任者：キャリア支援委員（デザイン学科））			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
就職活動に必要な常識を身につけ学び、さらには年度の終盤で開始されるであろう就職活動に必要な準備を行う。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
就職活動を開始するために必要な心構えを身に付け、実践にあたって必要な準備を整えられる。							
授業全体の内容と概要							
就職活動に関わる代理店や業界から来学する講師により情報提供を受け、さらには就職活動の流れや留意事項を把握するため内定に至った先輩たちの体験談などを聴くなど、週毎に内容・テーマを変えて行われる。 そして、学びを実践する場として学内合同企業説明会を全員参加で行う。							
授業の方法							
毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎授業毎に振り返りシートを記入提出し、添削を受ける。学内合同企業説明会は、服装や持ち物など、事前指導に沿って準備して臨む。 不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
シラバスを読み授業の進行確認をすること。 初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。 講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回以上。 キャリアタスクに登録済みであること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「毎回の講話内容を把握し、実践で生かす力が身に付いている」	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、自らの就職活動に役立てるために整理された内容になっている。作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容をほぼ把握した内容になっている。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の理解について不十分であり、作文量も少ない。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話を理解できておらず、作文量も不足している。
思考力・判断力・表現力 「講師から求められる課題や、実践的・必要に積極的に応えられている」	提出された課題の内容が充実しており、授業内容を分析し考えられている。積極的に授業参加しようとする意思が感じられる。	提出された課題の内容が充実しており、授業から知識を得ようとする意識を持っている。	提出された課題の内容が適度であり、授業で伝えられる知識の吸収についても問題が無い。	提出された課題の内容が不十分であり、授業への参加意思が低い。	求められる課題の提出が適切であり、授業への参加意思が著しく低い。
主体性・多様性・協働性 「必要とされる情報を、積極自らに取り込み、就職活動に生かそうとする意思を持っている」	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。質疑応答への参加など積極性も高い。	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。	講話の内容を的確に把握し、情報を整理できている。	講話の内容把握が不完全であり、情報の整理も未熟である。	講話の内容把握が理解できていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（D） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	キャリア支援委員（デザイン学科）		研究室等所在	キャリア支援委員研究室		
単位数	1	（単位認定責任者：キャリア支援委員（デザイン学科））			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会人としての実務経験のある教員が、その経験を生かし社会人としての在り方を学生に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション	シラバスを読み、授業の流れを把握する。（４５分）	授業から伝えられる情報収集について、その目的を明確にする。（４５分）
2	インターンシップの準備と対策①	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
3	インターンシップの準備と対策②	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
4	就職活動のスケジュール	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
5	人事担当者講演	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
6	GPS-Academicのフィードバック	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
7	ビジネスマナー	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
8	学科毎企業説明会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
9	SPI/履歴書作成講座①	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
10	履歴書作成講座②	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
11	履歴書を書いてみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
12	面接対策講座	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
13	SPI模擬受検	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
14	就職内定報告会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
15	学科毎企業説明会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
16	まとめ フィードバック 授業改善アンケートの実施	全授業内容を振り返っておくこと。（４５分）	全授業内容を整理し、その実践について考え、準備する。（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	通年		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（A） （科目ナンバリング：S0E012011）					
授業担当者 （所属・職名）	学科キャリア支援委員			研究室等所在	各研究室	
単位数	1（単位認定責任者：学科キャリア支援委員）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

概要

履修目標

就職活動に必須とされる社会人常識や選考に望むためのプロセスを学び、3年次に於いて本格化する就職活動のための態勢を整える。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

学生が自身の就職活動を客観的に評価し、常に改善意識を持ちながら繰り返し実践を続けていくことができるようになる。

授業全体の内容と概要

就職活動に関わる代理店や業界から来学する講師により情報提供を受け、さらには就職活動の流れや留意事項を把握するため定内に至った先輩たちの体験談などを聴くなど、授業毎に内容・テーマを変えて行われる。そして、学びを実践する場として学内合同企業説明会を全員参加で行う。

授業の方法

毎回の主題に準じた各界の講師による講話を主とした授業が行われる。概要説明はPowerPointにて作成され、他に配布物としてプリントが用いられることもある。講話終了後に質疑応答が行われ、疑問や要望などの解決に対応する。学生は毎授業毎に振り返りシートを記入提出し、添削を受ける。学内合同企業説明会は、服装や持ち物など、事前指導に沿って準備して臨む。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

シラバスを読み授業の進行確認をすること。
初回のガイダンスにて説明を受ける各回の講師について、事前に下調べをしておくこと。
講話終了後の質疑応答には積極的に参加すること。
遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「毎回の講話内容を把握し、実践で生かす力が身に付いている」	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、自らの就職活動に役立てるために整理された内容になっている。作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容を的確に捉えており、作文量も充実している。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の内容をほぼ把握した内容になっている。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話の理解について不十分であり、作文量も少ない。	毎回提出の振り返りシートの内容が、講話を理解できておらず、作文量も不足している。
思考力・判断力・表現力 「講師から求められる課題や、実践制験的な要求に積極的に応えられている」	提出された課題の内容が充実しており、授業内容を分析し考えられている。積極的に授業参加しようとする意思が感じられる。	提出された課題の内容が充実しており、授業から知識を得ようとする意識を持っている。	提出された課題の内容が適度であり、授業で伝えられる知識の吸収についても問題が無い。	提出された課題の内容が不十分であり、授業への参加意識が低い。	求められる課題の提出が適切でなく、授業への参加意識が著しく低い。
主体性・多様性・協働性 「必要とされる情報を、積極自らに取り込み、就職活動に生かそうとする意思を持っている」	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。質疑応答への参加など積極性も高い。	講話の内容を的確に把握し、自らの意見を交えて情報の整理することができている。	講話の内容を的確に把握し、情報を整理することができている。	講話の内容把握が不十分であり、情報の整理も未熟である。	講話の内容把握が理解できていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・3年				
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択	
科目名称	キャリア支援演習Ⅲ（A） （科目ナンバリング：S0E012011）						
授業担当者 （所属・職名）	学科キャリア支援委員		研究室等所在		各研究室		
単位数	1（単位認定責任者：		学科キャリア支援委員）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業評価アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明スタートアップガイダンス、キャリアパスU C登録作	シラバスを読み、授業の流れを把握する。（４５分）	授業から伝えられる情報収集について、その目的を明確にする。（４５分）
2	インターンシップに参加する意味① 新リクナビ登録	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
3	インターンシップに参加する意味② マイナビ登録 マイナビWATCH Plus受検	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
4	・就職活動の主なスケジュール ・就活の計画を立てる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
5	企業側から見る履歴書の意味、面接の意味	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
6	GPS-Academicを用いての自己PR作成の方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
7	・社会人向けのマナーを学ぶ ・インターンシップ参加に向けてのグループワーク	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
8	企業説明会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
9	SPI試験の概要	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
10	履歴書の作成方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
11	履歴書を書いてみる	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
12	・面接の種類と概要 ・面接、グループディスカッションの対策方法	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
13	SPI模擬受検	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
14	就職内定報告会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
15	学科毎企業説明会	次回の授業内容に必要な事前取材をする。（４５分）	授業内容を復習し、ノートに整理する。（４５分）
16	就職情報サイト、キャリア支援センターの利用方法 授業改善アンケートの実施、総評によるフィードバック	全授業内容を振り返り（事前）（４５分）	全授業内容を振り返り（事後）４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3～4年		
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	みらい創造プログラム (科目ナンバリング: SEM093057)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山(経営学科・准教授) 篠原(経営学科・専任講師)		研究室等所在	信濃:2号館6階、河野:1号館2階、石山:1号館2階、篠原:1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者:	信濃(経営学科・教授)、河野(経営学科・教授)	CAP制	×
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各担当教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「みらいビジネスラボ」が主催する人材育成セミナーに参加して、セミナーでの主体的な学び、さらには授業や就職活動での実践を通じて、自身のキャリア形成に役立つ知識やビジネスに役立つスキルを身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。

到達目標

学外のセミナーに複数回参加して、ビジネスに関連する知識やスキルを主体的・積極的に学べる。
 セミナーで学んだ知識や技能について要点をまとめ、自分なりの言葉で表現して他者に説明できる。
 セミナーで学んだ知識や技能と経験を、学内外での学びや就職活動の場、今後のキャリア形成での計画に活用できる。

授業全体の内容と概要

多様なビジネス分野の専門家に参加し、ビジネスに必要なマナやマヨロケーション、ロジカルシンキングなどのスキルを学ぶ。各セミナーの内容は主催者と参加者双方のニーズによって変わる。このセミナーに参加することで何を学ぶかの計画は、担当教員とも相談しながら、受講生が主体的に決める。また、セミナーの受講後に、レポートや教員とめて報告する。その報告に対して教員が講評を添えてフィードバックする。

授業の方法

まず、みらいびじネスラボのセミナー情報をもとに内容がセミナーへの参加計画を、担当教員に報告・相談する。最終的に決定した計画は120～180分程度のセミナーに複数回参加する。選択するセミナーをセミナー表から選ぶ。セミナー表には講師や他の受講者とのディスカッションやグループ学習が想定される。またセミナー参加後は、セミナーの内容についての復習として、担当教員に報告する。また、不測の事態に起きた場合、オンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各セミナーはオンライン会議ツールZOOMを利用して遠隔で開講される。そのため、ZOOMを無償に使用可能なカメラやマイク、ノートパソコンなど、すべてタブレット型端末が、必要である。また、学外のセミナーであるため、セミナーの開催日時等は大学の授業時間とは無関係であり、他の授業との配慮もない。むしむし理由を除き、申込で入ったセミナーの欠席は認められず、補講も想定とされている。これらを考慮して授業対象者は、すでに十分な学力を取得済みで、セミナー参加のために時間的融通のきく者、かつ原則として通算GPA3.0以上の者とする。また、履修を希望する者は事前に担当教員との面談が必要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低でも3回のセミナー参加と各セミナーへの参加計画ならびに参加後の報告課題

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	100%	0%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学修の主体性	他の参加者や講師と活発に意見交換ができた。	他の参加者の発言に対して意見を述べる事ができた。	セミナーでみずからの意見を述べる事ができた。	セミナーで講師の問いに対して発言できた。	セミナーで発言できなかった。
知識・技能の修得・表現	学んだ知識・技能を的確にレポートにまとめて、それをもとに簡潔に報告できた。	学んだ知識・技能をレポートにして、それをもとに報告できた。	学んだ知識・技能をレポートにするとともに、ある程度の内容を報告できた。	学んだ知識・技能をレポートの形でまとめて提出した。	学んだ知識・技能をレポートにまとめることができなかった。
学んだスキルの実践・活用	セミナーで学んだ経験やスキルを学修や就職活動で実践するとともに今後のキャリア計画に具体的に生かすことができた。	セミナーで学んだ経験やスキルを学修や就職活動の場で実践できた。	セミナーで学んだ経験やスキルを学修や就職活動の場である程度ためすことができた。	セミナーで学んだ経験を学修や就職活動の参考にできた。	セミナーの経験を学修や就職活動、キャリア計画の参考にできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3～4年			
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	みらい創造プログラム (科目ナンバリング：SEM093057)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃(経営学科・教授) 河野(経営学科・教授) 石山 (経営学科・准教授) 篠原(経営学科・専任講師)		研究室等所在	信濃：2号館6階、河野：1号館2階、 石山：1号館2階、篠原：1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 信濃(経営学科・教授)、河野(経営学科・教授))		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各担当教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む）	シラバスをよく読み、「みらいビジネスラボ」のサイトの内容を確認する。（４５分）	シラバスの重点事項と担当教員の説明をノートにまとめる。（４５分）
2	ビジネススキル演習（コミュニケーション等）１：事前計画・準備	開講予定のセミナー情報を精査して、受講するセミナーの計画をねる。（４５分）	計画について担当教員と相談した内容をノートにまとめる。（４５分）
3	ビジネススキル演習（コミュニケーション等）２：セミナー参加	受講するセミナーの説明をよく読み、不明な用語等について調べる。（９０分）	次回の事後学習を参照
4	前回のつづき。 ※ 1回のセミナー参加で（３時間程度）2コマぶんに相当	前回の事前学習を参照	受講したセミナーで学んだことをノートにまとめる。（９０分）
5	ビジネススキル演習（コミュニケーション等）３：まとめ	セミナーで学んだスキルとその活用について考察し、レポート案をまとめる。（４５分）	学んだスキルの活用計画をねる。（４５分）
6	ビジネススキル演習（ロジカルシンキング等）１：事前計画・準備	開講予定のセミナー情報を精査して、受講するセミナーの計画をねる。（４５分）	計画について担当教員と相談した内容をノートにまとめる。（４５分）
7	ビジネススキル演習（ロジカルシンキング等）２：セミナー参加	受講するセミナーの説明をよく読み、不明な用語等について調べる。（９０分）	次回の事後学習を参照
8	前回のつづき。 ※ 1回のセミナー参加で（３時間程度）2コマぶんに相当	前回の事前学習を参照	受講したセミナーで学んだことをノートにまとめる。（９０分）
9	ビジネススキル演習（ロジカルシンキング等）３：まとめ	セミナーで学んだスキルとその活用について考察し、レポート案をまとめる。（４５分）	学んだスキルの活用計画をねる。（４５分）
10	ビジネススキル演習（自己啓発等）１：事前計画・準備	開講予定のセミナー情報を精査して、受講するセミナーの計画をねる。（４５分）	計画について担当教員と相談した内容をノートにまとめる。（４５分）
11	ビジネススキル演習（自己啓発等）２：セミナー参加	受講するセミナーの説明をよく読み、不明な用語等について調べる。（９０分）	次回の事後学習を参照
12	前回のつづき。 ※ 1回のセミナー参加で（３時間程度）2コマぶんに相当	前回の事前学習を参照	受講したセミナーで学んだことをノートにまとめる。（９０分）
13	ビジネススキル演習（自己啓発等）３：まとめ	セミナーで学んだスキルとその活用について考察し、レポート案をまとめる。（４５分）	学んだスキルの活用計画をねる。（４５分）
14	演習報告１：これまでのセミナーの振り返り	これまで参加したセミナーのレポートを読む。（４５分）	これまで参加したセミナーレポートを見直す。（４５分）
15	演習報告２：これまでのセミナーの報告レポートの作成	これまでに参加したセミナーレポートの見直しをもとに最終レポートを案をまとめる。（４５分）	これまでのセミナーで学んだスキルの活用を考える。（４５分）
16	演習報告２：これまでのセミナーの報告とまとめ 報告に対する講評 履修により「身に付く力」の検証	報告のための準備（４５分）	報告の振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技,実験	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 本専門演習の学習上の注意点 授業改	シラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	◇ クラウドコンピューティング ・Microsoft 365の利用 ・Apple、Google他のクラウドサービス	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	◇ クラウドサービスを利用した文書管理 ・Office 365をPCとスマートフォンで共有する ・クラウドドライブを使ったデータのバックアップ	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	◇ 生成AI ・生成AIの種類と特徴、技術的背景 ・生成AIの利点・欠点、誤った使い方 (偽情報)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	◇ 生成AIを文書作成に活かす ・自分で書いた文章の評価・構成、生成AIに文章を 書かせる	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	◇ 生成AIによる画像作成 ・文章 (プロンプト) からの画像生成 ・生成された画像の知的所有権の取り扱い	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	◇ 生成AIとプログラミング ・生成AIの効果的な使い方 ・プロンプトエンジニアリング 他	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	◇ 生成AIを利用したExcel VBAプログラミング (1)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	◇ 生成AIを利用したExcel VBAプログラミング (2)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	◇ 生成AIを利用したPythonプログラミング (1)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	◇ 生成AIを利用したPythonプログラミング (2)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	◇ AIの活用事例研究 ・生産現場で使われるAI ・ビジネス現場で使われるAI	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	◇ AIに関する議論 ・AIの有用性と問題点、倫理面等について総合的な 議論	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	◇ AIに関する議論 ・AIの有用性と問題点、倫理面等について総合的な 議論	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	◇ AIに関する議論 ・プレゼンテーション	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	◇ 全体まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員			研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4・質の高い教育をみんなへ」の関連授業							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりするとはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を見につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員			研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業③	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業④	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・脱説によるフィードバック	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

専門演習Ⅰを通じて身につけた経済学的思考・研究方法や学問姿勢をもとにして、学生が主体的に課題を設定し、それを学問的に考察・解決する能力を身につける。
また、その考察の結果をレポート等の形でまとめる能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
課題解決にむけて他者と経済学的討議ができる。
課題解決のための考察の結果をレポート等の文書としてまとめる演習に取りくめる。

授業全体の内容と概要

日常生活の不思議・疑問から導かれる問題・課題の解決に経済学の視点・概念を活用して取り組む。その上で、その成果をレポート・論文としてまとめる過程について学び、実際にレポート・論文を作成する演習をおこなう。

授業の方法

専門演習Ⅰでの演習をもとに、身近な生活のなかから不思議・疑問を自ら探索し、そこから経済学的な問題・課題を教員と対話しながら抽出する。また、そのテーマについて、経済学の視点・概念の活用や他者とのディスカッションを通じて考察する。その上で、その考察成果をレポート・論文としてまとめる過程を演習する。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済学的考察による課題解決への取組み	課題の解決案に経済学の考え方を具体的に活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方を活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方をある程度活用できた。	課題解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめた。	課題解決にむけて経済学の考え方を活用できなかった。
考察での他者の意見の活用	課題に関する積極的な討議や詳細の資料解釈を行い、考察に活用できた。	課題に関する討議や資料の解釈を行い、自分なりに考察できた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、ある程度考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料を考察の参考にできなかった。
考察結果のまとめと報告	考察の結果を論理的に展開して文書にまとめることができた。	考察の結果を整理して文書として自分なりにまとめることができた。	考察の結果を整理して文書としてある程度自分なりにまとめることができた。	考察の結果をある程度文書としてまとめることができた。	考察結果を文書にまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	シラバス等の確認とまとめ (45分)
2	課題 (テーマ) の探索 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
3	課題 (テーマ) の探索 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
4	課題 (テーマ) の探索 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
5	問題と仮説をたてる 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
6	問題と仮説をたてる 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
7	問題と仮説をたてる 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
8	資料の収集と分析 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
9	資料の収集と分析 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
10	資料の収集と分析 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
11	考察と仮説の見直し 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
12	考察と仮説の見直し 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
13	考察と仮説の見直し 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
14	前期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
15	前期学生生活・修学の振り返り	半期の学生生活について振り返る (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
16	補講課題等へのコメント (フィードバック) 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認 (45分)	演習ノートの整理 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 岡島 徳昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。 「SDG8.働きがいも経済成長も」の関連科目。 「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。							
授業の方法							
専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。 専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。 ※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらになる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不の明点を質問したりする姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることではなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	授業への参加の心構えを考える。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
2	アセスメントテスト 株式会社機関設計（1） 卒業論文テーマ作成（1）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
3	株式会社機関設計（2） 卒業論文テーマ作成（2）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
4	株式会社機関設計（3） 卒業論文テーマ作成（3）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
5	株式会社の経営体制－骨格と役割（1）株主総会 卒業論文テーマ作成（4）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
6	株式会社の経営体制－骨格と役割（2）取締役・取締役会 卒業論文テーマ作成（5）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
7	株式会社の経営体制－骨格と役割（3）取締役・取締役会 卒業論文調べ学習（1）新聞	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
8	株式会社の経営体制－責任（1）役員 卒業論文調べ学習（2）白書	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
9	株式会社の経営体制－責任（2）役員 卒業論文調べ学習（3）図書館	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
10	株式会社の経営体制－責任（3）役員 卒業論文調べ学習（4）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
11	株式会社の経営体制－責任（4）役員 卒業論文調べ学習（5）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（5）指名委員会等・監査等委員会・執行役 卒業論文概要発表会（1）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（6）監査役・監査役会 卒業論文概要発表会（2）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（7）会計参与・会計監査役 卒業論文概要発表会（3）	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
15	個別面談・履修登録チェック 卒業論文概要講評会	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	授業の振り返りを行う。（45分）
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	指定された内容の準備完了を確認する。（45分）	前期全体の振り返りを行う。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	グループディスカッションの基本	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 ① (研究テーマの候補をいくつか挙げる)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	研究テーマの決定	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	研究の実行① (フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	研究の実行② (フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	研究の実行③ (フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	調査のまとめ① (報告書の作成)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	調査のまとめ② (報告書の作成)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	調査のまとめ③ (報告書の作成)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	プレゼンテーション (研究成果の発表) と質疑応答	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	本研究の検証① (振り返り)	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	本研究の検証② (後期に向けた改善点) 授業改善アンケートの実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)				
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医科学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢・学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を身につける。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。
授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。
到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得できるよう努力する。
授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行なうなど、実社会において使える技能に応じそをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオフラインによる授業を実施する場合がある。
アクティブラーニングの実施方法
○ プレゼンテーション ○ グループワーク ○ フィールドワーク ○ PBL 模倣授業 ロールプレイ 調査学習 反転授業 ○ ディスカッション ○ 実験・実習・実技 双方向授業 その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実遂力の獲得へ向けた理解の深まりがみられた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらに研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生として活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業⑭	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について。 授業改善アンケートの実施。 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 ・新たな指導法を確立する。 陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
トレーニング内容を分析してワード・エクセル等で処理する。 トレーニング内容を検証してデータ処理を身につける。							
授業全体の内容と概要							
主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 ・トレーニング ・トレーニング内容の検証 ・レース内容の分析 - 陸上競技の基礎的知識と技能を身につけさせる。 ・簡単な動作分析 など - 陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。							
授業の方法							
自分が行いたいテーマを決め、トレーニングを組み実践する。 各自のトレーニング経過をゼミで発表し、意見交換を行い今後のレースに向けて検証していく。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各自の状態によってトレーニング内容を変更して、日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニング・レースなどから評価する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 陸上競技の大会等の結果から知識技能を身につけたか評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	おおむね陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない力所がある	全く陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス (45分)	学習内容の説明（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング①	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング②	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング③	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング④	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施 身に付ける事ができたかどうかフィードバックして	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。
- ・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。

- ・トレーニング
- ・各都活における新たな指導法
- ・ゲーム分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

- ・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
- ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	ブレ測定	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：小林 大州介）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業①	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
3	担当教員による授業②	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
4	担当教員による授業③	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
5	担当教員による授業④	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（45分）	授業の復習（45分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
16	前期授業の総括・講評を行う 授業に係る解説によるフィードバック 科目を終了して「身に付く力」の検証	前期授業の復習（45分）	全体の復習（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標

専門演習ⅡA・ⅡBの授業の目的は『卒業論文の執筆・完成させる』ことである。いるな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要であることから、様々な学
引き続き、ベースの強い学生には、卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要であることから、様々な学
問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その
中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習ⅠA・専門演習ⅡBは、
その過程を生み出す学習を継続し、早期に専門演習ⅡA・ⅡBの『卒業論文の執筆・完成させる』ことに引き上げることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科DP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造す
ることが到達目標である

授業全体の内容と概要

1. 順調な学生への対応
(1) 卒業論文の執筆の指導
(2) 卒業論文の完成までに指導
(3) 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目
2. ベースが弱い学生への指導
(1) 卒業論文のテーマを見つける。
(2) 卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。
(3) 卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。
(4) 卒業論文のテーマを確定させる。
(5) 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

1. 授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
2. 適宜、質疑応答を交える。
3. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
4. 地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
5. 大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 4年生前期に専門演習ⅡA、その後、後期に専門演習ⅡBを担当する。
2. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
3. 必要な資料等は適宜配布する。
4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
5. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができおり、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員 としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス (シラバスの説明を含む科目を修了して『身に付く力』についての説明)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業及び地域活動1 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業及び地域活動2 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業及び地域活動3 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業及び地域活動4 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業及び地域活動5 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業及び地域活動6 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業及び地域活動7 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業及び地域活動8 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業及び地域活動9 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業及び地域活動10 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業及び地域活動11 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業及び地域活動12 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業及び地域活動13 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業及び地域活動14 専門演習ⅠA・ⅠBから進歩した学び 論文作成と調査	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 論文作成と調査 専門演習ⅠA・ⅠBからの進歩と専門演習ⅡBへの展	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、セミナーごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。

- ・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
- ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
- ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・セミナー・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件 1 1 回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	1 0 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス (シラバスの説明を含む) 、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業1 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業2 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業3 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業4 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業5 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業6 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業7 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業8 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業9 教育動向、特別支援教育、教職に関するテーマに係る演習	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業10 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業11 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業12 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業13 各テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業14 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表 演習の 講評・フィードバック、科目を修了して「身に付く	予習課題 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4863715486	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4863715486	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

概要

履修目標							
卒論準備（アカデミック・シンキング）の基礎理解をおこなう。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。 学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。							
授業全体の内容と概要							
専門演習では、アカデミック・シンキングを学修する。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。 次の①から④について段階的理解をすすめる。 ①学術論文のスタイルを確認する。 （書く作業のなかで思考を深める。先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ） ②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて 図書情報館レファレンスサービスを受け取寄せる。 ③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。 社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。 ④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。 （定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける）							
授業の方法							
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 アカデミック・シンキング基本文献は、該当年度のゼミメンバーにより初回演習にて相談、決定をおこなう。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。 コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。 準備学習に必要な教材（論文コピー、報告書など） 課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料） 授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報 授業者への相談質問のための案内 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量の基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べ、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な前立の構成である。学術論文の引用注記を明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出した。引用形式と注釈は適切であった。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基にはおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割は、自分と異なる意見と協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、自分と異なる意見と協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、自分と異なる意見と協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						研究主題にもとづく 学術文献、先行研究
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の説明)	シラバス、科目Teamsの確認（45分）	スケジュールと準備学習の整理（45分）
2	アカデミック・シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
3	アカデミック・シンキング基礎2（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
4	アカデミック・シンキング基礎3（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
5	アカデミック・シンキング基礎4（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
10	文献講読1（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
11	文献講読2（分担報告）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
12	文献講読3（分担報告）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
13	文献講読4（分担報告）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
14	文献講読5（分担報告）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
15	文献講読6（分担報告）	文献の読解（45）	文献注解の整理（45分）
16	まとめ（授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明）	文献の読解（45）	次学期への課題設定（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	鹿応義塾大学出版会	2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標							
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
学生が学びたいテーマに沿った形で進められる。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業1	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	授業内フィードバック 総括 科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標																								
こども・高齢・障害分野に興味関心を持ち、文献を調べ、卒業論文執筆に専念する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 具体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。																								
授業全体の内容と概要																								
「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業の方法																								
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>PBL</td></tr><tr><td>○</td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td>○</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL	○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL																	
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・（専門演習ⅠA・ⅠBから継続）。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 ・ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを踏襲した地域活動への参加を求める。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回以上とするが全回出席が望ましい。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実現したい内容の意見	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を 行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。

②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。

③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。

④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①自身の研究テーマに沿い、卒業論文作成を目指す。

②就職活動に向けての取組みを目指す。

③資格取得に向けた知識を習得する。

④卒業までに必要な準備を計画立てて行う。

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。

質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 科目を終了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	就職活動準備・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括 科目を終了して『身に付く力』についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に付けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。

- ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
- ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
- ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマを定めることができた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できた。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっていた。	左記の内容が何一つできていなかった。
研究テーマに関するディスカッションができた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できた。	自分の研究テーマについての最低限のプレゼンテーションができた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科各・特任教授)		研究室等所在	各教員研修室		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する科目

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日の課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習Ⅰ」を担当した教員が「専門演習Ⅱ」を担当する。
「専門演習ⅡA」を担当した教員が後期の「専門演習ⅡB」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日の課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	50%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科各・特任教授)		研究室等所在	各教員研修室		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に就いた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 活動の目的、方法、前期の活動計画等の確認、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題1 各自の関心事、課題等の発表、協議1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題2 各自の関心事、課題等の発表、協議2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	特別支援教育、障害のある子に対する教育課題3 各自の関心事、課題等の発表、協議3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題4 各自の関心事、課題等の発表、協議4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題5 各自の関心事、課題等の発表、協議5	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	特別支援教育、障害のある子の教育の今日的課題6 各自の関心事、課題等の発表、協議のまとめ	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	各自の関心事、課題等のまとめ（中間報告、今後の活動計画の確認） 後半の活動計画、各自の活動計画等の確認	前半の振り返り (45分)	振り返りの確認 (45分)
9	教育動向、教職に関する知見について1 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	教育動向、教職に関する知見について2 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	教育動向、教職に関する知見について3 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	教育動向、教職に関する知見について4 各自の研究内容の焦点化や明文化による考えの整理と発表4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	教育動向、教職に関する知見について5 中間報告会資料の作成（各自研究内容プレゼン）	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	教育動向、教職に関する知見について6 中間報告会資料の作成（各自研究内容プレゼン）	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	中間報告会1（各自研究内容のプレゼン資料発表、その後の推進に向けた意見交換） 科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り (45分)	全体の振り返り (45分)
16	中間報告会2（各自研究内容のプレゼン資料発表、その後の推進に向けた意見交換） 科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り (45分)	全体の振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む） 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括 各テーマに基づく文献・調査研究等の発表 科目を修了して「身に付ける力」の検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル
(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件11回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒論の進捗状況について、経過を発表する 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉澤 英里)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
社会福祉分野の心理学に興味関心をもち、卒業論文執筆に専念する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。							
授業全体の内容と概要							
「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・原則として、専門演習ⅠA・ⅠBから担当教員は継続する。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自分、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡA (科目ナンバリング：SEM134147, SEM434088,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見 収集（前年度の評価反省を活かす）	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション 身に付く力についての検証 フィードバック	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅰ (科目ナンバリング: AEA211012)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標						
立体の作品制作を通じて、基本的な構成原理を理解し、様々な美術表現に必要な基礎的な造形力を身につける。						
授業の位置づけ						
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。						
到達目標						
立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。						
授業全体の内容と概要						
授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。						
授業の方法						
スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（40％）、ポートフォリオ点（30％）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（30％）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解 (知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形であった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、活用した。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を活用しようと試みた。	作品が自立し、構造的にも安定していなかった	作品が自立せず、立体として成立していなかった
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集しポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した	制作した作品を取めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を取めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	立体構成Ⅰ (科目ナンバリング：AEA211012)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと (45分)	オリエンテーションを振り返り内容を理解する事 (45分)
2	立体構成とは何か	立体構成という言葉について調べてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
3	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
4	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
5	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
6	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
7	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
8	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
9	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
10	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
11	紙の加工法1 切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
12	紙の加工法1 切る・組み立てる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
13	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
14	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
15	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
16	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「美の構成学 ーバウハウスからフラクタルまでー」』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
18	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
19	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
20	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
21	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
22	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
23	構成原理より5 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
24	構成原理より7 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
25	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
26	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
27	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
28	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
29	ポートフォリオ作成 (チュートリアル)	ポートフォリオ作成 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
30	ポートフォリオ作成 (チュートリアル)	ポートフォリオ作成 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
31	講評 授業全体への講評と提出されたポートフォリオへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと (45分)	講評を再考し、理解を深めること (45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと (45分)	講評を再考し、理解を深めること (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーション基礎Ⅰ (科目ナンバリング：AEA221038)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

概要

履修目標							
イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。							
授業全体の内容と概要							
透明水彩、アクリル絵の具などを使用して各課題を制作しながら様々なイラスト表現を身につける。							
授業の方法							
各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い、作品提出がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻3回で欠席1回とみなす。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに對し の制作意欲及び授業態度。	授業の事前事後学習を進め 意欲的な制作態度、取り組 みがなされ模範的な授業態 度であった。	授業の事前事後学習を進め 、真面目に授業課題の作品 制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に 取り組んでいた。	授業課題に取り組みながら も制作意欲が乏しかった。	授業に對しての意欲が感じ られず制作態度の取り組 みに欠けていた。
イラスト表現に於ける画材 の知識及び理解。	授業内容に積極的に真剣に 取り組み、知識の習得と理 解度を深めてた。	授業内容に真剣に取り組 み、授業内容を充分理解して いた。	授業内容を真面目に取り組 み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解 がみられた。	授業内容を理解していな った。
イラスト表現への研究及び 習得。	授業内容を深く理解して研 究心、習得への向上心が著 しくあり実践的にも優れて いた。	授業内容を充分理解して研 究心があり習得して形にし ていた。	授業内容を概ね理解して真 面目に研究、習得していた 。	授業内容への最低限の理解 がみられた。	授業内容を理解せず研究 心、習得への意欲に欠けて いた。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅰ (科目ナンバリング：AEA221038)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)			研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：		佐藤 正人)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について） シラバスの説明。授業改善アンケート結果反	シラバスを読んでおくこと。 (45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
2	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について） シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。 (45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。 (45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。 (45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
5	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。 (45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。 (45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業－1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業－1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	透明水彩で着色作業－2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと (45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
10	透明水彩で着色作業－2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと (45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業－1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。 (45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業－1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。 (45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。 (45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。 (45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブ リアルファ		2019年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習－1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと (45分)
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習－1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと (45分)
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習－2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習－2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
25	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。 (45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
26	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。 (45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
27	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
28	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
30	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。 (45分)
31	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
32	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。授業アンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修	作品の完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生			
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 課題の発表、市場調査	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。 (45分)	市場調査を行う。(45分)
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。(45分)	仮説をまとめる。(45分)
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。(45分)	第三者からの意見を考察する。(45分)
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。(45分)	アイデアを考察。(45分)
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
12	デザインプレゼンテーション1	アイデアを考察。(45分)	第三者からの意見を取り入れる。(45分)
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。(45分)	アイデアを考察。(45分)
14	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
15	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	まとめ(45分)	まとめ(45分)
16	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評	まとめ(45分)	まとめ(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	最終作品に取り掛かる。	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
18	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
19	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
20	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
21	アイデアスケッチ中間審査	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
22	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
23	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
24	アイデアスケッチ審査会	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
25	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
26	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
27	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
28	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
29	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
30	プレゼンパネル作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
31	プレゼンパネル作成	まとめ(45分)	まとめ(45分)
32	プレゼンテーション 総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目	まとめ(45分)	まとめ(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	上坂恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 上坂 恒章)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心とした デジタル分野を経験してきた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
出席2回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デジタルデザイン分野におけるオリジナル作成制作のための知識の修得。	自ら率先し知識を修得し、十分、オリジナル作品となっていた。	基本的な知識を身に付け、オリジナル作品となっていた。	基本的な知識を概ね身に付けオリジナル作品となっていた。	基本的な知識を最低限身に付けた作品となっていた。	基本的な知識を理解していなかった。
デジタルデザイン分野におけるな技能、技術を修得した作品となっていた。	自ら率先し技能、技術を修得し、十分理解していた。	基本的な技能、技術を理解していた。	基本的な技能、技術を概ね理解していた。	基本的な技能、技術が最低限あった。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
デジタルデザイン分野における知識、技能を活かした作品の制作・研究。	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作・、研究に取り組むことができていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に、概ね取り組むことができていた。	作品制作・研究にに最低取り組んでいた。	作品制作・研究にに取り組むことができていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂恒章（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者： 上坂 恒章）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心とした デジタル分野を経験してきた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	シラバスを呼んでおくこと（45分）	配布資料の確認（45分）
2	先行制作研究の調査、分析①	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
3	先行制作研究の調査、分析②	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
4	先行制作研究の調査、分析③	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
5	先行制作研究の調査、分析④	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
6	先行制作研究の調査、分析⑤	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
7	先行制作研究の調査、分析⑥	調査の事前計画（45分）	調査、分析の振り返り（45分）
8	発表	発表準備（45分）	発表の振り返り（45分）
9	作品制作1_①	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
10	作品制作1_②	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
11	作品制作1_③	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
12	作品制作1_④	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
13	作品制作1_⑤	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
14	作品制作1_⑥	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
15	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認（45分）	プレゼン後の振り返り（45分）
16	作品制作2_①	構想（45分）	制作における振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	作品制作2_②	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
18	作品制作2_③	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
19	作品制作2_④	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
20	作品制作2_⑤	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
21	作品制作2_⑥	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
22	プレゼンテーション	プレゼン前の確認（45分）	プレゼン後の振り返り（45分）
23	作品制作3_①	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
24	作品制作3_②	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
25	作品制作3_③	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
26	作品制作3_④	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
27	作品制作3_⑤	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
28	作品制作3_⑥	構想（45分）	制作における振り返り（45分）
29	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認（45分）	プレゼン後の振り返り（45分）
30	完成①	完成前の確認（45分）	完成後の考察（45分）
31	完成②	完成前の確認（45分）	完成後の考察（45分）
32	講評、授業アンケート実施	最終検討（45分）	最終の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを十分に作品に展開すること。また、将来を見据え美術文化の担い手として社会に貢献できる人材を育成すること。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

見る人に感動してもらえる表現力豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、十分な力量を備えた人となること。

授業全体の内容と概要

これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求すること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおしてできることについて考察し、表現力豊かな作品を創作できるようにすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドヴァイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html>
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を割り上げること。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不十分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を十分に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を十分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言えないものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言えないものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション-授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をおす。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習する。(45分)
2	絵画に関する1、2年次の実習内容についての復習と確認1	1、2年次での、主に油彩の技法について復習する。(45分)	1、2年次での、主にエッグテンペラの技法について復習する。(45分)
3	絵画に関する1、2年次の実習内容についての復習と確認1	1、2年次での、主に混合技法について復習する。(45分)	授業で支給される用材以外に、自分独自に必要な用材を準備する。(45分)
4	作品の構想について1-絵を描く意味	自らとらえたい事柄や表現したい事柄について検討する。(45分)	自らとらえたい事柄や表現したい事柄をイメージし構想を練る。(45分)
5	作品の構想について2	イメージを膨らませ、それを具現化するための資料を収集する。(45分)	さらにイメージを膨らませ、それを具現化するための資料を収集する。(45分)
6	作品の構想について3-構想の取りまとめ	構想を具体化するために必要な資料等を収集し、まとめる。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	構想について確認する。(45分)
7	下絵(画稿)の準備-手描き、デジタル加工	パソコンを使用する場合、関連ソフトの使用法について予習する。(45分)	本時に用意した下絵(画稿)について検討する。(45分)
8	下絵(画稿)の準備-取りまとめ	前時に作成した下絵について再検討する。(45分)	制作の進め方について、その段取りについて検討する。(45分)
9	支持体への下絵の転写について	転写について、表現意図に最も相応しい方法を検討する。(45分)	転写後に修正の必要が生じた場合には、適宜それを行う。(45分)
10	下描きについて1	予め、自らの作品制作に相応しい用材を準備する。(45分)	本描きの際に効果を高められるように下描きの仕方を工夫する。(45分)
11	下描きについて2-立体感や空間感の表現1	明度差と立体感や空間感との関連について予習する。(45分)	本時の制作で、明度差を適切にとらえ、立体感や空間感の表現に生かされているかを検討する。(45分)
12	下描きについて3-立体感や空間感の表現2	立体感や空間感の表現にあたり、十分に面をとらえた描写を行っているかについて検討する。(45分)	細部を大切にしながらも、大局的なとらえ方を行っているかを検討する。(45分)
13	下描きについて4-取りまとめ	上描きした際に支障をきたさないように、下描きに用いる絵具を適切に選択する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
14	本描きについて1-展色剤について	油彩用展色剤について検討する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
15	本描きについて2-絵具の透明性について	用いる油彩絵具の透明性や、被覆性について検討する。(45分)	下描きを活かした上描きができるかについて検討する。(45分)
16	中間発表会	教師や他の学生からどの点についてアドバイスを 得たいかを明確にしておく。(45分)	本時の中間発表会で得たアドバイスを参照し、これからの制作に反映させられるように計画を立てる。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本描きについて3-絵具の透明性と被覆性について	用いる絵具の透明性と被覆性について予め調べておく。(45分)	絵具の透明性や被覆性の差異を活かした描写を行っているかについて検討する。(45分)
18	本描きについて4-主に立体感の表現について1	下描きの段での制作を振り返り、明度差について確認する。(45分)	明度差を的確に表現できているかについて検討する。(45分)
19	本描きについて5-主に立体感の表現について2	やはり上述のとおり、下描きの段における大まかな面の把握について、改めて確認する。(45分)	細部を大切にしながらも大局的な面の把握を行っているかについて検討する。(45分)
20	本描きについて6-主に質感の表現について1	明度差や筆触による材質感の表現について調べておく。(45分)	明度差や筆触のもたらす効果について、他者の作品を参照する。(45分)
21	本描きについて7-主に質感の表現について2	ハッチングや削り出し等の技法について、他者の作品を参照する。(45分)	本時に実践した技法を復習する。(45分)
22	本描きについて8-主に色彩調和について1	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
23	本描きについて9-主に色彩調和について2	色彩調和に関する基本的なルールについて予習する。(45分)	ルールに則った配色を行っているかについて検討する。(45分)
24	本描きについて10-諸要素を総合的に勘案しながら	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
25	本描きについて11-諸要素を総合的に勘案しながら	部分と全体との関係を適切にとらえることについて配慮する。(45分)	部分と全体との関係を適切にとらえ、骨格の確かな画面を構築しているかについて検討する。(45分)
26	本描きについて12-諸要素を総合的に勘案しながら	適宜適切にエッグテンペラでの上描きを行うことを検討する。(45分)	エッグテンペラでの上描きを効果的に行っているかについて検討する。(45分)
27	本描きについて13-諸要素を総合的に勘案しながら	エッグテンペラと油彩、双方の特長を活かした制作の仕方について検討する。(45分)	エッグテンペラと油彩、双方の特長を活かした制作を行っているかについて検討する。(45分)
28	本描きについて14-諸要素を総合的に勘案しながら	テンペラ絵具層への油彩絵具の上描きについて、他者の作例を参照する。(45分)	テンペラ絵具層への油彩絵具の透明性を活かした描写を行っているかについて検討する。(45分)
29	本描きについて15-諸要素を総合的に勘案しながら	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
30	本描きについて16-諸要素を総合的に勘案しながら	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	仕上げに向けて、細部の念入りな点検を行う。(45分)
31	本描きについて17-仕上げ	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)	作品に込めた自らの想いが十分に反映された作品に仕上げられたかについて検討する。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドバイスを 受けたいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高めることを目標とする。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
本授業に於いては、現代社会に於いて稼働する各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら実際の案件に携携することができる能力を身に付ける。																								
授業全体の内容と概要																								
公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための研究活動を行う。 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。																								
授業の方法																								
構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。 各種メディアや情報形態に關しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 生成AIを有効活用し、作業の効率化を図るよう指導する。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td>○</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td>○</td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL		模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
自主的な対外的な活動を多く求められるためフットワークと積極的なコミュニケーションが求められる。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアとして高い完成度を持っている。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアとして完成している。	作品の設計内容がユーザビリティを考え、社会性や公共性を踏まえた不特定多数への情報提供メディアを意図して作られている。	作品の設計内容がユーザビリティ、社会性、公共性いずれへの考え方も未完成である。	作品の設計内容が情報提供メディアとしての機能を持っていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されており、優れた結果に結びついている。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されて作品の完成に至っている。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が繰り返されているが、作品の完成度は高くない。	作品制作の工程において、情報提供の目的達成の試行錯誤が不十分であり、作品の完成度は低い。	作品制作の工程において、情報提供の目的が達成されていない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションが成されている。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションの努力が感じられる。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションへの努力が不十分である。	ユーザの視覚に訴え、不特定多数の共感を得られるようなプレゼンテーションを考えていない。	視覚情報伝達のプレゼンテーションが成立していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認。(45分)	年間計画の試案。(45分)
2	年間計画の試案作成と添削	年間計画の試案。(45分)	年間計画の修正。(45分)
3	年間計画の完成 研究テーマの企画立案	年間計画の修正。(45分)	年間計画の完成。(45分)
4	基礎トレーニング① 制作アプリケーションの習得度チェック	制作アプリケーションの準備(45分)	授業内容の継続。(45分)
5	基礎トレーニング② 生成AIの活用と制作環境整備	制作環境の再確認(45分)	授業内容の継続。(45分)
6	取材活動① 必要要件の整理と確認	年間計画の再確認(45分)	授業内容の継続。(45分)
7	取材活動② 情報収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
8	取材活動③ 情報収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
9	取材活動④ 情報の整理	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
10	取材内容の整理と発表 研究テーマの進行状況の確認	授業内容の継続。(45分)	企画書の試案準備。(45分)
11	企画書の作成準備① 工程の確認と試案作成	企画書の試案準備。(45分)	授業内容の継続。(45分)
12	企画書の作成準備② コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
13	企画書の作成準備③ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
14	企画書の作成準備④ コンセプト及び取集情報の文章化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
15	企画書の作成準備⑤ メディアの選択	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
16	年間計画の見直し	年間計画の再確認(45分)	制作環境の整備(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	企画書の作成① 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
18	企画書の作成② 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
19	企画書の作成③ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
20	企画書の作成④ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
21	企画書の作成⑤ 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
22	企画書の作成⑥ 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
23	企画書の作成⑦ 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
24	企画書の作成⑧ 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
25	企画書の作成⑨ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
26	企画書の作成⑩ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
27	企画書の作成⑪ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
28	企画書の作成⑫ プレゼンテーション内容の視覚化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
29	企画書の発表と質疑応答	授業内容の継続。(45分)	企画書の修正。(45分)
30	企画書内容の修正①	企画書の修正。(45分)	企画書の完成。(45分)
31	企画書内容の修正②	企画書の修正。(45分)	企画書の完成。(45分)
32	専門研究ⅡAのまとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	企画書の完成。(45分)	専門研究ⅡBへ向けての準備。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究IIA (科目ナンバリング: SEM234090)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標 制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。							
授業の位置づけ デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標 自律した制作活動を通じて、研究テーマについて考察する事が出来る。							
授業全体の内容と概要 彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究2Aでは、進路も含め、生涯をかけて探求したい活動を見つける事が目標である。							
授業の方法 学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 研究ノート提出する事。 作品を1点以上完成させる事。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を2つ、または1つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週2回（8時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週1回（4時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・４年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟２階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務、 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、 作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
2	活動計画	チュートリアル準備（４５分）	チュートリアル準備（４５分）
3	チュートリアル１	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
4	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
5	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
6	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
7	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
8	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
9	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
10	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
11	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
12	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
13	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
14	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
15	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
16	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
18	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
19	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
20	チュートリアル２	チュートリアル準備（４５分）	面談結果をまとめる事（４５分）
21	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
22	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
23	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
24	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
25	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
26	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
27	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
28	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
29	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
30	先行研究&制作	制作準備（４５分）	研究ノート記入（４５分）
31	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション準備（４５分）	講評まとめ（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。
適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。
自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。
自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。
卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。

授業全体の内容と概要

より高度な研究スキルを磨き、専門的なテーマに関する深い探究を行う。
批評に対する姿勢を整え、他者からの評価を受け止めて作品に反映させる能力を向上させる。
詳細なリサーチ、専門書に基づく考察、仮説の検証。

授業の方法

授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。
アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。
個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。
学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業を有意義にするための自覚を求める。
自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。
責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は8割以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得解できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：		三上 いずみ)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと（45分）	配布資料の確認（45分）
2	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
3	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
4	研究テーマの深掘りと詳細なリサーチ計画の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
5	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
6	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
7	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
8	個別の表現手法の探求と試行	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
9	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
10	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
11	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
12	制作の進行と中間フィードバックの受け入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
13	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
14	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
15	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
16	技術的・表現的課題の特定と解決策の実践	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
18	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
19	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
20	作品制作の調整と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
21	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
22	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
23	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
24	プレゼンテーション資料の準備と改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
25	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
26	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
27	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
28	作品の最終調整とディテールの仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
29	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自制作を進める（45分）
30	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	完成後の考察（45分）
31	発表リハーサルとフィードバックを基にした最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	制作の振り返り（45分）
32	講評、授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	全体を振り返り、まとめる（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が、自己表現のための知識と技術をより幅広く習得し多様化する現代社会に於いて作品制作を通して問題解決能力をより高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得し、オリジナリティに溢れた作品を制作する。							
授業全体の内容と概要							
探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行い、それを反映させた作品を制作する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の重および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなし、オリジナリティあふれる作品を制作できたか。美術の基礎基本を強固にし作品の質の向上ができたか。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に十分応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品にやや応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用があまり出来なかった。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用が出来なかった
思考力・判断力・表現力 テーマを最大限に活かせる画材、ジャンル、構図、描画方法を選択できたか。それを活かして作品に適切に用いることが出来たか。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが十分出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来なかった。
主体性・多様性・協働性 研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えただけと言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡA (科目ナンバリング：SEM234090)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (パレオアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスを読む (45分)	アートの意味・意義について考える 課題 (45分)
2	アートの意味・意義 ディスカッション	アートの意味・意義についてまとめる 課題 (45分)	テーマを考える 課題 (45分)
3	年間計画作成 (研究のテーマ 研究の手順 調べること 試すこと 手段 方法 など)	テーマを決める 課題 (45分)	計画を練る 課題 (45分)
4	研究テーマの発表1 ディスカッション	研究テーマの発表準備 課題 (45分)	発表内容の再検討 課題 (45分)
5	研究テーマの発表2 修正後の発表	発表準備 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
6	研究1調べる	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
7	研究2調べる	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
8	研究3調べる	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
9	研究4調べたことをまとめる 試作、実験など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
10	研究5調べたことをまとめる 試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきことを洗い出す	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
11	研究6 試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
12	研究7 試作、実験、画材の比較、素材の開拓など試行錯誤すべきこと	授業内容継続 課題 (45分)	プレゼンテーション準備 課題 (45分)
13	中間報告会1 プレゼンテーション ディスカッション	プレゼンテーション準備 課題 (45分)	プレゼンテーション準備 課題 (45分)
14	中間報告会2 プレゼンテーション 修正、見直し後の再発表	プレゼンテーション準備 課題 (45分)	課題 (45分)
15	研究8 試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
16	研究9試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究10試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
18	研究11試作、習作、実験、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
19	中間報告書 (研究の成果は 比較検討の上どう作品に活かしていくか)	授業内容継続 課題 (45分)	プレゼンテーションの準備 課題 (45分)
20	中間報告書に沿ってプレゼンテーション1 ディスカッション	プレゼンテーションの準備 課題 (45分)	プレゼンテーションの準備 課題 (45分)
21	中間報告書に沿ってプレゼンテーション2 修正再発表	プレゼンテーションの準備 課題 (45分)	課題 (45分)
22	研究12 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
23	研究13 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
24	研究14 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
25	研究15 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
26	研究16 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
27	研究17 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
28	研究18 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
29	研究19 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
30	研究20 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
31	研究21 作品制作、並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題 (45分)	授業内容継続 課題 (45分)
32	講評会 (フィードバック) 当該科目の第1回目にした身につく力について検証	授業内容継続 課題 (45分)	課題 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築計画Ⅱ (科目ナンバリング：APT312007)				
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：安藤 淳一)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

履修学生は、公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する施設を対象に、現代社会のおかれた状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには各種建築に求められる役割と、建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。

到達目標

各種建築を対象に、その建築はどのような特徴的なたたきをもつ建築であるか（基本事項）、どのような社会状況によって建築の役割も変化してきたのか、今後その建築のあるべき姿について等を考察する力を身につけ、それぞれの設計活動に援用できるようになることを目標とする。

授業全体の内容と概要

授業の前半では、対象建築の歴史的背景から現在の建築に求められる機能などの基本事項を解説する。後半では建築を取りまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業ではテキストのほかには、毎回配布する資料（テキストの内容を補完）を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため、原則として授業資料は授業時間開始時にのみ配布する。授業内容についての理解度を確認するため、次回授業開始時に小テストをおこなう。小テスト終了後、回答と内容について講評する。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が生じた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること（最低出席回数10回以上）、毎回授業開始時におこなう小テスト（前回のふり返りテスト）が定期試験の基盤となるため、授業欠席により小テスト未受講は成績評価、さらには不合格に直結することになるので注意すること。最終評価は定期試験、中間テスト（振り返り小テスト）、その他により決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	20%	0%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含め、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、および昨機能変化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。
社会状況により施設のあり方が変化すること、将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化したり在り在り方が多様化することを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したり施設の在り方が替わることを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化することを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築計画Ⅱ (科目ナンバリング：APT312007)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィシアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『わかる建築学 建築計画 〔第二版〕』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス事前確認（90分）	教科書確認（90分）
2	計画共通事項 バリアフリー法	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
3	図書館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
4	スポーツ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
5	幼稚園・保育所	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
6	学校	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
7	美術館・博物館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
9	宿泊施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
10	医療施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
11	福祉施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
12	商業施設・駐車場 業務施設（定義と分類、コアタイプ、オフィスレイアウト、設備計画、E V計画）	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
13	戸建住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
14	集合住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
15	振り返り試験	小テスト全体復習（90分）	振り返り試験復習（90分）
16	総評（試験結果発表表、成績評価と解説） 授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	資料参照（90分）	全体の振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築士のための基礎数学 (科目ナンバリング：MAT321044)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：		横山 哲也		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	四則計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	負の数の計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	平方・立法	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	分数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	小数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	単位	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	連立方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	比例式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	三角関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	展開公式・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	指数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	図形の辺の長さと面積	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング: SEM334086)				
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 指導教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。履修学生は、卒業研究として取り組むための研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をする。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。						
到達目標						
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立て、それに則り研究を進められる力を修得できるとすることが出来る。						
授業全体の内容と概要						
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。						
授業の方法						
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起こった際にオンライン授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築科学学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとする ことができる。							
授業全体の内容と概要							
各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろ んこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教 員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定する こと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせできなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員			研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括によるフィードバック科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス，シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 1 0	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 1 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 1 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 1 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 1 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括として講評をし，フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者： 長森 正 長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとする ことができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろ んこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教 員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定する こと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者： 長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習,実技	必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング: SEM334086)				
授業担当者 (所属・職名)	オガサワラ 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,実習,実技		必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング: SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	オガサワラ健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者:		小笠原 健)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明。 当該科目修了により「身に付く力」の説明。	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括。 「身に付く力」の検証。	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとする ことができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろ んこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教 員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドランス」の記載内容を熟読・理解した上で決定する こと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとする
ことができる。

授業全体の内容と概要

各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行ってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標							
「建築研究III」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定し計画に従って卒業研究をすすめる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得できることとすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
研究を遂行するための全体計画が立案する。	全体計画を立案し修正することができた。	全体計画を立案することができた。	全体計画をおおむね立案することができた。	全体計画をほぼ立案することができた。	全体計画を立案することができなかった。	
研究を実行するためのスケジュール調整する。	研究スケジュールを調整・修正しながら作成できた。	研究スケジュールを作成できた。	研究スケジュールをおおむね作成できた。	研究スケジュールをほぼ作成できた。	研究スケジュールを作成できなかった。	
研究の進捗状況の確認と修正のため指導教員との研究打ち合わせする。	指導教員との研究打ち合わせが計画的にできた。	指導教員との研究打ち合わせができた。	指導教員との研究打ち合わせがおおむねできた。	指導教員との研究打ち合わせがほぼできた。	指導教員との打ち合わせができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅲ (科目ナンバリング：SEM334086)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員			研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：)			指導教員	CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの 実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経済学概論 (科目ナンバリング：ECT122136, ECT412011,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
経済動向にかんするニュースや記事を理解するために必要な経済用語の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象を理解・考察するための基礎力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
経済の動向を知るために必要な基礎的な経済用語や経済学の考え方を述べることができる。経済成長や市場機構について基礎的な説明ができる。現在の経済政策の動向について述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。							
授業の方法							
各回の計画にそって板書やスライドによる講義と演習問題とを組みあわせた授業をおこなう。演習問題の実施にあたっては、ノートの活用のほかに、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的でリアクションペーパーやMicrosoft Forms等のWebフォームも利用する。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は試験を除く10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済事象の理解	経済の出来事に関するニュースや資料を読み取って自分なりの意見を述べることができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べてある程度説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて読むことができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経済学概論 (科目ナンバリング：ECT122136, ECT412011,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画 シラバスの説明 (科目を修了して「身に付いた」)	シラバスをよく読み、経済学とは何かについて考える (90分)	経済学とは何かノートにまとめる (90分)
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる (90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる (90分)
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産 (GDP) とは ・世界の国内総生産 (GDPによる世界地域比較)	国内総生産について調べる (90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる (90分)
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる (90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる (90分)
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる (90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる (90分)
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる (90分)	経済成長についてノートにまとめる (90分)
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる (90分)	実質値と名目値の違いをまとめる (90分)
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量との関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる (90分)	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる (90分)
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる (90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる (90分)
10	10 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える (90分)	経済的厚生の問題のまとめ (90分)
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる (90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめ (90分)
12	日銀の資金供給と金利： ・金利とは ・日銀と資金供給	金利について調べる (90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめ (90分)
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは ・信用創造とは	通貨供給量について調べる (90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる (90分)
14	日銀と金融政策 ・金融政策に关するニュース ・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる (90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる (90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ これまでの演習にかんする解説・コメント (フィードバック) の振りかえり	ノート見直しと不明点の確認 (90分)	ノートの整理 (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	各回の演習問題に再挑戦 (90分)	わからなかった試験問題の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マンキュー入門経済学 (第4版) 』	N・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	2025	9784807918119	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ行政学 (科目ナンバリング：SPS422062, SPS522052)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
本授業では、文化としてのスポーツの捉え方や位置づけを学ぶと共に、国及び地方公共団体の全体的枠組みや関係法令等スポーツ振興の係りについて学習する。また、地域スポーツクラブ等における指導者の必要性や役割等についても学び、スポーツ振興に寄与する素養を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
国及び地方公共団体等における行政のスポーツ振興施策の現状と目指すべき方向性の概要を理解すると共に、スポーツ指導者のスポーツ振興への役割や心得等について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
日本スポーツ協会テキストReference Bookに準拠して授業を進める。授業に必要な資料等は、その都度配布する。							
授業の方法							
本授業は、テキストに準拠し、パワーポイントや配布資料を参照しながら進める。また、授業回によってグループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①ノートを持参し板書する。 ②携帯電話の電源を切る。イヤホン着用禁止。 ③私語は慎む。 ④脱帽。飲食禁止。 ⑤授業中の体調不良等は申し出ること。 ⑥無断での退席は認めない。 ⑦20分以上の遅刻は欠席とする。 ＊以上に反する場合は退席とし欠席扱いとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの概念における関心・意欲および授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問・発言するなど模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしていた。また、理解を深めるため真実に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。また、理解を深めるため内容を真実に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書をしていなかった。
スポーツ振興の知識・理解	授業内容を越える知識を積極的に勉強し理解度を深めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容の概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
スポーツ振興の分析・展開	授業内容に留まらず、問題点と課題を展開させ、より良い生涯スポーツ社会の実現に向けた実践的展開を提案できた。	授業内容をほぼ全て理解し、問題点を複合的に捉え分析していた。	授業内容を概ね理解し、複数の問題点を見つけることができた。	授業内容の一部から問題点を見つけていた。	授業内容が理解できなかったため、問題点を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ行政学 (科目ナンバリング：SPS422062, SPS522052)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSP0	公益財団法人日本 スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを読んでおく（90分）	オリエンテーションの内容を理解しておく（90分）
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
3	わが国のスポーツの固有性と特性および制度	わが国のスポーツの固有性と特性および制度につい て調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
4	わが国のスポーツ行政のしくみ	わが国のスポーツ行政のしくみについて調べておく （90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
5	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策 について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
6	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブに ついて調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
7	地方公共団体におけるスポーツ振興施策	地方公共団体におけるスポーツ振興施策について調 べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
8	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少 年団」	スポーツ少年団について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
9	スポーツ行政と地域スポーツ振興施策の課題	学修課題を整理しておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
10	スポーツ指導者とスポーツ行政	スポーツ指導者とスポーツ行政について調べておく （90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
11	スポーツ指導者の役割（指導者の倫理）	指導者の倫理について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
12	スポーツ指導者の役割（指導者の心構え、視点）	指導者の心構え、視点について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
13	スポーツ事故における指導者の法的責任（リスクマ ネジメント）	スポーツのリスクマネジメントについて調べておく （90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
14	スポーツ事故における指導者の法的責任（スポーツ 事故判例）	スポーツ事故判例について調べておく（90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
15	スポーツと人権（スポーツ倫理と基本的人権）	スポーツ倫理と基本的人権について調べておく （90分）	板書したノートと教科書をまとめて授業内容の理解を 深める（90分）
16	定期試験及び解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業全体を振り返り試験準備をしておく（90分）	試験および解説を踏まえ授業内容の理解を深める （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	基礎統計演習 (M) (科目ナンバリング：STS072048)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP4に対応する。							
到達目標							
複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。 正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。 推測統計の考え方の枠組みがわかる。							
授業全体の内容と概要							
数理・データサイエンス教育の関連授業科目であり、各種データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を応用したデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。また、統計量の定義や統計の理論を学ぶだけでなく、チームスポーツ競技の試合結果や選手データ、過去の気象データ、株価データなどを用いた演習を行う。 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目							
授業の方法							
各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的で、受講生に対する質問やリアクションペーパー、Microsoft Forms等のWebフォームを利用する。また、授業の復習という目的もかねて、演習やリアクションペーパーに対する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は試験を除く１０回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	０％	０％	０％	２０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解していて、かつ正規分布に従う分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解、または正規分布に従う分布の事例をもとに統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な考え方がある程度説明できた。	推測統計の考え方を説明できなかった。
統計学の用語の理解	事例をあげて統計学の基礎的な用語を説明できた。	事例をあげて統計学の基礎的な用語をある程度説明できた。	統計学の基礎的な用語を説明できた。	推測統計の基礎的な用語をある程度説明できた。	推測統計の用語を説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	基礎統計演習（M） （科目ナンバリング：STS072048）					
授業担当者 （所属・職名）	河野 善文（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：河野 善文）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画・シラバスの説明（科目を修了して「身	統計とは何か調べる（90分）	この授業で学ぶことについてノートにまとめる（90分）
2	データを代表する値： ・中央値と平均値　・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる（90分）	授業で学んだ代表値のまとめと演習問題（90分）
3	データの分布と代表値 ・範囲(レンジ)と最大値・最小値　・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（90分）	範囲のまとめと演習問題（90分）
4	度数分布表によるデータの整理 ・度数分布表とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて調べる（90分）	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題（90分）
5	グラフによるデータの直感的理解： ・範囲・四分位範囲と分布 ・箱ひげ図と価格変動分析	範囲・四分位範囲を調べる（90分）	グラフと分布との関係のまとめと演習問題（90分）
6	データのバラツキを知る ・バラツキの代表値：標準偏差	標準偏差について調べる（90分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（90分）
7	バラツキとリスク ・変動係数とは ・バラツキによるビジネス・リスクの分析	変動係数について調べる（90分）	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題（90分）
8	バラツキの事例と演習 ・リターンとリスクの資産運用分析	標準偏差とは何か調べる（90分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（90分）
9	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴　・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる（90分）	正規分布の演習問題（90分）
10	統計的有意性と正規分布 ・身長の平均・標準偏差と分布　・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる（90分）	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題（90分）
11	推測統計の考え方	推測統計とは何かについて調べる（90分）	推測統計の考え方のまとめ（90分）
12	推測統計と標本調査： ・母集団と標本	母集団と標本について調べる（90分）	標本調査の考え方のまとめ（90分）
13	信頼区間と推定の考え方 ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる（90分）	推定の考え方のまとめ（90分）
14	検定の考え方 ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる（90分）	仮説検定の考え方のまとめ（90分）
15	推測統計のまとめ これまでの演習にかんする解説・コメント（フィードバック）の振り返り	これまでに学んだことを復習する（90分）	推測統計についてまとめる（90分）
16	定期試験（60分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（90分）	試験にてた問題の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島 寛之	ダイヤモンド社	2006	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城 浩	SBクリエイティブ	2016	4797387122	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	基礎統計演習（S） （科目ナンバリング：STS072048）					
授業担当者 （所属・職名）	杉本 大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	（単位認定責任者：杉本 大輔）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
量的調査における記述統計（最大値・最小値、分散、歪度 標準偏差 平均値 範囲）と多変量解析、重回帰分析、因子分析、ロジスティック回帰分析の理論と基本的な算出方法、計算方法を身に付ける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する科目							
到達目標							
記述統計を説明することができる。 積分応用の意味を説明することができる。 各種多変量解析の方法論を説明することができる							
授業全体の内容と概要							
データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。各種社会調査の統計データを使い、その分析方法と算出方法を演習形式で行い、最終的には、社会科学で扱うデータ分析の理論をマスターする。 数理・データサイエンス教育の関連授業科目							
授業の方法							
各回の講義プリントを教員が配布し、量的調査における記述統計、分析方法の概念と数式を説明したうえで、実際のデータを使い、学生が各種数式を使って計算を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データに関する意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計の理解	平均値、標準偏差、最大・最小値、中央値、最頻値、歪度の概念と理論を理解でき、その算出方法を習得した。	平均値、標準偏差、分散、の概念について理解でき、その計算方法を習得した。	中央と、最頻値、平均値の関係を理解し、正規分布上の置ける意味を理解できた。	最大値と最小値、範囲について理解できた。	記述統計について何一つ理解できなかった。
相関についての理解	正・負の相関、相関係数についての概念と算出方法を理解し、相関係数を使って数値を算出できた。	相関係数を使って、数値を算出できた。	正・負の相関と相関係数の概念について理解できた。	正・負の相関の概念について理解できた。	相関について理解できなかった。
多変量解析についての理解	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析の方法について理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解できた。	回帰分析、重回帰分析の方法を理解できた。	多変量解析について何も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（S） （科目ナンバリング：STS072048）					
授業担当者 （所属・職名）	杉本 大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	（単位認定責任者：杉本 大輔）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	統計とは何か調べる（90分）	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる（90分）
2	記述統計 ・中央値と平均値 ・最頻値と平均値	記述統計とは何か調べる（90分）	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題（90分）
3	データの分布と代表値との関係： ・範囲(レンジ)と最大値・最小値 ・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（90分）	範囲のまとめと演習問題（90分）
4	平均値と分散	分散とは何か調べる（90分）	平均値と分散のまとめと演習問題（90分）
5	分散と標準偏差 レポートの添削をし、編曲してフィードバック	標準偏差とは何か調べる（90分）	平均値と分散と標準偏差のまとめと演習問題（90分）
6	正の相関、負の相関	相関とは何かを調べる（90分）	正・負の相関のまとめと演習問題（90分）
7	相関係数①	相関係数について調べる（90分）	正・負の相関と相関係数の関係のまとめ（90分）
8	相関係数②	相関係数とは何か調べる（90分）	ピアソンの相関係数の計算のまとめと演習問題（90分）
9	回帰分析	回帰分析について調べる（90分）	回帰分析と相関に関するまとめ、演習問題（90分）
10	重回帰分析	重回帰分析の特徴について調べる（90分）	重回帰分析に関する演習問題（90分）
11	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析について調べる（90分）	ロジスティック回帰分析の演習問題（90分）
12	因子分析	因子分析について調べる（90分）	因子分析のまとめと演習問題（90分）
13	全数調査と標本調査	標本調査とは何かについて調べる（90分）	サンプリングの考え方のまとめ（90分）
14	サンプリングの方法（1） ーサンプリングの理論ー	サンプリングの方法について調べる（90分）	サンプリングの考え方のまとめ（90分）
15	サンプリングの方法（2） ー演習問題ー 授業改善アンケートの実施	サンプリングの種類について調べる（90分）	サンプリングの各種算出方法のまとめ（90分）
16	定期試験に代わるレポートを添削し、Eメールにより返却してフィードバックする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	各回の演習問題に再度とりくむ（90分）	試験にでた問題の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A） （科目ナンバリング：STS072048）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：伊藤 裕康）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ（標本）からデータ全体（母集団）の特性を推測する標本調査をあつかい、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方と処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのにには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を提示してフィードバックする。授業はオンライン会議を開いてPCやタブレット端末で見えるようにし、復習に活用できるように録画もする。不測時における授業や補講等はオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「統計学入門」の単位修得者を履修の前提とする。

・コンピュータ室を利用するため、受講者数を50名に制限する。50名以上の申込があった場合には抽選し決定する。

Excelを用いた演習には大学のPCまたは自分のノートPCを用いること。

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。	
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができ、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた	推定手法の考え方を理解できなかった。	
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A） （科目ナンバリング：STS072048）				
授業担当者 （所属・職名）	伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：伊藤 裕康）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明／情報モラル及び情報セキュリティデータの整理（表）	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
15	検定の演習問題 授業改善アンケートの実施	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	教育史 (科目ナンバリング: EDU141151, EDU241095,)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』	広岡義之ほか	ミネルヴァ書房	2019	9784623087723	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 日本の古代・中世の教育制度と教育の歴史について	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
2	日本の近世の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
3	明治維新と教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
4	日本における近代国家の確立と教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
5	大正デモクラシーと教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
6	日本の戦時体制下の教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
7	日本の戦後の教育政策について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
8	日本の現代の教育改革について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
9	古代のギリシア・ローマの教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
10	中世・ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
11	17・18世紀及び革命期の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
12	近代公教育制度の成立について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
13	19世紀の教育制度と教育の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
14	20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
15	世界の教育制度と改革の動向について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	データサイエンス・プログラム (科目ナンバリング：STS062075)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)・近澤 潤 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階または1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：薦田 勇智)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標
・教理・データサイエンス・AIの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。 ・学生間のコミュニケーションを通して、分析・考察をより深め、プロジェクトを完遂する。 ・PBL (Project Based Learning／プロジェクト型学習)を通して、アカデミックスキル (プロジェクト管理能力、ディスカッションスキル、設計力、計画力)、スタディスキル (プレゼンテーションスキル、ドキュメント作成スキル)、スチューデントスキル (コミュニケーションの向上) を図り、複合・応用的なスキルを習得する。
授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。
到達目標
・経営の各分野 (マーケティング、財務、組織管理など) における生成AIの活用事例を分析できる (アカデミックスキル) ・オープンデータや実際の企業データを用いたAI分析を実施し、レポートとしてまとめることができる (スタディスキル) ・チームで課題解決型プロジェクトを進め、適切な役割分担と協力を行うことができる (スチューデントスキル) ・授業で学んだ知識を活かし、自分の興味のある分野におけるAI活用の可能性を探究できる (スタディスキル) ・データサイエンスの基本概念 (統計学、機械学習、データ可視化など) を理解し、適切に説明できる (アカデミックスキル)

授業全体の内容と概要							
Society 5.0や、データ駆動型社会などと呼ばれる現在において、文理問わず、幅広い分野においてデータサイエンス・AIやICTの活用できる基礎的素養を習得し、課題の発見・解決のために活用できる能力が必要となる。本科目では、将来、幅広い分野でデータサイエンスやICTを実際に活用できるような、これまでに習得した知識・技術を応用して、実際に自分たちの周りにある課題の解決に挑戦する。							
本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の関連授業科目である。							
本科目は、以下のSDGs関連授業である。 ・「SDG 8.働きがいも経済成長も」 ・「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDG11.住み続けられるまちづくりを」 ・「SDG17.パートナーシップで目標を達成しよう」							
授業の方法							
本科目は、プロジェクト形式で行うため、学生間のコミュニケーションやディスカッション、グループワークなど主体的に取り組む姿勢が重要となる。プロジェクトの開始にあたり、地域社会が抱える課題や、その背景、最終目標などについて資料等を、プロジェクター及び大型モニターに提示しながら、解説する。その後、ディスカッションなどを行いながら課題解決に向け、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、分析、制作、発表、自己評価・改善といったPDCAサイクルを軸とした一連の工程を行う。担当教員は、都度アドバイスやフィードバックを行い、プロジェクトが円滑に進むようサポートする。							
円滑なコミュニケーションが図れるよう、次の学習支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・一連の活動において、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
＜受講条件あり＞ ・本科目は「情報基礎演習Ⅰ」「データサイエンス基礎」で習得した知識を踏まえた高度な技術と、データサイエンスに関して高い関心を持ち主体的な取り組みが必要であることから、成績評価が「情報基礎演習Ⅰ」は「S（秀）・A（優）」かつ「データサイエンス基礎」は「S（秀）・A（優）・B（良）」のいずれかであることを条件とする。 ・本科目受講を希望する場合は、必ず第1回授業に出席すること。 ・本科目はプロジェクト形式で行うため、積極的に他の学生とのコミュニケーションを図ること。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要なとなる最低出席回数は、13回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。 ・評価については、プロジェクトでの取り組みの姿勢や態度、貢献度を重視する。 ・取り組みの中で「失敗した」としても減点しない。あくまでも、「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決
地域社会への関心・課題への主体的な取り組み	地域社会に非常に高い関心を持ち、リーダーシップを発揮して、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。
課題解決のために考え抜く姿勢	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。
柔軟な視点と発信力	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。
プロジェクト活動への理解とスキルの習得	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。また、そのスキルを他の学生に共有できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	データサイエンス・プログラム (科目ナンバリング：STS062075)					
授業担当者 (所属・職名)	藤田 勇智（経営学科・専任講師）・近澤 潤（経営学科・非常勤講師）			研究室等所在	2号館7階または1号館1階非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者：藤田 勇智）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「オリエンテーション」シラバス (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)・授業改善アンケート結果反映の説明、本科目	シラバスを読む (90分)	プロジェクトについて調べる (90分)
2	「プロジェクトマネジメント入門」プロジェクトとは何か、求められるスキルと姿勢について解説する。	プロジェクトの進め方について調べる (90分)	メモ・ノートを整理する (90分)
3	「プロジェクトテーマの説明」地域社会の課題について説明する。その後、理解を深めるためにディスカッションを行う。	北広島市について調べる (90分)	説明の内容について理解できなかった点について調べる (90分)
4	「リサーチ・データ分析」課題解決に向けて、情報収集 (文献検索・データベース活用法等) を行い、データを分析する。	前回のディスカッションの内容を復習する (90分)	データの分析結果の改善点を見つける (90分)
5	「企画立案」課題解決に向けて、データ分析の結果をもとに企画を立案し、提案に向けて準備を行う。	データ分析結果を復習する (90分)	文書作成・プレゼンテーションについて復習する (90分)
6	「提案練習」プレゼンテーション資料を作成し、教員に対して提案の練習をする。	プレゼンテーションのコツについて復習する (90分)	自分の役割を全うできるよう練習する (90分)
7	「提案」教員に対してプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。	自分の役割を全うできるよう練習する (90分)	教員からのフィードバックを整理する (90分)
8	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	教員からのフィードバックを整理する (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
9	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
10	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
11	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
12	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
13	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
14	「企画実行」承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める (90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
15	「取り組みの自己評価・まとめ」自分たちの取り組みについて、教員からの評価や反省点をまとめる。	実行した結果についてまとめる (90分)	反省点をどのように改善したらよいかを考えまとめる (90分)
16	「講評・まとめ」教員より講評を行う授業に係る講評・解説によるフィードバック	自己評価について確認する (90分)	講評の内容について、今後活用できるかたちに整理する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	2021	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	濱田 悦生	講談社	2019	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	英語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：ENL042032）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：岡島 徳昭）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室等で対応。研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
英文法の基本を復習し、コミュニケーション能力を身に付ける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業（語彙・文法・音声変化）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身につけていない。
発音練習・練習問題の参加度	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：ENL042032）				
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：岡島 徳昭）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	事前連絡後に調整をし、研究室等で対応。研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英文法授業ノート』	北村 孝一郎	神田外語大学出版部	2021	978-4-8315-3011-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	テキストp.74～75 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
2	形容詞 ② ③	テキストp.76～79 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
3	副詞 ① ②	テキストp.80～83 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
4	副詞 ③ ④ ⑤	テキストp.84～89 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
5	動詞 ① ②	テキストp.90～93 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
6	受動態 ① ②	テキストp.96～99 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
7	受動態 ③	テキストp.100～101 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
8	復習 中間試験	テキストp.73～74 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
9	文型 ① ②	テキストp.102～105 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
10	文型 ③ ④	テキストp.106～109 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
11	原形不定詞	テキストp.110～111 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
12	完了形 ① ②	テキストp.112～115 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
13	完了形 ③ ④	テキストp.116～119 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
14	完了形 ⑤ ⑥	テキストp.120～123 予習（90分）	授業内容復習 （90分）
15	期末試験レビュー	期末試験準備 （90分）	期末試験準備 （90分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（60分）・解説（30分） 授業に係る諸評・解説によるフィードバック	期末試験準備 （90分）	期末試験内容復習 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	英語入門Ⅱ（S） （科目ナンバリング：ENL042032）						
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）			研究室等所在	2号館7階		
単位数	2		（単位認定責任者：横田 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。。						

概要

履修目標							
受講者が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を習得する。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力が身に付く。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができている。 特に英文法の基礎的な知識が身に付いており、基礎的な読解力が身に付いている。							
授業全体の内容と概要							
この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。 毎回、英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。 授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。							
授業の方法							
毎回、所定のテキストに沿って、1）その回の説明、2）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。 解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。 授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得に必要なとなる最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほとんど解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題が大体解けた。	テキストの説明が大体理解されており、テキストの問題の主要な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されており、テキストの問題がいくらか解けた。	英文法の初歩が理解されていなかった。
の能力 英文読解・作文	テキストの英文が完全に理解され、基本的な英文がしっかりと書けた。	テキストの英文がほぼ理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文が大体わかり、単純な英文が書けた。	簡単な英文が大体わかり、単純な英文が大体書けた。	簡単な英文がわからず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解されており、応用的な展開ができた。	テキストの英会話文がほぼ理解され、応用ができた。	テキストの英会話文が大体わかり、若干の応用ができた。	簡単な英会話文が理解でき、少し応用できるた。	簡単な英会話文が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（S） （科目ナンバリング：ENL042032）				
授業担当者 （所属・職名）	横田 肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：横田 肇）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。。		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『English Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力についての説明。	シラバスを読む。（90分）	Unit7の予習（90分）
2	Unit7：名詞・冠詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit7の予習（90分）	Unit7の復習（90分）
3	Unit7：名詞・冠詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit7の予習（90分）	Unit7の復習（90分）
4	Unit8：代名詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit8の予習（90分）	Unit8の復習（90分）
5	Unit8：代名詞の使い方（2） 説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit8の予習（90分）	Unit8の復習（90分）
6	Unit9：形容詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit9の予習（90分）	Unit9の復習（90分）
7	Unit9：形容詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit9の予習（90分）	Unit9の復習（90分）
8	Unit10：副詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit10の予習（90分）	Unit10の復習（90分）
9	Unit10：副詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit10の予習（90分）	Unit10の復習（90分）
10	Unit11：比較の使い方（1） 説明と練習。 既習範囲の確認のための小テストとコメント等によるフィードバックを実施。	Unit11の予習（90分）	Unit11の復習（90分）
11	Unit11：比較の使い方（2） 説明と練習。	Unit11の予習（90分）	Unit11の復習（90分）
12	Unit12：前置詞の使い方（1） 説明と練習。	Unit12の予習（90分）	Unit12の復習（90分）
13	Unit12：前置詞の使い方（2） 説明と練習。	Unit12の予習（90分）	Unit12の復習（90分）
14	Unit13：受動態の使い方 説明と練習。	Unit13の予習（90分）	Unit13の復習（90分）
15	Unit14：現在完了形の使い方 説明と練習。	Unit14の予習（90分）	Unit14の復習（90分）
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。この科目で身に付いた力の検証。	Unit7から14を通読する（90分）	Unit7から14を通読する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	4 Q		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032）					
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）			研究室等所在	2号館4階	
単位数	2（単位認定責任者：		宮嶋 達也）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。
ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを図れるようになる。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に 既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストリーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。
NAU「UN-DO（http://nanun-do.com）提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の必要となる最低出席回数は11回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
5 0 %	0 %	0%	1 0 %	4 0 %	0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、発問・問題提起により授業に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	4 Q		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032）					
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）			研究室等所在	2号館4階	
単位数	2（単位認定責任者：		宮嶋 達也）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・英語で他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 （90分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（90分）
2	Modal VerbsⅠ（助動詞）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
3	Modal VerbsⅡ（助動詞）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
4	Unit 7 How was your weekend?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
5	Unit 8 What time is your first class?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
6	Unit 9 Have you ever been to Kyoto?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
8	Grammar Present perfectⅠ（完了形）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
9	Grammar Present perfectⅡ（完了形）	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
10	Mid-term Exam.	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
11	Unit 10 Can I ask you a favor?	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
12	Unit 11 I'm going to visit my grandparents.	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
13	Unit 12 I'm on the train.	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
15	Review 1	次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておく こと。（90分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （90分）
16	Final Exam. 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験範囲の復習。（90分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学年・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ (科目ナンバリング: CH1051037)				
授業担当者 (所属・職名)	孫 暢 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るよう会話能力を身に付ける。中検準4級程度のレベルに到達することを旨とする。
(中国語検定試験「中検」)は、主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。

「中検」は、中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は、中国語による設問に中国語で答えることを求め、中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって、中検は日本の企業での活躍を目指す方、HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。)

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

中国語を通して、中国の文化を理解し日中友好に寄与することができる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」、「基本文法」、「会話文」、「入れ替え練習と応用」、「新出単語」、「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。中国語の学習を通して、中国の文化や歴史等も理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「中国語入門Ⅰ」の単位を修得済みであることが履修条件となります。
履修者の上限は30名とします。(履修登録人数が定員を超えた場合、「中国語入門Ⅰ」の成績順で履修資格を付与します。)
本科目では会話を特に重視します。聞き取った中国語を中国語で理解し、即座に反応して中国語で答えられる能力を身につけるよう努力してください。
ペア練習やグループワークを多く取り入れます。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は11回以上 課題を期限内に提出すること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで9割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで8割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで7割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで6割以上、語彙・文法の誤りが若干あったが理解できていない部分があった。	期末テストで6割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限承認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ボーッとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ (科目ナンバリング：CH1051037)				
授業担当者 (所属・職名)	孫 暢 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：孫 暢)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	講義ガイダンス：今学期の目標、「中国語入門Ⅰ」の復習（ピンイン、基本あいさつ等） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	シラバスの内容確認（90分）	教科書の確認（90分）
2	第1課 基本文法の復習、指示代名詞「これ」「あれ」	教科書P58～P59の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
3	第2課 文法：動詞述語文、構造助詞「的」、時間詞	教科書P60～P63/P74～P75の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
4	第3課 文法：形容詞述語文	教科書P64～P65の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
5	第4課 文法：所有・所在・存在表現	教科書P66～P69の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
6	第5課 文法：疑問文（「なに」「どこ」）	教科書P70～P73の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
7	第6課 文法：願望の助動詞（～したい）	教科書P78～P79の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
8	第7課 文法：必要・義務の助動詞（しなければならない）	教科書P80～P79の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
9	第8課 文法：可能の助動詞（できる）	教科書P82～P85の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
10	第9課 文法：好きなことを言う時の表現	教科書P86～P87の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
11	第10課 文法：人を何かを「授ける、もらう」時の表現	教科書P88～P89の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
12	第11課 文法：現在進行形（～している）	教科書P92～P93の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
13	第12課 文法：過去形（～しました）	教科書P98～P99の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
14	第13課 文法：様態補語（動作の様子や評価を述べる）	教科書P94～P95の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
15	第14課 文法：丁寧な依頼（どうぞ～してください）	教科書P96～P97の予習（90分）	授業内容の復習・練習（90分）
16	期末テスト 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	テスト勉強（90分）	テストへの反省など（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング：SOC111005)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：)		松下 守邦		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
授業のねらい（目標）は、社会学の概念を使い、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会、社会問題の理解を学修する。 授業内容は、下記の5つの項目を扱うこととなる。 ①社会学の視点、②社会構造と変動、③市民社会と公共性、④生活と人生、⑤自己と他者。本科目では、社会学の学術概念を使い、社会的事象の課題について説明記述ができること。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
①社会学の基本になる学術用語の説明ができる、②社会学応用領域における社会問題について、社会学の学術概念、理論と社会統計を用いて、課題を把握し考察ができる。 下記のルーブリック、到達目標は、合格最低レベル（C）であるので、上位段階の履修目標になるよう、ベストを尽くすこと。成績は、履修状況により相対性と絶対性が勘案されるので留意する。							
授業全体の内容と概要							
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。 社会学の扱う対象は広いといえるが、本授業では現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修する。社会学の学術用語、基礎的理論を確認し、社会的事象の理解を深めていく。							
授業の方法							
・授業の方法は、講義法、PBL、ワークシート作成、学術論文読解により実施する。 ・授業計画と学習内容の講義は、シラバス準拠法であり、テキストの目次順にすすめる教科書準拠法を採用していない。 PBL（問題基盤型学習）の第6回と第14回は、社会福祉士、公務員採用試験の過去問題の解題作業知識の外化作業は第15回、である。 映像像料視聴は、学術概念を使い説明記述するワークシート作成がある。 課題提出後の授業にて模範回答例を紹介、フィードバックをおこなう機会がある。 配布資料は欠落することのないようにファイリングする。ノートは、授業の再現ができるよう、取材メモとして作成する。 大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネルを利用する。授業資料のファイルボックス、関連サイト紹介など、コースページで学修利用をすすめる。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。 質問相談は、随時、対応するので、授業中、研究室来室など、気軽に相談してほしい。学生から教員へのチャット、メール等連絡は、教員が他の授業、面談などでは対応がむずかしい。学校事務扱い時間を確かめ、夜間、休日の連絡は緊急をのぞき、学校登校日に相談してほしい。 社会福祉士新カリキュラム対応テキスト準拠型授業（テキスト目次記載順）とシラバス準拠型授業（シラバス授業計画）を併用し学習する。 学習は、高校の学修スキルが基礎になるが、高等教育であるから広く深く学ぶこと、学術の多面的理解が重要である。 飯間浩明氏（国語辞書編纂者）資料参照。 https://twitter.com/i/MA_Hiroaki/status/586525324088774657 （2025.03.05確認）							

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。
資格指定科目
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格課程科目、教職課程（社会・公民）選択科目、保育士養成課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。 各授業の作業課題を提出することは基本要件になる。 授業1-7、授業9-14の学習理解を確認するために、小作業①（授業8）、小作業②（授業15）を実施する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することのできる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例をあげて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめた。新しく学ぶ学術用語について、例証はなく、充分ではないが、自分の言葉で説明をこころみていた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について、説明することはまったくできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら、社会的事象の分析表現ができた。	文献資料を選び、信頼性について改善の余地はあるが、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、充分ではないが、社会的事象の分析表現を試みることができた。	文献資料を選び、引用することについて、信頼性の確保が難しかった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析がまったくできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めようとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、本人が理解して行動することは難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング：SOC111005)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者： 松下 守邦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、属修学生と授業者の属修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会学と社会システム』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882337	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション (授業改善アンケート結果反映の説明、シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付く力」の	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	社会学の考え方－1(社会化、社会的地位、役割)	テキスト1章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	社会学の考え方－2(重要な他者、属性主義、業績主義)	テキスト1章「学習のヒント」を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	家族社会－1(家族類型、家族機能)	テキスト2章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	家族社会－2(家族形態、親族関係)	テキスト3章を予習する。(90分)	テキスト第3章「学習のヒント」発展学修する。(90分)
6	社会学の基本的概念、家族社会のまとめ(PBL)	テキスト4章を予習する。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
7	現代社会の捉え方(ライフコース、ジェンダー、性別役割規範、社会文化的性差)	テキスト4章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	小作業①(学習理解の確認作業)	授業1－7の学習内容をふりかえり整理する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	地域社会－1(都市化、都市的生活様式、過疎化)	テキスト10章を予習する。(90分)	テキスト第10章「学習のヒント」を発展学修する。(90分)
10	地域社会－2(第一次の関係、パーソナル・ネットワーク、地域社会の人口変動)	テキスト10章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	少子化と高齢化－1(人口転換、出生力、死亡力)	テキスト11章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	少子化と高齢化－2(人口の地域間移動)	テキスト11章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	人口問題と社会学(人口構成、人口転換、少子化と高齢化、人口問題のまとめ)(PBL)	テキスト12章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	学術論文読解(三色線引き読み、福祉社会学)	三色線引き読み資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	小作業②(学習理解の確認作業)	授業9－14回学習のふりかえり整理する。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
16	本科目のまとめ (授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明、授業改善アン	全授業のまとめを準備する。(90分)	全体のふりかえりを行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会学事典』	日本社会学会	丸善	2010	9784621082546	
2	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
3	『社会福祉士養成課程のカリキュラム社会学と社会システム 教育に含むべき事項(内容)』	厚生労働省 福祉人材確保対策室		2020		https://www.mhlw.go.jp
4	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野』	日本学術会議		2014		http://210.149.141.38
5	『社会学の力 改訂版』	友枝敏雄ほか	有斐閣	2023	9784641174818	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅡ（A） （科目ナンバリング：AEA211007）					
授業担当者 （所属・職名）	山本 真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：山本 真紀）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員が、その経験を基に指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
・前期で学んだ基礎的なデッサンスキル（形態・光と影・質感）を活かし、応用力を養いながら、実践的なデッサン技術を習得することを目指す。 ・石膏像・静物構成・細密描写・人物デッサン・クロッキーを取り入れ、現場で即戦力となる表現力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
・構図を意識しながら、複雑な静物や人物を描く力を養う。 ・質感（ガラス・金属・布・肌・水など）を描き分ける技術を習得する。 ・遠近法や光の影響を深く理解し、空間の奥行きを表現できるようになる。 ・短時間のクロッキーを通して、素早く対象を捉える観察力を高める。 ・デザイン・イラスト・建築・映像などの実務に活かせるスキルを習得する。 ・作品としての完成度を高め、ポートフォリオ制作などに活かす。							
授業全体の内容と概要							
・授業は2コマ連続で行い、石膏デッサン・静物構成・細密画・人物デッサンなどの課題にじっくり取り組む。 ・クロッキーを採みながら、短時間での観察力向上も図る。 ・構図力・遠近感・空間表現・質感の描き分けを重点的に学び、最終的にポートフォリオなどにも活かせる完成度の高い作品を制作する。							
授業の方法							
対面で行う							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・課題を提出すること ・教室マナーとして、お互いの集中を妨げないよう制作すること。後片付けを徹底すること。 ・不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は26回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術・表現力	形の正確さ、遠近感、質感の描き分けが優れ、豊かな表現力がある。	基礎技術が安定し、バランスの取れたデッサンができる。	基本を理解し、安定した表現ができるようになってい	表現の幅が広がっており、今後の成長が期待できる	基礎を学ぶ段階。
成長度・創造力	作品の質が向上し、独自の発想や表現力が際立っている。	技術が向上し、表現の幅が広がっている。	安定した成長が見られ、前向きに取り組んでいる。	自分なりの表現を模索し、着実に前進している。	学びの基盤を築いている最中で、新しい挑戦が期待される。
実践力・課題遂行能力	課題の仕上がりが高水準で、実践的なスキルが身につけている。	課題をしっかりと仕上げ、スピードとクオリティの両立ができています。	課題を計画的にこなし、一定の完成度を保っている。	時間をかけながらも、着実に課題に取り組んでいる。	自分なりの取り組み方を見つ、習慣化に挑戦している。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	デッサンⅡ（A） （科目ナンバリング：AEA211007）					
授業担当者 （所属・職名）	山本 真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者：山本 真紀）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員が、その経験を基に指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」観察力、構成力、空間の把握、質感などの表現力に加工、対応し実践す	シラバスの確認 (45分)	情報の整理 (45分)
2	石膏像と素材を組み合わせたデッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 普段から物をよく観察するようにする (45分)	課題の制作 (45分)
3	石膏像と素材を組み合わせたデッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
4	石膏像と素材を組み合わせたデッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
5	石膏像と素材を組み合わせたデッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分))
6	石膏像と素材を組み合わせたデッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作 (45分)	完成に向けた課題の制作 (45分)
7	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する (45分)	フィードバックを次作に活かす (45分)
8	クロッキー1 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 人体の基本プロポーションを観察する (45分)	短時間クロッキーを継続する (45分)
9	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認 (45分)	課題の制作 (45分)
10	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
11	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
12	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
13	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
14	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	完成に向けた課題の制作 (45分)
15	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する (45分)	フィードバックを次作に活かす (45分)
16	クロッキー2 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	動きのあるポーズの特徴を観察する (45分)	描いた作品を振り返り、改善点を整理 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	細密画① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく シラバスの確認 (45分)	課題の制作 (45分)
18	細密画② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
19	細密画③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
20	細密画④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
21	細密画⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
22	細密画⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
23	細密画⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	完成に向けた課題の制作 (45分)
24	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する (45分)	フィードバックを次作に活かす (45分)
25	人物 (自画像) デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく シラバスの確認 (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	人物 (自画像) デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
27	人物 (自画像) デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
28	人物 (自画像) デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
29	人物 (自画像) デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
30	人物 (自画像) デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	課題の制作 (45分)
31	人物 (自画像) デッサン⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作 (45分)	完成に向けた課題の制作 (45分)
32	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する (45分)	フィードバックを次作に活かす (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	デッサンⅡ（B） （科目ナンバリング：AEA211007）					
授業担当者 （所属・職名）	山本 真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：山本 真紀）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員が、その経験を基に指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
・前期で学んだ基礎的なデッサンスキル（形態・光と影・質感）を活かし、応用力を養いながら、実践的なデッサン技術を習得することを目指す。 ・石膏像・静物構成・細密描写・人物デッサン・クロッキーを取り入れ、現場で即戦力となる表現力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
・構図を意識しながら、複雑な静物や人物を描く力を養う。 ・質感（ガラス・金属・布・肌・水など）を描き分ける技術を習得する。 ・遠近法や光の影響を深く理解し、空間の奥行きを表現できるようになる。 ・短時間のクロッキーを通して、素早く対象を捉える観察力を高める。 ・デザイン・イラスト・建築・映像などの実務に活かせるスキルを習得する。 ・作品としての完成度を高め、ポートフォリオ制作などに活かす。							
授業全体の内容と概要							
・授業は2コマ連続で行い、石膏デッサン・静物構成・細密画・人物デッサンなどの課題にじっくり取り組む。 ・クロッキーを採みながら、短時間での観察力向上も図る。 ・構成力・遠近感・空間表現・質感の描き分けを重点的に学び、最終的にポートフォリオなどにも活かせる完成度の高い作品を制作する。							
授業の方法							
対面で行う							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・課題を提出すること ・教室マナーとして、お互いの集中を妨げないよう制作すること。後片付けを徹底すること。 ・不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は2 6 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術・表現力	形の正確さ、遠近感、質感の描き分けが優れ、豊かな表現力がある。	基礎技術が安定し、バランスの取れたデッサンができる。	基本を理解し、安定した表現ができるようになっている。	表現の幅が広がっており、今後の成長が期待できる。	基礎を学ぶ段階。
成長度・創造力	作品の質が向上し、独自の発想や表現力が際立っている。	技術が向上し、表現の幅が広がっている。	安定した成長が見られ、前向きに取り組んでいる。	自分なりの表現を模索し、着実に前進している。	学びの基盤を築いている最中で、新しい挑戦が期待される。
実践力・課題遂行能力	課題の仕上がりが高水準で、実践的なスキルが身につけている。	課題をしっかりと仕上げ、スピードとクオリティの両立ができている。	課題を計画的にこなし、一定の完成度を保っている。	時間をかけながらも、着実に課題に取り組んでいる。	自分なりの取り組み方を見つ、習慣化に挑戦している。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	デッサンⅡ（B） （科目ナンバリング：AEA211007）					
授業担当者 （所属・職名）	山本 真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者：山本 真紀）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術大学での教育経験のある教員が、その経験を基に指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」観察力、構成力、空間の把握、質感などの表現力に加工、対応し実践す	シラバスの確認（45分）	情報の整理（45分）
2	石膏像と素材を組み合わせたデッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 普段から物をよく観察するようにする（45分）	課題の制作（45分）
3	石膏像と素材を組み合わせたデッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
4	石膏像と素材を組み合わせたデッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
5	石膏像と素材を組み合わせたデッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
6	石膏像と素材を組み合わせたデッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
7	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
8	クロッキー1 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 人体の基本プロポーションを観察する（45分）	短時間クロッキーを継続する（45分）
9	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
10	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等の準備 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
11	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
12	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
13	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
14	複数の異素材を組み合わせた静物デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
15	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
16	クロッキー2 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	動きのあるポーズの特徴を観察する（45分）	描いた作品を振り返り、改善点を整理（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	細密画① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく シラバスの確認（45分）	課題の制作（45分）
18	細密画② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
19	細密画③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
20	細密画④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
21	細密画⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
22	細密画⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
23	細密画⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
24	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）
25	人物（自画像）デッサン① 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく シラバスの確認（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	人物（自画像）デッサン② 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
27	人物（自画像）デッサン③ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
28	人物（自画像）デッサン④ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
29	人物（自画像）デッサン⑤ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
30	人物（自画像）デッサン⑥ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	課題の制作（45分）
31	人物（自画像）デッサン⑦ 制作中や終了後、教員が一人ひとりに声をかけフィードバックを行う	鉛筆削り等準備しておく 課題の制作（45分）	完成に向けた課題の制作（45分）
32	講評 全体フィードバック 他の学生の作品を見る機会を設け、相互フィードバックを通じて客観的な視点も育成する	自分の作品の特徴や表現意図を整理する（45分）	フィードバックを次作に活かす（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築材料 (科目ナンバリング：BSM311016)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として、一般建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『絵とき建築材料 改訂3版』	廣瀬幸男・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬砂子 (共著)	オーム社	2022	978-4-274-22890-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 科目を終了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
2	木材① (木材の特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
3	木材② (木材の強度・木取り・規格・等級)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
4	木材③ (集成材・合板・木質ボード)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
5	コンクリート① (コンクリートの特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
6	コンクリート② (コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
7	コンクリート③ (混和材料・コンクリート製品・セメント製品)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
8	鋼材① (鋼材の特徴・加工と腐食・種類)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
9	鋼材② (鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
10	仕上げ材① (石材・ガラス・タイル・レンガ)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
11	仕上げ材② (外装材・屋根・外壁)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
12	仕上げ材③ (内装材・天井・壁・床)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
13	機能性材料 (防水材料・防火材料・断熱材)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
16	定期試験 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える (90分)	定期試験内容を整理して、復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築構造力学Ⅱ (科目ナンバリング：BSW312013)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
建築構造力学Ⅰの内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。 物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージすることができる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明することができ計算できる。 断面の力学特性を理解し、断面諸量を計算できる。 建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。							
授業全体の内容と概要							
静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。 静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・などの事項について、演習問題を解きながら講義する。							
授業の方法							
教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。 参考資料無しで演習を解けるように説明する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要である。 講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習（反復練習）が不可欠である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	20%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法（節点法・切斷法）及び面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	様々なトラスの解法（節点法・切斷法）及び面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切斷法）及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	基本的なトラスの解法（節点法・切斷法）及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切斷法）及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他の人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	級建築士問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	級建築士問題（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築構造力学Ⅱ (科目ナンバリング：BSW312013)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（90分）
2	静定トラス（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
3	静定トラス（3）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
4	静定トラス（4） 小テスト（1）・小テストの結果について授業内で コメントしてフィードバックする	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
5	断面の力学的特性（1）図心・断面1次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
6	断面の力学的特性（2）図心・断面1次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
7	断面の力学的特性（3）断面2次モーメント・断面 係数	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
8	断面の力学的特性（4）断面2次モーメント・断面 係数	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
9	断面の力学的特性（5）断面2次半径 小テスト（2）・小テストの結果について授業内で コメントしてフィードバックする	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
10	ひずみと応力度（1）軸応力度	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
11	ひずみと応力度（2）曲げ応力度	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
12	ひずみと応力度（3）せん断応力度	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
13	ひずみと応力度（4）組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
14	座屈	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説 する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に 備える（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する（90分）	授業内容全体について資料を整理して確認する （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1			学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：戸佐 晃一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
本授業では、1年時に学んだ人体の仕組みや機能を確認し、足りない体力をつけるための様々なトレーニングを実施し身に付ける。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても体力の維持、健康で長寿であることを目的とする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
各自、理想的な体力向上を目指し到達目標を設定する。体力向上のために必要な日常の食事、栄養、睡眠などを見直すとともに、より良い体力作りを目標とする。また、生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。							
授業全体の内容と概要							
体力測定、形態測定により自分の体力の変化や状態を知る。 様々な種類のトレーニングに関する基本を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。							
授業の方法							
教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用することで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
競技経験があり体力があること。 遅刻は2回につき1回欠席とする。 運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を良く理解している	ウエイトトレーニングの基本をほぼ理解している	ウエイトトレーニングの基本をある程度理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解していない	
体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を良く理解している	体幹トレーニングの基本をほぼ理解している	体幹トレーニングの基本をある程度理解している	体幹トレーニングの基本を理解している	体幹トレーニングの基本を理解していない	
ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を良く理解している	ラダートレーニングの基本をほぼ理解している	ラダートレーニングの基本をある程度理解している	ラダートレーニングの基本を理解している	ラダートレーニングの基本を理解していない	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身につく力」の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	個人面談 (GPA・単位取得状況・学生生活など)	GPA・単位取得状況を確認しておく (45分)	面談内容を理解しておく (45分)
3	個人面談 (GPA・単位取得状況・学生生活など)	GPA・単位取得状況を確認しておく (45分)	面談内容を理解しておく (45分)
4	ウエイトトレーニングの基本Ⅰ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
5	ウエイトトレーニングの基本Ⅱ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
6	ウエイトトレーニングの基本Ⅲ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
7	ウエイトトレーニングの基本Ⅳ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
8	体幹トレーニングの基本Ⅰ	体幹トレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
9	体幹トレーニングの基本Ⅱ	体幹トレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
10	体幹トレーニングの基本Ⅲ	体幹トレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
11	ラダートレーニングの基本Ⅰ	ラダートレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
12	ラダートレーニングの基本Ⅱ	ラダートレーニングの基本を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	体力・形態測定結果を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (アダプテッドスポーツの創造)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	アダプテッドスポーツを考える (屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	プレゼンテーションの準備 1 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 2 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 3 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーション (屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション (屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。	
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力を達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	健康とスポーツについて考える (種目は各自で調査)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
11	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	(ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身で終わった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (スポーツと遊び)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	スポーツと遊びを考える 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	スポーツと遊びを考える 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	グループ別プレゼンテーションの準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	グループ別プレゼンテーションの準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	スポーツと健康を考える 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	スポーツと健康を考える 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：井坂 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
トレーニング理論について理解できる。 課題解決のために他者と討議することができる。 トレーニングを実施することができる。 論文を読んで内容について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。							
授業の方法							
講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。 学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
15分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻2回で1回の欠席とみなす。 トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく越えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：井坂 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	シラバスの内容を理解しておく (45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
10	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
11	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
12	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
13	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
14	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
15	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク グループワークについてのフィードバックを行う	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
16	まとめ (科目を修了して「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。							
授業全体の内容と概要							
日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。							
授業の方法							
・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。 ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施します。 ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった	
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) (動作の質的測定を行うためのシステム	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
5	職業レディネス・テストの実施 (キャリア支援セン ター) FMSとSFMAの理解と習得	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感②	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)
16	まとめ フィードバック (動作の質的測定を行うためのシス テム「ファンクショナルムーブメントスクリーン」	測定準備と論文の読み込み (45分)	本時の学習内容をまとめて提出する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。

学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。

①報告者はテキストの内容を要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。

②同会後の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。

③担当教員による講評を行う。

④レポート作成に向けた準備を進める。

輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。

Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	５０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
2	テキストの内容報告とディスカッション (1)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
3	テキストの内容報告とディスカッション (2)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
4	テキストの内容報告とディスカッション (3)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
5	テキストの内容報告とディスカッション (4)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
6	テキストの内容報告とディスカッション (5)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
7	テキストの内容報告とディスカッション (6)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
8	テキストの内容報告とディスカッション (7)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
9	テキストの内容報告とディスカッション (8)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
10	テキストの内容報告とディスカッション (9)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
11	テキストの内容報告とディスカッション (10)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
12	テキストの内容報告とディスカッション (11)	テキストの熟読 (45分)	議論内容の整理 (45分)
13	レポートの進捗状況の報告 (1)	関連資料の収集 (45分)	議論内容の整理 (45分)
14	レポートの進捗状況の報告 (2)	関連資料の収集 (45分)	議論内容の整理 (45分)
15	レポート作成	レポート (課題) の準備 (45分)	レポート (課題) の準備 (45分)
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート (課題) の準備 (45分)	レポート (課題) の仕上げ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標

本ゼミナールでは「天皇」を取り上げ、明治時代以降「天皇」が日本の近代化にいかに関与したか、を社会的に考察する。イデオロギーに染まることなく、「天皇」という存在を社会的・構造神学的に考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1，DP 2，DP 5 に対応する。

到達目標

・明治時代以降の近代日本社会において、天皇が果たした順機能、潜在機能を理解できる。

・仏教、キリスト教、儒教、イスラム教との比較から、天皇が持つ神性を考察し、理解できる。

・平安時代末期の保元の乱が示した根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミー（無連帯・無規範）の恐怖と、現代日本社会に共通する要因を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『天皇畏るべしー日本の夜明け、天皇は神であったー』（ビジネス社）を基本参考文献とし（ゼミごとに教員が購読パートをコピーし配布する）、併せて、山本七平、橘川大三郎、大澤真幸、宮台真司の文献を参照し、ゼミを進める。

授業の方法

・購読パートを音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加え、併せてディスカッションを行う。

・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。

・学生の要望には可能な限り応えるが、教育上問題のある要望には応えられない。

・不測の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代における天皇が果たした機能を理解する。	ディスカッションにおいて、「」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	「明治維新」「明治時代」についての基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
仏教、キリスト教、イスラム教、儒教と比較した天皇の神性を理解する。	ディスカッションにおいて「」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	高校のテキスト「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
保元の乱における根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミーの恐怖を理解する。	ゼミで購読したパートを説明できる。ディスカッションにおいて「」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	保元の乱以降の日本史の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校のテキストの読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
2	明治維新における天皇1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
3	明治維新における天皇2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
4	神の機能 (正統性の付与) 1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
5	神の機能 (正当性の付与) 2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
6	教育勅語に込められた革新	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
7	キリスト教の論理	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
8	儒教の論理	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
9	天皇の神性1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
10	天皇の神性2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
11	天下大乱はなぜ起きたか	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
12	日本皇道の失墜	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
13	摩訶不思議なもの	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
14	天皇が秘める深淵1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
15	天皇が秘める深淵2 前回までの授業の小テストを実施、講評・評価を行いフィードバックする。	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
16	天皇が秘める深淵3 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が東南アジアの歴史と文化について、基礎的な知識を身につける。合わせて、基本的なコミュニケーション能力を養成する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
受講者において、東南アジアの歴史・文化についての基本的な理解ができており、合わせて基本的なコミュニケーション能力が身に付いている。							
授業全体の内容と概要							
日本ともつながりの深い東南アジア地域の歴史と文化を、各種資料を使って考察する。 一部、教員による現地取材も提供、活用しつつ考察を進める。							
授業の方法							
1) 教員による短い講義。(資料、画像、動画を併用) 2) 1)に基づいて、受講生全員による討論。 3) 教員によるコメントとフィードバック。 毎回、1)から3)をくりかえしていく。ときどき、簡単な体験学習を取り入れる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他 (授業の方法参照)
履修上の注意事項							
欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・分析能力	多様で正確な情報の収集と分析ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集と整理ができ、適切な発信ができた。	情報収集と整理の基本が身に付いており、発信の基本ができた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、指示によって発信ができた。	指示による情報収集と整理ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論と明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	適切な議論とプレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが遂行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化に関する理解・認識	東南アジアの歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	東南アジアの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	東南アジアの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によって東南アジアの歴史と文化に関する理解ができた。	指示による東南アジアの歴史と文化に関する理解ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業アンケートの結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力の説明。	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
2	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （ベトナム、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
3	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （ベトナム、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （45分）
4	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （タイ、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
5	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （タイ、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
6	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （タイ、他） 既習範囲についてのミニレポートの作成とコメント	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （45分）
7	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （インドネシア、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
8	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （インドネシア、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （45分）
9	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （フィリピン、他）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習 （45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
10	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （諸地域）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
11	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （諸地域）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
12	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （日本との関係）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習 （45分）
13	東南アジアの歴史と文化の基礎に関する講義と討論 （日本との関係）	東南アジアの歴史の基礎的事項の予習（45分）	東南アジアの歴史の基礎的事項の復習（45分）
14	受講者による調査とレポート作成（1）	レポート作成の準備（45分）	レポート作成の準備（45分）
15	受講者による調査とレポート作成（2）	レポート作成の準備（45分）	レポート作成の準備（45分）
16	レポートについてのコメントとフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証。 授業アンケートの実施。	レポート作成の準備（45分）	レポート作成の準備（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
社会福祉実践に用いられることが多い用語と意味を覚える。 チームワーク力を涵養する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する科目。							
到達目標							
①福祉に関する専門用語を覚える。 ②自分に適した暗記方法を身につける。 ③協調性を身につける。							
授業全体の内容と概要							
①福祉現場で使われることが多い専門用語と、その意味を暗記する。 ②暗記方法の工夫ができるようになる。 ③他者を尊重しながら自主主張できるようになる。 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。 ②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。 ③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。 ④内容により、使用する資料を配布する。 ⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①30分以上の遅刻は欠席とする。 ②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。 ③不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席があること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い用語と意味を理解できる。	用語の意味を自分の言葉で言い換えながら、解説ができた。	用語の意味を自分の言葉で言い換えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
暗記ができる。	自分に適した方法を用いて、暗記ができた。	指導方法に従って暗記ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部出来た。	助言があってもできなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとった。他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目修了後に身につく力について説明 福祉の現場で用いられることが多い用語①	福祉の授業の中で知った「あ」行の単語を書き出す。 (45分)	単語カードを作る。 (45分)
2	福祉の現場で用いられることが多い用語②	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」行の単語を書き出す。(45分)	単語カードを作る。 (45分)
3	福祉の現場で用いられることが多い用語③	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」行の単語を書き出す。(45分)	単語カードを作る。 (45分)
4	福祉の現場で用いられることが多い用語④	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「な」行の単語を書き出す。(45分)	単語カードを作る。 (45分)
5	福祉の現場で用いられることが多い用語⑤	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」行の単語を書き出す。(45分)	単語カードを作る。 (45分)
6	福祉の現場で用いられることが多い用語⑥	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ら」行の単語を書き出す。(45分)	単語カードを作る。 (45分)
7	中間まとめ	単語カードを見直す。(45分)	覚えていない単語を復習する。 (45分)
8	社会福祉に関連する社説の要約筆記①	新聞やインターネットでニュースを見る。(45分)	作成した要約文の推敲をし、提出する。 (45分)
9	社会福祉に関連する社説の要約筆記② 8回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。(45分)	作成した要約文の推敲をし、提出する。 (45分)
10	社会福祉に関連する社説の要約筆記③ 9回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。(45分)	作成した要約文の推敲をし、提出する。 (45分)
11	社会福祉に関連する社説の要約筆記④ 10回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする	新聞やインターネットでニュースを見る。(45分)	作成した要約文の推敲をし、提出する。 (45分)
12	11回で作成した要約文を添削後返却し、フィードバックする ソーシャルワークとプレゼンテーションの関係	プレゼンテーションの意義、目的を書籍やインターネットで調べる。(45分)	ソーシャルワーカーがプレゼンテーションを行う対象についてまとめる。 (45分)
13	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション①	プレゼンテーションの内容について、案を複数あげる。(45分)	ソーシャルワーカーがプレゼンテーションを行う場面についてまとめる。 (45分)
14	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション②	プレゼンテーションの内容を決め、内容をまとめる。(45分)	クラスメイトのプレゼンテーションに対する感想のコメントを書く。 (45分)
15	ソーシャルワーカーによるプレゼンテーション③	プレゼンテーションの内容を決め、内容をまとめる。(45分)	クラスメイトのプレゼンテーションに対する感想のコメントを書く。 (45分)
16	まとめと、科目を修了して身につく力』についての検証をする。 授業最終回において議評をし、フィードバックす	全体を振り返り、疑問点等があればまとめる。 (45分)	後期に向け、自分の課題を整理する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。
基礎ゼミナール①の目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

- ・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。(スチューデントスキル)
- ・授業内容や目的、ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)
- ・基礎ゼミナールから継続して考えていけるが、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関連した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障をきたす行為があった場合は途中でゼミ実動を宣告する場合がある。
- ・不満の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

出席状況（3分の2以上）。ゼミ内での活動（プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等）とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性, 傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味, 関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル, 表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ, 態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わるすることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わるることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ティップス・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考える。(45分)
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
5	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
10	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証	まとめの準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を身に付けさせる。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。							
授業全体の内容と概要							
生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。							
授業の方法							
資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。 「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
積極的に取り組むことを期待します。 20分以上の遅刻は欠席とします。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 13 回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。	
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。	
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：		尾西 則昭)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明する 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	健康に関する研究調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	健康に関する研究調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	健康に関する研究調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	健康に関する研究調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	健康に関する研究調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	健康に関する研究調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	健康に関する研究調査⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	健康に関する研究調査⑧	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	健康に関する研究調査⑨	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	健康に関する研究調査⑩	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	健康に関する研究調査⑪	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	健康に関する研究調査のまとめ①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	健康に関する研究調査のまとめ②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証する 授業改善アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：西崎 毅)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学習姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学習
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
教員啓発活動や学校体験活動等への参加
漢字検定等への参加
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。
板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○担当教員の授業において必ず発表することを履修の条件とする。
○サブマジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。（目標準2級）
○担当教員が案内する教職啓発活動や学校体験活動に必ず参加することを履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能にいつでも習得することができた。	学習した知識・技能を十分に修得することができた。	学習した知識・技能を修得することができた。	学習した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学習に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：西崎 毅)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
2	○中学校学習指導要領総則についての学修①教育課程の編成、実施、評価 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）
3	○中学校学習指導要領総則についての学修②生徒の発達への支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
4	○中学校学習指導要領総則についての学修③学校運営上の留意事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
5	○中学校学習指導要領総則についての学修④道徳教育に関する配慮事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
6	○中学校学習指導要領道徳についての学修①目標・内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
7	○中学校学習指導要領道徳についての学修②指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
8	○中学校学習指導要領道徳についての学修③内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
9	○中学校学習指導要領についての学修①専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
10	○中学校学習指導要領についての学修②専門教科の目標・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
11	○中学校学習指導要領についての学修③専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
12	○中学校学習指導要領についての学修④専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
13	○中学校学習指導要領についての学修⑤専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
14	○中学校学習指導要領についての学修⑥専門教科の指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
15	○中学校学習指導要領についての学修⑦専門教科の内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
16	前期の学修の総括及び反省 演習のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：宮嶋 達也)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けて、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。							
到達目標							
(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。 (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。 (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。							
授業全体の内容と概要							
授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。							
授業の方法							
グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に動く。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。 ①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人 ②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人 ③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組む、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮嶋 達也)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備 シラバスの熟読 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
5	Planning 4	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
6	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
7	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
13	Creative activities 6	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
14	Creative activities 7	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
16	前期活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）			研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：横山 哲也）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本をしっかり身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が100%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が90%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が80%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が70%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が70%も理解できなかった。	
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方（思考過程）を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を70%も記述したレポートにならなかった。	
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：		横山 哲也	)	CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
2	濃度 (1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
3	濃度 (2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
4	濃度 (3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
5	速さ・距離・時間 (1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
6	速さ・距離・時間 (2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
7	速さ・距離・時間 (3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
8	ものの値段と個数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
9	定価・原価・利益	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
10	割合と値段 (1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
11	割合と値段 (2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
12	仕事算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
13	表の読み取り(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
14	表の読み取り(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
15	表の読み取り(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと (45分)	今日のゼミナールの再確認 (45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総復習 (45分)	総理解 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、一人ひとりより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。							
授業全体の内容と概要							
1年生での学びをさらに発展、空間的な提案力向上を目的とし、複数の課題を通して、各自の空間に対する興味や関心を掘り下げ、都市や建築空間の楽しみ方を学び、提案の幅を広げるトレーニングを行う。個人ワークを基本とし、調査・構想・表現を行う。□SDGs 3.すべての人に健康と福祉を □SDGs 11.住み続けられるまちづくりを □SDGs 12.つくる責任 つかう責任							
授業の方法							
課題の説明はパワーポイント等を用いる。 また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。 模型製作に必要なカッターマット (A3サイズ推奨)、カッター、ボンド、金尺 (15cm、30cm)、スコヤを用意すること。 調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他 (授業の方法参照)
履修上の注意事項							
能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 1 1 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	8 0 %	0%	1 0 %	1 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	課題１（空間を楽しむ） 説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
3	課題１（空間を楽しむ） 作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
4	課題１（空間を楽しむ） 作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	プレゼンをまとめる（４５分）
5	課題１（空間を楽しむ） 発表	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価すること（４５分）
6	課題２（模型） 課題説明	対象を事前に調べる（４５分）	課題の関連事項を調べる。（４５分）
7	課題２（模型） 作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
8	課題２（模型） 作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	作品を仕上げる（４５分）
9	課題２（模型） 発表	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
10	課題３（設計提案） 説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	提案を事前に考える（４５分）
11	課題３（設計提案） 作業	提案を事前に考える（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
12	課題３（設計提案） 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	課題３（設計提案） 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	課題３（設計提案） 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	課題３ 発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	課題３ 発表・総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)			研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター	
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 恵利)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標							
大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得る能力を身につける。							
授業の位置づけ							
交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3．すべての人に健康と福祉を」「SDG7．エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「SDG10．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。							
到達目標							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
授業全体の内容と概要							
学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をするこもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。							
授業の方法							
教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	35%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習,実習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 恵利)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習 (45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	前期学習範囲の総括(「身につく力」の検証) 反省・最終課題の提出 授業に係る諸評・施設によるフィードバック	最終課題提出の準備 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。 フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。 チームワーク力を涵養する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席があること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通して、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術① 科目を修了して『身に付く力』についての説明	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
2	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストの準備を行う。（45分）	職業レディネステストの振り返りを行う。（45分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
7	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
8	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験②	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストの振り返りをする。（45分）	フィードバックの振り返りを行う。（45分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
16	授業内フィードバック まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関するさまざまな現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。							
授業全体の内容と概要							
マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。							
授業の方法							
授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、１０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かし、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かし、自分の意見と述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	学内施設・システムの活用方法 (1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
3	資料を読む (1) 文献の読解・調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
4	資料を読む (2) 文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
5	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (1) 作品分析：近藤聡乃のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
6	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (2) 作品分析：近藤聡乃のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (3) プレゼンテーションの方法を学ぶ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (4) レポートの書き方を学ぶ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
9	個人発表の方法 (1) プレゼンテーションのポイント、レポートの留意点	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
10	個人発表 (1)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
11	個人発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
12	個人発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
13	個人発表 (4)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
14	個人発表 (5)	レポート作成の準備をする (45分)	レポートを作成する (45分)
15	期末レポートの提出 まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田晩生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング: BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、教育公務員としての資質向上に 関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付け、そのために必要な学習を自ら行えるようにする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
教育制度や内容について関連事項を含めて説明できる。 教育の諸問題についてその背景を含めて理解することができる。 教員として必要な国語力を身に付けることができる。 社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。							
授業全体の内容と概要							
各回の授業テーマについて考える。 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読 教育に関する基本的事項についての調べ学習 教員として求められる一般教養及び教職教養の学修 漢字検定対策 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連内容							
授業の方法							
任意のテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。 資料内容、発表内容等に対する振り返りや、自己評価を下にしたフィードバックを行う。 並行して教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など、端的に文章にまとめる練習を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教育または行政に強い関心がある者とする。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、関連する事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を期待するレベルまで到達することができなかった。
テーマに基づく内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等を行うことができなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、常に自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ関心をもって取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもち、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング: BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、教育公務員としての資質向上に関 連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明等） 科目を履修して『身に付く力』についての説明	シラバスを読む（45分）	説明内容を整理する（45分）
2	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 自己アピール文作成	教員を志望する理由を構想する。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
3	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 自己アピール文作成	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
4	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
5	職業レディネステスト（キャリア支援センター）		
6	学習指導要領を読む 漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
7	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
8	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
9	学習指導要領を読む 漢字小テスト	指定された箇所を事前に読む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
10	職業レディネステストフィードバック（キャリア支援センター）		結果を自己分析する（45分）
11	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	指定された答申に目を通す。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
12	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	答申の重要事項をまとめる。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
13	中教審答申を読む 漢字・一般教養小テスト 文章読解と要約	学習指導要領と答申の関連を考察する。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
14	教育公務員の種類と服務と自治体の行政について 漢字・一般教養小テスト	各自治体、出身校のHPを閲覧する。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
15	教育公務員の種類と服務と自治体の行政について 漢字・一般教養小テスト	各自治体、出身校のHPを閲覧する。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）
16	服務規律違反と懲戒について 前期学修内容のフィードバック 科目を履修して『身に付く力』についての検証	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『小学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版社	平成30年	978-4491034614	
2	『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	平成30年	978-4827815801	
3	『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版社	平成31年	978-4491036397	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
基礎ゼミナールⅠA・ⅠBを土台とし、ライフコースが多様化した現代社会でのキャリア形成に向けて「働くこと」や「職業活動」の意義を考察し、理解する力を身に付ける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組む、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組んだが、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析できていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：山本 一彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	※科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスの事前確認 (45分)	ガイダンス内容および履修登録結果確認 (45分)
2	I. 現代社会の「労働」 1. 「労働」観の移り変わり	「働くこと」に対する自分の価値観の意識化 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
3	I. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
4	I. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
5	I. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
6	I. 2. 現代の「労働」の特質	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
7	I. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
8	II. 現代社会の「職業」 1. 「職業」活動の意味	「職業」とはどのような活動であるかの意識化 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
9	II. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
10	II. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
11	II. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
12	II. 2. 「職業」の選択に向けて	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
13	II. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
14	II. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
15	III. 前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期のすべての活動の振り返り (45分)	振り返り内容の再確認 (45分)
16	※総括・振り返り 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	15回分の内容の振り返り (45分)	総括の再確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在		2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：		河田 一郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜く。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践の指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標
教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。 教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要
教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。 教育にかかわる法令、客申などの通読 教育に関する諸課題についての調べ学習 教師に求められる教職教育等の学び 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法
教育にかかわる法令、客申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。 教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教師に求められる教職教育等について演習を行う。 課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 板書や教材提示装置を活用する。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 ○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 ○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可） ○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。 ○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	○オリエンテーション 「シラバス」「ゼミの進め方」「科目を修了して身に付く力」の説明	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	○教育政策・教育行政と法 ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	○日本国憲法の教育条項① ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	○日本国憲法の教育条項② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	○教育基本法① 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
6	○教育基本法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 (45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	○国・地方の教育行政の組織・機能と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	○国・地方の教育行政の組織・機能と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	○教育委員会制度と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	○教育委員会制度と法② 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
11	○教育財政と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	○教育財政と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	○学校制度・就学制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	○学校制度・就学制度と法② 学修発表 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	○教育免許・養成制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	○教育免許・養成制度と法② 学修発表 前期の学修の総括及び反省(フィードバックと科目	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA（再） （科目ナンバリング：BAS002005）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎ゼミナールⅡA再履修者。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１３回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡA（再） （科目ナンバリング：BAS002005）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」授業の進め方・シラバスの説明。授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この科目を受講することで、誰よりも早く、就活を勝ち抜く。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」授業改善に向けたアンケートを実施。これまでの授業について講評を行い、フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明等 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスを確認する (45分)	履修登録結果を確認する (45分)
2	テーマの基本概念・テーマについて学ぶ	自分たちが選んだテーマについて調べてくる (45分)	不明な点をまとめ、調べる (45分)
3	テーマの基本概念・テーマについて学ぶ	自分たちが選んだテーマについて調べてくる (45分)	不明な点をまとめ、調べる (45分)
4	リサーチと情報収集方法	自分たちが選んだテーマについて調べてくる (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
5	プロジェクト目的と目標設定・SMARTゴール (具体的・測定可能・達成可能・関連性・期限) を使って目標設定を行う。	SMARTゴールについて調べる (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
6	グループディスカッションと役割分担	グループでの役割を考える (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
7	プロジェクト計画の立案①	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
8	プロジェクト計画の立案②	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
9	メディアコンテンツの企画・設計①	メディアコンテンツについて調べる (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
10	メディアコンテンツの企画・設計②	メディアコンテンツについて調べる (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
11	中間発表・これまでの進捗を報告する・フィードバックを受ける	発表準備をする (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
12	プロジェクト計画の修正・実行準備	前回のフィードバックを中心に修正を行う (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
13	プロジェクト計画の実行準備	実行準備を進める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
14	プロジェクト計画の実行準備	実行準備を進める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
15	プロジェクト計画の実行準備授業に係る講評・解説によるフィードバック科目を修了して「身に付く力」の検証	実行準備を進める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	学生が授業内容や生活相談のための正課授業外に研究室前の掲示ボードを参照して実施					

概要

履修目標							
陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。 陸上競技の知識と技能を身につけさせる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数13回以上 陸上競技の知識と技能を身につけたかどうか大会等の結果で評価する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を深く理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識をおおむね理解して知識と技術を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を多少理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解できずに身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	学生が授業内容や生活相談のための正課授業外に研究室前の掲示ボードを参照して実施					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	事前にシラバスを読んで確認する。（45分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
2	陸上（駅伝）と、健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
3	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
4	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
5	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
6	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
7	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
8	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
9	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
10	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑧	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
11	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑨	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
12	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑩	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
13	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査⑪	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
14	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
15	陸上（駅伝）と、健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (45分)
16	全体のまとめ 身に付ける力がついたかどうかフィードバックして 検証	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。 (45分)	解説の内容を確認する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
基礎ゼミナールⅠA、ⅠBで学習したことを基礎とし、絵画制作についての知識や技術を高められるようにし、そして絵画の果たすべき役割や意義についてより深く学修する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
絵画制作に用いる様々な道具の使用方法、それぞれの色剤や展色剤の特長を学修し、制作に反映させる。							
授業全体の内容と概要							
50号程度の大きさの支持体に、それぞれの履修生が求めるものをエッグテンペラや油彩等の技法で制作する。							
授業の方法							
事前の準備、制作後の作品についての振り返り、次の制作についての計画や展望を巡らせるといった一連の作業を、毎時の習慣とすること。適宜、パソコンやプロジェクターも取り入れ活用する。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
アート専攻の人を中心に、絵を描くのが好きな人、描写力をつけたい人、将来、美術教師を目指す人を対象とする。止むを得ず欠席した場合には、放課後等を活用して遅れを取り戻す心構えを求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について(布や紙等の貼り方を含む)	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身につかなかった。
描写、彩色について	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどがある程度の確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 【古今の作品について（構図を主に）】	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。 (90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について 布や紙等の貼り方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方、布や紙等の貼り方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。 (90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを確認する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラ等での下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラ等の展色剤の処方について予習する。 (90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について予習する。 (90分)	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について復習する。 (90分)
8	油彩による上描き 1 大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き 2 色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き 3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。 (90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 3	筆触・タッチについて予習する。(90分)	意図とおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 5	色価・パルルールに狂いのある箇所がないかを確認する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。 (90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバック	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。 (90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標						
文献・地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための地域分析能力を養う。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
文献調査・フィールドワークの基礎	文献調査・フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた	文献調査・フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	文献調査・フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	文献調査・フィールドワークをすることができた。	文献調査・フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方・考え方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用し考察することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用し考察することができた。	地域調査において、地図を活用し考察することができた。	地図を活用し考察することができた。	地図を活用し考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡA (科目ナンバリング：BAS002005)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス、科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	文献調査の基礎	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	文献調査①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
4	文献調査②	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	文献調査③	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	文献調査④	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	フィールドワーク①	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	フィールドワーク②	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	フィールドワーク③	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	フィールドワーク④	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	フィールドワーク⑤	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)
12	調査結果まとめ①	フィールドワークのまとめをしておくこと。(90分)	調査結果のまとめをしておくこと。(90分)
13	調査結果まとめ②	調査結果のまとめをしておくこと。(90分)	調査結果のまとめをしておくこと。(90分)
14	調査結果発表	発表準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	レポート作成	レポート作成の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 これまでの講評をしとフィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当 社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	キャリアデザイン（S・D・A） （科目ナンバリング：S0E011012）				
授業担当者 （所属・職名）	山本 一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本 一彦 ）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標							
変化する現代産業社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、また、それらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意をの理解する力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のD P（2）（4）に対応する。 デザイン学科のD P（2）（4）に対応する。 建築学科のD P（2）（4）に対応する。							
到達目標							
産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもてることができる。							
授業全体の内容と概要							
まず、自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、文化や社会、時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること、また、「働くこと」や分業の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして、どのように「学生」が「職業人」へと移行していけばよいのかを理解し、「労働」・「職業」をめぐるさまざまな問題を考察する。							
授業の方法							
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（P B L含む）、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
9 0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	1 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について充分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築学科・1		
開講時期	前期	授業形態	講義		必修・選択	必修
科目名称	キャリアデザイン（S・D・A） （科目ナンバリング：S0E011012）					
授業担当者 （所属・職名）	山本 一彦（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：山本 一彦）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス……全体概要・目的とねらい、 履修上の注意、評価方法説明（シラバス説明、身に 付ける力を含む）、前年度授業アンケート結果概要	シラバス内容を事前確認（90分）	目的とねらいについての復習と確認（90分）
2	I. ライフデザインとキャリア 1. 「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化 （90分）	「キャリア」とは何であったかの復習・理解（90分）
3	I. ライフデザインとキャリア 2.. 若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境につ いての意識化 （90分）	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復 習・理解（90分）
4	II.働くことと職業生活 1. 「労働」をどうとらえるか？ ……その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意 識化（90分）	さまざまな「労働」観についての復習・理解（90分）
5	II.働くことと職業生活 2. 社会的分業と「職業」 ……社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意 識化（90分）	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復 習・理解（90分）
6	III. 産業社会の変化と職業 1. 現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認（90分）	特に日本の職業構造についての復習・理解（90分）
7	III. 産業社会の変化と職業 2. 職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的特質についての事前考察（90分）	「専門職」の社会的意味についての復習・理解（90分）
8	IV. 「学生」から「職業人」へ 1. 何が「職業人」に必要な？ ……エンプロイアビリティの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメ ージ化・意識化（90分）	「エンプロイアビリティ」とは何であったかの復 習・理解（90分）
9	IV. 「学生」から「職業人」へ 2. ライフコースの変化と 現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化 （90分）	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・ 理解（90分）
10	V. 職業をめぐる現代社会の諸問題 1. 現代の雇用環境と若者 ……就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察（90分）	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解（90分）
11	V. 職業をめぐる現代社会の諸問題 2. 就労形態の変化 ……多様な働き方とは？	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察（90分）	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習・ 理解（90分）
12	V. 職業をめぐる現代社会の諸問題 3. 男女共同参画社会へ ……ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察（90分）	男女共同参画」の重要性についての復習・理解（90分）
13	V. 職業をめぐる現代社会の諸問題 3. 男女共同参画社会へ ……ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察（90分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・ 理解（90分）
14	VI. 現代社会の新しい働き方 ……ディセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化（90分）	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・ 理解（90分）
15	※総括（身に付ける力の検証、試験概要説明）、 授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック（90分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（90分）
16	※試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備（90分）	解説内容の確認・理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義		必修・選択	必修
科目名称	キャリアデザイン (M) (科目ナンバリング：S0E011012)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
変化する現代産業社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、また、それらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意味を理解する力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもてることができる。							
授業全体の内容と概要							
まず、自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、文化や社会、時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること、また、「働くこと」や分業の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして、どのように「学生」が「職業人」へと移行していけばよいのかを理解し、「労働」・「職業」をめぐるさまざまな問題を考察する。							
授業の方法							
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（PBL含む）、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の理解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について充分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	キャリアデザイン (M) (科目ナンバリング：S0E011012)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：山本 一彦)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	※科目ガイダンス…全体概要・目的とねらい、 履修上の注意、評価方法説明 (シラバス説明、身に 付ける力を含む)、授業アンケート結果説明	シラバス内容を事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習と確認 (90分)
2	I. ライフデザインとキャリア 1. 「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化 (90分)	「キャリア」とは何かであったかの復習・理解 (90 分)
3	I. ライフデザインとキャリア 2..若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境につ いての意識化 (90分)	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復 習・理解 (90分)
4	II.働くことと職業生活 1. 「労働」をどうとらえるか？ …その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意 識化 (90分)	さまざまな「労働」観についての復習・理解 (90 分)
5	II.働くことと職業生活 2.社会的分業と「職業」 …社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意 識化 (90分)	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復 習・理解 (90分)
6	III.産業社会の変化と職業 1.現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認 (90分)	特に日本の職業構造についての復習・理解 (90分)
7	III.産業社会の変化と職業 2.職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的特質についての事前考察 (90 分)	「専門職」の社会的意味についての復習・理解 (90分)
8	IV. 「学生」から「職業人」へ 1.何が「職業人」に必要な？ ……エンプロイアビリティの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメ ージ化・意識化 (90分)	「エンプロイアビリティ」とは何かであったかの復 習・理解 (90分)
9	IV. 「学生」から「職業人」へ 2.ライフコースの変化と 現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化 (90分)	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・ 理解 (90分)
10	V.職業をめぐる現代社会の諸問題 1.現代の雇用環境と若者 ……就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察 (90 分)	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解 (90分)
11	V.職業をめぐる現代社会の諸問題 2.就労形態の変化 ……多様な働き方とは？	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察 (90分)	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習 ・理解 (90分)
12	V.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ ……ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察 (90分)	男女共同参画」の重要性についての復習・理解 (90分)
13	V.職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ ……ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察 (90 分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習 ・理解 (90分)
14	VI.現代社会の新しい働き方 ……ディーセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化 (90分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習 ・理解 (90分)
15	※総括 (授業に係る講評・解説によるフィードバ ック、身に付けるの検証、試験概要説明) 授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック (90分)	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解 (90分)
16	※試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備 (90分)	解説内容の確認・理解 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラ	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	防災・治水プログラム (科目ナンバリング：NDD092058)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生は北広島市の地域防災を講義とフィールドワークから学びことにより、万が一、自然災害発生時に遭遇した際、状況をどのように判断し、どのような行動をとるべきか等の理解と認識を身につけ、日ごろの行動に反映させられるようになる。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP 2、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
自然災害の恐ろしさの理解と防災・治水に関する基礎的な知識を身につけ、万が一の自然災害発生時に自己判断で的確な行動がとれることを目指す。							
授業全体の内容と概要							
前半は講義と自然災害を想定したシミュレーションゲームを中心に進める。後半はFW（フィールドワーク）を中心に進める。FWは指定地点から指定避難所までの避難経路の踏破から、経路上の危険要因等の抽出等の記録をおこない、そのデータをもとに防災マップを作成する。 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
前半は教室にてPPやシミュレーション用の教材を使用しての授業をおこない、後半は実際に指定した北広島市内を踏破（FW）し、観察調査をおこない、そこから得られた情報を防災マップとして作成、そして学習成果をプレゼンテーションする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業開始時に着席表を配布し氏名の記入をおこなう。したがって、着席表回収後の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の受講態度もチェックするので留意すること。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
講義、実技、FWなど多様な授業形態をとるので、原則毎回出席すること。ただし正当な理由がある場合に限り出席回数12回を認める。授業はもとより実技、FWには積極的に取り組む姿勢を求める。防災マップの評価と制作の態度等（課題作品）、FWの参加（その他）、FW等のレポート（レポート）で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然災害という事象について客観的に理解することができる。	多様な自然災害の事象と発生する被害を客観的に理解できた。	多様な自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の概要を理解できた。	自然災害を理解できなかった。
自然災害が発生した状況を想定でき、その際にどのような行動が求められるかを判断できる。	多様な自然災害に対し、状況により求められる行動の多様性を判断できた。	多様な自然災害に対し、行動の多様性を理解できた。	自然災害の状況に対し求められる行動が理解できた。	自然災害の状況を理解できた。	求められる行動が判断できなかった。
FWから避難経路の問題点を明らかにし、研究成果として防災マップにまとめることができる。	避難経路に隠された問題点や避難に有効な要素を見つけ出し、防災マップにまとめることができた。	避難経路に隠された問題点を見つけ出し、防災マップにまとめることができた。	避難経路上の問題を防災マップにまとめることができた。	防災マップにまとめることができた。	成果をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラ	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	防災・治水プログラム (科目ナンバリング：NDD092058)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、授業計画、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、防災の基礎知識について	シラバスの確認（45分）	授業計画の振り返り（45分）
2	北広島市の地域防災	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
3	DIG (Disaster Imagination Game) の取り組み	配布資料の確認（45分）	DIGの取り組みのレポート作成（45分）
4	北広島市庁舎の見学	配布資料の確認（45分）	見学レポート作成（45分）
5	DO HUG (Hinanjyo Unei Game 北海道版) の体験1	配布資料の確認（45分）	DO HUGの振り返り（45分）
6	DO HUG (Hinanjyo Unei Game 北海道版) の体験2	配布資料の確認（45分）	DO HUGのレポート作成（45分）
7	避難経路の検証 (FW) の解説	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
8	避難経路の検証1（積雪なし）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
9	北広島市指定避難所の見学	配布資料の確認（45分）	避難所見学のレポート作成（45分）
10	避難経路の検証1（積雪なし）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
11	避難経路の検証2（積雪あり）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
12	避難経路の検証2（積雪あり）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
13	火災と救急救命について	配布資料の確認（45分）	講義のレポート作成（45分）
14	防災マップ制作1（積雪なし）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
15	防災マップ制作2（積雪あり）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
16	防災マップ提出、発表、講評会、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	提出課題の確認（45分）	発表の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅰ (科目ナンバリング: SWS121017)				
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学部・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

1. 教科書は必ず参照する。
2. 必要な資料等は適宜配布する。
3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。
4. その他については、出席状況30％の評価である。
5. 成績評価の方法と目標については「S」は履修者の10％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40％以内とする。

但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉の歴史について	社会変化と福祉制度変遷の背景を知識として身に付け、今後の福祉制度の在り方を自己の考えとして表現できた。	社会変化と福祉制度変遷の背景を基礎知識として（質問への回答、試験の論述、など）に使用することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関連付けて説明することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができなかった。
社会福祉の理論（哲学、思想を含む）について	社会福祉において公平性と効率性のバランスが重要であることを理解できた。	社会福祉の論点が何かを把握することができた。	理論の基盤となる用語の意味を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できなかった。
ソーシャル・ポリシー（福祉政策）について	幅広い概念のソーシャル・ポリシーを用いる理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの目的と公平な社会の実現の関連を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーにおいて公平性が重要な理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの概要を理解できた。	ソーシャルポリシーの概要を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅰ (科目ナンバリング：SWS121017)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学部・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果についての説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
2	社会福祉の歴史について (社会変化と福祉制度変遷の関係性)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
3	社会福祉の歴史について (欧米の社会福祉の歴史的展開)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
4	社会福祉の歴史について (日本の社会福祉の歴史的展開)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
5	社会福祉の思想・哲学について (人間の尊厳、社会正義などを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
6	社会福祉の理論について (基本的な考え方について)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
7	社会福祉の論点について(1) (効率と公平、リベリアン・パターナリズムなどを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
8	社会福祉の論点について(2) (効率と公平、リベリアン・パターナリズムなどを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
9	社会福祉の対象とニーズについて (demandsとneedsの違いと変遷を含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
10	現代社会の課題について (人口減少、少子高齢化などを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
11	現代社会の課題背景について (社会構造・情勢の変化を含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
12	福祉政策の基本的視点について (福祉レジームを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
13	ソーシャル・ポリシーと福祉政策 (1) 一社会政策のなかの福祉政策	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
14	ソーシャル・ポリシーと福祉政策 (2) 一福祉政策の体系 まどめとして、現代社会の課題と福祉政策の変遷に	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅰ (科目ナンバリング: EDP122066)				
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての相談活動や乳幼児の 発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に時間を調整し研究室にて対応。				

概要

履修目標						
１．保育実践にかかわる、人の発達理論等の心理学的知識を理解する。 ２．生涯発達の観点から、人の発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、 保育における人との相互的関わりや環境の重要性について理解する。 ３．人の発達に関わる心理学の基礎知識を学び、養育および教育の一環性や 発達に即した援助の基本となる人への理解を深める。						
授業の位置づけ						
社会福祉学部の特選Ⅲ，Ⅳ，Ⅴに対応する。						
到達目標						
人の発達過程における基礎知識を習得することができる。 習得した知識を子どもを理解する上で用いることができる。						
授業全体の内容と概要						
「発達」を人の誕生（受胎）から死に至るまでの心身の変化ととらえ、各発達段階ごとに生物学的・社会的・心理学的側面から包括的な理解を深める。 特に誕生から児童期までを中心にその特徴を学ぶ。						
「SDG.質の高い教育をみんなに」に関連科目。						
授業の方法						
授業では、テキスト、パワーポイント、資料等を適宜活用した講義形式で行う。また、PC及びスマートフォンを使用する。 学習内容定着、学生の理解度を確認するため毎時間の授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をMicrosoft Teams/Forms等を活用して提出する。 それに対して、次の授業の中で、もしくは個別にコメント機能を活用して、授業者より質問等への回答をする。 資料配布も同様の機能を活用して行う。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
自分で振り返ることができるようなノートやテキスト、資料とまとめることを心がける。 授業の進行を妨げるような行為、他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を慎むこと。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。 必ずテキストを購入すること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。
小テスト（3回予定）、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）、授業態度を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	70%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について、資料等の中から探ることができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	発達心理学の基礎知識を利用して、こどもの状況理解ができ、資料等を見ずに説明することができた。	発達心理学の基礎知識を利用して、こどもの状況理解ができ、資料等を見ながら説明することができた。	こどもの状況を発達心理学の基礎知識の中から探ることができた。	こどもの状況を言葉で表すことができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	発達心理学Ⅰ (科目ナンバリング：EDP122066)					
授業担当者 (所属・職名)	蛭名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：蛭名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての相談活動や乳幼児の 発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に時間を調整し研究室にて対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『完全カラー図解よくわかる 発達心理学』	渡辺 弥生	ナツメ社	2 0 2 1	978-4-8163-7057-1	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）；授業改善アンケート結果反映の説明	発達心理学で学ぶことについて調べる（90分）	発達心理学で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	発達理論、発達研究等について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	胎児期・乳幼児期の発達① お腹の中にいる時の赤ちゃんは何をしているのだろう	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	胎児期・乳幼児期の発達②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	胎児期・乳幼児期の発達③ 愛着形成について、コミュニケーションの発達について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	胎児期・乳幼児期の発達④ 小テスト①④45分テスト、30分の解説	前回までの学修内容を復習すること（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	幼児期の発達① 言葉の発達、絵の発達、遊びの発達	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	幼児期の発達② 感情の発達	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	幼児期の発達③ 社会性の発達	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	幼児期の発達④まとめ 小テスト②④45分のテスト、30分の解説	前回までの学修内容を復習すること（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	児童期の発達①	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	児童期の発達②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	児童期の発達③ 友達づきあい	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	児童期の発達③ 道徳性	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	児童期の発達④ いじめ、不登校、発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	小テスト③④45分のテスト、30分の解説。 講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前回までの学修内容を復習すること（90分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『発達心理学15講』	高橋一公・中川佳子	北大路出版	2 0 1 4	978-4-7628-3057-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 由水 伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	◇ DX - デジタル技術を通したビジネスと生活の変革 背景：DXにいたる道のり 情報通信技術の発展と	DXに関する知識の再確認 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	◇ DXを支える技術 ICT、クラウド、AI、IoT、ビッグデータ、RPA、3Dプリント、XR	ICTに関する知識の再確認 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	◇ DXとクラウドコンピューティング 事例研究	クラウドコンピューティングに関する知識の再確認 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	◇ DXとAI 機械学習とディープラーニング 業務の自動化、意思決定	AI利用の現状 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	◇ DXとビッグデータ データの収集・分析・活用 顧客の行動分析・市場調査・リスク管理と課題解決	ビッグデータとは (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	◇ DXとIoT モノのインターネット、センサーと通信機能 事例研究	IoTに関する知識の再確認 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	◇ DXとRPA ロボティック・プロセス・オートメーション 事例研究	産業用ロボット (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	◇ DXと3Dプリンティング デジタルデータを基に立体物を作製 研究・開発の加速化、少量生産の低コスト化 事例	金型について (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	◇ DXとクロスリアリティ XRまたはXR VB、AR、MRの総称 現実世界と仮想世界を融合し体験を創造する技術	仮想現実技術の利用状況 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	◇ DXとセキュリティ サイバー攻撃、情報漏洩 ケース別対応例、事例研究	直近の情報漏洩事件 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	◇ ビジネスとDX 生産・流通・販売・事務管理 事例研究	DXの各種事例調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	◇ 創作活動とDX 芸術・エンターテインメントでのDX 事例研究	AIの創作物の著作権 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	◇ 日常生活とDX 家庭や地域社会のDX 事例研究	日常生活のDX化の事例調査 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	◇ 各事例研究のまとめと発表 テーマ選択 プレゼンテーション資料の作成	取り組むテーマをいくつか選定 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	◇ まとめ (発表) グループで作成した資料を発表 (プレゼンテーション)	プレゼンテーション資料の完成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。「SDG4、質の高い教育をみんなへ」の関連科目							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力を行っていた。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実能力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらに研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がっている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺えた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりするとはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	経営学科各教員			研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業③	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業④	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業⑭ 授業に係る講評・脱説によるフィードバック	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

専門演習Ⅰを通じて身につけた経済学的思考・研究方法や学問姿勢をもとにして、学生が主体的に課題を設定し、それを学問的に考察・解決する能力を身につける。
また、その考察の結果をレポート等の形でまとめる能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
課題解決にむけて他者と経済学的討議ができる。
課題解決のための考察の結果をレポート等の文書としてまとめる演習に取りくめる。

授業全体の内容と概要

日常生活の不思議・疑問から導かれる問題・課題の解決に経済学の視点・概念を活用して取り組む。その上で、その成果をレポート・論文としてまとめる過程について学び、実際にレポート・論文を作成する演習をおこなう。

授業の方法

専門演習Ⅰでの演習をもとに、身近な生活のなかから不思議・疑問を自ら探索し、そこから経済学的な問題・課題を教員と対話しながら抽出する。また、そのテーマについて、経済学の視点・概念の活用や他者とのディスカッションを通じて考察する。その上で、その考察成果をレポート・論文としてまとめる過程を演習する。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済学的考察による課題解決への取組み	課題の解決案に経済学の考え方を具体的に活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方を活用できた。	課題の解決案に経済学の考え方をある程度活用できた。	課題解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめた。	課題解決にむけて経済学の考え方を活用できなかった。
考察での他者の意見の活用	課題に関する積極的な討議や詳細の資料解釈を行い、考察に活用できた。	課題に関する討議や資料の解釈を行い、自分なりに考察できた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料の解釈をある程度行い、ある程度考察の参考にできた。	課題に関する討議や資料を考察の参考にできなかった。
考察結果のまとめと報告	考察の結果を論理的に展開して文書にまとめることができた。	考察の結果を整理して文書として自分なりにまとめることができた。	考察の結果を整理して文書としてある程度自分なりにまとめることができた。	考察の結果をある程度文書としてまとめることができた。	考察結果を文書にまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読む (45分)	シラバス等の確認とまとめ (45分)
2	課題 (テーマ) の探索 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
3	課題 (テーマ) の探索 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
4	課題 (テーマ) の探索 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
5	問題と仮説をたてる 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
6	問題と仮説をたてる 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
7	問題と仮説をたてる 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
8	資料の収集と分析 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
9	資料の収集と分析 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
10	資料の収集と分析 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
11	考察と仮説の見直し 1	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
12	考察と仮説の見直し 2	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
13	考察と仮説の見直し 3	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
15	後期学生生活・修学の振り返り	半期の学生生活について振り返る (45分)	演習内容をノートにまとめる (45分)
16	提出課題へのコメント (フィードバック) 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認 (45分)	演習ノートの整理 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 岡島 徳昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	授業⑨ SPI性格検査実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	授業⑮およびまとめと評価について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。 「SDG8.働きがいも経済成長も」の関連科目。 「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。							
授業の方法							
専門演習を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。 専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。 ※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・演習科目なので、積極的な出席が必要 ・私語などの迷惑行為は厳禁 ・講義中スマホの操作は厳禁 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらに研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不の明点を質問したりする姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることではなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 青山 浩之)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	株式会社の経営体制－骨格と役割 (1) コンプライ アンス 事例研究 ハラスメント 卒業論文要領確認 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制－骨格と役割 (2) コンプライ アンス 事例研究 企業犯罪 卒業論文要領確認 (2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制－骨格と役割 (3) コンプライ アンス 事例研究 企業犯罪 卒業論文作成 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制－骨格と役割 (4) コンプライ アンス 事例研究 情報流出 卒業論文作成 (2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株株式会社の経営体制－骨格と役割 (5) コンプラ イアンス 事例研究 情報流出 卒業論文作成 (3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制－責任 (1) コンプライアンス 事例研究 企業犯罪 卒業論文中間発表会 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制－責任 (2) コンプライアンス 事例研究 企業犯罪 卒業論文中間発表会 (2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制－責任 (3) コンプライアンス 事例研究 情報流出 卒業論文中間発表会	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制－責任 (4) コンプライアンス 事例研究 情報流出 卒業論文作成 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制－責任 (5) コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成 (2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制－責任 (6) コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成 (3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制－責任 (7) コンプライアンス 事例研究 卒業論文作成 (4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制－責任 (8) コンプライアンス 事例研究 卒業論文発表会 (1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	個別面談・履修登録チェック 株式会社の経営体制－責任 (9) コンプライアンス 事例研究	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：石山 玄幸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標							
当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。科目を修了して、社会人基礎力を身に付けることを期待する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP全てに対応する。							
到達目標							
当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。							
授業全体の内容と概要							
専門演習Ⅱbは、専門演習Ⅱaと同じ手法で進めるが、専門演習Ⅱaでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。							
授業の方法							
当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で応用し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらに研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も非常に多くあり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、積極的にフィールドワーク で地域の小規模事業者等を訪問する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 ①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	研究テーマの決定	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	担当教員による講評とフィードバックを行う。科目を修了して「身に付く力」の検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や競技スポーツ現場における指導者経験、スポーツ医学研究所等での実務経験を有する教員がその経験を活かして、スポーツ科学の実践・指導・研究を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業①	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業②	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業③	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業④	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業⑤	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業⑥	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業⑦	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業⑧	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業⑨	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業⑩	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業⑪	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業⑫	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業⑬	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業⑭	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について。 授業改善アンケートの実施。 授業最終回において議評をし、フィードバックする	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング: SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。 ・新たな指導法を確立する。 陸上競技の知識と技能を身につけ指導力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
トレーニング内容を分析してワード・エクセル等で処理する。 トレーニング内容を検証してデータ処理を身につける。							
授業全体の内容と概要							
主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 ・トレーニング ・トレーニング内容の検証 ・レース内容の分析 ・簡単な動作分析 など 陸上競技の知識と技能と指導力する力を身につける							
授業の方法							
自分が行いたいテーマを決め、トレーニングを組み実践する。 各自のトレーニング経過をゼミで発表し、意見交換を行い今後のレースに向けて検証していく。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各自の状態によってトレーニング内容を変更して、日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニング・レースなどから評価する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、13回以上。 陸上競技の知識と技能を身につけたか大会等の結果で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	おおむねに陸上競技の知識と技能を身につけて理解した	陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない力所がある	全くに陸上競技の知識と技能を身につけて理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング: SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 及び授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス (45分)	学習内容の説明 (45分)
2	各テーマの論文検索①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	各テーマの論文検索②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	各テーマの論文検索③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	各テーマの論文検索④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	論文発表①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	論文発表②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	論文発表③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	論文発表④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	トレーニング①	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	トレーニング②	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	トレーニング③	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	トレーニング④	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	トレーニング⑤	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
15	トレーニング⑥	論文読解 (45分)	学習内容の復習 (45分)
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施 身に付ける事ができたかどうかフィードバックして	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証し身に付けることを目的とする。 ・新たな指導法を確立し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。							
授業全体の内容と概要							
主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。 ・トレーニング ・各部活における新たな指導法 ・ゲーム分析 ・簡単な動作分析 など							
授業の方法							
・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。 ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。 ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
6	論文発表①	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
7	論文発表②	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
8	論文発表③	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
9	論文発表④	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
10	ブレ測定①	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
11	ブレ測定②	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
12	ブレ測定③	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
13	ブレ測定④	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
14	ブレ測定⑤	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
15	ブレ測定⑥	論文読解（90分）	学習内容の復習（90分）
16	まとめ・発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	パワーポイントでの作成（90分）	学習内容の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：小林 大州介）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身に付け、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業①	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
3	担当教員による授業②	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
4	担当教員による授業③	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
5	担当教員による授業④	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（45分）	授業の復習（45分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（45分）	授業の復習（45分）
16	後期授業の総括・講評を行う 授業に係る解説によるフィードバック 科目を終了して「身に付く力」の検証	後期授業の復習（45分）	全体の復習（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング: SEM134148, SEM434089,)				
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館 2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習ⅡA・ⅡBの授業の目的は『卒業論文の執筆・完成させる』ことである。

引き続き、ペースの遅い学生には、卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要であることから、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象に絞っていき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習ⅡA・専門演習ⅡBは、その過程を生み出す学習を継続し、早期に専門演習ⅡA・ⅡBの『卒業論文の執筆・完成させる』ことに引き上げることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である。

授業全体の内容と概要

1. 順調な学生への対応

(1) 卒業論文の執筆の指導

(2) 卒業論文の完成までに指導

(3) 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目

2. ペースが遅い学生への指導

(1) 卒業論文のテーマを見つける。

(2) 卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。

(3) 卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。

(4) 卒業論文のテーマを確定させる。

(5) 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

1. 授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ外向き活動を行う。

2. 適宜、質疑応答を交える。

3. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

4. 地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。

5. 大学のペーパー化に伴い、教科書を提示した場合は必須ですので絶対に購入してください。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

2. 必要な資料等は適宜配布する。

3. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。

4. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件 10 回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成しできた。	卒業論文執筆の具体的な計画を立てそれに沿って執筆が進んでいた。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画どおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表でき、且つ、他者の発表に対して、的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できると同時に、他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表でき、且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング: SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業および地域活動1 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業および地域活動2 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業および地域活動3 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業および地域活動4 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業および地域活動5 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業および地域活動6 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業および地域活動7 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業および地域活動8 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業および地域活動9 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業および地域活動10 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業および地域活動11 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業および地域活動12 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業および地域活動13 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業および地域活動14 論文作成と調査	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒業論文発表会 授業全体の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	卒業論文全体の振り返り 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、セミナーごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・セミナー・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件11回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育 や今日的な教育課題について指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）、科目を修了して「身に付く力」の説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業2 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業3 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業4 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業5 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業6 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業7 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業8 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業9 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業10 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業11 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業12 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業13 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業14 専門ゼミ発表① 講評・フィードバック	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括 専門ゼミ発表② 演習の講評・フィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
こども・高齢・障害分野に興味関心を持ち、文献を調べ、卒業論文執筆に専念する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7、DP9に対応する。							
到達目標							
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。							
授業全体の内容と概要							
「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・（専門演習ⅡAから継続）。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 ・ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを踏襲した地域活動への参加を求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上とするが全回出席が望ましい。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） ゼミ内容のガイダンスと今後実現したい内容の意見	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション（「身に付く力」の検証）	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。 ②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。 ③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。 ④コミュニケーション能力などの向上を図る。							
授業全体の内容と概要							
①自身の研究テーマに沿い、卒業論文作成を目指す。 ②就職活動に向けての取組みを目指す。 ③資格取得に向けた知識を習得する。 ④卒業までに必要な準備を計画立てて行う。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 10 回以上。					
</					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	就職活動・研究テーマ深化『身に付く力』についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	就職活動・研究テーマ深化	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	就職活動・研究テーマ深化科目を修了して『身に付く力』についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを獲得していく。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探求するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を学ぶ。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立てそれに沿って執筆が進んだ。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画とおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表でき、且つ、他者の発表に対して、的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できると同時に、他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表でき、尚且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	卒業論文発表会 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（45分）	卒業論文全体の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科・教授			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者： 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						研究主題にもとづく 学術文献、先行研究
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	アカデミック・ライティング1（シラバスの説明、 演習ガイダンス、本科目を修了して「身に付く力」 を説明）	シラバス、科目Teamsの確認（45分）	スケジュールと準備学習の整理（45分）
2	アカデミック・ライティング2（学術文献の選定）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
3	アカデミック・ライティング3（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
4	アカデミック・ライティング4（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
5	アカデミック・ライティング5（学術文献の読解）	テキスト資料の読解（45分）	テキスト資料の整理（45分）
6	アカデミック・ライティング6（先行研究の整理）	文献資料の読解（45分）	文献資料の整理（45分）
7	アカデミック・ライティング7（先行研究の整理）	文献資料の読解（45分）	文献資料の整理（45分）
8	アカデミック・ライティング8（研究主題の確定）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
9	アカデミック・ライティング9（研究主題の確定）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
10	アカデミック・ライティング10（執筆原稿の添削、 相談）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
11	アカデミック・ライティング11（執筆原稿の添削、 相談）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
12	アカデミック・ライティング12執筆原稿の添削、 相談）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
13	アカデミック・ライティング13（執筆原稿の添削、 相談）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
14	アカデミック・ライティング14執筆原稿の添削、 相談）	原稿の加筆（45分）	原稿の修整（45分）
15	アカデミック・ライティング15（執筆原稿の添削、 相談）	最終原稿の加筆（45分）	最終原稿の校了（45分）
16	まとめ（ゼミメンバー卒業論文の概括とフィードバ ック、「身に着く力」について検証説明、授業改善 アンケートを実施）	ゼミ全体報告の準備（45分）	ゼミ活動の整理（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	鹿応義塾大学出版 会	2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7、DP9に対応する。

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日の課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習ⅠB」に所属した教員が「専門演習ⅡA」を担当する。
「専門演習ⅡA」に所属した教員が後期の「専門演習ⅡB」を担当する。
教員になることを目指し、特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日の課題について、各自が関心をもっている者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	50%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	Web、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自づ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築と追究に関する指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（活動の目的、方法、活動計画等） 前期の取組の振り返りと後期の活動計画の確認、科目を修了して「身に付く力」の検証	シラバスを読む (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	前期の取組の振り返りと後期の活動計画の確認 各自の追究する研究内容、活動計画等の確認1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
3	各自の追究する研究内容、活動計画等の確認2 文献研究等による情報収集、内容整理	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
4	文献研究等による情報収集、内容整理と発表1	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
5	文献研究等による情報収集、内容整理と発表2	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
6	文献研究等による情報収集、内容整理と発表3	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
7	文献研究等による情報収集、内容整理と発表4	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
8	前半の活動の振り返り、文献研究、収集情報の整理 方法の再確認	前期の振り返り (45分)	前期の振り返りの確認 (45分)
9	文献研究等による情報収集、内容整理と発表5	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
10	文献研究等による情報収集、内容整理と発表6	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
11	文献研究等による情報収集、内容整理と発表7	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
12	文献研究等による情報収集、内容整理と発表8	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
13	全体発表会のプレゼン資料の作成	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
14	全体発表会のプレゼン資料の作成	予習課題 (45分)	配布資料の確認 (45分)
15	全体発表会での各自の研究内容の発表（プレゼン資料による発表）意見交流 科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り (45分)	全体の振り返りと次年度方針の確認 (45分)
16	全体発表会での各自の研究内容の発表（プレゼン資料による発表）意見交流 科目を修了して「身に付く力」の検証	全体の振り返り (45分)	全体の振り返りと次年度方針の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に蓄けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「専門演習ⅡB」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	1 0 0 %

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む 科目を修了して「身に付ける力」の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０ 各自テーマに基づく文献・調査研究等	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３ 専門ゼミ発表準備・ディスカッション	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４ 専門ゼミ発表①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門ゼミ発表② 科目を修了して「身に付ける力」の検証	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験をもとに課題発見 や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。					

概要

履修目標							
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル (問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1，DP 2，DP 3，DP 4，DP 5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上,論文作成など、一連の方法を身に着けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できる。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。 質問は各教員が随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他 (授業の方法参照)
履修上の注意事項							
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件11回以上をクリアすること。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成してきた。	卒業論文執筆の具体的計画を立てそれに沿って執筆が進んでいた。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画とおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表でき、且つ、他者の発表に対して、的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できると同時に、他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表でき、尚且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験をもとに課題発見 や研究テーマ構築の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	卒論の進捗状況について、経過を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	卒論の進捗状況について、経過を発表する。講義についてのフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	予習課題（４５分）	卒業論文全体の振り返り（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉澤 英里)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標																								
社会福祉分野の心理学に興味関心を持ち、卒業論文執筆に専念する。 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学部のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する科目																								
到達目標																								
・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。 ・個々の学生がそれぞれの「研究テーマ」の糸口をつかんでいる。 ・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。																								
授業全体の内容と概要																								
「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業の方法																								
講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>☐</td><td>プレゼンテーション</td><td>☐</td><td>グループワーク</td><td>☐</td><td>フィールドワーク</td><td>☐</td><td>P B L</td></tr><tr><td>☐</td><td>模擬授業</td><td>☐</td><td>ロールプレイ</td><td>☐</td><td>調査学習</td><td>☐</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>☐</td><td>ディスカッション</td><td>☐</td><td>実験・実習・実技</td><td>☐</td><td>双方向授業</td><td>☐</td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L	☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業	☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L																	
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業																	
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・原則として、専門演習ⅡAから担当教員は継続する。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、自分、他者の意見と研究を尊重しながら、双方の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	専門演習ⅡB (科目ナンバリング：SEM134148, SEM434089,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、科目を修了して「身に付く力」についての説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実現したい内容の意見	所属研究室選択資料の確認（45分）	配布資料の確認（45分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（45分）	配布資料の確認（45分）
16	総括としての評価・ディスカッション 科目を修了して「身に付く力」についての検証	予習課題（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅱ (科目ナンバリング: AEA211013)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

立体の作品制作を通じて、基本的な構成原理を理解し、様々な美術表現に必要な基礎的な造形力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作では、作品プレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。

必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。
「立体構成Ⅰ」の展開講座のため、原則立体構成Ⅰを履修済みの者が対象。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点（40%）、ポートフォリオ点（30%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（30%）の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻3回で欠席1回と見做す。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解 (知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形であった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、構成原理を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また構成原理を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、立体として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	立体構成Ⅱ (科目ナンバリング：AEA211013)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、ポートフォリオ作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと (45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事 (45分)
2	素材について	身近な素材について、考察してくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
3	素材研究 1 線材 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
4	素材研究 1 線材 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
5	素材研究 2 線材 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
6	素材研究 2 線材 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
7	素材研究 3 線材 3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
8	素材研究 3 線材 3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
9	素材研究 4 面 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
10	素材研究 4 面 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
11	素材研究 5 塊 1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
12	素材研究 5 塊 1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
13	素材研究 6 塊 2 塑像 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
14	素材研究 6 塊 2 塑像 1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
15	素材研究 7 塊 3 塑像 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
16	素材研究 7 塊 3 塑像 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「美の構成学 ―バウハウスからフラクタルまで―』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	構成の応用 1 (課題説明)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
18	構成の応用 1 (アイデア出し)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
19	構成の応用 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
20	構成の応用 2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
21	構成の応用 3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
22	構成の応用 3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
23	構成の応用 4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
24	構成の応用 4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
25	構成の応用 5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
26	構成の応用 5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事 (45分)	プレゼンテーション準備 (45分)
27	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
28	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
29	ポートフォリオ作成 (チュートリアル)	ポートフォリオ作成 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
30	ポートフォリオ作成 (チュートリアル)	ポートフォリオ作成 (45分)	ポートフォリオ作成 (45分)
31	講評 授業全体への講評と提出されたポートフォリオへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと (45分)	講評を再考し、理解を深めること (45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと (45分)	講評を再考し、理解を深めること (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅱ (科目ナンバリング：AEA221039)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

概要

履修目標							
前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
発想力，デザイン感性，積極的な探究心，研究心を養いクオリティの高い作品を制作できるようになる。							
授業全体の内容と概要							
各テーマを意識した制作意図，制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。							
授業の方法							
各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して，イラストレーションの多様性を実習制作することを通して学ぶ。各課題ごとプレゼン実施，作品提出。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
前期に開講する「イラストレーション基礎Ⅰ」の修得を前提とする。遅刻3回で欠席1回とみなす。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は，２０回以上。					

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーション基礎Ⅱ (科目ナンバリング：AEA221039)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映。科目を修了して「身に付く力」についての説明。イラストレーションタッチ、表現研究・1。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
4	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
5	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	イラストレーションタッチ、表現研究・1。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
8	イラストレーションタッチ、表現研究・1。コラージュ手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
9	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
10	イラストレーションタッチ、表現研究・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
11	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	イラストレーションタッチ、表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
18	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
19	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
20	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
22	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
24	イラストレーションタッチ、表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
25	オリジナルイラストレーション制作・1様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
26	オリジナルイラストレーション制作・1様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
27	オリジナルイラストレーション制作・2様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
28	オリジナルイラストレーション制作・2様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
29	オリジナルイラストレーション制作・3様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
30	オリジナルイラストレーション制作・3様々な画材を使って画材の併用、多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
31	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施)，作品講評，作品提出。授業アンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。	作品の完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施)，作品講評，作品提出。授業アンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。	作品の完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。 適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。 自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目																								
到達目標																								
卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。 自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。 卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。																								
授業全体の内容と概要																								
卒業制作に向けた準備として、完成度の高い作品を目指し、プロジェクトを統合的に進行する。 アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。 作品のテーマの意義や背景を深く理解し、効果的に伝えるためのプレゼンテーションスキルを向上させる。 完成作品の制作、作品の位置づけの明確化、プレゼンテーションの訓練。																								
授業の方法																								
授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。 アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。 個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。 学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
授業を有意義にするための自覚を求める。 自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。 責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は8割以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得解できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：		三上 いずみ)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 授業概要の説明 研究倫理とコンプライアンスの確認	シラバスを呼んでおくこと (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	卒業制作テーマとリサーチ計画の最終確認、詳細なスケジュールの策定	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
3	卒業制作テーマとリサーチ計画の最終確認、詳細なスケジュールの策定	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
4	卒業制作テーマとリサーチ計画の最終確認、詳細なスケジュールの策定	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
5	卒業制作の着手とプロジェクト全体の見直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
6	卒業制作の着手とプロジェクト全体の見直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
7	卒業制作の着手とプロジェクト全体の見直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
8	卒業制作の着手とプロジェクト全体の見直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
9	制作の進行と定期的なレビュー	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
10	制作の進行と定期的なレビュー	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
11	制作の進行と定期的なレビュー	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
12	制作の進行と定期的なレビュー	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
13	フィードバックに基づく改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
14	フィードバックに基づく改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
15	フィードバックに基づく改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
16	フィードバックに基づく改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	継続的な作品調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
18	継続的な作品調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
19	継続的な作品調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
20	継続的な作品調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
21	作品の最終仕上げとプレゼンテーション資料の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
22	作品の最終仕上げとプレゼンテーション資料の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
23	作品の最終仕上げとプレゼンテーション資料の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
24	作品の最終仕上げとプレゼンテーション資料の作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
25	卒業プレゼンテーションの準備とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
26	卒業プレゼンテーションの準備とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
27	卒業プレゼンテーションの準備とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
28	卒業プレゼンテーションの準備とリハーサル	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
29	最終発表の実施とプロジェクト全体の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
30	最終発表の実施とプロジェクト全体の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	完成後の考察 (45分)
31	最終発表の実施とプロジェクト全体の振り返り	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
32	講評・授業アンケート実施 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	全体を振り返り、まとめる (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	X		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムソン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の為の最低出席回数は22回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	雇修項目を超えたレベルを達成している	雇修項目をほぼ達成している	雇修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
市場及び気づきから問題点が見つけられる。	市場やオリジナルな気づきから貴重な問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義ができた。	市場や気づきから問題定義がほぼできた。	市場から問題定義が少しできた。	市場や気づきから問題定義が出来なかった
問題点の解決方法を考えられた。	問題点を完璧に解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、従来より価値を新たに与えられた。	問題点を解決し、価値を新たに与えられた。	問題点を解決した。	問題点を解決できなかった。
第三者に自分のデザインを正しく伝える事が出来る。	第三者に自分のデザインを効果的に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを十分に伝える事が出来、価値観を認識させた。	第三者に自分のデザインを伝える事が出来た。価値観を伝えた。	自分のデザインを伝える事が出来た。	自分のデザインを伝える事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	X		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 課題の発表、市場調査	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。 (45分)	市場調査を行う。(45分)
2	グループに分かれて、市場調査、まとめ	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
3	市場で何が起こっているか、流行や傾向はどうか調べてチャート表を作成する。	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
4	市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
5	仮説が正しいか、グループでまとめる	仮説をまとめる。(45分)	仮説をまとめる。(45分)
6	グループごとに発表。第三者から意見を頂く。	グループ意見まとめ。(45分)	第三者からの意見を考察する。(45分)
7	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	第三者からの意見を考察する。(45分)	アイデアを考察。(45分)
8	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
9	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
10	デザインスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
11	デザインを一旦まとめてみる。	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
12	デザインプレゼンテーション1	アイデアを考察。(45分)	第三者からの意見を取り入れる。(45分)
13	デザインスケッチ、写真等使用して効果的に構成する。	第三者からの意見を取り入れる。(45分)	アイデアを考察。(45分)
14	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
15	プレゼンテーションパネル作成 モックアップ作成	まとめ(45分)	まとめ(45分)
16	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評	まとめ(45分)	まとめと振り返り(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	最終作品デザインスタート	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
18	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
19	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
20	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
21	アイデアスケッチ中間審査	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
22	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
23	アイデアスケッチ	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
24	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
25	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
26	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
27	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
28	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
29	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
30	プレゼンパネル作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
31	プレゼンパネル作成	まとめ(45分)	まとめ(45分)
32	プレゼンテーション 総評 業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を	まとめ(45分)	まとめ(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 上坂 恒章)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心としたデジタル分野を経験してきた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各学生がこれまで深めた専門領域における作品制作、研究を確かなものにする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学生が専門研究1A、1B,2Aで深めてきた知見を作品として完成させる。							
授業全体の内容と概要							
デジタルデザイン全般の中から、各学生が取り組むテーマに従って、作品を制作させる。							
授業の方法							
教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、作品制作、コンクール等への応募、見学、鑑賞等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
長期的に担当教員との連携を密にしながら、研鑽を重ねることが求められる。他の専門演習科目と同様、様々な点から非常に重要な科目なので欠席をせず、継続的に努力することが望まれる。「専門研究ⅡA」と同様に、授業だけではなく、空き時間などを利用し、継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めることが最も肝要である。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席22回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	7 0 %	0 %	3 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デジタルデザインにおける基本的知識をベースに応用力が身についているか。	自ら率先し知識を修得し、十分応用力が身についている。	基本的な知識を理解し、応用力が身についている。	基本的な知識を概ね理解し応用している。	基本的な知識を最低限理解している。	基本的な知識を理解していない。
デジタルデザインにおける基本的な技能、技術の修得とオリジナリティ。	自ら率先し、研究し、技能、技術を十分修得し、オリジナルテイ溢れる作品となっている。	基本的な技能、技術を修得し、オリジナルの作品となっている。	基本的な技能、技術を概ね修得している。	基本的な技能、技術を最低限修得している。	基本的な技能、技術を修得していない。
デジタルデザインにおける知識、技能を活かした作品の完成度。	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かし、完成度が非常に高い。	修得した知識、技能により作品制作・研究に取り組むことができおり、完成度がある。	修得した知識、技能により作品制作・研究に、概ね取り組むことができる。	作品制作・研究に最低限取り組むことができる。	作品制作・研究に取り組むことができていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 上坂 恒章)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心とした デジタル分野を経験してきた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	制作研究の計画①	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
3	制作研究の計画②	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
4	制作研究の計画③	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
5	制作研究の計画④	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
6	制作研究の計画⑤	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
7	制作研究の計画⑥	事前検討 (45分)	計画の振り返り (45分)
8	作品制作1_①	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
9	作品制作1_②	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
10	作品制作1_③	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
11	作品制作1_④	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
12	作品制作1_⑤	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
13	作品制作1_⑥	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
14	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認 (45分)	プレゼン後の振り返り (45分)
15	作品制作2_①	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
16	作品制作2_②	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	作品制作2_③	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
18	作品制作2_④	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
19	作品制作2_⑤	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
20	作品制作2_⑥	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
21	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認 (45分)	プレゼン後の振り返り (45分)
22	作品制作3_①	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
23	作品制作3_②	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
24	作品制作3_③	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
25	作品制作3_④	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
26	作品制作3_⑤	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
27	作品制作3_⑥	構想 (45分)	制作におけるの振り返り (45分)
28	プレゼンテーション	プレゼン前の再確認 (45分)	プレゼン後の振り返り (45分)
29	完成①	完成前最終 (45分)	完成後の考察 (45分)
30	完成②	完成前最終 (45分)	完成後の考察 (45分)
31	完成③	完成前最終 (45分)	完成後の考察 (45分)
32	講評、授業改善アンケート実施	最終検討 (45分)	最終振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを十分に作品に展開すること。また、将来を見据え美術文化の担い手として社会に貢献できる人材を育成すること。授業の展開の仕方は専門研究ⅡAと変わらないが、繰り返すことで習熟度を高めることを狙いとしている。専門研究ⅡBにおいて制作する作品は新たなものとする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
見る人に感動してもらえる表現力がより豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、十分な力量を備えた人となること。							
授業全体の内容と概要							
これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求すること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおしてできることについて考察し、表現力がより豊かな作品を創作できるようにすること。							
授業の方法							
各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドバイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。 http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html http://www5f.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を割り上げること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	30%	70%	0 %	0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不十分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分的に確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を十分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言えないものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言えないものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：安田 祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション-授業の進め方について、シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	予めシラバスに目をとず。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習し、新作についての構想を練る。(45分)
2	エッグテンペラを主とした混合技法について1	様々なテンペラメディウムの処方について予習しておく。(45分)	様々なテンペラメディウムの処方の仕方とそれぞれの特長とについて復習する。(45分)
3	エッグテンペラを主とした混合技法について2	様々なテンペラメディウムの処方の仕方とそれぞれの特長とについて復習する。(45分)	本時での、メディウム製作実習について復習する。(45分)
4	ミルクカゼインによる支持体製作について1-カゼイン糊の処方について	カゼイン糊の処方について予習する。(45分)	膠とカゼインとの特長的な差異について復習する。(45分)
5	ミルクカゼインによる支持体製作について2-木材の切断と組み立てについて1	木材の加工について、これまでの知識や経験について振り返る。(45分)	本時での製作を振り返って検討する。(45分)
6	ミルクカゼインによる支持体製作について3-木材の切断と組み立てについて2	より良い木材加工の仕方等について検討する。(45分)	蓄積した知識や経験を増幅させられたかについて検討する。(45分)
7	ミルクカゼインによる支持体製作について4-木材による基底材への布貼りについて1	様々な布の特長について予習する。(45分)	布の伸縮の度合いやカゼイン糊の固着力の差異等について復習する。(45分)
8	ミルクカゼインによる支持体製作について5-木材による基底材への布貼りについて2	布貼りに必要な用材について予習する。(45分)	確かな布貼りの仕方について復習する。(45分)
9	ミルクカゼインによる支持体製作について6-地塗りについて1	ミルクカゼインによる地塗り材の処方について予習する。(45分)	ミルクカゼインによる地塗り材の処方について復習する。(45分)
10	ミルクカゼインによる支持体製作について7-地塗りについて2	地塗りの仕方について予習する。(45分)	地塗りの仕方について復習する。(45分)
11	ミルクカゼインによる支持体製作について8-地塗りについて3	地塗り面の研磨の仕方について予習する。(45分)	地塗り面の研磨の仕方について復習する。(45分)
12	新作の構想の取りまとめと下絵の制作について1	構想を取りまとめるための準備を行う。(45分)	他者の作例等を参照しより的確に構想を取りまとめる。(45分)
13	新作の構想の取りまとめと下絵の制作について2	下絵作成のために画像処理ソフト等も積極的に活用する。(45分)	改善すべき点の有無について検討する。(45分)
14	下絵の支持体パネルへの転写について	自らの表現にふさわしい転写の仕方を検討する。(45分)	エッグテンペラを主とした制作についての段取りを検討する。(45分)
15	エッグテンペラによる下描きについて1	自らが選択したテンペラメディウムの処方について予習する。(45分)	完成した段に効果を発揮させる下描きの仕方について検討する。(45分)
16	エッグテンペラによる下描きについて2	立体感や質感等を念頭に置いた下描きの仕方について検討する。(45分)	立体感や質感等を念頭に置いた下描きを行えたかについて検討する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	エッグテンペラによる本描きについて1	エッグテンペラ用顔料の透明性と被覆力について予習する。(45分)	エッグテンペラ用顔料の透明性と被覆力を活かした制作についての段取りを検討する。(45分)
18	エッグテンペラによる本描きについて2	エッグテンペラ絵具の乾燥速度に対応した描写の仕方について予習する。(45分)	エッグテンペラ絵具の乾燥速度に対応した描写の仕方について復習し、実際に練習を行う。(45分)
19	エッグテンペラによる本描きについて3	より良いハッチングを行うために必要な事柄について、他者の見識等を収集する。(45分)	より良いハッチングを行うために、実際に繰り返し練習を行う。(45分)
20	エッグテンペラによる本描きについて4	ハッチング以外に、スパッタリング等、様々な技法について予習する。(45分)	ハッチング以外の、スパッタリング等、様々な技法について、繰り返し練習を行う。(45分)
21	中間発表会	これまでの制作を総合的に振り返り、課題となる点を探る。(45分)	本時の中間発表会で得た助言を適切に取捨選択し、これからの制作に活かす。(45分)
22	エッグテンペラによる本描きについて5	かたちや色彩等について、前時の発表会での指摘も勘案し検討する。(45分)	仕上げに向けて、改善すべき点等について検討する。(45分)
23	エッグテンペラによる本描きについて6	絵具の乾きを確認し、ニス引きを行い色面を安定化させる仕方について予習する。(45分)	ニスの種類や特性について復習する。(45分)
24	エッグテンペラによる本描きについて7	仕上げに向けて、自作について改善すべき点について明らかにする。(45分)	少しでも進捗が見られたか、そして残された課題は何かについて明らかにする。(45分)
25	エッグテンペラによる本描きについて8	仕上げに向けて、自作について改善すべき点について明らかにする。(45分)	少しでも進捗が見られたか、そして残された課題は何かについて明らかにする。(45分)
26	エッグテンペラによる本描きについて9	教師や他の学生の助言を要するために、予め選んでいる点や困難に感じている点について検討する。(45分)	他者の助言も十分に勘案し、仕上げに向けての制作の段取りを検討する。(45分)
27	油彩による上描きについて1	油彩絵具の透明性と被覆力とについて復習する。(45分)	油彩絵具の透明性と被覆力とを勘案し、仕上げに向けての制作の段取りを検討する。(45分)
28	油彩による上描きについて2	油彩絵具の色合いや明度や彩度を勘案し、かたちや色彩を確かなものにするために、制作の段取りを検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて検討する。(45分)
29	油彩による上描きについて3	足りない点や欠けている点について検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて、さらに検討する。(45分)
30	油彩による上描きについて4	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて、細部にわたり検討する。(45分)	テンペラでの描写を活かしながら、かたちや色彩を充実させられているかについて総合的に検討する。(45分)
31	仕上げ	自らの構想を実現できそうかについて検討する。(45分)	本制作を通して得られた点や獲得しきれなかった点について振り返る。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドバイスを受けたかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング: SEM234091)				
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階	
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は26回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	1 0 0 %	0 %	0 %	0 %

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行え、共感を得られるための工夫が成されており、それが成功している。	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行え、共感を得られるための工夫が成されている。	作品の設計内容が不特定多数への情報伝達が行える内容を持っている。	作品の設計内容からの情報伝達が不完全である。	作品の設計内容から情報伝達は不可能である。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	作品の設計内容が不特定多数の興味を引き、リアクションが求められるような演出や技術が用いられ、それが成功している。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引き、リアクションが求められるような演出や技術が用いられている。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引くよう、技術的な工夫がされている。	作品の設計内容が不特定多数の興味を引くほどの工夫がされていない。	作品の内容に不特定多数の興味を引く要素が無い。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	展示や発表、さらには実用に際して、ユーザーの特性を考えた制作がされており、成功している。	展示や発表、さらには実用に際して、ユーザーの特性を考えた制作がされている。	実用に際して、ユーザーの特性を考えた制作がされている。	実用に際して、ユーザーの特性に対する考えが不十分である。	実用に際して、ユーザーの特性が考えられていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認。(45分)	専門研究ⅡAの再確認。(45分)
2	情報の視覚化① 効果的なプレゼンテーション	専門研究ⅡAの再確認。(45分)	授業内容の継続。(45分)
3	情報の視覚化② 効果的なメディアの使い方	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
4	情報の視覚化③ プレゼンテーションツールの設計技術	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
5	情報の視覚化④ プレゼンテーションツールの視覚効果	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
6	情報の視覚化⑤ プレゼンテーションツールの演出法	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
7	情報の視覚化⑥ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
8	情報の視覚化⑦ 生成AIによるデザインの実装シミュレーション	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
9	情報の視覚化⑧ プレゼンテーションツールの設計	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
10	情報の視覚化⑨ プレゼンテーションツールの設計	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
11	情報の視覚化⑩ 設計内容の確認と調整	授業内容の継続。(45分)	制作環境の整備。(45分)
12	情報の視覚化⑪ プレゼンテーションツールの制作	制作環境の整備。(45分)	授業内容の継続。(45分)
13	情報の視覚化⑫ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
14	情報の視覚化⑬ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
15	情報の視覚化⑭ プレゼンテーションツールの制作	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
16	情報の視覚化⑮ プレゼンテーションツールの制作 (データ化)	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	情報の視覚化⑯ プレゼンテーションツールの制作 (データ化)	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
18	情報の視覚化⑰ プレゼンテーションツールの制作 (データ化)	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
19	情報の視覚化⑱ プレゼンテーションツールの制作 (データ化)	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
20	情報の視覚化⑲ プレゼンテーションの実際～質疑応答	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
21	情報の視覚化⑳ プレゼンテーションの実際～質疑応答	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
22	情報の視覚化㉑ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
23	情報の視覚化㉒ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
24	情報の視覚化㉓ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
25	情報の視覚化㉔ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
26	情報の視覚化㉕ プレゼンテーションツールの修正	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
27	情報の視覚化㉖ プレゼンテーションツールの完成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
28	情報の視覚化㉗ プレゼンテーションツールの発表	プレゼン環境の整備。(45分)	プレゼン内容の分析 (45分)
29	情報の視覚化㉘ プレゼンテーションツールの発表	プレゼン環境の整備。(45分)	プレゼン内容の分析 (45分)
30	メディアデザインの有用性と将来の展望 現状の把握	全授業内容の整理。(45分)	全授業内容の整理。(45分)
31	メディアデザインの有用性と将来の展望 5年後、10年後の未来をシミュレーションする	全授業内容の整理。(45分)	全授業内容の整理。(45分)
32	専門研究ⅡA・B全内容のまとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容の整理。(45分)	全授業内容の整理。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング: SEM234091)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標							
制作活動を通じて、問いを見つけ、探求していく力を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
自律した制作活動を通じて、研究テーマについて考察する事が出来る。							
授業全体の内容と概要							
彫刻及び現代美術の領域で、実践主導型の研究を行う。制作活動を通じ、問いを見つける力、探求する方法、表現技法、自律した制作活動の確立を目指す。専門研究２Ｂでも、進路も含め、生涯をかけて探求したい活動を見つめる事が目標である。							
授業の方法							
学生の主体的な制作活動を軸に、チュートリアルによるフィードバックを指導の基本とする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
材料は基本的に自分で用意する事。特殊な機械や設備等は危険が伴う場合があるので、必ず教員の指示に従う事。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 研究ノート提出する事。 作品を1点以上完成させる事。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を2つ、または1つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週2回（8時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週1回（4時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務、 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、 作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
2	活動計画	チュートリアル準備 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
3	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
4	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
5	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
6	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
7	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
8	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
9	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
10	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
11	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
12	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
13	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
14	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
15	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
16	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
18	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
19	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
20	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
21	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
22	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
23	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
24	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
25	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
26	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
27	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
28	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
29	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
30	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
31	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備 (45分)	プレゼンテーション準備 (45分)
32	プレゼンテーション 科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーション準備 (45分)	講評まとめ (45分)

基本情報

科目分類区分	専門研究	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が、自己表現のための知識と技術を幅広く習得し多様化する現代社会に於いて、作品制作を通して問題解決能力をより高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。自己の作品で表現できるための知識や技術を習得し、オリジナリティに溢れた作品を制作する。							
授業全体の内容と概要							
探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルを選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行い、それを反映させた作品を制作する。							
授業の方法							
授業では板書やパワーポイント、必要に応じてDVD、画集、文献など適宜使用する。一人一人が研究テーマを決め、年間計画をたて見直しを持ってから各々の研究を進める。適宜、研究発表の講評によりフィードバックを行う。ディスカッションによりお互いの研究について練り合う。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を履えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能 画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなし、オリジナリティあふれる作品を制作できたか。美術の基礎基本を強固にし作品の質の向上ができたか。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に十分応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品にやや応用出来た。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用があまり出来なかった。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究し作品に応用が出来なかった	
思考力・判断力・表現力 テーマを最大限に活かせる画材、ジャンル、構図、描画方法を選択できたか。それを活かして作品に適切に用いることが出来たか。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが十分出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが不完全だった	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体、ジャンル、構図、描画方法などを選択し、それを効果的に作品に用いることが出来なかった。	
主体性・多様性・協働性 研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができた。協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがやや出来た。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高め会えたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが出来なかった。協働する姿勢があまり見られなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門研究	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	専門研究ⅡB (科目ナンバリング：SEM234091)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師がその経験と実績を活かし実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目を修了して身につく力 準備学習・事後学習の説明	シラバスの確認（45分）	課題（45分）
2	専門研究ⅡAからの引継ぎ事項について	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
3	研究1 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
4	研究2 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
5	研究3 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
6	研究4 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
7	研究5 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
8	研究6 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
9	中間報告書作成	授業内容継続 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
10	中間報告会1 プレゼンテーション ディスカッション	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	プレゼンテーションの準備 課題（45分）
11	中間報告会2 修正を再発表	プレゼンテーションの準備 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
12	研究7 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
13	研究8 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
14	研究9 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
15	研究10 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
16	研究11 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究12 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
18	研究13 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
19	研究14 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
20	研究15 作品制作 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
21	研究16 作品提出 並行してデータ蓄積、文章化	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
22	展示準備 キャプション	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
23	研究報告書作成1	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
24	研究報告書作成2	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
25	研究報告書作成3	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
26	研究報告書作成4 読み合わせ ディスカッション	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
27	研究報告書作成5 意見をもとに修正	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
28	研究報告書作成6 推敲	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
29	研究報告書作成7 完成	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
30	研究報告書作成8 提出	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
31	講評会（フィードバック）プレゼンテーション	授業内容継続 課題（45分）	授業内容継続 課題（45分）
32	講評会（フィードバック）専門研究Ⅱまとめ 当該科目の第1回目に伝えた身につく力の検証	授業内容継続 課題（45分）	振り返りと今後の展開を考える（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。履修学生は、卒業研究に取り組むものとして研究方法を自ら選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築科学学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認、科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんのこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 善太郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をまとめることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：		佐々木 哲之	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認 科目を修了して「身につく力」の説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括として講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技		必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング:SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイダンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技		必修・選択	必修
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング: SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (' 建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス、シラバスの確認。 当該科目修了により「身に付く力」の説明。	所属研究室選択資料とシラバスの確認 （45分）	配布資料の確認 （45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
11	担当教員による授業 1 0	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
12	担当教員による授業 1 1	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
13	担当教員による授業 1 2	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
14	担当教員による授業 1 3	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
15	担当教員による授業 1 4	予習課題 （45分）	授業振り返り課題 （45分）
16	総括。 「身に付く力」の検証。	授業振り返り作成 （45分）	全体振り返り （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：君 興治）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。							
授業の方法							
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイドンス」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：君 興治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行なってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。																								
授業の位置づけ																								
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。																								
授業の方法																								
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんだこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイド」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめられた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめられた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめられた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	向井正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	さまざまな規模用途の公共施設の企画設計監理を行ってきた経験を活かした指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス シラバスの確認、目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	担当教員による授業 14	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
16	総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者：指導教員)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

概要

履修目標																								
「建築研究Ⅳ」は、建築学修得の集大成である卒業研究を完成させるための科目として位置付けられる。卒業研究に取り組む学生自身が、研究方法を選択し、興味・関心のある建築学の内容から専門テーマを決定し、研究を完成させるための研究計画を策定しその計画に従って卒業研究を進める。																								
授業の位置づけ																								
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
多岐にわたる建築学の分野のなかから、各自が進めるべく研究テーマを各自が決定し、研究計画を立案し、それに則り研究を進められる力を修得することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。																								
授業の方法																								
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、作品制作、見学、観察・実測調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、時間割上はもちろんだこと、その他の時間（夏季休暇等を含む）にもプログラムが組まれるので、各自の時間調整や大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
各教員が示すテーマや着手条件を理解した上で担当教員を選択することになるが、担当教員が決定しなければ受講、ならびに単位修得ができないので、必ず担当教員を決定すること。また、各教員により演習内容、指導方針等が異なるので、別に配付される「建築学科学習ガイド」の記載内容を熟読・理解した上で決定すること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業16回のうち出席11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査結果をまとめる。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を自発的に進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を打ち合わせの後、進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を指示に従い進めることができた。	おおむね調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業を進めることができた。	調査資料・データを整理し、研究成果をまとめるための作業をすることができなかった。
研究成果をまとめる。	指導教員と計画的に打合せを重ね研究成果をまとめた。	指導教員と打合せをし研究成果をまとめた。	研究成果をまとめられた。	研究成果をおおむねまとめた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	発表するための準備を自発的にし発表に臨むことができた。	事前準備をし発表することができた。	発表することができた。	おおむね発表することができた。	発表することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	建築研究Ⅳ (科目ナンバリング：SEM334087)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員			研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：		指導教員		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス。シラバスの確認 科目を修了して「身に付く力」についての説明	所属研究室選択資料とシラバスの確認 (45分)	配布資料の確認（45分）
2	担当教員による授業 1	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
3	担当教員による授業 2	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
4	担当教員による授業 3	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
5	担当教員による授業 4	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
6	担当教員による授業 5	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
7	担当教員による授業 6	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
8	担当教員による授業 7	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
9	担当教員による授業 8	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
10	担当教員による授業 9	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
11	担当教員による授業 10	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
12	担当教員による授業 11	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
13	担当教員による授業 12	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
14	担当教員による授業 13	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
15	担当教員による授業 14	予習課題（45分）	授業振り返り課題（45分）
16	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの 実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業振り返り作成（45分）	全体振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	マーケティング論 (科目ナンバリング：CME412008, CME512005)					
授業担当者 (所属・職名)	田中 修身 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：田中 修身)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間IT企業にて営業SE、経営管理部長を経験。現在、中小企業診断士/ITコーディネータとして経営戦略、マーケティング戦略、財務戦略、DX戦略、事業承継等に関する企業支援を行っている。日常的な企業経営とのかかわりから実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) マーケティングとは何か	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	マーケティング戦略策定プロセス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	環境分析と市場機会の発見	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	セグメンテーションとターゲティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	ポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	マーケティングミックス (製品戦略)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	マーケティングミックス (価格戦略)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	マーケティングミックス (販路・流通戦略)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	マーケティングミックス (プロモーション・コミュニケーション戦略)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	ブランド戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	マーケティングリサーチ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	顧客経験価値とカスタマージャーニー	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	BtoBマーケティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	デジタルマーケティング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	マーケティング論の振り返り	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
16	試験とフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『改訂4版「グロービスMBAマーケティング」』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2019	9784478107355	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ社会学 (科目ナンバリング：SPS422061, SPS512011)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階研究室		
単位数	2（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・文化性を探る） シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の	リファレンスブックの「共通科目Ⅰ」を見る（90分）	シラバス全体を見る（90分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目Ⅱ」に目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
3	オリンピック・パラリンピックの歴史と背景①	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの歴史と背景②（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
7	スポーツの4つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、LGBTなど）前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（90分）	講義の要点を整理する（90分）
15	後半授業の振り返り・フィードバック 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（90分）	学習内容を復習し理解しておく（90分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ 科目を修了して「身につく力」の検証	これまでのノートをじっくり読み返す（90分）	これまでの授業のまとめ（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	トレーニング 科学Ⅰ (科目ナンバリング：SPS422064, SPS522059)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
トレーニングは、働きかけの対象である身体機能を良く理解しなければ、効果が得られない場合もある。本講義では、トレーニングに関わる身体の仕組み・働きについて解説し、各種スポーツ、体力づくりに必要なトレーニングの基礎理論を理解させ、女性と運動、中高年における健康に対する構成要素の知識を学び身に付けると共に障害者における運動と健康についても詳しく学習する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。							
授業全体の内容と概要							
テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出やビデオを利用して理解を確実なものにする。							
授業の方法							
授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。 また、レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。 他にも、課題は講義内で学生に発表を行わせる。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目 スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格過程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった	
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	トレーニング 科学Ⅰ (科目ナンバリング：SPS422064, SPS522059)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSP0	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
2	長期的トレーニング計画 (トレーニングの進め方・原理、原則、トレーニング処方)	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
3	トレーニング効果の測定と評価	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
4	運動と栄養 (1) 運動と栄養の基礎理論	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
5	運動と心理 (1) 運動と心理の基礎理論	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
6	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップ、クールダウン、リカバリー	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
7	ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
8	持久カトレーニング	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
9	持久カトレーニングの実技と指導法	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
10	レジスタンストレーニング	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
11	レジスタンストレーニングの実技と指導法	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
12	パワートレーニング	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
13	パワートレーニングの実技と指導法	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
14	スピードトレーニング	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
15	スピードトレーニングの実技と指導法・トレーニング指導者の役割	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
16	テスト及び解説 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケートの実施	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『JATI認定トレーニング指導者テキスト (理論編)』	NPO法人者協会 日本トレーニング指導	大修館書店			
2	『JATI認定トレーニング指導者テキスト (実践編)』	NPO法人者協会 日本トレーニング指導	大修館書店			
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング：S0F321114)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階（佐藤）、2号館8階（伊藤）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 善太郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
4年間をととして建築表現に必要な不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
基本的なデジタルプレゼンテーションツールを自在に操れることができる。							
授業全体の内容と概要							
コンピュータ操作の初歩として、コンピュータOSやその周辺の知識修得とデジカメやスキャナを使用したプレゼンテーションを行う。 「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施しフィードバックする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書はもちろん、各自USBメモリを携行のこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数11回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができる程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができる程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
デジタルツールによって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができる程度以上できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができる程度できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して的確に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング：S0F321114)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)・伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階 (佐藤)、2号館8階 (伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『今すぐ使えるかんたん Photoshop Elements フォトリタッチ入門』	AYURA	技術評論社	2018	9784297101312	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 コンピュータOS、コンピュータデバイス、コン	オリエンテーション時に指示の資料を熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
2	基本操作その1／画像の加工	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
3	基本操作その2／案内図の作成	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
4	基本操作その3／Photoshopの原理	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
5	扱う画像の種類と用途	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
6	レイヤの概念	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
7	画像編集の基礎	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
8	画像編集の応用	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
9	文字の入力編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
10	スキャナによる画像取込	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
11	パノラマの作成とストリートビュー	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
12	クリスマスカードの製作と年賀状の製作	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
13	他のソフトとPhotoshopとの連携／JW	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
14	他のソフトとPhotoshopとの連携／Vector	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
15	マンション広告の作成 授業改善アンケートの実施	配布資料・テキスト熟読（45分）	当日制作課題のデータ整理（45分）
16	講評会 作品の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

学生が、教育実践に必要な心身の発達および学習過程を理解し、障がいやパーソナリティ、知的能力の違いに応じた学習支援の提案や適切な心理教育的支援について検討できる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP 3、DP 4、DP 5に対応する科目

到達目標

①教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。

②教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が心理教育的支援の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち、学習、評価、発達（発達障害を含む）、パーソナリティ、臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて、代表的な理論や専門用語を解説し、それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では、スライドや板書を活用しながら講義を進める。
「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各回の最後に次のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では、スライド資料（PowerPoint）や板書を適宜活用しながら解説をする。質問にはチャット機能等を利用して随時対応する。授業で使用するスライド資料のデータはオンライン上で共有する。授業内課題①へのフィードバックとして、コメントをつけた課題を返却する。授業内課題②に対しては、授業時間を活用して口頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等）が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）（必修）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、非常に理解できた。	専門知識について、かなり理解できた。	専門知識について、やや理解できた。	専門知識について、最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠にを説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにやや沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育心理学』	市川優一郎/宇部弘子	中山書店	2024	9784521748634	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケート結果反映，授業の進め方，教育心理学の概要と科目を修了して『身に付く力』についての説明）	教育心理学で扱う領域について調べる（90分）	教育心理学で扱う内容を振り返る（90分）
2	学習の理論（1）－学習の行動論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
3	学習の理論（2）－学習の認知論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
4	学習の諸現象（動機づけ）と教育評価－相対評価・絶対評価の比較とその活用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
5	学習の過程－様々な教授・支援・指導法－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
6	学級集団の理解と人間関係－学級集団における人間関係、認知的バイアス－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
7	記憶の理論－記憶の仕組みと学習支援への応用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	これまでの学習内容について振り返る（90分）
8	授業内課題①（学習および学級集団のまとめ－学習の理論を実践へとつなげる方法－）	これまでの学習内容について振り返る（90分）	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する（90分）
9	発達（1）－発達の諸相－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
10	発達（2）－運動・言語・認知の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
11	発達（3）－社会性の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
12	パーソナリティ（1）－パーソナリティの基礎理論－ 授業内課題①へのフィードバック	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
13	知的能力－知的能力に関する基礎理論と知的能力の測定に関する正しい理解－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
14	配慮を必要とする児童・生徒とその支援－障がいの適切な理解と支援－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	これまでの学習内容について振り返る（90分）
15	授業内課題②（発達および個人差のまとめ－発達やパーソナリティの理論を実践へとつなげる方法－） と課題へのフィードバック	これまでの学習内容について振り返る（90分）	提示されたキーワードについて，説明できるように復習する（90分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う。 科目を修了して『身に付く力』についての検証を行う。	提示されたキーワードについて，説明できるように準備する（90分）	試験でできなかった問題を振り返る（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・2年、デザイン学科・2年、建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（MDA） （科目ナンバリング：					

概要

履修目標

学生が、教育実践に必要な心身の発達および学習過程を理解し、障がいやパーソナリティ、知的能力の違いに応じた学習支援の提案や適切な心理教育的支援について検討できる。

授業の位置づけ

教職課程科目のため、該当なし

到達目標

①教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を理解し、説明する。

②教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が心理教育的支援の中でどのように活かされているのかを指摘する。

授業全体の内容と概要

教育心理学で扱われるテーマのうち、学習、評価、発達（発達障害を含む）、パーソナリティ、臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて、代表的な理論や専門用語を解説し、それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では、スライドや板書を活用しながら講義を進める。
「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

各回の最後に次のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では、スライド資料（PowerPoint）や板書を適宜活用しながら解説をする。質問にはチャット機能等を利用して随時対応する。授業で使用するスライド資料のデータはオンライン上で共有する。授業内課題①へのフィードバックは提出された課題へコメントをつけて返却する。授業内課題②に対しては授業時間を活用して口頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等）が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）（必修）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、非常に理解できた。	専門知識について、かなり理解できた。	専門知識について、やや理解できた。	専門知識について、最低限の理解ができた。	専門知識について、最低限の理解ができなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠をよく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を複数挙げ、その根拠にを説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げ、その根拠を説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールに非常に沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにかなり沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールにやや沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールに沿って、レポートを執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・2年、デザイン学科・2年、建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	教育心理学（MDA） （科目ナンバリング：					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育心理学』	市川優一郎/宇部弘子	中山書店	2024	9784521748634	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケート結果反映，授業の進め方，教育心理学の概要と科目を修了して『身に付く力』についての説明）	教育心理学で扱う領域について調べる（90分）	教育心理学で扱う内容を振り返る（90分）
2	学習の理論（1）－学習の行動論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
3	学習の理論（2）－学習の認知論的アプローチ－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
4	学習の諸現象（動機づけ）と教育評価－相対評価・絶対評価の比較とその活用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
5	学習の過程－様々な教授・支援・指導法－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
6	学級集団の理解と人間関係－学級集団における人間関係、認知的バイアス－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
7	記憶の理論－記憶の仕組みと学習支援への応用－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	これまでの学習内容について振り返る（90分）
8	授業内課題①（学習および学級集団のまとめ－学習の理論を実践へとつなげる方法－）	これまでの学習内容について振り返る（90分）	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する（90分）
9	発達（1）－発達の諸相－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
10	発達（2）－運動・言語・認知の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
11	発達（3）－社会性の発達－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
12	パーソナリティ（1）－パーソナリティの基礎理論－ 授業内課題①へのフィードバック	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
13	知的能力－知的能力に関する基礎理論と知的能力の測定に関する正しい理解－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	今回の内容をまとめ，疑問点を整理する（90分）
14	配慮を必要とする児童・生徒とその支援－障がいの適切な理解と支援－	提示されたキーワードについて，内容を調べ，まとめる（90分）	これまでの学習内容について振り返る（90分）
15	授業内課題②（発達および個人差のまとめ－発達やパーソナリティの理論を実践へとつなげる方法－）と課題へのフィードバック	これまでの学習内容について振り返る（90分）	提示されたキーワードについて，説明できるように復習する（90分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う。科目を修了して『身に付く力』についての検証を行う。	提示されたキーワードについて，説明できるように準備する（90分）	試験でできなかった問題を振り返る（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：ESS143153)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。
①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科における資質育成のねらい、教科内容を学修する。
②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

自由科目

到達目標

- ・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
- ・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
- ・授業づくりは、「こころは重要だから、アンダーラインを引いておこうではない。学んだことを活用して他の事例についておなじことがいえるかを見つける」学びである。(編澤正美 2022:76)
- ・公民的資質の育成にもとづく分析説明ができる。教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。

下記ルーブリックの合格最低レベル(C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。
公民科の教科目標と内容を把握し、学習指導理論をふまえ、デジタルコンテンツ、大学図書館等の資料を利用するうえで学術資料の信頼性と妥当性を確保し、現代社会における社会的現象等についての概念や理論を教材研究するため、公民科教科指導方法の基礎を学修する。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

- ・前期1Q科目では、教材研究を主におこなう。講義形式と作業提出が学修の主になる。
- ・文献読解、教材の取捨選択作業をおこなう。(PBL、問題基盤型学習、プレゼンテーション)
- ・教育機関HPを閲覧し実践資料を収集する。(AL;その他 情報機器利用)
- ・授業中の作業課題報告と文献読解レポートは評価対象になる。
- ・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題フィードバックを次の授業にて模範回答例が紹介されるので、次回の課題提出の改善材料として利用してほしい。
- ・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。
- ・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
- ・教職課程科目【中学社会・高校公民】必修。教材研究は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」(松下佳代：2015)のアウトプットである。
- ・新聞記事時事ニュースを収集する。「試験に出るところや楽して点を取る方法を伝える」ことではない「勉強の面白さを伝える」ための学修準備をする。
- ・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本である。単独科目履修希望の場合、教員に事前相談してほしい。
- ・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。
- ・教職課程学生は、教員の立場に立つ行動がもとめられる。中学・高校時の公民系教材(教科書、ノート)を準備する。
- ・授業関連情報コース packets をマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学HP教員個人ページにあるので参照すること。

<https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html>

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。
資格指定科目
教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。 ・文献読解（読解；文献要旨報告、文部省（2018）、プレゼンテーション；口頭発表をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識、技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえている。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけている。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、改善の余地はあるが、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しい。新しく学ぶことについて、説明は難しく、知識・技能は修得できなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用している。新しく学ぶことは、自らの知見と既知の事項を整理して表現することができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけるながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけるながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用している。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しい。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として役割と責任を自覚し、積極的に行動することができる。関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）として役割と責任を自覚し、積極的に行動することができる。	大学生（教職課程の教生）として役割と責任を自覚し、積極的に行動することができる。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度はみられなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅰ (科目ナンバリング: ESS143153)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、属修学生と授業者の属修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会科 中学生の公民』	江口ほか	帝国書院	2024		中学社会検定済教科書(公民046-92)
2	『高等学校 公共』	郊部ほか	帝国書院	2021		高校公共検定済教科書(公共707)
3	『ライブ! 公共 2025』	帝国書院	帝国書院	2025	9784807167	
4	『つまりずきから授業を変える! 高校公民「PDCA」授業&評価プラン	橋本康弘	明治図書出版	2015	9784183898333	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	公民科の教育目標と教科内容の基礎理解 (ガイダンス、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映、シラバス、本科目の修了により「身に付	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
2	中学校社会科と公民的資質	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	高等学校公民科と公民的資質	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	問題解決学習と課題解決学習	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	概念的枠組み、事実的知識と汎用的理論	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	資料作成の概念	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	教育課程企画特別部会資料を確認する。(学習の深さと深さ) (2015/03/24/1355105_07.pdf) (90分)
7	時案作成の概念	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
8	教科書の理解、学習指導要領と教科書	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	文科省HP現行学習指導要領(本文、解説、資料等)を確認する。(90分)
9	教科書の理解、本文、図表、重要用語	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。図書情報館、専門辞典の確認(90分)
10	教科書の理解、中学校公民的分野と高校公民の比較	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習課題(中学校、高校の教科書比較)作成提出する。(90分)
11	教科書の理解、高校公民同一教科各教科書の記述分析	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習課題(高校同一教科の教科書比較)を作成提出します。(90分)
12	教科書の理解、教科書と副教材資料集	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。教職センター資料の確認する。(90分)
13	教科書の理解、まとめ	テキスト(検定教テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業6-13回の学習整理をします。(90分)
14	教育実践支援ICT、政府研究所HP、教育委員会HP	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	川崎直KP法、YouTubeチャンネルKP法を学習する。(90分)
15	公民科の教育目標と学習内容の基礎理解、総括	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ (授業の総括とフィードバック、本科目の修了により「身に著く力」について検証、授業改善アンケート	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	https://www.mext.go.jp
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	https://www.mext.go.jp
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀/遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『中学校社会 指導スキル大全』	津梅正美	明治図書	2022	9784184522336	
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	外国語コミュニケーション (M) (科目ナンバリング: ENL042033)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
英文を読み、個々の単語の発音練習を行う。基本的文法事項を復習し、作文練習、会話練習を行い、英語運用能力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
英語の発音を修得する。基本的文法事項を理解し、簡単な作文と会話ができる。							
授業全体の内容と概要							
英文を読み、発音を確認し、基本的表現や文型を学び、英語の運用能力の向上を目指す。 「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
板書、CDを用い英語運用能力の向上を計り、学生参加型授業を行う。 中間テスト、定期試験の答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
平常点重視、テキスト・辞書持参							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席が必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できていた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できていない部分があった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障を少しきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思を伝えることができなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (M) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『English Indicator 1』	テリー・オブライエン, 三原 京 他	南雲堂	2018	9784523178538	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業の進め方, 採点に関すること, その他授業に関するガイダンス。シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
2	Unit 2 The Beatles Past tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
3	Unit 3 Very Cold Progressive forms 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
4	Unit 4 Euro Money Auxiliary verbs	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
5	Unit 5 To Your Health Perfect tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
6	Unit 6 Recycling Articles, pronouns 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
7	Unit 7 The UK Nouns: countable, uncountable	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
8	中間テスト	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
9	Unit 8 A Quiet Life Adjectives, adverbs 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
10	Unit 9 My Company Comparisons 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
11	Unit 10 Advertising Infinitives, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
12	Unit 11 Business Trips Prepositions, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
13	Unit 12 Get It Cleaned Causative verbs, perceptive	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
14	Unit 13 A Storm Passive voice 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
15	Unit 14 The Media Relativesの復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック	リーディングアサイメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	外国語コミュニケーション (S) (科目ナンバリング: ENL042033)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認			
オフィスアワー						

概要

履修目標

身近な話題を中心とした日常生活の様々な場面を想定し、テキストに沿った文法整理から、会話、発音、語彙を総合的に学習することによってコミュニケーションツールとしての英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

簡単な日常会話や場面表現に関して用いられる英文の文法解釈において、文型を理解したうえでコミュニケーションツールとして基礎的な英語運用能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

文法、語彙、会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを相手に伝えられるようコミュニケーションスキルの基礎を習得する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

本講座は講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
<VoiceTra（ボイストラ）はNICT（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、中間試験として文型理解度確認テストを実施する。加えて英文日記を1回提出し、レポートとして採用する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科） 選択科目 保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。試験日を除く全15回の授業中12回の出席を基準とし10回の出席を確保できないものは再履修とする。 平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には、加点する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	10%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる読解・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成している。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台づくりの努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。辞書を使うことはできる。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もしない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる読解力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (S) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる英語の基本』	澤井 康佑 著	開拓社	2010	9784758915304	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	テキストのpp.3-18を読み込む。専用のノートを準備する (45分)	自分の弱点確認 (45分)
2	英語と日本語の違い&英語の基本文型①	テキストのpp.19-74の範囲を読み込む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
3	英語の基本文型②	テキストのpp.75-93の範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
4	英語の基本文型③	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
5	英語の動詞とその使い方①&オーストラリア文化談	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
6	英語の動詞とその使い方②&アメリカ大学文化談	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
7	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
8	疑問文と付加疑問文	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
9	英文の構造を理解する①&アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
10	英文の構造を理解する②&アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
11	接続詞①	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
12	接続詞②	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
13	接続詞③	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	テキストの指定範囲を読む (45分)	ノートの作成。課題・宿題 (45分)
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ②&テストReview 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	テキストの指定範囲を読む (45分)	期末試験に備える (45分)
16	試験 (60分) 及び授業総評 (30分)	試験準備 (120分)	授業内容の振り返り (60分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (D・A) (科目ナンバリング: ENL042033)				
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標 グローバル化に対応するため「外国語」を学ぶための科目であり、英語で外国人と最低限のコミュニケーションができるよう実際に使える英語を身につける。また、日本と外国の習慣や文化、考え方の違いについて理解を深める。																								
授業の位置づけ 全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。																								
到達目標 会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを最低限相手に伝えられるように、コミュニケーションスキルを習得することができる。																								
授業全体の内容と概要 身近なトピックを使ったダイアログを通して「聞く・読む」から「話す・書く」へとつなぐ技能統合を重視した英語運用能力育成を目的とし、口語表現などを学習し、会話でよく使用される重要な表現を想定し相手の気持ちを読み取り、相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを学ぶことができる。																								
授業の方法 授業では、英会話を積極的に取り入れ、学生が実際に話す機会を増やすために、ペアでのロールプレイやグループワークなどを多く取り入れた演習形式で行う。リスニングでは単語の発音をインプットし、リーディングでは英文を声に出して読むアウトプットの作業を行う。また、テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応するか、クラス全体への解答を解説し、学生へのフィードバックを行う。ICT（パソコン・スマホ・タブレットなど）を利用し、無料のストリーミング配信サービスを使えば、テキストの音声などが自習用として活用できる。																								
アクティブラーニングの実施方法 <table> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項 15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	０％	０％	０%	４０%	１０％

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超えた学修が認められる。	授業内容をほぼ理解している。	到達目標に達している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に少し不足がある。	到達目標に達していない。
英語表現能力	英語で優れた表現を行うことができる。	英語で表現を行うことができる。	英語で表現を一定程度行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない。
積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する。	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる。	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる。	授業に集中して理解しようとする態度が見られる。	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる。
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている。	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる。	学修範囲を調べている。	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である。	指示された範囲の事前・事後学修が不十分である。
リスニング・スピーキング	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング・スピーキングの2技能を問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング・スピーキングの2技能の運用に適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング・スピーキングの2技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	4 Q		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション（D・A） （科目ナンバリング：ENL042033）					
授業担当者 （所属・職名）	宮嶋 達也（デザイン学科・教授）			研究室等所在	2号館4階	
単位数	2（単位認定責任者：		宮嶋 達也）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『New Getting Into English』	Joseph Cronin Eric Bray	NAN ' UN-DO	2 0 2 1	978-4-523-17918-4	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 （4 5分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（4 5分）
2	Unit 2 How do you spell that?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
3	Unit 3 What's the time?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
4	Unit 4 Where are you from?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
5	Unit 5 What's your favorite food?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
6	Unit 6 How often do you get your hair cut?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
7	Unit 7 What kinds of music do you like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
8	Unit 8 Who's older, you or your sister?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
9	Unit 9 How was your weekend?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
10	Unit 10 Have you ever been abroad?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
11	Unit 11 What kinds of movies do you like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
12	Unit 12 What's the weather going to be like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
13	Unit 13 What's your favorite coffee shop?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
14	Unit 14 Do you have a part-time job?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
15	Unit 15 How long have you had your phone?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておく こと。（4 5分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 （4 5分）
16	Final Exam. 試験終了後,フィードバック及び授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験での疑問点などは前もって質問できるように準備しておく。（4 5分）	間違えた箇所をもう一度復習し理解する。（4 5分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅰ (科目ナンバリング：JLN051038)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：高橋 真弥）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、PPTの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルや語彙力を身につける。また、授業内容は日本に限らず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

日本語の文章を読む・書くことで語彙力を広げ、レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式（レポート、レジュメ、PPT）を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身がテーマを選んで報収収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。30分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。出席および授業内課題を通して評価を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	35%	35%	0%	30%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。	
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅰ (科目ナンバリング：JLN051038)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	(単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	授業内容復習（４５分）
2	文章の書き方・構成①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
3	文章の書き方・構成②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
4	文章の書き方・構成③	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
5	小論文作成	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
6	小論文フィードバック	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	レジュメの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
8	レジュメの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
9	レジュメの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
10	レポートの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
11	レポートの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
12	レポートの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
13	パワーポイントの作り方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
14	パワーポイントの作成・発表①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
15	パワーポイントの作成・発表②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
16	総括（「身につく力」の検証） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 授業改善アンケートの実施	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』	井下千以子	鹿應義塾大学出版会	2019年	9784766425772	購入の必要なし
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直しガイド」』	佐渡島 紗織・坂本 麻裕子・大野 真澄	大修館書店	2015年	9784469222449	購入の必要なし
3	『大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで』	川崎昌平	ミネルヴァ書房	2020年	9784623088898	購入の必要なし
4	『「うまい文章」の共通ルールがゼロから身につく・伝わる文章術見るだけノート』	山口拓朗	宝島社	2021年	9784299018359	購入の必要なし
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング：PSG111006)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP 1、DP 3、DP 4に対応する科目							
到達目標							
人の基本的な心の仕組みと機能、アセスメント等の支援方法を理解する。							
授業全体の内容と概要							
心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業ではソーシャルワークに深く関連する事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学理論を基礎とした支援方法について理解する。 「SDGs 3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
授業は講義形式で進行する。補助教材として、PowerPointによるスライド資料を用いる。毎授業時間の最後に、コメントや質問、要望をMicrosoft Formsを活用して記入する。提出されたコメント等に対して、次の冒頭、全体に向けてのフィードバックを行う。レポート課題はオンライン上にてテーマの提示・レポート受取・フィードバック（コメントをつけて返却）を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書を必ず持参すること。授業の進行を著しく妨害する行為が認められた際は、成績評価から減点することがある。 スライド資料は授業前にオンライン上でデータ共有するため、必要な人は各自ダウンロードすること。スライドをプリント化して配布することはない。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 ただし、保育士養成課程および教職課程に向けては、すべての授業・補講を対面で実施する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程（必修）、精神保健福祉士国家試験受験資格課程（必修）、保育士養成課程（選択）、教職課程・高校公民（必修）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
心理学と心理的支援の知識	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。	
表現方法の適切さ	授業で求められる文章表現の基準を極めて上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をかなり上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をやや上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できなかった。	
授業への積極的参加	授業に対して、非常によく参加できた。	授業に対して、よく参加できた。	授業に対して、やや参加できた。	授業に最低限の参加ができた。	授業に参加できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング: PSG111006)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『心理学と心理的支援 (最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座)』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882320	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	心理学の歴史と対象について シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を 修了して『身に付く力』についての説明	関連図書を熟読する (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
2	心を探究する方法の発展について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
3	心の生物学的基盤について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
4	感情・動機づけ・欲求について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
5	感覚・知覚について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
6	学習・行動について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
7	認知について レポート課題の提示と説明	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
8	個人差について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
9	人と環境について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
10	生涯発達について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
11	心の発達の基盤について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
12	心の不適応について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
13	心理アセスメントについて	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
14	心理的支援の基本的技法について	示されたキーワードを調べる (90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる (90分)
15	心理療法について レポート課題へのフィードバック 授業改善アンケートの実施	示されたキーワードを調べる (90分)	これまでの内容をまとめる (90分)
16	60分の試験後、残り時間で解説を行う 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの内容を整理する (90分)	これまでの内容を振り返る (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	平面構成Ⅰ (科目ナンバリング：AEA211003)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
デザインの要素（エレメント）である「色」「形」「線」「スペース」「バランス」「テクスチャ」「フォーム」「明暗」の存在を実感し、それらを「統一性」「調和」「多様性」「強弱」などの原則（プリンシプル）を理解した上で効果的に演出し、作品制作に応用できる造形力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
与えられたテーマやモチーフを基に平面を表現する課題の繰り返しを行う。 課題の内容については、段階を経て複雑かつ高度な内容へと進化するように設定する。							
授業の方法							
各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。 制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。 画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
制作に必要な画材（アクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック、ケントボードなど）を各自用意し、毎授業に持参すること。 課題によっては上記の他にも必要な画材が発生する場合があるが、その際は授業の中で指示する。 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
画材の扱い方を習得しており、丁寧な作業ができる。	画材の扱い方に慣れており、丁寧な仕上がりを意識しながら作品を完成させることができる。	画材の扱い方に問題はなく、丁寧な仕上がりを意識した作業ができる。	画材の扱い方に未熟な点はあるが、概ね正しい作業ができる。	画材の扱い方については作業が可能な最低限と言える。	画材を全く使いこなせていなかった。
テーマを理解し、その内容に沿った課題の制作が行える。	十分に理解し、制作が行っていた。	概ね理解し、作業に取り組んでいた。	不十分ではあるが、理解している部分があった。	あまり理解できていなかった。	全く理解できていなかった。
デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解しながら、効果的に演出した制作を行える。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅰ (科目ナンバリング：AEA211003)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)			研究室等所在	2号館5階	
単位数	2 (単位認定責任者：		北嶋 洋一)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～平面構成の作品鑑賞	シラバスの確認（90分）	情報の整理と画材のまとめ（90分）
2	デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）	シラバスの確認（90分）	情報の整理（90分）
3	実験「画材について」	シラバスの確認（90分）	実験の復習（90分）
4	実験「画面の分割・作図・着彩」	シラバスの確認（90分）	実験の復習（90分）
5	基礎的な実験課題①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
6	基礎的な実験課題②	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
7	基礎的な実験課題③	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
8	基礎的な実験課題④	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
9	基礎的な実験課題⑤	課題の制作（90分）	講評内容の整理（90分）
10	基礎的な実験課題⑥	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
11	基礎的な実験課題⑦	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
12	基礎的な実験課題⑧	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
13	基礎的な実験課題⑨	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
14	基礎的な実験課題～講評	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
15	材料研究	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
16	材料研究	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	幾何形体を用いた練習課題①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
18	幾何形体を用いた練習課題②	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
19	幾何形体を用いた課題①	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
20	幾何形体を用いた課題②	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
21	幾何形体を用いた課題③	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
22	幾何形体を用いた課題④	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
23	幾何形体を用いた課題⑤	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
24	幾何形体を用いた課題⑥	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
25	幾何形体を用いた課題⑦	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
26	幾何形体を用いた課題⑧	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
27	幾何形体を用いた課題⑨	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
28	幾何形体を用いた課題⑩	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
29	幾何形体を用いた課題 ～ 講評	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
30	幾何形体を用いた課題 ～ 講評	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
31	平面構成Ⅱの予告 フィードバック	シラバスの確認（90分）	平面構成Ⅰのまとめ（90分）
32	授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	シラバスの確認（90分）	平面構成Ⅰのまとめ（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	西洋美術史Ⅰ (科目ナンバリング：FAH211010)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

ルネサンス以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
個々の作品の特徴や社会的背景などについて自分の言葉で説明することができる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。教科書は西洋美術史Ⅱでも使用するため、必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 0 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	他人が納得できるように、自分独自の視点を論理的妥当性・整合性をもって述べる事ができた。	授業で学んだことを生かして、自分独自の視点や、論理的妥当性・整合性をもって述べる事ができた。	授業で学んだことを生かして、論理的妥当性・整合性をもって自分の考えを述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	講義中や期末テストで自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	西洋美術史Ⅰ (科目ナンバリング：FAH211010)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：		竹内 美帆)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	初期ルネサンス (1) 遠近法の発見 ルネサンスの背景 プルネツレスキ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
3	初期ルネサンス (2) マザッチョ、ドナテッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	初期ルネサンス (3) 古典復興と芸術革新、ポッティチェリ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	盛期ルネサンス (1) レオナルド・ダ・ヴィンチ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	盛期ルネサンス (2) ミケランジェロ、ラファエッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	盛期ルネサンス (3) ティツィアーノとヴェネツィア派 小テスト実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	北方ルネサンス (1) ヤン・ファン・エイク、ボス デューラー 小テストの結果について授業内でコメントして	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	マニエリスム 古典的理想美からの逸脱	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
10	バロック美術 (1) イタリアにおけるバロックの成立 カラッチ、カラヴァッジョ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
11	バロック美術 (2) 絶対王政を支えた画家たち ルーベンス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
12	バロック美術 (3) スペイン・ベラスケス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
13	バロック美術 (4) オランダ 風景画の成立 静物画とヴァニダス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
14	バロック美術 (5) オランダ フェルメール レンブラント	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
15	まとめ 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。 (90分)	授業内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築環境Ⅰ (科目ナンバリング：AEN313010)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐々木 哲之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
建築の目的はその発生の当初から、外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり、快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気、熱、光、音の基本性質を学習し、それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
空気、熱、光、音が建築物に与える影響を知り、建築物の配置計画、平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け、応用できる。							
授業全体の内容と概要							
自然（外部）環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また、自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率、設計用天空照度、照度の計算そして、換気と通風の理論、及びその応用など大別して講義展開をする。また「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業である。							
授業の方法							
テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに出題し、それはレポート、小テストの形式とする。課題返却後、解説をする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので、講義にはテキスト、過去分のノート、電卓は必ず持参すること。 30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた、さらにそれを十分ではないうが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた、さらにそれを十分ではないうが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた、さらにそれを十分ではないうが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築環境Ⅰ (科目ナンバリング：AEN313010)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：		佐々木 哲之		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2022	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して「身につく力」の説明 建築環境	シラバスにより次回の部分を予習すること（90分）	授業内容を復習すること（90分）
2	快適環境-1 人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
3	快適環境-2 空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
4	快適環境-3 温熱環境 絶対湿度と相対湿度 有効湿度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
5	光環境-1 日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
6	光環境-2 日照と日射 昼光照度と日射量、日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
7	光環境-3 日影曲線、日影図、日影時間、日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
8	光環境-4 日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
9	採光と照明-1 測光量とその単位 照度、光束、輝度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
10	採光と照明-2 昼光光源 設計用天空照度 照度の計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
11	採光と照明-3 昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
12	換気と通気-1 人体と必要換気量 用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
13	換気と通気-2 室内通風 通風の現象、通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
14	換気と通気-3 圧力差と換気量 温度差による換気、換気計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること（90分）
16	定期試験（60分）及び解説（30分）をし、フィードバックする 科目を終了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること（90分）	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：戸佐 晃一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の応用的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を身に付ける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の応用を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。							
授業全体の内容と概要							
体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。 様々な種類のトレーニングに関する応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。							
授業の方法							
教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用が良くできている	ウエイトトレーニングの応用がほぼできている	ウエイトトレーニングの応用力がある程度できている	ウエイトトレーニングの応用ができている	ウエイトトレーニングの応用ができない
体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用が良くできている	体幹トレーニングの応用がほぼできている	体幹トレーニングの応用がある程度できている	体幹トレーニングの応用ができている	体幹トレーニングの応用ができない
ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用が良くできている	ラダートレーニングの応用がほぼできている	ラダートレーニングの応用がある程度できている	ラダートレーニングの応用ができる	ラダートレーニングの応用ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身につく力」の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	個人面談 (前期成績・学生生活など)	前期成績を確認しておく (45分)	前期成績を把握しておく (45分)
3	個人面談 (前期成績・学生生活など)	前期成績を確認しておく (45分)	前期成績を把握しておく (45分)
4	ウエイトトレーニングの応用Ⅰ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
5	ウエイトトレーニングの応用Ⅱ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
6	ウエイトトレーニングの応用Ⅲ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
7	体幹トレーニングの応用Ⅰ	体幹トレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
8	体幹トレーニングの応用Ⅱ	体幹トレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
9	体幹トレーニングの応用Ⅲ	体幹トレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
10	体幹トレーニングの応用Ⅳ	体幹トレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
11	ラダートレーニングの応用Ⅰ	ラダートレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
12	ラダートレーニングの応用Ⅱ	ラダートレーニングの応用を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	体力・形態測定結果を確認しておく (45分)	学習内容を復習し理解しておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。 後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。							
授業の方法							
小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上遅刻は欠席扱いとする。 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身で終わった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 米野 宏)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	レポート作成 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
3	レポートの発表とディスカッション 1 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
4	レポートの発表とディスカッション 2 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
5	レポートの発表とディスカッション 3 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
6	ニューススポーツの実践発表準備 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
7	ニューススポーツの実践発表準備 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
8	ニューススポーツの実践発表準備 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
9	ニューススポーツの実践発表準備 4 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
10	ニューススポーツの実践発表 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
11	ニューススポーツの実践発表 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
12	ニューススポーツの実践発表 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
13	ニューススポーツの実践発表 4 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
14	ニューススポーツの実践発表 5 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
15	ニューススポーツの実践発表 6 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を 営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
健康とスポーツ及びトレーニングについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。							
授業全体の内容と概要							
授業の前半は健康とスポーツ及びトレーニングについての調査を行い。後半は健康とスポーツ及びトレーニングについての調査アンケートをまとめ、発表と意見交換を行う。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。 授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。 注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。 発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツ及びトレーニングについての基礎的な知識を理解できなかった。	
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力を達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	健康とスポーツ及びトレーニングについての調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
11	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	プレゼンテーションの準備 (グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネット
によるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法につい
ては、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１３回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１０％	１０％	０％	７０％	１０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまですず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話をするのが苦手で、ほとんど受け身で終わった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	レポート作成 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
3	レポートの発表とディスカッション 1 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
4	レポートの発表とディスカッション 2 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
5	レポートの発表とディスカッション 3 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
6	生涯スポーツの実践発表準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
7	生涯スポーツの実践発表準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
8	生涯スポーツの実践発表準備 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
9	生涯スポーツの実践発表準備 4	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
10	生涯スポーツの実践発表 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
11	生涯スポーツの実践発表 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
12	生涯スポーツの実践発表 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
13	生涯スポーツの実践発表 4	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
14	生涯スポーツの実践発表 5	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
15	生涯スポーツの実践発表のフィードバック	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
16	ふりかえり 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：井坂 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
スポーツパフォーマンス（主として野球における投球）を最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。エビデンスに基づいたトレーニングを身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
トレーニング理論について理解できる。 課題解決のために他者と討議することができる。 トレーニングを実施することができる。 論文を読んで内容について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。							
授業の方法							
講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。 学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
15分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻2回で1回の欠席とみなす。 トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく越えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	井坂 肇 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：井坂 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	シラバスの内容を理解しておく (45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング⑤ 論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング⑥ 論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング⑦ 論文の読み方⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
6	トレーニングデータの収集と理解⑥ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
7	トレーニングデータの収集と理解⑦ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
8	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
9	トレーニングの実践⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
10	トレーニングの実践⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
11	トレーニングデータの収集と理解⑧ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
12	トレーニングデータの収集と理解⑨ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
13	トレーニングの実践⑨	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
14	トレーニングの実践⑩	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
15	トレーニングデータの収集と理解⑩ データ解釈のグループワーク グループワークについてフィードバックを行う	学習内容に関連する事柄について調べておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)
16	まとめ (科目を修了して「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施 提出された課題に対してフィードバックを行う	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく (45分)	学習内容について振り返りまとめておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。							
授業全体の内容と概要							
日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。							
授業の方法							
・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。 ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施します。 ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）〔動作の質的測定を行うためのシステム〕	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ フィードバック（動作の質的測定を行うためのシス テム「ファンクショナルムーブメントスクリーン」	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

大学での学修の基礎になる、文献の読み方、プレゼンテーションの仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。

学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として必要な①講義の受け方・レポート作成方法といった学修のためのスキル、②自発的に問題を発見し解決する力といった能力と姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者によるディスカッション、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。

①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。

②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員でディスカッションをする。

③担当教員による講評を行う。

④レポート作成に向けた準備を進める。

輪読するテキストは、社会福祉に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。

Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べたことについてレジュメやパワーポイントを使用して効果的にプレゼンテーションできる。	プレゼンテーション等において、高いレベルで問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、的確に問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、ある程度、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、発表することができなかった。
学修の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートを作成することができた。	ある程度テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	テーマ設定ができたレポートを作成することができた。	レポートを作成することができなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的にディスカッションに参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的にディスカッションに参加することができた。	積極的にディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができた。	ディスカッションに参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 後藤 啓倫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告とディスカッション（１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告とディスカッション（２）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告とディスカッション（３）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告とディスカッション（４）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告とディスカッション（５）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告とディスカッション（６）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告とディスカッション（７）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告とディスカッション（８）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告とディスカッション（９）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告とディスカッション（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告とディスカッション（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（１）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（２）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート提出、レポートを添削し返却してフィードバックする、科目を修了して『身に付く力』についての検証	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
本ゼミナールでは数学の歴史的概要と基本的ターム及び理論経済学における基本的な用法を学習することによって、論理的思考方法の構築する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の最低出席条件10回以上をクリアする					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学の歴史を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	世界史における数学の位置づけを理解できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
形式論理学について理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	命題、逆、裏、対偶についての知識を取得することができた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
数学と経済学との関連を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	必要条件、十分条件、背理法、帰納法についての基礎的知識を習得できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	☐	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『数学が嫌いな人のための数学』	小室直樹	東洋経済新報社	2001年	4-492-27205-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	高校数学の復習 (45分)	配布資料の読み込み (45分)
2	数学の論理の源泉－古代宗教から生まれた数学の論理－1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
3	数学の論理の源泉－古代宗教から生まれた数学の論理－2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
4	論理とは神との論争の技術1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
5	論理とは神との論争の技術2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
6	数学と近代資本主義1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
7	数学と近代資本主義2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
8	数学と近代資本主義3	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
9	証明の技術1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
10	証明の技術2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
11	証明の技術3	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
12	証明の技術4	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
13	数学と近代経済学1	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
14	数学と近代経済学2	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
15	数学と近代経済学3 前回までの授業内容の小テストを実施、講評・評価を行いフィードバックする。	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)
16	数学と近代経済学4 科目を修了して『身に付く力』についての検証	前回資料の読み込み (45分)	配布資料の読み込み (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：横田 肇)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
学生が欧米の歴史と文化の基礎について理解し、合わせて、基礎的なコミュニケーション能力を身につける。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席は１０回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート作成のための情報収集・整理の能力	多様で正確な情報収集と分析、編集、整理ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集・整理と適切な発信ができた。	情報収集・整理と発信の基本が身に付いた。	指示によって情報収集・整理と発信ができた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論ができ、明確なプレゼンテーション、応答ができた。	適切な議論、プレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが進行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	欧米の歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	欧米の歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	欧米の歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によって欧米の歴史と文化の基礎が理解できた。	指示による欧米の歴史と文化の理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：		横田 肇)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業アンケートの結果反映の説明。シラバスの説明。 この科目で身に付ける力の説明。	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
2	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (西ヨーロッパ地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
3	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (西ヨーロッパ地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
4	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (西ヨーロッパ地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
5	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (東ヨーロッパ地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
6	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (東ヨーロッパ地域) 履修範囲についてのミニレポートの作成とフィード	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
7	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (北ヨーロッパ地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
8	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (北米地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
9	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (北米地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
10	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (北米地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
11	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (諸地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
12	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (諸地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
13	欧米の歴史と文化の基礎に関する講義と討論。 (諸地域)	欧米の歴史の基礎的事項の予習 (45分)	欧米の歴史の基礎的事項の復習 (45分)
14	受講者による調査とレポート作成 (1)	レポート作成の準備 (45分)	レポート作成の準備 (45分)
15	受講者による調査とレポート作成 (2)	レポート作成の準備 (45分)	レポート作成の準備 (45分)
16	レポートに対するコメント等によるフィードバック。 この科目で身に付いた力の検証。	レポート作成の準備 (45分)	レポートの仕上げ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
社会福祉実践の現場で、必要な社会的なマナーを学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目である。							
到達目標							
①福祉従事者に求められる態度と人柄を理解する。 ②他者との共働に必要な要件を身につける。							
授業全体の内容と概要							
①基本的な社会常識を身につける。 ②福祉従事者に求められる資質について学ぶ。 ③「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
①基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。 ②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので、答えること。 ③随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。 ④授業毎に使用する資料を配布する。 ⑤基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①30分以上の遅刻は欠席とする。 ②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。 ③基本は対面授業だが、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席があること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一般的な社会常識を身につける。	成人として、常識をわきまえた行動ができた。	大学生としての常識をわきまえた行動ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
対人技能の基本を身につける。	社会人として求められる人間関係の理解及び福祉従事者として特に留意する点について述べる事ができた。	社会人に求められる人間関係の理解ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：)		櫻井 美帆子	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目修了後に身につく力についての説明 大学生活を送る上で必要なマナー①	大学生としてふさわしいふるまいにとは何か考える。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
2	大学生活を送る上で必要なマナー② 明るさを備える。誠実さを備える。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
3	大学生活を送る上で必要なマナー③ 良識を持つ。素直な態度を心得る。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
4	大学生活を送る上で必要なマナー④ 清潔感に磨きをかける。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
5	大学生としてのマナー⑤ 事例検討	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
6	大学生としてのマナー⑥ 事例検討	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
7	中間まとめ	1回から6回の内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい内容をまとめる。(45分)	1回から7回で学んだ事を振り返り、大学生活における自己の課題を明確化する。(45分)
8	社会人としてのマナー① 社会人意識とは。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
9	社会人としてのマナー② 社交儀礼とは。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
10	社会人としてのマナー③ 社内の人間関係。社外の人間関係。	次回の内容について、自分の意見をまとめる。 (45分)	ノートを整理する。(45分)
11	社会人としてのマナー④ 事例検討	次回の内容について、自分の意見をまとめる。 (45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
12	地域活動に参加①	北広島市の歴史や文化、物理的な地域構造、産業構成について、インターネットで調べる。(45分)	体験をとおし得た知見をノートに整理する。(45分)
13	地域活動に参加②	北広島市の住宅状況、交流の場、住民構成について、インターネットで調べる。(45分)	体験をとおし得た知見をノートに整理する。(45分)
14	地域活動に参加③	北広島市の社会資源、ネットワーク構造、権力構造について、インターネットで調べる。(45分)	地域活動を通して得た学びをレポートにまとめて提出する。(45分)
15	北広島市の地域アセスメント レポートを添削して返却し、フィードバックする	地域アセスメントの概要を予習する。(45分)	地域アセスメントの概要を復習する。(45分)
16	まとめ 講評	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、3年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。

基礎ゼミナールⅠの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

- ・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。(スチューデントスキル)
- ・授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。(アカデミックスキル)
- ・基礎ゼミナールⅠから継続して考えていきながら、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
- ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席状況（2/3以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性, 傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味, 関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力しながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル, 表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ, 態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わるこことができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ティップス・ポリシーの説明 ゼミを履修し修了した時に「身に着く力」の説明	シラバスを読み、ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。「身に着く力」について考える。ゼミ内での自分の役割について考える。(45分)
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
5	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
10	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
16	まとめ(ゼミ最終回において講評し、フィードバック実施) ゼミ第1回目にあげた「身に着く力」について検証	まとめの準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善が必要になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明、 授業改善アンケート結果反映の説明 本科目を修了して、「身につく力」について説明す	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
2	健康についての学生調査①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
3	健康についての学生調査②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
4	健康についての学生調査③	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
5	健康についての学生調査④	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
6	健康についての学生調査⑤	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
7	健康についての学生調査⑥	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
8	健康についての学生調査⑦	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
9	健康についての学生調査⑧	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
10	健康についての学生調査⑨	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
11	健康についての学生調査⑩	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
12	健康についての学生調査⑪	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
13	健康についての学生調査⑫	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
14	学生調査研究個人発表①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
15	学生調査研究個人発表②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「 身につく力」について検証、授業アンケート実施する。	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学習姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標						
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。						
授業の位置づけ						
全学科の址学科のDP1、DP2、DP5に対応する。						
到達目標						
教育制度についてその概要を理解することができる。 教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。						
授業全体の内容と概要						
各回の授業テーマについて考える。 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読 教育に関する基本的事項についての調べ学習 教員として求められる一般教養及び教職教養の学修 学校授業やボランティア活動等への参加 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目						
授業の方法						
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示 板書を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際には、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
☐ 教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 ☒ 担当教員の授業において必ず発表することを履修の条件とする。 ☒ サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 ☒ 漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。（目標準2級） ☒ 担当教員が案内する教職啓発活動や学校体験活動に必ず参加することを履修の条件とする。						

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：西崎 毅)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 学修計画の作成	基礎ゼミナールⅠでの学修を自己評価すること。（45分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
2	教育法規のまとめ①教育基本法 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
3	教育法規のまとめ②学校教育法 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
4	教育法規のまとめ③学校教育法施行規則 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
5	教育心理のまとめ①心理学のおこり 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
6	教育心理のまとめ②学習理論等 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
7	教育心理のまとめ③心理療法等 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
8	教育史のまとめ①日本教育史 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
9	教育史のまとめ②西洋教育史 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
10	教育史のまとめ③学習指導要領の変遷 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	S P I 検査について調べる。（45分）	S P I 検査受検の感想を書く。（45分）
11	教育原理のまとめ①教育改革の流れ 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
12	教育原理のまとめ②現代の教育課題 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
13	小論文についての学修①小論文の構成 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
14	小論文についての学修②小論文の作成 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
15	小論文についての学修③小論文の評価 法令・各申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	事後課題を行い次時に提出すること。（45分）
16	後期の学修の総括及び反省 演習のフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に課された課題を行い提出すること。（45分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：宮嶋 達也)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けて、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP5に対応する。							
到達目標							
(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。 (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。 (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。							
授業全体の内容と概要							
授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。							
授業の方法							
グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に動く。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。 ①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人 ②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人 ③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組む、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	宮嶋 達也 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 宮嶋 達也)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	前期の活動における確認とフィードバック シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	演習の準備 シラバスの熟読 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)
16	1年間の活動における総括とフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前に作業しておくなどの準備 (45分)	演習内容を確認して理解を深める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：		横山 哲也		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標							
学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本をしっかりと身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本を修得できる。							
授業全体の内容と概要							
金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、SPIの基礎知識（非言語分野）と解き方の基本について実感をつかませる。							
授業の方法							
授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。 レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が100%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が90%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が80%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が70%理解できた。	SPIの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方（思考過程）を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：		横山 哲也		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明 科目を終了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	資料の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	順列・組み合わせ	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	確率のとらえ方	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	集合	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	推論	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	ものの流れと比率	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	ブラックボックス	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	グラフの領域（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	グラフの領域（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
11	グラフの領域（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	論証（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	論証（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	論証（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	論証（4）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック 科目を終了して「身に付く力」についての検証	総復習（45分）	総理解（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、一人ひとりがより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

実際の都市空間を対象に、パブリックスペースのアップデート手法を検討・表現・発表を行う。また良い提案を行うには綿密な調査が必要であることから、前半は利用者ニーズや将来像のリサーチを重点的に行う。□SDGs 3.すべての人に健康と福祉を□SDGs 11.住み続けられるまちづくりを□SDGs 12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。模型製作に必要なカッターマット（A3サイズ推奨）、カッター、ボンド、金尺（15cm、30cm）、スコヤを用意すること。調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	都市空間の調査・研究	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
3	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
4	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
5	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
6	都市空間の調査・研究 中間発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
7	課題「都市空間のアップデート」課題説明	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
8	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
9	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
10	SPI 性格検査実施	S P I 検査について調べる。（４５分）	S P I 検査受検の感想を書く。（４５分）
11	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
12	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
15	課題「都市空間のアップデート」課題 発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価すること（４５分）
16	発表・まとめ、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習,実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)			研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター	
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 恵利)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標							
大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得る能力を身につける。							
授業の位置づけ							
交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3．すべての人に健康と福祉を」「SDG7．エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「SDG10．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。							
到達目標							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
授業全体の内容と概要							
学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をするこもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。							
授業の方法							
教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	35%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができないという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習,実習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 恵利)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明)自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習 (45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う (45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	後期学習範囲の総括(「身につける力」の検証)反省・最終課題の提出授業に係る講評・施設によるフィードバック	最終課題提出の準備 (45分)	授業内容復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。 フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。 チームワーク力を涵養する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
①福祉に関する専門用語を覚える。 ②自分に適した暗記方法を身につける。 ③協調性を身につける。							
授業全体の内容と概要							
①福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。 ②フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。 ③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。 ④SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。 ②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。 ③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。 ④内容により、使用する資料を配布する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
30分以上の遅刻は欠席とする。 出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席があること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通して、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：大島康雄）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術① 科目を終了して『身に付く力』についての説明	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
2	専門演習ⅡAの振り返り	前期のまとめた内容を整理する。（45分）	発表した内容を振り返る。（45分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
7	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑥	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
8	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（45分）	相談援助技術をロールプレイする。 （45分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	SPI性格検査の準備を行う。（45分）	SPI性格検査の振り返りを行う。（45分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）
16	授業内フィードバック まとめ 科目を終了して『身に付く力』についての検証	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。 （45分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	３０％	０％	４０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を超えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を超えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べる事ができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、オリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
2	資料を読む (1) 文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
3	資料を読む (2) 文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
4	資料を読む (3) 文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
5	産業としてのマンガ (1) 雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師への質問を考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	ゲスト講師への質問を考える (45分)
6	産業としてのマンガ (2) 雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師参加	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (1) 作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (2) 作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	個人発表の準備をする (45分)
9	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ (3) 作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (45分)	個人発表の準備をする (45分)
10	個人発表 (1)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
11	個人発表 (2)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
12	個人発表 (3)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
13	個人発表 (4)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りをする (45分)
14	個人発表 (5)	個人発表の準備をする (45分)	個人発表の振り返りと、レポートを作成する (45分)
15	まとめ 期末レポートの提出	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)
16	期末レポートの解説、フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく (45分)	授業内容を復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田晩生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
公務員という仕事の理解を深めるため、行政各種の取り組みを調べ、目指すべき公務員の姿を明らかにして、そのために必要な学習を自ら行うことができるようにする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
行政の制度や服務について概要を理解することができる。 社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。							
授業全体の内容と概要							
公務員の種類と職務内容について調べ学習 行政の機構と今日的課題についてのリサーチ SPI 3対策を通した一般教養の学修 漢字検定等への参加 「SDG11 住み続けられるまちづくりを」の関連項目							
授業の方法							
テーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。 公務員として求められる一般教養、文章力、語彙力向上のための演習を行う。 資料内容、発表内容等に対して、自己評価を下にしたフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教育又は行政に強い関心がある者。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を修得するとともに、関連した事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を修得したが、期待するレベルまで到達することができなかった。
グループワークによる内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおとして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおとして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおとして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおとして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等を行うことがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら積極的課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもって参加し、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：千葉 聡美)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『別途購入案内する。』』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明、基礎ゼミⅡAの学びの振り返り等科目を履修して『身に付く力』についての説明	シラバスを読む（45分）	説明内容を整理する（45分）
2	教育現場の課題について漢字・一般教養小テスト文章読解と要約	ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
3	課題の整理と解決の考察漢字・一般教養小テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
4	課題の整理と解決の考察漢字・一般教養小テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
5	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
6	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
7	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
8	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
9	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
10	SPI性格検査実施（キャリア支援センター）		
11	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
12	生徒指導要読を読む漢字・一般教養小テスト	指定された箇所を読み込む。ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
13	学修したことをプレゼンテーションにまとめて発表	プレゼンテーション準備。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
14	学修したことをプレゼンテーションにまとめて発表	プレゼンテーション準備。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
15	全学修内容の振り返りとフィードバック小論文・面接対策	ネット等で情報収集。漢字練習（45分）	内容を整理し復習する。（45分）
16	全学修内容の振り返りとフィードバック小論文・面接対策科目を履修して『身に付く力』についての検証	学修のまとめを作成（45分）	1年間の学びを整理する。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
前期基礎ゼミナールⅡAでの学びと考察を踏まえ、若者の雇用、大卒者の就職の状況を、日本と諸外国との比較の中で確認し、考察、理解する力を身に付ける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組む、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組んだが、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準にとどかず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者： 山本 一彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	※科目ガイダンス ゼミ内容等シラバス (「身に付く力」を含む) の説明	シラバスの事前確認 (45分)	ガイダンス内容の確認 (45分)
2	I...現代日本社会の雇用・就職 1.大卒就職の歴史	日本の大卒就職の現状の意識化 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
3	I.1.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
4	I.1.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
5	I.1.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
6	I.2.若者の雇用の変化と現状	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
7	I.2.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
8	I.2.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
9	I.2.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
10	I.2.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
11	II.大卒就職・雇用の国際比較	日本の大卒就職・雇用の特徴のイメージ化 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
12	II.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
13	II.(続き)	前回のゼミ内容の確認 (45分)	ゼミ内容の復習 (45分)
14	III.自らの進路決定に向けて	自らがどのような活動分野・仕事・職業を選択する かの明確化 (45分)	選択分野・仕事・職業の再確認 (45分)
15	IV.後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施、「身に付く力」の検証 ・確認、授業に係る諸評・解説によるフィードバック	後期のすべての活動の振り返り (45分)	振り返り内容の再確認 (45分)
16	※総括・振り返り	15回分の内容の振り返り (45分)	総括の再確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在		2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
困ったことがあったら、カウンセラーと対応するので、すぐに相談すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	河田 一郎 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：河田 一郎)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明。 授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この 科目を受講すること、誰よりも早く、就活を勝ち 取るための準備を始めること。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」 授業改善に向けたアンケ ートを実施。これまでの授業について講評を行い、 フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践の指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解し、説明することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、客申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学習
教師に求められる教職教育等の学び
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、客申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。
教師に求められる教職教育等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。

○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。

○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）

○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。

○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを超えて達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する今日的な課題について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 「シラバス」イミの進め方」「科目を修了して身に付く力」の説明	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	○学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	○学校の管理運営と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	○学校の管理運営と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	○教員の身分・服務と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	○教員の身分・服務と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	○学校の説明責任・地域参画と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	○学校の説明責任・地域参画と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	○児童生徒の在学関係・生徒指導と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	○児童生徒の在学関係・生徒指導と法② 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
11	○教育課程・教科書・教育評価と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	○教育課程・教科書・教育評価と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	○学校保健安全・学校給食と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	○学校保健安全・学校給食と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	○学校事故と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	○学校事故と法② 学修発表 後期の学修の総括及び反省(フィードバックと科目	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

前期で準備した内容をもとに、プロジェクトの実施・運営を行う。計画に沿って活動を進め、発生した課題に対応しながら改善を重ねる。進捗を共有し、振り返りを行うことで、チームの協働力や問題解決能力を高め、実践的な学生スキルを身につける。また、活動の成果を整理し、プロジェクトの総括として報告書やプレゼンテーションを作成する過程で、論理的な構成や効果的な表現方法を学び、アカデミックスキルを強化する。さらに、情報の整理や適切なフィードバックを活用することで、より効果的な学習方法を習得し、スタディスキルの向上を目指す。1年間の学びを通じて、計画立案・実行・評価のプロセスを実践的に経験し、主体的に行動する力を養うことを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

- ・計画に基づいて実行し、チームで協力して成果を出すことができる。(学生スキル)
- ・継続的に進捗を確認し、問題解決や改善点を発見して次の行動に活かせる。(スタディスキル)
- ・実践を通じて専門的なスキルを活用し、プロジェクトを効果的に推進できる。(アカデミックスキル)
- ・フィードバックを受け入れ、成果を改善する方法を考え、学びを深めることができる。(学生スキル)
- ・結果を論理的に整理し、報告書やプレゼンテーションを通じて成果を効果的に発表できる。(アカデミックスキル)
- ・プロジェクト活動を振り返り、学びの過程と成果を評価し、次の学びに活かせる。(スタディスキル)

授業全体の内容と概要

計画に基づいてプロジェクトを実行し、発生した課題に対応しながら成果を発信・改善する。最終的にはプロジェクトの成果を評価し、報告書やプレゼンテーションを作成して学びをまとめる。

本科目はSDGsの以下の項目に相当する。

- ・SDGs4.「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDCAサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。

- ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。
- ・提示した教材は、全IMSにて公開・配信する。
- ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
- ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
- ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
プロジェクト実行力	計画通りに実行し、問題解決能力を発揮しながら成果を上げた。	計画通りに実行したが、いくつかの課題に直面し改善点があった。	実行は行ったが、計画通りに進まず課題解決に時間がかかった。	実行が遅れ、計画通りに進まないことが多かった。	実行がほとんど行われず、計画の進行が大きく遅れた。	
課題対応と改善	発生した課題に迅速に対応し、改善策を適切に実行した。	課題に対して適切に対応し、改善策を実行したが、改善の余地があった。	課題に対応はしたが、改善策の実行がやや不十分であった。	課題対応が遅れ、改善策の実行が不十分だった。	課題に対応せず、改善策がほとんど実行されなかった。	
成果発信・プレゼンテーション	成果を論理的かつ明確にまとめ、効果的に発表した。	成果をまとめ発表はしたが、少し改善の余地があった。	情報収集は行われたが、成果をまとめたが、発表が不十分で理解しづらかった。分析が不十分であった。	成果のまとめが不十分で、発表に難点が多かった。	成果のまとめがほとんどされず、発表もほとんど行われなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者： 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスを確認する (45分)	履修登録結果を確認する (45分)
2	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	不明な点をまとめ、調べる (45分)
3	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	不明な点をまとめ、調べる (45分)
4	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
5	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
6	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
7	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
8	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
9	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
10	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
11	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
12	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
13	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
14	プロジェクトの確認・準備	プロジェクトの内容を詰める (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
15	プロジェクトの実行	プロジェクトの最終確認 (45分)	ここまでの授業内容を整理する (45分)
16	プロジェクトの総括・内容のフィードバック、改善点の洗い出し、次年度に向けてアドバイス	プロジェクトの結果をまとめる (45分)	フィードバック、改善点等をまとめてレポートを提出する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング: BAS002006)				
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	学生が授業内容や学生生活を相談できる時間として研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深めることにより、学生生活における健康維持のための運動（陸上駅伝）の大切さについての基礎知識を理解する。 陸上競技の知識と技能を身につけさせる。						
授業の位置づけ						
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。						
到達目標						
生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身につける。 陸上競技（駅伝）を通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことでなく、卒業後に訪れるだろう社会人生活における健康づくりについて述べるができる。						
授業全体の内容と概要						
講義では、走ることにより、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。 陸上競技の知識と技能を身につけさせる。						
授業の方法						
資料を通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。 健康に関するキーワードについて調べ学習の発表を行います。 ※来週の手配が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある」						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
積極的に取り組むことを期待します。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数13回以上 陸上競技の知識と技能を身につけたかどうか大会等の結果で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を深く理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識をおおむね理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を多少理解して知識と技能を身につける事ができた。	陸上（駅伝）と、健康についての基礎的な知識を理解できず知識と技能を身につける事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	学生が授業内容や学生生活を相談できる時間として研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
2	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
3	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
4	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査③	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
5	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査④	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
6	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑤	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
7	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑥	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
8	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑦	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
9	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑧	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
10	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑨	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
11	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑩	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
12	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑪	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
13	陸上 (駅伝) と、健康についての学生調査⑫	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
14	学生調査研究個人発表 リハーサル発表①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
15	学生調査研究個人発表 本番②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
16	総まとめ・講評 身に付く力がついたかどうかフィードバックして検 査	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。 (45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
基礎ゼミナールⅠA、ⅠBで学習したことを基礎とし、絵画制作についての知識や技術をより高められるようにし、そして絵画の果たすべき役割や意義についてより深く学修する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	80%	0 %	20%	0 %

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
支持体について(布や紙等の貼り方を含む)	支持体の作り方の基本について十分に身についた。	支持体の作り方の基本について身についた。	支持体の作り方の基本についてほぼ身についた	支持体の作り方の基本についてある程度身についた。	支持体の作り方の基本について身につかなかった。	
色剤、展色剤について	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が十分に身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がほぼ身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識がある程度身についた。	色剤や展色剤の乾燥速度や被覆力、重色などの基本的知識が身につかなかった。	
描写、彩色について	モチーフの面やパルルなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルルなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルルなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルルなどがある程度の確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルルなどを的確にとらえた描写が行えなかった。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	1 (単位認定責任者： 安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近い美術教師として、また50年以上にわたる画家としての実績			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、科目を修了して『身に付く力』についての説明 【古今の作品について（構図を主に）】	インターネット等を活用し、古今の作品に触れる。 (90分)	自作についての構想を練る。(90分)
2	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について	洋画作品の構造と用材、木材、布、紙等の性質について予習する。(90分)	自作についての構想を練る。(90分)
3	支持体製作 木材の裁断、木工具の取り扱い方について 布や紙等の貼り方について	木材の裁断、木工具の取り扱い方、布や紙等の貼り方について予習する。(90分)	構想がまとまった段階で、下絵の制作を始める。 (90分)
4	支持体製作 地塗り材の処方、地塗りについて	構想について最終的な確認を行う。(90分)	下絵を仕上げる。(90分)
5	支持体製作 地塗り面の研磨、下絵の転写作業について	下絵に訂正箇所がないかを確認する。(90分)	エッグテンペラでの作例を参照する。(90分)
6	エッグテンペラ等での下描き エッグテンペラ用展色剤の処方、下描きについて	エッグテンペラ等の展色剤の処方について予習する。 (90分)	本時での制作を振り返り検討する。(90分)
7	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について予習する。 (90分)	油彩絵具の透明性や被覆力、重色等について復習する。 (90分)
8	油彩による上描き 1 大まかな面を把握し、かつ下描きを活かした描写について	下描きを活かした大まかな油彩による上描きについて検討する。(90分)	下描きを活かした大まかな油彩による上描きが行えたかを振り返る。(90分)
9	油彩による上描き 2 色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について予習する。(90分)	相互の色面の明度差と立体感等に及ぼす効果について振り返る。(90分)
10	油彩による上描き 3 立体感や奥行き感と色彩調和について	色彩調和について予習する。(90分)	立体感や奥行き感と色彩調和について検討する。 (90分)
11	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 1	油の乾き具合とテンペラでの加筆のタイミングについて予習する。(90分)	エッグテンペラという異質な材料のもたらす効果について振り返る。(90分)
12	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 2	加筆したテンペラについて不備等がないかを検討する。(90分)	立体感、奥行き感、色彩調和等について総合的に振り返る。(90分)
13	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 3	筆触・タッチ について予習する。(90分)	意図とおりの描写を叶えるにふさわしい筆等について検討し、必要に応じてあらかじめ用意する。(90分)
14	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 4	細部と全体との関連と調和について検討する。(90分)	細部と全体との関連と調和が実現できているかを検討する。(90分)
15	油彩による上描きとエッグテンペラによる加筆 5	色価・パルルール に狂いのある箇所がないかを検討する。(90分)	仕上げを前に、これまでの制作について総点検を行う。 (90分)
16	仕上げと合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバック	自作について、他者に尋ねるべき点についてまとめる。 (90分)	合評会で得られた、他社の意見や感想などをどのように作品に反映させるか検討する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	基礎ゼミナールⅡB (科目ナンバリング：BAS002006)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	GISを活用した地域分析①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	先行研究を収集すること。(90分)
3	GISを活用した地域分析②	先行研究を収集すること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
4	地域に関する先行研究発表①	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
5	GISを活用した地域分析③	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
6	GISを活用した地域分析④	発表準備をすること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
7	GISを活用した地域分析⑤	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	地域分析結果議論①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	地域分析結果議論②	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地域課題解決方法議論①	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	地域課題解決方法議論②	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	地域課題解決方法議論③	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	地域分析結果報告①	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	地域分析結果報告②	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	地域分析結果報告③	報告の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 全体を講評し、フィードバックする 科目を終了して『身に付く力』についての検証	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期		授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプログラム (科目ナンバリング：DES091059)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授) 三上 いずみ (デザイン学科・准教授)			研究室等所在	2号館7階 (佐藤)・2号館8階 (三上)	
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	(佐藤) デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 (三上) 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	(佐藤) 事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 (三上) 研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につける。 クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。 イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験する。 クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶ。 イラストやマンガで表現することを学ぶ。							
授業全体の内容と概要							
クリエイティブな内容に触れることで感性を磨き、視野を広げ、表現力を身につけ、人としての成長を促す。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業。							
授業の方法							
いろいろな画材を用いてアナログの制作の体験をする。 使用する画材はすべてこちらで用意する。 PowerPointで技法の説明をする場合がある。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
筆記用具のみ持参すること。 授業の始めに説明するので遅刻はしないこと。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全8回のすべての授業に出席すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけ制作に活かすことができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法をある程度身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができなかった。
表現力	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを十分に身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルをある程度身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学ぶ。	イラストやマンガで表現することを学ぶことができなかった。
主体的な学び	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけ、制作に活かすことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢をある程度身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期		授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプログラム (科目ナンバリング：DES091059)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授) 三上 いずみ (デザイン学科・准教授)			研究室等所在	2号館7階 (佐藤)・2号館8階 (三上)	
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	(佐藤) デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 (三上) 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	(佐藤) 事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 (三上) 研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・「身に付く力」についての説明 マンガ技法① つけペンの使い方	シラバスを読んでおくこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
2	マンガ技法② 構図・ペン入れの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
3	マンガ技法③ ペン入れ・ベタめり	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
4	マンガ技法④ 作品発表・講評にてフィードバック 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容を振り返り、理解を深める (45分)
5	シラバスの説明・「身に付く力」についての説明 イラスト制作①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
6	イラスト制作②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
7	イラスト制作③	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き (45分)
8	イラスト制作④ 作品発表・講評にてフィードバック 「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	授業内容を振り返り、理解を深める (45分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅱ (科目ナンバリング：SWS121018)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学部・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

1. 福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。

2. 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。

3. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。

4. 福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

1. 社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。

2. ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。

3. 福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。

4. 主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。

授業全体の内容と概要

1. 「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。

2. 福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。

3. 福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及びソーシャルワークとの関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。

4. 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。

2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。

3. 適宜質問を促し、質問に対応する。

4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。

5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえ、社会保障やソーシャルワークの基盤と専門職など、他の授業との関わりに注意する。

2. 教科書は必ず持参すること。

3. 必要な資料等は適宜配布する。

4. 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。

5. 適宜質問に対応する。

6. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。

7. スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

8. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30%の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	社会福祉の原理と政策Ⅱ (科目ナンバリング：SWS121018)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学部・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について (種類とその特徴, 新たな構築など)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
3	福祉政策の構成要素について (福祉の基礎構造, 措置制度から契約方式へなど)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
4	福祉政策の過程について (福祉のPDCAサイクル, 福祉計画、実施方法と手段など)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
5	福祉政策の動向と課題について (地域包括ケアシステムなど)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
6	直接福祉を目的としない政策 (保健医療政策および防災・災害時避難政策)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
7	直接福祉を目的としない政策(1) (権利擁護政策)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
8	直接福祉を目的としない政策(2) (権利擁護政策)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
9	直接福祉を目的としない政策 (所得政策および雇用政策)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
10	直接福祉を目的としない政策 (住宅政策および教育政策)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
11	ソーシャル・サービスの供給部門について (福祉の多元化を含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
12	ソーシャル・サービスの供給過程について (福祉行財政、市場化などを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について (対人援助とコミュニティを含む)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について まとめとして、ソーシャル・ポリシーにおける公平	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	発達心理学Ⅱ (科目ナンバリング：EDP122067)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者： 蝦名 美穂)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室にて対応。					

概要

履修目標							
こどもと家族を包括的支援の視点から、発達心理学、臨床心理学などの基礎的知見を踏まえ、現代の社会の状況や課題を明確にし、その支援のあり方について学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP3，DP4，DP5に対応する科目。							
到達目標							
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。							
・子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。							
授業全体の内容と概要							
発達心理学Ⅰで学んだ内容を基礎とし、青年期以降の発達の特徴について学ぶ。 そして、こどもの発達に果たす家族、家庭の機能について考える。 子育てや教育に関する各回のテーマに関する記事を自身の関心に従い新聞やニュースから探し、目を通してから授業に臨み、授業後には関連を自分なりにノートにまとめておくことを期待する。							
「SDG. 4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では、テキスト、パワーポイント、配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。そして、PC及びスマートフォンを使用する。 学習内容の定着および学習理解度を確認するため、毎時間の終了時に質問や感想（リアクションシート）をMicrosoft Teams/Formsの諸機能を活用して、提出する。 これに対して授業者より、次回の講義時もしくは個別にコメントを回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自分で振り返ることができるようなノートづくりを心がける。 授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。 テキストを必ず購入すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1.1回とする。レポート課題、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）、授業態度を評価の対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を履えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について、資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ずに説明ができ、自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ながら説明ができ、自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について、資料等も見ながら説明ができる。	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について、説明ができる。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	発達心理学Ⅱ (科目ナンバリング：EDP122067)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室にて対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『事例で楽しむ学ぶ子ども家庭支援の心理学』	芝野松次郎	中法法規	2023	9784805888438	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く」力の説明を含む）；授業改善アンケート結果反映の説明	発達心理学Ⅰで学んだことを確認しておくこと（90分）	授業で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	青年期の発達の特徴と課題①	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	青年期の発達の特徴と課題②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	成人期・老年期の発達の特徴と課題	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	子どもの生活・生育環境とその影響	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	子どもの心の健康にかかわる問題①	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	子どもの心の健康に関わる問題②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	子育てを取り巻く社会的状況① VTR視聴	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	子育てを取り巻く社会的状況②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	ライフコースと仕事・子育て	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	多様な家庭とその理解	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	特別な配慮を必要とする家庭	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	家族・家庭の意義と機能	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	親子関係・家族関係の理解	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	子育て経験と親としての育ち	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	これまでの学習のまとめ。授業改善アンケートの実施。 講義についてのフィードバック。科目を修了して	これまでの学習内容について振り返る（90分）	これまでの学修姿勢について自ら振り返り評価する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門演習	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 由水 伸)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスの確認 (90分)	事前資料の確認 (90分)
2	論文の文体の特徴と注意点 (2) 事例別) 書き方の理解	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
3	卒論のテーマと概要の報告	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
4	データ収集の方法、先行研究の検索、関連する文献 検索	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
5	先行研究の紹介と、これから作成する論文の独自性 について	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
6	論文の書き方：構成について (仮目次)、研究方法	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
7	引用の方法、知的財産権、研究倫理	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
8	参考文献の書き方、要旨の書き方	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
9	進捗状況の報告と質疑応答	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
10	中間発表 (学科指定の日程に合わせる)	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
11	執筆と推敲、フィードバック	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
12	執筆と推敲、フィードバック	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
13	執筆と推敲、フィードバック	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
14	執筆と推敲、フィードバック	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
15	要旨と目次、校正、レイアウト修正、印刷	予習課題 (90分)	課題振り返り (90分)
16	卒論発表・ディスカッション (提出とフィードバック) 授業に係る講評・解説によるフィードバック	授業振り返り作成 (90分)	全体振り返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134149, THE434090,)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	4 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
本学での3年数か月間に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をもとに経営学部生としての終活として論文を作成する。各自自主的にテーマを設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。学問的に問題解決する力を身に付けることを目的とする。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。						
授業全体の内容と概要						
「題材」に沿った形でテーマを決定し作成を進める。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。						
授業の方法						
自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報道相を繰り返すことにより高いクオリティを求める。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
						PBL 反転授業 その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
適宜アナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出处、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の制約を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。尚、不測の事態の際はオンラインで指導する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回/16回（26回/32回）以上。 最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	4 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して (科目オリエンテーション) シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の	180分	180分
2	担当教員による指導①	180分	180分
3	担当教員による指導②	180分	180分
4	担当教員による指導③	180分	180分
5	担当教員による指導④	180分	180分
6	担当教員による指導⑤ 中間審査①	180分	180分
7	担当教員による指導⑥	180分	180分
8	担当教員による指導⑦	180分	180分
9	担当教員による指導⑧	180分	180分
10	担当教員による指導⑨	180分	180分
11	担当教員による指導⑩ 中間審査②	180分	180分
12	担当教員による指導⑪	180分	180分
13	担当教員による指導⑫	180分	180分
14	担当教員による指導⑬	180分	180分
15	担当教員による指導⑭	180分	180分
16	担当教員による最終指導と論文提出期限の確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	180分	180分

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜準備・配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して (科目オリエンテーション) シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の	シラバスの確認 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
2	卒論指導①	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
3	卒論指導②	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
4	卒論指導③	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
5	卒論指導④	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
6	卒論指導⑤ 中間審査①	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
7	卒論指導⑥	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
8	卒論指導⑦	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
9	卒論指導⑧	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
10	卒論指導⑨	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
11	卒論指導⑩ 中間審査②	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
12	卒論指導⑪	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
13	卒論指導⑫	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
14	卒論指導⑬	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
15	卒論指導⑭	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)
16	最終指導と論文提出期限の確認 これまでの演習ならびに卒論へのコメント 授業に係る随評・随説によるフィードバック	前回の演習で指示した内容を予習 (180分)	演習内容をノートにまとめる (180分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134149, THE434090,)				
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学部・特任教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	4 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
本学での3年数か月に及ぶ学びから、蓄積された知識と経験をともに経営学部生としての総括として論文を作成する。各専門演習担当教員が示した題材をもとに各自自主的にテーマを設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加えてもらう。学問的に問題解決する力を身に付けることを目的とする。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
多岐にわたる経営学の分野を理解・研究し、明確なテーマに沿って客観的考察を行う。また、そのために必要な資料やデータを収集し文字化する。可能な限り後輩や社会の未来に対し財産となるような取り組みを期待する。						
授業全体の内容と概要						
それぞれの担当教員が提示している「題材」に沿った形でテーマを決定し作成が進められる。最終的な成果を論文の形にまとめることが求められる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査など持てる能力を全て発揮してもらう。						
授業の方法						
自分で決めたテーマに沿った考察を行うため既修内容を考慮しつつ情報収集・分析・考察を加え客観文にまとめ上げること。中間審査や担当教員との報道相を繰り返すより高いクオリティを求める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐ PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
アナウンスするので、その指示に従うこと。本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、担当教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出处、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の削荷を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。これらは積極性を確認する極めて有効な手段であると断じる。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を確立するための努力をしている。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営学部・特任教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	4 (単位認定責任者： 岡島 徳昭)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して (科目オリエンテーション) シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の	180分	180分
2	担当教員による指導①	180分	180分
3	担当教員による指導②	180分	180分
4	担当教員による指導③	180分	180分
5	担当教員による指導④	180分	180分
6	担当教員による指導⑤ 中間審査①	180分	180分
7	担当教員による指導⑥	180分	180分
8	担当教員による指導⑦	180分	180分
9	担当教員による指導⑧	180分	180分
10	担当教員による指導⑨	180分	180分
11	担当教員による指導⑩ 中間審査②	180分	180分
12	担当教員による指導⑪	180分	180分
13	担当教員による指導⑫	180分	180分
14	担当教員による指導⑬	180分	180分
15	担当教員による指導⑭	180分	180分
16	担当教員による最終指導と論文提出期限の確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	180分	180分

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	4（単位認定責任者： 青山 浩之）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身に付け、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。専門領域を通して、総括として論文を作成する。各自自主的にテーマを背設定し、学問的（客観的・論理的）な思考・考察を加え、問題解決に取り組む。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。多岐にわたる分野を理解・研究し、客観的考察を行う。そのために必要な資料やデータを収集しまとめる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。
提示している「題材」に沿ってテーマを決定し作成が進められる。最終的な成果を論文の形にまとめる。その過程における資料収集やデータ作成、アンケート調査などを用い、客観的考察を行う。

「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

卒業論文を進める上で、「法学」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
自分で決めたテーマに沿った考察を行うため、情報収集・分析・考察を加え、論文をまとめ上げる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本科目は学習内容のエビデンスとしてのデータベースを重視する。データベースとは、担当教員が設定した内容を自学・自習しテーマを決めるに至った過程、並びに論文作成に用いた考え方やデータの出処、それらの要点をまとめた電子媒体を指し、重要タームに関しては各自が理解した内容およびネット上から得た知識の確認を以て学習態度を計る。学習態度とは、本科目においては一切の削切を廃し、論文作成に係るすべてのエビデンスの有無を確認することにある。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	エビデンスとしてのデータベース評価で90点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で80点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で70点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点以上の得点を挙げた。	エビデンスとしてのデータベース評価で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解の努力を深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力が見られる。	論文に取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が認められるが活動と論文の間の関連性が希薄である。	論文への取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が確認できない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も得て前向きに学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	4（単位認定責任者：青山 浩之）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
2	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 卒業論文要領確認	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
3	卒業論文テーマ作成（1）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
4	卒業論文テーマ作成（2）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
5	卒業論文調べ学習（1）新聞・白書	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
6	卒業論文調べ学習（2）図書館	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
7	卒業論文調べ学習（3）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
8	卒業論文作成（1）卒業論文概要作成	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
9	卒業論文作成（2）卒業論文概要作成	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
10	卒業論文作成（3）卒業論文概要講評	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
11	卒業論文作成（4）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
12	卒業論文作成（5）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
13	卒業論文作成（6）卒業論文発表（1）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
14	卒業論文作成（7）卒業論文発表（2）	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
15	卒業論文作成（8）卒業論文講評	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）
16	卒業論文作成（9）卒業論文講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業への参加の心構えを考える。（180分）	授業の振り返りを行う。（180分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタントとして、様々な経験を有していることから、フィールドワークによる調査を推奨する。			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	本学経営学部生として取り組む論文の体裁に関して (科目オリエンテーション：石山玄幸) シラバスの 説明 (科目を終了して「身に付く力」の説明含む)	180分	180分
2	石山玄幸による指導①	180分	180分
3	石山玄幸による指導②	180分	180分
4	石山玄幸による指導③	180分	180分
5	石山玄幸による指導④	180分	180分
6	石山玄幸による指導⑤ 中間審査①	180分	180分
7	石山玄幸による指導⑥	180分	180分
8	石山玄幸による指導⑦	180分	180分
9	石山玄幸による指導⑧	180分	180分
10	石山玄幸による指導⑨	180分	180分
11	石山玄幸による指導⑩ 中間審査②	180分	180分
12	石山玄幸による指導⑪	180分	180分
13	石山玄幸による指導⑫	180分	180分
14	石山玄幸による指導⑬	180分	180分
15	石山玄幸による指導⑭	180分	180分
16	石山玄幸による最終指導と論文提出期限の確認。科目を終了して「身に付く力」の検証	180分	180分

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	4 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院運動生理学研究室での経験を活かして指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
対象外科目							
到達目標							
・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養、および自己の倫理観に基づき、果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択できる。 ・具体的な社会現象や社会問題を入りに、「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を、収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し、その本質を他者に説明することができる。 ・どのような研究課題や社会問題に対しても、その解決のために必要な情報や知識、資源を集め、分析を通じて解決策を提示することができる。							
授業全体の内容と概要							
全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。							
授業の方法							
個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが、教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。 本授業の事前・事後学習は、各90分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また翌週の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。 最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を優れたレベルで達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ① チームの一員としてのルールやマナーを守り、周りの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ② 相手の視点に立って、相手の考え方や感情を理解することができる（共感力を有する） ③ 研究活動に関わる諸規	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできていない	できていない
計画 ① 研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ② 得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③ 問題点（課題）を抽出することができる。 ④ その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできていない	できていない
技能（実施・検証） ① 確固たる技術の基に、実験を遂行することができる。 ② 実験に用いる薬品、器具、機器等を正しく取扱い、管理することができる。 ③ 研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできていない	できていない
まとめ・考察・発表 ① 研究結果を適切に整理することができる。 ② 得られた結果が示唆する事柄について、先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③ 研究の成果を発表し、的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできていない	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	4 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院運動生理学研究室での経験を活かして指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	180分	調査・研究データを整理する (180分)
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する (180分)	論文の目次構成を作成する (180分)
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する (180分)	論文の目次構成を作成する (180分)
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する (180分)	論文の目次構成を作成する (180分)
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する (180分)	論文の目次構成を作成する (180分)
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する (180分)	議論や難点をリストアップする (180分)
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる (180分)	リライトの内容を確認する (180分)
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う (180分)	草稿のリライトを行う (180分)
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う (180分)	草稿のリライトを行う (180分)
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う (180分)	草稿のリライトを行う (180分)
16	卒業論文の完成 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	卒業論文を完成させる (180分)	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う (180分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習する。 卒業論文の作成にあたり思考・判断・表現力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
・学修から得られた幅広く豊かな知識と教養、および自己の倫理観に基づき、果たすべき社会的責任を実現するための方法を適切に選択身につける事ができる。 ・具体的な社会現象や社会問題を入りに、「あたりまえ」の理解からは読み取れない現代社会の多層性と多様性を、収集したデータに基づき論理的・批判的に理解し、その本質を他者に説明することができる能力を身につける。 ・どのような研究課題や社会問題に対しても、その解決のために必要な情報や知識、資源を集め、分析を通して解決策を提示することができる。							
授業全体の内容と概要							
全ての回を課題研究でおこなう。毎回、メールにて課題研究の内容を担当教員に提出し、担当教員はメールでフィードバックをおこなう。							
授業の方法							
個人による研究成果報告とそれに対する教員による講評や解説をメインとするが、教員による講義ならびに履修者に対する個別指導も適宜おこなっていく。 本授業の事前・事後学習は、各90分の学習を目安とする。なお、各回における受講生からの報告や質問については、Teamsを用いて応答しつつ、受講者全体にフィードバックされるように授業を展開する。また翌週の回においても、重要な報告や質問について解説する時間を設ける。 なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、13回以上。 フィードバックして到達目標が獲得できたか身につける事ができたかどうか評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ① チームの一員としてのルールやマナーを守り、周りととの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ② 相手の視点に立って、相手の考え方や感情を理解することができる（共感力）を有する。 ③ 研究活動に関わる諸規	非常によく到達目標を身につける事ができた	よく到達目標を身につける事ができた	ある程度到達目標を身につける事ができた	どちらかというよく到達目標を身につける事ができていない	到達目標を身につける事ができていない
計画 ① 研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ② 得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③ 問題点（課題）を抽出することができる。 ④ その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
技能（実施・検証） ① 確固たる技術の基に、実験を遂行することができる。 ② 実験に用いる薬品、器具、機器等を正しく取扱い、管理することができる。 ③ 研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
まとめ・考察・発表 ① 研究結果を適切に整理することができる。 ② 得られた結果が示唆する事柄について、先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③ 研究の成果を発表し、的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	石井 祐治 (経営学科・特任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：石井 祐治)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 身に付ける力の授業内容とシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	ガイダンス 事前指導 (45分)	調査・研究データを整理する (45分)
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる (90分)	リライトの内容を確定する (90分)
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
16	卒業論文の完成 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・施設によるフィードバック	卒業論文を完成させる (90分)	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：篠原諒介)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
ゼミナールで修得した研究方法や研究に対する知見を踏まえ、履修者みずからの問題関心に基づき、これまで進めてきた研究と学生生活の集大成として、卒業論文の執筆を行うための方法を学習し身に付けることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上					

ルーブリック		評価基準			
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的事項 ① チームの一員としてのルールやマナーを守り、周りの協調性を持って研究に取り組むことができる。 ② 相手の視点に立って、相手の考え方や感情を理解することができる（共感力）を有する。 ③ 研究活動に関わる諸規	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
計画 ① 研究テーマに関連する知識を能動的に得ることができる。 ② 得られた知識を論理的に組み上げることができる。 ③ 問題点（課題）を抽出することができる。 ④ その解決ための適切な	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
技能（実施・検証） ① 確固たる技術の基に、実験を遂行することができる。 ② 実験に用いる薬品、器具、機器等を正しく取扱い、管理することができる。 ③ 研究活動中に生じたトラブルを指導者や研究室員	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない
まとめ・考察・発表 ① 研究結果を適切に整理することができる。 ② 得られた結果が示唆する事柄について、先行研究を適切に引用しながら、論理的に考察することができる。 ③ 研究の成果を発表し、的確な質疑応答をすること	非常によくできている	よくできている	どちらかというどできている	どちらかというどできている	できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：篠原諒介)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	調査・研究データを整理する (90分)	調査・研究データを整理する (90分)
2	調査・研究の結果をレジュメにまとめる①	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
3	調査・研究の結果をレジュメにまとめる②	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
4	調査・研究の結果をレジュメにまとめる③	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
5	調査・研究の結果をレジュメにまとめる④	調査・研究データを整理する (90分)	論文の目次構成を作成する (90分)
6	卒業論文の執筆①	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
7	卒業論文の執筆②	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
8	卒業論文の執筆③	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
9	卒業論文の執筆④	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
10	卒業論文の執筆⑤	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
11	卒業論文の執筆⑥	卒業論文を執筆する (90分)	議論や難点をリストアップする (90分)
12	書き上げた草稿を持参して、相互に内容確認する	草稿を書き上げる (90分)	リライトの内容を確定する (90分)
13	草稿をリライトして精度を上げる①	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
14	草稿をリライトして精度を上げる②	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
15	草稿をリライトして精度を上げる③	草稿のリライトを行う (90分)	草稿のリライトを行う (90分)
16	卒業論文の完成 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	卒業論文を完成させる (90分)	内容の要旨を完成させ、発表の準備を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年生			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	4 (単位認定責任者：小林 大州介)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	ゼミ初回・もしくは研究室掲示板にて確認					

概要

履修目標							
担当教官の専門領域を通じ、これまで本学で3年にわたって学び、培ってきた知識や経験をもとに、独自のテーマを設定して、集大成としての卒業論文を作成する。各人が積極的・主体的に資料を収集し、教員との議論を通じて科学的・客観的な論文を書けるように努め身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
経営学を含む、自分の関心領域に関する議論の内容を吟味し、客観的・科学的な論理を用いた文章が書けるように修練する。特に、明確な目的設定、先行する議論の収集、データの扱い方などの技術を集中的に学ぶ。							
授業全体の内容と概要							
各自が設定し、担当教員と良く議論した末に設定したテーマを論文に集約し、首尾一貫しており、説得性・客観性に富む議論が出来るように心がける。							
授業の方法							
自分が設定したテーマ・目標に基づいて資料を収集し、分析できる形にまとめて、自分の仮説について良く議論する。特に、教員と良く連絡を取り合い、現在の進捗を報告し、内容について話し合うことが重要。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
開講時に進め方やスケジュールをアナウンスするので、良く聞いて記憶し、それを守ること。書籍を良く読み、様々なソースから情報を集め、そして集約できるスキルや、またデータや統計分析のための初歩的な知識も必用。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、13回以上。 最終的な評価は、学科の講評会を経て決定される。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	複数の図書を読み、知識や論理性、統計の読み取りなどの技能を身に付けている着けている。	複数の図書を読み、知識や論理性などを身に付けている	図書を読み、知識や論理性を身に付けている。	図書を読み、論理的に議論が出来る。	本を読まず、知識や論理をベースとした考え方をしていない。
思考力・判断力・表現力	エビデンスに基づく、主体的・論理的な議論が出来ている。	エビデンスに基づく、主体的な議論ができている。	エビデンスに基づく議論が出来ている。	主体的なテーマ設定が出来ている。	主体的なテーマももたず、またエビデンスに基づいた議論もできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年生			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	4 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	ゼミ初回・もしくは研究室掲示板にて確認					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	卒業論文作成に向けて講義内容と到達目標(身に付く力)について説明する	シラバスを良く読む（180分）。	学んだことをよく確認する（180分）。
2	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
3	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
4	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
5	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
6	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
7	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
8	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
9	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
10	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
11	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート・論文作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
12	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
13	担当教官による卒業論文の作成指導	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
14	担当教官による卒業論文の内容確認	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
15	担当教官による卒業論文の内容確認	議論のためのレポート作成（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）
16	卒論提出期限の確認と、内容の最終チェック後期の講評を行う。 授業に係る講評・解説によるフィードバック	卒論発表の準備（180分）	結果を復習し、ノートにまとめる（180分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習		必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	4 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標
専門演習ⅠA・ⅠBの授業の目的は『卒業論文のテーマを見つける』ことであり、卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要である。様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習ⅠA・専門演習ⅡBは、その過程を生み出す学習である。専門演習ⅡA・ⅡBの授業の目的は『卒業論文の執筆・完成させる』ことである。引き続き、ペースの遅い学生には、卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要であることから、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習ⅠA・専門演習ⅡBは、その過程を生み出す学習を継続し、早期に専門演習ⅡA・ⅡBの『卒業論文の執筆・完成させる』ことに引き上げることである。専門演習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBと上記のプロセスを経て段階を踏んできたが、卒業論文の科目は論文を完成させ、社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、期日までに提出を終える。また培った研究のスキルや思考力などは社会福祉専門職や企業で働いても、活用できるように身につける。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。
到達目標
卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し自分自身の成果を創造し、発表などをすることである。

授業全体の内容と概要

1. 順調な学生への対応 (1) 卒業論文の執筆の指導 (2) 卒業論文の完成までに指導 (3) 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目
2. ペースが遅い学生への指導 (1) 卒業論文のテーマを見つける。 (2) 卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。 (3) 卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。 (4) 卒業論文のテーマを確定させる。 (5) 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

1. 授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
2. 適宜、質疑応答を交える。
3. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
4. 地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
5. 大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
2. 必要な資料等は適宜配布する
3. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
4. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることから守秘義務の順守が求められる
5. 卒業論文の仮題報告、卒論提出日、メール提出日もあるので、確実に提出をする。 そのためにアルバイトや就職活動などの日程調整をしていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
卒業論文の提出をもって、卒業論文の量や質などで評価を行う。					

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成できる。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進んでいた。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画どおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成し提出できる。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成し提出できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成し提出できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、卒業論文が完成し提出できた。	卒業論文執筆の具体的計画を立て、それに沿って執筆が進み、教員の指摘も取り入れながら卒業論文が完成し提出できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表でき、尚且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習		必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	4 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆1～学生主体で教員指導 科目を修了して『身に付く力』についての説明	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
2	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆2～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
3	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆3～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
4	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆4～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
5	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆5～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
6	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆6～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
7	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆7～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
8	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆8～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
9	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆9～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
10	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆10～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
11	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆11～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による
12	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆12～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
13	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆13～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
14	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆14～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
15	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆15～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
16	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆16～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆17～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
18	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆18～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
19	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆19～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
20	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆20～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
21	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆21～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
22	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆22～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
23	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆23～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
24	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆24～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
25	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆25～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
26	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆26～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
27	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆27～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
28	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆28～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
29	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆29～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
30	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆30～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
31	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆31～学生主体で教員指導	指導教員による課題を行う (60分)	指導教員による課題を行う (60分)
32	先行研究の収集・検討、資料の収集・検討、卒業論文の執筆32～学生主体で教員指導 授業全体の総括	指導教員による課題を行う (60分)	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で振り返って検証しておくこと(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	4 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の収集・分析、参考文献の引用の方法を学ぶとともに、探究的な研究活動をおとして卒業後の実務にも生かせる主体的な学びの習慣や方法を身に付ける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を執筆、完成させ、自分が執筆した論文の内容をプレゼンテーションすることができる。							
授業全体の内容と概要							
プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。 フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。 プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。 質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 「SDG4：質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的にマンツーマンの指導で行い、進行状況によって、全体共有の機会をつくる場合がある。 推進状況によっては、個別に時間を設定して指導することがある。 Microsoft TeamsやForms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
「専門演習ⅡA・B」を担当する教員が指導する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
卒業論文の提出をもって、卒業論文の量や質などで評価を行う。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文の執筆	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら論理的な構成によってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら論理的な構成に自ら努めながらまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の助言を受けて、まとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、常に指導教員の支援や指示を受けながらまとめた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、自らまとめることができなかった。
文献調査やデータ収集・整理	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など自ら文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	指テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の助言を受けて、文献調査やデータ収集・整理を行ってまとめることができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の支援や指示を受けて文献調査やデータ収集・整理をほぼ行うことができた。	テーマ設定やテーマに基づく探究、内容の整理など、指導教員の支援や指示を受けても文献調査やデータ収集・整理を行っうことができなかった。
プレゼンテーションによる説明	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを工夫し、分かりやすく説明できた。	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し、分かりやすい説明に努めた。	自ら論文内容に沿ったプレゼンテーションを作成し、説明できた。	指導教員にアドバイスを受けながら論文内容のプレゼンテーションを作成し、発表した。	指導教員にアドバイスを受けながらも論文内容のプレゼンテーションの作成ができず、発表もできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	4 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 論文作成の目的、方法、計画の確認、科目を修了して「身に付く力」の説明	提示資料の作成、準備 (45分)	学修内容の確認 (45分)
2	文献研究等による情報収集・内容整理 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
3	文献研究等による情報収集・内容整理 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
4	文献研究等による情報収集・内容整理 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
5	論文内容と構成の検討 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
6	論文内容と構成の検討 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
7	論文の作成、執筆 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
8	論文の作成、執筆 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
9	論文の作成、執筆 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
10	論文の作成、執筆 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
11	論文の作成、執筆 5	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
12	論文執筆内容の共有・協議 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
13	論文執筆内容の共有・協議 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
14	論文の作成、執筆及び個別指導 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
15	論文の作成、執筆及び個別指導 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
16	論文の作成、執筆及び個別指導 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	論文の作成、執筆及び個別指導 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
18	論文の作成、執筆及び個別指導 5	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
19	論文の作成、執筆及び個別指導 6	指提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
20	論文の作成、執筆及び個別指導 7	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
21	論文の作成、執筆及び個別指導 8	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
22	論文の作成、執筆及び個別指導 9	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
23	論文の作成、執筆及び個別指導 10	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
24	執筆内容の共有、協議 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
25	論文の修正・加筆 1	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
26	論文の修正・加筆 2	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
27	論文の修正・加筆 2	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
28	プレゼンテーションの準備 1	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
29	プレゼンテーションの準備 2	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
30	プレゼンテーションの準備 3	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
31	論文内容のプレゼンテーションと視聴 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 1 講評・	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
32	論文内容のプレゼンテーションと視聴 フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 2 講評・	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）		研究室等所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4（単位認定責任者：専門演習ⅡAB担当教員）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各指導教員によって異なる。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）		研究室等所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4（単位認定責任者：		専門演習ⅡAB担当教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(履修によって「身に付く力」の説明を含む) 指導教員による	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による 「身に付く力」の検証)	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な内容は個別に通知する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による『身に付く力』についての説明 論文作成の目的、方法、計画の確認	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による修了して『身に付く力』についての 検証・フィードバック	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。 基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各指導教員によって異なる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 畠山 明子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による 科目を修了して「身に付く力」についての説明	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による フィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 松下 守邦 (社会福祉学科・教授))			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードにある対応時間、連絡方法などの案内を参照する。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
学生と教員の個別指導が主になるが、ゼミ・グループ4年生、3年生の合同学習をおこなう。 Microsoft Teams/Formsを利用し、情報共有、原稿修正などに活用する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ていねいに卒業論文の仕上げをおこなう。 不測の事態の際には、オンライン授業を行う場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
履修前の事前相談調整をおこない、大学の基本方針及び規程をふまえ、学生と教員（大学）が同意のもとに修学サポートをおこなう。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
専門演習ⅠAB、専門演習ⅡABの継続指導をふまえ、卒業論文を審査する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 松下 守邦 (社会福祉学科・教授))			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードにある対応時間、連絡方法などの案内を参照する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるシラバスと、本科目を修了して「身に付く力」について説明をする。	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
22	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
23	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
24	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
25	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
26	論文執筆、個別指導	指導教員による	指導教員による
27	論文提出（社会福祉学科提出日）	指導教員による	指導教員による
28	論文修正、加筆	指導教員による	指導教員による
29	論文修正、加筆	指導教員による	指導教員による
30	報告会準備（ゼミ卒論集の作成、要旨報告）	指導教員による	指導教員による
31	報告会準備（ゼミ卒論集の作成、要旨報告）	指導教員による	指導教員による
32	報告会 授業の総括、フィードバック、提出論文個別講評、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	4 (単位認定責任者：堀川 厚志)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに、研究テーマにそった論文執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」の説明 活動の目的、方法、作成執筆計画等の確認	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
2	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
3	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
4	文献研究等による情報収集、内容整理と構成検討 3	提示資料の作成 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
5	内容整理と構成の共有、協議 ①	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
6	内容整理と構成の共有、協議 ②	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
7	論文の作成、執筆 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
8	論文の作成、執筆 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
9	論文の作成、執筆 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
10	論文の作成、執筆 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
11	執筆内容の共有、協議③	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
12	執筆内容の共有、協議④	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
13	論文の作成、執筆及び個別指導 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
14	論論文の作成、執筆及び個別指導 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
15	論文の作成、執筆及び個別指導 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
16	論文の作成、執筆及び個別指導 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	執筆内容の共有、協議⑤	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
18	執筆内容の共有、協議⑥	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
19	論文の作成、執筆及び個別指導 5	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
20	論文の作成、執筆及び個別指導 6	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
21	論文の作成、執筆及び個別指導 7	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
22	論文の作成、執筆及び個別指導 8	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
23	論文の作成、執筆及び個別指導 9	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
24	論文の作成、執筆及び個別指導 10	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
25	論文の作成、執筆及び個別指導 11	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
26	執筆内容の共有、協議⑦	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
27	執筆内容の共有、協議⑧ プレゼンテーション資料の作成方法の確認	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
28	プレゼンテーション資料の作成方法の確認 プレゼンテーション資料の作成 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
29	プレゼンテーション資料の作成 2	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
30	プレゼンテーション資料の作成 3	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
31	プレゼンテーションによる論文の発表と視聴 1	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
32	プレゼンテーションによる論文の発表と視聴 2 科目を修了して「身に付く力」の検証	提示資料の準備、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	4 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンテーションすることができる。

授業全体の内容と概要

- ・プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
- ・フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
- ・プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
- ・質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
- ・Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
- ・「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を講ず場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。適宜、取り組んでいる卒業論文をTeams内でword形式にて提出してもらう。

「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「専門演習IIA・B」を担当する教員が指導する。

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	4 (単位認定責任者： 宮崎 剛司)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 論文作成の目的、方法、計画の確認 科目を修了して「身に付ける力」の説明	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
2	文献研究等による情報収集・内容整理 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
3	文献研究等による情報収集・内容整理 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
4	文献研究等による情報収集・内容整理 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
5	論文内容と構成の検討 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
6	論文内容と構成の検討 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
7	論文の作成、執筆 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
8	論文の作成、執筆 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
9	論文の作成、執筆 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
10	論文の作成、執筆 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
11	論文の作成、執筆 5	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
12	論文執筆内容の共有・協議 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
13	論文執筆内容の共有・協議 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
14	論文の作成、執筆及び個別指導 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
15	論文の作成、執筆及び個別指導 2	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
16	論文の作成、執筆及び個別指導 3	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	論文の作成、執筆及び個別指導 4	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
18	論文の作成、執筆及び個別指導 5	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
19	論文の作成、執筆及び個別指導 6	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
20	論文の作成、執筆及び個別指導 7	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
21	論文の作成、執筆及び個別指導 8	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
22	論文の作成、執筆及び個別指導 9	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
23	論文の作成、執筆及び個別指導 10	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
24	執筆内容の共有、協議 1	提示資料の作成、準備 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
25	執筆内容の共有、協議 2	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
26	論文の修正・加筆 1	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
27	論文の修正・加筆 2	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
28	論文の修正・加筆 3	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
29	プレゼンテーションの準備 1	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
30	プレゼンテーションの準備 2	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
31	論文内容のプレゼンテーションと視聴	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)
32	指導教員による 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付ける力」についての検証	提示資料の作成、確認 (45分)	検討・改善内容の確認 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，）					
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）		研究室等所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4（単位認定責任者：専門演習ⅡAB担当教員）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各指導教員によって異なる							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文（9月期卒） （科目ナンバリング：THE134149，THE434090，）					
授業担当者 （所属・職名）	専門演習ⅡAB担当教員（社会福祉学科・教授・准教授・専任講師）		研究室等所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4（単位認定責任者：		専門演習ⅡAB担当教員）		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による科目を修了して『身に付く力』についての説明	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	授業内フオードバック科目を修了して『身に付く力』についての検証	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし、研究室で対応。					

概要

履修目標							
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エヴィデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身につける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5 対応する。							
到達目標							
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。							
授業全体の内容と概要							
各指導教員の指導方法にそって執筆する。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的に、指導教員とのマンツーマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各指導教員によって異なる。							
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	
プレゼンテーション	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：THE134149, THE434090,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者： 蝦名 美穂)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに研究テーマにそった執筆の指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし、研究室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員による科目を修了して『身に付く力』についての説明	指導教員による	指導教員による
2	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
3	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
4	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
5	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
6	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
7	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
8	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
9	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
10	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
11	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
12	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
13	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
14	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
15	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
16	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
18	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
19	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
20	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
21	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
22	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
23	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
24	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
25	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
26	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
27	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
28	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
29	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
30	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
31	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする	指導教員による	指導教員による
32	卒論テーマに沿って、執筆の準備をする フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里	研究室等所在	1号館3階		
単位数	4 (単位認定責任者： 吉澤 英里)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカル・シンキングを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要

各指導教員の指導方法にそって執筆する。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的に指導教員とのマンツーマンの指導で行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、相談、意見交換、質問、教材配布等を行う。
※卒業研究の進捗状況を個別に確認し、状況に応じた指導を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態の際にはオンラインでの個別指導を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文の文章表現	卒業論文として、極めて優れた文章表現ができていた。	卒業論文として、かなり優れた文章表現ができていた。	卒業論文として、やや優れた文章表現ができていた。	卒業論文として、適切な文章表現ができていた。	卒業論文として、適切な文章表現ができていなかった。
文献の引用	論文で引用したすべての文献の書誌情報を記載し、かつ、極めて適切に引用した。	論文で引用したすべての文献の書誌情報を記載し、かつ、かなり適切に引用した。	論文で引用したすべての文献の書誌情報を記載し、かつ、適切に引用した。	論文で引用したすべての文献の書誌情報を記載し、かつ、概ね適切に引用した。	引用した文献の書誌情報の一部または全部を記載しない、あるいは、不適切に引用した。
プレゼンテーション	極めて優れたプレゼンテーションを行った。	かなり優れたプレゼンテーションを行った。	優れたプレゼンテーションを行った。	プレゼンテーションを行った。	プレゼンテーションを行わなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里		研究室等所在	1号館3階		
単位数	4 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、科目を終了して「身に付く力」についての説明 個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
2	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
3	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
4	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
5	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
6	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
7	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
8	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
9	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
10	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
11	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
12	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
13	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
14	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
15	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
16	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
18	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
19	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
20	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
21	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
22	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
23	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
24	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
25	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
26	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
27	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
28	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
29	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
30	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
31	個別の論文指導	指導教員による	指導教員による
32	科目を修了して「身に付く力」についての検証 卒業論文への講評（フィードバックを行う）	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	漫画Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222064)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
漫画の構成・特徴についての理解を深める。 漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。 漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
漫画の構成・特徴について知る。 漫画を描くために必要な道具の使い方を理解する。 漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶ。							
授業全体の内容と概要							
漫画とはなにか、その本質について考え、漫画の定義を知り、実際に漫画を描く。 また、漫画を描くための基本的な技法（アナログ表現）を学ぶ。 漫画の形式に沿って課題に取り組み、制作し、発表する。							
授業の方法							
授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。 授業後にデジタル資料はTeam S に保存するので振り返り可能。漫画を描くための道具（アナログ）を使用する。 漫画を描くための基本的な技法の課題がある。課題は授業内で実践し、授業後に練習して提出する。 漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必要な漫画道具を購入すること。 授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。 欠席する場合は事前に連絡すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数 22 回以上。 完成した課題を期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知ることができた。	漫画の構成・特徴について知ることができなかった。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	漫画Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222064)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」について	シラバスを読んでおくこと（45分）	必要な道具を準備する。（45分）
2	自己紹介イラスト 下描き 自分をキャラクター化する レイアウトについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
3	自己紹介イラスト ペン入れ・完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
4	自己紹介イラスト 冊子作成・発表 メロについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
5	つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
6	オリジナルキャラクター 顔を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
7	カケアミ技法	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
8	オリジナルキャラクター 全身を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
9	効果線と背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
10	漫画の構成・特徴・形式について プロットとネームについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
11	キャラクター設定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
12	キャラクターの行動原理	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	絵で伝える：既存のマンガと比較 デッサン：既存のマンガと比較	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	2ページ漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	2ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	2ページ漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	2ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	2ページ漫画 スクリーントーン・仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	製本・鑑賞・発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	4ページ漫画 キャラクター設定	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
21	4ページ漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
22	4ページ漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	4ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	4ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	4ページ漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	4ページ漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	4ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	4ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	4ページ漫画 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	4ページ漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
31	製本・鑑賞・発表 講評にてフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
32	科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	4年生			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	6 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソニー株式会社 デザインセンター30年 サムスン電子 デザイン顧問 6年 個人デザイン事務所 3年 それらの経験を活かし、授業に臨む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 市場調査 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。デザインとは調べておく。 (45分)	市場調査を行う。(45分)
2	市場調査、自分の課題を見つける	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
3	市場で何が起きているか、流行や傾向はどうが調べてチャート表を作成する。市場調査から自分なりの仮説を立てる	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
4	仮説を修正し、まとめる。そこから独自のアイデアを考察する。	市場調査を行う。(45分)	市場調査を行う。(45分)
5	1stデザインアイデアスケッチ	仮説をまとめる。(45分)	仮説をまとめる。(45分)
6	1stデザインアイデアスケッチ	グループ意見まとめ。(45分)	第三者からの意見を考察する。(45分)
7	アイデアのまとめ	第三者からの意見を考察する。(45分)	アイデアを考察。(45分)
8	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
9	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
10	アイデアスケッチ、全体の計画	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
11	アイデアスケッチ拡充	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
12	アイデアスケッチ拡充	アイデアを考察。(45分)	第三者からの意見を取り入れる。(45分)
13	パネル構成計画	第三者からの意見を取り入れる。(45分)	アイデアを考察。(45分)
14	パネル作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
15	パネル作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
16	レンダリング	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	レンダリング	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
18	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
19	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
20	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
21	モックアップ作成	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
22	モックアップ完成、梱包	アイデアを考察。(45分)	アイデアを考察。(45分)
23	卒展展示、現場で色々な気付きを確認	現場の確認。(45分)	現場の確認。(45分)
24	最終作品の確認	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
25	作品の完成度をあげる	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
26	作品の完成度をあげる	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
27	作品の完成度をあげる	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
28	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
29	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
30	パネル、モックアップ、修正、仕上げ	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
31	最終、作品仕上げ	最終まとめ。(45分)	最終まとめ。(45分)
32	デザインプレゼンテーション フィードバック、総評 科目を修了して『身に付く力』についての検証	最終まとめ。(45分)	総評を通じて振り返る。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	6 (単位認定責任者： 上坂 恒章)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心としたデジタル分野を経験してきた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が専門研究ⅠA,ⅠB,ⅡA,ⅡBで修得した技能等を活かして4年間の集大成として、卒業制作作品として制作する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
各学生が技術的にも内容的にも自信を持って卒業制作として、作品制作することができる。							
授業全体の内容と概要							
各学生が卒業制作として取り組む内容について考察し、それに基づいて技術的な手法等の指導を行う。これを繰り返し、最終的な作品案を決める。各学生は、それに従い、7月には、「中間発表」を実施し、その後も作品を完成へと進め、12月には完成させ、「最終審査会」で発表を行う。この成果を「卒業制作展」として、発表する。							
授業の方法							
制作する作品に対して、対面及び状況に応じ、ICTを使い、適切な指導を行いながら学生は主体的な作品制作を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
4年間の学びの集大成である卒業制作であるので、継続的に努力することが望まれる。また、自分の納得する制作を実現するために継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めることが最も肝要である。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席22回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デジタルデザインの専門分野において修得した知識を深める。	自ら率先し知識を修得し、十分深めることができていた。	修得した知識を深めることができていた。	修得した知識を概ね、深めることができていた。	基本的な知識を最低限理解していた。	基本的な知識を理解していなかった。
デジタルデザインの専門分野における身についた技能、技術を深め表現した。	自ら率先し技能、技術を修得し、十分深め表現することができた。	身についた技能、技術を深めることができ表現できた。	身についた技能、技術を概ね深めることができ表現できた。	基本的な技能、技術を最低限修得し、表現できた。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
デジタルデザインの専門分野における知識、技能を活かし、作品の制作・研究を深める	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作、研究に取り組むことができた。	修得した知識、技術により作品制作、研究に、概ね取り組むことができた。	作品制作・研究に最低限取り組んでいた。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	6 (単位認定責任者： 上坂 恒章)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間企業でプログラムの開発等をおこない、その後、大学において34年間、CGを中心とした デジタル分野を経験してきた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	制作研究構想のまとめ①	事前考察 (45分)	事後の検討 (45分)
3	制作研究構想のまとめ②	事前考察 (45分)	事後の検討 (45分)
4	制作研究構想のまとめ③	事前考察 (45分)	事後の検討 (45分)
5	発表	発表前準備 (45分)	発表後の振り返り課題 (45分)
6	制作①	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
7	制作②	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
8	制作③	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
9	制作④	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
10	制作⑤	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
11	プレゼンテーション	プレゼンテーションの確認 (45分)	発表後の振り返り (45分)
12	修正、完成①	修正の構想 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
13	修正、完成②	修正の構想 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
14	修正、完成③	修正の構想 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
15	修正、完成④	最終構想 (45分)	全体振り返り (45分)
16	発表	提出課題の内容を再確認 (45分)	講評内容をまとめ自己評価を行う (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	制作構想の再考察①	事前考察 (45分)	事後考察 (45分)
18	制作構想の再考察②	事前考察 (45分)	事後考察 (45分)
19	制作構想の再考察③	事前考察 (45分)	事後考察 (45分)
20	最終制作①	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
21	最終制作②	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
22	最終制作③	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
23	最終制作④	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
24	最終制作⑤	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
25	プレゼンテーション	プレゼンの準備 (45分)	プレゼンの見直し (45分)
26	最終完成①	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
27	最終完成②	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
28	最終完成③	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
29	最終完成④	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
30	最終完成⑤	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
31	最終完成⑥	制作検討 (45分)	制作作品の振り返り (45分)
32	発表	事前準備 (45分)	事後の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	6	(単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

これまでに修得した技術や知識を礎に、各々の履修者の感性や思いを十分に作品に展開すること。また、間近に迫った卒業後を見据え、美術文化の担い手として社会に貢献できる人材に仕上げる。授業の展開の仕方については、専門研究ⅡA・ⅡBと変わらないが、学生時代の集大成といえる作品を、これまで以上に主体的に取り組んで完成させてほしい。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

見る人に感動してもらえる表現力がより一層豊かな作品を創作できるようにすること。心豊かな社会を実現するために、十分な力量を備えた人となること。

授業全体の内容と概要

これまでに修得した技術や知識を礎に、それらをさらに探求し結実させること。そして社会や人々に関心を寄せ、美術をとおして貢献できることについて考察し、表現力がより一層豊かな作品を創作できるようにすること。

授業の方法

各々の履修者が表現したいものを絵画をとおして制作し表現する実技形式の授業、あらかじめ個々の履修者との意思疎通を密にし、作品創りについての構想段階からアドバイスを的確に行う。次の私のホームページに掲載している絵画創作に関するものは、学生たちに大いに閲覧して活用してもらいたい。
<http://wwwSf.biglobe.ne.jp/~yyasuda/access.html>
<http://wwwSf.biglobe.ne.jp/~yyasuda/custom.html>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵が好きな人、自らの理想や願いを絵をとおして表現し、それを自己実現につなげようとする意欲のある人。卒業後の社会において、美術文化の普及と発展に寄与する意欲のある人に履修してほしい。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とするも、何より作者の思いが十分に反映された作品を割り上げること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構想について	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをよく意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することをある程度に強く意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを、不十分ながらも意図している。	より良い社会の実現を目指し、作品をとおして貢献することを意図していない。
技法や材料について	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分的に確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を十分にほぼ的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料をある程度に的確に選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を充分にとは言えないものの、自らの判断で選択して制作している。	自らの制作意図に応じた技法や材料を的確に選択して制作していない。
面や立体感や空間感等について	面や立体感や空間感等の造形要素を十分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をほぼ充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素をある程度に充分に捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を充分にとは言えないものの、捉えて制作している。	面や立体感や空間感等の造形要素を捉えて制作していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在		2号館1階	
単位数	6 (単位認定責任者: 安田 祐造)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画業50年余、コンクール等での多くの入選・受賞、100回以上の個展等の開催、公募展での 審査委員歴任			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション-授業の進め方について、シラバスの説明	予めシラバスに目をおす。(45分)	これまでに修得した技法や材料に関する知識等を復習する。(45分)
2	科目を修了して『身に付く力』についての説明 研究計画についての説明	研究計画を立てる。(45分)	研究計画を立てる。(45分)
3	より具体的な研究計画の構築を行う。	研究を進めるために必要な資料や用材について検討する。(45分)	研究を進めるために必要な資料や用材について検討する。(45分)
4	作品の構想についてー社会の陰と陽について	社会の陰と陽について、自分なりに身近なところから視野を広げ考察する。(45分)	本時の授業での講義も参照し、自らの考察をより確かなものとする。(45分)
5	我々を取り巻く環境での諸問題について深く検討し取りまとめる。	我々を取り巻く環境での諸問題について深く検討する。(45分)	我々を取り巻く環境での諸問題について、さらに深く検討を加える。(45分)
6	作品の構想についてー構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備 1	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を進める。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	下絵を制作する。制作に用いる技法や材料についても検討する。(45分)
7	作品の構想についてー構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備 2	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を進める。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	下絵の制作を進める。制作に用いる技法や材料についても検討する。(45分)
8	作品の構想についてー構想の取りまとめと下絵(画稿)の準備 3	構想を具体化するために必要な資料等を収集し下絵制作を進める。作品の大きさや形も併せて決定する。(45分)	下絵の制作を仕上げる。制作に用いる技法や材料についても決定する。(45分)
9	支持体への下絵の転写について	転写について、表現意図に最も相応しい方法を検討する。(45分)	転写後に修正の必要が生じた場合には、適宜それを行う。(45分)
10	下描きについて 1	予め、自らの作品制作に相応しい用材を準備する。(45分)	本描きの際に効果を高められるように下描きの仕方を工夫する。(45分)
11	下描きについて 2	下描きに用いる用材の性質について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	本時の下描きについて振り返る。(45分)
12	下描きについて 3	上層の絵具層に効果をもたらせられるように工夫する。(45分)	本描きに用いる絵具の被覆力や透明性について検討する。(45分)
13	下描きについて 4	立体感や空間感について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感や空間感が表現できているかについて振り返る。(45分)
14	下描きについて 5	上描きした際に支障をきたさないように、下描きに用いる絵具を適切に選択する。(45分)	本描きの際の段取りについて計画する。(45分)
15	下描きについて 6	下描きの仕上げに向けて、細部について検討する。(45分)	仕上げた下描きについて、細部まで入念に検討する。(45分)
16	中間発表会	教師や他の学生からどの点についてアドバイスをほしいかを明確にしておく。(45分)	本時の中間発表会で得たアドバイスを参照し、これからの制作に反映させられるように計画を立てる。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 1	絵具の被覆力や透明性を勘案し、自らの表現意図に相応しい絵具を予め用意する。(45分)	本時の授業での制作について振り返り、不備等がないかを点検する。(45分)
18	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 2	立体感、空間感、質感、色彩調和について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感、空間感、質感、色彩調和について振り返る。(45分)
19	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 3	立体感、空間感、質感、色彩調和について、古今の作品を参照しながら検討する。(45分)	立体感、空間感、質感、色彩調和について振り返る。(45分)
20	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 4	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について検討する。(45分)	明度のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして学習する。(45分)
21	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 5	それぞれの面の明度と相互の差のもたらす効果について検討する。(45分)	明度のもたらす効果について、他者の作品を参照するなどして学習する。(45分)
22	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 6	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
23	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 7	大まかな面の把握を心掛けながらも色彩調和について点検する。(45分)	表現の意図にかなった色彩調和を目指しているかを検討する。(45分)
24	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー大まかな面の把握を主にした制作について 8	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
25	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 9	下層の絵具の効果を勘案しつつ色彩調和を高めるために、他者の作品を参照し、予め学習する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
26	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 10	他の技法も取り入れた混合技法について検討する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
27	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 11	他の技法も取り入れた混合技法について検討する。(45分)	ここまでの制作を総合的な観点から振り返る。(45分)
28	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 12	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
29	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 13	仕上げまでの残り僅かな間、総合的な観点から制作の進捗を検討する。(45分)	不備な箇所や過剰な箇所は、気づき次第に修正する。(45分)
30	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 14	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)
31	本描きー立体感、空間感、質感、色彩調和を勘案しながらー細かな面の把握を主にした制作について 15	作品に込めたものを表現するうえでやり残した点がないかを点検する。(45分)	これまでの制作を振り返り、総合的な観点から自らの作品を点検する。(45分)
32	合評会、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生き方にフィードバックさせる。	教師や他の学生からどの点についてアドバイスをほしいかを予め検討する。(45分)	他者からのアドバイスを参照し、これまでの制作についての問題点を明確化させる。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館5階		
単位数	6（単位認定責任者：北嶋 洋一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
現代社会における視覚情報伝達メディアに於いて、デザインによる問題解決能力を高め、それを具体化できる能力を高めることを目標とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
本授業に於いては、現代社会に於いて稼働する各種視覚情報メディアについて、その知識と技術を幅広く学び、複数のメディアを有効に活用しながら完成度の高いプレゼンテーションが行える能力を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
公共性や社会性を前提とし、ユーザビリティに優れたデザインを考え、それを実践するための作品制作を行う。 「SDG9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。							
授業の方法							
構想～調査・取材～企画～設計～制作～発表というデザインの工程を踏まえた作品制作を行う。 各種メディアや情報形態に關しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
作品制作に必要な取材活動や知識や技術の習得に積極的に携わるため、フットワークとコミュニケーションが重要である。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「視覚情報伝達を分野として正しく認識できている」	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が適切に用いられており、効果を発揮している。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が適切に用いられている。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が用いられている。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術の用い方が十分である。	提出された作品に視覚情報伝達メディアの構築に必要な知識と技術が用いられていない。
思考力・判断力・表現力 「視覚情報伝達の分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されている。	提出された作品に、不特定多数の共感を得られるような視覚効果や演出が成されていない。
主体性・多様性・協働性 「視覚情報伝達の分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続け、クオリティアップにつながっていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢を持ち続けていた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の必要を理解していた。	作品制作に際しては、積極的に取材活動を行い、社会性や公共性に配慮しながら問題解決に臨む姿勢の必要が十分である。	作品制作に際しては、積極的に取材活動、社会性や公共性への配慮がいずれも成されていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	6 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの実践指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認。(45分)	制作内容の構想整理。(45分)
2	制作内容の構想と計画	制作内容の構想整理。(45分)	授業内容の継続。(45分)
3	制作内容の分析と整理	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
4	メディアの設定	授業内容の継続。(90分)	授業内容の継続。(45分)
5	制作工程の確認	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
6	試案①授業内容の継続。(45分) コンセプトの作成	授業内容の継続。(90分)	授業内容の継続。(45分)
7	試案① コンセプトの作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
8	試案② 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
9	試案③ 設計図の作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
10	デザインの実装実験	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
11	デザインの実装実験	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
12	デザインの実装実験	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
13	デザインの実装実験	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
14	デザインの実装実験	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
15	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
16	本案の決定 設計の具体化	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	制作① 設計図	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
18	制作① 設計図	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
19	制作② 設計図	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
20	制作② 設計図	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
21	制作③ 素材制作及び収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
22	制作③ 素材制作及び収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
23	制作④ 素材制作及び収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
24	制作④ 素材制作及び収集	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
25	制作⑤ 構成～データ作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
26	制作⑤ 構成～データ作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
27	制作⑥ 構成～データ作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
28	制作⑥ 構成～データ作成	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
29	制作⑦ 完成提出	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
30	制作⑦ 完成提出	授業内容の継続。(45分)	授業内容の継続。(45分)
31	制作内容の講評	データの整理管理。(45分)	展示計画。(45分)
32	授業内容のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	データの整理管理。(45分)	展示計画。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234092)				
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階	
単位数	6 (単位認定責任者: 梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。 研究ノートを提出する事。 作品を1点以上完成させる事。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法の修得	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を2つ、または1つをより深く修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。基礎的な技法を1つ修得した。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来た。	表現技法について自ら調べ、試す事が出来なかった。
先行研究とテーマの設定	先行研究を重ね、自分が探求したいテーマの方向性が見えた。	先行研究を重ね、自分が探求したい方向性について考えた。	先行研究を重ねた。	先行研究をした	先行研究が出来なかった。
自律した制作活動	自らスケジュールを立てて、目安として平均週2回（8時間）以上、自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、目安として平均週1回（4時間）以上自主制作や先行研究ができた。	自らスケジュールを立てて、自主制作や先行研究ができた。	時々自発的に制作や先行研究をした。	自らスケジュールを立てられず、自主制作や先行研究ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	6 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、展覧会活動を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ゼミ活動について、先行研究について、 シラバスの説明	シラバスをよく読んでおく事 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
2	活動計画	チュートリアル準備 (45分)	チュートリアル準備 (45分)
3	チュートリアル1	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
4	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
5	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
6	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
7	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
8	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
9	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
10	先行研究&制作	チュートリアル準備 (45分)	面談結果をまとめる事 (45分)
11	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
12	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
13	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
14	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
15	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
16	チュートリアル2	チュートリアル準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
18	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
19	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
20	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
21	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
22	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
23	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
24	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
25	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
26	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
27	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
28	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
29	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
30	先行研究&制作	制作準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
31	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (45分)	研究ノート記入 (45分)
32	プレゼンテーション 科目を通して身につく力の検証	研究ノート記入 (45分)	研究ノート記入 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	6 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
研究や制作活動において、自らのアイデンティティや個性を積極的に取り入れるスキルを身につける。 適切な研究方法やアプローチを習得し、自己のテーマについて深く探究する姿勢を確立する。 自己表現、批評の受け入れ、プレゼンテーション能力、およびキャリアのための準備を含むプロフェッショナルな基礎力を高める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
卒業制作を通じて、自己の個性を活かした独自の作品を制作する。 自らのテーマについて深く探究し、その成果を作品や研究として提示する。 卒業制作を通じて得た興味や能力を認識し、将来のキャリアに活かす準備を整える。							
授業全体の内容と概要							
自分の関心を反映した作品を完成させる最終課題である。テーマ設定から始まり、リサーチや制作を通して、作品を形にしていくな過程を学ぶ。 批評を受けて作品を改善し、自己評価や批判的思考のスキルを高める。また、プレゼンテーションの技術を磨き、他者に作品の魅力を効果的に伝えられるようにする。 作品のプレゼンテーションを行う機会を通じて、自分らしい表現を確立し、卒業後のキャリアに繋がる実践的なスキルを習得する。							
授業の方法							
授業はパワーポイントとTeamsを利用して構成し、視覚的な教材を活かして進行する。 アナログとデジタルの両方の制作過程に対応し、学生の多様な表現方法をサポートする。 個別指導に加え、学生同士も積極的にグループワークやディスカッションを行い、相互に作品を向上させる機会を提供する。 学生の研究の方向性を明確にするため、フィールドワークを組み込み、現場からのインスピレーションを得ることを推奨する 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業を有意義にするための自覚を求める。 自己発見と制作の場として、自分の興味に基づいた活動に積極的に取り組むこと。 責任を持って作品制作に臨み、授業や自主的な学習を通じてスキルを高め、創造的で実りある活動を心掛けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は8割以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を十分修得できた。	基本的な技能、技術を習得できた。	基本的な技能、技術を概ね修得できた。	基本的な技能、技術を最低限修得できた。	基本的な技能、技術を修得できなかった。
作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を活かした。	作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を最低限活かした	作品制作・研究に取り組んだ。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在		2号館8階	
単位数	6 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして作品制作を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・「身に付く力」の説明 卒業制作の概要説明とテーマ設定、興味に基づくリサーチ計画の立案	シラバスを呼んでおくこと (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	卒業制作の概要説明とテーマ設定、興味に基づくリサーチ計画の立案	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
3	詳細なりサーチの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
4	詳細なりサーチの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
5	詳細なりサーチの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
6	詳細なりサーチの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
7	コンセプトの具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
8	コンセプトの具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
9	コンセプトの具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
10	コンセプトの具体化	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
11	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
12	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
13	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
14	制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
15	フィードバックを受けつつ制作を進行	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
16	フィードバックを受けつつ制作を進行	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	フィードバックを受けつつ制作を進行	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
18	フィードバックを受けつつ制作を進行	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
19	制作を進める中で発生する技術的・表現的課題の解決	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
20	制作を進める中で発生する技術的・表現的課題の解決	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
21	制作を進める中で発生する技術的・表現的課題の解決	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
22	制作を進める中で発生する技術的・表現的課題の解決	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
23	制作の仕上げと最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
24	制作の仕上げと最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
25	制作の仕上げと最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
26	制作の仕上げと最終調整	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自制作を進める (45分)
27	制作物に関する簡易プレゼンテーションを通じてフィードバックを得る	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
28	制作物に関する簡易プレゼンテーションを通じてフィードバックを得る	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
29	制作物に関する簡易プレゼンテーションを通じてフィードバックを得る	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
30	制作物に関する簡易プレゼンテーションを通じてフィードバックを得る	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	制作の振り返り (45分)
31	全体の振り返りと今後のキャリアに向けたまとめ「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	全体を振り返り、まとめる (45分)
32	全体の振り返りと今後のキャリアに向けたまとめ「身に付く力」の検証	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	全体を振り返り、まとめる (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	6 (単位認定責任者：)		浩而 魅諭		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生が、大学生活全般での経験や知識、さらに専門研究Ⅰ及びⅡで習得してきた知識・技能・思考を礎に、作品を通し現代社会における問題を提起し自己表現する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学生が、問題点や改善点を見つけ出し、探求していく。今まで習得してきた知識や技術を効果的に用い自己の作品で表現する。							
授業全体の内容と概要							
探求するテーマを決め、その手段となる適切な表現のジャンルの選択し、最適な画材を選択し、それを効果的に表現できるよう知識を深めたり表現方法の試行錯誤を行う。							
授業の方法							
各自テーマを決め、研究を深め制作していく。フィードバックは講評会で行う。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
準備学習と事後学習を欠かさず行うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 画材や素材、支持体の知識を深めそれを活かして使いこなすことができたか。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが十分できた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することができた。	研究のための制作において美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することがややできた。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが不完全だった。	研究のための制作において適切な画材の選択ができ、美術の基礎描写力を磨きつつ、試行錯誤により最適な表現を追究することが出来なかった。
思考力・判断力・表現力 テーマを最大限に活かせる画材、ジャンルを選択、表現できたか	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが十分に出来た	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することがやや出来た。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが不完全だった。	研究のための制作に於いて効果的な画材や素材、支持体を選択し、それを効果的に構成することが出来なかった。
主体性・多様性・協働性 研究にまつわる効果的なプレゼンテーションができたか。ディスカッションでお互いを高め合えたか。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが十分できた。協働する姿勢によりお互いを十分高めあえた	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができ、協働する姿勢によりお互いを高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションがややできた。協働する姿勢によりお互いをやや高めあえた。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションが不完全だった。協働する姿勢によりお互いを高めあえたとは言えない。	研究の内容が伝わるようなプレゼンテーションができなかった。協働する姿勢があまり見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング：THE234092)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	6	(単位認定責任者： 浩而 魅諭)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (パレオアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 当該科目の修了時に身につく力について	シラバスを読む (90分)	制作内容の構想 (90分)
2	制作内容の構想と計画 (展示計画含む)	制作内容の構想 (90分)	授業内容継続 (90分)
3	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
4	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
5	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
6	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
7	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
8	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
9	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
10	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
11	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
12	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
13	作品制作 研究データの蓄積と文章化も並行作業	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
14	作品完成 額装・パネル	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
15	研究報告書制作	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
16	講評会 (フィードバック)	授業内容継続 (90分)	データの整理管理。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築史 (科目ナンバリング：AHD311005)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士。建築設計事務所における歴史保存調査及び実施設計			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて随機応変に対応。					

要

履修目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の大まかな流れや主な専門用語を理解すること
また、歴史の重要性や面白さに気づけるようにすることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4 に対応する。

到達目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の流れを大まかに理解し主要な様式や専門用語
などについて理解し、また、興味を持って深められる素養を育む。

授業全体の内容と概要

建築史は一般的に「西洋建築史」、「日本建築史」および「近代建築史」の三つに分かれることが多いが、本講義ではそれらを一つの講義に凝縮している。近年ではイスラム世界など先述の範囲を超えた研究も進められており、建築史の範囲が膨大になっている。限られた時間となる本講義では、建築史の概要に触れるとともに、まずは基本となる西洋・日本・近代の三つの範囲について、重要なポイントに絞り学ぶ。そしてそれらの中から特定のテーマをいくつか取り出し、制作やグループワークを通して学ぶ。
なお、西洋・日本・近代の学習順序は前後することがある。

授業の方法

建築史の全体を見渡す水平的な学習を教科書を用いた予復習をベースとして行いつつ、
幾つかの特定のテーマについての課題を通してより詳細な、垂直的な部分に触れる。これは基本的には調査学習、グループワーク、プレゼンテーション（発表）、
手作業による制作などを通して行う。
適宜、必要に応じて、補足や解説などの講義を行う。
講義の際には、教科書と補足資料となるパワーポイント等を用いて行う。調査学習には、インターネットを用いることがあり、
パソコンやタブレットなどの端末を使用する。また、制作も含むため、若干の道具を必要とする。（ガイダンスで指示）
質問やフィードバックは適宜行う。
学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由なき1.0分以上の遅刻に關して、遅刻2回を1回欠席とみなす。
授業では、インターネットを用いた調査学習を行うため、手持ちの端末を持参すること。
タブレット・スマートフォンでも良いが、ノートパソコンが望ましい。
制作で用いる購入する道具についてはガイダンスで指示する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1.1 回以上の出席と、課題（調査学習や発表を含む）を行う場合、全課題の完成・提出を必須とする。 （先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に關して、遅刻3回を1回欠席とみなす。） 講義中に行った調査学習と発表については、「課題・作品」に属するものとする。 講義中の課題については増減がある。その数によって、期末に試験に代わるレポート課題を出す場合がある。ない場合は評価基準の「レポート」の項目は、「課題・作品」に含み評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
分からないことについて調べることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を制作物やレポート等に適切に表現し、深めることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	
グループ課題では他のメンバーとコミュニケーションをとりつつ進行できる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築史 (科目ナンバリング：AHD311005)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：		赤木 良子)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士。建築設計事務所における歴史保存調査及び実施設計			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学びのポイント 建築史』	深水 浩	学芸出版社	2023	9784761528737	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明 西洋建築史（1）ギリシア、ローマ	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義の復習（90分）
2	西洋建築史（2）初期キリスト教、ビザンティン、ロマネスク	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
3	西洋建築史（3）ゴシック、ルネサンス	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
4	西洋建築史（4）バロック、新古典主義、折衷主義	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
5	近代建築史（1）アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、前衛運動	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
6	近代建築史（2）ドイツの近代建築運動、アール・デコ	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
7	近代建築史（3）20世紀の建築1	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
8	近代建築史（4）20世紀の建築2	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
9	日本建築史（1）神社建築	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
10	日本建築史（2）仏教建築	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
11	日本建築史（3）寝殿造、書院造	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
12	日本建築史（4）城郭建築ほか	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
13	建築史に関する課題制作（1）	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
14	建築史に関する課題制作（2）	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
15	発表（試験・レポート等）、フィードバック、提出	次回の単元の予習（90分）	講義の復習（90分）
16	アンケート、ふりかえり、 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総合復習（90分）	総合復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『西洋建築史（建築学入門シリーズ）』	吉田 銅市	森北出版	2007	4627505612	
2	『日本建築史講義：木造建築がひもとく技術と社会』	海野聡	学芸出版社	2022	4761528168	
3	『日本建築史序説 第3版』	太田博太郎	彰国社	2009	4395012310	
4	『近代建築史（建築学入門シリーズ）』	藤岡洋保	森北出版	2011	462750571X	
5	『寝殿造の仕組みと宮中の行事』	倉田 実	花鳥社	2024	978-4-909832-97-9	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	6 (単位認定責任者：)		建築学科指導教員		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1,DP2,DP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なる。履修学生（研究者）は自ら研究テーマを決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならない。							
授業全体の内容と概要							
研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。							
授業の方法							
卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
4年生の履修登録時において、卒業要件科目の全単位数を満たすべく、科目の登録がなされたもの、1年次開講の基礎科目5科目8単位（必修科目）、卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	6 (単位認定責任者：		建築学科指導教員)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ1	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ2	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ3	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ4	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ5	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ6	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ7	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ8	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ9	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第2回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第2回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ10	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ11	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ12	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ13	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ14	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ15	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ16	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ17	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ18	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ19	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ20	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	6 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	9 0 %	0 %	1 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	6 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
2	研究打ち合わせ1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
3	研究打ち合わせ2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
4	研究打ち合わせ3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
5	研究打ち合わせ4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
6	研究打ち合わせ5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
7	研究打ち合わせ6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
8	研究打ち合わせ7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
10	第1回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
11	研究打ち合わせ8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
12	研究打ち合わせ9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
13	第2回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
14	第2回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
15	研究打ち合わせ10	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
16	研究打ち合わせ11	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究打ち合わせ12	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
18	研究打ち合わせ13	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
20	第3回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
21	研究打ち合わせ14	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
22	研究打ち合わせ15	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
24	第4回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
25	研究打ち合わせ16	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
26	研究打ち合わせ17	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
27	研究打ち合わせ18	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
28	研究打ち合わせ19	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
29	研究打ち合わせ20	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
31	最終審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り (45分)
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備 (45分)	総括の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	6（単位認定責任者：佐藤 善太郎）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標						
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。						
到達目標						
卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。						
授業全体の内容と概要						
研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。						
授業の方法						
卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
4年生の履修登録時において、卒業要件科目の全単位数を満たすべく、科目の登録がなされたもの、1年次開講の基礎科目5科目8単位（必修科目）、卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	6 (単位認定責任者： 佐藤 善太郎)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
2	研究打ち合わせ1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
3	研究打ち合わせ2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
4	研究打ち合わせ3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
5	研究打ち合わせ4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
6	研究打ち合わせ5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
7	研究打ち合わせ6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
8	研究打ち合わせ7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
10	第1回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
11	研究打ち合わせ8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
12	研究打ち合わせ9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
13	第2回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
14	第2回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
15	研究打ち合わせ10	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
16	研究打ち合わせ11	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究打ち合わせ12	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
18	研究打ち合わせ13	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
20	第3回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
21	研究打ち合わせ14	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
22	研究打ち合わせ15	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
24	第4回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
25	研究打ち合わせ16	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
26	研究打ち合わせ17	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
27	研究打ち合わせ18	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
28	研究打ち合わせ19	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
29	研究打ち合わせ20	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
31	最終審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り (45分)
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備 (45分)	総括の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在		1号館 4 階	
単位数	6 (単位認定責任者： 佐々木 哲之)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。							
授業全体の内容と概要							
研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。							
授業の方法							
卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
卒業研究に着手できるのは、4年生前期の履修登録時において、3年生後期GPAに基づき設定された履修可能単位数に半期の最大履修可能単位数28単位を加えた通年取得可能単位数をもって、卒業要件単位数を満たすことができる者。さらに、卒業研究の準備段階の必修科目でもある「建築研究Ⅰ」、「建築研究Ⅱ」の単位を修得している者。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	9 0 %	0 %	1 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館 4 階		
単位数	6 （単位認定責任者： 佐々木 哲之 ）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築施工会社、建築設計事務所に勤務していたころ、現場管理、設計業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身につく力」の説明	シラバスの確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
2	研究打ち合わせ 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
3	研究打ち合わせ 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
4	研究打ち合わせ 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
5	研究打ち合わせ 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
6	研究打ち合わせ 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
7	研究打ち合わせ 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
8	研究打ち合わせ 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
10	第1回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
11	研究打ち合わせ 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
12	研究打ち合わせ 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
13	第 2 回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
14	第 2 回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
15	研究打ち合わせ 1 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
16	研究打ち合わせ 1 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究打ち合わせ 1 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
18	研究打ち合わせ 1 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
20	第3回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
21	研究打ち合わせ 1 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
22	研究打ち合わせ 1 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
24	第4回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
25	研究打ち合わせ 1 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
26	研究打ち合わせ 1 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
27	研究打ち合わせ 1 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
28	研究打ち合わせ 1 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
29	研究打ち合わせ 2 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
31	最終審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り (45分)
32	総括講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	打ち合わせ準備 (45分)	総括の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	6（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実技経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	10%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	6（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ1	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ2	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ3	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ4	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ5	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ6	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ7	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ8	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ9	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第2回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第2回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ10	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ11	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ12	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ13	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ14	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ15	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ16	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ17	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ18	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ19	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ20	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括 授業最終回において講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	6 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	9 0 %	0 %	1 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,実習,実技		必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 小笠原研究室		
単位数	6 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士設計事務所ならびに特定建設業者である民間企業に勤務。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
2	研究打ち合わせ 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
3	研究打ち合わせ 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
4	研究打ち合わせ 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
5	研究打ち合わせ 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
6	研究打ち合わせ 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
7	研究打ち合わせ 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
8	研究打ち合わせ 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
10	第1回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
11	研究打ち合わせ 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
12	研究打ち合わせ 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
13	第 2 回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
14	第 2 回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
15	研究打ち合わせ 1 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
16	研究打ち合わせ 1 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究打ち合わせ 1 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
18	研究打ち合わせ 1 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
20	第3回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
21	研究打ち合わせ 1 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
22	研究打ち合わせ 1 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
24	第4回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
25	研究打ち合わせ 1 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
26	研究打ち合わせ 1 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
27	研究打ち合わせ 1 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
28	研究打ち合わせ 1 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
29	研究打ち合わせ 2 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
31	最終審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り (45分)
32	総括 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備 (45分)	総括の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	6 (単位認定責任者： 君 興治)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	6 (単位認定責任者： 君 興治)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
2	研究打ち合わせ 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
3	研究打ち合わせ 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
4	研究打ち合わせ 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
5	研究打ち合わせ 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
6	研究打ち合わせ 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
7	研究打ち合わせ 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
8	研究打ち合わせ 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
10	第1回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
11	研究打ち合わせ 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
12	研究打ち合わせ 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
13	第 2 回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
14	第 2 回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
15	研究打ち合わせ 1 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
16	研究打ち合わせ 1 1	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	研究打ち合わせ 1 2	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
18	研究打ち合わせ 1 3	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
20	第3回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
21	研究打ち合わせ 1 4	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
22	研究打ち合わせ 1 5	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
24	第4回中間審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り45分)
25	研究打ち合わせ 1 6	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
26	研究打ち合わせ 1 7	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
27	研究打ち合わせ 1 8	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
28	研究打ち合わせ 1 9	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
29	研究打ち合わせ 2 0	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備 (45分)	研究打ち合わせの成果のまとめ (45分)
31	最終審査	発表準備 (45分)	審査結果の振り返り (45分)
32	総括によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備 (45分)	総括の振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	6 (単位認定責任者： 建築学科指導教員)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	公共建築設計の経験を活かした実践的な学びの提供			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。							
授業全体の内容と概要							
研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。							
授業の方法							
卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
4年生の履修登録時において、卒業要件科目の全単位数を満たすべく、科目の登録がなされたもの、1年次開講の基礎科目5科目8単位（必修科目）、卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究成果を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	6 (単位認定責任者：		建築学科指導教員)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	公共建築設計の経験を活かした実践的な学びの提供			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ1	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ2	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ3	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ4	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ5	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ6	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ7	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ8	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ9	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第2回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第2回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ10	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ11	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ12	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ13	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ14	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ15	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ16	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ17	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ18	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ19	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ20	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括及びフィードバックを実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング: THE334088)				
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室	
単位数	6 (単位認定責任者: 建築学科指導教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

卒業研究とは、大学の専門課程を修了する際に学生各自がその専門分野における研究テーマを探り出し、そのテーマに則った研究成果・学習成果を成果物（卒業論文・卒業設計）として完成させることを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

卒業研究がこれまで履修してきた科目と異なるのは、研究テーマの決定、研究内容、研究方法、研究成果の具体的な到達目標や取りまとめ方、そのための研究日程など、緻密な研究計画を立て実行し、最終成果物（論文・設計）として完成させ、提出しなければならないことにある。

授業全体の内容と概要

研究活動は、指導教員のもとに、その指導方針・指導方法に基づいて進められる。

授業の方法

卒業研究の指導は所属研究室の教員によっておこなわれるが、建築学科全体では最終提出までの進捗段階に中間審査、最終提出後には論文・設計の全提出者の研究発表をもとに最終審査を実施する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

4年生の履修登録時において、卒業要件科目の全単位数を満たすべく、科目の登録がなされたもの。1年次開講の基礎科目5科目8単位（必修科目）、卒業研究の準備段階の科目でもある「建築研究Ⅰ（必修）」、「建築研究Ⅱ（必修）」の単位が修得されていること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全ての中間審査を受審し、その際に指摘を受けた事項に対し真摯な姿勢で修正を行い、期限内に研究成果を完成し提出することが求められる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	90%	0%	10%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
研究テーマを決定する。	自力で研究テーマを決定できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で独自の研究テーマを構築できた。	過去の先人の研究を踏まえた上で研究テーマを構築できた。	指導教員の指導のもと、研究テーマを決定できた。	研究テーマを考え出せなかった。
研究計画を立案する。	自力で研究計画を立案できた。	研究段階ごとの成果を時系列から見据えた研究計画が立案できた。	研究成果が中間審査と連動した研究計画が立案できた。	指導教員の指導のもと、研究計画を立案できた。	研究計画を立案できなかった。
研究計画に則って研究を進める。	自力で研究を進めることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究を進めることができた。	指導教員の指導のもと、研究を進めることができた。	研究を進めることができなかった。
研究成果をまとめる。	自力で研究成果をまとめることができた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究成果をまとめることができた。	指導教員の指導のもと、研究成果をまとめることができた。	研究成果をまとめることができなかった。
研究成果を発表する。	自力で研究成果を発表できた。	軌道修正を行いながら、定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	定期的な打ち合わせを重ねて研究発表ができた。	指導教員の指導のもと、研究発表を発表できた。	研究成果を発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修	
科目名称	卒業研究 (科目ナンバリング：THE334088)					
授業担当者 (所属・職名)	建築学科指導教員		研究室等所在	指導教員研究室		
単位数	6 (単位認定責任者：		建築学科指導教員)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	指導教員によるガイダンス、シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
2	研究打ち合わせ 1	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
3	研究打ち合わせ 2	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
4	研究打ち合わせ 3	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
5	研究打ち合わせ 4	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
6	研究打ち合わせ 5	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
7	研究打ち合わせ 6	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
8	研究打ち合わせ 7	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
9	第1回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
10	第1回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
11	研究打ち合わせ 8	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
12	研究打ち合わせ 9	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
13	第 2 回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
14	第 2 回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
15	研究打ち合わせ 1 0	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
16	研究打ち合わせ 1 1	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	研究打ち合わせ 1 2	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
18	研究打ち合わせ 1 3	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
19	第3回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
20	第3回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
21	研究打ち合わせ 1 4	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
22	研究打ち合わせ 1 5	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
23	第4回中間審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
24	第4回中間審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り45分）
25	研究打ち合わせ 1 6	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
26	研究打ち合わせ 1 7	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
27	研究打ち合わせ 1 8	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
28	研究打ち合わせ 1 9	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
29	研究打ち合わせ 2 0	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
30	最終審査打ち合わせ	打ち合わせ準備（45分）	研究打ち合わせの成果のまとめ（45分）
31	最終審査	発表準備（45分）	審査結果の振り返り（45分）
32	総括によるフィードバック・授業評価アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	打ち合わせ準備（45分）	総括の振り返り（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	トレーニング 科学Ⅱ (科目ナンバリング：SPS422065, SPS522060)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：篠原 諒介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
人間の体は、意図的に働きかけることにより、構造的にも機能的にも変化させることができる。本講義ではトレーニングに必要な基礎的理論、トレーニングの方法を概説し、トレーニング計画、筋力トレーニングの基礎、ストレッチングや体力テストの活用について学び身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。							
授業全体の内容と概要							
テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出、ビデオを利用し、トレーニング理論、トレーニング計画などについて詳しく説明する。							
授業の方法							
授業は、板書及び配布資料を活用しながら講義形式で行い、レポートの提出を求める。 レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	トレーニング 科学Ⅱ (科目ナンバリング：SPS422065, SPS522060)					
授業担当者 (所属・職名)	篠原 諒介 (経営学科・専任講師)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：篠原 諒介)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSP0	公益財団法人日本 スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
2	運動と栄養 (2) 対象と目的に応じた栄養摂取	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
3	運動と心理 (2) 運動学習と指導法	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
4	バイオメカニクス (1) 基礎理論	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
5	バイオメカニクス (2) スポーツ及びトレーニング 動作のバイオメカニクス	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
6	機能解剖 (1) 上肢	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
7	機能解剖 (2) 脊柱と胸郭	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
8	機能解剖 (3) 骨盤と下肢	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
9	運動と医学 (2) スポーツ傷害	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
10	生活習慣病、傷害の受傷から復帰までの トレーニ ングプログラム	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
11	運動生理学 (1) 呼吸循環器系・エネルギー代謝と 運動	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
12	運動生理学 (2) 骨格筋系・神経系・内分泌系と運 動	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
13	運動と医学 (1) 生活習慣病	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
14	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
15	運動と医学 (3) 救命救急法・トレーニング指導者 の実務	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)
16	テスト及び解説 試験終了後、フィードバック及び授業改善アンケー トの実施	教科書理解 (90分)	学習内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『JATI 認定トレーニング指導者テキスト (理論編)』	NPO法人 者協会 日本トレーニング指導	大修館書店			
2	『JATI 認定トレーニング指導者テキスト (実践編)』	NPO法人 者協会 日本トレーニング指導	大修館書店			
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング：MAN413005, MAN523014)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照 ②Teamsによるチャットは平日午前10時から午後6時まで対応					

概要

履修目標							
現実的・実践的なマーケティング論・戦略を学ぶことにより、柔軟な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の戦略実現に対応できるようになる。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。							
授業全体の内容と概要							
戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。「SDG4、質の高い教育をみんなへ」の関連科目							
授業の方法							
教科書および教員作成の資料・および教員指定の動画などを用いた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。中間試験を行わない。課題提出を複数回、ノート提出を1回課し、最終評定に含める。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻・15分以上の途中退出は欠席扱いとする。遅刻は2回で欠席1回とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、試験日を含めて11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスを十分に理解し自分のみならずクラスメンバーに対して共有できた。	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略を策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング：MAN413005, MAN523014)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	① 研究室前の掲示ボード等を参照 ② Teamsによるチャットは平日午前10時から午後6時まで対応			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『この1冊ですべてわかる経営戦略の基本』	手塚 貞治	日本実業出版社	2008	9784534060983	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 経営戦略の基本コンセプト	シラバスを読み教科書のpp.1-14に目を通すこと (90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
2	経営戦略とは pp. 15-39	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
3	戦略策定と環境分析 pp. 40-70 ①	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
4	戦略策定と環境分析 pp. 40-70 ②	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
5	戦略策定と環境分析 pp. 71-94 ③	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
6	テキスト3章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
7	テキスト3章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
8	テキスト4章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
9	テキスト4章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
10	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
11	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
12	テキスト5章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
13	不確実性 テキスト6章	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
14	不確実性 テキスト7 & ノートチェック	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
15	テスト リビュー 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
16	単位認定試験 & 総括	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	財務分析論 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者： 石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

概要

履修目標							
本講義は「簿記論」の応用として、学生が企業における会計の仕組みと原則を理解し、会計の重要性を認識することを目的としている。科目を修了して、分析対象とする企業の状況が判断できる能力を身に付けることを期待する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
本講義修了時の達成目標は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算）から企業の状況を読み取ることができる能力を身に付けることである。							
授業全体の内容と概要							
本講義は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みを学びながら、実際に企業ではどのくらいのお金が動いているのかを実感してもらうことに重点を置く。毎回、各企業における実際の財務諸表を使い、受講生に作業をしてもらいながら演習形式で講義を進める。							
授業の方法							
本講義は、パワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、演習問題を実施・提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	財務分析論 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者： 石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「財務会計論」ガイダンス シラバスの説明（講義の概要、講義の進め方、評価方法、科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、授業改善アンケート	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
2	財務3表とは何か 家計簿 将来の人生設計	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
3	損益計算書① 勘定科目について	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
4	損益計算書② 損益計算書の「5 3 5」とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
5	損益計算書③ 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
6	貸借対照表① 資産とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
7	貸借対照表② 負債とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
8	貸借対照表③ 純資産とは 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
9	キャッシュフロー計算書① キャッシュフローとは 減価償却とは	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
10	キャッシュフロー計算書② 営業キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
11	キャッシュフロー計算書③ 投資キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
12	キャッシュフロー計算書④ 財務キャッシュフロー	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
13	財務3表のつながり① 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
14	財務3表のつながり② 演習問題	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
15	試験対策 演習問題、授業改善アンケートの実施	企業の財務に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けた対策をしておくこと。（90分）	定期試験後のフィードバックを受けて、財務会計論を総括する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『財務会計・入門 企業活動を描き出す会計情報とその活用法（第12版補訂）』	桜井 久勝・須田 一幸	有斐閣	2019年	9784641221345	
2	『誰でもわかる決算書の読み方1年生』	南伸一	西東社	2021年	9784791631261	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング：S0E122063, S0E242097,)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、21世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。							
授業の位置づけ							
経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのDP2、DP4に対応する。 デザイン学科・建築学科のDP2、DP4に対応する。							
到達目標							
教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。							
授業全体の内容と概要							
教育行政というものが何であり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実 に即して具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、発表等の活動を行う。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成（要点はチャットでも）して提出する。 各回のテーマごとに意見や感想を発表する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全学科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。	
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、 時間内に記述できなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング：S0E122063, S0E242097,)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育行政学』	横井敏郎	八千代出版	2024	978-4-8429-1874-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」 「授業改善アンケート結果反映の説明」、「講義の	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	I 憲法・教育基本法と教育行政制度 ・憲法・教育基本法について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	I 憲法・教育基本法と教育行政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	I 憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育委員会制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	I 憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育財政と教職員配置について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	I 憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育課程（カリキュラムマネジメントにおける学習指導要領の役割等）について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	I 憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ（フィードバック）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	II 公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度（年齢段階における制度と健康・安全等）について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	II 公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	II 公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	II 公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門職協働、チームとしての学校の役割について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	III 子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題（子どもの健康や安全を守る取組等）について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	III 子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	III 子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	II 公教育制度と学校・教員 III 子ども・若者支援と権利保障 のまとめ（フィードバック）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	教育行政学のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） 定期試験（60分）	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：ESS143154)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。

①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科の教科目標と内容を学修する。

②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

自由科目

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。

・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。

・教科目標である公民的資質をふまえた分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。

下記ルーブリックの合格最低レベル (C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDGs 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

公民科の教科目標と内容を把握し、現代社会の社会的現象等をとらえる概念、理論について、学習指導理論をふまえ、学習指導時案を作成、模擬授業をおこない、授業設計と改善の方法を学修する。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・後期3Qは、学習指導要領にもとづくシナリオ型学習指導案の作成、模擬授業の観察評価をおこなう。

・板書を利用しながら、公民科の学習指導要領の内容について講義形式で学修する。

・模擬授業、PBL (Project Based Learning) による主体的実践が評価対象になる。

・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：教材研究、指導案、PBL等の各課題フィードバックは、回収の次の授業にて模範回答例が紹介される機会があるので、次の課題提出の改善材料として利用をすすめる。

・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。オフィスアワーを利用すると事前の時間予約ができる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本になる。単独科目履修を希望する場合、履修登録前に教員へ相談すること。

・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。

・授業関連情報コース packets をマイクロソフト社 Teams科目チャンネル、過去の科目情報は、大学HP 教員個人ページにあるので利用してほしい。過去の授業情報の閲覧は、要約のため、履修学生は授業にて申請すること。<https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html>

・学習は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」（松下佳代：2015）のアウトプットである。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。
資格指定科目
教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。 ・文献読解（分担報告；教材研究、指導案作成を報告する。教材研究における新しい知見、資料を説明記述する）、プレゼンテーション（分・担発表）をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することのできる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでの関連づけをおこない、独自の視点から論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を引用した。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しかった。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動するができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動するができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・公民科教育法Ⅱ (科目ナンバリング: ESS143154)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者: 松下 守邦)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、属修学生と授業者の属修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会科 中学生の公民』	江口ほか	帝国書院	2024		17教出公民902(中学校検定)
2	『高等学校 公共』	郊部ほか	帝国書院	2021		7実教公共703(高校検定道教科)
3	『ライブ! 公共 2025』	帝国書院	帝国書院	2025	9784807167	
4	『つまりさから授業を変える! 高校公民「PDCA」授業&評価プラン』	橋本康弘	明治図書出版	2022	9784183898333	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、中学校公民的分野、高等学校公民科の指導方法と授業設計の基礎理解 (前年度本科目、授業改善アンケート結果反映、シ	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	テキストを独習する。(90分)
2	模擬授業実践、中学社会科公民的分野、学習指導要領の解説	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	模擬授業実践、高校公民科、公共、学習指導要領の解説	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	模擬授業実践、高校公民科、政治経済、倫理、学習指導要領の解説	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、指導教諭(南英世氏HP)資料を確認する。(90分)
5	模擬授業実践、視聴覚教材	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	模擬授業実践、中学社会科公民的分野、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、NIE R評価基準、規準を確認する。(90分)
7	模擬授業実践、高校公民科公共、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	模擬授業実践、高校公民科政治経済、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	模擬授業実践、高校公民科倫理、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業6-9回学習整理する。(90分)
10	模擬授業評価、学生観察シートの作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
11	模擬授業評価、学生自己評価の作成	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
12	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
13	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業10-14回学習整理、音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
14	模擬授業実践、学生評価のまとめ	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体学習整理する。(90分)
15	課題提出(観察シート、音声記録と作業シート提出)指導方法と評価(振り返り、総括)	テキスト(梅津正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ (授業の総括とフィードバック、本科目の修了により「身に著く力」について検証、授業改善アンケート	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	https://www.mext.g
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	https://www.mext.g
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀・遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『中学校社会 指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	2022	9784184522336	
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会学（S・D・A） （科目ナンバリング：					

概要

履修目標

社会学とはどのような学問であるか、その基本的性格を概観する。
社会学は、高校の科目でみると公民「公民」の学修内容に近い。学術3分野（人文科学、自然科学、社会科学）のひとつ、社会科学に含まれる学問である。社会科学のなかでは、経済学は行動の効率合理性、政治学は国家や権力行使、法学は法規範に焦点をおくところならば、社会学はそれらのどれにもとらえられない、社会と人間の側面にとらわる性格を備えるものである。本科目においては、それらの基本的性格を学修する。
社会学は、個人と社会の関係を分析すること、そして常論の批評的理解をおこなうものである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP2に対応する。
建築学科のDP2に対応する。
社会福祉学科のDP2に対応する。

到達目標

社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。
社会で起きているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるのではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明をしようとする方法について、その基本を理解する。

授業全体の内容と概要

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学固有の考え方である、社会的行為、相互作用、社会集団、社会構造、社会変動などの概念を使い、私たちの社会で起こっている社会現象を記述説明する知識を学修する。
①社会学の基礎知識を、日常生活を例をあげて説明すること、②文献を読解引用してコメントを述べること、以上の統合的学習をすすめる。

授業の方法

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
取習事項の整理作業（第8回、第15回）は、社会学用語の理解を、日常生活を例にあげて記述説明をおこなう、作業学習である。
視聴覚教材、社会学文献の読解（第14回）は、映像資料を視聴し、社会学用語を使って解説、コメント文を作成する。（学習評価技法 パークレイ/メジャー、2016＝2020）
文献読解は、3色線引き読み（斎藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005）の技法を利用する。
「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題のフィードバックは、提出の次の授業にて模範回答例を紹介する機会がある。この後の課題提出の改善材料として利用してほしい。
「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に入室など、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業（講義）は学びの基本である。授業外学修として、図書館情報館にある学術文献を調べる、自宅で準備学習（予習や復習）をすることにより、学習時間を増やすことが大切になる。授業の学びは基礎的学習、さらに授業外学習は関連資料（Teamsファイル資料）読解による応用的学習である。
授業の教材準備（テキスト、ファイル資料）をおこない、参加することが学生評価の対象になる。
課題作成は、学術レポート（アカデミック・ライティング、AIJ）引用手続により文章作成する。（オリエンテーションにて説明する）
学術倫理（剽窃、ほう助の禁止）を守り、学修する。
テキスト目次構成、章の順番を入れ替えて学修すること、関連資料による発展学習がある。
ノートは、授業の再現資料として利用できるように作るものになる。取材メモとして作成する。
欠席、遅刻の際の対応、教室内の授業マナー（水分補給、入退室、スマホ操作自粛、座席表指定）は、社会人モードで対応する。大学生の受講マナーは、高校までのものとは異なる次元になる。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。 【既習事項の整理事項：小作業①、②】、【視聴覚教材、社会学文献の読解】課題は、評価資料となる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することできる。情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめている。新しく学ぶ学術用語については、説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することができなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができ、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけることができながら、論理的に社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけることができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めようとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会学（S・D・A） （科目ナンバリング：					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『改訂版 社会学概論』	北川由紀彦	放送大学教育振興会	2025	9784595325236	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （前年度の本科目、授業アンケート結果反映と、シラバス、ルーブリック、本科目を修了して「身に付	シラバスを熟読する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
2	社会学と社会、社会学の歴史、社会学の思考	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
3	社会学の説明、社会学の説明論理	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
4	社会学の社会調査と計量	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
5	社会学の基本概念 （社会的行為、地位と役割）	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
6	社会学の基本概念 （社会集団、官僚制）	テキストを予習する。	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
7	社会学の基本概念 （社会階層、社会階級）	テキスト、文献資料を予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
8	小作業① （既習事項の整理作業）	授業1回－7回を整理学修する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
9	家族の社会学	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
10	都市の社会学	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
11	労働の社会学	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
12	社会福祉の社会学	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
13	差別の社会学	テキストを予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
14	視聴覚教材、社会学文献の読解	テキスト、資料を予習する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
15	小作業② （既習事項の整理作業）	授業9回－14回を整理学修する。（90分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（90分）
16	授業全体のまとめ （授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に着く力」について検証説明、授業改善アン	全授業のテキスト、文献資料を予習する。（90分）	全体のふりかえりを行う。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
2	『学習評価ハンドブック』	パークレイ、メジャー	東京大学出版会	2020	9784130513531	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	基礎科目Ⅱ	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学 (M) (科目ナンバリング：SOC021021)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

概要

履修目標							
現代社会の特質を知り、さまざまな場面に生ずる問題を生活者としての視点から把握して、持続可能なよりよい社会はどのようなものであるかを考察するを身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP2に対応する。							
到達目標							
「現代社会の状況」について単に知識を習得するだけでなく、さまざまな社会問題を生活者としての自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察できる。							
授業全体の内容と概要							
まず、社会的存在としての人間という視点に立ち、集団や組織のありようを学ぶ。次に、近代化を遂げた現代社会がどのような問題を持つようになったかを批判的にとらえ、その特質を学び、持続可能な社会を展望する。また、特に、学生世代が該当する現代の青年期問題について考察を加える。							
授業の方法							
授業は現代社会のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（PBL含む）、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会学の知識	定期試験における社会学の基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上70%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	「人間と人間の関係」の視点から、さまざまな場面の社会的問題を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準にとどまっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
社会的問題への分析力・主体性等	授業の核となる「現代の社会状況」の視点で、さまざまな社会問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について主体的分析が概ねできていた。	左記の事項についての主体的分析が一般的水準でできていた。	左記の事項についての主体的分析が最低限の水準に留まっていた。	主体的分析ができていないとはいえず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	基礎科目Ⅱ	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	4 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学 (M) (科目ナンバリング：SOC021021)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	※科目のガイダンス 全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法	シラバス内容を事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習・理解 (90分)
2	I.近代社会の確立と社会学 1.社会学成立の時代背景	近代社会とはどのようなものであるかのイメージ化 (90分)	近代社会についての復習・理解 (90分)
3	I.近代社会の確立と社会学 2.社会学は何を考えるのか？	近代社会の人間関係とはどのような特質をものかについての意識化 (90分)	人間関係の変化のあり方についての復習・理解 (90分)
4	II.人間と社会集団 1.社会的存在としての人間	「ヒト」という動物がもっている特殊性についての意識化 (90分)	人間が「社会的」であることについての復習・理解 (90分)
5	II.人間と社会集団 2.社会集団の類型	人間がつくる集団にはどのような特質があるかについての事前考察 (90分)	集団類型の原理についての復習・理解 (90分)
6	II.人間と社会集団 3.基礎的生活集団の変化	基礎集団としての家族が現代社会ではどういう特質をもつようになったかの事前考察 (90分)	家族集団のあり方と社会のあり方が密接に関わっていることについての復習・理解 (90分)
7	III.全体社会の変動 1.社会変動と近代化	I.1.の振り返りを基に近代化とはどのような過程であるかの事前考察 (90分)	社会変動パターンとその要因、近代化としての社会変動についての復習・理解 (90分)
8	III.全体社会の変動 2.近代市民社会の変化 (1)大衆社会への移行	近代化によって成立した市民社会がどのように変化しているかの事前考察 (90分)	現代社会の大衆化状況についての復習・理解 (90分)
9	III.全体社会の変動 2.近代市民社会の変化 (2)個人化・リスク化する現代社会	個人を取り巻く不安定な現代社会の状況についての事前考察 (90分)	リスク社会としての現代社会についての復習・理解 (90分)
10	III.全体社会の変動 3.近代産業社会の変化 (1)産業社会の構造変化	近代化によって成立した産業社会がどのように変化しているかの事前考察 (90分)	現代社会の脱工業化状況についての復習・理解 (90分)
11	III.全体社会の変動 3.近代産業社会の変化 (2)ポスト産業化の中の現代社会	知識集約化する現代産業社会についての事前考察 (90分)	サービス経済が主軸となった現代社会についての復習・理解 (90分)
12	IV.現代の青年期 1.青年期とアイデンティティ形成	II.1.の振り返りを基に社会の中の青年期についての事前考察 (90分)	アイデンティティとはどのような自己のあり方であるかについての復習・理解 (90分)
13	IV.現代の青年期 2.ライフコースの多様化と 通過儀礼の喪失	現代社会の中のライフコースとはどのようなものかについての事前考察 (90分)	標準的ライフコースが失われた現代社会でのアイデンティティ形成が困難であることの復習・理解 (90分)
14	V.持続可能な社会に向けて	社会が持続可能となるためには何が問題でどのように対処すればよいかについての事前考察 (90分)	後期近代社会に特有な社会問題についての復習・理解 (90分)
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重点項目のチェック (90分)	評価に関する確認と理解、試験対応のための復習・理解 (90分)
16	※試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備 (90分)	解説内容の確認・理解 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	環境学 (科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179)					
授業担当者 (所属・職名)	西原 智昭 (社会福祉学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：西原 智昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	人類の「ゆりかご」であるコンゴ共和国などアフリカ熱帯林地域にて、先住民族の協力のもと、人類学的研究を皮切りに野生生物の研究調査ほか、国立公園管理・森林保全等の実務に合計30年間従事した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして、昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。					

概要

履修目標

環境学を学ぶに当たり、自然環境の破壊と生物多様性の喪失、その保全の問題は大きなテーマの一つである。自然環境および生物多様性の保全を目指すには資源開発の問題は避けて通れない。資源の開発・利用により危機的状況に直面している生物多様性、そうした自然環境に依拠してきた先住民族への権利侵害について、アフリカの熱帯林の事例を中心に話題提供しながら、特に資源の乏しい日本に住むわれわれが自然環境の保全に対して果たすべき役割を考察していく機会とする。

授業の位置づけ

全学科のDP 2 に対応する。

到達目標

われわれの現在の日常生活において生き物や資源を利用していることを、身近な事例や日本国内、そして国際的な視点から学ぶ。そうした生き物や資源の大規模な開発や過剰な利用が、現在に至るまで世界中の自然環境を破壊し、また本来なら自然環境に依拠してきた先住民族の人権侵害まで引き起こしていることを理解する。そのうえで、とりわけ資源の少ない日本に住むわれわれがどのように対処しサステイナブルなライフスタイルを目指していくか検討していく。

授業全体の内容と概要

文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林の事例を中心に、われわれ人類の祖先が生まれ出た本来の自然環境や生物多様性の機能や役割を学びつつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民族への土地・人権侵害などについても話題提供する。とりわけ大量の資源を輸入依存に頼る日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。

授業の方法

パワーポイントを用いた講義資料及び映像によって、われわれを取り巻く種々の地球規模の自然環境の問題を、アフリカ現地の事例などを中心に説明する。講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、文献調査、ミニレポート作成、グループ討論及びプレゼンテーションを手掛ける。グループディスカッション課題については、必要な調査を行い相互に意見交換して、グループとしての見解をまとめてプレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。講義中に不明な点は自分でも書籍等で調査して予習・復習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・レポート課題（グループ討論の課題を含む）の進め方等については、その都度指示する。
- ・講義内容にとらわれることなく、自分が興味のある事項を見出し、積極的に調べること。
- ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。講義内容に対する意見や質問を盛り込んだミニレポートを7回課す（その他35％＝7回×5％）。定期試験（期末試験）は行わないが、集中講義全般に渡るテーマに関する課題を15回目の講義中に提供するので、それに対する自身の見解や提案などを記載した論理的な構成のレポートを最後16回目の講義時間中に仕上げる（レポート：65％）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	65％	0％	0％	0％	35％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然界（陸と海を含む）の生態系と生物多様性に関する理解	地球規模での自然環境とその生態系や生物多様性について理解している	日本国内における自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	身近な自然環境における生態系や生物多様性に強い関心があり理解している	少なくとも講義中で学んだ生態系や生物多様性に関して強い関心を抱いている	生態系や生物多様性への関心が希薄である
生き物を含めた資源の開発と利用がもたらす自然環境や生き物への影響に関する理解	人間は生き物や資源を利用しないと生きていけない中、どのような方でサステイナブルな資源の利用をすべきか理解している	資源の少ない日本において、資源の開発先やその結果と、どのように海外の自然環境や生き物に影響を及ぼしているかを理解している	資源の開発と利用が、自然環境や生き物に多大な影響を及ぼしていることを理解している	日常生活における身近な生き物や物質は自然環境の利用の結果であるということを理解している	資源の開発や利用への関心が希薄である
自然環境に依拠してきた先住民族の存在と彼らが直面している問題に関する理解	先住民族が現在もなお直面している人権侵害や文化・言語消失などの実態を知り、先住民族との共生社会を目指していく重要性を理解している	先住民族がこれまで受けてきた差別や土地収奪など人権侵害の歴史について理解している	先住民族の社会の特徴や生活様式について理解している	先住民族とはなにか、日本国内や世界中にどのような先住民族が現存しているのか理解している	先住民族についての関心が希薄である、あるいは先住民族の存在を無視している

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	環境学 (科目ナンバリング: ENV361127 ENV161179)					
授業担当者 (所属・職名)	西原 智昭 (社会福祉学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 西原 智昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	人類の「ゆりかご」であるコンゴ共和国などアフリカ熱帯林地域にて、先住民族の協力のもと、人類学的研究を皮切りに野生生物の研究調査ほか、国立公園管理・森林保全等の実務に合計30年間従事した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして、昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『コンゴ共和国～マルミミソウとホテルの行き交う森から』増補改訂版	西原智昭	現代書館	2020	978-47684-5877-8	
2	『サステナブル調達を成功させるための「国際認証」の教科書』	山口真奈美	生産性出版	2024	978-4-8201-2148-0	
3	『教養としての資源問題～今、日本人が直視すべき現実』	谷口正次	東洋経済新報社	2011	978-4-492-76197-7	すでにこの書籍は絶版なので電子書籍版
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。森林を構成する生き物の中で昆虫の重要性と森林環境音をもたらすメカニズム、および、蔓延しているエボラウイルスについて学ぶ。	昆虫の生態学的重要性和エボラウイルスについて調べる（90分）	森林環境音による生理学的効果やエボラウイルスなどパニックへの根本的な対処について考察する（90分）
2	アフリカ熱帯林において絶滅危惧種であるマルミミソウやヨウム の生態や社会、絶滅に向かう要因について学ぶ。第1回・第2回に関するミニレポートを実施	マルミミソウとヨウムの生態や社会について調べる（90分）	マルミミソウとヨウムも危機的状況とその解決について考察する（90分）
3	海洋生態系の中で特に鯨類やマイクロプラスチックの問題について学ぶ。	人間による鯨類の利用やマイクロプラスチック問題について調べる（90分）	鯨類やマイクロプラスチックがもたらす問題点とその解決について考察する（90分）
4	人間の文化や生活と生物多様性保全のバランスに向けてどのような方策が可能か、象牙・獣肉消費・種類別飼育・ペットなどをテーマに、また動物園・水族館	人間による生き物への需要・利用が生き物へ影響を及ぼす事例について調べる（90分）	われわれ人間にとって生き物の利用は不可欠なものではあるにしても、それが生き物の生存危機に影響を及ぼさないような方策、また動物園・水族館の役割
5	木材や農水畜産物の需要に応じた森林など大規模な自然環境の開発の現状とその自然環境への影響について学ぶ。	身近な木材由来の製品や農水畜産物とその由来について調べる（90分）	日本はどれくらいの割合でどこから木材や農水畜産物を輸入しているか学ぶ（90分）
6	木材や農水畜産物をいかにサステイナブルな方途で利用していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。第5回・第6回に関するミニレポート	サステイナブルな木材や農水畜産物の調達・利用について調べる（90分）	木材や農水畜産物についての国際認証制度について考察する（90分）
7	鉱物資源開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギー、および、蓄電池・電気自動車	鉱物資源について調べる（90分）	再生可能エネルギーや電気自動車などに必須の鉱物資源開発による自然環境への影響から地球温暖化対策についてあらためて考察する（90分）
8	エネルギー開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギーの設置などによってもたら	現在のエネルギー構成について調べる（90分）	再生可能エネルギーの設置に伴う自然環境への影響から地球温暖化対策についてあらためて考察する（90分）
9	地球温暖化対策としての再生可能エネルギーや電気自動車の開発に問題があるとした場合、エネルギーや鉱物資源をいかにサステイナブルな方途で利用し	再生可能エネルギーに伴う地域住民への影響や鉱物資源開発による先住民族への影響について調べる（90分）	エネルギー問題をどのように見直すべきかあらためて考察する（90分）
10	人間はもともと自然界に依拠して進化してきた中で、どのように自然環境を利用してきたかを理解する手立ての一つとして、人類の近縁種である野生の	人類の進化、類人猿の生態・社会について調べる（90分）	人類の起源・もともとどの生活様式とげんざいのわれわれの現在のライフスタイルについて考察する（90分）
11	先住民族とその歴史や社会の特徴、伝統文化について、また現在も引き続き直面している彼らへの人権侵害について学ぶ。身近なアイヌ民族についても学	アイヌ民族をはじめ先住民族やその歴史について調べる（90分）	アイヌ民族をはじめ先住民族への人権侵害について考察する（90分）
12	先住民族の文化や社会の特徴、学校教育などについて、グループ討論・プレゼンを実施する。第11回・第12回に関するミニレポートを実施。その結果につ	先住民族における獣肉食や学校教育の是非について調べる（90分）	先住民族の事例からわれわれが直面している伝統文化や学校教育、ライフスタイルの課題についてあらためて考察する（90分）
13	資源開発に関わるメディア情報の実際、資源開発を伴わない経済活動としてのエコツーリズムの課題、資源開発をしながら環境・社会配慮を目指す国際認	メディアやエコツーリズムの課題について、また国際認証制度について調べる（90分）	メディアの重要性やエコツーリズムのあり方、国際認証制度の実際について考察する（90分）
14	資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている問題点について、第1回・第14回に関するミニレポートを実施。その結果について授業内でコメン	第1～14回までの講義全体を振り返りそれと関わる課題を再検討する（90分）	講義全体に関わる課題について考察する（90分）
15	資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている課題について、グループ討論・プレゼンを実施する。	日本において少ない資源について調べる（90分）	資源の少ない日本でのライフスタイルをどのように維持・変えていくべきか考察する（90分）
16	レポート試験（60分）。レポート試験終了後に解説を行う（フィードバック）。授業改善アンケートの実施。科目を修了して「身に付く力」についての検	講義全体に関わる課題について自分自身の考えをまとめる（90分）	レポート試験とその講評を振り返る（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『人類の起源 古代DNAが語るホモサピエンスの「大いなる旅」』	篠田謙一	中公新書	2023	978-4-12-102683-5	
2	『追いつめられる海～猶予はない ブルーエコノミーの実現を！』	井田徹治	岩波書店	2020	978-4-00-029694-6	
3	『アイヌ、日本人、その世界』	小坂洋右	藤田印刷エクセレントブックス	2019	9784865380965	
4	『再生可能エネルギーの問題点』	加藤やすこ	緑風出版	2022	978-4-8461-2207-2	
5	『音と文明～音の環境学とはじめ』	大橋力	岩波書店	2003	4000223674	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅱ (科目ナンバリング：JLN051039)				
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：高橋 真弥）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業内で提示する課題と、最終プレゼンで評価する。課題や最終プレゼンの評価はプレゼンの型やポイントをしっかり理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかで行う。15分以上の遅刻は欠席とみなす。最低出席日数は10回である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	%	35%	5%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレゼンテーションのための知識と技能	プレゼンテーションのための知識と技能を完全に身に着け、知識と技術を活用してわかりやすく表現することができた。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着け、それを活用して表現することができた。	わからないことを適切な方法で調べながら、相手により伝わるプレゼンテーションを作成するための知識と技能を身に着けることができた。	適切な知識と技術でプレゼンテーションを作成することができた。プレゼンテーションの要や抑えるべきポイントを完全には理解できなかった。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着けることができなかった。プレゼンテーションの要や抑えるべきポイントを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自身のことばで表現できる。表現の内容がわかりやすく、文法の問題がほとんどない。大学で通用するしっかりしたプレゼンができた。	自身で考え、自分のことばで表現でき、内容がわかりやすかった。	自身で考え、自分のことばで表現できた。	正しい日本語での表現ができた。	正しい日本語での表現が困難だった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業にも意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、まじめに取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、意欲的でまじめに取り組んでいた。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対しまじめに取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅱ (科目ナンバリング：JLN051039)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	(単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認と受講準備（４５分）	授業内容の復習（４５分）
2	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
3	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
5	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
6	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
7	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
8	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
9	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
10	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
11	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
12	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
13	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
14	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク、 最終プレゼン課題提示	前回の復習（４５分）	授業内容の復習、最終プレゼン作成（４５分）
15	最終プレゼン作成	最終プレゼン作成（４５分）	最終プレゼン作成（４５分）
16	課題発表 総括（「身につく力」の検証） 授業に係る講評・履脱によるフィードバック	最終プレゼンのチェック（４５分）	全体の復習（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年 社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選	
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門職 (科目ナンバリング：SWS111001, SWS421077,)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。

②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。

③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

社会福祉学科のDP1、DP3、D4に対応する。

到達目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。

②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。

③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。

②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。

③ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。

「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。

②基本は対面授業だが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 0 回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年 社会福祉学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門職 (科目ナンバリング：SWS111001, SWS421077,)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』共済	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2 0 2 1 年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して身に付く力の説明	教科書の目次と関心のある部分に目を通す (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
4	ソーシャルワークの定義②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
5	ソーシャルワークの構成要素	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
6	ソーシャルワークの形成過程①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
7	ソーシャルワークの形成過程②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。(9 0 分)	試験の自己採点 (9 0 分)
9	中間テスト解説を返却し、解説による試験のフィードバック (3 0 分) を行う。 ソーシャルワークの価値	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
11	ソーシャルワークの倫理	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。 (9 0 分)	ノートを整理する。(9 0 分)
16	定期試験 (6 0 分)、終了後、解説による試験のフィードバック (3 0 分) と、科目を科目を修了して『身に付く力』についての検証を行う。授業改	全体の復習。(9 0 分)	試験で間違えた部分を復習する。(9 0 分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング：SWS112007)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の7掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1，DP3，DP4に対応する。							
到達目標							
①児童が権利の主体と踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解することができる。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解することができる。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解することができる。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解することができる。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について学ぶ。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について学ぶ。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について学ぶ。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について学ぶ。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を学ぶ。							
授業の方法							
スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。定期試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
1．次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。 2．次の3点を考えながら受講すること。 ①大人として子どもとどのように向き合うべきか。 ②親としてどのようなサービスが活用できるか。 ③子どもとその家族の支援者になるためにどのような努力が必要かの3点を考えながら受講すること。 3．レポート課題は、「子どもと家庭に係わるニュース（新聞・インターネット配信記事等）」を10収集し、それぞれに対して400字程度のコメントをつけたものとし、11回目の授業で提出を求める。 4．不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	40%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、ほぼ理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、やや理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができなかった。
児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、ほぼ理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、やや理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉に係る法制度について	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができなかった。
児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、ほぼ理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、やや理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング：SWS112007)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の7掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス。シラバスの説明。授業改善アンケートの結果反映の説明。 科目を修了して『身に付く力』についての説明	テキスト学習 第1章 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	テキスト学習 第3章 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
3	児童・家庭福祉の歴史Ⅰ 児童福祉の理念と児童観の変遷	テキスト学習 第2章第1節・第2節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
4	児童・家庭福祉の歴史Ⅱ 児童・家庭福祉制度の発展過程	テキスト学習 第2章第3節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
5	児童・家庭に対する法制度Ⅰ (児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・DV防止法)	テキスト学習 第4章第1節、第5章第5節・第8節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
6	児童・家庭に対する法制度Ⅱ (母子及び父子並びに寡婦福祉法・母子保健法)	テキスト学習 第5章第2節・第7節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
7	児童・家庭に対する法制度Ⅲ (児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法)	文献学習 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
8	児童・家庭に対する法制度Ⅳ (次世代育成支援対策推進法・少子化対策基本法・乳幼児虐待防止法・子ども子育て支援法・就学前の子どもに関する教育、保育)	テキスト学習 第5章第1節・第3節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
9	児童・家庭に対する法制度Ⅴ (子どもの貧困対策の推進に関する法律・子供若者育成支援推進法・いじめ防止対策推進法)	テキスト学習 第5章第4節・第11節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
10	児童や家庭に対する支援における公私の関係関係及び国、都道府県、市町村の役割。レポート課題提示	テキスト学習 第4章第2節・第4節 (90分)	ノート整理、レポート作成 (90分)
11	児童・家庭に対する支援における関係機関 (児童相談所) の役割。レポート尾の添削をし、返却してフィードバックする。	文献学習 (90分)	ノート整理、文献学習 (90分)
12	その他の児童や家庭 (女性、若者を含む) に対する支援にかかわる組織・団体の役割	文献学習 (90分)	ノート整理、文献学習 (90分)
13	児童・家庭に対する支援における関係機関に関連する専門職等の役割	テキスト学習 第4章第5節 (90分)	ノート整理、文献学習 (90分)
14	社会福祉士の役割と児童・家庭に対する支援の実践 (多職種連携を含む)	テキスト学習 第6章 (90分)	ノート整理、文献学習 (90分)
15	まとめ (事例研究) 及びレポートに対するフィードバック (解説) を行う (授業改善アンケートの実施)	文献学習 (90分)	試験に向けた学習 (90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの60分で解説をし、フィードバックをする。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験に向けた学習 (90分)	文献学習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						授業の中で関連するものを紹介してい
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	平面構成Ⅱ (科目ナンバリング：AEA211004)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。					

概要

履修目標																								
デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。																								
到達目標																								
デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解した上で、求められた課題のコンセプトを平面上に適切に美しく表現することができる造形力を身に付け、今後の作品制作に必要な応用力を高める。																								
授業全体の内容と概要																								
平面構成Ⅰで習得した内容を基にして、さらに高度なテーマや複雑なモチーフを用いながら平面を構成する能力を高めるための課題制作を段階を追って積み重ねていく。																								
授業の方法																								
各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。 制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。 画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td></td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td></td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td>○</td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
平面構成Ⅰを履修していることが前提である。 制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。 上記のほか、適宜、課題制作前に指示するものを準備すること。 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題のコンセプトを理解し、画材を効果的に用いて、平面上に適切に美しく表現できる。	十分に表現出来ていた。	概ね表現出来ていた。	不十分ではあるが、表現出来ていた。	最低限の表現にとどまっていた。	表現出来ていなかった。
課題のコンセプトを表現するために必要な工程や画材の選択ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。
常にデザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を意識しながらの制作ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	平面構成Ⅱ (科目ナンバリング：AEA211004)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてグラフィックデザインの基本について指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（90分）	平面構成Ⅰの内容整理（90分）
2	平面構成Ⅰの振り返り	シラバスの確認（90分）	平面構成Ⅰの内容整理（90分）
3	練習課題①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
4	練習課題①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
5	練習課題②	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
6	練習課題②	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
7	材料研究	シラバスの確認（90分）	講評内容の整理（90分）
8	材料研究	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
9	具象的表現①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
10	具象的表現②	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
11	具象的表現③	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
12	具象的表現④	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
13	具象的表現⑤	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
14	具象的表現⑥	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
15	具象的表現⑦	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
16	具象的表現⑧	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	具象的表現⑨	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
18	具象的表現⑩	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
19	具象的表現～講評	課題の制作（90分）	講評内容の整理（90分）
20	具象的表現～講評	課題の制作（90分）	講評内容の整理（90分）
21	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ①	シラバスの確認（90分）	課題の制作（90分）
22	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ②	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
23	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ③	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
24	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ④	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
25	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑤	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
26	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑥	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
27	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑦	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
28	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑧	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
29	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑨	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
30	コラージュによる表現～言葉から発想するイメージ⑩	課題の制作（90分）	課題の制作（90分）
31	全課題の確認・総評 フィードバック	全授業内容のまとめ（90分）	全授業内容のまとめ（90分）
32	授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全授業内容のまとめ（90分）	全授業内容のまとめ（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	西洋美術史Ⅱ (科目ナンバリング：FAH211011)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
新古典主義以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
・ 西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。 ・ 作品に関する諸情報を自分の言葉で説明できる。							
授業全体の内容と概要							
西洋美術の大まかな流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「見る」能力を高める。							
授業の方法							
講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解の度	授業内容を越えた自主的な学習ができた。	授業内容について自主的な学習ができた。	授業内容について十分な理解ができた。	授業内容について理解できた。	授業内容の理解が不足していた。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	授業内容を越えて文献や資料を自分で調査して、独自の知見を加えて説得的に論じることができた。	自分の考えをもとに文献や資料を自分で調査して、筋の通った論述を展開できた。	授業内容に沿って自分の考えを深めて展開し論述できた。	定期試験において自分の考えを記述することができた。	定期試験において自分の考えを記述できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅱ (科目ナンバリング：FAH211011)				
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	ロココ美術	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
3	新古典主義とロマン主義 (1) ダヴィッド	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	新古典主義とロマン主義 (2) アングル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	新古典主義とロマン主義 (3) ジェリコー、ドラクロワ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	近代絵画のはじまり クールベ、ミレー、マネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	印象派 (1) マネ、モネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	小テスト実施 印象派 (2) ルノワール	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	印象派 (3) ジャポニスム 小テストの結果について授業内でコメントしてフィードバックする	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
10	後期印象派と新印象派 (1) ゴッハ、ゴッホ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
11	後期印象派と新印象派 (2) セザンヌ、スーラ、シニャック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
12	世紀末美術 (1) 象徴主義 モロー ルドン	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
13	世紀末美術 (2) ラファエル前派、分離派	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
14	世紀末美術 (3) アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
15	20世紀前半の諸潮流 フォーヴィズムとキュビズム マチス、ピカソなど まとめ 授業改善アンケート実施 科目を修了して	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
16	定期試験 試験のフィードバックはTeamsにより模範解答例を提示する	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	授業内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	全学共通科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB（再） （科目ナンバリング：BAS002006）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在		2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。 就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。							
到達目標							
社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。 また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
基礎ゼミナールⅡB再履修者。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１３回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	全学共通科目		対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナールⅡB（再） （科目ナンバリング：BAS002006）					
授業担当者 （所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「ガイダンス」 授業の進め方・シラバスの説明。 授業改善に向けたアンケート結果反映の説明。この 科目を受講すること、誰よりも早く、就活を勝ち 取る。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック準1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自の テーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。 漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題） 。各自のテーマについて調べたことを発表す	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	「プレゼンテーション」 授業改善に向けたアンケ ートを実施。これまでの授業について講評を行い、 フィードバックする。第1回目で示した達成目	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年生			
開講時期	通年	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	インターンシップ・キャリアプログラムⅠ (科目ナンバリング：S0E092060)					
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者： 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応					

概要

履修目標							
社会経験・就業体験を通して企業で現実要求される能力や今後必要とされる能力を学習する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会経験・就業体験を通して、将来の進路決定の際の判断材料とする。							
授業全体の内容と概要							
就業先で説明や体験、就業に各自参加する。							
授業の方法							
社会経験・就業体験を通して、業界研究、企業研究、職種研究、社会人マナー等を学習する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業の出席状況が不良、取得単位が不足の学生は申し込み不可							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
説明会などへの参加、1年を通して5日以上または45時間以上のインターンシップ参加、参加企業からの評価が記入されている評価表の提出を必須とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自主性・積極性	学ぶ意識を高く持ち、周囲とのコミュニケーションを積極的に取り組んでいた	周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務にも積極的に取り組んでいた	積極性は乏しいものの、要請された業務に取り組んでいた	質問なども少ないが、要請された業務には取り組む努力が見られた	消極的で業務への取り組みをしていなかった
協調性	依頼や要請に積極的に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に協力的な態度で取り組んでいた	依頼や要請に協力的に取り組むよう努力していた	依頼や要請に非協力的で取り組んでいなかった
責任性	出勤簿などの提出物を事前に準備し提出した	出勤簿などの提出物を締切前までに提出した	出勤簿などの提出物を締切までに提出した	出勤簿などの提出物を締切後に遅れて提出した	出勤簿などの提出物を提出しなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年生		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	インターンシップ・キャリアプログラムⅠ (科目ナンバリング：S0E092060)				
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者： 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	キャリア支援センターにて対応		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	説明会 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	単位申請の確認 (45分)	就業に関する確認 (45分)
2	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
3	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
4	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
5	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
6	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
7	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
8	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
9	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
10	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
11	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
12	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
13	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
14	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
15	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
16	インターンシップ先での就業もしくは報告会 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体を通しての総括 (45分)	全体を通しての 反省・フィードバック

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング：SWS112025)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)、杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：畠山明子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。

2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。

3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。

5. 精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1，DP 3，DP 4に対応する。

到達目標

1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することができる。

2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することができる。

3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養うことができる。

4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解することができる。

5. 精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解することができる。

授業全体の内容と概要

1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力について学ぶ。

2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に学ぶ。

3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力について学ぶ。

4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に学ぶ

5. 精神保健医療福祉のソーシャルワークについても学ぶ。

6. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により学ぶ。

7. 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1. グループに分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。

その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。

2. 自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。

3. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

4. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 自分の意見等を積極的に発言すること。

2. 多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。

3. 教科書は必ず持参すること。

4. 必要な資料等は適宜配布する。

5. ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

6. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程 スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 単位認定に必要なとなる50%最低出席回数10回以上をクリアすること。 2. その他については、80%は出席30%、ボランティアの出席状況15%、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度35%で評価します。ボランティアレポートを20%とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる、且つ各々の区分けをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング：SWS112025)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)・畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：)		畠山明子		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク演習(共通科目)』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	9784805882436	価格 / 2,750 (本体 / 2,500)
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を履修する者だけでなく、他者に対する共感・共鳴能力、自己開示、他者に対する共感。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
2	基本的なコミュニケーション技術について理解する。 ・言語的技術 (質問、促し、言い換え、感情の反映)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
3	基本的な面接技術・面接の構造化について理解する。 ・場の設定 (面接室、生活場面、自宅等)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
4	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
5	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
6	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
7	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
8	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
9	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
10	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
11	ソーシャルワークの記録について理解する。 ・支援経過の把握と管理	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
12	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの構成 (グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
13	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの展開過程 (準備期・開始期・作業期・終結期)	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
14	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
15	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り (90分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施 フィードバック	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学びが深まるソーシャルワーク演習』	『学びが深まるソーシャルワーク演習』編集委員会	ミネルヴァ書房	2021	9784623091195	価格 / 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング：CHS121068)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および 制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
保育の意義、目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育の思想と歴史の変遷について学修し、現状と課題を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
保育の意義、制度、計画・実践（方法・内容）、思想・歴史の変遷等を理解している。 保育所保育指針における保育の基本について理解している。							
授業全体の内容と概要							
保育の意義、目的、法令及び制度、保育の目標と方法等を体系的に学修する。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問にはその都度対応し、レポートはコメントしてフィードバックする。Microsoft Teams及びForms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席を重要視するため、20分以上の「遅刻」は、入室できるが「欠席」扱いとする。 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の制度に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	歴史の変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング：CHS121068)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および 制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2 0 1 8	9784577814482	
2	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2 0 1 7	9784577814239	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明（科目を修了して「身に付く力」につ いての説明を含む） 保育の理念と概念	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
2	子どもの最善の利益と保育	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
3	子ども家庭福祉と保育	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
4	保育の社会的役割と責任	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
5	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと 関係法令	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
6	子ども・子育て支援新制度	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
7	保育の実施体系	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
8	保育所保育指針	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
9	保育所保育に関する基本原則	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
10	保育における養護	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
11	保育の目標、保育の内容	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
12	保育の環境と方法	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
13	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記 録・省察・評価・改善）と その循環	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
14	諸外国の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
15	日本の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（90分）
16	定期試験 解説およびフィードバック 科目を 修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問などを整理しておく（90分）	解説を受け、講義全体をふりかえること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅱ (科目ナンバリング: AEA222065)				
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
ストーリー漫画の構成・特徴を理解する。 漫画を描くための技術を身につけ、磨く。 漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探る。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ストーリー漫画の構成・特徴を知る。 漫画を描くための技術を身につける。 漫画での表現力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
ストーリー漫画とはどのようにして作り上げていくのか、その方法を知り、読み物として成立させることを学ぶ。 また、どのようなジャンルの漫画を描きたいのか、漫画で伝えたいことは何なのかを考える。 漫画課題は制作段階ごとに個別に指導する。作画はアナログ・デジタルどちらにも対応する。							
授業の方法							
授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。 授業後にデジタル資料はTeamsに保存するので振り返り可能。 漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。 課題は発表、添削、講評にてフィードバックする。 不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
漫画Ⅰを履修していることが望ましい。 授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。 デジタルで描く場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。 欠席する場合は事前に連絡すること。							

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数 22 回以上。
完成した課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。
漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術をも身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。
作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	漫画Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222065)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	必要な道具を準備する (45分)
2	ストーリー漫画の構成・特徴 どんな漫画を描きたいのか	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
3	プロット①物語のテーマとキャラクター設定	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
4	プロット②主人公の現状と目的と試練	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
5	プロット③キャラクターの行動原理と成長	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
6	プロット④クライマックスと結末	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
7	ネーム①セリフとナレーション	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
8	ネーム②絵で見せる・構図	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
9	ネーム③テンポ	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
10	ネーム④見せ場	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
11	ネーム直し①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
12	ネーム直し②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
13	ネーム直し③	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
14	ネーム直し④	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
15	下描き①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
16	下描き②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	下描き③	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
18	下描き④	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
19	ペン入れ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
20	ペン入れ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
21	背景①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
22	背景②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
23	スクリーントーン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
24	スクリーントーン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
25	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
26	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
27	表紙①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
28	表紙②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
29	製本①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
30	製本②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
31	鑑賞・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進める (45分)
32	講評・展示 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業に係る講評・解説によるフィードバック	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築計画Ⅰ (科目ナンバリング：APT312006)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：		安藤 淳一）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明、「建築計画」で学ぶことの意義を確	シラバス事前確認（90分）	配布資料の確認（90分）
2	建築のかたち(1) 建築のかたちを規定する自然的条件 温湿度，風，日照・日射，敷地形状，街路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
3	建築のかたち(2) 建築のかたちを規定する人為的要素 起居方式，歴史・伝統，社会構造，機能	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
4	建築空間の性能(1) 快適性 熱環境，光環境，音環境，空気環境，心理環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
5	建築空間の性能(2) 利便性 面積・容積，高さ，ゾーニング，動線計画，空間の質と量	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
6	建築空間の性能(3) 安全性 災害と安全，避難計画，内装制限，排煙，防火	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
7	建築空間の性能(4) 耐久性と経済性 耐用年数，ライフサイクルコスト，S I方式，保存・再生	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
8	建築計画の基礎(1) 空間知覚の原理 五感と空間知覚，視認距離，囲み感，黄金分割	資料参照（90分）	演授業資料の振り返り（90分）
9	建築計画の基礎(2) 形態知覚と空間特性 ゲシュタルト心理学，空間感覚	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
10	建築計画の基礎(3) 色彩，色彩と心理，色彩と環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
11	建築計画の基礎(4) 寸法と規模と単位空間 人体寸法，動作寸法，規模算定，単位空間，階段・斜路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
12	建築計画の基礎(5) 空間の仕切り方とディテール 仕切りの手法，収まりの手法	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
13	居住施設計画(1) 戸建住宅と住宅地計画 住居の種類，生活と間取り，住環境計画，日影規制	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
14	居住施設計画(2) 集合住宅の計画 近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
15	居住施設計画(3) 住宅地計画 地域居住，近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
16	試験（試験結果・解説ならびに提出課題の総評）授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	資料参照（90分）	最終振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	アクションプログラムⅠ (科目ナンバリング：IRE321072)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。成果物の提出及びプレゼンテーションの実施。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	1 0 %	1 0 %

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザイン力・表現力	要望を汲み取り、共感・感動を生むデザインができた。オリジナリティがあり正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえ共感を生むデザインができた。正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインが作成することができなかった。
プレゼンテーション力	デザインした内容を確かに書かに表現した。共感・感動を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を確かに表現した。共感を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を確かに表現した。要望を汲み取ったプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を表現し、プレゼンテーションができていた。	プレゼンテーションができなかった。他者へ伝えることができなかった。
スケジュール管理	計画的に作業を進め、期限内に完成度の高い成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	アクションプログラムⅠ (科目ナンバリング：IRE321072)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、 科目を終了して「身に付く力」についての説明 課題説明 1	シラバスの確認 (45分)	説明内容の確認 (45分)
2	課題説明 2	デザイン構想 (45分)	敷地調査 (60分)
3	課題説明 3	デザイン構想 (45分)	説明内容の確認 (45分)
4	デザイン検討 1	デザイン構想 (45分)	デザインチェック (45分)
5	デザイン検討 2	デザイン構想 (45分)	デザインチェック (45分)
6	デザイン検討 3	デザイン構想 (45分)	デザイン表現 (45分)
7	エスキスチェック 1	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
8	エスキスチェック 2	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
9	エスキスチェック 3	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
10	成果物作成 1	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
11	成果物作成 2	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
12	成果物作成 3	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
13	成果物提出	デザイン表現 (45分)	デザインチェック (45分)
14	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション構想 (45分)	プレゼンテーション復習 (45分)
15	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション構想 (45分)	プレゼンテーション復習 (45分)
16	授業評価アンケートの実施 総評及び作品講評によるフィードバック、科目を終了して「身に付く力」についての検証	自己評価 (45分)	授業全体の振り返り (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング：BSW313015)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 （単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標						
鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。 鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。 力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。						
到達目標						
鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。 鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。 軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。						
授業全体の内容と概要						
鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。						
授業の方法						
授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計例題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。 講義には設計演習等を頻繁に実施するので必ず電卓を持参すること。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1.1回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	30%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明でき、他の人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他の人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他の人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他の人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング：BSM313015)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者：長森 正)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」に ついての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
2	鉄筋コンクリートの構造形式	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
3	構造設計の流れ・設計荷重	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質・許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
5	コンクリートの調査設計	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
6	鉄筋コンクリート造の施工法	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
7	梁の設計（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
8	梁の設計（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
9	柱の設計（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
10	柱の設計（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
11	床(スラブ)の設計（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
12	床(スラブ)の設計（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
13	地震と建物の構造	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
14	鉄筋コンクリート構造総合演習	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
15	定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説 をし、フィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に そなえる（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: MAN412004, MAN522015)				
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標 本授業では、スチューデントスキルを活かしながら、企業経営における情報の役割と管理の重要性、方法、課題について理解を深めるとともに、スタディスキルを用いて生成AIを中心とした近年の情報技術の発達が競争環境に与える影響を学び、さらに、アカデミックスキルを高めることで、経営情報の分析や活用を通じた意思決定能力を身に付けることを目指す。					
授業の位置づけ 経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。					
到達目標 ・企業活動において情報がどのように収集・分析・活用されるかを理解し、意思決定や競争戦略の中で情報管理が果たす役割を具体的な事例を通じて説明できるようになる。（スチューデントスキル） ・情報の正確性やセキュリティ、データの利活用に関する課題を整理し、企業における情報システムの導入・運用の方法を学びながら、実際の事例に基づいた適切な管理手法を提案できる力を身につける。（アカデミックスキル） ・近年のAI技術の発展が市場競争やビジネスモデルに与える影響を理解し、企業がどのようにAIを活用して競争優位性を獲得しているのかを分析できる力を養う。（スタディスキル） ・データを活用した経営判断のプロセスを学び、企業がどのように情報を基に戦略を立案・実行しているのかを考察し、自ら情報を分析して意思決定に役立てる力を身につける。（アカデミックスキル） ・企業経営における情報技術は急速に変化するため、新しい技術やトレンドに対して主体的に学び、応用できる力を身につけるとともに、情報収集や分析を継続的に行う習慣を形成する。（スチューデントスキル）					
授業全体の内容と概要 企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。					
授業の方法 ・授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題は、NLSで提出する。 ・授業の最後には次の回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求めることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。					
アクティブラーニングの実施方法					
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業
					その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。					

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。 ・単位認定に必要な最低出席回数は11回以上である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
A I 活用 の 分析力	企業 の A I 活用 事例 を 深く 理解 し、 メリット ・ リスク を 多面的 に 考察 できる。	A I 活用 事例 を 適切 に 解釈 し、 ビジネス 上 の 影響 を 論理的 に 説明 できる。	基本的 な 事例 分析 は できる が、 考察 が 表面的 である。	事例 の 解釈 に 誤り が あり、 影響 分析 が 不十分 である。	A I の 活用 事例 を 理解 できず、 分析 が できて いない。
ビジネス 課題 へ の 応用力	生成 AI を 具体的 な 課題 解決 に 活用 し、 実現 可能な 提案 を 示せる。	学んだ 知識 を 活かし、 業務 改善 や 戦略 に 関する 具体的 な 提案 が できる。	基本的 な 応用 は できる が、 提案 が 抽象的 で 実践性 が 低い。	応用 が 限定的 で、 提案 が 不正確 または 非現実的 である。	生成 AI を 課題 解決 に 活用 できず、 適切な 提案 が できない。
論理的 思考 と プレゼンテーション 力	提案 を 明確 な 論理 構成 で 整理 し、 説得力 の ある プレゼンテーション が できる。	論理的 な 構成 で、 わかり やすく 説明 し、 要点 を 的確 に 伝え られる。	基本的に 論理的 だが、 説明 が 冗長 または 曖昧 な 部分 が ある。	構成 が 不明確 で、 伝え たい 内容 が 十分に 伝わ らない。	説明 が 支離 滅裂 で、 意図 が 全く 伝わ らない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング：MAN412004, MAN522015)					
授業担当者 (所属・職名)	薦田 勇智 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 薦田 勇智)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
研究室前の掲示ボード等を参照のこと。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認 ・当該科目を修了して「身に付く力」について説明	シラバスを確認し、授業の目的を把握する (45分)	生成AIの概要を調べ、自分の関心のある分野との関連を考える (45分)
2	経営学の基礎 ・経営の基本概念と戦略を学ぶ	経営学の基本概念 (経営資源、戦略、組織論など) を調べる (45分)	学んだ経営学の基本を自分の知っている企業に当てはめて考える (45分)
3	経営情報システムとDX ・組織の意思決定を支えるツールやデータ活用の手法を理解する	経営情報システム (MIS、ERP、CRM) について調べる (45分)	授業で学んだ経営情報システムの活用事例を整理する (45分)
4	AIと経営の関係 ・新しい技術が企業の業務や事業戦略に及ぼす影響を考える	企業がどのようにAIを活用しているかの事例を調べる (45分)	AIが企業のビジネスモデルにどう影響を与えるかを考察する (45分)
5	生成AIの基礎 ・大規模モデルの仕組みや言語・画像生成の特徴を学ぶ	生成AIの基本的な仕組みや技術 (GPT、DALL-E など) を調べる (45分)	授業で学んだ技術について、実際の活用事例を探す (45分)
6	プロセスの自動化と業務効率化 ・繰り返し作業を減らし、生産性を向上させる仕組みを学ぶ	RPA (Robotic Process Automation) について調べる (45分)	自分の身の回りでAIによる業務効率化が可能な場面を考える (45分)
7	生成AIと意思決定 ・膨大なデータを分析し、適切な選択を導き出す方法を理解する	データドリブン経営に関する記事を読む (45分)	AIが意思決定にどのように影響を与えるか、自分の考えをまとめる (45分)
8	マーケティングと生成AI ・消費者の行動を分析し、最適なアプローチを設計する方法を考える	AIを活用したマーケティング手法 (広告、SNS分析等) について調べる (45分)	授業で学んだ手法を使って、企業のマーケティング事例を分析する (45分)
9	グループワーク	各グループで取り組む課題について調査する (45分)	発表内容を整理し、他グループの発表内容と比較して考察する (45分)
10	プレゼンテーションとフィードバック	プレゼンの準備 (45分)	フィードバックを受けて、改善点を整理する (45分)
11	生成AIと人材戦略 ・採用や研修の最適化に新技術を活かす方法を学ぶ	AIが採用や人事管理にどう影響を与えているか調べる (45分)	自分が人事担当者だった場合、どのようにAIを活用するか考える (45分)
12	経営戦略とAI ・競争環境を分析し、長期的な事業計画を立てる手法を考える	AIと経営戦略の関連について調べる (45分)	授業で学んだ戦略を整理し、実際の企業と照らし合わせる (45分)
13	AIの倫理・法律・ガバナンス ・偏見の排除や知的財産の保護に関する課題を理解する	AIに関する倫理的課題 (著作権、バイアス等) を調べる (45分)	AIのリスク管理について、自分の意見をまとめる (45分)
14	未来のビジネスとAI ・今後の技術発展による市場や社会の変化を予測する	AIによって変化する産業・ビジネスモデルについて学ぶ (45分)	今後AIが発展するとどのような変化が起こるか考察する (45分)
15	総括と試験対策 ・フィードバック ・科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を振り返り、重要ポイントを整理する (45分)	フィードバックを基に期末試験の準備をする (45分)
16	定期試験	期末試験の準備をする (45分)	試験の振り返りと自己評価 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『東大生も学ぶ「AI経営」の教科書』	馬淵邦美	東洋経済	2022	978-4-492-76257-8	
2	『AI時代に輝く経営の教科書』	吉村慎吾	ダイヤモンド社	2018	978-4-478-08442-7	
3	『AI経営で会社は甦る』	富山和彦	文藝春秋	2017	978-4-16-390624-9	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ミロ経済学 (科目ナンバリング：ECT422028, ECT522031)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
ミクロ経済学の基礎的な用語や考え方を学ぶことで、ミクロ経済学の考え方や枠組みを理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP 3、DP 4 に対応する。							
到達目標							
基礎的なミクロ経済学の用語を説明できる。 身近な経済事象をミクロ経済学の視点から考察できる。 市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。							
授業全体の内容と概要							
トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。							
授業の方法							
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、ミクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまいに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。また、授業の復習という目的もかねて、演習に関する解説やコメント（フィードバック）を次回以降の授業のなかでおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学の用語の理解	事例をあげてミクロ経済の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語をある程度説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できなかった。
ミクロ経済理論の理解	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を的確に説明できた。	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を説明できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式を正確に書き・計算できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミクロ経済学の図や式を書けなかった。
ミクロ経済事象の考察	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象を的確に考察できた。	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象をある程度考察できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象にある程度適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ミロ経済学 (科目ナンバリング：ECT422028, ECT522031)					
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：河野 善文)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ミクロ経済学とは： ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画 シラバスの説明 (科目を修了して「身	ミクロ経済学という用語について調べる (90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる (90分)
2	希少な資源とトレードオフ： ・トレードオフとは ・資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる (90分)	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる (90分)
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは ・機会費用の考え方	「機会費用」について調べる (90分)	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる (90分)
4	インセンティブと効用： ・意思決定と意志力	「インセンティブ」「効用」について調べる (90分)	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる (90分)
5	現在価値： ・現在価値と将来価値 ・割引現在価値の演習	「割引現在価値」について調べる (90分)	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる (90分)
6	買手の行動について： ・意思決定と機会費用、コミットメント	「コミットメント」について調べる (90分)	買手の意思決定についてノートにまとめる (90分)
7	需要曲線と消費者余剰： ・商品に対する買手の評価と需要 ・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べる (90分)	買手の評価と需要曲線、消費者余剰についてノートにまとめる (90分)
8	需要の変化と需要曲線： ・需要曲線上の変化 ・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べる (90分)	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめる (90分)
9	財と財との関係： ・代替財とは ・補完財とは	「代替財」「補完財」について調べる (90分)	代替財と補完財について事例もまじえてノートにまとめる (90分)
10	需要の価格弾力性： ・需要の価格弾力性とは ・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる (90分)	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる (90分)
11	売手の費用と行動 ・価格と供給量	価格と供給量との関係について調べる (90分)	供給曲線についてまとめる (90分)
12	限界的な変化：経済学における限界概念 ・限界効用とは ・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べる (90分)	経済学の限界概念についてノートにまとめる (90分)
13	市場機構 (1)：需要と供給 ・需要曲線と買手の限界的な評価 ・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる (90分)	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる (90分)
14	市場機構 (2)：市場の均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる (90分)	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる (90分)
15	市場の効率性と市場の失敗 全体のまとめとこれまでの演習にかんする解説・コメント (フィードバック) の振りかえり	市場の失敗について調べる (90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ (90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マンキュー入門経済学 (第4版)』	N・グレゴリー・マンキュー	センゲージ・ラーニング株式会社	2025	9784807918119	
2	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門ミクロ編』	ティモシー・テイラー	かんき出版	2013	9784761268947	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ (科目ナンバリング: ESS143155,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、授業計画を作成・研究することができる能力を身に付け、教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上である。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、詳細に観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を少ないが集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：ESS143155,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3	『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041339	
4	『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』	文部科学省	東洋館出版社	2021	9784491047010	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価方法のガイダンス 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	社会科教育の歴史(1)戦後教育の歩みについて	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	社会科教育の歴史(2)学習指導要領改訂の経過について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	中学校社会科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	高校地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	中学校社会科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	高校地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	社会科・地理歴史科教育の方法① グループワーク	ディスカッションの準備学習をしてしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	社会科・地理歴史科教育の方法② ブレインストーミング	ディスカッションの準備学習をしてしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	社会科・地理歴史科教育の方法③ ディベート	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	中学校社会科地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	中学校社会科歴史分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	高校地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	高校歴史分野の指導と評価について	フィールドワークの準備学習をしてしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	フィールドワーク 郷土資料館	フィールドワークの準備学習をしてしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施 全体を議評し、フィードバックする	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	特別活動の指導法 (科目ナンバリング：ESS143158, ESS243104,)					
授業担当者 (所属・職名)	大庭 隆（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：大庭 隆）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	元高等学校教諭・教頭・副校長、商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
特別活動の指導法について、教職を志す学生に身に付けさせることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり、学校とは何の為にあるのかをこの講義を通じて修得するものである。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
特別活動の指導法について、教職を志す学生に特別活動の内容を理解させることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり、学校の持つ意義をこの講義を通じて考える。							
授業全体の内容と概要							
カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、各回のテーマに基づき板書及び配布物資料等を活用しながら講義形式で行うとともに、指導計画の作成など実践的な内容を含めて考察・討論・発表、ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションを取り入れた思考・考察、意見交換、討論、発表等の活動としてのActive Learningを行ない、さまざまな事例を素材としPPTを活用した講義形式。コミュニケーション力、メタ認知力を身に付ける。板書となるPPTについては表示したものを毎時間配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るためのレポートを提出し発表、要望等についてもレポートに記入欄を設ける。次回の導入時に全体にフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
科目の性格上出席・受講態度等についてもそのまま評価対象とする。教師志望者として、ふさわしい受講態度で授業に臨むこと。講義に関係の無い私物については鞆に入れ、使用を厳禁とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目 中学校・高等学校教諭免許

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 定期試験・受講態度などで決定。（教科の性格上受講態度・出席を重視する）					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題発見・課題解決力	テーマに意義を発見し、目標を設定した上で、最善の方法を選択、計画を立て、適切な目標を設定、最善の方法を選択し、多面的・多角的に課題解決できた。	テーマに対し、適切な目標を設定した上で、目標に応じた方法を選択し課題解決できる、実行できた。	テーマに対し、目標を設定し、計画を立てることができ、結果を基準に照らし合わせて評価し、計画の見直しに努力できた。	テーマに対し、目標を設定することができる。結果を基準に照らし合わせて評価できた。	テーマに対して目標を設定できず、課題を発見できなかった。
プレゼンテーションのスキル	聞き取りやすい声と適度な抑揚と間のある語りで、興味を惹きつけ説明力がある。反応を受け、学習活動を牽引し、工夫ある適切なスライド資料ができた。	聞き取りやすい声と抑揚のある話し方で工夫している。自分の感情とジェスチャーに工夫ができる。図表やグラフなどスライド資料の順番・構成もできた。	終始、聞き取りやすい大きな声で話せる。みんなの表情を確認しながら話せる。文字の大きさと図表の使い方は十分だが、情報量のバランスを欠いていた。	発表途中で声が小さく、聞き取りづらいことがある。手元の原稿や発表スライドの方を向くなど不十分。文字の大きさは十分だが、図表やグラフが少なく、PRが不十分だった。	発表の内容が分かりづらく相手に自分の意見を伝えようという意図が感じられなかった。
論理的・批判的思考力	事柄・情報を整理して理論的に構造化でき、他を納得させる意見が展開できる。多面的・多角的に考察することができ、様々な可能性を検証することができた。	事柄・情報を整理して構造化でき、意見を展開できる。最速解を導くため、自分の思考が偏っていないか確認、考察することができた。	事柄・情報の整理に苦勞し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見をが正しいか考察することができた。	事柄・情報の整理に苦勞し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見をが正しいか考察することができた。	事柄・情報を整理出来ず、論理性を欠き、最速解を求めることが出来なかった。
情報管理能力	PC等の適切な図表・写真等を用いたレポート、効果的なプレゼンテーション資料を作成でき、ICTを活用した学習ができる。適切な情報整理ができる。もよくできた。	PC等の図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料が作成でき、ICTを活用した学習ができる。情報整理もできる。多角的疑問に回答が出来た。	PC等を使用して、図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料を作成できる。テーマに関する情報整理も出来た。	PC等を使用して、レポートの作成ができる。プレゼンテーションの資料作成に苦勞することが多い。テーマに関する情報整理はできた。	ICTの活用が未熟で、テーマに対する情報整理が出来なかった。
コミュニケーション力（グループワーク）	自ら積極的に話し相手との双方向の会話が出来る、学生間の信頼関係があり、学習活動の中心的存在。自他の意見の尊重で、結論を出すことに貢献できた。	自ら相手に話しかけ、相手からもよく話しかけられる。他との信頼関係を築き、関係性は良好に保つ。相手の意見に関心を持ち、注意深く聞き、相手を理解できた。	自ら相手に話しかけ、相手から話しかけられたり他との信頼関係を築く努力をしている。同意する姿勢ができる。相手の意見を積極的に聞く姿勢がみられた。	自分から話しかけないが、話しかけられれば、話をすることができる。消極的。相手の意見を聞くことができるが、議論を進め、学習活動にを活性化する発言が少なかった。	他との話し合いに参加することが無く、議論を進め、学習活動にを活性化する発言も無かった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	特別活動の指導法 (科目ナンバリング：ESS143158, ESS243104,)					
授業担当者 (所属・職名)	大庭 隆（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：大庭 隆)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	元高等学校教諭・教頭・副校長、商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
2	特別活動の歴史について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
3	教育基本法から見た特別活動の目的と意義について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
4	特別活動の種類と内容について	学習内容について、学習内容について、関連する事柄 や語句等について調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
5	学級活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
6	学級活動の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
7	学級活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
8	生徒会活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
9	生徒会活動の組織と内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
10	生徒会活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
11	学校行事の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
12	学校行事の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
13	学校行事の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
14	特別活動の指導上の家庭・地域住民や関係機関との 連携について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
15	特別活動の指導上の留意点と評価について	学習内容について、関連する事柄や語句等について 調べておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、テキスト・ノートをまとめておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分でフィードバックする	試験に備えて講義全体の振り返りを行うこと（90分）	試験および解説を受けて講義全体を振り返り理解を 深めること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング：EDU011014)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題 (生涯学習) について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる生涯学習 改訂版』	香川正弘、鈴木真理、永井健夫	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-0763-4	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバス、科目を修了して「身に付く力」、授業改善アンケート結果反映の説明～	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	生涯学習とは何か (2) ―生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	生涯学習とは何か (3) ―生涯学習と学校教育、家庭教育、社会教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	生涯学習にわたる人間形成 ―生涯教育と生涯学習、ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	諸外国の生涯学習 ―イギリス、ドイツ、アメリカなど	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習をさえる思想 ―生涯学習の学習論、社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習とリカレント教育 ―リカレント教育の意義と方策	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	民間団体・機関による生涯学習支援と大学開放	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	行政による生涯学習の振興 ―北海道の生涯学習施策を中心に（中間テスト）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	生涯学習にかかわる人的支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	施設に基づいた生涯学習活動 ―公民館、生涯学習推進センター、図書館、博物館など	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の多様な学習方法 ―学習方法の類型とワークショップなど具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	伝統として息づく日本の生涯学習 ―生涯学習の先駆的発想	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習の現代的課題 (1) ―生きている人々の生涯学習、高齢社会に対応した生涯学習など	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習の現代的課題 (2) ―高度情報化に対応した生涯学習、生涯学習の成果の活用など	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	レポートを作成する(90分)
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する（90分）	試験の結果を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会教育・生涯学習』	手打明敏、上田孝典	ミネルヴァ書房	2019	978-4-623-08447-0	
2	『生涯学習概論 改訂版』	小林 繁、平川景子、片岡了	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（3年		対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年、デザイン学科・3			
開講時期	2Q		授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	政治学入門 (科目ナンバリング：POL021022)						
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）			研究室等所在	1号館4階		
単位数	2		(単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー							

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
2	政治学の基礎概念	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
3	政治の役割	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
4	日本の内閣	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
5	日本の国会	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
6	日本の政党	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
7	日本の政治家	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
8	日本の選挙制度	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
9	日本の選挙の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
10	日本の官僚制	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分） 熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
11	日本の地方自治	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
12	地方自治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
13	日本の外交	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
14	日本政治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業テーマに関する新聞記事の熟読（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
16	定期試験（試験60分の試験終了後、残りの解説 30分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（90分）	試験のふり返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅲ (科目ナンバリング：JLN052040)				
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標							
自分の思いや考えを、相手が理解できるように伝えるにはどのような技法や作法が必要なのかを学び、日本の大学で通用するレポート、論文の書き方を段階的に身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
文章の「型」を身に着け、自分の考えを整理することができる。文章表現のルールを理解し、スキルを身に着け、正しい形のレポートや論文を書くことができる。わかりやすい文章で、相手に自分の思いや考えを伝えることができる。							
授業全体の内容と概要							
文章表現のルールや技法を段階的に学ぶ。課題発見力、情報整理力を身に着けるためのトレーニングを行い、提示される課題に取り組む。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。 「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。							
授業の方法							
資料や参考図書を使用し、段階的にレポート、論文の書き方を学ぶ。文章表現のトレーニングが中心だが、グループでお互いの文章を評価したり、課題発見力、情報整理力をつけるためのグループワーク等も行う。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話をすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。文章表現時に単語等がわからない時など、教師が許可した時のみ携帯電話等の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。 平常点も評価に影響する。授業中は真面目に取り組む、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
授業内で提示する課題と、最終レポートで評価する。課題や最終レポートの評価は文章表現のルールを理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかどうかで行う。 15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。最低出席日数は10回である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	40%	0%	25%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章を書くための知識と技術	文章を書くための知識と技術を完全に身につけ、知識と技術を活用してわかりやすい文章で表現することができた。	文章表現のルールを理解し、文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	分からないことを適切な方法で調べながら、相手に、より伝わる文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	適切な知識と技術で文章を書くことができた。文章表現のルールを完全には理解できなかった。	文章を書くための知識と技術を身につけることが全くできなかった。文章表現のルールを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりした文章表現ができた。	自身で考え、自分の言葉で表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現ができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し、授業に主体的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し主体的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅲ (科目ナンバリング：JLN052040)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容の確認と受講準備（90分）	授業内容の復習（90分）
2	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
3	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
4	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
5	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
6	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
7	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
8	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
9	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
10	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
11	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
12	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
13	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（90分）	授業内容の復習（90分）
14	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク 最終レポート課題提示	前回の復習（90分）	授業内容の復習、最終レポート作成（90分）
15	最終レポート作成	前回の復習（90分）	最終レポート作成（90分）
16	課題発表 総括（「身につく力」の検証） 授業に係る感想・離脱によるフィードバック	最終レポートのチェック（90分）	全体の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	全学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 (科目ナンバリング: PSG111008)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学は、心とは何かという問いに対して科学的な手法を用いて明らかにすることを試みる学問領域である。研究例を手がかりとしながら、どのようなことが明らかになっているのかを知り、自他の心の理解を深めることを目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。

到達目標

人の心の解釈の多様性を理解し、その中から自分なりの解を示すことができる。さらに、そうした解を学術レポートの様式に準じた形で文章表現できる。

授業全体の内容と概要

心理学が成立した過程を学び、その中でどのような研究がなされてきたのかを理解する。さらに、研究の結果としてどのようなことがわかっているのか、あるいはわかっていないのかを、自分の経験や体験と照らし合わせながら考えていく。これらの学びを通して、こころの多様性や自他への理解を深めることを目指す。
『SDGs 3. すべての人に健康と福祉を』の関連授業

授業の方法

PowerPointによるスライド資料、板書、映像等を活用しながら講義形式で行う。毎回の最後に、Microsoft Formsを活用した質疑応答を求める。受け取った質問やコメント、要望については、次回に全体フィードバックする。さらに、学生の不明点・質問はTeamsチャットなどの支援システムで迅速に回答する。レポート課題（第1回と第2回）は基本的にTeams上でやり取りを行う。提出されたレポートにはコメントし、Teamsを介してフィードバックを行う。第3回は第16回の講義で全体に向けてのフィードバックを行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「読む、考える、書く」ことを重視する。関連図書を読み、理解を深めること。特に、学術レポートの執筆が不慣れな者は、レポート執筆前に「レポートの書き方」などの文献を一読することを強く勧める。
提出物の締め切りは厳守すること。締め切りを超過したレポートも受理するが、それへの評価は相当低くなることを覚悟すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１００％	０％	０％	０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の理解	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
解とその根拠の提示	問いに対して、自分なりの解とその根拠を非常に示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をかなり示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をやや示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールを非常に理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをよく理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをやや理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールを理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートが執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	心理学 (科目ナンバリング：PSG111008)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		吉澤 英里	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードを参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『心理学 第5版補訂版』	鹿取廣人 他	東京大学出版会	2020	9784130121170	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を修了して「身に付く力」についての説明 ：オリエンテーション（ふとは何か）、第1回レ	関連図書を事前に読んでおくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
2	心理学の誕生に至るまでの歴史	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
3	行動主義	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
4	条件づけ・学習	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
5	記憶の仕組み 第2回レポート課題の提示と説明	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
6	記憶に関わる諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
7	感覚・知覚の基礎	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
8	見えの仕組みと諸現象 第1回レポート課題のフィードバック	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
9	聞こえの仕組みと諸現象 第3回レポート課題の提示と説明	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
10	問題解決と認知的発達	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
11	推論と発見	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
12	コミュニケーション（言語と非言語） 第2回レポート課題のフィードバック	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
13	動機づけ	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
14	情動（情動とは何か）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
15	フラストレーションとコンフリクト	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
16	講義内容の総括、科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施 第3回レポート課題のフィードバック	今までの授業内容を復習しておくこと。（90分）	振り返りを行うこと（90分）。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	医学概論 (科目ナンバリング：BAM112008)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障 がいなど)の考え方を生活と関連させ学修する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前に教科書全体に目を通しておく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題①	教科書の第一章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題②	教科書の第一章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題③	教科書の第一章について事前に読んでおく (90分)	配布資料と理解しておく (90分)
5	身体構造と心身機能①	教科書の第三章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
6	身体構造と心身機能②	教科書の第四章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
7	身体構造と心身機能③	教科書の第五章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと (90分)	問題を見直し自己採点しておく (90分)
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	教科書の第六章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	教科書の第六章について事前に読んでおく (90分)	配布資料と理解しておく (90分)
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③	教科書の第六章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
12	健康および疾病の捉え方①	教科書の第六章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
13	健康および疾病の捉え方②	教科書の第二章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる (90分)	
16	60 分の試験終了後、残りの 30 分で解説をし、フィードバックする	講義を通して質問事項をまとめておくこと (90分)	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年、建築学科2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (科目ナンバリング：DES211005,AEA321048)				
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
美術に携わる者にとり、色彩を抜きにしては語れない必須の要件である。色彩についての基本を体得し、作品の制作に活用させられるようにすること。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 1、DP 3、DP4に対応する。							
到達目標							
無数にある色彩を識別し分類することができるようにすること。それぞれの色彩の特徴や性格を把握し、効果的に制作に活かすことができるようにすること。							
授業全体の内容と概要							
色彩の分類、配色の仕方、光と色との関係、色彩の心理的效果、色の名前等について、テキストに沿って講義する。授業で身に着けた知識や感覚等を客観的に評価するために、色彩検定に積極的に取り組むことを期待する。また、適宜、小テストを行ったり課題をこなしてもらったりする(その都度授業内でコメントをしてフィードバックする)ことで、学習効果を測定し評価に反映させる。							
授業の方法							
テキストの中身や補足的な資料をパソコンとプロジェクターとを利用し講義する。随時、色見本(配色カード)を用いて、色彩についての感覚を磨く。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
テキストだけでなく、色見本(配色カード)等の用材をすべて揃えられることを前提に履修登録を行うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
色彩の三属性について、それぞれを識別できているか。	色彩の三属性それぞれについて、十分に理解し、微かな差異を感じ取り、十分に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ほぼ理解し、あらかたの差異を感じ取り、ほぼ正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ある程度理解し、大まかな差異を感じ取り、ある程度正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、不十分ながら理解し、少しは差異を感じ取り、不十分ながら表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、理解できておらず、差異を感じ取れず、表現できていない。
効果的な配色を行えるか。	配色のルールについて、十分に理解し、十分効果的に表現できている。	配色のルールについて、ほぼ理解し、ほぼ的確に表現できている。	配色のルールについて、ある程度理解し、ある程度の確に表現できている。	配色のルールについて、不十分ながら理解し、不十分ながら表現できている。	配色のルールについて、理解できていなく、表現できていない。
それぞれの色彩の特徴や性格を把握しているか。	色彩の特徴や性格を十分に把握している。	色彩の特徴や性格をほぼ把握している。	色彩の特徴や性格を大体把握している。	色彩の特徴や性格を不十分ながら把握している。	色彩の特徴や性格を把握できていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	デザイン学科2年、建築学科2年		
開講時期	2 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (科目ナンバリング：DES211005,AEA321048)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)			研究室等所在	2号館1階	
単位数	2 (単位認定責任者：		安田 祐造)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たこと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『色彩検定 出る順』	カラボ色大学	ナツメ社	2020年	9784816368707	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画について、科目を修了して『身に付く力』についての説明、テキスト、色見本について	あらかじめ必要なテキストや用材を準備しておく。(90分)	色の三属性について復習する。(90分)
2	色相と色相環について	色相と色相環について予習しておく。(90分)	色相と色相環について復習する。(90分)
3	明度と彩度について	明度、彩度について予習しておく。(90分)	明度、彩度について復習する。(90分)
4	配色のルールについて	配色のルールについて予習しておく。(90分)	配色のルールについて復習する。(90分)
5	配色について	配色について予習しておく。(90分)	配色について復習する。(90分)
6	光と色について	光と色について予習しておく。(90分)	光と色について復習する。(90分)
7	混色について	混色について予習しておく。(90分)	混色について復習する。(90分)
8	色の心理的效果について	色の心理的效果について予習しておく。(90分)	色の心理的效果について復習する。(90分)
9	色の視覚的效果について	色の視覚的效果について予習しておく。(90分)	色の視覚的效果について復習する。(90分)
10	光と色について	光と色について予習しておく。(90分)	光と色について復習する。(90分)
11	混色について	混色について予習しておく。(90分)	混色について復習する。(90分)
12	色彩の心理について	色彩の心理について予習しておく。(90分)	色彩の心理について復習する。(90分)
13	色の視覚的效果について	色の視覚的效果について予習しておく。(90分)	色の視覚的效果について復習する。(90分)
14	配色イメージについて	配色イメージについて予習しておく。(90分)	配色イメージについて復習する。(90分)
15	色の名前について	色の名前について予習しておく。(90分)	色の名前について復習する。(90分)
16	総括とまとめ、科目を修了して『身に付く力』についての検証、小テストや課題の内容について触れフィードバックする。	これまでの学習について総括しておく。(90分)	これまでの学習について総括する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング：BSW313017)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2	(単位認定責任者：小笠原 健)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として、一般建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
人命を預かる建築物を造りだす過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技士試験に対応した基本事項の理解を深める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士試験を見据えた学力を修得できる。							
授業全体の内容と概要							
配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。							
授業の方法							
配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
配布資料を必ず持参すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。 やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。	
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。	
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築施工 (科目ナンバリング：BSM313017)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 科目を終了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
2	事前準備：地盤調査	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
3	仮設工事計画：仮設建物・工作物	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
4	地下工事：土工事・山留め工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
5	地下工事：基礎工事 (直接基礎および各種杭基礎)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
6	鉄筋コンクリート工事：鉄筋工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
7	鉄筋コンクリート工事：型枠工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
8	鉄筋コンクリート工事：コンクリート工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
9	鉄筋コンクリート工事：プレキャスト・ブロック工事・ALC工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
10	鉄骨工事：鉄骨の種類と加工	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
11	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・溶接接合	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
12	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・高力ボルト接合	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
13	鉄骨工事：工事現場作業 (工事現場作業工程等)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
14	木質系工事：木造の接合部・造作工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
15	木質系工事：小屋組と工法・枠組壁工法	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
16	定期試験 (60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える (90分)	定期試験内容を整理して、復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・担当	全学科・2年生		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	インターシップ・きやりﾌﾟ ﾏﾞﾗﾑⅡ (科目ナンバリング: SOE092061)				
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者: 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応				

概要

履修目標							
社会経験・就業体験を通して企業で現実要求される能力や今後必要とされる能力を学習する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会経験・就業体験を通して、将来の進路決定の際の判断材料とする。							
授業全体の内容と概要							
就業先で説明や体験、就業に各自参加する。							
授業の方法							
社会経験・就業体験を通して、業界研究、企業研究、職種研究、社会人マナー等を学習する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業の出席状況が不良、取得単位が不足の学生は申し込み不可							

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
説明会などへの参加、1年を通して5日以上または45時間以上のインターンシップ参加、参加企業からの評価が記入されている評価表の提出を必須とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自主性・積極性	学ぶ意識を高く持ち、周囲とのコミュニケーションも図り、指示がない業務にも積極的に取り組んでいた	周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務へも積極的に取り組んでいた	積極性は乏しいものの、要請された業務に取り組んでいた	質問なども少ないが、要請された業務には取り組む努力が見られた	消極的で業務への取り組みをしていなかった
協調性	依頼や要請に積極的に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に協力的な態度で取り組んでいた	依頼や要請に協力的に取り組むよう努力していた	依頼や要請に非協力的で取り組んでいなかった
責任性	出勤簿などの提出物を事前に準備し提出した	出勤簿などの提出物を締切前までに提出した	出勤簿などの提出物を締切までに提出した	出勤簿などの提出物を締切後に遅れて提出した	出勤簿などの提出物を提出しなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年生			
開講時期	通年	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	インターンシップ・キャリアプログラムⅡ (科目ナンバリング：S0E092061)					
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者： 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	説明会 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	単位申請の確認 (45分)	就業に関する確認 (45分)
2	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
3	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
4	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
5	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
6	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
7	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
8	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
9	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
10	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
11	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
12	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
13	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
14	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
15	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
16	インターンシップ先での就業もしくは報告会 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体を通しての総括 (45分)	全体を通しての 反省・フィードバック (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング：CHS121072)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
以下の4つを授業の目的とする。 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。 3. 保育者の連携・協働について理解する。 4. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
1. 保育者の役割・倫理、協働、専門職的成長について理解したことを説明する。 2. 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解したことを説明する。							
授業全体の内容と概要							
保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、板書とプレゼンテーションソフトを活用しながら講義形式で行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換や教材配付等を行う。 レポートに関してもコメントしてフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。 遅刻した場合、授業へは参加できるが20分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
保育者の役割に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。	
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング：CHS121072)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針〈平成29年告示〉』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2	『保育所保育指針解説 平成30年3月』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 保育者の役割・職務内容・職務内容	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育士の倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	保育士の資格・資質	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（90分）。
4	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（90分）。
9	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	9回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
10	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	10回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
11	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	11回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
12	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	12回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	13回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（90分）。
15	組織とリーダーシップ まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく（90分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（90分）。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバックと 授業改善アンケートの実施（「身に付く力」の検	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)。	験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論Ⅰ (科目ナンバリング：DES211014)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本 知識を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
前目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論Ⅰ (科目ナンバリング：DES211014)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本 知識を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性 科	シラバスを読んでおくこと (90分)	受講環境の整備 (90分)
2	確学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」	シラバスの確認 (90分)	小レポートの作成・提出 (90分)
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
6	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
10	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
11	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
12	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
13	現代に直結するデザイン史⑩ 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
14	現代に直結するデザイン史⑪ ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界・デザインと	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
15	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	シラバスの確認 (90分)	自己採点 (90分)
16	デザイン概論Ⅰのまとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	情報と資料の整理 (90分)	授業内容のまとめ (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本経済史 (科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：小林 大州介)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第2次世界大戦後は世界的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的発展を多角的に学びを身に付け、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。 社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。							
授業全体の内容と概要							
鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的イベントや経済制度の観点から考察する。							
授業の方法							
PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のための最低出席回数は11回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的な例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ：経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本経済史 (科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
2	「近世経済」の成立と展開1－農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
3	「近世経済」の成立と展開2－武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
4	移行期の日本経済1－維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
5	移行期の日本経済2－維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
6	移行期の日本経済3－資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
7	明治～大正時代の日本経済1－生産組織や技術導入による経済成長	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
8	明治～大正時代の日本経済2－資本と労働	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
9	明治～大正時代の日本経済3－戦間期の日本経済	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
10	明治～大正時代の日本経済4－変貌する都市と農村	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
11	昭和初期～第二次世界大戦期の日本経済	第2次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
12	敗戦と経済復興1－統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
13	敗戦と経済復興2－高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
16	定期試験（60分）と試験の解説 講義の講評をおこなう。 授業に係る解説によるフィードバック	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと(90分)	講義の全体を良く振り返っておくこと(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本経済史』	沢井実	有斐閣	2016	9784641164888	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング：SOC423044, SOC523043)					
授業担当者 (所属・職名)	松本 聡 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：松本 聡)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(北海道委嘱：35年)としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的に・実践的に説明する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一様ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として、自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。							
授業全体の内容と概要							
「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは…。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実事例をていねいに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG11.住み続けられるまちづくりを」「SDG12.つくる責任　つかう責任」の関連授業。							
授業の方法							
講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、まちづくりの理論的側面を概説した上で、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・資料等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う（3回程度）。レポート・課題提出を数多く求めるが（6回程度）、グループワークやレポート等へのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問、発言するなど積極的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容に真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。	授業中、着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に、地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体性に富み、魅力に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的、魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング：SOC423044, SOC523043)					
授業担当者 (所属・職名)	松本 聡（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：松本 聡）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（23年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：35年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的に・実践的に説明する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスを中心に説明（本講の目的、内容・意義、進め方、科目を修了して「身に付く力」の説明、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受	シラバスによく目を通しておく（90分）	授業内容に関連した「作文」を作成（90分）
2	まちづくりへのアプローチ①（1）基礎理解（その概念、今日的意義・課題、担い手、新しい公共、参加・協働など）	事前配布「米百俵」を読んでおく（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
3	まちづくりへのアプローチ②（2）構想・計画（まちの構成要素、その点検、計画・ルールなど）、まちづくりの事例研究①<旭川市>	事前配布「旭川買物公園」を読んでおく（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
4	まちづくりへのアプローチ③（3）実践に向けて（その準備、基本手順、留意点など）、まちづくりの事例研究②<山形県長井市>	事前配布「長井市レインボープラン」を読んでおく（90分）	授業内容に関するレポートを作成する（90分）
5	まちづくりの事例研究③ 過疎を逆手にとる<鹿児島県鹿屋市やねたん集落>	過疎地域の今日的状況、課題を考察しておく（90分）	授業内容に関するレポートを作成する（90分）
6	まちづくりの事例研究④ まちの美化・環境改善への挑戦<長野県飯田市>	事前配布「飯田市リンゴ並木」を読んでおく（90分）	授業内容に関するレポートを作成する（90分）
7	まちづくりの事例研究⑤ まちの歴史、町並みを活かす<愛媛県内子町>	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
8	まちづくりの事例研究⑥ 美しい水環境を再生する<福岡県柳川市>	事前配布「柳川の堀割」を読んでおく（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
9	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」<北広島市の幹部職員を予定>	北広島市についての資料・データ・情報にアクセスする（90分）	ゲスト講話の内容に関するレポート作成（90分）
10	まちづくりの事例研究⑦ 障がい者が働く・輝く<東京都スワンベーカーリー>	事前配布「スワンベーカーリー」を読んでおく（90分）	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる（90分）
11	まちづくりの事例研究⑧ 安心・安全な子育て環境を創る<東京都NPOフローレンス>	事前配布「病児保育のフローレンス」を読んでおく（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
12	まちづくりの事例研究⑨ 商店街の再生・活性化<東京都足立区東和銀座商店街&香川県高松市丸亀町商店街>	事前配布「東和銀座商店街」を読んでおく（90分）	出身地の商店街の現状、課題を検討・整理してみる（90分）
13	まちづくりの事例研究⑩ 高齢者の生きがい・働きがい創造<徳島県上勝町>	事前配布「上勝町の葉っぱビジネス」を読んでおく（90分）	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く（90分）
14	まちづくりの事例研究⑪ 若者によるまちづくりイベント・活性化<札幌市YOSAKOIソーラン祭り>	配付資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」を作成（90分）	授業内容に関するノートを整理する（90分）
15	まとめ ①課題「北広島市のまちづくりへの提言」発表・提出 ②総括講義「まちづくりの要諦」 ③「授業改善アンケート」	課題「北広島市への提言」をまとめておく（90分）	「まちづくり論」のノート、資料の整理（90分）
16	「定期試験」（60分）及び解説（30分） 授業に係る講評・解説によるフィードバック科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験の準備（90分）	定期試験及び解説を受けて、本講全体の理解を深める（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	日本画 (科目ナンバリング：AEA223119)					
授業担当者 (所属・職名)	岡 恵子（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：岡 恵子）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で直接、またはTEAMSチャットなどに対応。					

概要

履修目標

1.身の回りの自然物、静物、人物、風景などを選択し、「私を描く」「私の大切なもの」をテーマとして、作品の主題を設定することができる。

2.日本画作品の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に付けることができる。

3.写生から下絵、本画の制作と進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。

4.水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画画材と用具を知り、基本的な扱い方や技法を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

1.自らの興味関心を大切にし、主題を明確にした対象の選択と画面構成をすることができる。

2.写生を通して対象を的確に描写することができる。

3.写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。

4.日本画画材と用具についての基礎的な知識と扱い方を知り、日本画の基本的な技法を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

季節の自然物、身の回りの静物、人物、風景など、興味を抱いた対象を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。

木枠に絵絹を貼り込む。響水を引く。写生した対象を直接または臨摹アプリ等を利用して画面上に構成する。先人の作品を鑑賞し、筆と墨を使った運筆演習をする。

下図の輪郭線を具墨で描き出す。膠・胡粉・水干絵の具など画材の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて写表現も扱う。

絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。絹の透け感を生かした装丁を考える。作品の制作を通して自己を見つめ「私を描く」「私の大切なもの」をテーマに表現することを目標とする。

授業の方法

授業は、TEAMSのパワーポイント資料、または授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内初期段階で行う。作品の制作過程で、毎時間「創作レポート」を記入することを通して、作品制作の構想と日本画の知識の定着をはかる。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション)と相互講評を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。希望者は戸外(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。制作途中、墨を擦る、模写運筆演習、胡粉を溶く、カラ刷毛を使ったグラデーション技法などはグループで協力して行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。時価(1,500円程度)

制作スペースと用具の関係から履修人数を24名程度に制限する。

毎授業前にTEAMSに当該授業の内容の紹介と連絡などを提示するので、予習しておくこと。

日本画の画材に早く慣れるために、授業当番を設ける。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とする。 ○以下の3点が期日までに提出されていること ①写生(TAMS課題欄に期日までに提出) ②絹本に着色した日本画作品1点 ③創作レポートブック ○日本画についての基礎知識を持っていること(基礎知識を問うテストを授業内で実施する)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	70%	10%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
写生力	対象の色と形をよく観察し、上での的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線に対象の質感と筆感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線に対象の質感と筆感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴を知り、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴を知り、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴を知り、表現することができなかった。
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識の習得を指すことができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	日本画 (科目ナンバリング：AEA223119)					
授業担当者 (所属・職名)	岡 恵子 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 岡 恵子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で直接、またはTEAMSチャットなどで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ・「日本画とは」概説 ・シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の	シラバスを読む (45分)	シラバスを確認し、日本画の概説と授業の流れを確認する。(45分)
2	掲示された先輩の作品鑑賞し、作品の構想のヒントとする ・創作レポートに感想を書く	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。木枠の組み方の解説を確認する。(45分)	掲示してある先輩の作品を鑑賞し興味を抱いた点を認める。木枠の組み方の解説を確認する。感想を創作レポートに記入する。(45分)
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備 (45分)	泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習する。(45分)
4	モチーフを写生する①	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
5	基底材としての絵絹の特性を知る ・絹本作品の掛け軸の鑑賞	テキストの絵絹の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備 (45分)	絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択する。(45分)
6	モチーフを写生する② ・絹の文化と特性を知る ・絹柱に絵絹を貼る	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
7	膠、明膠、ドウサを知る ・絵絹に海引きをする ・ドウサをひく	テキストの膠と膠水の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備 (45分)	湯引きの目的、膠水と膠水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深める。(45分)
8	モチーフを写生する③ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備 (45分)	基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認する。(45分)
10	モチーフを写生する④ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。モチーフを選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
11	墨を知る、墨を摺る ・墨による線描線写演習 日本画基礎知識ドリルテスト (予備日)	墨の濃淡・線質について資料等を閲覧しイメージする。(45分)	墨の擦り方、保管、日本画の線描、骨描きについて演習を通して確認する。(45分)
12	①～④の写生を使って画面を構成する ・骨描きをする	墨の種類、擦り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
13	胡粉を知る ・胡粉を溶いてみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。(45分)	日本画の色材の基本である胡粉の伝統的な扱い方と美しい発色を知る。(45分)
14	絹に胡粉を塗る	胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習する。資料を確認して具引きの方法を知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溶く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習する。(45分)	水干絵具の美しい溶き方を確認する。(45分)
16	日本画の塗りの技法演習 ・絵具の処理と筆の手入れ方法	水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し確認する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	相互鑑賞	作品の背景色と塗りの方法を決定する。(45分)	ほぼ下絵が完成した段階で、作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気づき互いに技法を学ぶ合う。(45分)
18	絵絹作品の彩色① ・表彩色と裏彩色の違い	TEAMS資料やテキストを確認する。背景色を想定する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
19	絵絹作品の彩色②	絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定する。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
20	絵絹作品の彩色③ ・箔を使った表現、裏箔と砂子	テキストやTEAMSの箔の資料を確認する。	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
21	絵絹作品の彩色④	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
22	絵絹作品の彩色⑤	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
23	絵絹作品の彩色⑥	学習内容に必要な事前準備を行う。裏装丁を工夫した表現を考える。(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
24	絵絹作品の彩色⑦ ・絹の透け感を生かし表現を考える	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	次週までの課題として復習テスト問題を考える。テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
25	絵絹作品の彩色⑧	作品の裏装丁を施す。(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
26	絵絹作品の彩色⑨	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
27	画印を考える ・画印を描く	"画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備 (45分)	復習テスト問題を集約する (45分)
28	相互鑑賞	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。作品についての乾燥を考える。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
29	創作ノートの記入完成 ・画印を描く	創作ノートの記入 (一部復習テストあり)	創作ノートの完成
30	作品完成と鑑賞 作品を額装する	作品の装丁に必要な素材や額を選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく。(45分)	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)
32	課題課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング：AEN312113)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 君 興治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。					

概要

履修目標

建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作図するのか。
本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する科目

到達目標

住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。
「SDG7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」
「SDG12 つくる責任 つかう責任」
これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく

授業の方法

授業では、板書やICT（チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１２回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング：AEN312113)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：君 興治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、授業ガイダンス 実際の建築図面をもとに、設備の設計・計画ができ	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	給水設備・給湯設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
3	給水設備・給湯設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
4	給水設備・給湯設備の概要と計画 (3) 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却すること でフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
5	衛生設備・排水設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
6	衛生設備・排水設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
7	衛生設備・排水設備の概要と計画 (3) 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却すること でフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
8	空調設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
9	空調設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
10	空調設備の概要と計画 (3) 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却すること でフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
11	電気設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
12	電気設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
13	電気設備の概要と計画 (3) 提出課題に添削を行い、コメントを書いて返却すること でフィードバックする。	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
14	照明設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
15	照明設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
16	照明設備の概要と計画 (3) 授業改善アンケートの実施 最終授業にて、これまでの振り返りを行い、各学生	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい 建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ (科目ナンバリング: ESS143156,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
中学校の社会科教諭及び高等学校の地理歴史科教諭として最低限、身につけなければならない事、すなわち「社会科」・「地理歴史科」という教科の本質的な意義と目的を、詳細に理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
実際に「社会科」・「地理歴史科」の授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。							
授業全体の内容と概要							
教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業（後期）等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。							
授業の方法							
授業形態は講義形式（板書を含む）が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
講義内で適宜連絡する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上である。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現ができた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現ができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ (科目ナンバリング: ESS143156,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバスの説明を含む) 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	模擬授業見学(4年生)(1)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
3	模擬授業見学(4年生)(2)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	模擬授業の実践 ～地理的な見方・考え方～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
5	模擬授業の実践 ～国際理解～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
6	模擬授業の実践 ～身近な地域～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
7	模擬授業の実践 ～歴史的な見方・考え方～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
8	模擬授業の実践 ～過去と現在のつながり～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
9	模擬授業の実践 ～多面的・多角的に考察する力～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
10	模擬授業の実践 ～地理情報システム～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
11	模擬授業の実践 ～防災～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
12	模擬授業の実践 ～近現代・国際社会～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
13	模擬授業の実践 ～近現代・日本～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
14	総合的な学習の時間における地理歴史科 ～テーマ～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	総合的な学習の時間における地理歴史科 ～調査～	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする	まとめの準備(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング：ESS143160, ESS243107,)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：高井 雅一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

概要

履修目標							
生徒指導・進路指導の意義や役割をはじめ、その考え方、進め方を学ぶ。今日的な課題や対応できる資質能力を身につけ、学校指導体制や関係諸機関との連携の在り方について理解する。							
授業の位置づけ							
-							
到達目標							
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理及び今日的な課題、望ましい指導体制、家庭や関係機関との連携の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の進め方を理解し、効果的な授業を実践することができる。							
授業全体の内容と概要							
・生徒指導・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成することを援助するためのものであり、個としての個人適応ならびに社会適応の促進を援助するためのものであることをわかりやすく講義する。 ・各テーマにより、グループ学習など自他の意見交換をしながら、自分の意見をまとめて発表できるとともに、協調性を身に付けられるような活動を行う。 「SDG10」人や国の不平等をなくそう問題でいじめ・不登校などの対応など体得する。							
授業の方法							
・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。 ・Formsを使い理解度を把握するための小テストを行い、指導する。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・主体的・対話的な学習を行うため、座席を指定する。 ・講義で配布するプリント等は、ファイルに整然と保管し、必要時に参照できるようにする。 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のある場合は可。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生徒・進路指導の意義と諸問題についての理解できる	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（9割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（8割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（7割）	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できた。	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できなかった。
生徒・進路指導の在り方についての思考・判断ができる	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（9割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（8割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（7割）	調和のとれた人格を育成するために生徒・進路指導を考えることができた。	調和のとれた人格を育成するための考えや判断ができなかった。
意見発表における主体性を身につける	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（9割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（8割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（7割）	生徒が自己実現するためにどう援助するかを自分の意見をまとめることができた。	社会で自己実現するための援助するための自分の意見をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング: ESS143160, ESS243107,)				
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	学校で生徒指導がなぜ必要か自分の考えを言えるよ うにしておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
2	教育課程と生徒指導・進路指導の関連と進め方につ いて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
3	生徒指導体制と教育相談体制の考え方の違いにつ いて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
4	学校と家庭・地域・関係諸機関との連携と協力につ いて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
5	生徒指導計画と進路指導計画の実践と課題について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
6	校則の意義と改善について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
7	体罰、児童虐待の現状と適切な指導方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
8	問題行動等（1）「いじめの定義」「不登校の多様な 要因」「暴力行為」等の現状の理解と対応・指導法 について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
9	問題行動等（2）事例による対応策の討論・発表に ついて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
10	インターネット・携帯電話の利用の現状と対応につ いて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
11	効果的な職場体験・インターンシップ実施上の留意 点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
12	アクティブ・ラーニングによるキャリア教育の理論 と実践について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
13	キャリアプランの作成とキャリアカウンセリングの 考え方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
14	生徒指導・進路指導のアセスメントの意義と目的に ついて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
15	学校安全の現状と現代の労働問題について 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・館説によるフィードバック	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容の復習。（90分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新生徒指導・進路指導一理論と方法一』	林尚示・伊藤秀樹	学文社	2018	9784762028298	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	教育図書	2022	9784877302740	
3	『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2011		
4	『高等学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2012		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅳ (科目ナンバリング：JLN052041)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	(単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
就職活動はもちろん、在学中のインターンシップやアルバイト、卒業後の就職や進学に必要なビジネス日本語を身につける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
ビジネスの現場また就職活動というシチュエーションに沿った語彙・重要表現を習得し、正しく使うことができる。日本の独特な就職活動文化を理解する。							
授業全体の内容と概要							
参考文献を使用して授業を行うが、日本語教材以外では履歴書や求人、送付状など、日本で目にするものを参考資料として使用し、実際に使われている言葉の中から語彙力を身につけていく。							
授業の方法							
教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。問題解答時やシチュエーションに合わせたロールプレイ、テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻、欠席をしないこと。30分の遅刻は欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。授業最終日（16回目）に期末試験を行う。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本語Ⅳ (科目ナンバリング：JLN052041)					
授業担当者 (所属・職名)	高橋 真弥（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	(単位認定責任者：高橋 真弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（90分）	授業内容復習（90分）
2	日本の会社で働く～外国人に必要な資格・レベル・ヒザ～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
3	履歴書の書き方・内容	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
4	履歴書～実際に書いてみよう～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
5	日本の会社～職種・部署・役職～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
6	挨拶・自己紹介・他己紹介～対面・面接～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
7	電話～出方・かけ方・切り方～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
8	電話～実際にやってみよう～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
9	メール～アポイントメント・書類の確認・送付～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
10	メール～実際に書いてみよう～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
11	手紙～送付状・DM・FAX～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
12	手紙～実際に書いてみよう～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
13	アポイントメント～社内・社外・方法～	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
14	報告（ホウレンソウ）・許可・指示・断る・謝罪・感謝	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
15	総括（「身につく力」の検証）・授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・随説によるフィードバック	資料の確認（90分）	授業内容復習（90分）
16	期末試験（60分）・解説（30分）	期末試験準備（90分）	授業内容復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『外国人のための ケーススタディで学ぶビジネス日本語 中級』	千駄ヶ谷日本語教育研究所	スリーエーネットワーク	2020年	9784883198535	購入の必要なし
2	『ビジネス日本語マスターテキスト』	Heart & Brain Inc.	IBCパブリッシング	2017年	9784794605184	購入の必要なし
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・担当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 (科目ナンバリング: SWS112009)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	０％	２０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
高齢者の特性について理解できる。	高齢者が生活してきた時代背景を含めて、説明できる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	身体的、精神的、社会的特徴の理解ができる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者を取り巻く環境と、生活実態の理解ができる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題と今後の課題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者支援に対する関連制度の理解ができる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要と、各々の課題について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者と家族の支援におけるソーシャルワーカーの役割を理解できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を事例を用いて説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 (科目ナンバリング：SWS112009)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座高齢者福祉』	荘村明彦	中央法規	2021年	978-4-8058-8245-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して身に付く力の説明	教科書の目次に目を通す。新聞の高齢者に関する記事をストックする。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	高齢者の特性	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	高齢者の生活実態と、高齢者を取り巻く社会環境	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	高齢者福祉の歴史	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	高齢者福祉の法体系① 老人福祉法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	高齢者福祉の法体系② 高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	高齢者福祉の法体系③ バリアフリー法、高齢者住まい法等	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
8	小試験	1回から7回の内容を復習する。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	小試験を返却し、解説をしフィードバックする(30分) 高齢者福祉の法体系④	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	高齢者福祉の法体系⑤ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	高齢者福祉の法体系⑥ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	高齢者支援における関連機関と専門職	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	定期試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	定期試験を返却し、解説をしフィードバックと、科目を修了して身に付く力についての検証を行う。 授業改善アンケートの実施	1回から15回を振り返り、質問事項があればまとめる。(90分)	試験の不正解部分について復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	デッサンIII (科目ナンバリング：AEA222008)					
授業担当者 (所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：西田 陽二)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。 卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。							
授業全体の内容と概要							
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。							
授業の方法							
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	デッサンIII (科目ナンバリング：AEA222008)					
授業担当者 (所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：西田 陽二)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。造形の基本となる力を身に着ける。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像 (胸像) のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像 (胸像) のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像 (胸像) のデッサン ⑤作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像 (胸像) のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像 (胸像) のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像 (胸像) のデッサン ⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像 (胸像) のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像 (胸像) のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (胸像) のデッサン ⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (胸像) のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (胸像) のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (胸像) のデッサン ⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (胸像) のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (胸像) のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (胸像) のデッサン ⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン ⑦作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック) 陰影法の意味を理解出来ているかを確認する。 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築構造力学Ⅰ (科目ナンバリング：BSW312012)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
建築技術者に必要な建築構造力学のうち、力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する。 物理学や数学をベースとして構造計算の基礎知識を修得し、それらを応用する能力を身につける。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージすることができる。力の釣り合いを理解し、静定ばり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。							
授業全体の内容と概要							
取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。 力の表示・合成・分解・釣り合い等から構造物の荷重・反力、応力などの事項を講義する。							
授業の方法							
教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書の例題と配布演習資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。 講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習（反復演習）が必要である。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1.1回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	20%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	級建築士問題（構造部門）を解答でき、他の人に説明できた。	級建築士問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築構造力学Ⅰ (科目ナンバリング：BSM312012)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明 シラバスの説明・構造力学に必要な算術計算	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（90分）
2	力の基礎（2）力の分解・単位・モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
3	力の基礎（3）力の合力・分布荷重・モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
4	力の釣合い（1）平行な釣合い	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
5	力の釣合い（2）数点の釣合い	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
6	反力（1）反力の種類	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
7	反力（2）単純梁の反力	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
8	反力（3）片持ち梁・張り出し梁の反力	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
9	反力（4）ラーメン梁の反力 小テスト（1）・小テストの結果について授業内で コメントしてフィードバックする	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
10	部材の生じる力（1）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
11	部材の生じる力（2）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
12	部材の生じる力（3）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
13	部材の生じる力（4） 小テスト（2）・小テストの結果について授業内で コメントしてフィードバックする	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
14	部材の生じる力（5）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説 を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に 備える（90分）	演習問題を理解し復習する（90分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理して確認する	授業内容全体について資料を整理する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年生			
開講時期	通年	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	インターシップ・キャリアプログラムIII (科目ナンバリング：S0E092062)					
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者：各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応					

概要

履修目標							
社会経験・就業体験を通して企業で現実要求される能力や今後必要とされる能力を学習する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会経験・就業体験を通して、将来の進路決定の際の判断材料とする。							
授業全体の内容と概要							
就業先で説明や体験、就業に各自参加する。							
授業の方法							
社会経験・就業体験を通して、業界研究、企業研究、職種研究、社会人マナー等を学習する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業の出席状況が不良、取得単位が不足の学生は申し込み不可							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
説明会などへの参加、1年を通して5日以上または45時間以上のインターンシップ参加、参加企業からの評価が記入されている評価表の提出を必須とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自主性・積極性	学ぶ意識を高く持ち、周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務にも積極的に取り組めていた	周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務へも積極的に取り組めていた	積極性は乏しいものの、要請された業務に取り組んでいた	質問なども少ないが、要請された業務には取り組む努力が見られた	消極的で業務への取り組みをしていなかった
協調性	依頼や要請に積極的に周囲との連携を図りながら取り組めていた	依頼や要請に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に協力的な態度で取り組んでいた	依頼や要請に協力的に取り組むよう努力していた	依頼や要請に非協力的で取り組んでいなかった
責任性	出勤簿などの提出物を事前に準備し提出した	出勤簿などの提出物を締切前までに提出した	出勤簿などの提出物を締切までに提出した	出勤簿などの提出物を締切後に遅れて提出した	出勤簿などの提出物を提出しなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年生		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	インターンシップ・キャリアプログラムⅢ (科目ナンバリング：S0E092062)				
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者： 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	説明会 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	単位申請の確認 (45分)	就業に関する確認 (45分)
2	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
3	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
4	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
5	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
6	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
7	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
8	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
9	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
10	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
11	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
12	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
13	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
14	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
15	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
16	インターンシップ先での就業もしくは報告会 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体を通しての総括 (45分)	全体を通しての 反省・フィードバック (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング：CHS122073)					
授業担当者 (所属・職名)	穴水 ゆかり (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 穴水 ゆかり)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の3つを授業の目的とする。 1. 保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
1. 子どもを理解する視点について説明する。 2. 子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。							
授業全体の内容と概要							
子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイントを使用して、プリントを配布する。 演習では主に保育現場を想定した事例を提示し、学生は自分の考えをプリントに記入した後、学生同士で意見交換、討論を行う。必要に応じてさらにプリントに記入し、最後に教員が解説をする。 最後に授業プリントの提出を求め、授業への取り組み状況と理解度を確認して評価する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。 遅刻の場合は入室可能だが、20分以上の遅刻は欠席扱いとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・撮影は事前の相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、就学サポートの内容は、授業スライドの配布、筆記・メモ目的のPCの持ち込みと利用等、必要に応じて適宜、学生と相談の上で考える。
資格指定科目
保育士養成課程（必修科目）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
子ども理解の視点に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。	
思 発達課題に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング：CHS122073)					
授業担当者 (所属・職名)	穴水 ゆかり (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者：		穴水 ゆかり)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	子どもに対するかかわりと共感的理解	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どもを理解する視点 ①子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	子どもを理解する視点 ②保育の人的環境としての 保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	子どもを理解する視点 ③子ども相互のかかわりと 関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
6	子どもを理解する視点 ④集団における経験と育ち	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	子どもを理解する視点 ⑤発達における葛藤、つま ずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	子どもを理解する視点 ⑥保育の環境の理解と構成	発達心理等発達過程を理解しておく（90分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
9	子どもを理解する視点 ⑦環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
10	子どもを理解する方法 ①観察・記録・省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
11	子どもを理解する方法 ②職員間の対話	対象年齢と計画の運動性を理解しておく（90分）。	11回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
12	子どもを理解する方法 ③保護者との情報の共有	対象年齢と計画の運動性を理解しておく（90分）。	12回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	13回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価ページを事前に読んでおく（90分）。	14回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
15	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了後に示す課題を作成する（90分）。
16	配布プリントをもとに授業のまとめと振り返り 提出されたレポートについてフィードバック 授業改善アンケートの実施	15回の授業内容を振り返り、復習する(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する。授業内容の振り返り、フィードバックされたレポートをもとに復習し整理する(90分)。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論Ⅱ (科目ナンバリング：DES211015)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：堤 美穂子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの实務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題 の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

デザイン概論Ⅰで学んだデザイン史の流れを汲み、現代のデザイン（おもに広告やマーケティング、コミュニケーションを例に）において、著名な人物や事象・事例などを取り上げ、今に続く変遷を辿る。

ある目的を果たすため、または特定の機能を發揮するために作成された広告等のデザインが、どんな時代背景を背負って生まれたかを知り、シーズ型からニーズ型へと変化してきた現在に至るプロダクトおよびサービスのデザインと、それを支えた広告広報デザインの変化についてを理解する。またそれらを、美意識、企み、未来といった切り口で角度を変えて学ぶことで、広義のデザインを大きな流れでとらえる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。

授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げた議論によってデザインに関する自分の考えを深め、他者に伝えることができるようになる。

授業全体の内容と概要

今日のデザインへの成り立ちに至るまでに起きたおもな事象とその時代背景について、おもにマーケティングやコミュニケーションを通して学びながら、議論によって自分の考えを深める。

授業の方法

本講義は、毎回の内容に沿ったPowerPointスライドショー提示による講義（問いの提供）と、whitebord等のアプリを使ったワークショップでの議論（議論した内容を発表）の、二部構成となる。

したがってスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。

毎回の授業終了後に、PowerPointによるスライドショーはPDFに書き出して、Teamsで学生が共有できる資料として提供する。

ワークショップへの貢献度によって授業内容の理解度を評価するほか、毎回授業後のリフレクション提出の内容も成績評価に加味する。また必要に応じて、取材やプレゼンテーションを伴う内容が設定されることがある。

レポートの作成にあたっては、スマートフォンやタブレット、又はノートPCを利用のこと。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。

各回の終わりにgoogle formsにて、リフレクション（振り返り）を提出（締め切りはその日中）。次回の講義までに教員からのフィードバックを読んでおく。

不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程科目(美術)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	20%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について十分に理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について概ね理解できている。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について不十分ではあるが、理解できている部分がある。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について最低限の理解しかできていない。	授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について全く理解できていない。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができています。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが十分できています。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが概ね、できている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが不十分ではあるが部分的にはできている。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが最低限のことしかできていない。	授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことが全くできていない。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を十分深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を概ね、深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見を不十分ではあるが部分的に深められている。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができるだけの知見をほとんど深められていない。	授業で学んだデザインに関する様々な事柄について議論、整理統合し、プレゼンテーションを行うことができないだけの知見を全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論Ⅱ (科目ナンバリング：DES211015)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：堤 美穂子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの实務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとにデザインの基礎から、課題の探索・改善までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明～ガイダンス 「デザイン概論Ⅰでもっとも興味をもった学びとその理由」個人発表	シラバスの確認。「デザイン概論Ⅰでもっとも興味をもった学びとその理由」について1分程度で発表できるよう準備してくる（90分）	デザイン概論Ⅰの情報と資料整理（90分）
2	今日のデザイン 「『デザイン』という言葉の輸入、柳宗悦～柳宗理の思想・活動」	シラバスの確認。「デザイン概論Ⅰでもっとも興味をもった学びとその理由」について1分程度で発表できるよう準備してくる（90分）	リフレクションの記載。情報と資料整理。（90分）
3	美しいデザインとは何か？「美しさの歴史、作り出され大量消費された美しさ（ブーム・トレンド）、IR活動、社会的価値、共感・痛み・心に響くデザイン」	フィードバックの確認。シラバスの確認（90分）	情報と資料整理（90分）
4	美しいデザインとは何か？ グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。調査レポートの作成（90分）
5	デザインの企み①なぜモノを買いたくなるのか？ 「シース型デザインから、ニース型デザインへプロダクトと広告という2つの側面をみる」	フィードバックの確認。シラバスの確認（90分）	情報と資料整理（90分）
6	デザインの企み①なぜモノを買いたくなるのか？ グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。情報と資料整理（90分）
7	デザインの企み②それはほんとうに自分の考えか？ 「プロバガンダから、編集、報道、SNS、ナッジ」	フィードバックの確認。シラバスの確認（90分）	情報と資料整理（90分）
8	デザインの企み②それはほんとうに自分の考えか？ グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。自己採点（90分）
9	デザインの企み③なぜそれを推すようになったのか？ 「ブランディング、CI・VI、デザインポリシー、企業」	フィードバックの確認。シラバスの確認（90分）	情報と資料整理（90分）
10	デザインの企み③なぜそれを推すようになったのか？ グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。情報と資料整理（90分）
11	これからのデザイン①時間のデザイン 「UX、価値のデザイン、未来に機能するデザイン」	フィードバックの確認。情報と資料整理（90分）	情報と資料整理（90分）
12	これからのデザイン①時間のデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。自己採点（90分）
13	これからのデザイン②関係づくりのデザイン 「コミュニティデザイン、組織、採用、広報、地域貢献」	フィードバックの確認。シラバスの確認（90分）	情報と資料整理（90分）
14	これからのデザイン②関係づくりのデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	情報と資料整理（90分）	リフレクションの記載。情報と資料整理（90分）
15	これからのデザイン③思考法としてのデザイン 「デザイン思考の今と可能性」	フィードバックの確認。情報と資料整理（90分）	自己採点（90分）
16	これからのデザイン③思考法としてのデザイン グループ分け・ワークショップ・発表 フィードバック	シラバスの確認（90分）	リフレクションの記載。全体の振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『https://mingeikan.or.jp』					
2	『柳宗悦：民藝 美しさをもとめて（別冊太陽）』	公益財団法人 日本民藝館	平凡社	2021		
3	『知の編集工学 増補版』	松岡 正剛	朝日新聞出版	2023		
4	『芸術教養シリーズ15 20世紀の文学・舞台芸術 近現代の芸術史 文学上演編Ⅰ』	森山 直人	幻冬舎	2014		
5	『芸術教養シリーズ16 メディア社会における「芸術」の行方 近現代の芸術史 文学上演編Ⅰ』	森山 直人	幻冬舎	2014		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修	
科目名称	CAD演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT322035)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)、向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業 を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「C A D演習Ⅰ」を受けて本講ではJW CADより高機能なBIM (Building Information Modeling) であるARCHICAD・Vector Works の作図操作について学ぶ。設計演習科目に関連する課題を通して、図面表現が単なる「お絵かき」ではなく、「建築製図」として仕上がる段階までC A Dが設計ツールとして扱えるように修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
3次元C A Dを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。							
授業全体の内容と概要							
コンピュータ室にて、ARCHICAD・Vector Works を用いたモデリング・作図操作の演習を行う。設計演習科目に関連する課題を実施し、ARCHICAD・Vector Works を用いて自由にモデリング・作図できるスキルを習得する。							
授業の方法							
コンピュータ室にて、ARCHICAD・Vector Works の作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し、学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら木造またはR C造の設計課題を提示し、まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい、それに対して確認と修正指導を行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業ではコンピュータ室にて授業を行うことから、使用するパソコンを指定するが、ノートパソコンを持っている場合は持参することを推奨する。USBメモリーは持参すること。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ARCHICAD・Vector Worksを用いて正しいモデルが表現ができる。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現が8割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しいモデル表現がほぼ6割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、モデル表現ができた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、モデル表現ができなかった。
ARCHICAD・Vector Worksを用いて正しい作図表現ができる。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現が8割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、的確で美しい作図表現がほぼ6割方できた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、作図表現ができた。	ARCHICAD・Vector Worksを用いて、作図表現ができなかった。
相手に伝わるプレゼンテーション (レイアウト) ができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが 完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが 8割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝えるプレゼンテーションが ほぼ6割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝えるプレゼンテーションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修	
科目名称	CAD演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT322035)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)、向井 正伸 (建築学科・専任講師)			研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所にARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業 を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、作品紹介、科目を修了して「身に付く力」についての説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (4 5分)	授業終了時に提示の課題を処理する (4 5分)
2	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読 (4 5分)	授業終了時に提示の課題を処理する (4 5分)
3	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読 (4 5分)	授業終了時に提示の課題を処理する (4 5分)
4	ARCHICAD・Vector Works 基本操作	配布資料・テキスト熟読 (4 5分)	授業終了時に提示の課題を処理する (45分)
5	作図演習課題1 (3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読 (45分)	授業終了時に提示の課題を処理する (4 5分)
6	作図演習課題1 (3階建てビル・モデリング)	配布資料・テキスト熟読 (45分)	授業終了時に提示の課題を処理する (45分)
7	作図演習課題1 (3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続 (45分)	授業終了時に提示の課題を処理する (45分)
8	作図演習課題1 (3階建てビル・モデリング)	授業の作図の継続 (4 5分)	授業終了時に提示の課題を処理する (4 5分)
9	作図演習課題1 (3階建てビル・作図)	授業の作図の継続 (45分)	授業の作図の継続 (45分)
10	作図演習課題1 (3階建てビル・レイアウト出力)	授業の作図の継続 (4 5分)	授業の作図の継続 (4 5分)
11	作図演習課題2 (住宅課題・モデリング)	配布資料・テキスト熟読 (4 5分)	授業の作図の継続 (4 5分)
12	作図演習課題2 (住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続 (4 5分)	授業の作図の継続 (4 5分)
13	作図演習課題2 (住宅課題・モデリング)	授業の作図の継続 (4 5分)	授業の作図の継続 (4 5分)
14	作図演習課題2 (住宅課題・作図)	授業の作図の継続 (45分)	授業の作図の継続 (45分)
15	作図演習課題2 (住宅課題・レイアウト出力)	レイアウト準備 (45分)	レイアウト提出 (4 5分)
16	総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	講評会準備 (4 5分)	振り返り (4 5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「10日間でマスター！VectorWorks(ver.2018/2017対応)」』	山川佳伸	エクスナレッジ	2018	9784767825199	
2	『Archicad 26ではじめるBIM設計入門【企画設計編】』	BIM LABO	エクスナレッジ	2022	9784767830803	
3	『ARCHICAD21ではじめるBIM設計入門【基本・実施工設計編】』	BIM LABO	エクスナレッジ	2019	9784767825946	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング: APT311009)				
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

北国の建築と住まいは、積雪寒冷という気候条件から多くの制約を受けるため、それに対応すべく工夫と技術を生み出してきた。その一方で、美しい四季の変化と恵みを取り入れることも忘れることはなかった。雇修生は、北国の建築は先達の恩恵をどのように受け継ぎ発展させてきたのか、これからの住まいと住心地に求めるものも何かを整理し、北国の住宅設計の基にも応用し建築を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。

到達目標

北国の住宅の多様さを知り、設計・デザインする手法と技術を学び、これからの住まいのあり方と設計手法を修得できる。また、北国の建築や住宅の見学と観察から現状と課題を探ることができる。

授業全体の内容と概要

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くことが求められる。板書すべき事項は授業資料に記載され、プロジェクターで事例の画像や図表を投影して解説する。

「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くこと、メモを取ることが求められる。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評價前提条件

毎回の授業内容を記録した課題を演習（平常点）、建築見学参加（その他）、レポート（レポート）、スケッチ（課題・作品）の評価によって単位認定を行う。したがって、これらの課題未提出の場合は単位取得ができないので注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北国の建築と住まいが積雪寒冷という気候条件からどのような制約を受けているのかを理解する。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいや建築への制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいへの制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約をおおむね理解できた。	気候条件の制約を理解することができなかった。
北国の住宅が自然環境に対し、どのように対処をしているかを設計・デザインの方法と技術の面から理解する。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画され、その過程に多くの技術改良がなされてきたことを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画されていることを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインをおおむね理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解することができなかった。
北国の建築や住宅を見学し観察することから導項に対する工夫や対処方法を理解し、問題点を見つけ出す。	北国の建築に対するさまざまな工夫を理解することができ、実物の観察かに再確認し問題点を指摘することができた。	北国の建築の工夫や対処方法を理解し、実物の建築の観察から再確認することができた。	実物の建築から、北国の建築の工夫していることを理解できた。	建築や住宅の見学に参加することができた。	建築や住宅の見学に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング：APT311009)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：		安藤 淳一)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、「北国の建築と住まい」で学ぶこと	シラバスの事前確認（90分）	配布資料の見直し（90分）
2	北国の住まい1 縄文から屯田兵屋	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
3	北国の住まい2 住宅建築を拓いた建築家マックス・ヒンデルと田上義也	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
4	北国の住まい3 気候環境が生み出した住様式	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
5	北国の住まい4 暖かく住む 寒冷地の居住環境北国の建築の見学	見学資料の予習（90分）	
6	見学会#1 旧島松駅通	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
7	北国の住まい5 商品化住宅	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
8	北国の住まい6 間取り	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
9	北国の建築1 開拓使の建築-1 札幌農学校第2農場，時計台他	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
10	見学会#2 札幌農学校第2農場（北海道大学）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
11	北国の住まい7 各室の設計1 公室	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
12	北国の住まい8 各室の設計2 私室	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
13	北国の建築2 開拓使の建築-2 北海道庁旧本庁舎，豊平館，永山武四郎邸他	資料確認（90分）	演習2作成（90分）
14	見学会3 永山武四郎邸，北3条通り（開拓使通り）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
15	北国の建築3 現代の建築 サッポロファクトリー，札幌ドーム，モエレ沼公園，エスコンフィールド北海道他	見学資料の確認（90分）	演習2作成（90分）
16	総評（課題提出・発表の講評と解説），改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出課題再確認（90分）	最終振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	西洋経済史 (科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：小林 大州介)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。 とりわけ以下の2点に着目する。 ①資本主義（資本制）の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。 ②市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。 社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
①資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。 ②市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。							
授業全体の内容と概要							
Intro. 古代から中世へ 1. 近世（初期近代） 2. 近代 3. 現代							
授業の方法							
PDF 資料を中心として行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書を必ず持参すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	西洋経済史 (科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
2	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（オランダ &イギリス）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
3	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（フランス &中・東欧）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
14	EUへの道	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解（90分）	期末試験勉強（90分）
16	定期試験（60分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施 授業の講評を行う	授業の総まとめ（90分）	これまで学んだ事を見返す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	会社法 (科目ナンバリング：LAW422034, LAW522035)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館 4階		
単位数	2 (単位認定責任者：青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、法的な側面から会社とは何かを考えることができる。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は、前期開講された商法をもとに、会社に関する法規制を中心に講義を行う。具体的には、会社法の分野を解説する。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第3回から第14回の計12回）を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは、講義の理解を深めるために4回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために0回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は、講義の理解を深めるために2回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）実施する。③課題は、講義の理解を深めるために2回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 私語などの迷惑行為は厳禁。
- 講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- 六法を持参することを推奨。
- 確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上 ※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えでない	改善すべき点があるが、解答が一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	会社法 (科目ナンバリング：LAW422034, LAW522035)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む） ガイダンス	シラバスの確認（90分）	復習（90分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習 （90分）	復習（90分）
3	会社法の概要 株式自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平 等の原則	会社法と株式会社についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）、確認テストの復習
4	株式会社の機関設計（1） 確認テスト1講義内で解説（フィードバック）	持分会社と株式会社についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
5	株式会社の機関設計（2）大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等 委員会設置会社についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
6	株式会社の機関設計（3）大会社で公開会社のCASE しっかり条文を読んでみよう 確認テスト2（前年実績）	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等 委員会設置会社についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）、確認テストの復習
7	株式会社の機関設計（4）大会社で株式譲渡制限会 社 株式会社の経営体制－骨格と役割（1）会計監査人	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人、内部統制 システムについての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
8	株式会社の機関設計（5）大会社で株式譲渡制限会 社 株式会社の経営体制－骨格と役割（2）会計監査人	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習 （90分）	配布資料の復習（90分）
9	株式会社の経営体制－骨格と役割（3）株主総会	株主総会についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）。特に株主総会決議に 関係がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（4）株主総会 株式会社の経営体制－責任（1）役員 確認テスト3（前年実績）	株主総会・取締役についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）、確認テストの復習
11	株式会社の経営体制－責任（2）役員 課題1（前年実績） 確認テスト3講義内で解説（フィードバック）	役員についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）、課題作成
12	株式会社の経営体制－責任（3）役取締役の責任 株式会社の経営体制－骨格と役割（1）取締役会 確認テスト4（前年実績）	取締役の責任・取締役会についての調べ学習（90 分）	配布資料の復習（90分）、確認テストの復習
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（2）取締役会・ 代表取締役・表見代表取締役 確認テスト4講義内で解説（フィードバック）	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての 調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（3）指名委員会 等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人 課題2（前年実績）	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・ 会計監査人についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）、課題作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習（90分） 。	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復 習（90分）
16	定期試験（60分） 定期試験の解説、採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習 （90分）	復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ポケット六法 令和7年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	2025年	9784641009257	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ医学 (科目ナンバリング：AHS422070, SPS522056)					
授業担当者 (所属・職名)	黒川 泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：黒川 泰任）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳神経外傷指導医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門 医・指導医であり、脳損傷、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験 がある。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
運動時の生理、病態生理、外傷・けがなどを、医学的背景から考察・学習し身に付けることを目的とする。。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
医学的知識の背景を元に、スポーツ指導の現場において、対象者の状態や外的環境に対して適切な対応ができ、また緊急時の救急処置ができるようにする。							
授業全体の内容と概要							
身体運動がヒトの体にどのような影響を与えるか、スポーツが生体に及ぼす影響を、ヒトの状態・性別・年齢・外的環境によってどのように異なるのかを知る。緊急時における対処方法を、具体的に修得する。 「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。 「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義は配布資料を使用し、対話・質問形式で行う。また、確認小テストを講義後に行い、解答と講義内容の確認を行う。毎回の小テスト結果は、定期試験得点に加算する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。 首席は表彰される。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。 定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。	ヒトの運動の特徴がいた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
効率的な運動方法を理解し、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみで、科学的知識にもとづいた指導ができた。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要なと理解していた。	ヒトの運動を科学的に説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
運動がヒトに及ぼす影響が理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。	運動が良い点も悪い点も、ヒトに大きく影響することが理解できた。	運動と健康の関係を説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、疑問点や不明点を質問していた。	板書しており、疑問点や不明点があった。	板書はできていた。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ医学 (科目ナンバリング：AHS422070, SPS522056)					
授業担当者 (所属・職名)	黒川 泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 黒川 泰任)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳神経外傷指導医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門 医・指導医であり、脳損傷、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験 がある。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを確認しておく（90分）	運動や競技の指導者の立場になったとき、必要十分な項目を常に考えておく（90分）
2	健康と運動・スポーツ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
3	体力、運動とは何か	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
4	運動の仕組み	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
5	発達と運動	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
6	運動の医学的背景 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
7	運動の医学的背景 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
8	運動と栄養（運動栄養学）1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
9	運動と栄養（運動栄養学）2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
10	運動と脱水	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
11	スポーツ活動中に多いケガ・障害 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
12	スポーツ活動中に多いケガ・障害 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
13	救急処置 1	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
14	救急処置 2	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
15	スポーツと心理・ストレス 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	講義内容を当日の小テストで確認し、興味のある点をさらに深く自己探求する（30分）
16	定期試験	試験準備（90分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1から学ぶスポーツ生理学【第3版】』	中里浩一、岡本孝信、須永美歌 著	ナッパ	2022	9784905168706	
2	『スポーツ栄養学』	寺田 新	東京大学出版会	2017	9784130527064	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	洋画 (科目ナンバリング：AEA222120)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2	(単位認定責任者：安田 祐造)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

概要

履修目標							
洋画の技法は、今日の我が国では油彩が一般的だが、欧州における長い洋画の歴史を顧みるなら、油彩技法が確立される以前のエッグテンペラの技法は欠かせない。この授業では油彩とエッグテンペラとによる絵画制作に用いる用材についての基本を学び、それぞれの技法の良さを活かすことにより、各々の履修生の表現の幅を広げるための道を拓くことを目的とするものである。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などの基本を理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を養成することを目標とする。							
授業全体の内容と概要							
油彩のみならず、エッグテンペラなどに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々な用具の使用法や管理の仕方などについての基本を学修し表現の幅を広げるための科目である。							
授業の方法							
油彩とエッグテンペラとによる「混合技法」で作品を制作する実技形式の授業である。履修者各自が設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を充分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックに寄与させようとするものである。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自然環境やものを大切にしている態度なども身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は2 2 回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について十分に身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてほぼ身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてある程度身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身につかなかった。
彩色材料について	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が十分に身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がほぼ身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がある程度身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身につかなかった。
描写について	モチーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどある程度的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	洋画 (科目ナンバリング：AEA222120)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		安田 祐造	CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・授業アンケートの結果について、シラバスについて 古今の作品について (構図を主に)	予めシラバスに目を通す。(45分)	これから制作する作品の構想を練る。(45分)
2	洋画作品の構造と用材 木材の性質について	基底材として使用する木材の性質について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体について検討する。(45分)
3	支持体製作 木材の裁断について 木工具の取り扱い方について	基本的な木工具の取り扱い方について予習する。(45分)	作品のテーマとモチーフを検討する。(45分)
4	支持体製作 木材の組み立てについて 木材の接着について	接着剤の種類や用法について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	地塗り材による作品に対する効果について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴と取り扱いとを復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗りの仕方について	地塗り材の塗りの方法について予習する。(45分)	新作として構想したものを下絵として用意する。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨について 下絵の転写作業について	ヤスリなどの研磨材や用具について予習しておく。(45分)	様々な転写方法について復習する。(45分)
8	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方について	面や陰影の把握の重要性について予習する。(45分)	エッグテンペラ用展色剤の処方について復習する。(45分)
9	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について I	エッグテンペラメディウムの特徴について予習する。(45分)	作品制りに不足している用材等を補充しておく。(45分)
10	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について II	エッグテンペラ絵具での描法について練習を行う。(45分)	本時の内容を復習し、古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作 A エッグテンペラでの描法について II	制作が遅れている場合、自ら制作を進め、遅れを取り戻す。(45分)	エッグテンペラの特徴を踏まえた描法について復習する。(45分)
12	混合技法による本制作 B エッグテンペラでの描法について III	前回の制作を振り返り、自らの課題を明確化しておく。(45分)	描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作 C 油彩の特徴について	油彩の特徴を活かした描法について予習する。(45分)	古今の油彩や混合技法による作品の良さを画集やインターネットを活用して味わう。(45分)
14	混合技法による本制作 D エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵の具の透明性について予習する。(45分)	進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作 E 質感の表現法について	質感表現について予習する。(45分)	本時の内容に照らし、遅れている点や不足している点がないか検討する。(45分)
16	混合技法による本制作 F 陰影のコントラストについて	陰影のコントラストの重要性について予習する。(45分)	より良いものを求め不足している部分を補い、過した部分については修正する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	混合技法による本制作 G 色彩の調和と色の三属性について I	表現の意図に相応しい配色の仕方について予習する。(45分)	本時の内容を復習し理解する。(45分)
18	混合技法による本制作 H 色彩の調和と色の三属性について II	前回の内容で理解できていない点を明らかにする。(45分)	色彩について着目し、制作の進め方について検討する。(45分)
19	混合技法による本制作 I 色彩の調和と色の三属性について III	色彩に着目し、自らの作品の進捗を確認する。(45分)	色彩について、これまでに学んだことを復習する。(45分)
20	混合技法による本制作 J エッグテンペラでの上描きについて I	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せたことによる効果について予習する。(45分)	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せて表現した古今の作品を参照する。(45分)
21	混合技法による本制作 K エッグテンペラでの上描きについて II	油彩絵の具層の乾き具合とエッグテンペラ絵具の乗り具合の関係について予習する。(45分)	本時の制作体験から、油彩絵の具だけでは得られないものが何か検討する。(45分)
22	混合技法による本制作 L エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	油彩絵の具での光の表現と混合技法でのそれとの効果の差異について予習する。(45分)	本時の制作体験により得られたものを、これからの制作にどのように活かすべきかを検討する。(45分)
23	混合技法による本制作 M I	これまでの制作を振り返り、自らの課題が何かを明らかにする。(45分)	自らが抱く作品についての構想を再確認する。(45分)
24	混合技法による本制作 N 個別的な課題について II	本時の制作で解決すべき点についてまとめる。(45分)	本時の制作で解決した点とそうではなかった点について検討する。(45分)
25	混合技法による本制作 O 個別的な課題について III	前回の制作で行き詰った点があれば、それを明らかにし、他者からの助言を受ける用意を行う。(45分)	作品仕上げの期限も近いことから、空き時間を利用して完成度を高められるように制作に取り組む。(45分)
26	混合技法による本制作 P 個別的な課題について IV	制作当初の表現の意図が具現化されつつあるかを確認する。(45分)	表現の意図を確かにするために必要な点があるかを明らかにする。(45分)
27	混合技法による本制作 Q 個別的な課題について V	作品の細部と全体とに目をやり、改めるべき点や補うべき点などを明らかにする。(45分)	他者から意見や感想を寄せてもらい、制作の糧とする。(45分)
28	混合技法による本制作 R 個別的な課題について VI	これまでの授業で取りあげられたそれぞれのテーマについて、自らの作品を客観的に検討する。(45分)	足りない点や過ぎた点などを加筆したり修正したりして完成度を高める。(45分)
29	混合技法による本制作 S VII	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	冷静に客観的にできるだけ広い視野で自らの作品を検討する。(45分)
30	混合技法による本制作 T 個別的な課題について VIII	完成に向けて、様々な点について検討を行う。(45分)	これまでの制作で果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評 A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評 B 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組み	感性や価値観の相違、多様性などについての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に、これからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	教育課程論 (科目ナンバリング：ESS142152, ESS242098,)					
授業担当者 (所属・職名)	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『改訂新版 教職を目指す人のための教育課程論	古川治ほか	北大路書房	2019	9784762830624	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 教育課程の意義について	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育課程編成の思想と構造について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	近代・現代日本の教育課程の歩みについて 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	教育課程の編成と諸要因及びカリキュラム・マネジメントの意義について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	特別支援学校の学習指導要領と教育課程編成の実際について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	学校経営とカリキュラム・マネジメントについて 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	各教科、特別の教科「道徳」、特別活動、総合的な学習の時間の関連について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	教育課程と評価について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	カリキュラム開発と学力向上策について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	学習指導要領の改訂の経過と特徴について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	国際学力調査と教育課程改革について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	諸外国における教育課程改革について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815580	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
3	『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815597	
4	『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491036397	
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本史 (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 及川 琢英)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

人文学的教養の一環として、歴史学について学び、文献を批判的に考察し、表現する能力を培う。

授業の位置づけ

全学科のDP 2 に対応する。

到達目標

1. テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
2. 文献を批判的に考察することができる。
3. 考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

1. 政治の主導権・対中政策を中心に日本近現代史を概観する。
2. 日本近現代史研究で蓄積されてきた研究成果について理解する。
3. 日本近現代史に関する史料や文献を読んで考察する。

授業の方法

毎回資料を配布し、講義形式で行う。受講者には小課題、毎回講義に対する意見、質問などリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。私語厳禁。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていないかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示力があつた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていないかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本史 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者： 及川 琢英)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、歴史学・権民地とは科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく（90分）	基礎的事項の復習（90分）
2	どの勢力が主導権を握ったか（1）藩閥	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
3	どの勢力が主導権を握ったか（2）政党	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
4	どの勢力が主導権を握ったか（3）軍・官僚	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
5	どのような対中政策を採ったか（1）日清戦争	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
6	どのような対中政策を採ったか（2）北守南進策	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
7	どのような対中政策を採ったか（3）満蒙・本部進出策	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
8	どのような対中政策を採ったか（4）満蒙優先策	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
9	どのような対中政策を採ったか（5）なし崩しの分割策	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
10	人物からみる（1）田中義一	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
11	人物からみる（2）張作霖	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
12	人物からみる（3）宇都宮太郎	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
13	人物からみる（4）河本大作	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
14	人物からみる（5）石原莞爾	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
15	帝国の崩壊、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる（90分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（90分）
16	日本国憲法 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	資料などで講義内容を整理する（90分）	講義内容を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング：SWS112010)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：畠山 明子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

①障害者の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。

②障害者福祉の歴史と障害者の変遷、制度の発展過程について理解する。

③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。

④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

①障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。

②障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。

③障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要

障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族に等に対する支援の実態

「SDG3. すべての人に健康と福祉を」、「SDG8. 働きがいも経済成長も」、「SDG16. 平和と公正をすべての人に」、「SDG17. パートナリーシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。

②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。

③第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。

④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。

⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。

②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。

③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。

④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト（30点）、第16回に実施する定期試験（70点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング：SWS112010)				
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：畠山 明子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉 第2版』	一般社団法人日本ソーシャル・ワーク教育学校連盟	中央法規	2 0 2 5 年	978-4-8243-0151-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了し「身に付く力1」についての説明、障害者福祉の概説、障害概念	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史①障害者福祉の理念・障害観の変遷	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者福祉の歴史②障害者処遇の変遷、障害者の権利条約と障害者基本法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	障害者に対する法制度①障害者総合支援法(障害者総合支援法の概要・障害福祉サービス及び相談支援・障害支援区分及び支給決定)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	障害者に対する法制度②障害者総合支援法(自立支援医療・福祉員・地域生活支援事業・障害福祉計画)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	障害者に対する法制度③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	障害者に対する法制度④児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	障害者に対する法制度⑤障害者差別解消法・パリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度の振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①関係機関と専門職等の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	障害者と家族等に対する支援の実態①障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割・障害者と家族等に対する支援の実態	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	障害者と家族等に対する支援の実態②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力1」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	デッサンⅣ (科目ナンバリング：AEA222009)					
授業担当者 (所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：西田 陽二)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。 卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。							
授業全体の内容と概要							
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。							
授業の方法							
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいる

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	デッサンⅣ (科目ナンバリング：AEA222009)					
授業担当者 (所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：西田 陽二)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションー シラバスの説明 授業改善アンケートの反映のさせ方についての説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像（胸像）のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像（胸像）のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像（胸像）のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像（胸像）のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像（胸像）のデッサン ⑤ 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像（胸像）のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像（胸像）のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像（胸像）のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像（胸像）のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像（胸像）のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像（胸像）のデッサン ⑥ 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像（胸像）のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像（胸像）のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像（胸像）のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像（胸像）のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（胸像）のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像（胸像）のデッサン ⑥ 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像（胸像）のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像（胸像）のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像（胸像）のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像（胸像）のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像（胸像）のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像（胸像）のデッサン ⑥ 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像（胸像）のデッサン ①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像（胸像）のデッサン ②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像（胸像）のデッサン ③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像（胸像）のデッサン ④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像（胸像）のデッサン ⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像（胸像）のデッサン ⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像（胸像）のデッサン⑦ 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会（解説・フィードバック）陰影法が理解出来ているかを確認する。 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅰ (科目ナンバリング: APT312018)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化と共に、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち基幹である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして、建築に関する法律の仕組みと体系について学習し、建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視点から深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築関係法令の全体像を把握して、建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも、人々の生活に密接な係わりを持つ・敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について、図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に、条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試驗受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋根項目を超えたレベルを達成している	屋根項目をほぼ達成している	屋根目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定（道路、用途地域、建蔽率、容積率、高さ等）の理解	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を8割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築法規Ⅰ (科目ナンバリング：APT312018)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：		佐藤 善太郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築関係法令とその位置（歴史的経緯と位置づけ）	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要（法令構成・文脈・総則）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論－1 実例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論－2 敷地・居室・主要構造部・構造体力上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論－3 工作物，特殊建築物，建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論－4 面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論－5 許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論－6 耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論－7 特殊建築物の役割とその定義・別表第1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論－8 防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論－9 居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論－10 床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論－11 階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論－12 居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論－13 建築基準法と倫理 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ経営管理論 (科目ナンバリング:SPS422066, SPS512010)				
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	(単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2009年4月より非常勤講師(保健体育)として高等学校・専門学校・大学の体育実技を 担当。2011年より4年間東海学園大学スポーツ健康科学部助手として大学競技スポーツ の競技向上に業務に従事。2013年4月より3年間名古屋平成看護学院専門学校アスレ ティックトレーナー学科科長として夢知館の競技スポーツ(高校・社会人・プロ)の競技		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標 体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者（リーダー）として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し身に付け、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。																																
授業の位置づけ 経営学科のDP 1、DP 3、DP 4 に対応する科目。																																
到達目標 学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について説明できる。各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動の運営方法に関して示すことができる。																																
授業全体の内容と概要 体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。																																
授業の方法 講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに記載保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																																
<table> <tr> <th colspan="8">アクティブラーニングの実施方法</th> </tr> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	アクティブラーニングの実施方法									プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
アクティブラーニングの実施方法																																
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																									
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																									
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																									
履修上の注意事項 出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。																																

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組みマネジメントの真実や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらに定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何となく課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 (科目ナンバリング：SPS422066, SPS512010)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2009年4月より非常勤講師(保健体育)として高等学校・専門学校・大学の体育実技を担当。2011年より4年間東海学園大学スポーツ健康科学部助手として大学競技スポーツの競技力向上の業務に従事。2019年4月より3年間名古屋平成看護医療専門学校アスレティックトレーナー学科学科長として愛知県の競技スポーツ(高校・社会人・プロ)の競技			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション：シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	専用のノートを準備する (90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと (90分)
2	体育・スポーツ経営とは①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
3	体育・スポーツ経営とは②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
4	体育・スポーツ事業と経営資源①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
5	体育・スポーツ事業と経営資源②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
6	体育・スポーツ事業の進め方①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
7	体育・スポーツ事業の進め方②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
8	よい体育・スポーツ経営の条件①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
9	よい体育・スポーツ経営の条件②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
12	『みるスポーツ』の経営①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
13	『みるスポーツ』の経営②	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
14	ノートチェック①	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
15	テストリビュー&ノートチェック② 授業に係る講評・解説によるフィードバック	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験に備える (150分)	本科目の総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代 勉・中村 平	大修館書店	2002	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年生			
開講時期	通年	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	インターシップ・キャリアプログラムⅣ (科目ナンバリング：S0E092063)					
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者：各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応					

概要

履修目標							
社会経験・就業体験を通して企業で現実要求される能力や今後必要とされる能力を学習する。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
社会経験・就業体験を通して、将来の進路決定の際の判断材料とする。							
授業全体の内容と概要							
就業先で説明や体験、就業に各自参加する。							
授業の方法							
社会経験・就業体験を通して、業界研究、企業研究、職種研究、社会人マナー等を学習する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業の出席状況が不良、取得単位が不足の学生は申し込み不可							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
説明会などへの参加、1年を通して5日以上または45時間以上のインターンシップ参加、参加企業からの評価が記入されている評価表の提出を必須とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自主性・積極性	学ぶ意識を高く持ち、周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務にも積極的に取り組めていた	周囲とのコミュニケーションを図り、指示がない業務へも積極的に取り組めていた	積極性は乏しいものの、要請された業務に取り組んでいた	質問なども少ないが、要請された業務には取り組む努力が見られた	消極的で業務への取り組みをしていなかった
協調性	依頼や要請に積極的に周囲との連携を図りながら取り組めていた	依頼や要請に周囲との連携を図りながら取り組んでいた	依頼や要請に協力的な態度で取り組んでいた	依頼や要請に協力的に取り組むよう努力していた	依頼や要請に非協力的で取り組んでいなかった
責任性	出勤簿などの提出物を事前に準備し提出した	出勤簿などの提出物を締切前までに提出した	出勤簿などの提出物を締切までに提出した	出勤簿などの提出物を締切後に遅れて提出した	出勤簿などの提出物を提出しなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年生		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	インターシップ・キャリアプログラムⅣ (科目ナンバリング：S0E092063)				
授業担当者 (所属・職名)	各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館1階キャリア支援センター	
単位数	1 (単位認定責任者： 各学科キャリア支援委員担当教員・小早川 俊哉 (社会福祉学科・教授))			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	説明会 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	単位申請の確認 (45分)	就業に関する確認 (45分)
2	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
3	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
4	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
5	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
6	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
7	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
8	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
9	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
10	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
11	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
12	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
13	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
14	インターンシップ先での就業	前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
15	インターンシップ先での就業	プログラム内容前日の振り返り、プログラム内容や目標等の確認 (45分)	反省などや次回への目標の確認 (45分)
16	インターンシップ先での就業もしくは報告会 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体を通しての総括 (45分)	全体を通しての 反省・フィードバック (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科 1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング：CHS121077)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 慶知 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 佐藤 慶知)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。					

概要

履修目標

この科目は、以下の4つを授業の目的とする。

- 1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育の内容」の関連を理解する。
- 2 保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。
- 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史の変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。
- 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2025年度）

到達目標

保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。

授業全体の内容と概要

保育の全体構造と保育内容について学修する。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループワークを取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
リアクションペーパーを活用し質問に対する返答等コメントしてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
	保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。
	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
	保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科 1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング：CHS121077)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 慶知 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1	(単位認定責任者：佐藤 慶知)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル	2018	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（90分）	1回目の講義で理解した事を整理する（90分）
2	保育の内容と歴史的経緯とその社会的背景 保育士の専門性と保育士倫理綱領の解説 保育の現場における安全管理について	保育の歴史の変遷について事前に学習しておく（90分）	2回目の講義で理解した事を整理する（90分）
3	保育者に求められると資質とセルフチェック アンガーマネジメント、子ども親について学ぶ 保育者の専門性と虐待、不適切な保育について	保育者に求められる資質について事前に学習する（90分）	3回目の講義で理解した事を整理する（90分）
4	保育指針より保育の基本を学ぶ 養護と教育を一体的に行う保育と子どもの主体性、 環境を通して行う保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（90分）	4回目の講義で理解した事を整理する（90分）
5	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 生活や遊びによる総合的な保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（90分）	5回目の講義で理解した事を整理する（90分）
6	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 個と集団による発達を踏まえた保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（90分）	6回目の講義で理解した事を整理する（90分）
7	家庭、地域、小学校との連携や 多様化する保育ニーズへの対応と 保護者支援	多様化する保育ニーズや小学校との連携について事前に学習しておく（90分）	7回目の講義で理解した事を整理する（90分）
8	試験についての事前説明。定期試験60分。フィードバック 授業改善アンケートの実施。	講義内容を振り返り復習する（90分）	試験の解説に基づき復習し整理する（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222072)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授) 中島 義博 (デザイン学科・非常勤講師) 三上 いずみ (デザイン		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

(金属)：金属（鋳金）の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。
(染色)：広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用方法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。
(テキスタイルデザイン)：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知り、知識を深める。スクリーンプリント技法を学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

(金属)：金属（鋳金）の特性を理解して作品を制作することが出来る。
(染色)：型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法和技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。
(テキスタイルデザイン)：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知る。スクリーンプリント技法を体験する。

授業全体の内容と概要

(金属)では、「鋳金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通して学ぶ。制作した作品はポスター（プレゼンテーションボード）にまとめて提出する。
(染色)では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組む授業である。オムニバスの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。
(テキスタイルデザイン)では、身の回りにあふれるテキスタイルデザインに注目し、オリジナルのデザインを考える。スクリーンプリント技法を学び、実践する。
。テキスタイル小作品を制作し、発表・展示を行う。
「SDG12、つくる責任 つかう責任」の関連授業。

授業の方法

(金属) スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。
(染色) 板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び、各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。
(テキスタイルデザイン) 授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後に説明用動画はTeam s に保存するので振り返りが可能。講評にてフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

(金属) 制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。
(染色) 限られた時数の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。
染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。
(テキスタイルデザイン) 授業開始から30分間で作業の説明を行うので遅刻しないこと。作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。簡単なレポート提出あり。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(美術・工芸) 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
オムニバスの各講座につき、それぞれ8割以上の出席をすること。 各講座で課される作品等を全て完成させ、期限内に提出をすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工芸作品の基本的な特性の理解	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用した作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作できなかった。
表現力	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に十分に表現することができた。	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に表現することができた。	課題の意図を受け止め、制作テーマを決定し、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	綿密な制作計画を立て、十分な準備をして、高度で丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、十分な準備をして、丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、適度な準備をして、順調な制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222072)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授) 中島 義博 (デザイン学科・非常勤講師) 三上 いずみ (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(梅田・中島・三上) シラバスの説明・「身に付く力」の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解すること（45分）
2	(梅田) 館金について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
3	(梅田) アイススプーン デザイン案（競合）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
4	(梅田) アイススプーン デザイン案（競合）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
5	(梅田) アイススプーン（競合）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
6	(梅田) アイススプーン（競合）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
7	(梅田) アイススプーン（競合）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
8	(梅田) アイススプーン（競合）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	ポスター作成（45分）
9	(梅田) ポスターセッション（講評にてフィードバック）	事前に質問したい事をまとめておく（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
10	(梅田) ポスターセッション（講評にてフィードバック）	事前に質問したい事をまとめておく（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
11	(中島) 型染めの歴史、特性、技法の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	課題を理解し、準備を進める事（45分）
12	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	(中島) 型彫り 浮き紙に図案を彫る	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	(中島) 型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	(中島) 型彫り 版を作り生地に置く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	(中島) 染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	(中島) 染色	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	(中島) 蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	(中島) 完成作品発表 講評にてフィードバック	事前に質問したい事をまとめておく（45分）	作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること（45分）
21	(三上) テキスタイルデザインとスクリーンプリント技法についての説明	シラバスを読んでどんな作品を作るか考えておくこと（45分）と（45分）。	課題を理解し、準備を進める事（45分）
22	(三上) 作業計画を立てる	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	(三上) ラフデザイン①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	(三上) ラフデザイン②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	(三上) 版下作成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	(三上) 版下作成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	(三上) 製版	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	(三上) 刷り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	(三上) 落版・掃除	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	(三上) 定着・仕上げ 講評にてフィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
31	(梅田・中島・三上) 展示・発表	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
32	(梅田・中島・三上) まとめ・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	事前に質問したい事をまとめておく（45分）	講評を受けて今後の制作に活かす（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	図学(建築図学を含む) (科目ナンバリング: APT321033)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有			
オフィスアワー	Teamsにて事前にて連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、「授業改善アンケート」結果反映の説明、授業の進め方、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	課題の復習（90分）
2	自己紹介作品	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
3	描画演習	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
4	課題1（装飾）	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
5	課題1（装飾）	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
6	課題2（装飾）	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
7	課題2（装飾）	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
8	中間講評によるフィードバック	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
9	課題3 立体表現1	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
10	課題3 立体表現1	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
11	課題4 立体表現2	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
12	課題4 立体表現2	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
13	課題5 立体表現3	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
14	課題5 立体表現3	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
15	課題5 立体表現3	課題の予習（90分）	課題の復習（90分）
16	総評によるフィードバック・授業評価アンケート科目を修了して「身に付く力」についての検証	未提出課題等の仕上（90分）	全体の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築図法 立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	CAD演習Ⅲ (科目ナンバリング：APT323036)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)・伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階 (佐藤)、2号館8階 (伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスおよび授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明2・3次元CADの基本と特長等、回転体	CAD演習Ⅱの振り返り（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
2	2次元での作図	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
3	2次元モデルの移動、整列、回転	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
4	2次元モデルの複製、反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	3次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
6	3次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	光源、ブーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
10	トータルな3次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
11	設計課題の提示	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
13	エスキスチェック	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
14	作図指導	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
15	3次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備（45分）	感想レポート提出（45分）
16	講評会 講評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会準備（45分）	振り返りレポート作成（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング：SPS422071, SPS522055)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：高井 雅一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Reference Book』	JSP0	公益財団法人日本 スポーツ協会	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明でき るようにしておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
2	スポーツ指導者の倫理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
3	指導者の心構え・視点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
4	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要 性と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
5	指導計画の立て方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
6	スポーツ活動と安全管理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
7	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義に ついて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
8	プレーヤーと指導者の望ましい関係について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
9	ミーティングの方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
10	世界に頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り 方と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
11	トップアスリートを育てるために	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
12	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価に ついて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
13	競技力向上のためのチームマネジメントについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
14	競技力向上のための情報とその活用について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
15	ドーピング防止について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容を復習する。（90分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科 2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在		2号館 7 階	
単位数	2	(単位認定責任者: 藤根 収)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。																								
授業の位置づけ																								
該当なし																								
到達目標																								
児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。																								
授業全体の内容と概要																								
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。 授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業の方法																								
教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどとして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるICT活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。 全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法理論の理解	教育方法理論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	教育方法理論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法理論についての知識・技能を理解できた。	教育方法理論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法理論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にととても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科 2 年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在		2 号館 7 階	
単位数	2	(単位認定責任者: 藤根 収)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題 (教育方法論) について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ～シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の 説明、科目を終了して「身に付く力」の説明～	シラバスを確認しておくこと。(9 0 分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確 認すること。(9 0 分)
2	教育方法学の歴史① ・ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソ ーの教育方法史上の位置ほか	指定した教科書の「問題 1 ～ 5」を事前に読んでお くこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
3	教育方法学の歴史② ・ 20 世紀初頭の新教育運動、集団主義教育と総合 技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題 6 ～ 9」を事前に読んでお くこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題 1 0 ～ 1 2」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「1 3 ～ 1 4」を事前に読んでお くこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題 1 5 ～ 1 6」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
7	カリキュラム① ・児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほ か	指定した教科書の「問題 1 7 ～ 1 8」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
8	カリキュラム② ・子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学 習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題 1 9 ～ 2 3」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
9	カリキュラム③ ・「教科書を教える」と「教科書で教える」、プロ グラム学習ほか	指定した教科書の「問題 2 4 ～ 2 9」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
10	授業論 (授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題 3 0 ～ 3 7」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
11	授業改善と I C T (情報機器) の活用	指定した教科書の「問題 3 9 ～ 4 5」を事前に読ん でおくこと。「教育の情報化に関する手引」を読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
12	授業改善と視聴覚教材 (I C T 等) の活用	指定した教科書の「問題 4 6 ～ 4 8」を事前に読ん でおくこと。「教育の情報化に関する手引 (追補版)」を読んでおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
13	模擬授業 (学習指導案、板書とノート指導、机間巡 視)	指定した教科書の「問題 4 9 ～ 5 4」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
14	学力と教育評価① ・相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方 向目標」	指定した教科書の「問題 5 5 ～ 6 0」を事前に読ん でおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
15	学力と教育評価② ・指導要録、障害のある児童生徒 (発達障害など) の教育ほか	指定した教科書の「問題 6 1」と配布資料を事前 に読んでおくこと。(9 0 分)	配付資料に基づき復習しておくこと。(9 0 分)
16	定期試験 (6 0 分の試験終了後、残りの 3 0 分で解 説)	指定した教科書や講義内容について整理しておく こと。(9 0 分)	試験の結果を見直す。(9 0 分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示) 』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
4	『教育の情報化に関する手引 (追補版) 』	文部科学省		2020		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本国憲法 (M) (科目ナンバリング: LAW021020)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

憲法は、国家権力の濫用を抑制し、国民の権利・自由を守るための基本法である。条文を理解し、適用・解釈するできる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。

到達目標

憲法を学ぶことにより、法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、法律の条文を理解し、個々の事例に対して適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。憲法は、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つを基本原理とする日本の基本となる法律である。憲法の基本となる知識を修得し、実例に即し講義を行う。具体的には、憲法総論、人権分野、統治分野に関し条文をベースに解説する。「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第3回から第14回の計12回）を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う（調査実習含む）。
①確認テストは、講義の理解を深めるために4回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために0回（オンライン授業の場合は実施しない）実施する。③課題は、講義の理解を深めるために1回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講は原則2回を限度として実施する（公欠などの学生に対しては、補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する。）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 私語などの迷惑行為は厳禁。
- 講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- 六法を持参することを推奨。
- 確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目
教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 ※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べることができた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べることができた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた	一部に解答と関係ないことを答えているが、解答は答えていた	改善すべき点があるが、解答が一通り答えていた	的確ではないが、解答を部分的には答えていた	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本国憲法 (M) (科目ナンバリング: LAW021020)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（90分）	復習（90分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 憲法とは何か－憲法の特徴と基本原理	シラバスの確認 憲法の特徴と基本原理の調べ学習（90分）	復習（90分）
3	憲法とは何か－憲法の基本原理と構造	憲法の基本原理と構造についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
4	基本的人権 総論・幸福追求権	総論・幸福追求権の調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
5	基本的人権 各論 一法の下の平等・精神的自由権	法の下の平等・精神的自由権についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
6	基本的人権 各論 一精神的自由権 確認テスト1（前年実績）	精神的自由についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分），確認テストの復習
7	基本的人権 各論 一経済的自由権・社会権 確認テスト2（前年実績） 確認テスト1講義内で解説（フィードバック）	経済的自由権・社会権についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
8	基本的人権 各論 一人身自由権・国務請求権・参政権 確認テスト2講義内で解説（フィードバック）	人身自由権・国務請求権・参政権についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
9	基本的人権のまとめ	基本的人権についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
10	統治機構 総論 確認テスト3（前年実績）	統治機構について考える（90分）	配布資料の復習（90分）
11	統治機構 各論 一国会 確認テスト3講義内で解説（フィードバック）	国会についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
12	統治機構 各論 一内閣 確認テスト4（前年実績）	内閣についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分），確認テストの復習
13	統治機構 各論 一裁判所 確認テスト4講義内で解説（フィードバック）	裁判所についての調べ学習（90分）	配布資料の復習（90分）
14	統治機構 各論 一財政・地方自治・統治機構のまとめ 課題1（前年実績）	財政・地方自治についての調べ学習。統治機構のまとめ（90分）	配布資料の復習（90分），課題を作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習（90分）	試験範囲の確認により，第3回から第14回まで復習（90分）
16	定期試験（60分） 定期試験の解説，採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験範囲の確認，第3回から第14回まで復習（90分）	復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ポケット六法 令和7年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	2025年	9784641009257	
2	『一步先への憲法入門』	片桐直人・井上武史・大林啓吾	有斐閣	2021年	9784641131965	
3	『憲法（ファーストトラックシリーズ 1）』	伊藤真	弘文堂	2014年	9784335314513	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（3年		対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3		
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A） (科目ナンバリング：LAW021020)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 2 に対応する。 デザイン学科のDP 2 に対応する。 建築学科のDP 2 に対応する。							
到達目標							
①憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。 ②日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。 ③憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。							
授業全体の内容と概要							
憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。 「SDG 5・ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG 10・人や国の不平等をなくそう」の関連科目。							
授業の方法							
授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。 TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）の必修科目、教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念をある程度理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を高いレベルで理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を正確に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念をある程度理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を高いレベルで考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題をある程度考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目（3年		対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建築学科・3		
開講時期	2Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A） （科目ナンバリング：LAW021020）					
授業担当者 （所属・職名）	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）			研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	（単位認定責任者：後藤 啓倫）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスの確認（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
10	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
11	経済的自由権・身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
12	社会権・生存権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
13	教育を受ける権利・労働基本権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
14	三権分立（国会・内閣・裁判所）	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布資料の整理・再読（90分）
16	定期試験（試験60分の試験終了後、残りの解説 30分で解説をし、フィードバックする） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備（90分）	試験のふり返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 横田 肇)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
学生が、ヨーロッパとイギリスの歴史を概観し、政治・社会、文化の歴史（通史）の基本的な知識を習得する。合わせて、歴史的な見方、考え方の基礎を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のDP2に対応する。							
到達目標							
1) ヨーロッパとイギリスの歴史と社会・文化についての基礎的知識を獲得し、自分なりの理解がされている。 2) 獲得した知識が自身の言葉で的確に説明できる。 3) 歴史的な見方、考え方の基礎が身に付いている。							
授業全体の内容と概要							
ヨーロッパ、特にイギリスの歴史を時代を追って順次講義形式で概説していく。合わせて、日本を含むアジア等の諸国・地域について関連する部分を必要最小限説明していく。							
授業の方法							
毎回、講義形式でヨーロッパとイギリスの歴史を述べていく。原則、こちらで用意した原稿に沿って口頭で説明していくが、適宜、パワーポイントと板書、配布資料を併用する。授業の最後に当該箇所のまとめと確認を行い、その際、受講者にはミニッツペーパー（コメント）の提出を求める。ミニッツペーパー（コメント）への講評を次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。
資格指定科目
教職科目（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
歴史についての知識・理解	歴史（イギリス史）に関しての理解が正確、十分になされ、的確に説明ができた。	歴史（イギリス史）に関しての理解がおおよそなされた、おおよその説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされ、ある程度説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされていた。	歴史（イギリス史）の理解が全くなされていないかった。
文献読解・考察の能力	歴史に関する初歩的な文献が十分に読解でき、明晰な考察ができた。	歴史に関する初歩的な文献の読解と考察がおおよそできた。	歴史に関する初歩的な文献の読解が大体できた。	指示によって歴史に関する初歩的な文献の読解が一定程度できた。	指示による歴史に関する初歩的な文献の読解ができなかった。
論述の能力	課題に対する説明が正確、論理的にでき、明確な文章で表現できた。	課題に対する説明が論理的にでき、明確な文で提示できた。	課題に対する説明がわかりやすく、読みやすい文で提示できた。	指示によって課題に対する説明がわかりやすく提示できた。	指示による課題に対する説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：横田 肇)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。 この科目で身に付ける力の説明。	シラバスを読んでおく (90分)	歴史の基礎的事項の復習 (90分)
2	人類の起源・ヨーロッパの原始時代 古人類の概説。	原始・古代の予習 (90分)	原始・古代の復習 (90分)
3	ヨーロッパの古代 (1) 古代ギリシャ時代 古代ギリシアの政治・社会・文化の概説。	古代ギリシャ (資料) の予習 (90分)	古代ギリシ (資料) の復習 (90分)
4	ヨーロッパの古代 (2) 古代ローマ時代 古代ローマの政治・社会・文化の概説。	古代ローマ (資料) の予習 (90分)	古代ローマ (資料) の復習 (90分)
5	ヨーロッパの中世 (1) イギリスの中世：王政前期 王政開始期の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コズ	イギリス王政前期の予習 (90分)	イギリス王政前期の復習 (90分)
6	ヨーロッパの中世 (2) イギリスの中世：王政前期 王政成長期の概説。	イギリス王政前期の予習 (90分)	イギリス王政前期の復習 (90分)
7	ヨーロッパの近世 (1) イギリスの近世：王政中期 王政発展期の概説。	イギリス王政中期の予習 (90分)	イギリス王政中期の復習 (90分)
8	ヨーロッパの近世 (2) イギリスの近世：王政中期 王政全盛期の概説。	イギリス王政中期の予習 (90分)	イギリス王政中期の復習 (90分)
9	ヨーロッパの近世 (3) イギリスの近世：王政後期 王政下降期の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コズ	イギリス王政後期の予習 (90分)	イギリス王政後期の復習 (90分)
10	ヨーロッパの近世 (4) イギリスの近世：王政後期 王政衰退期の概説。	イギリス王政後期の予習 (90分)	イギリス王政後期の復習 (90分)
11	ヨーロッパの近代 (1) イギリスの近代 政党政治開始期の概説。	イギリス近代の予習 (90分)	イギリス近代の復習 (90分)
12	ヨーロッパの近代 (2) イギリスの近代 政党政治成長期の概説。	イギリス近代の予習 (90分)	イギリス近代の復習 (90分)
13	ヨーロッパの近代 (3) イギリスの近代 政党政治定着期の概説	イギリス近代の予習 (90分)	イギリス近代の復習 (90分)
14	今日の世界 (1) 第1次世界大戦期の概説。	既習事項の復習 (90分)	既習事項の復習 (90分)
15	今日の世界 (2) 第2次世界大戦期から戦後期 の概説。 既習範囲の確認のための小テストを実施し、コズ	既習事項の復習 (90分)	既習事項の復習 (90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。 この科目で身に付いた力の説明。	既習事項の復習 (90分)	既習事項の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	権利擁護を支える法制度 (科目ナンバリング：SWS112011)					
授業担当者 (所属・職名)	神内 秀之介(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：神内 秀之介)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	「公益社団法人日本社会福祉士会理事」「公益社団法人北海道社会福祉士会相談役」「社会福祉法人北海道社会福祉協議会評議委員」等の経験と多数の企業向け講演会・セミナー開催、「ふくしのよろずや神内商店合同会社」代表として福祉の経営やコンプライアンスなどのコンサルティングを行っている経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標							
ソーシャルワークの基盤となる人権や社会正義、尊厳などの基本 理念と権利擁護に関わる課題と法の関わりについて学ぶとともに、ソーシャルワークにおいて実践的に必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動を体系的に理解し、権利擁護と法の関係について自分の言葉で表現できることを目標とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁護の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容と権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動に活かす方法で心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	権利擁護を支える法制度 (科目ナンバリング：SWS112011)					
授業担当者 (所属・職名)	神内 秀之介(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：神内 秀之介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	「公益社団法人日本社会福祉士会理事」「公益社団法人北海道社会福祉士会相談役」「社会福祉法人北海道社会福祉協議会評議委員」等の経験と多数の企業向け講演会・セミナー開催、「ふくしのよろずや神内商店合同会社」代表として福祉の経営やコンプライアンスなどのコンサルティングを行っている経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新・社会福祉士シリーズ 権利擁護を支える法制度』	福田幸夫・森長秀 編集	弘文堂	2 0 2 1	978-4-335-61223-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 法とは何か①（法と社会規範、法と道德の関係、法と正義）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
2	法とは何か②（法の基礎知識、法の解釈、裁判と判例）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
3	ソーシャルワークに関わる法①（憲法の意義、日本国憲法の基本原理、基本的人権）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
4	ソーシャルワークに関わる法②（民法の意義、民法総則、債権－契約、不法行為－など）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
5	ソーシャルワークに関わる法③（婚姻・離婚、親権・未成年後見、扶養、成年後見、相続）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
6	ソーシャルワークに関わる法④（行政法の意義、行政組織、行政行為、行政強制、行政訴訟、国家賠償）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
7	権利擁護を支える仕組み①（権利擁護の意義、福祉サービスの適正利用、苦情解決の仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
8	権利擁護を支える仕組み②（高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
9	権利擁護を支える仕組み③（障害者差別解消法、障害者サービスの利用等に関する意思決定支援ガイドライン）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
10	権利擁護活動における法的諸問題（インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報、権利擁護活動）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
11	成年後見制度（成年後見制度の意義と仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
12	成年後見制度（後見、保佐、補助の概要、任意後見の概要）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
13	成年後見制度（成年後見制度利用支援事業、成年後見制度の動向）	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
14	権利擁護に関わる組織、団体、専門職	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
16	試験（60分）終了後、解説をしてフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業を振り返り試験に向けた準備（90分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学年				
開講時期	通年	授業形態	実習		必修・選択	選択	
科目名称	海外短期留学プログラム (科目ナンバリング：CH1093064)						
授業担当者 (所属・職名)	国際交流センター		研究室等所在		本部棟3階		
単位数	2 (単位認定責任者：		引率担当教員または国際交流センター長)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	引率担当教員研究室前のボードで確認 又は 国際交流センター10時～16時						

概要

履修目標							
中国・台湾の協定校が実施する短期プログラム（2週間～最大8週間）に参加し、その文化・言語を学習し国内では得られない経験や知識を身に着けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。							
到達目標							
国際感覚の醸成等を目的としていることから国際理解を体感してもらいたい。							
授業全体の内容と概要							
研修先の主催校または実施校のプログラムを利用し文化・言語を実地に学ぶ。							
授業の方法							
基本的には教室での座学を中心にショートトリップ・交流会・講習会や見学会に参加し見聞を広める。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
参加希望者の中から実施校のリクエストをメインにした学内選抜により受講者を決定する。授業料以外の料金が発生するので注意すること。総合GPAが1.5以下の学生は参加できない。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。また、研修実施中においても随時チームズのチャットにて対応する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
急病等の特殊事情を除いて、事前に提示されたプログラムをすべて消化し終了証書を受け取ることができた学生に対して単位認定を行う。なお、グレーディングは実施校教員並びに本学引率教員によって決定するものとする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の研修参加者と協力して相手校の期待に十分にたえた。期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の研修参加学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に関しても期待するレベルに達く及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。報道相も欠かすことがなかった。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	プログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを図ったが最低限を認できるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに関しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	参加前に十分な調査を行い、現地ではそれらを確認しつつ、帰国後のレポートにおいても十分に満足できるものだった。	参加前に調べた内容と実際のものに差が付き帰国後のレポートを満足できるレベルで書き上げた。	事前学習が帰国後のレポートに余り反映されていないものの十分に評価できるレポートを提出した。	事前学習が不足のままでのプログラム参加となり、帰国後のレポートもやや評価に欠けるものとなった。	事前学習を行わずプログラムの消化も不十分であり、帰国後のレポートもあまり見る点がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学年		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	海外短期留学プログラム (科目ナンバリング：CH1093064)				
授業担当者 (所属・職名)	国際交流センター		研究室等所在	本部棟3階	
単位数	2 (単位認定責任者： 引率担当教員または国際交流センター長)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	引率担当教員研究室前のボードで確認 又は 国際交流センター10時～16時				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	出国前学習：現地でのプログラムの確認、携行品の確認、授業内容と学習の心構え等確認をする。	自己の目的を再確認し授業に臨むこと。	学習内容にかんがみ渡航準備を整える。
2	実施校のプログラムに従い、活動する。	期間中翌日の準備を怠らない。	期間中毎日の振り返りを必ず行い、研修ノートを作成すること。
3	帰国後学習：研修報告書（レポート）の作成、並びに研修報告プレゼンテーションを実施する。	研修ノートを参考に準備を怠らない。	自分なりの総括を行うこと。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング：CHS122083)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者：尾西 則昭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。 ダンスの振り付けを分析し、評価する。 ダンス特有の面白さを理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ダンスの特性について理解することができる。 ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について身に付ける。 主体かつ積極的に課題に取り組むことができる。 仲間と協力して課題に取り組むことができる。 リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。							
授業全体の内容と概要							
表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンスの現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され幼稚園・保育園において発達段階に対応した内容で構成されている。 「SDGs3、すべての人に健康と福祉を」の関連科目。							
授業の方法							
授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワーク発表(全2回)実施							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
積極的に取り組むことを期待します。 学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。 自分の健康は自分で管理すること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 13回					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックをおおむね発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にパートナーと多少できた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分できた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は7割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	創作ダンスの発表でしっかりと踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることがおおむねできた。	創作ダンスの発表で踊ることができた。	創作ダンスの発表で多少踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング：CHS122083)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明」 本科目を修了として「身に付く力」について説明する。	事前にシラバスを読んで確認をする。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
2	身体表現基本説明①（ダンスの導入）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
3	身体表現基本②（ダンスの映像鑑賞）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
4	身体表現基本③（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
5	身体表現基本④(リズム運動)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
6	創作ダンス①（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
7	創作ダンス②(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
8	創作ダンス③(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
9	創作ダンス④(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
10	創作ダンス⑤（グループでの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
11	創作ダンス⑥(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
12	創作ダンス⑦（グループでの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
13	創作ダンス⑧(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
14	創作ダンス⑨(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
15	創作ダンスリハーサル	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
16	授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フ	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。 (90分)	解説の内容を確認する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究科会	かもがわ出版	2018年	978478030948-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ (科目ナンバリング: AEA222073)				
授業担当者 (所属・職名)	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

履修目標

“物”を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン制作の過程を学び、あわせて、使用する木材の性質、木工の道具と機械類の操作、着色、塗装等も学ぶ。表現したいテーマや目標に対し、発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明までを一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来る。作業を安全に効率よく行える。作品を的確な言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて、刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解できるよう、作業と素材感の異なる3つの技法を行う。ハードト・ド・ヴェールでは原型・型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為パーナーワーク／吹きガラスを実技する。パーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作。吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各産業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見て説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながらかを進める。パーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講習会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演のちに各自練習。講師の指示期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。
成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。
不測の事態が生じた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいる。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめ理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させる。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222073)					
授業担当者 (所属・職名)	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	島田晶夫 授業説明 第一課題「象嵌」 シラバスの説明 科目終了後に「身に付く力について」の説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
2	島田晶夫 第一課題のデザイン、制作	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
3	島田晶夫 第二課題「カトラーリ」 デザイン	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
4	島田晶夫 第二課題の制作	完成までの計画を立てる事。（45分）	手工具の使い方の把握。（45分）
5	島田晶夫 第三課題「栴」	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
6	島田晶夫 第三課題の練習	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
7	島田晶夫 第三課題の本番材での加工①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
8	島田晶夫 第三課題の本番材での加工②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
9	島田晶夫 第三課題の本番材での加工③	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
10	島田晶夫 第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）
11	楠本裕弘 シラバスの説明・技法説明を行う。 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
12	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント デザイン 「とんぼ玉」 交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	アイデアの検証する。（45分）
13	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 原型制作 「とんぼ玉」 交代で作業	作業の段取りをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
14	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 原型制作 「とんぼ玉」 交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	原型の修正を行う。（45分）
15	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 「とんぼ玉」 交代で作業	原型の修正をする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
16	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 「とんぼ玉」 交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	石膏型の点検と修正を行う。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 焼成準備 [吹きガラス] グラス制作	ガラスのデザインをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
18	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 焼成準備 [吹きガラス] グラス制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	石膏型・カレットの点検を行う。（45分）
19	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 仕上げ	作業の段取りをする。（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
20	楠本裕弘 「パート・ド・ヴェール」 小皿・オーナメント 講評会	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	自他者の発表を考察する。（45分）
21	中島知之 シラバス説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
22	中島知之 基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ぬり指導（荒ぬり・菊ぬり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	中島知之 手びねりによる作品制作① カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	制作状況、完成までの確認。（45分）
24	中島知之 手びねりによる作品制作② カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	中島知之 手びねりによる作品制作③ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	中島知之 手びねりによる作品制作④ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	中島知之 釉かけ・窯詰め・電気窯による焼成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	中島知之 釉かけ・窯詰め・電気窯による焼成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	中島知之 課題作品の批評会	質問事項を考えておく（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	中島知之 総講評会・解説	質問事項を考えておく（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）
31	中島知之 楠本裕弘 島田晶夫 全体的な講評を行う	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
32	北嶋洋一 各自の振り返りの発表 授業改善アンケートの実施 授業内容のフィードバック	これまで学んだ技法等についてまとめておく（45分）	他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年生			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アクションプログラムⅡ (科目ナンバリング：IRE321073)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験を活かした実践的な授業を展開。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
本授業では、建築コンペへの参加を通じて、要望を的確に汲み取り、共感や感動を生むデザインを創出する力を養うことを目的とする。オリジナリティを重視し、正確で美しく表現する技術を身につけるとともに、設計意図を豊かに伝えるプレゼンテーションスキルを向上させる。また、計画的に作業を進める習慣を身につけ、期限内に高い完成度の成果物を提出できる能力を育成する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5 に対応する科目							
到達目標							
与条件や要望、テーマを理解した上で、自らコンセプトを立案・デザインし、図面やパースなどを用いて適切に表現できる。また、その内容をプレゼンテーションを通じて他者へ伝えることができる。さらに、作品制作のスケジュールを自分で管理し、計画的に作業を進め、期限内に成果物の提出ができる。							
授業全体の内容と概要							
本授業では、1つの建築コンペの参加を通して、コンセプト立案からデザイン、プレゼンボード作成からプレゼンテーションまでを一貫して実施することにより、実践的なデザインプロセスを学び、表現力と提案力を向上させる。							
授業の方法							
建築コンペの要項に基づき、各自課題に取り組む。課題検討にあたって考慮すべき事項について、複数回のレクチャーを実施する。また進捗状況確認及びエスキスチェックのためのフォローアップ授業を行う。成果物提出後はプレゼンテーション会を実施し、総評を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
より良い作品を制作するために、主体的で積極的な姿勢で参加すること。また、期限内に提出することを念頭に置き、計画的に作業を進めること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上 。成果物の提出 及びプレゼンテーションの実施。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザイン力・表現力	要望を汲み取り、共感・感動を生むデザインができた。オリジナリティがあり正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえ共感を生むデザインができた。正確で美しい表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	要望を踏まえたデザインができた。正確な表現ができた。	プレゼンテーションを作成することができなかった。
プレゼンテーション力	デザインした内容を的確に豊かに表現した。共感・感動を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。共感を生むプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を的確に表現した。要望を汲み取ったプレゼンテーションができていた。	デザインした内容を表現し、プレゼンテーションができていた。	プレゼンテーションができなかった。他者へ伝えることができなかった。
スケジュール管理	計画的に作業を進め、期限内に完成度の高い成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	計画的に作業を進め、期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができた。	期限内に成果物を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年生			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アクションプログラムⅡ (科目ナンバリング：IRE321073)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験を活かした実践的な授業を展開。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	課題説明1・シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明・科目を終了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認(30分)	説明内容の確認(30分)
2	課題説明2	デザイン構想（60分）	敷地調査（60分）
3	課題説明3	説明内容の確認(30分)	説明内容の確認(30分)
4	デザイン検討1	デザイン構想（60分）	デザインチェック（60分）
5	デザイン検討2	デザイン構想（60分）	デザインチェック（60分）
6	デザイン検討3	デザイン構想（60分）	デザイン表現（60分）
7	エスキスチェック1	デザインを表現（60分）	デザインチェック（60分）
8	エスキスチェック2	デザインを表現（60分）	デザインチェック（60分）
9	エスキスチェック3	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
10	成果物作成1	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
11	成果物作成2	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
12	成果物作成3	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
13	成果物提出	デザイン表現（60分）	デザインチェック（60分）
14	プレゼンテーション1	プレゼンテーション構想（60分）	プレゼンテーション復習（60分）
15	プレゼンテーション2	プレゼンテーション構想（60分）	プレゼンテーション復習（60分）
16	総評及び作品総評によるフィードバック、科目を終了して「身に付く力」についての検証	自己評価（30分）	授業全体の振り返り（60分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修	
科目名称	CAD演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT322034)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階（佐藤）、2号館8階（伊藤）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 善太郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
C A D教育の始めとして、コンピュータによる作図が自在に出来るように、基本操作から木造・R C造設計課題を2次元C A Dで「建築製図」として仕上げられる程度まで修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
2次元C A Dを使い、自分で計画した建築物が手描き図面のように、自由自在に使えるための基本操作と作図手順を行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
コンピュータ室にて、2次元CADであるjw_cadを用いて、木造およびR C造についての演習を行う。住宅の設計課題に取り組み、自由に作図できるようにjw_cadを習得する。 「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
コンピュータ室にて、2次元C A D画面を大型ディスプレイに表示しながら解説する。設計課題では作成したエスキスを個別にプレゼンしてもらい、図面確認と修正指導を行うことでフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業はコンピュータ室を使うので座席指定する。U S Bメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
2次元CADの特性を活かした作図ができるか	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することができた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがほぼできた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがある程度以上できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することがある程度できた。	2次元CADの特性を理解し、設計ツールとしての確に駆使することができなかった。	
設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。	
JW CADを駆使して自身の計画内容を相手に的確に伝えることができるか	JW CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	JW CADを駆使して、計画内容をほぼ伝えることができた。	JW CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	JW CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	JW CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択必修	
科目名称	CAD演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT322034)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・伊藤 裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階（佐藤）、2号館8階（伊藤）		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 善太郎）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Jw cad徹底解説(操作解説編)2012-2013 (エクステンションブック Jw cadシリーズ 1)』	Jiro Shinizu (著), Yoshifumi Tanaka (著)	エクスナレッジ	2012	978-4767813929	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明インストールと設定、レイヤ・作図・編集等基本操	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
2	レイヤ・作図・編集コマンド	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
3	木造平面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
4	木造立面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
5	R C造マンション平面図の作成 1	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
6	R C造マンション平面図の作成 2	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
7	R C造マンション平面図の作成 3	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
8	R C造マンション敷地図と南側立面図の作成	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
9	2.5Dの作成 1	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
10	2.5Dの作成 2	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
11	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成 1	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
12	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成 2	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
13	内部パースの作成（CADデータのインポート）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
14	内部パースの作成（柱壁の立ち上げ）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
15	内部パースの作成（着色）授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
16	講評会 講評によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証	講評会準備（45分）	振り返りレポート作成（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅲ (科目ナンバリング：AHD322041)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 （単位認定責任者：安藤 淳一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

履修学生は、前半に建築の正面（ファサード）に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は、この前半の内容を統合させた課題に取り組む。これにより履修学生は、建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3, DP4, DP5に対応する。

到達目標

建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し、どのように表現するかが求められる。各シリーズとも3課題ごとに講評会を実施するが、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた表現力を身につけることができた。	おおむね表現できる力を身につけることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身につけることができなかった。
講評会をととし、作品に対するさまざまな評価から自己、他者の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。
建築の重要な要素である正面（ファサード）に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせて彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身につけることができた。	配色・彩色できる優れた力を身につけることができた。	配色できる優れた力を身につけることができた。	おおむね配色表現できる力を身につけることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅲ (科目ナンバリング：AHD322041)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	ファサードデザイン1（商業建築）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	ファサードデザイン2（住宅）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	講評会（ファサードデザイン）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）
5	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認（45分）	追加作業（45分）
6	色彩1（街区・配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩2（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）
9	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認（45分）	授業の振り返り（45分）
10	ファサードデザイン＋色彩1	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	ファサードデザイン＋色彩2	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（ファサードデザイン＋色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）
13	建築構造模型（立体トラス）の解説	配布資料の確認（45分）	授業の振り返り（45分）
14	建築構造模型（立体トラス）の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会 建築構造模（立体トラス）の強度テスト	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）
16	総評（全作品の講評）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光マネジメント論 (科目ナンバリング：TOS422039)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井 壽一 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：五ノ井 壽一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

履修目標						
観光マネジメントの特性・重要性を講師の経験を通して、理解し身に付けることを目的する。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。						
到達目標						
観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。						
授業全体の内容と概要						
観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。						
授業の方法						
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
O	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。 出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。 。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めてはいった。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。
レポートについて（思考力・判断力・表現力）	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けると、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言いつつも取り組みが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	観光マネジメント論 (科目ナンバリング：T05422039)					
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『観光サービス論』	安田 亘宏	古今書院	2 0 1 5	9784772231664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを読んでおくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
14	ニューツーリズム（1）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
15	ニューツーリズム（2） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （90分）
16	まとめ（レポート総評と解説） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと（90分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの観光事業論』	高橋一夫・柏木千春	碩学舎	2016	9784502172816	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング：AHS522068)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児保育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認するとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)レクリエーションの課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解する。また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解する。 次世代を生かす子どもたちになぜレクリエーション活動支援が必要なのかについて知る。							
授業全体の内容と概要							
レクリエーションの主旨(目的)は心を元気にすることであり、レクリエーション支援者は、人々が自主的、主体的心を元気にできるようになることを目的に、ゲームや歌、ダンスといったレクリエーション活動を用いて手助けする指導者である。主に、福祉分野や教育分野の施設、学校、地域の事業などの現場で高齢者や子どもなどの対象者として心の元気づくりの支援を身に付ける。 レクリエーション講義では、以上の目的を達成するために、①レクリエーション概論②楽しさと心の元気づくりの理論③レクリエーション支援の理論について学ぶ。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
基本的には対面式の授業形態であるが、演習部分ではグループワークの形をとるため、少人数でのグループ形式の授業形態もある。 「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 13 回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。
レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング：AHS522068)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 本科目を修了して「身に付く力」について説明と 授業改善アンケート結果反映の説明をする。	事前にシラバスを読んで確認する。(9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
2	レクリエーションの意義及び歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
3	レクリエーション運動の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
4	レクリエーションインストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
5	レクリエーションの指導法（ビデオ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
7	障がい者とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
8	レクリエーションの企画・運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
9	レクリエーションの活動の安全管理	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
10	レクリエーション事業の考え方及び展開方法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
11	レクリエーションの事業評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
12	レクリエーション支援の方法① アイスブレーキング・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
13	レクリエーション支援の方法② ホスピタリティ・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
14	加盟団体とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
15	レクワーク（レク種目体験）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする。 本科目を修了して「身に付く力」について検証。	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。 (9 0分)	解説の内容を確認する。(9 0分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	小西 亘	(財)日本レクリエーション協会	2007年	9784931180819	
2	『楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践』	川村 皓章	(財)日本レクリエーション協会	2000年	9784931180611	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ文化論 (科目ナンバリング：SPS422068, SPS512012)					
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：細川 光法)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

概要

履修目標							
オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。 「SDG 5. ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。 「SDG 17. パートナリーシップで目標を達成しよう」の関連科目。							
授業の方法							
基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。 毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スポーツ指導者 (スポーツリーダー) 資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は1.6回の授業（定期試験を含む）のうち1.1回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を十分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで十分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。
スポーツにおけるジェンダーの視点	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について総合的に理解できた。	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について概ね理解できた。	ジェンダーから見るスポーツに関する課題について一定程度理解できた。	ジェンダーから見るスポーツについてわずかに理解できた。	ジェンダーから見るスポーツについて全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ文化論 (科目ナンバリング：SPS422068, SPS512012)					
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：細川 光法)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識 (90分)	ガイダンスの復習 (90分)
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
5	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
6	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
7	スポーツとマイノリティ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る (90分)	授業中に学んだことを復習 (90分)
16	総合評価 定期試験 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・施設によるフィードバック	これまで学んだことを確認 (90分)	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明 (編)	世界思想社	1999	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論 (やわらかアカデミ ズム・<わかる>シリーズ)』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	2012	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	美術科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：ESS243093)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員 経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。																								
授業の位置づけ																								
設定なし																								
到達目標																								
・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。 ・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。 指導案の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。																								
授業の方法																								
授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、指導案の作成などを行う。指導案の作成では他の学生の指導案についてお互いに検討し、ディスカッションを行う。最終講義までに再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td>○</td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
指導案の作成・検討などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。 『中学校美術の教科書1〜3年』（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので1冊各自購入し、持参すると学びにつながる。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。																								

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 (美術) 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案作成能力	学習指導要領や題材研究の成果と課題を踏まえて学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
演習を通した考察	自ら進んで課題の範囲を超えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	美術科教育法Ⅰ (科目ナンバリング: ESS243093)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員 経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月 —平成29年告示—	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術 ・工芸・書道)編・音楽編・美術編 平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーショ ン 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修 了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	美術科教育の目的・意義 (2) 学習指導要領におけ る目的	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書を読み、授業内容を復習する (90分)
3	美術科教育の歴史: 子どもの発達、造形教育と美術 教育	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	美術科教育の教科特性: 美術科教育における「表現 」と「鑑賞」	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	美術科教育の教科特性: 絵画・彫刻領域とデザイン ・工芸領域	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	学習指導要領 (中学): 美術科の各学年の内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	学習指導要領 (高校): 目標と内容 指導計画・学習指導案の構成	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	「表現」の教材研究 (1)	とりあげる教材について事前に特性などを調べてお く。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	「表現」の教材研究 (2)	とりあげる教材について事前に特性などを調べてお く。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授 業内容を復習する (90分)
10	「表現」の教材研究 (3)	とりあげる教材について事前に特性などを調べてお く。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授 業内容を復習する (90分)
11	学習指導案の作成 (1): 方法	とりあげる教材について事前に特性などを調べてお く。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授 業内容を復習する (90分)
12	学習指導案の作成 (2): 検討の視点と方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げ ておく。(90分)	指導案を作成する (90分)
13	学習指導案の作成 (3): 制作した指導案の検討	指導案を作成する (90分)	指導案を作成する (90分)
14	学習指導要領: 指導上の留意点、評価について	指導案を作成する (90分)	指導案を作成する (90分)
15	指導案の講評 フィードバック 指導案の提出	指導案を作成する (90分)	自分の作成した指導案についての気づきをまとめる (90分)
16	指導案の講評 フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの内容を振り返り、疑問点等を挙げておく 。(90分)	フィードバックを受けて授業の内容の理解を深める (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謹一	建帛社	2012年	9784767921013	
2	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	全学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング: ESS143157, ESS243103,)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 雅一)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

この授業ではパソコンを使います。コンセントの使用は難しい教室ですので必ず充電を満タンにして持参して下さい。

授業の位置づけ

-

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。

②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。

③現代社会が抱える問題点やその価値観・道徳観をしっかりと把握する。

④過去の歴史を踏まえつつ、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を形成し、これからの時代に必要な道徳教育とその方法論を構築する。

「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベートなどによるアクティブラーニングを行う。適宜、平常点を付与する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは100%単位認定されない。最後に、全体的感想、公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。学務課に成績票を提出した後は受領できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分理解し、みずからの教育観に十分役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立った。	講義やビデオの内容を理解しようとする、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立てていなかった。
発言	発言を10回以上した。	発言を7回以上した。	発言を5回以上した。	発言を3回以上した。	発言が3回未満だった。
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようとする。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表してなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング: ESS143157, ESS243103,)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 雅一 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの解説（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、身に付く力として学年、学級経営上のポイントを理解頂きます	シラバスをきちんと読む（90分）	第1回講義の復習（90分）
2	道徳教育は、何をめざすのか 先生の自己紹介	第1回講義の復習と第2回講義の予習（90分）	第2回講義の復習（90分）
3	Wordで自分の履歴書を作成1	第2回講義の復習と第3回講義の予習（90分）	第3回講義の復習（90分）
4	Wordで自分の履歴書を作成2	第3回講義の復習と第4回講義の予習（90分）	第4回講義の復習（90分）
5	PowerPointで自己紹介の作成1	第4回講義の復習と第5回講義の予習（90分）	第5回講義の復習（90分）
6	PowerPointで自己紹介の作成2	第5回講義の復習と第6回講義の予習（90分）	第6回講義の復習（90分）
7	PowerPointで自己紹介の作成3	第6回講義の復習と第7回講義の予習（90分）	第7回講義の復習（90分）
8	板書計画の作成1	第7回講義の復習と第8回講義の予習（90分）	第8回講義の復習（90分）
9	板書計画の作成2	第8回講義の復習と第9回講義の予習（90分）	第9回講義の復習（90分）
10	学習指導案の作成1	第9回講義の復習と第10回講義の予習（90分）	第10回講義の復習（90分）
11	学習指導案の作成2	第10回講義の復習と第11回講義の予習（90分）	第11回講義の復習（90分）
12	学習指導案の作成3	第11回講義の復習と第12回講義の予習（90分）	第12回講義の復習（90分）
13	模擬授業1	第12回講義の復習と第13回講義の予習（90分）	第13回講義の復習（90分）
14	模擬授業2	第13回講義の復習と第14回講義の予習（90分）	第14回講義の復習（90分）
15	模擬授業3	第14回講義の復習と第15回講義の予習（90分）	第15回講義の復習（90分）
16	最終テスト（持ち込み可） これまでのフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	最終テスト（90分）	第16回講義の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義, 演習, 実習	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 (科目ナンバリング: CUA021026)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応				

概要

履修目標

留学生が日本文化・日本社会の諸々の面から理解を深め、大学生活、日本での生活を円滑に送ることができる能力を身につける。異文化理解や他者の意見を尊重することで、大学生活をより豊かにすること。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。

到達目標

日本文化・日本社会の諸々の側面について留学生の知識を深めることができる。日本について深めた知識を勉学や生活、専門分野の研究などに生かし、日本人との討議やコミュニケーションに積極的に参加することができる。

授業全体の内容と概要

毎時間トピックを提示し、視覚的な教材の使用、来日後の留学生の体験談などを積極的に取り入れ、留学生の日本事情理解を促進する授業展開を図る。日本文化や日本事情、多文化交流を通して「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

毎時間提示されるトピックに対しディスカッションやグループワークを通して異文化理解を深める。また、トピックをテーマにプレゼンテーションやレポート作成を行い、自分の意見やグループの考えを表現する。日本文化と母国との比較のみならず、クラスメイトの出身地や他地域との比較を通じ、相互理解を深める。なお、不測の事態発生に際しオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前に授業内で決定し、指定期日に発表を提出する。また、それ以外で、自主的にレポートを作成し、提出した者は評価の対象とする。定期試験は禁止とする。学期末試験を課する。自らの全科目を日本語で書いていくこと。平準化の原則はあくまでも、授業中は真面目に取り組み「日本語で表現できないものは母語で表現できないもの」と思われ、なんでもチャレンジする。15分

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提條件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回である。
出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	45%	5%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	知識や技能を習得した。授業外でも日本のニュースなどに関心を持つことができた。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしていたが、授業内の関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っているが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心をあまり持たない。授業内の活動には参加するが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持たず、知識・技能を習得しようという姿勢が見られなかった。授業内の活動にもあまり参加できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立った。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくい箇所があった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができなかった。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られなかった。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。発言も多い。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいた。積極性は弱い。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加せず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義, 演習, 実習		必修・選択	選択
科目名称	日本事情 (科目ナンバリング：CUA021026)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 恵利 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2 (単位認定責任者：)		佐藤 恵利		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス説明《科目を修了して「身につく力」についても説明》・授業説明)アンケート	シラバスを熟読し、本講義について理解する。専用のノートを準備する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
2	日本について：地理、気候、地域による特色など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
3	暮らし：日本での暮らしの中のマナー、都市と地方の暮らしの違いなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
4	旅行・観光：交通機関、観光地など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
5	食文化：食生活の変化、マナーなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
6	四季：季節行事、祝祭日、気候など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
7	歴史：知っておきたい日本の歴史と文化の観点から見た日本の歴史	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
8	伝統文化：茶道、華道、演芸など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
9	現代文化とポップカルチャー：マンガ、アニメ、キャラクターなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
10	スポーツ：伝統的スポーツ、東京オリンピックなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
11	クリエイティブジャパン：日本の科学技術の進歩について	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
12	環境問題：日本の環境問題に対する取り組み、ゴミの分別やリサイクルについて	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
13	課題作成① 課題発表	課題への準備をする。課題作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
14	課題作成②	課題への準備をする。課題作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
15	課題作成③	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
16	課題発表 授業に係る講評・解説によるフィードバック 総括（「身につく力」の検証）	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(90分)	講義全体を振り返り理解を深める(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング: APT313008)				
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之 (建築学科・特任教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の計画や設計をおこなう上での基準は健康者の身体能力であった。しかし、わが国では人口の高齢化が急速に進展し、高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って、障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで、高齢者・障がい者の身体特性を学び、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP 1，DP 3，DP 4に対応する。

到達目標

高齢者・障がい者が多く罹る疾病やこれに伴う心身の特性を理解し、生活上の不便、不都合を知ることで生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識を理解し、それに基づいて建築計画することができる。

授業全体の内容と概要

福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し、高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画、生活空間の部位の寸法等要点を把握する。

授業の方法

テキストに加えてプロジェクトによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容を資料を整理すること。また、課題は各单元ごとに課題し、それはレポート形式とする。課題は3課題を準備している。そのうちの最終課題は、住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし、それを講評する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	20%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
福祉用具と住空間に関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ、さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ、さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング：APT313008)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 佐々木 哲之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村, 橋本	彰国社	2023	978-4-395-32048-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身につく力」の説明 福祉環境	シラバスにより次回の部分を予習すること (90分)	授業内容を復習すること (90分)
2	ハートビル法, 障害者基本法, 生活福祉空間づくり, その他関係法令	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
3	高齢者・障害者の身体特性	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
4	計画と設計に求められるコンセプト	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
5	高齢者・障害者の福祉用具1	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
6	高齢者・障害者の福祉用具2	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
7	住環境整備の計画1 アプローチ, 駐車場, 建物出入り口	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
8	住環境整備の計画2 室内出入り口, 廊下, 階段	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
9	住環境整備の計画3 エレベータ, 便所	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
10	住環境整備の計画4 床の配慮, 段差の解消	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
11	住環境整備の計画5 スペースの配慮, 建具, 収納	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
13	生活空間改善の手法 計画例-1	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
14	生活空間改善の手法 計画例-2	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
15	生活空間改善の手法 計画例-3 授業改善アンケートの実施	今回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること (90分)
16	定期試験 (60分) 及び解説 (30分) をし, フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること (90分)	試験内容を振り返り, 特に専門用語を復習すること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング：MAN413002, MAN513002)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートを取り、その内容をしっかり理解すること。様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランスシグにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはとんとん掘り下げて自分のものとしていくことを勧行する。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。文字資料・動画資料を利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらう。ノートの作り方や課題、予復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。課題に関しては授業内でディスカッション形式で事前確認を行うものとする。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50％に換算する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で92点以上の得点を挙げた。	定期試験で84点以上の得点を挙げた。	定期試験で76点以上の得点を挙げた。	定期試験で68点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスシグへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング：MAN413002, MAN513002)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「経営学」』	佐藤 耕紀	同文館出版株式会社	2021	9784495540890	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	専用のノートを準備する (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
2	正しく考え、正しく判断する心理学的側面	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
3	価格の仕組みを理解して、増収・増益を目指す	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
4	相乗効果とコストダウン	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
5	ライバルとの競争を勝ち抜く	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
6	目的実現	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
7	分析手法 復習①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
8	分析手法 復習②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
9	やる気と個性を活かして、強いチームを作る①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
10	やる気と個性を活かして、強いチームを作る②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
11	DX時代の組織の形を考える①	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
12	DX時代の組織の形を考える②	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
13	DX時代の組織の形を考える③	テキストの指定範囲を読み込む (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
14	人材マネジメント&ノートチェック①	ノート提出に備える (90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える (90分)
15	テストリビュー&ノートチェック② 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート提出に備える (90分)	試験に備える (90分)
16	試験および総括	試験に備える (90分)	本科目の総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	全学科・全学年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	海外研修プログラム (科目ナンバリング: ENL091065)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 当該年度引率教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
研修先（オーストラリア）においてその文化や言語を学習し、以って帰国後の学習における目的を明確にする。現地におけるホームステイを通じ異文化を理解しショートトリップ等から歴史や価値観を学び取ってほしい。学習先はTAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）の英語クラスを利用。						
授業の位置づけ						
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。						
到達目標						
英語における日常のコミュニケーションが取れる。またホームステイを通じ独特な表現や特有の言い回しなど現地に行かなければ知りえなかった表現を体得する。						
授業全体の内容と概要						
研修先のTAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）のプログラムを利用し文化・言語を実地に学ぶ。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目						
授業の方法						
TAFE（オーストラリア国立の目的別単位認定高等教育機関）においては通常座学・動画・パワーポイントを利用した個別学習やグループ学習。これに、ショートトリップや見学会・講習会等を通じナチュラルな英語に触れ今後の学習に役立てる。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
受講制限は特に置かないが通算GPAが1.5以下のものおよび参加直前の習得単位数が以下の条件に達していないものは参加できない。1年生15単位、2年生45単位、3年生75単位、4年生105単位。なお、参加費が有料となるので注意すること。参加者には卒業認定単位が与えられる。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。研修期間中であっても随時チームズのチャットおよび参加者用LINEにて対応する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
急病等の特殊事情を除き、全プログラムに参加し終了賞の交付を受けた学生に対してのみ単位認定を行う。グレーディングに関しては現地コーディネーターと本学引率教職員が協議の上決定するものとする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	70%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の研修参加者と協力して本学の期待に十分こたえた。期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の研修参加学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に關しても期待するレベルに達く及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。報道相も欠かすことがなかった。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	プログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを回ったが最低限認めるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに關しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	参加前に十分な調査を行い、現地ではそれらを確認しつつ、帰国後のレポートにおいても十分に満足できるものだった。	参加前に調べた内容と実際との差に気づき帰国後のレポートを満足できるレベルで書き上げた。	事前学習が帰国後のレポートに余り反映されていないものの十分に評価できるレポートを提出した。	事前学習が不足のままでプログラムの参加となり、帰国後のレポートもやや評価に欠けるものとなった。	事前学習を行わずプログラムの消化も不十分であり、帰国後のレポートもあまり見る点がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・全学年				
開講時期	後期	授業形態	実習		必修・選択	選択	
科目名称	海外研修プログラム (科目ナンバリング：ENL091065)						
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在		2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：		当該年度引率教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	事前学習を通して日本に居ながらにしての現地理解に努める。 出国前学習：現地でのプログラムの確認、携行品の	自己の目的を再確認し授業に臨むこと。	学習内容に鑑み渡航準備を整える。
2	プログラム内容に沿って研修に参加する。	期間中翌日の準備を怠らない。	期間中毎日の振り返りを必ず行い、研修ノートを作成すること。
3	帰国後、研修報告レポートを提出。 帰国後学習：研修報告書（レポート）の作成、並びに研修報告プレゼンテーションを実施する。	研修ノートを参考に準備を怠らない。	自分なりの総括を行うこと。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・2年 社会福祉学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (科目ナンバリング: SWS122019, SWS422078,)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標						
相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目。 社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する科目。						
到達目標						
①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。 ②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。						
授業全体の内容と概要						
①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。 ②相談援助の展開過程について学ぶ。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業						
授業の方法						
①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をすることで答えること。 ②基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	
						PBL
						反転授業
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
30分以上の遅刻は欠席とする。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明できる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの援助のプロセスを理解できる。	理念に基づいた援助の展開について事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年 社会福祉学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122019, SWS422078,)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して身につく力について説明	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	人と環境の交互作用に関する理論①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	人と環境の交互作用に関する理論②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークのプロセス：ケース発見、インテーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	ソーシャルワークのプロセス：プランニング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	ソーシャルワークのプロセス：インターベンション、モニタリング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
9	ソーシャルワークのプロセス：効果測定、評価、アフターケア	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	小試験	試験該当部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
11	小試験を返却し、解説をしフィードバックする(30分) ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	小試験の自己採点をもとに質問事項をまとめる。次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	小試験の不正解部分を復習する。ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所を整理する。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	試験 60分の試験終了後、30分解説を行いフィードバックする。	全体の復習をする。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122086)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在		未定	
単位数	1 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者などを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ②保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。							
授業全体の内容と概要							
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を学修する。 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。							
授業の方法							
授業は、口頭、板書、パワーポイントなどで展開し、各回のテーマに沿った解説を行う。フィールドワークで自然の造形美に触れる体験を行う。そこから得たことを生かした課題制作を実践形式で行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・指定した用具・用品等、各自が必要とする材料・用材等を持ってくること。・出席を取り終わった後は欠席とする。・不測時における授業や補講等でオンライン授業を実施する場合がある。（但し、保育士課程は対面による授業をしなくてはならない。）・受講人数や季節、天候、習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることがある。・受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。・毎回出席することが大前提。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は，11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつける。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を十分に付けることが出来た。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力へなつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を最低限つけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を付けることが出来ていなかった。
造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつける。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を十分に付けることが出来た。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を備へつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を最低限つけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつけることが出来ていなかった。
発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来る。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが十分にできていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが概ね出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが不十分ではあるが出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが最低限出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	造形表現Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122086)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者などを対象にした自然体験型教室（養託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 当該科目を修了して「身につく力」とは	あらかじめシラバスの確認をしておく（45分）	授業の流れを理解し全体の見通しをもつ（45分）
2	”保育士”として自己紹介をしよう	幼児の発達特性を予習しておく（45分）	フィールドワークの準備をしておく（45分）
3	保育における造形表現の位置付け	幼児の発達特性を予習し、フィールドワークの準備をする。(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく。(45分)
4	造形表現のための基本技法①	フィールドワークの準備をしておく。(45分)	自然素材の保育現場での可能性について考える。(45分)
5	造形表現のための基本技法②	身近に小さい子がいる環境ならば、どんなことに関心があるか聞いておく。どんな絵を描いているか見せてもらう。(45分)	近隣の児童会館には子育てサロンを開設しているところが多々ある。多くは未就園児とその保護者たちが対象だ。可能であれば見学させてもらうのも良い。
6	造形表現のための基本技法③	既存の造形表現に触れておく。(45分)	既存の造形表現を味わい自己に取り入れ活かしていく。(45分)
7	造形表現のための基本技法④	フィールドワークの準備をしておく。(服装、道具) (45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく(45分)
8	造形表現のための基本技法⑤	フィールドワークの準備をしておく(服装、道具) (45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく。(45分)
9	造形表現のための応用技法①	雪の可塑性について予習しておく（45分）	雪の特性を生かした造形表現について考える（45分）
10	造形表現のための応用技法②	雪の量感感を持って表現することについて考える（45分）	身近な素材である雪の持つ造形表現の可能性についてまとめる（45分）
11	造形表現のための応用技法③	フィールドワークで感じ取ったことをまとめておく（45分）	思いをどう表現していくか考える（45分）
12	造形表現のための応用技法④	フィールドワークで集めた素材を準備しておく（45分）	フィールドワークで感じた気持ち、膨らんだ思いをどう表現すれば良いか考える（45分）
13	造形表現のための応用技法⑤	自分の作品を客観的に見つめる。思いが表れているか。足りないことは何か。（45分）	作品を客観的に見つめる。（45分）
14	さまざまな造形表現と保育の環境 1	自分の作品を客観的に見つめる。工夫する箇所はないか考える。（45分）	作品を客観的に見つめる。完成していなければ完成させておく。（45分）
15	さまざまな造形表現と保育の環境 2	自分の作品についてどう発表するか考えておく。（45分）	他の学生の作品に触れると、多様な価値観、表現を感じ取る。（45分）
16	講評会（フィードバック） 授業改善アンケートの実施 当該科目の第1回目に示した「身につく力」について検証	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。（45分）	講評を通じて感じたことを、以後の作品に反映させていくことを考える。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222068)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーション ボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標							
彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222068)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーション ボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーション振り返り（45分）
2	彫刻とは何か	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
3	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
4	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
5	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
6	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
7	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
8	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
9	動物彫刻（塋像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
10	動物彫刻（塋像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
11	動物彫刻（塋像） 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
12	動物彫刻（塋像） 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
13	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
14	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
15	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
16	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
18	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
19	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
20	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
21	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
22	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
23	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
24	動物彫刻（塋像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
25	動物彫刻（塋像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
26	動物彫刻（塋像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
27	動物彫刻（塋像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
28	動物彫刻（塋像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
31	講評 授業全体への講評とプレゼンテーションへのフィードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して身につく力の検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅳ (科目ナンバリング：AHD322042)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 （単位認定責任者：安藤 淳一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
前半では、建築画面の基礎的立体表現として陰影とアクソメ図の課題に、後半ではこれらの手法を統合させた課題に取り組む。履修学生は、立体表現の課題では基本的技術を習得し、応用課題では表現の多様性を理解するとともに実践し技術を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに、表現の対象となる有名建築作品、設計者（建築家）の考え方について理解を深めることができる。							
授業全体の内容と概要							
各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題製作、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時までにて完成させ提出する。							
授業の方法							
シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身につけようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身につけることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身につけることができた。	立体表現の基礎技術を身につけることができなかった。
表現の対象となる有名建築作品、設計者（建築家）の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。
講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅳ (科目ナンバリング：AHD322042)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 君 興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者： 安藤 淳一)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	陰影表現1（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	陰影表現2（配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	講評会（立面図・配置図）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）分
5	アクソノメトリクスの図法解説	授業資料の確認（45分）	授業資料の復習（45分）
6	アクソノメトリクスの表現1（外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	アクソノメトリクスの表現2（内観・外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（アクソノメトリクス 外観・内観）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）分
9	空間要素1	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	空間要素2	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（空間要素）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振り返り（45分）分
12	可塑的素材を使用した模型の説明と制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	模型設置用台の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
16	総評（全作品の講評）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（45分）	総評の振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	美術科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：ESS243094)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員 経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。 ・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。							
授業の方法							
授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを行う。模擬授業では他の学生の授業について検討し、ディスカッションを行う。模擬授業実施後、再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
指導案の作成や模擬授業などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。 『中学校美術の教科書1〜3年』（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので各自が1冊は購入することが望ましい。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 (美術) 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	50%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。	
学習指導案の作成能力	授業内容を超えて文献や資料を自分で調査して、学習指導案を適切に作成することができた	学習指導要領に沿って、考察をより深めながら適切に学習指導案を作成することができた	自学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた	学習指導案を作成することができなかった	
模擬授業などの演習やディスカッションを通じた考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	美術科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：ESS243094)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：竹内 美帆)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員 経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月 —平成29年告示—	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽・美術・ 工芸・書道）編・音楽編・美術編 平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーシ ン、科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果に関する説明	シラバスを読んでおく（90分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（90分）
2	学習指導要領における「鑑賞」：その意義と目的、 内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。（90分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内 容を復習する（90分）
3	鑑賞教育の歴史と種類	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。（90分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内 容を復習する（90分）
4	「鑑賞」の教材研究（1）アートカードを使った鑑 賞教育	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について 調べておく。（90分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（90分）
5	「鑑賞」の教材研究（2）「分析批評」による名画 鑑賞の授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について 調べておく。（90分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（90分）
6	「鑑賞」の教材研究（3）対話型鑑賞による授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について 調べておく。（90分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（90分）
7	ICT機器の活用について	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読 んで、疑問点等を挙げておく。（90分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内 容を復習する（90分）
8	学習指導案の作成（1）年間指導計画・学習指導案 の構成と作成方法	事前配布プリント教科書の該当ページを丁寧に読ん で、疑問点等を挙げておく。（90分）	配布プリント教科書の該当ページを読み、授業内容 を復習する（90分）
9	学習指導案の作成（2）学習指導案の構成と作成方 法	学習指導案を作成する（90分）	学習指導案を作成する（90分）
10	学習指導案の作成（3）制作した指導案の確認 模 擬授業へ向けた準備	学習指導案を作成する（90分）	模擬授業の準備をする。（90分）
11	模擬授業（1）	模擬授業の準備をする。（90分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（90分）
12	模擬授業（2）	模擬授業の準備をする。（90分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（90分）
13	模擬授業（3）	模擬授業の準備をする。（90分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（90分）
14	模擬授業振り返り 指導案の修正	模擬授業を受けて、指導案を改めて作成する（90 分）	学習指導案を作成する（90分）
15	まとめ 指導案の提出 授業改善アンケートの実施	これまでの授業の疑問点をまとめておく（90分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内 容を復習する（90分）
16	模擬授業と指導案の講評 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業の疑問点をまとめておく（90分）	講評のフィードバックを受けて、授業の内容の理解 を深める（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謹一	建帛社	2010年	9784767921013	
2	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習(事前・事後指導)(3年) (科目ナンバリング: EDU143165, EDU243113,)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福		研究室等所在	未定	
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標 〔事前指導〕教育実習生として必要な資質を理解し、教師として基礎的な知識や技能の修得することができる。（事後指導）教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師として今後の展望を見いだす。							
授業の位置づけ 社会福祉学科のDP（4）（5）に対応する。 経営学科のDP（4）に対応する。 デザイン学科のDP（4）に対応する。 建築学科のDP（4）に対応する。							
到達目標 「教育実習」の目的・意義を理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を作成することができる。							
授業全体の内容と概要 「教育実習」の目的・意義を具体的に理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を模擬授業をとおして作成することができる。また、「教育実習」の自覚と責任を高め、社会人・教師としての知識・技能・態度習慣を意欲的に増うことができる。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法 授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、後期には実践的な模擬授業が始まるので、教材研究・プリント作成・板書計画など関連する項目において、意欲的な態度で臨むこと。なお、模擬授業終了後にはコメントにてフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。							

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目 教職課程（全教科）必修科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
・無断欠席は、大きく減点される。学生の立場ではなく、教員としての立場が求められる。 ・教育実習（事前・事後指導）の単位認定は、4年の後期に行われる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	20%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	・レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現することができた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究がしっかりとできていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究がやできていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現することができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育実習(事前・事後指導)(3年) (科目ナンバリング: EDU143165, EDU243113,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福			研究室等所在	未定	
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育実習完璧ガイド』	宮崎猛編	小学館	2015	9784091050151	
2	『教育実習の手引(第7版)』	北海道私立大学教職課程研究連 絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	前期オリエンテーション(シラバスの説明を含む) 教育実習の目的と意義 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(45分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(45分)
2	挨拶の実際1、教育実習の準備と心得	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
3	挨拶の実際2、実習校での禁止事項等	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
4	自己紹介の実際1、受け入れ学校の声	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
5	自己紹介の実際2、	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
6	自己紹介の実際3、	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
7	板書計画	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
8	学級指導の実際1	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
9	学級指導の実際2	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
10	学級指導の実際3	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
11	教育実習における授業の実際(VTRから学ぶ)	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
12	学習指導案の作成(基本)	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
13	教科別模擬授業(導入の実際)1	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
14	教科別模擬授業(導入の実際)2	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
15	教科別模擬授業(導入の実際)3	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
16	まとめ、課題(レポート・学習指導案など)の解説	まとめの準備をしておくこと。(45分)	まとめの整理をしておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	後期オリエンテーション(シラバスの説明を含む)、 模擬授業の日程について	事前にシラバスを読んでいること。(45分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(45分)
18	模擬授業の見学(4年)①	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
19	模擬授業の見学(4年)②	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
20	模擬授業の見学(4年)③	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
21	学習指導案の作成①	教材研究の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
22	学習指導案の作成②	教材研究の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
23	学習指導案の作成③	教材研究の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
24	プリント・板書計画の作成①	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
25	プリント・板書計画の作成②	事前にテキストの範囲を読んでもくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
26	模擬授業の見学(3年)①	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
27	模擬授業の見学(3年)②	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
28	模擬授業の見学(3年)③	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
29	模擬授業の見学(3年)④	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
30	模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
31	教育実習体験発表(4年)	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。 (45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
32	まとめ、課題(レポート・学習指導案など)の解説 授業改善アンケートの実施 全体を直評し、フィードバックする	まとめの準備をしておくこと。(45分)	まとめの整理をしておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習(事前・事後指導)(4年) (科目ナンバリング: EDU143165, EDU243113,)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福		研究室等所在	未定	
単位数	1	(単位認定責任者:	塩崎 大輔	CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
(事前指導)教育実習生として必要な資質を理解し、教師として基礎的な知識や技能の修得することができる。(事後指導)教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師として今後の展望を見いだす。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。 経営学科のDP(4)に対応する。 デザイン学科のDP(4)に対応する。 建築学科のDP(4)に対応する。						
到達目標						
教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師として今後の展望を見いだすことができる。						
授業全体の内容と概要						
「教育実習」の目的・意義を具体的に理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を模擬授業をとおして作成することができる。また、「教育実習」の自覚と責任を高め、社会人・教師としての知識・技能・態度習慣を意欲的に培うことができる。 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。前期は実習前なので実践的な模擬授業が中心である。後期は3年の模擬授業を見学し、教育実習の反省点や課題を見つけないと3年の教育指導も行う。なお、模擬授業終了後にはコメントにてフィードバックする。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
						PBL
						反転授業
						その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項						
出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・無断欠席は、大きく減点される。学生の立場ではなく、教員としての立場が求められる。 ・教育実習（事前・事後指導）の単位認定は、4年の後期に行われる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	20%	30%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	・レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究がしっかりとできていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年			
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育実習(事前・事後指導) (4年) (科目ナンバリング: EDU143165, EDU243113,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		各教員研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育実習完璧ガイド』	宮崎猛編	小学館	2015	9784091050151	
2	『教育実習の手引(第7版)』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	前期オリエンテーション(シラバスの説明を含む) 模擬授業の日程など 前年度の授業アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(45分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(45分)
2	模擬授業の見学(4年)①	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
3	模擬授業の見学(4年)②	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
4	模擬授業の見学(4年)③	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
5	模擬授業の見学(4年)④	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
6	模擬授業の見学(4年)⑤	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
7	模擬授業の実施①	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
8	模擬授業の見学(4年)⑥	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
9	模擬授業の見学(4年)⑦	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
10	模擬授業の実施②	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
11	模擬授業の見学(4年)⑧	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
12	模擬授業の見学(4年)⑨	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
13	模擬授業の見学(4年)⑩	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
14	模擬授業の見学(4年)⑪	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
15	模擬授業の見学(4年)⑫	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
16	まとめ、課題(レポート・学習指導案など)の解説	まとめの準備をしておくこと。(45分)	まとめの整理をしておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	後期オリエンテーション(シラバスの説明を含む)、 模擬授業の日程について	事前にシラバスを読んでいること。(45分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(45分)
18	模擬授業の見学(4年)①	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
19	模擬授業の見学(4年)②	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
20	模擬授業の見学(4年)③	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
21	模擬授業の実施③	模擬授業の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
22	模擬授業の見学(3年)①	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
23	模擬授業の見学(3年)②	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
24	模擬授業の見学(3年)③	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
25	模擬授業の見学(3年)④	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
26	模擬授業の見学(3年)⑤	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
27	模擬授業の見学(3年)⑥	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
28	模擬授業の見学(3年)⑦	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
29	模擬授業の見学(3年)⑧	模擬授業見学の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
30	教育実習体験発表(4年)①	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
31	教育実習体験発表(4年)②	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)
32	教育実習後の反省と課題について 全体を講評し、フィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	教育実習後の反省と課題の準備をしておくこと。(45分)	今回の授業内容をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング：SOM112013)				
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：宮崎 剛司)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種の協働について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。

授業全体の内容と概要

保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。

双方向授業システム（クリッカー等）を利用、T e a m s を利用した学習支援する。

「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目 社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。 20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング：S0M112013)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2025	978-4-8243-0156-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健医療サービスについて	事前に教科書全体に目をとっておく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
3	医療保険制度 (保険給付)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく (90分)	配布資料を見直しておく (90分)
4	医療保険制度 (医療費政策)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく (90分)	配布資料を見直しておく (90分)
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
6	保健医療サービスの概要 (医療法)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
7	保健医療サービスの概要 (医療・福祉施設と医療計画)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく (90分)	前半の授業内容を復習しておく (90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む (90分)	問題を見直し自己採点しておく (90分)
9	テスト返却。保健医療サービスの概要 (衛生行政活動)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく (90分)	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく (90分)
10	保健医療サービスの概要 (健康増進・保健対策)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく (90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく (90分)
11	専門職の役割 (医療ソーシャルワーカー)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく (90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する (90分)
12	専門職の役割 (各専門職とチーム医療)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく (90分)	配布資料を見直しておく (90分)
13	専門職の役割 (患者の権利・インフォームドコンセント)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく (90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する (90分)
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく (90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する (90分)
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施 授業最終回において講評をし、フィードバックする	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく (90分)	提案した福祉課題に今後も取り組んでいく (90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	定期試験準備を行っておく (90分)	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年生（2年間通年、2年目にあたる4年生対象）			
開講時期	通年	授業形態	講義、演習、実習	必修・選択	選択	
科目名称	グローバル英語プログラム（2年目・4年） （科目ナンバリング：ENL093066）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営・特任教授）、信濃 吉彦（経営・教授）		研究室等所在	1号館3階、2号館6階		
単位数	4（単位認定責任者：信濃 吉彦）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。					

概要

履修目標

国際言語である英語の運用能力を高めTOEIC700点突破を目指す。加えて、すべての技能分野および米国の大学システムや文化等に対する理解を深める。

授業の位置づけ

大学のDP3番と5番に対応する科目

到達目標

英語に関する技能・知識に関してTOEIC700点レベルを目指す。

授業全体の内容と概要

本講座は2名の講師によるオムニバス方式で行う。3年次と4年次を通しての2年間通年科目なので頑張って継続して欲しい。TOEIC700点突破を目指すのでそのつもりで受講していただきたい。語彙の習得、文法事項の整理・学習からTOEIC対策問題への取り組み、英語圏の大学制度や文化まで幅広く学習する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

本講座は通常 対面で行うものとする。特別な事情によりリモートで行う場合もある。各回の授業内容は担当教員の指示に従うこと。また、本講座はVoiceTraの使用を認める場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は、単位認定に関して特別に期間を設けて履修登録を行うので注意すること。ノートを必ず持参し、出来れば辞書も用意すること（高校の時に利用していたモノで十分です）

修学サポート（合理的配慮）	
必ず担当教員に直接もしくはゼミ担任を通して事前相談をすること。本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートを実施します。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数は最低64回です。欠席可能回数は2Q（半期）につき3回までです。自然災害等で出席ができない場合など必ずチームズで連絡すること。平常点には2年目に受験するTOEICの結果を含む。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	15%	0%	70%	15%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の学生と協力して期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個々人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に關しても期待するレベルに達し及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	プログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを図ったが最低限を認めるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに關しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	TOEICにおいて700点を超える成績を残した。	TOEICにおいて概ね700点前後の成績を残した。	TOEICにおいて550点以上の成績を収めることができた。	TOEICにおいて420点以上の成績を残すことができた。	TOEICにおいて400点を超えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年生（2年間通年、2年目にあたる4年生対象）			
開講時期	通年	授業形態	講義,演習,実習		必修・選択	選択
科目名称	グローバル英語プログラム（2年目・4年） （科目ナンバリング：ENL093066）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営・特任教授）、信濃 吉彦（経営・教授）		研究室等所在	1号館3階、2号館6階		
単位数	4	（単位認定責任者：信濃 吉彦）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
各教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 9』	ETS	一般財団法人国際ビジネスコミュニ	2023	978-4-906033-68-3	
2	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集10』	ETS	一般財団法人国際ビジネスコミュニ	2023	978-4-906033-71-3	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 9 サンプル問題 Part 1, Part 2, Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
2	サンプル問題 Part 4, Part 5	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
3	サンプル問題 Part 6, Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
4	Test 1, Part 1, Part 2	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
5	Test 1 Part 2	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
6	Test 1 Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
7	Test 1 Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
8	Test 1 Part 4	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
9	Test 1 Part 4	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
10	Test 1 Part 5	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
11	Test 1 Part 6	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
12	Test 1 Part 6	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
13	Test 1 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
14	Test 1 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
15	Test 1 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
16	Test 1 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『公式TOEIC Listening & Reading問題集9』	ETS	一般財団法人 国際ビジネスコミュニ	2023	978-4-906033-68-3	
2	『公式TOEIC Listening & Reading問題集10』	ETS	一般財団法人 国際ビジネスコミュニ	2023	978-4-906033-71-3	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 10 サンプル問題 Part 1 Part 2 Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
18	サンプル問題 Part 4 Part 5	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
19	サンプル問題 Part 6 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
20	Test 2 Part 1 Part 2	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
21	Test 2 Part 2	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
22	Test 2 Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
23	Test 2 Part 3	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
24	Test 2 Part 4	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
25	Test 2 Part 4	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
26	Test 2 Part 5	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
27	Test 2 Part 6	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
28	Test 2 Part 6	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
29	Test 2 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
30	Test 2 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
31	Test 2 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	振り返りを行い、語彙や文法事項の確認を必ず行う。
32	Test 2 Part 7	日々語彙を増やす努力を怠らない。	今年度を振り返り新たなTOEICの目標を定め耳珠努力を決意する。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	全学科3年生		
開講時期	後期集中	授業形態	講義, 演習	必修・選択	選択
科目名称	ゲロバール英語プログラム (サブメジャー) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	岡島 徳昭 (経営・特任教授)、信濃 吉彦 (経営・教授)		研究室等所在	1号館3階、2号館6階	
単位数	4 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	履修希望学生と協議の上決定する。基本的には研究室前のボード等を参照のこと。				

概要

履修目標						
国際言語である英語の運用能力を高めTOEIC700点突破を目指す。加えて、すべての技能分野および米国の大学システムや文化等に対する理解を深める。						
授業の位置づけ						
大学のDP3番と5番に対応する科目						
到達目標						
英語に関する技能・知識に関してTOEIC700点レベルを目指す。						
授業全体の内容と概要						
本講座は2名の講師によるオムニバス方式で行う。3年次と4年次を通しての2年間通年科目なので頑張って継続して欲しい。TOEIC700点突破を目指すのでそのつもりで受講していただきたい。語彙の習得、文法事項の整理・学習からTOEIC対策問題への取り組み、英語圏の大学制度や文化まで幅広く学習する。						
授業の方法						
本講座は通常、対面で行うものとする。特別な事情によりリモートで行う場合もある。各回の授業内容は担当教員の指示に従うこと。また、本講座はVoiceTraの使用を認める場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
本講座は、単位認定に関して特別に期間を設けて履修登録を行うので注意すること。ノートを必ず持参し、出来れば辞書も用意すること（高校の時に利用していたモノで十分です）						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
全授業回数は最低64回です。欠席可能回数は20（半年）につき3回までです。自然災害等で出席ができない場合など必ずチームズで連絡すること。特殊事情によりリモートで行う場合がある。補講対応も実施する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	15%	0%	70%	15%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体性・協働性	プログラムに積極的に取り組み、自分のみならず他の学生と協力して期待されるレベルを超える成果を残した。	プログラムに取り組み、他の学生と共に期待されるレベルを十分に達成した。	プログラムに取り組み、個人レベルで期待される十分な成果を残した。	プログラムに取り組み、及第点と思われる成果を残した。	プログラムを消化しきれなかった。積極性や協働性に関しても期待するレベルに達し及ばなかった。
思考力・判断力・表現力等	プログラムに積極的に取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいて求められるレベルを大きく超えることができた。	プログラムに取り組み、周囲とのコミュニケーションにおいても期待されるレベルを達成することができた。	プログラムに取り組み、概ね期待されるレベルに到達した。	プログラムに取り組み、苦しみながらもコミュニケーションを回ったが最低限で認めるレベルにとどまった。	プログラムに対する取り組みが不十分であった。コミュニケーションに関しても最低限のレベルをクリアできなかった。
知識・技能	TOEICにおいて700点を超える成績を残した。	TOEICにおいて概ね700点前後の成績を残した。	TOEICにおいて550点以上の成績を収めることができた。	TOEICにおいて420点以上の成績を残すことができた。	TOEICにおいて400点を超えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年生			
開講時期	後期集中	授業形態	講義,演習		必修・選択	選択
科目名称	グローバル英語プログラム（サマージャ） （科目ナンバリング： ）					
授業担当者 （所属・職名）	岡島 徳昭（経営・特任教授）、信濃 吉彦（経営・教授）		研究室等所在	1号館3階、2号館6階		
単位数	4	（単位認定責任者： 信濃 吉彦 ）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	履修希望学生と協議の上決定する。基本的には研究室前のボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：本コースの目的、システム、 学習内容等を確認する	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
2	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
3	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
4	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
5	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
6	VoiceTraの使い方	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
7	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
8	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
9	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
10	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
11	英語学習サイトの使い方	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
12	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
13	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
14	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
15	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
16	前期総括	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
18	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
19	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
20	アメリカの大学システムと大学生の日常生活	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
21	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
22	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
23	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
24	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
25	TOEICとIELTS 留学に際して英検が駄目な理由	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
26	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
27	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
28	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
29	よくわかる英語の基本	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
30	英語に関する 質疑応答	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
31	英語に関する 質疑応答	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	必ず振り返りを行い、語彙や文法を確認する。
32	科目総括	普段から語彙力を伸ばすよう心掛ける。	お疲れ様でした。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年 社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	経営学科・選
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122020, SWS422079,)					
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在		1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。					

概要

履修目標							
相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目。 社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する科目。							
到達目標							
①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。 ②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。							
授業全体の内容と概要							
①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。 ②相談援助の展開過程について学ぶ。 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業							
授業の方法							
①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。 ②基本は対面授業だが、不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
30分以上の遅刻は欠席とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スポーツソーシャルワーカー資格課程科目 ，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。 提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解ができる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの抱う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解ができる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの抱う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年 社会福祉学科・1年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	経営学科・選
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122020, SWS422079,)				
授業担当者 (所属・職名)	櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目を修了して身に付く力についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	中間まとめ	1回から6回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	1回から14回の授業内容について質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験の後、解説を行う)。 科目を修了して身に付く力についての検証を行う。 授業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。(90分)	試験で間違えた部分の復習をする。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	音楽表現Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122084)					
授業担当者 (所属・職名)	小黑 万里子 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者： 小黑 万里子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし、実践を交えた指導を行う。			
オフィスアワー	非常勤教員 入力例：事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標							
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2025年度）							
到達目標							
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術である音楽表現ができる。 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境づくりを実践することができる。							
授業全体の内容と概要							
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
教科書や板書を用いて説明を行い、実技を通して保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。質問や相談に対して随時応答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
準備学習において、しっかりしたイメージをもって授業に臨むよう準備すること。限られた授業時間なので、事後学習として各個人でトレーニングを行うこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	３０％	１０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しかった。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122084)					
授業担当者 (所属・職名)	小黒 万里子 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者：小黒 万里子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	全日本合唱コンクール全国大会のピアノ伴奏者等としての経験を活かし、実践を交えた指導を行う。			
オフィスアワー	非常勤教員 入力例：事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『改訂 ユニバーサルデザインの音楽表現』	星山麻木	萌文書林	2 0 1 8 年	978-4893472854	
2	『保育者のためのピアノ基礎』	井口太／筒井かほる	朝日出版社		9784255156286	
3	『五線紙（ノート）』					様式は問わない
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 「保育の内容」表現」の中の音楽表現について	シラバスを確認すること（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
2	音・動き・リズム・ことばの音楽表現①（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
3	音・動き・リズム・ことばの音楽表現②（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
4	音・動き・リズム・ことばの音楽表現③（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
5	音・動き・リズム・ことばの音楽表現④（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
6	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑤（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
7	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑥（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
8	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑦（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
9	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑧（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
10	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑨（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
11	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑩（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
12	てあそび歌、わらべ歌①	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
13	てあそび歌、わらべ歌②	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
14	てあそび歌、わらべ歌③	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
15	音楽表現のまとめ	教科書を読み学習しておくこと（45分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（45分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	教科書を読み学習しておくこと（45分）	解説を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222069)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーション ボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標 彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作する。																															
授業の位置づけ デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。																															
到達目標 彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。																															
授業全体の内容と概要 彫刻Ⅱでは、木彫の基本的な技法、用具の使いかた、材料についての知識を実践的に学ぶ。 課題はAまたはBのどちらか1つを選択して行う。Aは写実表現。Bは簡易な写実表現＋抽象表現。																															
授業の方法 スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、プレゼンテーションを行う。																															
アクティブラーニングの実施方法 <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>								○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																								
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																								
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																								
履修上の注意事項 立休構成1及び2、彫刻1を履修したものが望ましい。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																															

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。 評価は作品点(70%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。 講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解 (知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222069)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。また、プレゼンテーション ボード作成を通じて、作品をどう見せるかも指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の 説明 科目を終了して『身に付く力』についての説	シラバスをよく読んでおくこと (45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理科してお く事 (4 5分)
2	彫刻を考える	身近な彫刻作品について考えてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
3	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
4	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
5	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
6	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
7	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
8	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
9	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
10	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
11	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
12	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
13	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
14	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
15	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
16	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
18	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
19	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
20	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
21	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
22	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
23	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
24	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
25	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
26	木彫 Aりんご 彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
27	木彫 Aりんご 仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
28	木彫 Aりんご 仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備 (4 5分)	プレゼンテーション準備 (4 5分)
31	講評 授業全体への講評とプレゼンテーションへのフィ ードバック	講義全体を通して質問したい事項をまとめておく こと (4 5分)	講評を再考し、理解を深めること (4 5分)
32	講評 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につく力の検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておく こと (4 5分)	講評を再考し、理解を深めること (4 5分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築法規Ⅱ (科目ナンバリング：APT312019)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化とともに、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他、関係法令からまちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる法令法規について学習し、住宅やまち・都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し、都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストも行い、解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。	
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。	
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	建築法規Ⅱ (科目ナンバリング：APT312019)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築基準法と都市計画法	建築法規Ⅰの振り返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	用途地域・実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	容積率1-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	容積率2-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	容積率3-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	斜線制限 (道路斜線制限・隣地斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	斜線制限 (北側斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	斜線制限 (その他の高さ制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	日影図 (含 CADによるシミュレーション)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法と倫理2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説をし、回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング：DES322053)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本 知識を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに
焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、
現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びな
から論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
前目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング：DES322053)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：		北嶋 洋一		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインのための基本 知識を指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性	シラバスを読んでおくこと (90分)	受講環境の整備 (90分)
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」	シラバスの確認 (90分)	小レポートの作成・提出 (90分)
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
6	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
10	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
11	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
12	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
13	現代に直結するデザイン史⑩ 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
14	現代に直結するデザイン史⑪ 「ヒットするデザインを生み出すには？」 「デザインと社会・デザインと産業界・デザインと」	シラバスの確認 (90分)	情報と資料の整理 (90分)
15	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	シラバスの確認 (90分)	自己採点 (90分)
16	デザイン概論！のまとめ 授業改善アンケートの実施 科目を終了して『身に付く力』についての検証	情報と資料の整理 (90分)	授業内容のまとめ (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング：MOF422022, MOF523024)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在		1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：岩立 顕一郎）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、コーポレートファイナンスに関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

概要

履修目標							
経営環境が大きく変化化する中、資金調達を行い、その資金を効率的に投資・運用することは、企業にとって重要な経営課題である。 本講義では、企業価値に関わる財務的意思決定の論点を取り上げ、経営者として必要な意思決定能力を身につけることを目標とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 1、DP3、DP 4に対応する。							
到達目標							
・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。 ・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。 ・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。							
授業全体の内容と概要							
本講義では、コーポレートファイナンスに関するテーマを取り上げる。 授業では、テキストと配布資料の解説を行った後、練習問題を解く実習の時間を設ける。 また、必要に応じて、日経新聞の記事を題材とした時事問題についても解説を行う。 本授業科目は、「SDG12 つくる責任 つかう責任」と「SDGs 1 3 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、SDGs と関わりのあるサステナブルファイナンスやサステナビリティ報告についても取り上げる。							
授業の方法							
本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。 日経新聞の記事や資金調達と運用にまつわる中小企業の実務も紹介し、実社会との関わりを意識して講義を進める。 授業では、小テストを毎回実施する。その解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。 計算が必要となる場面が多く予定されているので、電卓の持参を推奨する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。 「評価方法」にある平常点（30％）は、小テストで評価する。					

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について詳細に説明できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について十分に理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を理解するとともに、それに関する理論についてもある程度理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を最低限理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語を理解できなかった。
資本コストの考え方について理解し、計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC（資本コスト）を正確かつ素早く計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC（資本コスト）を正確に計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、時間をかけつつも、計算できる。	資本コストの意味について最低限理解している。	資本コストの意味について理解できなかった。
資金調達の重要性について理解できる。	資金調達に関する理論と実務について総合的に説明できる。	サステナブルファイナンスなどの新しい論点を含め、自分なりの問題意識を持って、資金調達に関して考察している。	資金調達の重要性を理解した上で、サステナブルファイナンスなどの新しい論点について関心を抱き始めた。	資金調達の重要性について最低限理解している。	資金調達の重要性について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング：MOF422022, MOF523024)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者： 岩立 顕一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、コーポレートファイナンスに関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『【新解釈】コーポレートファイナンス理論』	宮川壽夫	ダイヤモンド社	2022年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (講義の進め方、シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、コーポレートファイナンスを学ぶ意義)	シラバスとテキストの序文を読んでおく (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
2	企業の目的とコーポレートガバナンス	事前配布資料を予習する (90分)	配布資料の内容を復習する (90分)
3	投資のリスクとリターン	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
4	資本コスト	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
5	CAPM	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
6	正味現在価値	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
7	WACC	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
8	効率的市場仮説	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
9	キャッシュフロー	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
10	M&A	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
11	財務分析	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
12	資金調達と資本構成	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
13	ペイアウト政策	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
14	株主主義とステークホルダー主義	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
15	資金調達の新たな潮流～サステナブルファイナンス～ 授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
16	定期試験とフィードバック (60分の試験終了後、残りの30分で解説) 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を復習する (90分)	定期試験の解説内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『あわせて学ぶ会計&ファイナンス入門講座：プロになるための理論と実践』	田中慎一／保田隆明	ダイヤモンド社	2013年	9784478022108	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修	
科目名称	工芸科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：ESS243095)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（美術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。							
授業の位置づけ							
学位授与に関連しないため、DPとの関連付けは無い。							
到達目標							
工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。							
授業全体の内容と概要							
工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
学習内容はパワーポイントやプリント資料を使用して説明する。板書やICTツールを駆使して授業を進行する。 主体的で対話的な学びを目指し、グループワーク、ディスカッションを行う。 また、教材研究として実技を行い、理論と実践の結び付きへと導く。 課題に対してはコメントや添削を通じてフィードバックを行い、理解の深化を図る。 対話を重視し、学生からの要望や質問に対しては、オフィスアワーやTeamsを通じたコミュニケーションでも対応する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。 欠席した場合には、提供された資料を確認し、その内容を理解した上でレポートを作成し、次回授業までに提出すること。 課題は期日までに提出すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	4 0 %	4 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。	
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	意見を述べることができない。	
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。	

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修	
科目名称	工芸科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：ESS243095)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(美術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・授業で「身に付く力」について 工芸とは何か 学校教育の中での「用と美」	シラバスをよく読んでおくこと (90分)	授業内容を復習する (90分)
2	工芸教育の歴史と背景	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
3	中学校学習指導要領解説美術編 「美術科の目標と 内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
4	中学校学習指導要領解説美術編 「各学年の目標及 び内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
5	中学校学習指導要領解説美術編 「指導計画の作成 と内容の取り扱い」及び映像メディアの活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
6	高等学校学習指導要領解説芸術編「工芸」の性格、 目標、内容、内容の取り扱いについて	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
7	学習指導計画	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
8	教材研究①	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
9	教材研究②	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
10	教材研究③	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
11	教材研究④	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
12	学習指導案の作成 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
13	学習指導案の作成 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
15	指導案作成の振り返り	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語 等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
16	課題・レポートの解説・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと (90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりか えりを行うこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・ 工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出 版局	2017	9784864630580	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	全学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習Ⅰ (科目ナンバリング: EDU144166, EDU244114,)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福		研究室等所在	未定	
単位数	4	(単位認定責任者:	塩崎 大輔	CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標					
(1) 生徒の発達や学校生活の実態と理解 (2) 学校環境（教職員組織、学級編成、施設設備等）の把握と理解 (3) 教育課程の理解及び研究 (4) 学習指導方法の理解及び研究 (5) 特別活動・生徒指導・教育相談の実践及び研究 (6) 学校・学級事務、PTA活動、地域社会活動の実践及び研究 (7) 教師としての勤務や研究活動の理解及び実践 以上の項目を身に付けることができる。					
授業の位置づけ					
社会福祉学科のDP（4）、DP（5）に対応する。 経営学科のDP（4）に対応する。 デザイン学科のDP（4）に対応する。 建築学科のDP（4）に対応する。					
到達目標					
中学校等での教育実習を経験することにより、教師として必要な最低限度の基礎的知識や技術を修得することができる。					
授業全体の内容と概要					
教育実習の現場で、指導教師のもとで学習指導・生徒指導・学級経営・特別活動の指導・教材研究などに接し、教師として必要な基礎的知識や技術を修得することになる。また、課題となる実習項目も発見することができる。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。					
授業の方法					
中学校等での実践的な教育実習を経験することにより、教師として必要な教育課程の理解及び研究・学習指導方法の理解及び研究・特別活動・生徒始動など基礎的知識や技術を修得する。教育実習後に提出する教育実習日誌とレポートについては、評価とコメントによりフィードバックを行う。					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業
					PBL
					反転授業
					その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項					
出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。					

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

中学校等で3週間以上（全授業時間120時間以上）の教育実習を行わなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	25%	25%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	教育実習において、指導教師の指導のもと、しっかりと実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教師の指導のもと、実習日誌が完成されていた。	教育実習において、指導教師の指導のもと、実習日誌がほぼ完成されていた。	教育実習において、指導教師の指導のもと、実習日誌が完成されていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容がたいへん良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容が良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われて、内容がやや良い授業であった。	研究授業において、教材研究が詳細に行われず、内容が良い授業ではなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育実習Ⅰ (科目ナンバリング：EDU144166, EDU244114,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	未定		
単位数	4 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバスの説明を含む) 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	実習校での教育実習 (1) 授業参観 (観察) ①	授業参観の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業参観をまとめておくこと。(90分)
3	実習校での教育実習 (2) 授業参観 (観察) ②	授業参観の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業参観をまとめておくこと。(90分)
4	実習校での教育実習 (3) 授業参観 (観察) ③	授業参観の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業参観をまとめておくこと。(90分)
5	実習校での教育実習 (4) 学級経営の参加① (ショート・ロングホームルーム)	教育指導の準備をしておくこと。(90分)	今回の教育指導をまとめておくこと。(90分)
6	実習校での教育実習 (5) 学級経営の参加② (生徒指導)	教育指導の準備をしておくこと。(90分)	今回の教育指導をまとめておくこと。(90分)
7	実習校での教育実習 (6) 放課後の指導① (特別活動)	教育指導の準備をしておくこと。(90分)	今回の教育指導をまとめておくこと。(90分)
8	実習校での教育実習 (7) 放課後の指導② (特別活動)	教育指導の準備をしておくこと。(90分)	今回の教育指導をまとめておくこと。(90分)
9	実習校での教育実習 (8) 授業実習①	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
10	実習校での教育実習 (9) 授業実習②	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
11	実習校での教育実習 (10) 授業実習③	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
12	実習校での教育実習 (11) 授業実習④	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
13	実習校での教育実習 (12) 授業実習⑤	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
14	実習校での教育実習 (13) 授業実習⑥	教材研究の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
15	実習校での教育実習 (14) 研究授業	研究授業の準備をしておくこと。(90分)	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。(90分)
16	実習校での教育実習 (15) 研究授業の振り返り フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。(90分)	指導教官等の意見を集約しておくこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編 (最新版)』					
2	『教育実習の手引 (第7版)』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年・4年（留学生対象）			
開講時期	通年	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	上級日本語プログラム (科目ナンバリング：JLN093067)					
授業担当者 (所属・職名)	竜野 征一郎（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	4	(単位認定責任者：竜野 征一郎)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標

教養力と語学力を幅広く身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを修得する。それぞれの場面に合った日本語の表現方法を学び、円滑な会話やコミュニケーションに必要な能力を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

様々な文章を読み、ディスカッションや発表などの活動を通して、総合的な日本語運用能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

様々な文章を読み、内容および日本語の表現について理解を深めるとともに、ディスカッションや発表などの活動を行うために必要な表現・構成についても学習を行う。日本語能力試験N1レベル相当以上の内容を取り扱う。

授業の方法

授業では主にプリントなどを用いながら、ディスカッションや発表などを学習活動に取り入れて講義を行う。指定された課題を作成してもらうほか、レポート作成など、自主的に行い、提出したものがあれば評価の対象とする。また、受講者数に応じてグループワークおよびグループ発表を行う場合がある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講対象者は留学生とする。受講者の発表や意見交換に向けて、資料の用意や課題作文など積極的に取り組むこと。また、事前に配布される資料には必ず目を通しておくこと。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、各 1 1 回以上。出席状況、課題提出、発表能力、試験、授業への参加態度など総合的に判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	3 0 %	5 0 %	0 %	1 5 %	5 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章理解	テキストに関する一般的な背景知識および具体的な関連情報を使用しながら、筆者の主張についてより複雑な推論を行うことができた。	筆者の主張について、一般的な背景知識も考慮しながら基礎的な推論を行うことができた。	テキストの内容を理解し、その構造や特徴、筆者の主張についても理解できた。	テキストの内容を理解し、別の言葉で説明したり、要約することができた。	テキストの内容について、理解できなかった。
日本語表現	クラス内で用いられた日本語表現について、意味や使用場面について理解し、発表や課題作文内で実際に用いることができた。	クラス内で用いられた日本語表現について理解し、適切に使用することができた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解し、各日本語表現の使用場面が理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、理解できなかった。
発表	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。適切な引用により、内容に具体性があり、説得力があった。	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。また、主張内容が資料と一貫性のあるものだった。	適切な資料を用いながら、主張内容が明確な発表を行うことができた。	主張内容について、関連性のある資料を用いながら、理解可能な発表を行うことができた。	話し方や発表資料が適切でなく、主張が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年・4年（留学生対象）		
開講時期	通年	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	上級日本語プログラム (科目ナンバリング: JLN093067)				
授業担当者 (所属・職名)	竜野 征一郎（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	4	(単位認定責任者: 竜野 征一郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学生の能力と興味に応じて教材を指定・作成する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）および今期の授業目的と進め方について解説～プレースメントテスト）	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと授業では主にプリントなどを用いながら、ディスカッションや発表などを学習活動に取り入れて講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
2	上級表現練習（1）トピック① 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
3	上級表現練習（2）トピック① 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
4	上級表現練習（3）トピック① 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
5	上級表現練習（4）トピック① 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
6	上級表現練習（5）トピック② 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
7	上級表現練習（6）トピック② 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
8	上級表現練習（7）トピック② 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
9	上級表現練習（8）トピック② 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
10	上級表現練習（9）トピック③ 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
11	上級表現練習（10）トピック③ 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
12	上級表現練習（11）トピック③ 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
13	上級表現練習（12）トピック③ 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
14	上級表現練習（13）発表と質疑応答	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
15	上級表現練習（14）まとめ	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
16	解説およびフィードバック 授業に係る講評・解説によるフィードバック科目を修了して「身に付く力」の検証	講義全体の内容についてふりかえりを行うこと（90分）	解説およびフィードバックを受け、講義に関してより理解を深めること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『参考図書・文献類は授業中にプリント等を用い随時紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ (科目ナンバリング: SWS123021)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標 実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術を理解する。																															
授業の位置づけ 社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する科目。																															
到達目標 実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術の基本について理解する。																															
授業全体の内容と概要 ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および、連携や協働をする人や機関との間で構築する関係について学ぶ。 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業																															
授業の方法 教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から60点分定期試験に出題する。																															
アクティブラーニングの実施方法 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>									プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																								
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																								
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																								
履修上の注意事項 15分以上の遅刻は欠席とする。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。																															

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目 社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	０％	０％	３０％	２０％	０％

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
総合的、包括的なソーシャルワークの意義について理解できる	事例を用いながら説明できた。	基本的な考えかたを説明できた。	基本的な考えかたを理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワーカーとクライアントの援助関係について理解できる。	援助対象の特性に留意した知識と技術を説明できた。	原則的な考え方と技術について説明できた。	原則的な考え方と技術について理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワークにおけるネットワークについて理解できる。	ミクロ、メソ、マクロ各々の特性に留意しながら事例を用いて説明できた。	基本的な意義、方法を説明できた。	基本的な意義、方法を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ (科目ナンバリング：SWS123021)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-80588249-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 今日のソーシャルワークの対象 当該科目を修了して『身に付く力』についても説明	新聞やインターネットでソーシャルワークの対象と 考えられる記事をスクラップする。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
2	複雑化、多様化した生活問題への対応	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
3	家族支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
4	地域支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
5	非常時、災害時のソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
6	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。（90分）	授業（90分）
8	中間試験解説 ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
9	援助関係形成方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
10	ネットワーキングの意義	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
11	ネットワーキングの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
12	コーディネーションの意義	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
13	コーディネーションの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
14	まとめ 授業内フィードバック	1回から14回の復習し、理解が不十分な点をあげる。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
15	定期試験	1回から14回の復習をする。（90分）	試験の自己採点をする。（90分）
16	定期試験解説 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全体を振り返り、質問事項を整理する。（90分）	試験の不正解部分を復習する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング：SNE122103)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：堀川厚志）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義、現状、今後の在り方について総合的に理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義を理解し、推進状況の概要について説明することができる。 特別支援教育の推進状況及び今後の在り方について、検討協議を通して自らの考えを整理することができる。							
授業全体の内容と概要							
主な内容については、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換及びその背景、特別支援教育の理念や意義、障害のある児童生徒の教育の概要と歴史の変遷や教育制度、教育課程、個別の教育支援計画と個別の指導計画、学習指導要領の概要、小・中学校等を含めた特別支援教育コーディネーターの役割等について、現状の特別支援教育を踏まえて説明する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連授業。							
授業の方法							
授業は、プレゼンテーションツールによるスライド資料の提示と資料提示による講義形式を主とする。 一授業の前半には、前時に提示した資料内容の振り返りと確認を実施する。 資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。 内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。 一授業の終了前には、Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、内容確認や重要ポイントの小テストを実施し、理解定着を図る。 学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内容に関して提示資料の説明や、レポート課題の出題、毎時間の重要部分に関する小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、就学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。 中間の時期に提示するレポート課題及び作成要領に則った提出は、単位取得に必須条件とする。					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
特別支援教育の基本的な内容や現状等に関する総合的な理解	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、一定程度、理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、部分的に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、理解できなかった。	
特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等に関する思考力、判断力、表現力の向上	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。	
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング：SNE122103)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：堀川厚志)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ※シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、「身に付く力」(特別支援教育の理念・推進状	シラバスを読む (90分)	内容を振り返る (90分)
2	特別支援教育への転換とその背景の理解 ※本時の内容について小テストを実施する	特別支援教育への転換を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
3	特別支援教育の制度・推進の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援教育の制度を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
4	障害のある子供への教育の歴史的理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	障害児教育の歴史を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
5	特別支援教育の対象と就学（教育支援）についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果について	対象児童生徒と就学を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
6	個別的教育支援計画についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	個別的教育支援計画を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
7	学習指導要領と教育課程の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	学習指導要領と教育課程を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
8	個別の指導計画の作成と活用についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	個別の指導計画を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
9	各障害の状態等と特別支援学校の教育についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果について	障害の状態と特別支援学校を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
10	教育課程の編成と指導の実践についての理解 ※添削したレポートを返却しフィードバックする ※前時の小テストを添削して返却し、結果について	教育課程の編成を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
11	自立活動の指導の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	自立活動の指導を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
12	特別支援教育コーディネーターの理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	特別支援教育コーディネーターを調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
13	小・中学校等の特別支援教育についての理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	小・中学校の指導を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
14	実態把握とアセスメントの重要性の理解 ※前時の小テストを添削して返却し、結果についてコメントしてフィードバックする	指導とアセスメントを調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
15	心理検査の活用についての理解 ※授業改善アンケートを実施する ※前時の小テストを添削して返却し、結果について	心理検査を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
16	定期試験 ※50分間の筆記テスト、終了後15分間の解答の解説を実施する	全内容を整理する (90分)	全内容を振り返る (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222018)					
授業担当者 (所属・職名)	田中 靖之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：田中 靖之)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

1.グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。

2.アートディレクションの位置づけを理解する。

3.グラフィックデザイン実務の概念を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。

授業全体の内容と概要

デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関するコミュニケーションを意識した基本レイアウト（サムネール主体）とプレゼンテーションシステムを理解する。「SDG12、つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容かを吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。

不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 完成度の高い作品を合格とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナリティを発揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その1つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上とコピーライトを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルかつトレンドを吟味したデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を2つ以上（異種）提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を1つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	ビジュアルデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222018)					
授業担当者 (所属・職名)	田中 靖之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：田中 靖之)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスについての説明 アートデザインについて	「ビジュアルデザイン」語句の認識 (45分)	「アート・デザイン」の位置づけ確認(45分)
2	”ことばと物” コミュニケーションのためのゲーム 演習	「ことばと物」語句の認識 (45分)	「ことば」の自己復習 (45分)
3	ビジュアルデザインの歴史 (DTPまで)	「DTP」語句の認識 (45分)	「DTP」の歴史的理解(45分)
4	J I S用紙、テキストポイントについて	A4・A3用紙サイズの認識(45分)	「用紙サイズの使用実例について」 (45分)
5	レタリングとフォントの現状について	「フォントバリエーション」の認識 (45分)	「明朝体・ゴシック体」及び「セリフ・サンセリフ」の理解(45分)
6	レタリング演習と基本形態	基本となる書体の認識(45分)	レタリング演習 下書き (45分)
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」 (45分)	レイアウトパターンのサムネール作成(45分)
8	フォーマット用紙のレンダリング演習	演習用具の確認と役割チェック(45分)	レンダリング演習 仕上げ (45分)
9	素材 (イラスト、写真) とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」 (45分)	「レイアウトサムネール」の修正及び変更(45分)
10	基本レイアウト演習 (サムネール)	素材(イラスト・収集)とテキストのボリューム確認 (45分)	「レイアウトのサムネール演習」 (45分)
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識 (45分)	「広告・編集デザイン」の実例を収集(45分)
12	メディアに対応した企画デザイン	「マスメディア・ソーシャルメディア」の位置づけ と認識(45分)	アイデアフラッシュ (メディアに対応) (45分)
13	R G B & C M Y K及び印刷技術	「RGB & CMYK」語句の認識 (45分)	「CMYK・オフセット印刷機」の資料収集(45分)
14	広告デザイン演習① ”意見広告”	「意見広告」語句の認識(45分)	サムネール演習 (45分)
15	S N Sと企業戦略	「GAFA」戦略の認識 (45分)	「メタバース」に対する最新情報収集(45分)
16	広告デザイン演習② ”企業広告”	「企業広告」語句の認識(45分)	サムネール演習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	広告・出版・印刷業界の現状	業界大手企業群の情報収集(45分)	大手企業群の活動資料収集(45分)
18	編集デザイン演習① ”フライヤー編”	「フライヤー」の資料収集 (45分)	サムネール演習 (45分)
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「ツールの種類」の資料収集 (45分)	ツール毎の比較・検討(45分)
20	編集デザイン演習② ”雑誌編”	「雑誌類資料収集」(45分)	サムネール演習 (45分)
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備 (45分)	具体的アイデアを記述(45分)
22	アイデアフラッシュと方向性の決定	アイデアの精査と方向性をイメージング(45分)	「方向性の決定」 (45分)
23	課題演習①-1 ・サムネール制作	素材・コピー類のボリュームチェック (45分)	素材・コピーのおおまかなレイアウト作業(45分)
24	課題演習①-2 ・レイアウトの決定	複数のラフサムネールを準備(45分)	サムネール制作～完成 (45分)
25	課題演習②-1 ・レンダリング制作	レイアウト及びレンダリング準備 (45分)	レイアウト及びレンダリングの微調整(45分)
26	課題演習②-1 ・レイアウト修正	レイアウトアイテム(素材・コピー)の最終チェック (45分)	レンダリング完成 (45分)
27	課題演習③-1 ・カラーリング制作	カラーリング準備 (45分)	カラーリング用具(PC及び色エンピツ)での練習(45分)
28	課題演習③-2 ・カラーリング修正	PCはモニターでのチェック、アナログでは着色での チェック(45分)	カラーリング完成 (45分)
29	課題演習④ ・仕上げ	仕上げに向けて準備 (45分)	仕上げ作業(45分以上)
30	課題提出	仕上げの最終チェック(45分以上)	講義全体の振り返りを行う (45分)
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく (45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザインⅠ (科目ナンバリング：SWS123222, HLS322050)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在		2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所及びインテリアデザイン事務所での実務経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて随機応変に対応。					

概要

履修目標							
インテリアデザインに必要なアイデアの創出、デザイン、提案力の基礎的な方法について課題を通して学ぶ							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
課題を通して、求められるアイデアを創出するためのヒントとなる下調べや調査方法を習得する 抽象的なコンセプトから創出したアイデアを形にし、表現する基礎力を習得する 提案内容を明確にし、クライアントに伝わる提案書の作成方法を学ぶ							
授業全体の内容と概要							
下記の2種類の課題を設定する。 抽象的な課題：クライアントのコンセプトの理解とアイデア創出および表現（デザイン） 実務的な課題：クライアントに対して具体的な提案と明確な提案書の作成 上記の2種類の課題のつながりを意識しながら、アイデア創出とクライアント提示といういわば入口と出口を学習する。							
授業の方法							
講義や説明は、都度パワーポイントや配布資料を用いて説明する。 学生同士で相談などしても良い。状況を見てグループでの活動の可能性もあり得る。 課題に対するフィードバックは適宜行う。 なお、全体の課題の進行程度によって、課題数の増減等、内容の調整・変更を行うことがある。 学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで回答する。 不測時における授業や補講等はオンライン・オンデマンドにて授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
通常の文具に加えて基本的な製図用の道具、スケッチブック 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。 課題の進行と日程に関しては、ガイダンスで示し、その後もクラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。 パソコンやモバイルは調べ物などに使うため、何らかの端末を準備すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クライアントのコンセプトの理解のために十分な下調べができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
コンセプトに対して、ユニークなアイデアと的確で美しいデザインの表現ができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
クライアントに対し的確で明確な提案ができる	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	インテリアデザインⅠ (科目ナンバリング：SWS123222, HLS322050)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所及びインテリアデザイン事務所での実務経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有			
オフィスアワー	Teamsにて事前連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス/シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	課題の制作 (90分)
2	課題 (1) 対象設定、コンセプト理解 (ワークシート)	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
3	課題 (1) アイデアスケッチ、エスキス	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
4	課題 (1) アイデアスケッチ、エスキス	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
5	課題 (1) コンセプトボード制作	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
6	課題 (1) コンセプトボード制作	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
7	課題 (1) 提出・講評によるフィードバック	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
8	課題 (1) 講評	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
9	課題 (2) の提示と説明 エスキス	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
10	課題 (2) 提案書の作成方法1 (講義)	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
11	課題 (2) 提案書の作成方法2 (講義)	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
12	課題 (2) エスキス・現地調査	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
13	課題 (2) エスキス・現地調査	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
14	課題 (2) 提案書作成	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
15	課題 (2) 提案書仕上げ	課題の制作 (90分)	課題の制作 (90分)
16	課題 (2) 発表・講評によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	課題の制作 (90分)	総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『スタイルで選ぶマンション・インテリアの教科書』	町田ひろ子	ナツメ社	2018	4816365125	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	実験		必修・選択	選択必修
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング：BSW322028)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在		アトリエ棟1階	
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
基本的な建築材料であるコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。							
授業全体の内容と概要							
鉄筋コンクリート構造の構成材料であるコンクリートと鉄筋に関してのJIS規格試験を実施する。 コンクリートと鉄筋の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。							
授業の方法							
授業は配布資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。 実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第1をこころがけて実施する。 電卓、筆記用具を必ず持参すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件					
グループワークの実験は、全回出席を基本とする。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。	
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。	
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	実験	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング：BSM322028)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、実験内容を予習する （45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
3	コンクリートの調査設計	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
6	JIS A 1101スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
7	JIS A 1128空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
8	JIS A 1108圧縮強度試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
9	JIS A 1113割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
13	JIS Z 201鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容を理解し復習する（45分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。科目	次回実習範囲の資料を予習する（45分）	実験内容全体について資料を整理して、レポート作成に備える（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング：ACC423024, ACC523026)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在		1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者： 岩立 顕一郎)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、管理会計に関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照 ②Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応					

概要

履修目標							
適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計を加え、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。							
授業全体の内容と概要							
テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。							
授業の方法							
毎回プリント（ケース）を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。 原価計算論を履修済みであることが望ましい。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
CVP分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	CVP分析を用いた経営戦略（販売価格決定、固定費、変動費の設定）ができた。	CVP分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	CVP分析を正しく行うことができた（損益分岐点の算定）。	固定費と変動費の分析ができた。	固定費と変動費の区分ができず、CVP分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	PPMと5 force分析から経営戦略の策定ができた。	SWOT分析とPPTを行うことができた。	SWOT分析ができなかった。
全社戦略を策定することができる	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	M&A、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	DCF（ディスカントキャッシュフロー）法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた	全社戦略について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング：ACC423024, ACC523026)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：岩立 顕一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、地域の生協法人やNPO法人やに対して金融支援を行った経験や一般財団法人へ出向し、経理財務全般を担当した経験に基づき、管理会計に関する理論と実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照 ②Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）、企業経営と管理会計の目的、授業改革	シラバスを読んでおくこと（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
2	管理会計のフレームワーク	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
3	管理会計の歴史	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
4	原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
5	A B C ・ A B M	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
6	E R Pパッケージ	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
7	戦略評価、D C F法	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
8	事業戦略・全社戦略	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
9	製品開発	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
10	短期利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
11	予算管理	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
12	生産管理	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
13	事業部制会計	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
14	研究開発	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
15	投資計画、M & A	ケースの該当箇所を読んでおく（90分）	ミニテストが満点になるまで解く（90分）
16	定期試験およびフィードバック（60分の試験終了 後、残りの30分で解説） 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善ア	総復習（90分）	総復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング：CME423020, CME523022)					
授業担当者 (所属・職名)	石田 暁子 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：石田 暁子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
ビジネスの様々な場面で、それぞれ適切なコミュニケーションがとれるよう、練習を通して身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ビジネスでよく使われる語彙や表現を理解する。							
授業全体の内容と概要							
読むことでビジネスで使われる英語に触れる。語彙や表現に触れた後、リスニングと記述式の練習問題を解きながら復習と応用を行う。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義形式で、最重要事項を板書して注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。各レッスンの前半部分に導入される英文は予習で翻訳してくる必要がある。授業で訳の正確さを確認し、最後にまとめたものを課題として提出する。教員が最終チェックをして返却する。これも評価の対象となる。また、各レッスンの後半に練習問題があるので、可能な範囲で予習し、疑問点を授業で解決し、応用できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教科書を必ず用意すること。授業内容は、英語の基礎力があることを前提としている。「基礎英語Ⅰ」・「基礎英語Ⅱ」の履修・修得を履修の前提とする。「英語入門Ⅰ」・「英語入門Ⅱ」を履修・修得していることが望ましい。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１０回以上。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス英語の習熟度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	ビジネス用語と表現に慣れることができた。	ビジネス用語の理解は認められるが、文のレベルではやや不安が残る。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題への参加	積極的に参加し、授業の進捗に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真摯に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真摯に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、ビジネスにふさわしい英文の訳ができた。また、疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング：CME423020, CME523022)					
授業担当者 (所属・職名)	石田 暁子 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：石田 暁子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『English for Business Communication』	新田 亜紀子	南雲堂	2017	9784523178705	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	テキストp.6～7 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	Meeting for the First Time	テキストp.8～9 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	Presenting a Business Card	テキストp.10～11 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	Transferring a Call	テキストp.12～13 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	Phone Troubles	テキストp.14～15 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	At the Airport Abroad	テキストp.16～17予習（90分）	授業内容復習 (90分)
7	Making Polite Requests	テキストp.18～19 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	Taking and Leaving Telephone Messages	テキストp.20～21 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	Making Inquiries	テキストp.22～23 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	Making Appointments 1	テキストp.24～25 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	Stating Requests Clearly	テキストp.26～27 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	Making Apologies	テキストp.28～29 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	Making Appointments 2	テキストp.30～31 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	Notification of Absence	テキストp.32～33 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分) 講評・解説し、フィードバックする。(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修	
科目名称	工芸科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：ESS243096)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（芸術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。							
授業の位置づけ							
学位授与に関連しないため、DPとの関連付けは無い。							
到達目標							
工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。							
授業全体の内容と概要							
工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業を行う。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
学習内容はパワーポイントやプリント資料を使用して説明する。板書やICTツールを駆使して授業を進行する。 主体的で対話的な学びを目指し、グループワーク、ディスカッション、模擬授業を行う。 また、教材研究として実技を行い、理論と実践の結び付きへと導く。 課題に対してはコメントや添削を通じてフィードバックを行い、理解の深化を図る。 対話を重視し、学生からの要望や質問に対しては、オフィスアワーやTeamsを通じたコミュニケーションでも対応する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。 欠席した場合には、提供された資料を確認し、その内容を理解した上でレポートを作成し、次回授業までに提出すること。 課題は期日までに提出すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	4 0 %	4 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べる事ができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修	
科目名称	工芸科教育法Ⅱ (科目ナンバリング: ESS243096)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・「身に付く力」について 教科書分析	シラバスをよく読んでおくこと (90分)	授業内容を復習する (90分)
2	工芸の技法	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
3	工芸の鑑賞	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
4	年間指導計画の作成	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
5	ICT機器の活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
6	模擬授業見学 (4年生) 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
7	模擬授業見学 (4年生) 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
8	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
9	評価の観点	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
10	学習指導案の作成 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
11	模擬授業 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
12	模擬授業振り返りと改善 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
13	学習指導案作成 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
14	模擬授業 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
15	指導案作成の振り返りと改善 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習 (90分)	授業内容を復習する (90分)
16	課題・レポートの解説・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと (90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	課程必修	
科目名称	教育実習Ⅱ (科目ナンバリング：EDU144167, EDU244115,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者：塩崎 大輔)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 科目を修了して『身に付く力』についての説明	事前にシラバスを読んでいること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
2	実習校での教育実習（1） 授業参観（観察）①	授業参観の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（90分）
3	実習校での教育実習（2） 授業参観（観察）②	授業参観の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（90分）
4	実習校での教育実習（3） 授業参観（観察）③	授業参観の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業参観をまとめておくこと。（90分）
5	実習校での教育実習（4） 学級経営の参加①（ショート・ロングホームルーム）	教育指導の準備をしておくこと。（90分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（90分）
6	実習校での教育実習（5）学級経営の参加②（生徒指導）	教育指導の準備をしておくこと。（90分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（90分）
7	実習校での教育実習（6）放課後の指導①（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（90分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（90分）
8	実習校での教育実習（7）放課後の指導②（特別活動）	教育指導の準備をしておくこと。（90分）	今回の教育指導をまとめておくこと。（90分）
9	実習校での教育実習（8） 授業実習①	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
10	実習校での教育実習（9） 授業実習②	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
11	実習校での教育実習（10） 授業実習③	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
12	実習校での教育実習（11） 授業実習④	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
13	実習校での教育実習（12） 授業実習⑤	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
14	実習校での教育実習（13） 授業実習⑥	教材研究の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
15	実習校での教育実習（14） 研究授業	研究授業の準備をしておくこと。（90分）	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。（90分）
16	実習校での教育実習（15） 研究授業の振り返り フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	研究授業の反省や課題をまとめておくこと。（90分）	指導教官等の意見等を集約しておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『高等学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
2	『教育実習の手引（第7版）』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・ブログ	対象学科・配当	社会福祉学科 1年～4年		
開講時期	通年	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	幼稚園教員養成プログラム (科目ナンバリング：EDU194068)				
授業担当者 (所属・職名)	星槎大学 併修各授業担当者		研究室等所在	星槎大学併修の為該当なし	
単位数	0 (単位認定責任者： 星槎大学 併修各授業担当者)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	星槎大学併修の為該当なし				

概要

履修目標							
健康、安全で幸福な生活のために必要な日常の習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。園内において、集団生活を経験させ、喜んでこれに参加する態度と協同、自主及び自律の精神の芽生えを養うこと。身辺の社会生活および事象に対する正しい理解と態度の芽生えを養うこと。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
人間形成の基礎を培う幼児期の教育を担う幼稚園は、学校教育法に基づく「学校」であり、3歳から小学校入学前の子どもは、全国どこでも共通の教育課程（「幼稚園教育要領」）に基づく教育（標準1日4時間）を受けることができる。							
授業全体の内容と概要							
幼稚園における教育は、集団生活のなかで、幼稚園教諭免許を持った幼稚園教員が幼児一人一人の発達に応じながら、遊びを通した総合的な指導を行うことにより、社会生活を営むために必要な力（集団生活の経験等）や学習の基盤（絵本等への関心や絵画等の創作的表現への興味等）を培う力を身につける。							
授業の方法							
星槎大学の通信教育により各科目受講する							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
星槎大学の説明会に参加し、併修制度を進めること。 本学の社会福祉学科に所属し、保育園教育を履修していることが条件。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数を満たしていること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
内容の深さ	主題に対して非常に深い理解を示し、詳細で具体的な情報を提供している。	主題に対する理解が良好で、情報が適切でわかりやすい。	主題について基本的な理解を示すが、詳細に欠ける部分がある。	主題に対する理解が浅く、情報が不足している。	主題についてほとんど理解していない。
時間管理	時間内に収め、適切なタイミングで話をまとめた。	時間内に収めたが、少し駆け足に感じる部分があった。	時間オーバーまたは不足があったが、内容は概ね伝わった。	時間オーバーや不足があり、重要なポイントが抜け落ちた。	時間を大きくオーバーまたは不足し、内容が十分に伝わらなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・プログ	対象学科・配当	社会福祉学科 1年～4年		
開講時期	通年	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	幼稚園教員養成プログラム (科目ナンバリング：EDU194068)				
授業担当者 (所属・職名)	星槎大学 併修各授業担当者		研究室等所在	星槎大学併修の為該当なし	
単位数	0 (単位認定責任者： 星槎大学 併修各授業担当者)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	星槎大学併修の為該当なし				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『各科目のシラバス参照』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	星槎大学併修による各授業	幼稚園課程に係る継続的な準備（各45分）	幼稚園課程に係る継続的な整理（各45分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123022)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：大島 康雄）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
包括的、総合的なソーシャルワーク実践を効果的かつ効率的に行うために必要な知識と技術を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のD P 1、DP3、DP4に対応する科目。							
到達目標							
実践的なソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を具体的に理解できる。							
授業全体の内容と概要							
ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および関連する技法について学ぶ。							
「SDGs3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業。							
授業の方法							
教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から60点分定期試験に出題する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
15分以上の欠席は遅刻とする。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会資源の活用、調整、開発について実践方法を理解できる。	実践モデルを提示しながら説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
事例研究を行い、会議形式でプレゼンテーションできる。	ソーシャルワークの視点に則った発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言ができた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。
ソーシャルワークの関連技法について理解できる。	各技法について、ソーシャルワーク実践に活用する場合の特徴を加えて説明できた。	各技法の説明ができた。	各技法の理解ができた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123022)					
授業担当者 (所属・職名)	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーカー教育学 校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8249-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワーク実践と社会資源 科目を修了して『身に付く力』についての説明	ソーシャルワークの理論と方法（専門）1のノート を読み返す。	授業内容をノートに整理する。（90分）
2	社会資源の種類と活用方法 社会資源の調整方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
3	社会資源の開発 ソーシャルアクションの意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
4	ソーシャルアクションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
5	カンファレンスの種類と意義、目的 カンファレンスの方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
6	ミクロ、メゾ、マクロの会議	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。（90分）	試験を自己採点する。（90分）
8	中間試験解説 事例分析の意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	試験の不正解部分を復習する。授業内容をノートに 整理する。（90分）
9	事例分析	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
10	事例分析 プレゼンテーション	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
11	交渉の種類と原則 ネゴシエーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
12	コンフリクトのとらえ方と対処方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
13	ファシリテーションの意義、目的 ファシリテーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
14	ソーシャルマーケティング 今後の課題 授業内フィードバック	授業該当部分の教科書を読む。（90分）	授業内容をノートに整理する。（90分）
15	試験	1回から14回の復習をする。（90分）	試験の自己採点をする。（90分）
16	試験解説 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	全体を振り返り、質問事項を整理する。（90分）	試験の不正解部分を復習する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	肢体不自由者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122105)					
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病 達）について指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べることができる。							
授業全体の内容と概要							
「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。「SDGs 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVD を視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・ 肢体不自由児の身体的、心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいのかを考えながら、必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、実践事例のDVD 教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。 ・ 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基盤に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、理解ができなかった。	
肢体不自由児者の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようすることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考できた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理にかかわる、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業にととても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122105)				
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジエース教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、肢体不自由者の心理・生理・病理の概要	シラバスを確認しておくこと（90分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（90分）
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
3	脳性まひの起因と症状（1）	指定した教科書の「脳性まひとは」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
4	脳性まひの起因と症状（2）	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
7	ベルテス病の起因と症状	「ベルテス病」について事前に調べておくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
11	DVDの視聴及びレポート作成	事前に配布したDVDの資料を読んでおくこと（90分）	DVD視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと（90分）
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育的側面からみた肢不自由」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
15	「授業改善アンケート」の実施 バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
16	定期試験「60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする」 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと（90分）	試験の結果を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』	篠田達明	金芳堂	2015 年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザインII (科目ナンバリング: DES222019)				
授業担当者 (所属・職名)	田中 靖之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目	
教職課程（美術・工芸）必修科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。 完成度の高い作品を合格とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
C I の理念とその中核の V I システム	C I 理念と V I システムを理解し、実例を 3 つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を 3 つ提示し、客観的なコメントを含め、改善案も提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を 3 つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を 1 つ以上提示できた。	C I 理念と V I システムを理解できなかった。
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール（15 以上）を基本に、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを 1 点仕上げた。	シンボルマークのサムネール（15 以上）を基本とし、客観的なフィードバックを繰り返し、1 点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール（10 以上）を基礎に、1 点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数（10 以上）できた。	シンボルマークのデザインができなかった。
デザイン（形・色）演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを 3 つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを 2 つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	ビジュアルデザインⅡ (科目ナンバリング：DES222019)					
授業担当者 (所属・職名)	田中 靖之 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：田中 靖之)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 C Iの歴史について	「C I」語句としての認識 (4 5分)	C I導入企業や自治体の具体例の収集(45分)
2	C Iデザインの事例収集とスケッチ	C I導入企業等のシンボルマーク、ロゴタイプの例を調査(45分)	C Iデザイン、具体例の収集 (4 5分)
3	C I S (V I S) の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識 (4 5分)	企業のアプリケーションデザイン例を収集(45分)
4	マークデザインのサムネール作成①	シンボルマークの事例収集(45分)	サムネール補足演習 (4 5分)
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識 (4 5分)	商標登録の実例調査(45分)
6	マークデザインのサムネール作成②	自己で選択した形状のサムネール準備(45分)	サムネール補足演習 (4 5分)
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識 (4 5分)	ピクトグラムの事例収集(45分)
8	ピクトグラムのアイデア制作	自己で選択したアイテムのサムネール準備(45分)	アイデア制作補足演習 (4 5分)
9	V Iとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集 (4 5分)	「特別色」と「プロセスカラー」の区別と認識チェック(45分)
10	カラーリング演習	P C又は鉛筆色での用具準備(45分)	カラーリング演習 (4 5分)
11	C I S展開デザインの位置づけと応用例	展開デザインの語句と事例認識 (4 5分)	具体例としての展開デザインを収集(45分)
12	C I S企画のためのアイデアフラッシュ	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	アイデアフラッシュ補足 (45分)
13	C I S課題演習①ー1 ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集 (45分)	シンボルマークのサムネール作業確認
14	C I S課題演習①ー2 ・シンボルマークの展開使用例とサムネール制作	サムネール案の準備作業(45分)	演習補足 (4 5分)
15	C I S課題演習②ー1 ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集 (4 5分)	“色”のもつ意味を確認(45分)
16	C I S課題演習②ー2 ・シンボルカラーリング演習	パソコン又は色鉛筆での着色チェック(45分)	演習補足 (4 5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	C I S課題演習③ー1 ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集 (4 5分)	セットロゴのパターン(レイアウト)を確認(45分)
18	C I S課題演習③ー2 ・セットロゴデザイン演習	セットロゴパターン(タテ組、ヨコ組)等のラフデザイン(45分)	演習補足 (4 5分)
19	C I S課題演習④ー1 ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集 (4 5分)	P Cフォントやアナログレタリングでのラフデザイン(45分)
20	C I S課題演習④ー2 ・タイプフェイス演習	P Cやアナログでの制作準備(45分)	演習補足 (4 5分)
21	C I S課題演習⑤ー1 ・ロゴタイプの位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集・一般企業 (4 5分)	演習補足(45分)
22	C I S課題演習⑤ー2 ・ロゴタイプ演習	「ロゴタイプ」事例収集・自治体(45分)	演習補足 (4 5分)
23	C I S課題演習⑥ー1 ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集 (4 5分)	「特別色」と「プロセスカラー」の使用例の事例確認(45分)
24	C I S課題演習⑥ー2 ・ベーシックカラーの選択	「特別色」の主体に選定準備(45分)	演習補足 (4 5分)
25	C I S課題演習⑦ー1 ・フォーマット&レイアウトの意義	レイアウト事例収集 (4 5分)	レイアウトのサムネール準備(45分)
26	C I S課題演習⑦ー2 ・フォーマット&レイアウト演習	レイアウト作成準備(45分)	演習補足 (4 5分)
27	C I S課題演習⑧ー1 ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック (4 5分)	レイアウトの微調整作業(45分)
28	C I S課題演習⑧ー2 ・レイアウト調整	レイアウトアイテム等の最終チェック(45分)	演習補足 (45分以上)
29	C I S今後の課題と未来展望	アドバイス項目のチェック (45分)	C I Sに対する個人的見解の整理(45分)
30	課題作品の提出	作品の最終チェックなどの(45分)	演習補足 (45分以上)
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく (45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める (4 5分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314020)				
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前条件					
原則毎回出席すること（最低出席回数１０回以上）。毎回の授業内で行う演習の評価点（平常点）と研究課題提出（課題・作品）と発表（その他）が単位認定の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。なお演習は当日の授業終了後提出とし、それ以外は受理しない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	３０％	２０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り、地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング：APT314020)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：安藤 淳一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、課題説明、授業の進め方	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	「都市計画」で学ぶこと	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市の遺産① 都市の防御性と効率性	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の遺産② 社会改良思想の都市	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市計画制度① 日本の都市計画史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市計画制度② 日本の都市計画の枠組み	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市計画制度③ 現代都市計画の思潮	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市計画制度④ まちづくりの担い手と進め方	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市計画制度⑤ 人口減少社会のまちづくり	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市計画制度⑥ 都市交通計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市計画制度⑦ 都市の防災計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画制度⑧ 都市の緑地・景観計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	研究発表① 「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
14	研究発表② 「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
15	研究発表③ 「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評（演習課題の提出状況と評価・解説）授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	演習課題提出確認(90分)	最終振り返り(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング：AEN322057)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
近年、ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し、その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されている。履修学生は「ものづくり」をとおして共生社会実現のための理解を深めるため、指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない、そこから既存施設の問題点を明らかにし、ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案・発表する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。							
到達目標							
疑似体験により介助される側、介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つけるきっかけとなり、身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解、ユニバーサルデザインの視点からの建築空間・都市空間の評価、改善計画の提案とその発表する能力を養うことができる。							
授業全体の内容と概要							
前半は疑似体験を通して、身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し、生活活動に対する心理状態を推測し、理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに、不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点で提案をおこない、プレゼンテーション後、作品ごとに講評をおこなう。 【SDGs11.住み続けられるまちづくりを】の関連授業							
授業の方法							
疑似体験は、体験者・観助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には、企業を直接訪問し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念、開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など、指定された課題は全て提出すること。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
製品調査に際しては大学外での現地調査となるため、建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、ユニバーサルデザイン製品の現地調査は必修とし、授業・演習には積極的に取り組むこと。FW,見学会レポート(レポート)、既存施設図および改修計画図・模型(レポート)課題作品)、課題に取り組む姿勢等(その他)で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのような反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解ができた。	レポートが提出できなかった。
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない、現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング：AEN322057)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：		安藤 淳一）		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認（90分）	受講の注意の確認（90分）
2	「ユニバーサルデザイン」の考え方	配布資料確認（90分）	講義内容の振り返り（90分）
3	疑似体験プログラム（A.高齢者）（B.右片麻痺）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
4	疑似体験プログラム（C.車椅子）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
5	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査1	配布資料確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
6	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査2	チェックリストの確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
7	実測調査 対象の実測	実測用道具の確認（90分）	実測データの整理（90分）
8	実測調査 収集データのまとめ	データ不足箇所の確認（90分）	実測データの整理（90分）
9	実測図作成1 平面図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
10	実測図作成1 平面図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
11	実測図作成2 展開図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
12	実測図作成2 展開図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
13	ユニバーサルデザイン製品製造メーカー 講習	見学会場の確認（90分）	配布資料・講習内容の振り返り（90分）
14	ユニバーサルデザイン製品製造メーカーショールーム見学	製造メーカーの商品確認（90分）	見学レポート作成（90分）
15	改修計画案の検討 平面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振り返り（90分）
16	改修計画案の検討 平面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	改修計画案の検討 断面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振り返り（90分）
18	改修計画案の検討 断面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振り返り（90分）
19	改修計画案の作図1 平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
20	改修計画案の作図1 平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
21	改修計画案の作図1 平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
22	改修計画案の作図1 平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
23	改修計画案の作図2 展開図A,B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
24	改修計画案の作図2 展開図A,B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
25	改修計画案の作図3 展開図C,D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
26	改修計画案の作図3 展開図C,D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
27	改修計画案の内部模型製作	制作道具・材料の確認（90分）	制作模型の進捗状況確認（90分）
28	改修計画案の内部模型製作	平面図・展開図の確認（90分）	制作模型の完成度確認（90分）
29	改修計画案 提出	提出準備（90分）	提出物の再確認（90分）
30	改修計画案 グループ別発表	発表準備（90分）	発表内容の振り返り（90分）
31	総評（全作品の講評）	提出作品の最終確認（90分）	総評の振り返り（90分）
32	総評（全作品の講評）授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認（90分）	総評の振り返り（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義, 演習, 実技	必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツⅠ (科目ナンバリング:SPS523081)				
授業担当者 (所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 宮学科・准教授	米野 宏(経	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室(荒井) 1号館3階(米野)	
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容 現在、パラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポ ーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

障がい者スポーツ指導員資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	60%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障がい者スポーツのルール の理解	ルールや競技特性をとても詳しく理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を理解し審判法も得られた。	ルールや競技特性を良く知ることができた。	ルールや競技の特性をある程度理解できた。	ルールの知識がほとんど得られなかった。
障がい者スポーツの歴史や 現状の知識と理解	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識がとても強く持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解でき、課題に対する意識も持てた。	歴史的な知識や現状をよく理解できた。	歴史的な知識や現状をある程度理解できた。	歴史的な知識をほとんど得られなかった。
障がいの種類や区分の知識 と理解	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も広く把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解し、留意点も把握できた。	障害の種類や区分の知識をよく理解できた。	障害の種類や区分の知識がある程度得られた。	障害の種類や区分の知識がほとんど得られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実技		必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツⅠ (科目ナンバリング:SPS523081)					
授業担当者 (所属・職名)	荒井 秀樹(経営学科・特任教授) 宮学科・准教授		米野 宏(経	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室(荒井) 1号館3階(米野)	
単位数	2 (単位認定責任者:		米野 宏)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現在、バラスポーツ(障がい者スキー)の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本 初級・中級』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	2018	9784324108031	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身 に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
2	スポーツ指導者に求められるもの(障がい者スポ ーツ指導者として必要なこと) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
3	わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ(厚生労 働省下での障がい者スポーツ施策、わが国のスポ ーツ施策と障がい者スポーツ)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
4	障がい者スポーツの意義と理念(障がい者スポ ーツの意義、障がい者スポーツの理念、日本障がい者 スポーツ協会のビジョン)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
5	障がい者スポーツ指導者制度(歴史、目的と資格の 種類と役割、障がい者スポーツ指導者資格の取得方 法)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
6	わが国の障がい者福祉施策(施策の変遷、障がい者 の生活と実態、障がい者福祉施策と障がい者スポ ーツについて) 国際生活機能分類(担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
7	ボランティア論(ボランティアという活動、ボラン ティアの魅力) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
8	ボランティア論(ボランティアの心得と注意点) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
9	障がいの分類と概要(障がいの分類、障がいの概要) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
10	障がいの分類と概要(障がい層の変化、高齢化と重 度化) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
11	身体障がい者(内部障がいを含む)とスポーツ・レ クリエーション(身体障がい者の理解と特徴、運動 およびスポーツの効用、指導時の留意点)(担当：	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
12	知的障がい者とスポーツ・レクリエーション(知的 障がいの分類と特徴、運動・スポーツの効用、指導 上の留意点)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
13	身体障がい者(内部障がいを含む)とスポーツ・レ クリエーション(身体障がい者の代表的なスポーツ 紹介) 知的障がい者とスポーツ・レクリエーション	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
14	精神障がい者とスポーツ・レクリエーション(精神 障がいの理解と特徴、運動・スポーツの効用、指導 時の留意点、最近の話題)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
15	全国障害者スポーツ大会(競技規則の原則、歴史・ 意義・目的、実施競技) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)
16	障がい者スポーツ指導者のコミュニケーションスキ ル 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・ 脱退によるフィードバック	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習す る(90分)	ノートに記載された内容を復習する(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング：SPS422067, SPS512013)					
授業担当者 (所属・職名)	守屋 俊甫 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 守屋 俊甫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標
本講義では、スポーツビジネスの基本概念と市場構造を理解し、スポーツが社会および経済に与える影響について学びます。スポーツビジネスを「営利」と「非営利」、そして「目的」と「手段」の4象限で分類し、各セグメントにおける具体的な事例を分析します。ケーススタディをもとに実践的な視点で学習し、現代のスポーツビジネスの発展と課題、未来にどのような価値創造をするべきなのか、を深く考察し、言語化することを目指し身に付けることを目的とする。 また、インプットだけで終わるのではなく、アウトプット（発言、テキスト化、レポート化、身体表現など）を行うことを重視します。授業での気づきや発見から自分自身の夢や目標、キャリアにどう展開していけるのか、自分の変化を感度高く感じられるかなどを振り返ることも重視します。
授業の位置づけ
本講義は、スポーツ産業・スポーツビジネスへの関心の有無によらず、「仕事とは?」「働くとは?」「自分とは?」「自分が成し遂げたいもの?」など、正解のないことへの問いを立てることを重視しています。スポーツの経済活動や、学校教育現場での体育・表現運動に至るまで、幅広い人間の営みの中にある「スポーツ」「運動」「遊び」といった領域から、ビジネス視点を磨き、分析する力を養うことを目的とします。スポーツ業界のキャリア形成という枠組みに縛られずに、自分という個が、どのような社会の環境に貢献できる人材であるか、あらゆる環境に適応できる意思決定ができる人材であるかの気づきや発見の場である。
到達目標
社会の課題を抽出し、解決策を考え、未来のより良い社会づくりを創造できる力を身につける。 未来からのバックキャストを行い、自分が何を為すべきかを振り返り、具体的なアクションプランを立てることができる。 ケーススタディを通じて、なぜうまくいったのか、なぜ失敗したのか、具体的な要素を因数分解し、起きた事象を分析できる力を身につける。

授業全体の内容と概要

毎回の授業でテーマに沿ったケーススタディを提示し、学生らがその事例に対して問いを立て、グループでディスカッションを行いながら探求し深掘りする時間を設けます。「課題解決未来」というフレームに則り、ケーススタディごとの課題という仮説をたて、その解決策を創造し、どのような未来を描くのかを授業内での一連のワークとします。
また、毎回の授業では小レポートを提出することで出席したこととみなし、最終レポートでは4象限のうちいずれかの領域に当てはまるスポーツビジネスを探し当て、その課題解決未来をまとめます。背景情報の整理、引用元の明示、社会に対するインパクトを考慮しながら、創造的で未来志向、独創的で先駆的な発想も高く評価します。

授業の方法

ケーススタディ：実際のスポーツビジネスの事例をもとにグループワークを実施する
ディスカッション：各トピックに対する意見交換や対話を行う
ピッチ：思考を整理し、言語化する上で、短時間の発表の場を設ける
ゲスト講義（予定）：実務家やスポーツビジネス関係者を招いた特別講義の機会を設ける
授業の振り返り：授業を受ける前と後での自分の変化を見つめ、自分自身の気づきを深める
毎回の授業レポートの提出方法：Googleフォームへの入力を行うことを提出方法とする
※なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
グループワークやディスカッションを通じて、自らの考えを発表し、他者の意見を尊重することが重要 スポーツビジネスへの専門的な知識を有することは必須ではなく、興味の有無に関わらず課題に対して探求する姿勢を重視する 自分から表現することを重視します。発言、テキスト化、身体表現など、あらゆる表現が尊く、それにどのような意図を込めたのかを言語化できることが重要 最終レポートでは、自ら立てた問いに対して自由に自主的に取り組み、意図や意思を持ったアウトプットをすることを重視する

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					

ルーブリック		評価基準			
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける4象限のビジネスモデルを理解し、各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示、未来への価値提供のアウトプットを行えたか	各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示、未来への価値提供のアウトプットを行えた	各ケーススタディに対する課題抽出、解決策の提示のアウトプットを行えた	各ケーススタディに対する課題抽出のアウトプットを行えた	各ケーススタディ情報のインプットを行えた	スポーツビジネスの4象限のビジネスモデルの理解が不足していた
毎回の授業時に提出する小レポートへの取り組み姿勢や、レポートとしてまとめた内容に対して自分の気づきや発見を言語化しているかどうか	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化しており、さらに自らが問いを立て、自主的に探求する姿勢がある	レポート内容として自分の気づきや発見を言語化している	レポートへの積極的に取り組み姿勢がある	レポートへの取り組み姿勢がある	レポートを提出しない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング：SPS422067, SPS512013)					
授業担当者 (所属・職名)	守屋 俊甫 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 守屋 俊甫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバス内の「授業全体の内容と概要」を読んでおくこと（15分）	レポート作成（30分）
2	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
3	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
4	ケーススタディ（ソーラン節 / よさこい鳴子踊り / YOSAKOIソーラン③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
5	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
6	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
7	ケーススタディ（遊びの場づくり「放課後ボールパーク」③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
8	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快的仲間たち」が創るエリアマネジメント①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
9	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快的仲間たち」が創るエリアマネジメント②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
10	ケーススタディ（「Fビレッジと愉快的仲間たち」が創るエリアマネジメント③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
11	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信①）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
12	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信②）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
13	ケーススタディ（ソーシャルメディアと情報発信③）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
14	ケーススタディ（中学校の「部活動地域移行」の課題と未来）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
15	ケーススタディ（高校の「部活動地域移行」と地域 クラフ化）	事前資料を読む（15分）	レポート作成（30分）
16	自主課題レポートのピッチ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	事前資料を読む（15分）	最終レポート作成（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高) (科目ナンバリング: EDU144168, EDU244116,)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者:		塩崎 大輔)	CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

(1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
(2) 社会性や対人関係能力に関する事項
(3) 生徒理解や学級経営等に関する事項
(4) 教科等の指導力に関する事項
以上の項目で、個々の不足している知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（4）、DP（5）に対応する。
経営学科のDP（4）に対応する。
デザイン学科のDP（4）に対応する。
建築学科のDP（4）に対応する。

到達目標

教員に求められる必要不可欠な資質能力、更に本学が掲げる教員養成理念に基づく必要な資質を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

大学4年間のそれぞれの学習内容、理解度を把握するための教職課程履修カルテ等に基づく担当教員の指導により、個々の能力・技能等の課題を理解し、その不足している知識や技能等を自己責任で自己学習を設け、課題解決に向けて取り組みを行う。授業の内容は、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、知識としての命題と責任、教育の愛情等を持って、学級や教育現場を担当する、教科指導、生徒指導等の職務を自らの実情が生くるべく実践できる資質能力を養うため、教職経験者を含めた複数教員の協力方式による効果的な授業（ロールプレイング、フィールドワーク・ワークショップ等）を展開する。

⑤SDG4、質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等も利用する。教壇に上る科目の担当助教が教壇を中心に実証的な授業（ロールプレイング・フィールドワーク・ワークショップ）を展開する。また、内容によって、教科に関連する科目の担当や教職の現場経験者、更に地元の企業・研究会等の連携により授業を支援する。また、学生は進んで学校ボランティア・学校サポーター等にも参加して教育経験を得る。なお、課題として提出するレポート等については、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

授業の参加態度、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	25%	25%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	グループ討論などで、自分の意見を論理的まとめ、進んで発表することができた。	グループ討論などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができた。	グループ討論などで、自分の意見をやや論理的まとめ発表することができた。	グループ討論などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	学校サポーター・学校ボランティア・T Aなどに進んで参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・T Aなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・T Aなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義をやや理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・T Aなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修	
科目名称	教職実践演習(中・高) (科目ナンバリング: EDU144168, EDU244116,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福			研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	各教員研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明、資料の配布、各授業の到達目標の提示、学生個々の課題提示、学生の自己目標設定）、前年度の授業改善アンケート結果反	事前にシラバスを読んでいること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
2	I 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 1. 教職現場経験者（中学校・高等学校・特別支援学校）による「理想の教師像」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
3	2. 講義を参考にしたグループ討議「理想の教師像・私の教師像について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
4	II 社会性や対人関係能力に関する事項 1. 「教育現場でのいじめや不登校、特別支援教育等の現状と課題について」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
5	2. 講義を参考にしたグループ討議「課題解決に向けての教師としてのアプローチについて」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
6	3. 場面に応じた教師としての話し方（挨拶・言葉遣い等）及び日常的に発生する学級内の問題解決について	ロールプレイングについて学習しておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
7	4. 「地元学校における現地調査」＜フィールドワーク＞	フィールドワークの準備をしておくこと。（90分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（90分）
8	5. 「福祉施設等における現地調査」＜フィールドワーク＞	フィールドワークの準備をしておくこと。（90分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（90分）
9	III 生徒理解や学級経営等に関する事項 1. 講演「生徒が所属感、効力感を感じる学級経営について」（教育委員会指導主事又は地元学校校	学級経営について、学習しておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
10	2. 講演を参考にした意見発表と集団討議「私の学級経営方針について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
11	IV 教科等の指導力に関する事項 1. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
12	2. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）
13	V 学生個々の課題解決の実施 1. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。（90分）	今回の体験をまとめておくこと。（90分）
14	2. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。（90分）	今回の体験をまとめておくこと。（90分）
15	3. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。（90分）	今回の体験をまとめておくこと。（90分）
16	まとめ（レポート課題等）の解説 全体を講評し、フィードバックする 科目を終了して『身に付く力』についての検証	まとめの準備をしておくこと。（90分）	今回の授業をまとめておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング：SOC112014)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
・量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。 ・ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。 ・統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。 ・社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
・量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得する。 ・個人情報保護法下における調査倫理を理解する。 ・データ分析におけるIT機器と統計ソフトの活用方法を習得する。							
授業全体の内容と概要							
・社会調査とソーシャルワークの関係の紹介（調査事例を用いる）。 ・量的調査、質的調査の技法の紹介。 ・調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。 ・データ分析方法と統計ソフトの紹介。							
授業の方法							
15回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。 学生からの質問等に随時対応する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
社会福祉学科全コースが履修可能である。 チャット等に「欠席理由」の連絡がない場合、公欠等の連絡なく欠席した場合は無条件で欠席とみなす。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数10回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析（KJ法、MGT A法）についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法と質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング：SOC112014)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明	基礎数学の復習 (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
3	量的調査技法1 (テーマの設定)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
4	量的調査技法2 (仮説の設定)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
5	量的調査技法3 (質問文の作成)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
6	量的調査技法4 (サンプリング)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
7	量的調査技法5 (プリテストと本調査、その注意点)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
8	量的調査技法6 (データ解析法 I T機器の活用法)	前回プリントの読み込み1次関数2次関数の復習 (90分)	配布プリントの熟読 量的調査全体の復習 (90分)
9	質的調査技法1 (フィールドの設定)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
10	質的調査技法2 (フィールドにおけるサンプリング)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
11	質的調査技法3 (フィールドにおける記録と聞き取り)。レポート提示。	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
12	質的調査技法4 (質的分析 グランデッドセオリーアプローチを中心に)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
13	質的調査技法5 (質的調査事例の紹介1) レポートの添削をし、返却してフィードバックする。	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読 (90分)
14	質的調査技法6 (質的調査事例の紹介2)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読 (90分)
15	調査倫理と個人情報保護法との関連 (授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み (90分)	講義全体の総復習 (90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする。科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体の総復習 (90分)	自己総括 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・ブログ	対象学科・配当	社会福祉学科 1年～4年		
開講時期	通年	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	小学校教員養成プログラム (科目ナンバリング：EDU194069)				
授業担当者 (所属・職名)	星槎大学 併修各授業担当者		研究室等所在	星槎大学併修の為該当なし	
単位数	0 (単位認定責任者： 星槎大学 併修各授業担当者)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	星槎大学併修の為該当なし				

概要

履修目標							
健康、安全で幸福な生活のために必要な日常の習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。 園内において、集団生活を経験させ、喜んでこれに参加する態度と協同、自主及び自律の精神の芽生えを養うこと。 身辺の社会生活および事象に対する正しい理解と態度の芽生えを養うこと。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことなど。また、小学校の教育の目的は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期すること							
授業全体の内容と概要							
小学校教育の目的を、日常生活に必要な能力を養い、社会生活を営むための資質・能力の基礎を身に付けること、自分の個性を発見する素地を育てること。							
授業の方法							
星槎大学の通信教育により各科目受講する							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
星槎大学の説明会に参加し、併修制度を進めること。 本学の社会福祉学科に所属し、教職課程を履修していることが条件。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数を満たしていること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解できた。	基本的な知識を理解できた。	基本的な知識を概ね、理解できた。	基本的な知識を最低限理解できた。	基本的な知識を理解できなかった。
内容の深さ	主題に対して非常に深い理解を示し、詳細で具体的な情報を提供している。	主題に対する理解が良好で、情報が適切でわかりやすい。	主題について基本的な理解を示すが、詳細に欠ける部分がある。	主題に対する理解が浅く、情報が不足している。	主題についてほとんど理解していない。
時間管理	時間内に収め、適切なタイミングで話をまとめた。	時間内に収めたが、少し駆け足に感じる部分があった。	時間オーバーまたは不足があったが、内容は概ね伝わった。	時間オーバーや不足があり、重要なポイントが抜け落ちた。	時間を大きくオーバーまたは不足し、内容が十分に伝わらなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・プログ	対象学科・配当	社会福祉学科 1年～4年		
開講時期	通年	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	小学校教員養成プログラム (科目ナンバリング：EDU194069)				
授業担当者 (所属・職名)	星槎大学 併修各授業担当者		研究室等所在	星槎大学併修の為該当なし	
単位数	0 (単位認定責任者： 星槎大学 併修各授業担当者)		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	星槎大学併修の為該当なし				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『各科目のシラバス参照』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	星槎大学併修による各授業	幼稚園課程に係る継続的な準備（各45分）	幼稚園課程に係る継続的な整理（各45分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	グラフィックデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222022)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子（デザイン学科・特任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：堤 美穂子）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの实務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
広告、PR、ブランディング、出版、WEB、映像等、おもに視覚伝達メディアを使った各種コミュニケーションにおいて、デザイン制作業務に携わるために必要となる、ビジュアルアイデアの考え方、発想、機能性、レイアウト、編集、リテラシー等、基本的な知識を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアミックスを想定し、効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。 「SDGs1～11」関連授業（取り組み企業・団体のためのグラフィックデザインを自ら考案）。							
授業の方法							
始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。 その際には、ChatGPT及びCANVAを始めとする生成AIも積極的に活用する。 次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。 後半では考案した広告企画をプレゼンテーションするためのビッチ資料（PowerPoint）を制作し発表する。 各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い、都度報告する。 制作中における技術的な指導は各学生に個別で行い、質問については随時対応する。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。 中でも情報メディアにおけるビジネスデザインを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。 課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。 授業内でアプリケーションの操作講習は一切しないため、得意な技術を使って作成、または新たに習得し授業に臨む必要がある。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は26回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下の重要性を認識し、それが可能な知識と技能を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であること を認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分であった。	グラフィックデザインに対する認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特 性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特 性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特 性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特 性を理解しさせておらず、適切なメディアの選択や表現が不十分であった。	グラフィックデザインの特 性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、メディアの特性に準じた完成度の高いプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	グラフィックデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222022)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：堤 美穂子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス～シラバスの説明 「伝統的なグラフィックデザイン」世界・日本・広 告を概観	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの 意味を調べておく (45分)	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの 意味を調べておく (45分)
2	「伝統的なグラフィックデザイン」 主として広告におけるおもな制作工程	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの 意味を調べておく (45分)	分野への理解を深めるためのノート整理 (45分)
3	「情報の視覚化」 デザイン実装における考え方/ブリーフ (設計)・ ブランディング・トーン&マナー・UI	使用するアプリと機材の準備・整理 (45分)	分野への理解を深めるためのノート整理 (45分)
4	「情報の視覚化」演習 デザインの美装シミュレーション/ラフスケッチ	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
5	「情報の視覚化」演習 デザインの美装シミュレーション/生成AI	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
6	「情報の視覚化」演習 講評と展開の可能性について	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
7	様々な情報メディアの特性について 心に響いたバナーデザインの個人発表	多くのバナーを見て、心に響いたバナーを1点選び 、貼り付け、その理由を記載した1シートを作成し 、発表できるよう準備をしてくる (45分)	分野への理解を深めるためのノート整理 (45分)
8	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 企画・立案	多くのバナーを見て、心に響いたバナーを1点選び 、貼り付け、その理由を記載した1シートを作成し 、発表できるよう準備をしてくる (45分)	課題の継続作業 (45分)
9	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成①	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
10	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
11	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成②	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
12	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成①	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
13	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成②	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
14	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 企画書作成③	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
15	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
16	情報メディアデザイン “小” 「バナー広告デザイン」 完成～講評	課題の継続作業 (45分)	最終修正→提出 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『原研哉の仕事 潜在する価値観のデザイン』	デザインノート編集部	誠文堂新光社	2021		
2	『芸術教育シリーズ20編集学-つなげる思考・発 見の技法』	紫牟田伸子	芸術学舎	2014		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 企画立案	指定のOOHについて現地で見て媒体特性も調べてお く (45分)	分野への理解を深めるためのノート整理 (45分)
18	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン①	分野への理解を深めるためのノート整理 (45分)	課題の継続作業 (45分)
19	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
20	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン②	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
21	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン③	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
22	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 ラフデザイン④	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
23	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 企画書作成①	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
24	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 企画書作成②	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
25	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 プレゼンテーション	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
26	情報メディアデザイン “中” 「OOHデザイン」 完成～講評	課題の継続作業 (45分)	内容修正→提出 (45分)
27	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク ①	シラバスの確認と情報整理 (45分)	課題の継続作業 (45分)
28	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク ②	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
29	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク ③	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
30	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク ④	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
31	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク ⑤	課題の継続作業 (45分)	課題の継続作業 (45分)
32	フリーフィング・テキストデータからの ビジュアル作成・レイアウト・フィニッシュワーク /完成～講評	全授業内容のまとめ (45分)	完成シミュレーション (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング：BSW323027)				
授業担当者 (所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)		研究室等所在	アトリエ棟1階	
単位数	2 (単位認定責任者：長森 正)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。鉄骨構造建築物の柱、梁、継手、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について演習を通して修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法

授業は配布物とプロジェクターを中心に講義形式で行う。授業では課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学習し重要箇所について確認しながら進めていく。
不測時における授業や補講等でオンラインを実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積重ねの講義内容であるので、毎回出席しなければ分らなくなるので欠席に注意する。

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目 教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	３０％	０％	０％	０％

ループリック						
評価項目	評価基準					
	屋修項目を超えたレベルを達成している	屋修項目をほぼ達成している	屋修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。	
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。	
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計についてほぼ簡単に説明ができた。	接合設計について説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング：BSM323027)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者：長森 正)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識（第四版）』	橋本篤秀	市ヶ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを確認する（90分）	授業内容の復習（90分）
2	鋼材の基礎	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業内容の復習（90分）
3	鉄骨の構造設計	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業内容の復習（90分）
4	引張材の力学（1）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
5	引張材の力学（2）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
6	圧縮材の力学（1）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
7	圧縮材の力学（2）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
8	圧縮材の力学（3）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
9	曲げ材の力学（1）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
10	曲げ材の力学（2）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
11	曲げ材の力学（3）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
12	接合部の力学（1）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
13	接合部の力学（2）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
14	接合部の力学（3）	教科書の指定箇所の予習（90分）	授業終了時に示す課題をこなす（90分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験の準備（90分）	定期試験内容の復習（90分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全体内容の再確認及び理解（90分）	授業内容の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義, 演習, 実習		必修・選択	選択
科目名称	障がい者スポーツⅡ (科目ナンバリング: SPS523082)					
授業担当者 (所属・職名)	荒井 秀樹 (経営学科・特任教授)		米野 宏 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室 (荒井) 1号館3階 (米野)	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		現在、バラスポーツ (障がい者スキー) の現場で指導している経験を活かし、障がい者スポーツの指導者資格を取得したい学生に教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『障がい者スポーツ指導教本』	日本障がい者スポーツ協会	ぎょうせい	2018	9784324108031	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
2	障がいに応じたスポーツの工夫①陸上競技 (演習) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
3	障がいに応じたスポーツの実施①陸上競技 (実技) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
4	障がいに応じたスポーツの工夫②卓球・STT (演習) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
5	障がいに応じたスポーツの実施②卓球・STT (実技) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
6	障がいに応じたスポーツの工夫③スキー (演習) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
7	障がいに応じたスポーツの実施③スキー (実技) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
8	障がいに応じたスポーツの工夫③スキー (実技) (担当：荒井)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
9	障がいに応じたスポーツの実施④ソフトボール (実技) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
10	障がいに応じたスポーツの工夫⑤フットベースボール (演習) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
11	障がいに応じたスポーツの実施⑤フットベースボール (実技) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
12	障がいに応じたスポーツの工夫⑥フライングディスク (演習) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
13	障がいに応じたスポーツの実施⑥フライングディスク (実技) (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
14	障がいに応じたスポーツの工夫⑦その他 (演習) 学外実習 (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
15	障がいに応じたスポーツの実施⑦その他 (実技) 学外実習 (担当：米野)	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)
16	学外実習 まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック	事前にシラバスを読んで確認し、テキストで予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	2		
開講時期	4 Q	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技, 実験	必修・選択	選択
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴と システム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本講義ではICTについて、基礎から応用までわかりやすく解説する。内容としてはコンピューター、ネットワーク、文字・画像・音声などのデータの取り扱いに加え、セキュリティや知的財産権なども視野に入れ、その応用面についても解説し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

- ・コンピューターとネットワークで使われる基礎的な用語が理わかる。
- ・コンピューターとネットワークの動作の仕組みと特性がわかる。
- ・さまざまな形式のデータを組み合わせ、セキュリティや知的財産権に配慮しつつ有効に活用できる。
- ・ネットに関するモラルやマナーについて知り、安心安全に利用できる。

授業全体の内容と概要

前半は、ICTの基礎知識をテーマ別に、講義と演習を交えながら理解する。
後半では、ICTの総合的な知識を応用利用して課題解決に取り組み、その解決法を全員にプレゼンテーションして共有する形で学びを広める。

授業の方法

授業の
1回目ではオリエンテーション。
2回目からは12回目までは個々のテーマについて、説明（講義）の後、各個人で演習・実験または調査を行い学びを深める。
3回目から15回目までは総合演習として、出された課題をグループで解決し、その手法を全員にプレゼンテーションすることで共有し、学びを深める。
16回目はまとめの回とする。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
- ・公欠や病気などやむを得ない事情による欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。
30分未満の遅刻・早退は出席0.5回分として扱い、30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
いずれの授業回も授業結果の課題・作品またはレポートの提出があるので、確実に出席して取り組んでほしい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋敷項目を超えたレベルを達成している	屋敷項目をほぼ達成している	屋敷目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピューターとネットワークの基礎知識 用語と基本的な概念（OS、ハードウェア、ファイルシステム、ネットワークの基本）の理解度	専門的な概念（通信プロトコル、VPN、クラウド技術など）を応用的に説明でき、実際のネットワーク設定も適切に行える。	専門的な概念（通信プロトコル、VPN、クラウド技術など）を応用的に説明でき、実際のネットワーク設定も適切に行える。	基本用語の理解に一部不足があるが、ネットワークの動作や仕組みについて概ね説明できる。	主要な用語（LAN、WAN、Wi-Fi、プロトコル等）の説明ができるが、ネットワーク設定には不安がある。	主要な用語や基本概念を理解しておらず、ネットワークの仕組みを説明できない。
データの取り扱いと活用 画像・音声・動画データの編集、ファイル形式の選択、データの圧縮・変換・整理能力	さまざまなデータ形式の特性を理解し、適切な方法で加工・編集・圧縮し、応用的な活用ができる。	画像・音声・動画データの編集や圧縮を正しく行い、適切なファイル形式を選択できる。	基本的なデータ編集・圧縮はできるが、形式の選択や加工に改善の余地がある。	指示された範囲でのデータの変換・編集はできるが、応用的な作業には対応できない。	データの編集や圧縮が適切にできず、ファイル形式の違いも理解していない。
セキュリティと知的財産権への配慮 適切なセキュリティ対策（パスワード管理、フィッシング対策、ファイアウォール設定など）、著作権・肖像権の理解度	セキュリティと知的財産権に関する高度な知識を持ち、適切なリスク管理ができる。実際にセキュリティソフトやVPNを設定できる。	一般的なセキュリティ対策（強力なパスワード管理、フィッシング詐欺の回避など）ができ、知的財産権のルールを遵守できる。	基本的なセキュリティ対策は理解しているが、一部対応が不十分な点がある。	指示されたセキュリティ設定や対策は実施できるが、応用的なリスク管理ができない。	セキュリティの重要性を理解しておらず、知的財産権の概念も守れていない。
ネットモラル・マナーと安心安全な利用 SNSのリスク管理、個人情報との適切な付き合い、ネット上のトラブル回避能力	ネットモラルやマナーに対する深い理解があり、適切な情報発信ができる。また、実際のトラブルケースに対する適切な対応策を示せる。	一般的なネットマナーを守り、安全な利用ができる。トラブル防止の知識も十分にある。	基本的なネットリテラシーは身につけているが、一部不適切な対応が見られる。	指示されたルールは守れるが、自主的なリスク回避の意識が低い。	指示されたルールは守れるが、自主的なリスク回避の意識が低い。
演習課題（実技の達成度） 実習でのスキル習得（Webサイト作成、クラウドアプリ活用、プログラム作成）	実習課題を高いレベルで達成し、独自の工夫を加えて、WebサイトやCSSを適用するなどの応用ができる。	指示された課題（Webサイト作成、クラウドアプリ活用、プログラム作成）を適切にこなし、一定の完成度に仕上げられる。	課題は概ね達成できているが、一部ミスや未完成の部分がある。	課題は概ね達成できているが、一部ミスや未完成の部分がある。	課題の達成が不十分で、指示通りに実行できていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2			
開講時期	4 Q	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技, 実験	必修・選択	選択	
科目名称	ICTスキル演習Ⅰ (科目ナンバリング:)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴と システム構築に必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバス確認 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 受講上の注意事項 授業全体の流れ	シラバス確認をする (90分)	授業内容の復習をする (90分)
2	コンピュータのシステム設定 ハードウェアとソフトウェア・OS アプリケーションの追加と削除	コンピュータのハードウェアとOSを調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
3	ファイルシステム 記憶装置の種類 ファイルとディレクトリ 命名規則と拡張子 アーカイブ形式	記憶装置とは何か、記憶装置の種類を調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
4	テキストデータの取り扱い 文字コードと改行コード 機種間の互換性問題 検索・置換と正規表現	文字コードを調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
5	画像データの取り扱い 画像表示の仕組み ファイル形式 データ圧縮について	JPEG形式について調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
6	音声データの取り扱い 音声のデジタル化 ファイル形式 デジタル・アナログ変換 CODEC	音楽CDの成り立ちを調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
7	動画データの取り扱い 動画表示のデジタル化 ファイル形式 コンテナ CODEC	デジタルビデオの記録の仕組みについて調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
8	コンピュータネットワーク LANとは Wi-Fi設定 (SSID、暗号化、他) ネットワーク診断 (ping、tracertの使い方)	イーサネット (Ethernet) について調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分) Ether
9	インターネットとWebサイト 歴史 仕組み 各種サーバーの役割 Webサイトの仕組み (HTMLとCSS、Javascript、)	Webの歴史を調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
10	情報セキュリティ 不正アクセスと情報漏洩 パスワード管理の重要性 マルウェア	直近の情報、漏洩事件について調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
11	実践的なAI活用 文章要約や翻訳、画像生成AI AI活用のメリット・デメリットの考察	生成AIにはどのような種類があるか調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
12	情報倫理と知的財産権 ネットで起きているトラブルの理解と被害防止について	ネットモラル、マナーについて調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
13	総合演習 (1) 学習内容の応用的利用「Webサイトの作成 (HTML)」	Webサーバーについて調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
14	総合演習 (2) 学習内容の応用的利用「クラウドアプリ (Office365) の活用」	Office365のクラウド版とデスクトップ版の違いを調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
15	総合演習 (3) 学習内容の応用的利用「簡単なプログラムを作成する (Excel VBA)」	Excel上のプログラミングについて調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	(90分)	授業内容の復習をする (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ (科目ナンバリング：DMB543119)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：高井 雅一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する					

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育科教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

-

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態に応じた効果的な授業設計をすることができる。

授業全体の内容と概要

- ・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
- ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。
- ・授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
- 「SDG4」質の高い教育を目指す。

授業の方法

- ・各回のテーマに関してプリン等をを使用して説明を行う。
- ・各テーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。
- ・各自がパソコンを使用し、計画案の作成を協力し合い実施する。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・講義で配布するプリント類や課題プリントはファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
- ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等の中に入れておくこと。但し、指示のある場合は可。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１２回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の目的・目標についての認識・理解できる	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（9割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（8割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（7割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できた。	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できなかった。
保健体育科教育の意義や基本的構造に基づく授業設計ができる	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（9割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（8割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（7割）	保健体育科教育の意義や基本的構造について考え授業設計を身につけた。	保健体育科教育の意義や基本的構造について考えて授業設計ができなかった。
意見交換における主体性・協働性を身につける	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（9割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（8割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（7割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換できた。	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ (科目ナンバリング: DMB543119)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編、体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	中学校の教科書
4	『現代高等保健体育 』	衛藤 隆 他	大修館	2024	9784469663198	高等学校の教科書
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	改訂の要点ついて簡単に説明できるようにしておく。 （90分）	改訂の要点を理解する。（90分）
2	保健体育科の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
3	中学「体育分野」、高等学校の科目「体育」の目標 と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
4	体育教育の今日的課題について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
5	指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
6	中学校の「体育分野」の領域と内容について (1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
7	中学校の「体育分野」の領域と内容について (2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
8	高等学校の科目「体育」の領域と内容について (1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
9	高等学校の科目「体育」の領域と内容について (2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
10	選択授業・男女共習授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
11	効果的な指導を実践するための情報機器の活用及び 教材の選び方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
12	年間指導計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
13	各種目の単元計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
14	体育授業の指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
15	体育授業の評価と方法について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分なりの進め方をま とめておく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容の復習（90分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2018		
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2019		
3	『中学校・高等学校体育科教育法』	白旗和也・岡出美則・今関豊一	建帛社	2022		
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・ブログ	対象学科・配当	1年～4年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	介護職員初任者研修プログラム (科目ナンバリング：SWS091070)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科教員、外部講師		研究室等所在	各担当教員研究室		
単位数	4 (単位認定責任者： 社会福祉学科・吉江幸子（教授）・社会福祉学科・櫻井美帆子（准教授）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	介護保険法に定める介護福祉施設等の勤務経験がある教員が、実際の介護現場の事例等を通して研修講義と演習授業を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
介護の基礎知識・スキルを身に付け、入門資格取得を目指す。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP 2、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
・在宅介護、施設介護を問わず、基本的な介護業務の基礎知識・スキルが身に付く。 ・この研修の学びから、将来の職業選択の際の判断材料とする。							
授業全体の内容と概要							
この研修は、星槎道都大学と社会福祉法人北海長正会の連携により実施するものであり、講師は大学教員及び北海長正会職員が務める。講義と演習で構成された研修を行い、修了後、希望者は同法人の施設見学や体験実習等が可能となる。なお、本研修は、北海道介護職員初任者研修等実施要綱に基づき、本学が定める研修規程に則って実施する。 研修修了者には、修了証書を交付する。							
授業の方法							
講義・演習を通して、介護の基礎知識、スキルを学習する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
受講料が必要。定員20人。定員に達し次第、締め切る。また、定員が10人に満たない場合、研修を中止する場合がある。 他、受講生が欠席等（遅刻・早退含む）した場合、補講を行う。 自己都合による欠席で補講を行う場合、補講料が発生する。 北海道介護職員初任者研修等実施要綱に基づき、本学が定める研修規程に則って実施する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生（受講者）・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

修了日程の最終日に、修了試験（筆記試験）がある。この試験は、100点満点中60点以上が合格となり、不合格の場合は、合格するまで試験を行う。

修了認定は、添削課題の合格・スクーリング全日程への出席・介護技術の習得度の評価・修了試験合格により、認定される。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	0%	40%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
介護の基礎知識・スキル等の理解	介護の基礎知識・スキル等について、学修した知識・技能を基盤に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	介護の基礎知識・スキル等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	介護の基礎知識・スキル等について必要な知識・技能を理解できた。	介護の基礎知識・スキル等についての知識・技能を一定程度理解できた。	介護の基礎知識・スキル等について、理解が不十分だった。	
介護の基礎知識・スキル等に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	介護の基礎知識・スキル等について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	介護の基礎知識・スキル等について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	介護の基礎知識・スキル等について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとする事ができた。	介護の基礎知識・スキル等について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	介護の基礎知識・スキル等について、理解が不十分だった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。	

基本情報

科目分類区分	サブメジャー・ブログ	対象学科・配当	1年～4年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	介護職員初任者研修プログラム (科目ナンバリング：SWS091070)					
授業担当者 (所属・職名)	社会福祉学科教員、外部講師		研究室等所在	各担当教員研究室		
単位数	4 (単位認定責任者： 社会福祉学科・吉江幸子（教授）・社会福祉学科・櫻井美帆子（准教授）)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	介護保険法に定める介護福祉施設等の勤務経験がある教員が、実際の介護現場の事例等を通 じて研修講義と演習授業を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『介護職員初任者研修研修 テキスト1 第4版 介護のしくみの基礎』	太田貞二 上原千寿子 白井孝子	中央法規	2023	978-4-8058-8781-3	
2	『介護職員初任者研修研修 テキスト2 第3版 自立に向けた介護の実践』	太田貞二 上原千寿子 白井孝子	中央法規	2023	978-4-8058-8781-3	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション (当該科目を履修して「身に付く力」の説明を含む)	教科書の目次と関心のある部分に目を通す（90分）	ノートを整理する。（90分）
2	介護における尊厳の保持・自立支援、介護の基本他	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
3	介護におけるコミュニケーション、障害の理解他	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
4	老化の理解・認知症の理解他	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
5	こころとからだのしくみと生活支援技術1. 2	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
6	こころとからだのしくみと生活支援技術3	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
7	生活支援技術の講義・演習1	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
8	生活支援技術の講義・演習2	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
9	生活支援技術の講義・演習3	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
10	生活支援技術の講義・演習4	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
11	生活支援技術の講義・演習5	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
12	生活支援技術の講義・演習6	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
13	生活支援技術の講義・演習7	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
14	介護過程の基礎的理解	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
15	総合生活支援技術演習	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。 (90分)	ノートを整理する。（90分）
16	振り返り／筆記試験と解説（修了して「身に付く力」の検証）	全体の復習。（90分）	試験で間違えた部分を復習する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (科目ナンバリング：SWS123023)				
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：畠山 明子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標							
①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
①地域生活課題が起こる背景について、近年の社会動向を踏まえて説明できる。 ②地域福祉の歴史的な変遷について、その時代背景とともに説明できる。 ③福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について理解する。 ④地域福祉を下支える福祉行政システムについて理解する。							
授業全体の内容と概要							
①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。 ③地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」、「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式となるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。 ②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。 ③第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で実施）。 ④授業資料の配信等において、Microsoft Teamsを活用する。 ⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。ただし、保育士養成課程学生については対面での補講等を実施する。 ⑥地域福祉実践を行う外部講師による講義も予定している。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①教科書は毎回持参すること。 ②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。 ③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。 ④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	３０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を概したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①地域生活課題が起こる背景について、近年の社会動向を踏まえて説明できる。	近年の社会動向を踏まえて、地域生活課題が起こる背景について、具体的に説明・記述できた。	近年の社会動向を踏まえて、地域生活課題が起こる背景について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、近年の社会動向を踏まえて地域生活課題が起こる背景について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	近年の社会動向を踏まえて、地域生活課題が起こる背景について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②地域福祉の歴史的な変遷について、その時代背景とともに説明できる。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、具体的に説明・記述できた。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	時代背景とともに地域福祉の歴史的な変遷について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について理解する。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、具体的に説明・記述できた。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、おおむね具体的に説明・記述できた。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	福祉計画が示すものやその種類、社会福祉専門職における福祉計画について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④地域福祉を下支える福祉行政システムについて理解する。	地域福祉を下支える福祉行政システムについて、具体的に説明・記述できた。	地域福祉を下支える福祉行政システムについて、おおむね具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、地域福祉を下支える福祉行政システムについて、具体的に説明・記述できた。	関連するキーワードを提示することにより、地域福祉を下支える福祉行政システムについて、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	地域福祉を下支える福祉行政システムについて、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (科目ナンバリング：SWS123023)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：		畠山 明子)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規	2 0 2 1 年	978-4-8058-8236-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力1」についての説明、地域社会の変化と多様化・複	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	地域福祉の基本的な考え方①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	地域福祉の基本的な考え方②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	地域福祉の基本的な考え方③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	地域福祉の基本的な考え方④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	福祉計画の意義と種類、策定と運用①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	福祉計画の意義と種類、策定と運用②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	福祉計画の意義と種類、策定と運用③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り、福祉計画の意義と種類、策定と運用④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	福祉行政システム①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	福祉行政システム②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	福祉行政システム③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	福祉行政システム④	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説）、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力1」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	知的障害者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122104)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：堀川厚志)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
知的障害児に対する教育を効果的に行うために必要な心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容を理解し、指導上の基礎的な配慮事項等を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目							
到達目標							
知的障害児者の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容がわかる。 知的障害児に対する指導上の基礎的な配慮事項や指導の在り方について、少人数で検討、協議して考えを整理することができる。							
授業全体の内容と概要							
基本的な内容としては、知的障害に関する定義、原因、医学的分類、状態像の把握（アセスメント、心理検査）、関連障害（染色体異常、代謝異常、自閉スペクトラム症等の発達障害）、認知処理過程（感覚、知覚、記憶等）、身体と運動発達、言語の獲得等について、一般的な定型発達との比較及び教育的な対応の視点から説明する。 「SDGs 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、プレゼンテーションソフトによるスライド資料提示と説明、資料配布による講義形式を主とする。 授業前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。 資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。 内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。 授業後半には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。 Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。 学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内容に関するプレゼン資料の提示や、レポート課題の出題、毎時間的小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上とする。 中間時期に提示する課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	0%	0%	10%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を一定程 度、理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を部分的に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	知的障害者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122104)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：堀川厚志)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション (シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の 説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、知的	シラバスを読む (9 0分)	内容を振り返る (9 0分)
2	知的障害の用語と定義について	用語の使用と定義を調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
3	知的障害の原因と医学的分類について	原因と医学的分類を調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
4	知的障害児のアセスメントについて	アセスメントについて調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
5	知的障害児に対する教育的な活用を考慮した心理検 査について	心理検査について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
6	知的障害に関連した障害（染色体異常）について	染色体異常について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
7	知的障害に関連した障害（代謝異常）について	代謝異常について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
8	知的障害に関連した障害（自閉スペクトラム症等の 発達障害）について	自閉スペクトラム障害について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
9	知的障害児の認知特性について	認知特性について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
10	知的障害児の知覚特性について	知覚特性について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
11	知的障害児の知能について	知能について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
12	知的障害児の記憶について	記憶について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
13	知的障害児の身体と運動について	身体と運動について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
14	知的障害児の言語の理解と表出について	言語について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
15	知的障害児の言語の獲得について 講評・フイー ドバック 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善ア	言語について調べる (9 0分)	重要事項を整理する (9 0分)
16	定期試験 (6 0分間の筆記テスト、終了後1 5分間の解答の 解説実施)	全内容・資料を整理する (9 0分)	全内容を振り返る (9 0分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育 総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	グラフィックデザインⅡ (科目ナンバリング：DES222023)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識や技術を身に付ける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。							
授業全体の内容と概要							
日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。							
授業の方法							
情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。 その後情報公開するための全体計画を“効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション”するための制作をデジタル環境で行う。 後半においては自らが強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。 メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。 制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。 ChatGPTやCANVAなどの生成AIを積極的に活用させる。 質問には随時対応する。 不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。 グラフィックデザインⅠと同様にAdobe IllustratorとPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身につけていなければならない。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は26回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを情報メディアとして捉え、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報の投下可能な能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報の投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につかなかった。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能なレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「社会性、公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以てのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	グラフィックデザインⅡ (科目ナンバリング：DES222023)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	グラフィックデザイナーの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス 「情報とは何か？」	シラバスの確認 (90分)	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく (90分)
2	「視覚化すべき情報の選択」	シラバスの確認 (90分)	「情報の選択」を終えておく (90分)
3	デザインと生成AI①	シラバスの確認 (90分)	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと (90分)
4	デザインと生成AI②	シラバスの確認 (90分)	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成 (90分)
5	デザインを実装するためには？	シラバスの確認 (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
6	デザインを実装するためには？	シラバスの確認 (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
7	「企画立案」① 企画書の作成	シラバスの確認 (90分)	企画書完成に必要な準備を終えておく (90分)
8	「企画立案」② 企画書の作成	シラバスの確認 (90分)	次週授業開始時までに完成提出できるよう進捗の調整を行う (90分)
9	「企画立案」③ 企画書の作成	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく (90分)	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく (90分)
10	「企画立案」④ 企画書の完成	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく (90分)	ラフ案 (3案) を計画しておく (90分)
11	「コピーとビジュアルの作成」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく (90分)	ラフ案作成に必要な準備を終えておく (90分)
12	「コピーとビジュアルの作成」② 再ラフ案	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (45分)
13	「コピーとビジュアルの作成」③ 再タラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)
14	「コピーとビジュアルの作成」④ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)
15	「コピーとビジュアルの作成」⑤ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)
16	「コピーとビジュアルの作成」⑥ 最終ラフ作成～提出	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	「コピーとビジュアルの作成」⑦ プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備 (90分)	他者の作例を研究する (90分)
18	「コピーとビジュアルの作成」⑧ プレゼンテーションと講評～今後の展開	他者の作例を研究する (90分)	他者の作例を研究する (90分)
19	メディア化にあたっての留意点について	制作すべきメディアを決めておく (90分)	制作すべきメディアを決めておく (90分)
20	コピーとビジュアルの用法の試案	デザイン計画 (90分)	デザイン計画 (90分)
21	「メディアコンテンツの制作」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく (90分)	ラフ案の制作 (90分)
22	「メディアコンテンツの制作」② 修正作業	ラフ案の制作 (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
23	「メディアコンテンツの制作」③	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)
24	「メディアコンテンツの制作」④ 修正作業	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
25	「メディアコンテンツの制作」⑤ 再タラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)
26	「メディアコンテンツの制作」⑥	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
27	「メディアコンテンツの制作」⑦	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
28	「メディアコンテンツの制作」⑧ 制作	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う (90分)
29	「メディアコンテンツの制作」⑨ 制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく (90分)	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく (90分)
30	「メディアコンテンツの制作」⑩ 完成	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく (90分)	次週授業開始時までに完成提出できるよう進捗の調整を行う (90分)
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく (90分)	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく (90分)
32	講評 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認 (90分)	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認 (90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅲ (科目ナンバリング：APT323021)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸（建築学科・専任講師）、野村 和也（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
小中規模の建築の計画と条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨ををわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。							
授業全体の内容と概要							
公共建築を成立させるためには、思い付きのアイデアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通じて、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action)を回す過程でアイデアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。 「SDGs12 つくる責任、つかう責任」 「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」							
授業の方法							
授業では、板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action)を自主的に行うこと。 授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ：自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性：与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力：考えや設計内容をダイアグラムやバース、模型を用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができたか。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅲ (科目ナンバリング：APT323021)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)、野村 和也 (建築学科・非常勤講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業の進め方、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	課題1 小さな公共建築 課題説明	プリントを読んで理解しておくこと (90分)	課題のプリントを読み、デザイン検討する (90分)
3	課題1 エスキスチェック①	デザインしたものを表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
4	課題1 エスキスチェック②	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
5	課題1 発表・質疑応答・課題2 発表	デザインを改善し、表現する (90分)	講評会の内容をまとめる (90分)
6	課題2 課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	現地見学のポイントをピックアップする (90分)
7	課題2 敷地 見学会	取り組みスケジュールを作成する (90分)	敷地調査結果をまとめてデザインアイデアを作成する (90分)
8	課題2 中間指導① (エスキスチェック：コンセプトと全体計画)	アイデアをカタチにし、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
9	課題2 中間指導② (エスキスチェック：コンセプトと全体計画)	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
10	課題2 中間指導③ (エスキスチェック：ランドスケープと平面計画)	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
11	課題2 中間指導④ (エスキスチェック：平面計画と断面構成)	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
12	課題2 中間指導⑤ (エスキスチェック：平面計画と断面構成)	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
13	課題2 中間指導⑥ (エスキスチェック：作図ダイアグラム プレゼンテーション)	デザインを改善し、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
14	課題2 中間指導⑦ (エスキスチェック：作図ダイアグラム プレゼンテーション)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む (90分)
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる (90分)	改善点をまとめる (90分)
16	合同発表会、総括及びフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	プレゼンテーションにまとめる (90分)	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング：BSW323029)				
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに建設業者である民間企業での勤務経験を活か し、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。
やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング：BSM323029)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに建設業者である民間企業での勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明 (小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
2	工事契約と品質保証	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
3	工事監理	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
4	施工業務	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
5	内外装の仕上げ工事：防水と屋根工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
6	内外装の仕上げ工事：左官工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
7	内外装の仕上げ工事：タイル工事・石工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
8	内外装の仕上げ工事：塗装工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
9	内外装の仕上げ工事：ガラス工事・建具工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
10	内外装の仕上げ工事：内装工事・断熱工事	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
11	建築物の維持管理 (改修工事)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
12	建築物の維持管理 (設備工事)	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
13	積算	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
14	建築廃棄物の有効利用法 (リサイクル法) ほか	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する (90分)	授業内容を整理して、復習する (90分)
16	定期試験 (60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)、授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施、科目を修了し	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える (90分)	定期試験内容を整理して、復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング:SPS422073, SPS522058)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深めさせるように講義をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践の応用について理解することができる。

授業全体の内容と概要

アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（実施上の留意点，進め方）。予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説、アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチドーピング（ドーピング防止とドーピングコントロール）。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。
「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツコーチングリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力があつた程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力があつた程度身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング：SPS422073, SPS522058)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)、三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについて基礎的な科学的知識を深めさせるように講義をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSP0	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく (90分)	ガイダンスの内容を理解しておく (90分)
2	指導者の心構え・視点 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
3	スポーツと健康・アスリートの健康管理 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
4	アスリートの内科的障害と対策 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
5	女性アスリートの障害と対策 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
6	スポーツによる精神障害と対策 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
7	外傷・障害の予防 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
8	コンディショニングの手法、ストレッチング・アイシング (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
9	コンディショニングの手法、テーピング基本 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
10	救急処置、救急蘇生法 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
11	救急処置、外科的応急処置 (佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
12	アンチドーピング (三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
13	コーチング環境の特徴 (三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
14	スポーツ組織のマネジメント (三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
15	障がい者とスポーツ (三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく (90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく (90分)
16	まとめ・授業改善アンケートの実施 (三嶋康嗣) 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノート、プリントで講義内容を確認しておく (90分)	専門用語の意味や授業内容を理解しておく (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	基幹科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	2 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共マネジメント論 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山本一彦（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者： 山本 一彦）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

概要

履修目標							
地域ガバナンスの意味を知り、公共性を担うさまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解する力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもつ。							
授業全体の内容と概要							
地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかかわりをとり上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。							
授業の方法							
授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を充分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	基幹科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	2 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共マネジメント論 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山本一彦（経営学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者： 山本 一彦）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス・・・全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法、シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度履修	シラバス内容事前確認（90分）	目的とねらいについての復習・確認（90分）
2	I. 地域ガバナンスの視点 1. 高度産業化と地域社会の変貌 ・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察（90分）	価値社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解（90分）
3	I. 地域ガバナンスの視点 2. 地域ガバナンスとは何か？	地域がガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察（90分）	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解（90分）
4	II. 地域ガバナンスのアクター 1. 多様なマネジメント主体と公共性の担い手	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察（90分）	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解（90分）
5	II. 地域ガバナンスのアクター 2. 地方政府	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察（90分）	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解（90分）
6	II. 地域ガバナンスのアクター 3. 民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察（90分）	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解（90分）
7	III. 現代のサードセクター 1. 社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察（90分）	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解（90分）
8	III. 現代のサードセクター 2. ボランタリー・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認（90分）	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解（90分）
9	III. 現代のサードセクター 3. ワーカーズ・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察（90分）	ワーカーズコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解（90分）
10	III. 現代のサードセクター 3. ワーカーズ・コレクティブ ・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカーズコレクティブの役割についての事前考察（90分）	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解（90分）
11	IV. 内発的地域振興に向けて 1. 社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察（90分）	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解（90分）
12	IV. 内発的地域振興に向けて 2. 「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察（90分）	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解（90分）
13	IV. 内発的地域振興に向けて 2. 「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察（90分）	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解（90分）
14	IV. 内発的地域振興に向けて 3. 北海道の内発的發展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかについての事前考察（90分）	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解（90分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック（90分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（90分）
16	※試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備（90）	解説内容の確認・理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営学科スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義		必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：DMB543120)					
授業担当者 (所属・職名)	森 靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者：森 靖明）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割を理解し、学習指導の基本・実務的事項を身に付けることを目的とする。また、保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について修得する。							
授業の位置づけ							
-							
到達目標							
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。							
授業全体の内容と概要							
カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。「SDGs 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
学校教育の動向、中学校及び高等学校の保健体育科の学習内容に関してはパワーポイント及び学習指導要領解説を用いながら行い、授業づくりについてはグループワークを行いながら検討し、最終的に模擬授業を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻は講義開始後10分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。6回以上欠席した者は単位認定不可。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
復習を中心に毎回の授業内容を自分で保健体育の授業づくりに応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次の授業に向けた予習時間を確保するようにする。授業づくりに係る学習指導案作成、教材作成と模擬授業を実践できる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%（指導案）	50%（模擬授業）	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中学校及び高等学校保健体育科教育の目的・目標と評価との関わりについて理解する。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に明確に整理することができていた。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に整理することができていた。	保健体育科の目標と評価の観点について、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら説明できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について列挙できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について想起することができていなかった。
中学校及び高等学校保健体育科教育に関わる学習指導の基本・実務的事項について理解する。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報と関連づける必要な情報を列挙しながら模範を持って説明し、学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報を列挙しながら学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、学習指導要領解説から学年ごとに抜き出して整理することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について列挙することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について想起することができていなかった。
保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術を用いて授業実践できる。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案や教材を作成して模擬授業を実践できるとともに、他者の授業に対しても批判的視点で評価することができていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模範授業を実践できるとともに、他者の授業および教材と比較し、違いについて理解できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案および教材を使用して模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模範授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして学習指導案を作成、模擬授業を実践できていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営学科スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義		必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法Ⅱ (科目ナンバリング：DMB543120)					
授業担当者 (所属・職名)	森 靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：森 靖明)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	保健科教育の変遷	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	「保健」の担当教師に求められる能力	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	保健科教育の内的・外的条件	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	保健科教育の目標	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	「保健」の学習内容	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	保健学習を効果的にすすめるための教材作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	保健学習の評価	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	学習指導案の作成 学習指導の様式と指導計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	学習指導案の作成Ⅰ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	学習指導案の作成Ⅱ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	学習指導案の作成Ⅲ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	模擬授業Ⅰ ー中学校および高等学校(保健)ー	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	模擬授業Ⅱ ー中学校および高等学校(保健)ー	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	模擬授業Ⅲ ー中学校および高等学校(保健)ー	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	模擬授業Ⅳ ー中学校および高等学校(保健)ー、 講義のフィードバック 授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説ー保健体育編ー』	文部科学省	東山書房	平成30年	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領解説ー保健体育編ー』	文部科学省	東山書房	平成31年	9787-4-8278-15689-9	
3	『新しい保健体育』	戸田 芳雄他	東京書籍	2021	978-4487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆他	大修館	2022	978-4469663198	
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3，4年生			
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	公務員試験対策プログラム (科目ナンバリング：HLS093071)					
授業担当者 (所属・職名)	公務員講座担当教員・東京アカデミー札幌校講師		研究室等所在	星槎道都大学		
単位数	2	(単位認定責任者：各学科キャリア支援委員担当教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	キャリア支援センターにて対応					

概要

履修目標 様々な公務員試験に対応できるように学ぶ							
授業の位置づけ 全学科のDP 1、DP 2、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標 公務員試験の現状を理解するとともに、自身が目標とする自治体等に採用される事を目標とする。							
授業全体の内容と概要 英語や地理、歴史などの一般知識をはじめ、公務員講座では必須となる数的推理や判断推理などの一般知能を学習する。							
授業の方法 複数の担当教員と東京アカデミー講師で授業を進める。本科目は出席を重視し、欠席可能回数は2回までとしこれを超えた場合は単位認定の対象としない。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 3年生、4年生のみが単位認定の対象となり、30回以上出席をした学生は4年次に単位が付与される。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は30回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	60%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	中間テストで70点以上の得点を挙げた	中間テストで60点以上の得点を挙げた	中間テストで50点以上の得点を挙げた	中間テストで40点以上の得点を挙げた	中間テストで40点をクリアすることができなかった	
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、質問なども具体的にできている。	授業に取り組み、質問などもある程度できる	授業に取り組む姿勢に努力が見られる。	授業に取り組む姿勢に努力は見られるが、講座の意図を理解していない。	授業に取り組む姿勢に不十分であり、講座の意図を理解していない	
主体性	自身の将来像が具体的に見え、自らがその方向性に向かって努力している	自身の将来像が見え、努力をしようとしている。	自身の将来が見えていないが努力をしようとしている。	自身の将来を考えていないが、情報収集はしている。	自身の将来を考えておらず、情報収集等もする気がない。	

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3，4年生			
開講時期	通年	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	公務員試験対策プログラム (科目ナンバリング：HLS093071)					
授業担当者 (所属・職名)	公務員講座担当教員・東京アカデミー札幌校講師		研究室等所在	星槎道都大学		
単位数	2	(単位認定責任者：各学科キャリア支援委員担当教員)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	キャリア支援センターにて対応			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基礎力養成・完成テキスト』	東京アカデミー				
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本講座の目的や趣旨の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスの確認(45分)	当該授業テキストの確認(45分)
2	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
3	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
4	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
5	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
6	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
7	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
8	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
9	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
10	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
11	担当教員により授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
12	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
13	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
14	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
15	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
16	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
18	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
19	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
20	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
21	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
22	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
23	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
24	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
25	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
26	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
27	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
28	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
29	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
30	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
31	東京アカデミー講師による授業	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)
32	東京アカデミー講師による授業 講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	当該授業のテキスト確認(45分)	次回授業のテキスト確認(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123024)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：畠山 明子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。

②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。

③地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。

④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。

⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。

⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

①包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、その時代背景を踏まえて説明できる。

②「地域福祉ガバナンス」について、その必要性について理解する。

③地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、説明できる。

④災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割を理解する。

授業全体の内容と概要

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。

②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。

③地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。

④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。

⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。

⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式となるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。

②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。

③第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。

④授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。

⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。ただし、保育士養成課程学生については対面での補講等を実施する。

⑥地域福祉実践を行う外部講師による講義も予定している。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。

②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。

③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。

④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト（30点）、第16回目に実施する定期試験（70点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、その時代背景を踏まえて説明できる。	時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、具体的に説明・記述できた。	時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより時代背景を踏まえて包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、おおむね説明・記述できた。	時代背景を踏まえた包括的支援体制に向かう歴史的な政策の展開について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②「地域福祉ガバナンス」について、その必要性について理解する。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、具体的に説明・記述できた。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより「地域福祉ガバナンス」の必要性について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより「地域福祉ガバナンス」の必要性について、おおむね説明・記述できた。	「地域福祉ガバナンス」の必要性について、関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、説明できる。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、具体的に説明・記述できた。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について、おおむね説明・記述できた。	地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景とその展開について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割を理解する。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、具体的に説明・記述できた。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、おおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について、おおむね説明・記述できた。	災害・防災における地域福祉と社会福祉専門職の役割について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123024)					
授業担当者 (所属・職名)	畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：畠山 明子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2 0 2 1 年	978-4-8058-8236-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明、地域福祉と包括的支援体制	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰの復習②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	地域福祉ガバナンスと多機関協働①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	地域福祉ガバナンスと多機関協働②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	地域福祉ガバナンスと多機関協働③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	地域を基盤としたソーシャルワークの展開①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り、地域を基盤としたソーシャルワークの展開②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	地域を基盤としたソーシャルワークの展開③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	災害時における総合的かつ包括的な支援体制①	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	災害時における総合的かつ包括的な支援体制②	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	災害時における総合的かつ包括的な支援体制③	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122113)				
授業担当者 (所属・職名)	室岡 弘明 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 室岡 弘明)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。				

概要

履修目標						
聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等を踏まえた聴覚障害教育の内容・方法について理解する。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
聴覚障害の状態や特性及び心身の発達段階等を踏まえた聴覚障害教育の内容・方法について理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。						
授業全体の内容と概要						
聴覚障害の起因となる聴覚器官の病理面と心理面及び生理面の特徴と幼児、児童又は生徒一人一人の間こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達について説明する。また、特別支援学校（聴覚障害）の教育課程や指導における配慮事項について具体的な事例を取り入れて説明する。 「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目						
授業の方法						
授業は、パワーポイントや実際の授業映像（DVD）および配布資料で実施し、説明した後、ディスカッションし、レポート提出を行う。なお、レポートはコメントにてフィードバックする。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
教職課程（特別支援）必修科目なので遅刻や欠席をしないように努めること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。
試験結果やレポートの提出状況、授業の取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	10%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122113)					
授業担当者 (所属・職名)	室岡 弘明 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	I号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者： 室岡 弘明)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応について指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 聴覚障害とは	シラバスを確認し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
2	特別支援学校（聴覚障害）の教育の実際	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
3	聴覚障害のある幼児、児童又は生徒が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
4	聞こえのしくみと聴覚障害の分類	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
5	聞こえと聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
6	オージオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
8	聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の発達の特性（発達と心理）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
10	聴覚障害教育の歴史的経過（1）～欧米について	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
11	聴覚障害教育の歴史的経過（2）～日本について	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
14	保護者への支援	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
15	聴覚障害教育の実際、まとめ 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
16	試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。フィードバック） 科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義資料等で講義内容を整理する。（90分）	試験の結果を見直す。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実例』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2	『聴覚障害教育の手引』	文部科学省	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-562-2	
3	『聴覚障害教育のこれまでとこれから』	脇中起余子	北大路書房	2009	978-4762826900	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222026)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事					

概要

履修目標							
モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
プロダクトデザイナーとしてモノ、コトの見方、考え方、発想法、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術を習得する。							
授業全体の内容と概要							
デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。							
授業の方法							
課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
積み重ねの授業ですので、欠席するといいていけなくなる。欠席しないように。 履修者は鉛筆（ハイユニ4H～4B）、PM-PAD A3(マーカー用紙)、コピックマーカー（クールグレイC1～C8、黒）、パステル用意の事。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋がれた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを辛うじて出し、従来価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せない、従来の価値以上のものを作ることが出来なかった。
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて可視化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222026)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明プロダクトデザインとは	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
7	アイデアスケッチ 多様な方向でスケッチする	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
10	アイデアスケッチ2 改良し新しい価値を入れ込む	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
11	アイデアスケッチ2まとめ 第三者に伝えるように	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業、最終デザインの検討	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
14	デザイン作業 アイデアスケッチから起こす	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
15	デザイン作業 アイデアの中から気づきを探す	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
16	デザイン作業 コンセプトを決める	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 自分で評価を下す。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
18	デザイン再考 自分で否定して もう一度、再考する。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
19	デザイン修正 完成度を上げる。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
20	デザイン完成。 確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
21	レンダリング 特徴が出ているか？	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
22	レンダリング 構図は良いか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
23	レンダリング 使用する色味の吟味	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
24	レンダリング 適した手法か？	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
25	レンダリング 完成度をあげる	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
26	レンダリング 細かい調整	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
27	レンダリングを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝えるか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最後のチェック	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
31	プレゼンテーション 第三者の意見をしっかりと聞く。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅳ (科目ナンバリング：APT323022)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。卒業設計の準備として、社会や地域への問題意識をもって取り組むこと。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
中・大規模の建築の計画と条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨をわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。							
授業全体の内容と概要							
公共建築を成立させるためには、思い付きのアイデアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通じて、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action)を回す過程でアイデアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。 「SDGs1.2 つくる責任、つかう責任」 「SDGs1.1 住み続けられるまちづくりを」							
授業の方法							
授業では、板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action)を自主的に行うこと。授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ：自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をした。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性：与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力：考えや設計内容をダイアグラムやバース、模型などを用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができたか。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができた。	ダイアグラムやバース、模型などを用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	建築設計演習Ⅳ (科目ナンバリング：APT323022)					
授業担当者 (所属・職名)	向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の進め方、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	課題1「10年後の○○」 課題説明	プリントを読んで理解しておくこと（90分）	課題のプリントを読み、デザイン検討する（90分）
3	課題1 エスキスチェック①	デザインしたものを表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
4	課題1 エスキスチェック②	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
5	課題1 発表・質疑応答・課題2 発表	デザインを改善し、表現する（90分）	講評会の内容をまとめる（90分）
6	課題2 「30年後の○○」 課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめて提出する（90分）	現地見学のポイントをピックアップする（90分）
7	課題2 中間指導①（エスキスチェック：コンセプト）	取り組みスケジュールを作成する（90分）	敷地調査結果をまとめてデザインアイデアを作成する（90分）
8	課題2 中間指導②（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	アイデアをカタチにし、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
9	課題2 中間指導②（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
10	課題2 中間指導③（エスキスチェック：ランドスケープと平面計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
11	課題2 中間指導④（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
12	課題2 中間指導⑤（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
13	課題2 中間指導⑥（エスキスチェック：作図ダイアグラム プレゼンテーション）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
14	課題2 中間指導⑦（エスキスチェック：作図ダイアグラム プレゼンテーション）	課題について自分の考えを書面でまとめて提出する（90分）	エスキスの改善点をまとめて赤ペンで描き込む（90分）
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	改善点をまとめる（90分）
16	合同発表会、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションにまとめる（90分）	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	建築構造力学Ⅲ (科目ナンバリング: BSM323026)				
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに應用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できなかった。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択必修	
科目名称	建築構造力学Ⅲ (科目ナンバリング：BSM323026)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として、一般建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明 (小笠原	シラバス資料を確認して、構造力学Ⅰ・Ⅱの復習を行う。(90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明①	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明②	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
6	部材の変形 (ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角)	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
9	不静定構造物の応力 (重ね合わせの原理)	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
10	不静定ラーメン (分割・到達モーメント)	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
13	固有周期 (振動) のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
15	崩壊メカニズム (仮想仕事の原理)	配布資料の指定箇所の予習 (90分)	授業内容を整理して復習 (90分)
16	定期試験 (60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業	全体内容の再確認及び理解 (90分)	試験内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築構造テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツと栄養 (科目ナンバリング：SPS422072, SPS522057)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。 この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル） ・基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い、コンディショニングの維持が実際にできるようにする。（アカデミックスキル）							
授業全体の内容と概要							
スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また、トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。 SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連授業。							
授業の方法							
板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。 実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは5回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
・単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。 日本体育協会講習会科目#12、#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅲ」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる出席回数は全体授業数の3分の2以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	5%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業に意欲的に参加する事ができた。	授業に概ね意欲的に参加する事ができた。	授業に休まほ意欲的に参加する事ができた。	授業に意欲的に参加する事が少なかった。	授業に意欲的に参加する事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂと栄養 (科目ナンバリング：SPS422072, SPS522057)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：		湯浅 頼佳)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本学ディプロマ・ポリシーの説明 ゼミを履修し終了したときに「身に着く力」の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む。教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	シラバスを確認する。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考察する。(90分)
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
3	たんぱく質・筋肉づくり・主菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
6	スポーツと栄養（食事の摂り方・水分補給）(＃12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
9	アスリートの栄養摂取と食生活①(＃36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
10	アスリートの栄養摂取と食生活②(＃36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
11	アスリートの栄養摂取と食生活③(＃36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
12	アスリートの栄養摂取と食生活④(＃36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
15	まとめ(授業最終回において講評し、フィードバック実施。第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施)	今までの小テストについて確認をしておく。(90分)	整理したノートから試験範囲をまとめる。「身に着く力」について再度考察する。(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験実施日 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験準備(90分)	試験の振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅲ (科目ナンバリング：DMB543121)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：高井 雅一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅲに関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

概要

履修目標																								
保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。																								
授業の位置づけ																								
－																								
到達目標																								
保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の各領域の特性に応じた指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態を視野に入れた効果的な授業を設計することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につけるとともに、多様な評価方法の在り方を理解する。 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。〔SDG4〕質の高い教育活動を進めていくための指導計画案の作成。																								
授業の方法																								
・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等一連の活動を行う。 ・テーターを共有しながら、パソコンを使用し、仲間と相談しながら作成する。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td>○</td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td></td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L	○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・講義で配布するプリント類はファイル等の整然と保管し必要時に参照できるようにすること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１２回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（9割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（8割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（7割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程について理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（9割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（8割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（7割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（9割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（8割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（7割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	知識と指導技術が身についておらず指導案の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅲ (科目ナンバリング: DMB543121)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅲに関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健 体育編・体育編Ⅱ』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育 』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	
4	『現代高等保健体育 』	衛藤 隆 他	大修館書店	2024	9784469663198	
5	『[指導と評価の一体化]のための学習評価に関 する参考資料 中学校・保健体育Ⅰ』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	理想の体育教師像とはどのような教師なのか考えて くる	まとめられる体育教師像で、自身が不足しているこ とをまとめる
2	体育授業で取り上げる内容・領域について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
3	体づくり運動の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
4	器械運動の特性と情報機器を活用した授業づくりの 手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
5	陸上競技の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
6	水泳の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
7	球技(1)ネット型の特性と授業づくりの手順につい て	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
8	球技(2)ゴール型の特性と授業づくりの手順につい て	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
9	教球技(3)ベースボール型の特性と授業づくりの手 順について	前時に予行した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
10	武道(1)柔道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
11	武道(2)剣道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
12	ダンスの特性と情報機器を活用した授業づくりの手 順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
13	体育理論の指導内容と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
14	指導案の作成方法について（その1）	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるように準備する。（90分）
15	指導案の作成方法について（その2） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容を復習（90分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ中学体育2024』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	高橋 建夫 他	大修館書店	2024		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経営 (科目ナンバリング: SWS112015, SWS422080,)				
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標						
福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。 福祉組織の課題を具体的に述べるができる。						
授業全体の内容と概要						
福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し、組織のマネジメントに関する基礎理論、多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方、適切なサービス提供体制などを取り上げる。 「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます（プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む）。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ICT活用（双方向型授業・自主学習支援など。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う）。						
アクティブラーニングの実施方法						
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上の出席が必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12～10回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100～90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89～80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79～70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69～60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	福祉サービスの組織と経営 (科目ナンバリング：SWS112015, SWS422080,)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を運営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『福祉サービスの組織と経営』』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟＝編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明 当該科目を修了して『身に付く力』についても説明	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(1) 法人とは	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(2) 社会福祉法人	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(3) 医療法人	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(4) NPO法人その他	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(1) マネ ジメントの本質	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(2) 組織 のあり方	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(3) 意思 決定論	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(4) リー ダーシップ論	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
10	経営戦略の構築(1) サービスマネジメント	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
11	経営戦略の構築(2) リスクマネジメント	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
12	経営戦略の構築(3) ヒューマンリソースマネジメ ント【人材採用】	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
13	経営戦略の構築(4) ヒューマンリソースマネジメ ント【能力開発】	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
14	経営戦略の構築(5) ヒューマンリソースマネジメ ント【評価処遇】 授業内フィードバック	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
15	テスト	事前に教科書を確認 (90分)	ノートを整理し、質問事項を考える (90分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの 実施。 科目を修了して『身に付く力』についての検証	確認テストの学習 (90分)	テストの復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年・2年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	教員採用試験対策プログラム (科目ナンバリング: EDU091072)				
授業担当者 (所属・職名)	木村浩紀 (社会福祉学科・特任教授)・千葉聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階 (木村)・2号館7階 (千葉)	
単位数	4 (単位認定責任者: 木村 浩紀)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標							
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。							
授業の位置づけ							
全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
<1年生> 教員への自らの夢や希望を確かなものとするとともに基礎学力の向上を図る。 <2年生> 教職に関する基本的な内容の理解を深めるとともに、教員に必要な資質を身につける。							
授業全体の内容と概要							
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修 教育に関する基本的事項についての調べ学修 先輩教員・4年生の経験から学ぶ 「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目							
授業の方法							
教員採用試験の対策として、教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行い、必要に応じて解説する。（合同授業以外は、各学年ごとに別教室で行う） 板書や教材提示装置を活用する。 教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、先輩教員の講話等も行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
☐ 教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を原則対象とする。 ☐ 漢字検定取得に真剣に取り組むことを履修の条件とする。（目標率2級） ☐ プリント類はフラットファイルに格納し、計画的に復習すること。 ☐ 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、1年、2年とも22回以上。 1年次に出席数が足りない場合は、2年次に進むことは不可。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年・2年		
開講時期	通年		授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	教員採用試験対策プログラム (科目ナンバリング：EDU091072)					
授業担当者 (所属・職名)	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）・千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階（木村）・2号館7階（千葉）	
単位数	4（単位認定責任者：木村 浩紀）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（全体） 「シラバス」、「科目を修了して身に付く力」の説明	シラバスを確認すること。（90分）	年間の予定や採用試験までの予定をイメージすること。（90分）
2	オリエンテーション② 「シラバスの説明」「学年ごとの進め方」「身に付く力」	教職志望の理由をまとめること。（90分）	本時の内容について復習すること。（90分）
3	○1年生（講話） 担当教員から学ぶ① ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
4	○1年生（講話） 担当教員から学ぶ② ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
5	○1年生（講話） 担当教員から学ぶ③ ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
6	○1年生（講話） 担当教員から学ぶ④ ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
7	○1年生（講話） 担当教員から学ぶ⑤ ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
8	○1年生（一般教養） 人文分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
9	○1年生（一般教養） 人文分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
10	○1年生（一般教養） 人文分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
11	○1年生（一般教養） 人文分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
12	○1年生（一般教養） 人文分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
13	○1年生（一般教養） 社会分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
14	○1年生（一般教養） 社会分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
15	○1年生（一般教養） 社会分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習すること。（90分）
16	前期の学修の総括 ○1年生（一般教養） 社会分野	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	後期の学修予定の確認 ○1年生（一般教養） 社会分野	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
18	○1年生（一般教養） 社会分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
19	○1年生（一般教養） 社会分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
20	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
21	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
22	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（45分）
23	○1年生（一般教養） ＊先輩教員からの情報提供・助言 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（45分）	本時の講話の内容について復習をすること。（90分）
24	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	本時の講話の内容について復習をすること。（90分）
25	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
26	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
27	○1年生（一般教養） 自然科学分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
28	○1年生（一般教養） 自然分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
29	○1年生（一般教養） 自然分野 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
30	○1年生（一般教養） 全分野総合 ○2年生（教職教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
31	後期の学修の総括（フィードバックと科目を修了して身に付く力の検証） ○1年生（一般教養）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	解答を確認して復習をすること。（90分）
32	合同授業 ＊4年生の講話（先輩へのメッセージ）	本時のテーマについて予習をすること。（90分）	本時の講話の内容について復習をすること。（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122112)				
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援教育の教師を目指すため、視覚障害者の特性の理解と、学習上・生活上の困難を改善・克服する教育についての基本的知識を習得し、視覚障害教育に携わる者の意欲・態度等の基本的資質について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

視覚障害者の特性を、眼疾患や心理面、歴史、職業、学校制度から基本的な理解ができる。また、視覚障害による学習上・生活上の困難さの理解を基に、視覚障害者が社会参加・自立できるための教育について基礎的知識を習得することができ、視覚障害教育に携わる者としての知識・意欲・態度の資質を養うことができる。

授業全体の内容と概要

1.前半を「視覚障害者の心理・生理・病理」、後半を「視覚障害教育」を中心に構成する。

2.「心理・生理・病理」では、視覚障害児の眼疾患や視知覚の状況、心理面の理解等を学び、「教育論」では、学習上・生活上の困難さを改善・克服するための点字や歩行、触察など自立活動を中心に、歴史やキャリア教育等、視覚障害教育の課題等についても学ぶ構成をする。

3.具体的な理解を図るため、歩行や触察等の疑似体験や視覚教材視聴等の構成とする。

SDG4、「質の高い教育を教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1.講義では、各項目の特徴を明らかにすることを重視し、振り替えしシートで講義内容を整理する。

2.講義ではできない体験や点字など時間をかけて復習することが必要なものについては課題とし、内容の定着を図る。

3.自立活動や指導の実践については、簡単な演習や映像・スライド等で理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1.振り返りシートは講義後（当日）に提出、課題については提出日の講義前に提出すること。

2.「歩行」・「触察」時にアイマスクやお金を使用するので、衛生面上、必ず各自で準備すること。

3.「歩行」時は服装や靴など動きやすいものを準備すること。

4.不測の事態が生じた際の授業等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。
- ・試験結果や課題の提出状況、発表等の講義での取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
25%	0%	40%	25%	0%	10%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
準備・課題学習	課題学習等に努め、基本的・応用的理解が身についているとともに、自主的な学習にも取り組んだ。	課題学習等に努め、基本的・応用的な理解が身についた。	課題学習等に努め、基本的理解が身についた。	課題学習等に努め、提出した。	課題学習等への取り組みが不十分で、空白部分多かったり、未提出が多かった。
視覚障害者（眼疾患等）や視覚障害教育（指導内容・方法等）についての理解	視覚障害教育について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育について、良く学び、基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まり、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられるようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられなかった。
視覚障害教育への関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に十分にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が、みられるようになった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122112)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション「身に付く力」 「シラバスの説明」「授業改善アンケート結果反映の説明」」「講義の	シラバスの確認。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
2	目の構造・機能と視覚障害 ・視覚認知 ・目の構造と機能	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
3	視機能の役割と視覚障害児における眼疾患 ・目の機能 ・視機能の障害	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
4	視覚障害児の眼疾患と視知覚・触知覚の発達 ・主な眼疾患 ・視知覚・触知覚の発達	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
5	視覚障害者の心理と社会性の発達 ・視覚障害の疑似体験(触察)(アイマスク使用) ・顔視覚の見え方	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
6	視力検査の実際と視機能検査 ・視覚障害者の程度の把握 ・視力検査等の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
7	視覚障害児の心理(発達)検査と指導との関連 ・視知覚検査の実際 ・指導との関連	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
8	心理・生理・病理のまとめ(フィードバックと身に付く力の検証) ・試験(60分)	前半の復習。(90分)	講義内容の整理。(90分)
9	視覚障害教育の歴史 ・視覚障害教育の歴史 ・北海道の視覚障害教育の歩み	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
10	視覚障害教育の対象と教育の場 ・就学基準 ・教育の場と各学校の現状	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
11	視覚障害教育の教育課程と指導上の配慮事項 ・教育課程 ・指導上の配慮事項	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
12	点字の歴史と点字の概要 ・点字の歴史 ・点字の概要と仕組み	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
13	点字の読み書きの実際 ・点字の読み書き ・指導の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
14	視覚障害児における自立活動(歩行等) ・自立活動の指導 ・歩行指導	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
15	歩行指導の実際とキャリア教育 ・歩行指導の実際(介添え等)(アイマスク使用) ・進路と三療	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
16	視覚障害教育のまとめ(フィードバックと身に付く力の検証) ・試験(60分)	後半の復習。(90分)	講義全体の振り返り。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『視覚障害教育に携わる方のために(五訂版)』	香川 邦生ほか	慶應義塾出版	2016年	978-4-7664-2367-9	
2	『新・視覚障害教育入門』	青柳まゆみ・鳥山由子	ジアース教育新社	2021年	978-4-86371-533-2	
3	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2022年	978-4-86371-548-6	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザインII (科目ナンバリング：DES222027)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照					

概要

履修目標							
モノ、コト、商品をデザインし、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
プロダクトデザイナーとしてモノ、コトの見方、考え方、発想法、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術を習得する。							
授業全体の内容と概要							
デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。							
授業の方法							
課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。	
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインⅡ (科目ナンバリング：DES222027)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明プロダクトデザインとは	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
14	デザイン作業 造形面の確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
15	デザイン作業 人に優しいか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
16	デザイン作業 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
18	デザイン再考 コンセプトは大丈夫か	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
20	デザイン修正 ディテールアップ	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
22	レンダリング 全体の構図チェック	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
23	レンダリング サブモックを作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
24	レンダリング モックの作成方法を検討	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
25	レンダリング モックの確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
26	レンダリング サブモックを作成仕上げ向かう	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
27	レンダリング サブモックを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最終チェック	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT323111)				
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授) 野村 和也 (建築学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、バースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。

「SDGs 1.2 つくる責任 つかう責任」
「SDGs 1.1 住み続けられるまちづくりを」

狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では、板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的に残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造的な考え方を説明し、双方向授業で実施する。

また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

[illegible]

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	住宅設計演習Ⅰ (科目ナンバリング：APT323111)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・特任准教授） 野村 和也（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：君 興治）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成 第3版」 日本建築学会編』	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業ガイダンス、科目を修了して、掲載やいろいろなデータをもとに	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題① 住宅とは 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題 住宅とはについて考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
3	即日課題② 敷地と家の関係 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題 敷地と家の関係について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
4	即日課題③ これからの家族について 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題 これからの家族についてについて考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
5	即日課題④ 地域と家族 提出された課題への添削、講評を記載し、各学生に返却することで、フィードバックする。	即日課題 地域と家族について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
6	設計課題 住宅計画 木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	設計課題 住宅計画 木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導② コンセプトと全体計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③ 全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④ ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤ 平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥ 平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて） 課題の設計途中においても毎回提出を促し、添削や	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦ 模型とプレゼンテーション （模型の造り方 レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧ プレゼンテーション （レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会 発表への講評や指導を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 これまでの内容を踏まえ、総講評として、各学生にコメントをし、フィードバックする。	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	コーチング 方法論 (科目ナンバリング：S0P523083)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 博 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	体育棟1階スポーツ指導室		
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 博)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。			
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
指導対象者（選手及びチーム）がその目標を達成する為に、スポーツ指導者（コーチ）としてどのようにアプローチすべきかの基本的な考え方や具体的な方法について学習し、身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①スポーツ指導者として必要な基本理念を理解する ②目標設定についての具体的な方法について理解する ③ティーチングとコーチングの違いを理解し、それぞれの基本となる概念を理解する ④具体的手法を用いて、目標達成に向けて適切な指導が実施出来る							
授業全体の内容と概要							
講義により基本的な考え方を学び、実習でティーチング及びコーチングを実践する 「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイントを使用し、講義形式で実施する。 レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。 実習は講義内で学生に発表を行わせる。 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自身が取り組んでいる（取り組んでいた）競技の経験と照らし合わせての学習が効果的と考える。 もしくは身近な何らかの課題において、目標達成に向けてどうアプローチするかを参考にして学習する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	40%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学習した知識・技能を確実に修得した	学習した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学習した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取学習まなかった	
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力には達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	コーチング 方法論 (科目ナンバリング：S0P523083)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 博（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	体育棟1階スポーツ指導室		
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 博)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。			
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 スポーツ指導者としての心構え 講義で身につく「教える力」「引き出す力」について	事前にシラバスを読んでおく (90分)	学習内容の復習 (90分)
2	コーチとは何か	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
3	ティーチングとコーチング	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
4	目標設定	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
5	ティーチング 概念	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
6	ティーチング 具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
7	ティーチング 事例	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
8	ティーチング 実習	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
9	コーチング 概念	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
10	コーチング 具体的手法①	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
11	コーチング 具体的手法②	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
12	コーチング 具体的手法③	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
13	コーチング 事例	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
14	コーチング 実習	学習のテーマについて事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
15	補足・まとめ フィードバック	今までの学習について事前に調べる (90分)	学習内容の復習 (90分)
16	期末試験 (60分) 解説 (30分) 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・施設によるフィードバック	期末試験準備 (90分)	期末試験内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ダブル・ゴール・コーチ』	Jim・Tompson	東洋館出版社	2021	9784491035901	
2	『ポジティブ・コーチング』	Raymond M.Nakamura	サイエンティスト社	2001	9784914903855	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅳ (科目ナンバリング：DMB543122)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：高井 雅一）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅳに関連する諸事項を講義・実習する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

-

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解するとともに、具体的な授業を想定した効果的な授業設計や学習指導案の作成を行うことができる実践的な力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独特の役割をわかりやすく理解させる。

・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることで、き、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。

・「SDG4」質の高い授業は、対象生徒にあった内容を工夫スタ指導案を作成するところからのスタートが大切であることを理解させる。

・模擬授業を実践し、指導技術・内容（情報機器の活用を含む）を再確認するために自分の意見を述べながら、意見交換し改善点を見つける。

授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。

・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。

・模擬授業では、ビデオ機器等を活用し、指導内容の確認などを実践する。

・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布したプリントや模擬授業の指導案等は、ファイル等の整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。

・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１２回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（9割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（8割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（7割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程などについて理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（9割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（8割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（7割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（9割）	の授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（8割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（7割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	授業を行うための知識と指導技術が身につかなかった

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保健体育科教育法Ⅳ (科目ナンバリング: DMB543122)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅳに関連する諸事項を講義・実習する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健体育編・体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館書店	2024	9784469663198	
5	『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	本時の課題について教科書等を参考に自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
2	選択制授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
3	指導案の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
4	模擬授業の進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
5	模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
6	模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
7	模擬授業（選択制授業）の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
8	模擬授業（選択制授業）の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
9	情報機器を活用した模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
10	情報機器を活用した模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
11	体育理論の模擬授業の指導案作成と授業展開について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
12	体育理論の模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
13	模擬授業の振り返り	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
14	模擬授業のまとめ	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることをできるよう準備する。（90分）
15	体育におけるスポーツ障害について 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容を復習（90分）	本日の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ中学校体育2024北海道編』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省	大修館書店	2019		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	刑事司法と福祉 (科目ナンバリング：SWS112016)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎と なる知識等習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
今日求められている社会福祉と刑事司法の連携強化を視野に、ソーシャルワーカーに必要とされる刑事司法制度に関する知識・役割について理解を深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。							
到達目標							
①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。							
授業全体の内容と概要							
刑事司法の仕組みを学ぶとともに、犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。 「SDG1．貧困をなくそう」、「SDG10．人や国の不平等をなくそう」の関連授業							
授業の方法							
①授業形態は講義形式で行う。 ②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 ③質問等に関しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ④確認テストを実施し、解答回収後説明を行う。 ⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①教科書は必ず持参すること。 ②必要な資料等は適宜配布する。 ③20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程・精神保健福祉士国家試験受験資格過程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な刑事司法に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を知ることができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官、社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示した。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と刑事司法との連携について課題を提示することができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について意見を示すことができた。	刑事司法度の現状を踏まえその課題について考える姿勢を示した。	刑事司法の現状について自分の意見を示すことができた。	刑事司法の現状について考える姿勢を示せなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	刑事司法と福祉 (科目ナンバリング：SWS112016)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉 第2版』	一般社団法人 日本ソーシャル ワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2 0 2 5	9784824301536	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性－高齢者、	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
2	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境 (1)－近年の動向・社会環境	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
3	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境 (2)－社会福祉士・精神保健福祉士の役割	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
4	刑事司法－刑法・刑事事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
5	少年法－少年法・少年事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
6	更生保護制度 (1)－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
7	更生保護制度 (2)－生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
8	更生保護制度 (3)－仮釈放等	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備 (9 0 分)
9	更生保護制度 (4)－保護観察	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
10	更生保護制度 (5)－更生緊急保護・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
11	医療観察制度 (1)－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
12	医療観察制度 (2)－審判、処遇の流れと内容・関係機関、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
13	犯罪被害者支援 (1)－犯罪被害者の法的地位	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
14	犯罪被害者支援 (2)－犯罪被害者支援に関する法	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
15	犯罪被害者支援 (3)－犯罪被害者支援に関する制度・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする (9 0 分)	教科書を読み授業範囲の復習をする (9 0 分)
16	試験 (6 0 分の試験終了後、3 0 分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』について の検証)	全授業を振り返り試験に向けた準備 (9 0 分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る (9 0 分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	全学科・全学年		
開講時期	通年	授業形態	講義, 演習	必修・選択	選択
科目名称	宅地建物取引士試験対策プログラム (科目ナンバリング: AEN091073)				
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	宅地建物取引士であり、宅地建物取引業者に従事していた勤務経験を活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「宅地建物取引士試験」の合格に必要な知識を修得し、その国家試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。

到達目標

国家資格である「宅地建物取引士試験」に合格できる最低限の学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って各分野の講義および演習問題の実施・解説を行い、各分野の知識を修得できる。

授業の方法

この講座は、①権利関係、②宅建業法、③法令上の制限、④税その他の4分野で構成されており、④税その他の1講義については、夏休み中に映像配信を行うオンデマンド授業とする。

また、夏休み明けの30の第1～2週目に定期試験を実施を行う。

不測時における授業等は、オンラインまたはオンデマンドにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みなどの予習を行い、講義後はその復習として、問題集を実施すること。
このサブメジャー科目であるため、全講座の出席が必要であり、事前に欠欠または相当な理由のある欠席であると認められる場合には、映像講義により補講を実施すること。
また、出席確認については、学習記録簿への検印を行うため、毎回持参すること。
このシラバスのシステム上では、32回までにしか表記できないため、別途、講義開始後に全37回分のシラバスを配布する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要となる必要出席回数は全37回の出席。また、基礎点に定期試験の得点を加え、成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	0%	60%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋敷項目を超えたレベルを達成している	屋敷項目をほぼ達成している	屋敷目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
宅地建物取引士試験の「権利関係」分野に必要な知識を修得できる。	宅地建物取引士試験の「権利関係」分野において、合格に必要な知識を修得できていた。	宅地建物取引士試験の「権利関係」分野において、合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	宅地建物取引士試験の「権利関係」分野において、合格に必要な知識を最低限修得できていた。	宅地建物取引士試験の「権利関係」分野において、合格に必要な知識の修得に向けて取り組み意志があった。	宅地建物取引士試験の「権利関係」分野において、合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。
宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野に必要な知識を修得できる。	宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野において、合格に必要な知識を修得できていた。	宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野において、合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野において、合格に必要な知識を最低限修得できていた。	宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野において、合格に必要な知識の修得に向けて取り組み意志があった。	宅地建物取引士試験の「宅建業法」分野において、合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。
宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野に必要な知識を修得できる。	宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野において、合格に必要な知識を修得できていた。	宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野において、合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野において、合格に必要な知識を最低限修得できていた。	宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野において、合格に必要な知識の修得に向けて取り組み意志があった。	宅地建物取引士試験の「法令上の制限」分野において、合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。
宅地建物取引士試験の「税その他」分野に必要な知識を修得できる。	宅地建物取引士試験の「税その他」分野において、合格に必要な知識を修得できていた。	宅地建物取引士試験の「税その他」分野において、合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	宅地建物取引士試験の「税その他」分野において、合格に必要な知識を最低限修得できていた。	宅地建物取引士試験の「税その他」分野において、合格に必要な知識の修得に向けて取り組み意志があった。	宅地建物取引士試験の「税その他」分野において、合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・全学年			
開講時期	通年	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	宅地建物取引士試験対策プログラム (科目ナンバリング: AEN091073)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	宅地建物取引士であり、宅地建物取引業者に従事していた勤務経験を活かし、実践的かつ現 実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『スッキリわかる宅建士2025年度版』	中村喜久夫	TAC出版	2 0 2 4	978-4-300-11444-5	
2	『スッキリとける宅建士2025年度版』	中村喜久夫	TAC出版	2 0 2 5	978-4-300-11445-2	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の進め方について説明。 学習記録票、受講申込書等の配布。 当該科目終了により「身に付く力」の説明。	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	権利関係（第1章制限行為能力者）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	権利関係（第2章意思表示）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	権利関係（第3章代理・第4章時効）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	権利関係（第5章物権）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	権利関係（第6章抵当権）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	権利関係（第7章売買契約）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	権利関係（第8章賃貸借契約・借地借家法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	権利関係（第9章債権の譲渡・消滅）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	権利関係（第10章連帯債務・保証債務）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	権利関係（第11章その他の契約・不法行為）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	権利関係（第12章相続）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	権利関係（第13章建物区分所有法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	権利関係（第14章不動産登記法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	宅建業法（第1章宅建業とは）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	宅建業法（第2章宅建業免許）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『どこでも学ぶ宅建士基本テキスト2025年度版』	日建学院	㈱建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	宅建業法（第3章宅地建物取引士）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
18	宅建業法（第4章営業保証金と保証協会）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
19	宅建業法（第5章業務上の規制）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
20	宅建業法（第6章重要事項説明・37条書面①）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
21	宅建業法（第6章重要事項説明・37条書面②）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
22	宅建業法（第7章自ら売主の8つの制限①）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
23	宅建業法（第7章自ら売主の8つの制限②）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
24	宅建業法（第8章監督処分罰則・第9章住宅瑕疵担保履行法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
25	法令上の制限（第1章都市計画法・都市計画）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
26	法令上の制限（第2章都市計画法②開発許可・第3章建築基準法①単体規定集団規定）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
27	法令上の制限（第3章建築基準法②建築確認・用途制限）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
28	法令上の制限（第3章建築基準法③建蔽率・容積率・高さ制限）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
29	法令上の制限（第4章国土利用計画法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
30	法令上の制限（第5章農地法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
31	法令上の制限（第6章土地地区画整理法）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
32	法令上の制限（第7章盛土規制法・その他の法律） 「身に付く力」の検証。 授業最終回において講評をし、フィードバックする	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122026)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆 子(社会福祉学科・准教授)・上原 正希(社会福		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
ソーシャルワーカーとしての姿勢（自己理解、他者理解、倫理綱領）と相談業務の基本的技法（コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価）をディスカッション、ロールプレイ、DVD鑑賞等を通して体得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3，DP4，DP5に対応する科目							
到達目標							
様々な援助技術（スキル）を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。							
授業全体の内容と概要							
個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実践を学ぶ。							
授業の方法							
3～4つのグループ（1グループ20名以内）に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。 また、不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等での講義を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数20回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢上区割りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122026)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆 子 (社会福祉学科・准教授)・上原 正希 (社会福			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤譲治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (グループ分け 自己紹介) シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	1年時の関連科目の復習 (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
2	演習に向けての準備 (自己紹介 アイスブレイキン グ)	1年時の関連科目の復習 (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
3	自己理解1「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
4	自己理解2「自身のルーツ 家族関係を知る」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
5	自己開示と他者理解1「自己開示」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
6	自己開示と他者理解2「共感について」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
7	自己開示と他者理解3「価値観の違い」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
8	コミュニケーション1「コミュニケーションの基本 」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
9	コミュニケーション2「言語的コミュニケーション 」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
10	コミュニケーション3「非言語的コミュニケーション 」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
11	ソーシャルワークの価値と倫理1「価値とは何か」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
12	ソーシャルワークの価値と倫理2「倫理とは何か」	テキストの読み込み (90分)	自己の言動の振り返り (90分)
13	面接技法1「面接の意義」	テキストの読み込み (90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ (90分)
14	面接技法2「面接の基本」	テキストの読み込み (90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ (90分)
15	記録技法1「面接場面での記録」	テキストの読み込み (90分)	記録技法のまとめ (90分)
16	記録技法2「ケース記録」	テキストの読み込み (90分)	記録技法のまとめ (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	アセスメント1「アセスメントの意義」	テキストの読み込み (90分)	アセスメントのまとめ (90分)
18	アセスメント2「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み (90分)	アセスメントのまとめ (90分)
19	アセスメント3「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み (90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り (90分)
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み (90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り (90分)
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み (90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ (90分)
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み (90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ (90分)
23	評価と効果測定1「利用者の満足度」	テキストの読み込み (90分)	効果測定技法のまとめ (90分)
24	評価と効果測定2「支援内容の評価」	テキストの読み込み (90分)	効果測定技法のまとめ (90分)
25	コミュニティワーク1「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み (90分)	地域診断のまとめ (90分)
26	コミュニティワーク2「北広島市の福祉課題明確化 」	テキストの読み込み (90分)	地域診断のまとめ (90分)
27	コミュニティワーク3「課題解決への方法」	テキストの読み込み (90分)	地域支援方法のまとめ (90分)
28	コミュニティワーク4「広報誌の作成」	テキストの読み込み (90分)	地域支援方法のまとめ (90分)
29	支援事例を用いたロールプレイング1	テキストの読み込み (90分)	演習を通しての自己覚知について文章化 (90分)
30	支援事例を用いたロールプレイング2	テキストの読み込み (90分)	演習を通しての自己覚知について文章化 (90分)
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み (90分)	自己総括 (90分)
32	相談援助演習Ⅰ総括 授業全体のフィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	テキストの読み込み (90分)	自己総括 (90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT323112)				
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授) 野村 和也 (建築学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者：君 興治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で低層集合住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。

「SDGs 1.2 つくる責任 つかう責任」
「SDGs 1.1 住み続けられるまちづくりを」

狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭にいった設計を指導する。

授業の方法

授業内で、板書やICT（チームズ）を使用しながら、図面をオンライン上でその場で液晶ペンタブ等に消し、毎事象ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的に残し、振り返りの学習を実現する。それをしながら詳細図をもとに構造的な考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きたときにオンライン指導を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	住宅設計演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT323112)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・特任准教授） 野村 和也（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：君 興治）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『コンパクト建築設計資料集成 第3版』 日本建築学会編	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果の反映について説明 自分考えた設計主旨や計画をきちんと作図でき、	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題① 低層集合住宅計画 木構造 提出した各学生の課題を添削・助言を書き込み、返却することでフィードバックする。	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
3	即日課題② 低層集合住宅計画 木構造 提出した各学生の課題を添削・助言を書き込み、返却することでフィードバックする。	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
4	即日課題③ 低層集合住宅計画 RC壁式構造 提出した各学生の課題を添削・助言を書き込み、返却することでフィードバックする。	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
5	即日課題④ 低層集合住宅計画 RC壁式構造 提出した各学生の課題を添削・助言を書き込み、返却することでフィードバックする。	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む（90分）
6	設計課題 低層集合住宅計画 RC壁式構造 （課題説明、集合住宅の解説） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	設計課題 低層集合住宅計画 木構造・RC壁式構造 （課題説明、集合住宅の解説） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導② コンセプトと全体計画 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③ 全体計画とランドスケープ （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④ ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤ 平面計画と断面構成 （エスキスチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥ 平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦ 模型とプレゼンテーション （模型の造り方 レイアウトチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧ プレゼンテーション （レイアウトチェック） 途中経過の課題も提出を促し、添削・助言を行う。	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会 発表に対し、各学生への講評を行い、フィードバックする。	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 これまでの学習内容に対し、総講評を行い、来期の卒業制作への助言も含めた説明をし、フィードバック	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング：ECP422045, ECP522044)					
授業担当者 (所属・職名)	川村 裕樹(北広島市役所 経済部長)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：川村 裕樹(信濃 吉彦))		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容			
オフィスアワー	事前連絡をもとに各回授業後調整の上、非常勤講師室等に対応する。					

概要

履修目標

少子高齢化に伴う人口減少が進む中、地域社会を取り巻く環境は日々変化している。各分野の課題を見出し、解決するには、現状を把握し将来につながる政策立案を行う必要がある。本講では、まちづくりの概念、政策立案、展開する際のポイント、北海道ボールパークFビレッジが持つ可能性などを実務担当者から講和を聞き、考究し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

まちづくりに対する興味・関心が高まり、課題の発掘、解決に向けた政策立案力を身に付けることを期待する。

授業全体の内容と概要

札幌近郊都市の北広島市の歴史と変遷を理解し、道央圏における今後の北広島市について学ぶ。また、北海道のシンボルとなる北海道ボールパークFビレッジを通じた今後のまちづくりに関して各分野幅広く考察する。

授業の方法

対面講義形式で行うものとする。本講座は試験の代わりに学期末レポートの提出を各学生に義務づける。詳細に関しては別途連絡するものとする。最終レポートにおいて剽窃行為を行った場合は評価の対象としない。レポートは必ず学科指定の表紙を用い、参考文献を必ず列挙すること。また、授業中は積極性を奨励し、発言や質問は随時受け付ける。学期末にはレポートの他、レポートの内容をベースにした個別のプレゼンテーションも実施し最終評定に加える。基本的にグループプレゼンは認めない。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱い、授業開始時に説明。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	40%	30%プレゼン

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域政策の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容を概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解していなかった。
地域政策への関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問したり、発言するなど積極的な授業態度であった。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。理解を深めるため真剣に聴いていた。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書に取り組んでいなかった。
具体的な市町村等を対象に、地域が抱えている問題を克服するための政策を立案・提言	問題認識が適切で、目標設定や実現に向けた戦略が極めて優れていた。	問題認識が適切で、目標設定や戦略が優れていた。	問題認識が適切で、目標と戦略が設定されていた。	問題認識はやや弱い、目標と戦略は設定されていた。	問題認識が弱く、目標や戦略も説得力に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング：ECP422045, ECP522044)					
授業担当者 (所属・職名)	川村 裕樹(北広島市役所 経済部長)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：川村 裕樹(信濃 吉彦))		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現在実際に地域政策を担当している方々から直接講義を受ける画期的な内容			
オフィスアワー	事前連絡をもとに各回授業後調整の上、非常勤講師室等に対応する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス～シラバスを中心に説明(本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、科目を修了して「身に付く」)	シラバスによく目を通しておく(90分)	授業内容に関連した作文を作成(90分)
2	地域政策へのアプローチ 北広島市について まちづくりの目標	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
3	地域政策へのアプローチ 北広島市について まちづくりの目標	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
4	地域政策へのアプローチ 北広島市について 福祉・健康分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
5	地域政策へのアプローチ 北広島市について 教育・文化分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
6	地域政策へのアプローチ 北広島市について 安全・安心分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
7	地域政策へのアプローチ 北広島市について 都市基盤・生活環境分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
8	地域政策へのアプローチ 北広島市について 産業・観光分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
9	地域政策へのアプローチ 北広島市について 行財政分野	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
10	地域政策へのアプローチ 北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
11	地域政策へのアプローチ 北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
12	地域政策へのアプローチ 北広島市について 北海道ボールパークFビレッジについて	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
13	地域政策の立案① 将来に向けた課題の抽出・整理	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
14	地域政策の立案② 課題に対する方向性の整理 政策立案	講義内で予告した内容を調べておくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
15	まとめ① 政策発表と質疑・コメント、フィードバック	レポートの作成(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
16	まとめ② 政策発表と質疑・コメント、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	レポートの作成(90分)	レポート提出理解を深める(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅰ (科目ナンバリング: AEA222122)				
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
自由自在に写真機材を使用できる技術をも身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12., つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、スロトロポ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカード(64GB)を用意の事。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上 課題提出は全点必ず。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	20%	0 %

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	写真表現Ⅰ (科目ナンバリング：AEA222122)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明。	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	自分の取りたい写真イメージを作成、コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	作品を撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査1	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査2	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修	
科目名称	特別な教育的ニーズの理解とその支援 (科目ナンバリング：SNE142161, SNE242109,)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		木村浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標																								
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育を推進するために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。																								
授業の位置づけ																								
該当なし																								
到達目標																								
特別支援教育制度の概要と特別支援学校の教育課程並びに個別的教育支援計画の作成の意義や学習指導要領、特別支援教育コーディネーターの設置義務とその役割等、特別支援教育の推進について理解することができる。併せて、各障害の特性に即した自立活動の在り方について理解することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、特別支援教育の意義や目的、実践等について、主体的・対話的で深い学びを通して、理解を深められるよう、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、具体的な事例をとおして理解を深められるよう、パソコンや映像等の視聴覚教材などのICTを活用し総合的に構成する。 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目																								
授業の方法																								
授業は、パワーポイント及び教科書、配布物(レジュメ)を活用して実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。グループワークにてグループ発表を行うとともに、レポート提出(1回)を行う。なお、グループ発表やレポートにはコメントにてフィードバックする。ICT活用に関しては、授業についての質問などをチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他(授業の方法参照)</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
教職課程登録者を対象にした科目であり、全学科同一クラスで授業を行う。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とみなす。 教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。 授業において円滑に授業を行う上で座席指定をすることがある。また、授業中の注意事項は必ず厳守すること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的な内容について理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的な内容について理解ができなかった。
特別支援教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業に一定程度関心をもって参加できた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ニーズ ^a の理解とその支援 (科目ナンバリング：SNE142161, SNE242109,)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		木村浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築	教科書から「インクルーシブ教育システム」についての課題を整理する（90分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認する（90分）
2	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
3	特別支援教育の理念と基本的な考え方及び特別支援教育の対象について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
4	個別的教育支援計画の意義と活用について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
5	学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
6	特別支援学校の教育の概要と教育課程の編成並びに指導について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
7	自立活動の目標と内容について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
8	特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
9	特別支援学校のセンター的な役割について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
10	小学校、中学校等における特別支援学級と通級による指導における特別支援教育について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
11	各障害に応じた教育1 －視覚障害、聴覚障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
12	各障害に応じた教育2 －知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
13	各障害に応じた教育3 －重複障害、言語障害、情緒障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
14	各障害に応じた教育4 －発達障害について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
15	障害のある子どもへのアセスメント 科目を修了して「身に付く力」の検証、講評・フィードバック 授業改善アンケートの実施（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（90分）
16	定期試験（60分の試験後、残りの30分で解説）	教科書等で講義内容を整理する（90分）	試験の結果を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援学校学習指導要領 小学部・中学部（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領 高等部（平成31年2月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2019	978-430312427	
3	『特別支援教育基本用語100』	上野一彦・緒方明子・柘植正義	明治図書	2014	978-4181085	
4	『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04229-4	
5	『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04231-7	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122027)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・上原 正希(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	SW、CW、PSWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること					

概要

履修目標							
高齢、障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライアントの主訴の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3，DP4，DP5に対応する科目							
到達目標							
事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。							
授業全体の内容と概要							
事例検討を中心に、相談援助演習Ⅰで学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。							
授業の方法							
3～4グループに分かれ（1グループ20名以内）事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイスの講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。また、附属の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳは履修できないので注意すること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数20回以上をクリアすること					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが的確であった。	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなし、OSCE項目の平均4点以上をキープできた。 (5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなし、OSCE項目の平均3点以上をキープできた。 (5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなしていた。	ロールプレイングに積極的に参加しできた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点各々について明確に言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122027)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・上原 正希(社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	SW、CW、PSWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『ソーシャルワーク演習ワークブック』』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	前期科目の復習 (45分)	テキストの読み込み (45分)
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習 (45分)	テキストの読み込み (45分)
3	事例研究1「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
4	事例研究1「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
5	事例研究2「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
6	事例研究2「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
7	事例研究3「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
8	事例研究3「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
9	事例研究4「児童虐待：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
10	事例研究4「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
11	事例研究5「DV：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
12	事例研究5「DV：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
13	事例研究6「ストレングス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
14	事例研究6「ストレングス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
15	事例研究7「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
16	事例研究7「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (90分)	事例検討結果の検証 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	事例研究8「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
18	事例研究8「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
19	事例研究9「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
20	事例研究9「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
21	事例研究10「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
22	事例研究10「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
23	事例研究11「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
24	事例研究11「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み (45分)	事例検討結果の検証 (45分)
25	応用演習 (チームワーク)	テキストの読み込み (45分)	講義中の自己の振り返り (45分)
26	応用演習 (リーダーシップ)	テキストの読み込み (45分)	講義中の自己の振り返り (45分)
27	応用演習 (スーパービジョン)	テキストの読み込み (45分)	講義中の自己の振り返り (45分)
28	応用演習 (ソーシャルワークの視点)	テキストの読み込み (90分)	講義中の自己の振り返り (90分)
29	各学生の気づき (グループ討議)	テキストの読み込み (45分)	講義中の自己の振り返り (45分)
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み (45分)	講義中の自己の振り返り (45分)
31	実習事例検討 (利用者理解とコミュニケーション)	テキストの読み込み (45分)	全体を通しての振り返り (45分)
32	実習事例検討 (アセスメントと生活場面面接) フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	テキストの読み込み (45分)	全体を通しての振り返り (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科4年、経営学科4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	カウンセリング論 (科目ナンバリング: CLP123062, CLP423081,)				
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。 レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	5 0 %	0 %	0 %	5 0 %	0 %

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用・実践	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起っていることについて気づき、言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起っていることの意味について気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起っていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起っていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起っていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科 4 年、経営学科 4 年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	カウンセリング論 (科目ナンバリング：CLP123062, CLP423081,)				
授業担当者 (所属・職名)	蛭名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1 号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：蛭名 美穂)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『やさしく学ぶカウンセリング 2 6 のレッスン』	長尾 博	金子書房	2 0 0 8	978-4-7608-3609-3	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）。授業改善アンケート結果反映の説明。	カウンセリングについて調べる（90分）	授業で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	カウンセリングの諸理論①	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	カウンセリングの諸理論②	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	カウンセリングを始める前に、セッティング、守秘義務など	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	カウンセリングの中での話を「きく」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	カウンセリングの中での「話す」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	信頼関係（ラポール）形成について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	応答技法について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	ロールプレイ①共感	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	ロールプレイ②聞かれた質問、閉ざされた質問	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	ロールプレイ③繰り返し、明確化	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	ロールプレイ④直面化	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	ロールプレイ⑤支持	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	ロールプレイ⑥お互いの話を聴いてみよう	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	エンカウンターグループを体験する	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	カウンセリングの限界について。これまでの講義のまとめ。授業改善アンケート実施。講義についてのフィードバック。科目を修了して	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	自らの学修姿勢を評価する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新・カウンセリングの話』	平木典子	朝日新聞出版	2 0 2 0	978-4-02-263099-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境Ⅱ (科目ナンバリング：AEN323024)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 裕康)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	15%	0%	40%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱貫流抵抗と熱貫流量を計算できた。	熱貫流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱貫流率と熱伝達率、熱貫流率の関係を理解できた。	熱貫流の3つの過程を理解できた。	熱貫流の3つの過程を理解できなかった。
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築環境Ⅱ (科目ナンバリング：AEN323024)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：		伊藤 裕康)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新建築環境工学 改定4版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
2	熱環境－1 伝熱の基礎 熱エネルギーの流れ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
3	熱環境－2 固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
4	熱環境－3 熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
5	熱環境－4 熱貫流量の計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
6	熱環境－5 建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
7	音環境－1 音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
8	音環境－2 室内音響 室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
9	音環境－3 壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
10	音環境－4 建築音響の材料と構造	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
11	音環境－5 騒音とその防止 騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
12	湿気と結露－1 湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
13	湿気と結露－2 壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
14	湿気と結露－3 表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
15	湿気と結露－4 結露の発生と防止対策 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験範囲について復習しておくこと (90分)	試験内容について復習しておくこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅱ (科目ナンバリング: AEA222123)				
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
「写真表現！」履修者が履修条件となります。 単位認定に必要な最低出席回数は10回以上 課題提出は全点必ず。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。
写真に対する評価が出来る。	写真の品評、評価が完璧に出来る。	写真の品評、評価が良く出来る。	写真の品評、評価が出来る。	写真の品評、評価がやっと出来る。	写真の品評、評価が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	写真表現Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222123)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザインプロデュース実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方（より深く考察する）	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解1	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解2、ストロボ等を使用して光と影を理解する。	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	自分の目指す写真アイデアを出す。コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次改善作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査1、品評会	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査2、フィードバック	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影、プリントアウト	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評・授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	総合的な学習の時間の指導法（2年） （科目ナンバリング：ESS143162, ESS243110, ）					
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸 事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815610	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
2	総合的な学習の時間の意義について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
3	総合的な時間の目標について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
4	各学校において定める目標及び内容について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
12	探究的な学習の指導上の留意点について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
13	総合的な学習の時間の評価について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122029)					
授業担当者 (所属・職名)	・大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)・杉本 大輔 (社会福		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会 常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまへ講 義を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

概要

履修目標							
1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
1. ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解することができる。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
1. ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を学ぶ。							
授業の方法							
1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。 6. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
1. 自分の意見等を積極的に発言すること。 2. 多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。 3. 教科書は必ず持参すること。 4. 必要な資料等は適宜配布する。 5. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 6. ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。 7. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。 2. その他については、出席状況15%、ボランティア参加(2回)15%、ボランティアレポート10%の評価となる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	0%	40%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域についてその特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、その特徴と違いを説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場について具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。
ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122029)					
授業担当者 (所属・職名)	・大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会 常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講 義を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク実習・実習指導（社福専門）』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023年	9784335612275	価格 / 2,750 (本体 / 2,500)
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映。シラバスの説明。身につく力・・・ソーシャルワーク各領域についての基礎的な知識。	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
2	ソーシャルワーク実習では、なにを学ぶのか ソーシャルワーク実習Q&A	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
3	ソーシャルワーク実習における実習計画書の作成のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
4	ソーシャルワーク実習における記録のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
5	ソーシャルワーク実習におけるケース研究のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
6	ソーシャルワーク実習の実習先について概論	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
7	障害分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
8	障害領域のソーシャルワーク実践とは～障害領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
9	児童分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
10	児童領域のソーシャルワーク実践とは～児童領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
11	高齢分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
12	高齢領域のソーシャルワーク実践とは～高齢者領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
13	地域分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
14	地域分野のソーシャルワーク実践とは～地域分野のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
15	実習に行った先輩の実習報告～児童分野・高齢分野・障害分野・地域分野の実習より 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説をする 身に付いた力の検証・・・ソーシャルワーク各領域	テスト勉強をしていくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2学年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義,実技	必修・選択	選択	
科目名称	肢体不自由教育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122109)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育）について実技を含めた指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

肢体不自由教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。教育を効果的に行うために必要な基本的知識と、障害の状況等に応じた指導の在り方等の知識を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2025年度）

到達目標

肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

肢体不自由教育の現状を踏まえ、児童生徒の実態把握の方法と評価、障害の状態に応じた教育課程や指導内容・方法、健康保持や自立活動のための医療機関との連携、医療的ケア等について構成する。
「SDG3 すべての人に健康と福祉」「SDG4 質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、車椅子操作、形態食作成や摂食指導、自立活動の一部を実技として行う。また具体的な事例のVTR教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
○不測の事態が生じた際は、授業や補講等をオンライン及びオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	１０％	１０％	％	２０％	１０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育の基礎的な知識・技能の修得	肢体不自由教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由教育について、一定程度の理解をすることができた。	肢体不自由教育について一定理解することができた。	肢体不自由教育について、理解ができなかった。
肢体不自由教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断を深め、個人やグループで工夫して表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で、思考・判断に課題がみられ、表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらか関心を持って参加することができた。	授業に関心が薄く、積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2学年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義,実技		必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122109)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2	(単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育）について実技を含めた指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『特別支援教育の基礎・基本』』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤーズ教育新社	2021年	978-4-86371-543-6	
2	『『特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』』	文部科学省	海文堂出版	2017	978-4-303-12424-3	
3	『『特別支援学校学習指導要領解説総則編』』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04229-4	
4	『『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04231-7	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明とオリエンテーション科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを把握しておくこと（90分）	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる（90分）
2	肢体不自由教育の歴史 肢体不自由疑似体験	指定した教科書の「肢体不自由児の基礎知識」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
3	肢体不自由教育の現状	指定した教科書の「肢体不自由児のある子供に応じた教育課程編成」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
4	特別支援教育に関わる法令	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
5	教育課程と学習指導要領1	指定した教科書の「学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
6	教育課程と学習指導要領2	指定した教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
7	個別的教育支援計画と個別の指導計画	指定した教科書の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
8	自立活動の変遷と区分	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
9	自立活動の指導計画	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
10	自立活動の実践（身体の動き他）	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
11	自立活動の実践（摂食指導）	指定した参考文献の「学習指導要領自立活動編」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
12	医療的ケアと訪問教育	指定した教科書の「訪問教育」及び「医療的ケア」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
13	キャリア教育と進路指導	指定した教科書の「進路指導と進路状況」を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
14	個に応じた授業づくり（やりたい気持ちに寄り添う）	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
15	個に応じた授業づくり（集団の中の個別化） 授業改善アンケートの実施	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	配布資料に基づき復習しておくこと（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説しフィードバックする。） 科目を修了して『身に付く力』を自己検証	全15回の講義内容について整理しておくこと	試験の結果を見直す

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『肢体不自由教育の基本とその展開』』	日本肢体不自由教育研究会	鹿応技術大学出版会	2008	978-4-7664-1409-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規Ⅲ (科目ナンバリング：APT323031)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日本の都市は通か昔より火災との戦いであつた。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが、これは今も同様で、都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき、都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ループリック

評価項目	評価基準				
	屋修項目を超えたレベルを達成している	屋修項目をほぼ達成している	屋修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築法規Ⅲ (科目ナンバリング：APT323031)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者：		佐藤 善太郎)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基準法関係法令集 2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 建築設備等 1	建築法規Ⅱの振り返り (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
2	建築設備等 2	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
4	構造計算 1	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
5	構造計算 2	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
7	防火区画・防火構造 1	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
8	防火区画・防火構造 2	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
9	防火区画・防火構造 3	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
10	避難施設等 1	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
11	避難施設等 2	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
12	内装制限 1	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
13	内装制限 2	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
15	雑則・その他 2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読 (90分)	本講義の振り返り (90分)
16	理解度診断試験 (60分)・試験解説 (30分)をし、 回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読 (90分)	試験の振り返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ホテルマネジメントコース以外)・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング：TOS422040)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：五ノ井 壽一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標							
観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することをし身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。							
授業全体の内容と概要							
日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。							
授業の方法							
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。 平常点（出席率・授業態度）およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的に理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達しておらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答などの確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度を求めた。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ホテルマネジメントコース以外)・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング：T05422040)				
授業担当者 (所属・職名)	五ノ井 壽一 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：五ノ井 壽一)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信	中央経済社	2016	9784502181412	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
6	ホテルの分類 (ヨーロッパ・アメリカ・日本)	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
13	セールス&マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
15	人事システムとキャリアデザイン 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
16	まとめ (レポート総評と解説) 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	講義を振り返り質疑応答があれば整理しておくこと(90分)	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基本 ホテル経営教本』	鈴木博・大庭 祺一郎	柴田書店	2012	9784388152872	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	1111漫画概論Ⅱ (科目ナンバリング: AEA222124)				
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標																								
社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。 イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることや、具体的な作品の考察とそれについてのディスカッションを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、自分の創作活動を幅広い社会の中に位置づける意識を養う。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。																								
到達目標																								
現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。 芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。 自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。																								
授業全体の内容と概要																								
これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることや、具体的な作品の考察を通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。																								
授業の方法																								
講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッション、反転授業も取り入れる。 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td>○</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。 作品考察においては、各学生が一つ作品（短い作品）を選び、その作品について調べ、発表を行うほか、その他の学生も同じ作品を授業までに読んでくこと。																								

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	20%	0%	40%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	イラスト漫画概論Ⅱ (科目ナンバリング：AEA222124)					
授業担当者 (所属・職名)	竹内 美帆 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：竹内 美帆)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
2	SMS時代のイラスト・マンガ (1) イラスト/コミックエッセイの隆盛	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
3	SMS時代のイラスト・マンガ (2) デジタル環境と変化するメディア特性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
4	作品考察 (1) : 『電脳MAVO』より水野清香「家族喧嘩」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
5	作品考察 (2) 『電脳MAVO』よりムライ「鳥の眼」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
6	作品考察 (3) 高野文子「田辺のつる」(1980)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
7	作品考察 (4) 高野文子「田辺のつる」(1980)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
8	作品考察 (5) こうの史代「古い女」(2006)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
9	作品考察 (6) こうの史代「古い女」(2006)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
10	作品考察 (7) 個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
11	作品考察 (8) 個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
12	作品考察 (9) 個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
13	AI時代のイラスト・マンガ (1) 生成AIが提起する諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
14	AI時代のイラスト・マンガ (2) 著作権に関わる諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
15	まとめ 期末レポートの提出	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する (90分)
16	期末レポートの解説・フィードバック 授業改善アンケート実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく (90分)	これまでの授業内容を復習する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究 欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科 3 年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選	
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング：SNE144163, SNE244111,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）			研究室等所在	2号館 8 階	
単位数	1 （単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
教員として必要な人間関係を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する知識を深めるため、特別支援学校の児童生徒や教職員及び社会福祉施設の利用者と職員から貴重な時間提供を受けた中で、介護等体験が実施されることを理解し、積極的、主体的に体験に臨むための知識や態度を身に付ける。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
特別支援教育の意義を理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童生徒の特徴がわかり、適切なかわり方を理解する。 社会福祉施設の役割を理解するとともに、社会福祉施設や利用者の特徴がわかり、適切なかわり方について理解する。							
授業全体の内容と概要							
介護等体験の制度と趣旨及びその目的について指導する。 特別支援学校の校種や教育の概要及び社会福祉施設の役割、介助・介護の実際、体験の際に守るべき基本的なマナーを指導する。 体験を想定した心構えや実際にどう行動するかなどについて思考・考察・意見交換等の活動を行う。 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、プレゼンテーションスライドの資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。 一授業の前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。 資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。 内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探査する。 一授業の終了前には、内容の確認小テスト等を実施し、重要ポイントを確認する。 Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、小テスト等を実施するなどして、理解度を把握し指導する。 学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
小学校・中学校の教員免許状を取得するための必修科目である。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び尿かの成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（小学校・中学校）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。 中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護等体験についての知識・技能	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、体験する上での自己課題や心構えなどを自ら整理することができた。	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、自分の考えを整理できた。	介護等体験の意義や内容について一定程度の理解ができた。	介護等体験の意義や内容について一部理解ができた。	介護等体験の意義や内容について理解ができなかった。
介護等体験についての思考・判断・表現	介護等体験について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	介護等体験について思考・判断し、自ら表現することができた。	介護等体験について、思考活動に取り組み表現しようとしてすることができた。	介護等体験について、思考することができた。	介護等体験にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にととても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に参加することができた。	授業にいくらかの関心をもって参加できた。	授業に関心がなく参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選	
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング：SNE144163, SNE244111,)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映、科目を修了して「身に付く力」についての説明 介護等体験制度の歴史、目的、意義等について	シラバスを確認する 介護等体験制度を調べる (90分)	介護等体験制度の意義等をまとめる (90分)
2	特別支援学校における介護等体験の意義、内容等について	特別支援学校で体験する意義を考える (90分)	内容を整理する (90分)
3	特別支援学校の児童生徒の特徴、教育の概要、授業での働きかけ、教育的な配慮等について	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
4	特別支援学校における介護等体験実施に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
5	社会福祉施設における介護等体験の意義、内容及び社会福祉施設の概要、利用者、活動等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
6	社会福祉施設の種類、概要、利用者、活動等について 利用者とのかわわりと配慮等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
7	社会福祉施設における介護等体験に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて 授業改善アンケートの実施	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
8	介護等体験の意義、内容についてのまとめと定期試験（50分間筆記試験、解答説明10分）講評とフィードバック、科目を修了して「身に付く力」に	意義、内容について調べ、自己課題を明確にする (90分)	自己課題をまとめる (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フレリア』	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（編）	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-522-6	
2	『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』	社会福祉法人全国社会福祉協議会	図書印刷	2020	978-4-7935-1277-3	
3	『五訂版 教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』	現代教師養成研究会（編）	大修館書店	2020	978-4-469-26876-8	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122039)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎と なる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、V問題）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
6	原理・価値について（社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチステイグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
16	試験（60分の試験終了後、30分でフィードバックを行い、科目を終了して『身に付く力』についての検証）	試験のための学習（90分）	試験の振り返りを行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションⅠ (科目ナンバリング: AEA222040)				
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (バレーアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ホルベן画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経歴や実績を活かして、条件のある「仕事」の中での個性的な表現を見つけ、身につける方法を実践的に指導する		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

学生が、自分の個性に気づきそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける。
学生が、制作をしていく上で、他者と主体的に協議する力を身に付ける。
学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすればいいかに気づき、考える。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し、個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身に付けられるよう、教師は経験を生かし実践的な授業を展開する。具体的には、ステップ・バイ・ステップ法により自己効力感 (Self-Efficacy) 及び達成感を得られるよう授業を構成する。

授業の方法

授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで展開する。各課題の説明の後実技。こまめな机間巡視により学生一人一人への個別の指導を重視する。講評会に於いてフィードバックを行う。プレゼンテーション、ディスカッションを適宜行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習項目を毎回平均 1F6（またはA3）以上のスケッチブック（またはA3用紙一帳）、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどの系から系まで5種類位）、カッター、リネンやボールペンなど、水彩絵具（第20号）など、各自が必要に応じて用意する材料。課題制作。提出は実際の仕事の納期を意識すること。授業は第一回、目録のしめくり型の形態で終わられるので欠かすよう出席する事が大前提。受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。不測時の授業、構成に依りオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は26回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分の確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度の確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分の確に行雨ことができなかった。
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養（他者と主体的に協働する姿勢）	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。
依頼作品（課題）	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分の確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度の確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションⅠ (科目ナンバリング：AEA222040)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験や実績を活かして、条件のある「仕事」の中での個性的な表現を見つけ、身につける方法を実践的に指導する			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、当該科目を修了して「身に付く力」について、準備	シラバスを読む（４５分）	課題（４５分）
2	自分を見つめる、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	プレゼン資料作り、課題（４５分）
3	プレゼンテーション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	プレゼンのイメージトレーニング、課題（４５分）	課題（４５分）
4	プレゼンテーション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	イラストレーションとは何かを調べる、課題（４５分）
5	イラストレーションとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	ディスカッションの準備、課題（４５分）	課題（４５分）
6	イラストレーションとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
7	モチーフデッサン 触ってみよう・触感を描き表そう、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題（４５分）	課題（４５分）
8	モチーフデッサン ３６０°あらゆる方向から描いてみよう、準備学習・事後学習の課題（１分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題（４５分）	課題（４５分）
9	モチーフデッサン 内部構造を理解しよう・切って・見て・確認・観察、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題（４５分）	課題（４５分）
10	モチーフデッサン 内部構造を理解しよう・切って・見て・確認・観察、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	指定したモチーフを用意する、課題（４５分）	デフォルメについて調べる、課題（４５分）
11	デフォルメとは、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	デフォルメについてまとめる、課題（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
12	線画の基礎 直線・曲線・強弱・点描・ハッチング・タッチなど、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
13	線画 モチーフデッサンを通して物の形を深く理解できたモチーフを用い線画で表現してみよう、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
14	線画 線画の基礎で学んだ中から自分らしさを表現できる技法を用い制作しよう、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
15	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
16	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（５分クロッキー）の説明	課題（４５分）	色の効果について調べる、課題（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	色の効果について、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	色の効果についてまとめる、課題（４５分）	課題（４５分）
18	色の効果について、ディスカッション、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
19	色の基本 着彩の基本を学ぼう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
20	色の基本 着彩の基本を学ぼう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
21	伝えるとは 形・線・色を駆使して伝えよう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
22	伝えるとは 形・線・色を駆使して伝えよう、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
23	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
24	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
25	イラストレーションの依頼を受ける、依頼を受けてから納品までの流れ、エスキースから完成までの制作の流れ、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
26	イラストレーションの依頼を受ける、制作、エスキース、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
27	イラストレーションの依頼を受ける、制作、下描きの説明	課題（４５分）	課題（４５分）
28	イラストレーションの依頼を受ける、制作、線描き、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
29	イラストレーションの依頼を受ける、制作、着彩、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
30	イラストレーションの依頼を受ける、制作、微調整、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
31	講評会（フィードバック）、準備学習・事後学習の課題（１０分クロッキー）の説明	課題（４５分）	課題（４５分）
32	講評会（フィードバック）、授業改善アンケートの実施、当該科目の第１回目に示した「身に付く力」について検証	課題（４５分）	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築法規Ⅳ (科目ナンバリング：APT323032)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：佐藤 善太郎）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
広範な建築関係法令の中で、建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち、社会の中でどう機能し、運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法、何かと話題で今後も改正が予想される建築士法、ユニバーサルデザイン・バリアフリーの観点からの新ハートビル法、都市防災の要である消防法他、関係法令を実務的視点も含めて理解する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
都市計画法の建築基準法に関連する規定や、建築士法および建設法の建築基準法に関連する規定、その他の建築関連法規に関する規定を理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。 「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業							
授業の方法							
授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画法の建築基準法に関連する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を8割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を6割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができなかった。
建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定の理解	建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定を正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定を8割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定を6割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定を理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に関連する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築法規Ⅳ (科目ナンバリング：APT323032)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 善太郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基本建築関係法令集2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して「身に付く力」についての説明 都市計画法1・建築士法と都市計画法	建築法規Ⅱの振り返り (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
2	都市計画法2 - 都市形成	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
3	都市計画法3 - 開発	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
4	都市計画法4 - 地域・区域	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
5	都市計画法5 - 都市の構成	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
6	建築士法1 - 建築士の役割	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
7	建築士法2 - 業務と倫理	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
8	建設業法1 - 施工管理	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
9	建設業法2 - 生産管理	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
10	新ハートビル法 - やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
11	消防法1 - 消防設備	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
12	消防法2 - 防災計画	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読 (90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
15	民法 - 建築関係抜粋 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読 (90分)	本講義の振り返り (90分)
16	理解度診断試験 (60分)・試験解説 (30分) をし、 回答をフィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	事前提示の条文熟読 (90分)	試験の振り返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・社会福祉学科			4年
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	教育相談(カウンセリングを含む。) (科目ナンバリング: EDP124065, EDP244108,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし、研究室にて対応。					

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回とする。 レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について、資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して、学校で起こる教育的諸課題について、資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について、キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができた。自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科・社会福祉学科 4年		
開講時期	1 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(カウンセリングを含む。) (科目ナンバリング：EDP124065, EDP244108,)					
授業担当者 (所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者： 蝦名 美穂)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて、講義を行う。				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし、研究室にて対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ガイドブック あつまれ！みんなで取り組む教育相談 ケース理解×チームづくり×スキルアップ』	益子洋人・平野直己	明石書店	2 0 2 2	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）。授業改善アンケート結果反映の説明	教育相談について調べる（90分）	授業で学ぶ内容について振り返る（90分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内にいる教育相談を担う仲間たちの役割	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の外にいる教育相談を担う仲間たち（地域）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の外にいる教育相談を担う仲間たち（地域）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
5	相談技法（1）カウンセリングの基本姿勢、対応の基本スキルを学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
6	相談技法（2）実際の教育相談の進め方と留意点	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
7	相談技法（3）ソーシャルスキルトレーニング（開発的カウンセリング）を学ぶ	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
8	学校で起きる諸課題の特徴①いじめ（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
9	学校で起きる諸課題の特徴②不登校（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
10	学校で起きる諸課題の特徴③発達障害（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
11	学校で起きる諸課題の特徴④アタッチメントに関わる課題（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
12	学校で起きる諸課題の特徴⑤児童虐待（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
13	学校で起きる諸課題の特徴⑥自然災害（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
14	学校で起きる諸課題の特徴⑦「危機」対応（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
15	学校で起きる諸課題の特徴⑧保護者支援（事例検討含む）	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（90分）
16	これまでの講義のまとめ。授業改善アンケート実施。講義についてのフィードバック。科目を修了して	これまでの講義のまとめ・疑問点の整理（90分）	自らの学修姿勢を評価する（45分）。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『深掘り！関係行政論 教育分野 公認心理師必修』	高坂 康雄	北大路書房	2 0 2 1	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井 肇	教育開発研究所	2 0 2 3	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	学校インターシップ ⁹ （学校体験活動）（3年） （科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，）					
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、藤根収（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
体験活動において、児童生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、次の目標を達成することができる。 ①児童生徒の実態に応じた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。 ②教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握することができる。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
学校または学校が主体となって展開する事業等において、一定量の体験活動を行うことにより、学校における教育活動の実態を総合的に理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
学校において、学校運営にかかわる様々な活動を体験することにより、児童生徒の実態に応じた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 体験活動をおして、教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握する。 体験状況や体験によって得られた成果や課題について、その都度「活動報告書」に記録し、今後の自身の活動に活かすことができるよう整理し報告する。							
授業の方法							
学校において、生徒の話し相手、授業補助、学校行事・部活動への参加、事務作業の補助、放課後児童クラブ、放課後教室、土曜授業の補助、特別支援活動等に従事するとともに、活動報告書に具体的な活動及び学修事項を記入する。 体験活動発表会において成果等を発表し全体で共有する。 活動報告書については、評価とコメントにてフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
服装・頭髪はもとより、個人情報の取扱い等について体験活動受入先の指示に従うこと。 出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後学習活動の機会を失うことがある。 担当教員は適宜、体験活動視察及び面談指導を行う。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
事前指導・事後指導を含め、高等学校等における体験活動等を45分×30単位時間（1350分）以上行わなければならない。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校教育にかかわる体験活動をおとして、様々な職務内容について理解する。（知識・技能）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性についてよく理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について概ね理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について最低限理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について理解が著しく不足し、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
学校教育にかかわる体験活動の中で、活動に応じて思考・判断・表現等ができる（思考力・判断力・表現力）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について十分に思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について概ね思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について最低限思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について、全く思考・判断がなされず、期待される最低限度の基準に到達できなかった。
学校教育にかかわる体験活動について、積極的、意欲的に取り組むことができる。（主体的・積極的な取組態度）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	各体験活動に大変主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動に概ね主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動への取組に特段積極的は見られなかった。	各体験活動に主体的・積極的に取り組む態度が著しく欠け、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	学校インターシップ [*] （学校体験活動）（3年） （科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，）					
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、藤根収（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	事前指導・オリエンテーション（シラバス、科目を修了して「身に付く力」の説明を含む）	シラバスを読む (45分)	体験活動のシステムを復習する (45分)
2	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
3	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
4	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
5	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
6	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
7	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
8	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
9	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
10	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
11	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
12	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
13	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
14	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
15	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
16	事後指導における活動体験の振り返りと成果と改善内容の整理 科目を修了して「身に付く力」の検証	活動体験をまとめる (45分)	活動報告書の感想を書く (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	学校インターシップ ⁹ （学校体験活動）（4年） （科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，）					
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、藤根収（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
体験活動において、児童生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、次の目標を達成することができる。 ①児童又は生徒の実態に応じた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。 ②教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握することができる。							
授業の位置づけ							
設定なし							
到達目標							
学校または学校が主体となって展開する事業等において、一定量の体験活動を行うことにより、学校における教育活動の実際を総合的に理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
学校において、学校運営にかかわる様々な活動を体験することにより、児童生徒の実態に応じた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 体験活動とおして、教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握する。 体験状況や体験によって得られた成果や課題について、その都度「活動報告書」に記録し、今後の自身の活動に活かすことができるよう整理し報告する。							
授業の方法							
学校において、生徒の話し相手、授業補助、学校行事・部活動への参加、事務作業の補助、放課後児童クラブ、放課後教室、土曜授業の補助、特別支援活動等に従事するとともに、活動日誌に具体的な活動及び学修事項を記入する。 体験状況や体験によって得られた成果や課題について、その都度「活動報告書」に記録し、今後の自身の活動に活かすことができるよう整理し報告する。 活動報告については、評価とコメントにてフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
服装・頭髪はもとより、個人情報の取扱い等について体験活動の受入先の指示に従うこと。 出席状況、受講態度等で適格性を欠いていると判断された学生は、以後学習活動の機会を失うことがある。 担当教員は適宜、体験活動観察及び面談指導を行う。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと、修学サポートする。事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
事前指導・事後指導を含め、高等学校等における体験活動等を45分×30単位時間（1350分）以上行わなければならない。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校教育にかかわる大家 ⁹ ン活動とおして、様々な実務内容について理解する。（知識・技能）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性についてよく理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について概ね理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について最低限理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について理解が著しく不足し、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
学校教育にかかわる体験活動の中で、活動に際して思考・判断・表現等ができる（思考力・判断力・表現力等）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について十分に思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について概ね思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について最低限思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び教員としての適格性や解決すべき課題について、全く思考・判断がなされず、期待される最低限度の基準に到達できなかった。
学校教育にかかわる体験活動について、積極的、意欲的に取り組むことができる。（主体的・積極的な取組態度）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	各体験活動に大変主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動に概ね主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動への取組に特段積極性は見られなかった。	各体験活動に主体的・積極的に取り組む態度が著しく欠け、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	学校インターシップ [*] （学校体験活動）（4年） （科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，）					
授業担当者 （所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、藤根収（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科			研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	活動受入れ校との打ち合わせ（科目を修了して「身に付く力」の説明を含む） 活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	体験活動のシステムを復習する （45分）
2	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
3	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
4	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
5	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
6	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
7	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
8	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
9	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
10	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
11	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
12	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
13	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
14	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動記録表を完成する （45分）
15	活動受入れ校における体験活動	事前に受入れ校と打合せを行う （45分）	活動報告書を完成する （45分）
16	事後指導における、活動体験の成果と課題、今後の活かし方等の整理 「身に付く力」の検証	活動体験をまとめる （45分）	活動体験発表の感想を書く （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションⅡ (科目ナンバリング：AEA222041)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照					

概要

履修目標							
学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養をより一層身に付ける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける。 学生が、制作をして行く上で、他者と主体的に協議する力を身に付ける。 学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすれば良いかに気付き、考える。							
授業全体の内容と概要							
学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身につけられるよう、教師は経験を生かし実践的な授業を展開する。							
授業の方法							
授業は、口頭、板書、パワーポイント、配布資料などで展開する。各課題の説明の後実技。こまめな机間巡視により学生一人一人への個別指導を重視する。講評会に於いてフィードバックを行う。プレゼンテーション、ディスカッションを適宜行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
イラストレーションⅠの履修・習得を履修の前提とする。学習用具を毎回持参（F6（またはA3）以上のスケッチブック（またはクロッキー帳）、鉛筆（ステッドラーやハイユニなどH系からB系まで5種類くらい）、カッター、ミリペンやボールペンなど、色鉛筆、アクリル絵の具（ターナーリー35など）、最終課題A3イラストレーションボード2枚）課題制作。提出は実際の仕事の納期を意識すること。授業は積み重ね型で構成しているので欠かさず出席することが大前提。受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。不測の時の授業、補講などにオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は26回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作をある程度の確に行えた	基本となる技術を身に付け、自分らしさを活かしたイラストレーションの制作を的確に行えなかった
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての要素（他者と主体的に協働する姿勢）	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を十分身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養をほぼ身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養はある程度は身に付けた	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を大体身に付けられなかった
依頼作品（課題）について	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度は的確に行えた	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確にできなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションⅡ (科目ナンバリング：AEA222041)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (パレオアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス、授業改善アンケート結果反映、当該科目を修了して身につく力について)、準備学習・事後学習 (課題・1分クロック)	シラバスを読む (45分)	課題 (45分)
2	イラストレーションの仕事の流れ、イラストレーターに必要な素養、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
3	ステップ1人物・動き・素描、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
4	ステップ1人物・動き・素描、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明、講評会 (フィードバック)	課題 (45分)	課題 (45分)
5	ステップ2人物・色々な顔・素描、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
6	ステップ2人物・色々な顔・素描、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明、講評会 (フィードバック)	課題 (45分)	課題 (45分)
7	ステップ3人物・構造・デッサン、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
8	ステップ3人物・構造・デッサン、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明、講評会 (フィードバック)	課題 (45分)	課題 (45分)
9	ステップ4人物・デフォルメ、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
10	ステップ4人物・デフォルメ、準備学習・事後学習 (課題・1分クロッキー) の説明、講評会 (フィードバック)	課題 (45分)	課題 (45分)
11	依頼 (課題) 制作ステップ1依頼内容の吟味、ディスカッション、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
12	依頼 (課題) 制作ステップ2主役の考察、ラフデザイン、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
13	依頼 (課題) 制作ステップ3脇役の考察、ラフデザイン、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
14	依頼 (課題) 制作ステップ3脇役の考察、ラフデザイン、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
15	依頼 (課題) 制作ステップ4小物・背景の考察、ラフデザイン、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
16	依頼 (課題) 制作ステップ4小物・背景の考察、ラフデザイン、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明、講評会 (フィード	課題 (45分)	課題 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	依頼 (課題) 制作ステップ5エスキース、画面構成、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
18	依頼 (課題) 制作ステップ5エスキース、画面構成、配色計画、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
19	依頼 (課題) 制作ステップ6下描き、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
20	依頼 (課題) 制作ステップ6下描き、準備学習・事後学習 (課題・5分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
21	依頼 (課題) 制作ステップ7線画、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
22	依頼 (課題) 制作ステップ7線画、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
23	依頼 (課題) 制作ステップ8着彩、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
24	依頼 (課題) 制作ステップ8着彩、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
25	依頼 (課題) 制作ステップ9微調整、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
26	依頼 (課題) 制作ステップ9微調整、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明、依頼 (課題) の納品 (提出)、メールの書き方	課題 (45分)	課題 (45分)
27	講評会 (フィードバック) 1プレゼンテーション、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
28	講評会 (フィードバック) 2プレゼンテーション、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
29	講評会 (フィードバック) 3プレゼンテーション、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
30	講評会 (フィードバック) 4プレゼンテーション、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
31	講評会 (フィードバック) 5依頼者目線で考えてみよう ディスカッション、準備学習・事後学習 (課題・10分クロッキー) の説明	課題 (45分)	課題 (45分)
32	講評会 (フィードバック) 5依頼者目線で考えてみよう ディスカッション、授業改善アンケートの実施、当該科目の第1回目で示した身につく力の検証	課題 (45分)	講評会を通じて感じたこと学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング: APT324038)				
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日 teamsで、事前に予約すること。				

概要

履修目標

ケーススタディや、グループディスカッションを通して、建築業に携わる者としてや、建築士としての人格や考え方、社会的な役割と重要性、責任性を養い、職業倫理の大切さや判断力を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4.DP5に対応する科目

到達目標

建築士、建築技術者、建築施工者として社会的役割を担うにあたり、責任や倫理において必要とされる、人間性や考え方、判断力の重要性を習得する。

授業全体の内容と概要

建築は、職能的に幅広い分野が含まれるため、社会と広く深く関わりを持った分野である。そのため、施主・建築士・建設技術者・販売業者などいろいろな立場それぞれその責任や考え方が異なる。

「SDGs12 つくる責任 つかう責任」
その倫理は何かを学び、自覚できるよう、教科書と内容に沿った事例を用いて学習する。

授業の方法

実際の事例を基にケーススタディをグループディスカッションで行い、またそれをプレゼンテーションして発表を行い、グループ同士で意見交換することでいろいろな考えを知り、それをいくつかのケースを行うことで倫理的な考え方や人間性を養う。欠席者の理由によっては、または不測の事態にはオンライン授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学生の状態をみて、学生に寄り添ったを指導に改善しながら行う。欠席者・遅刻者に対しては、その旨、理由を連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評價前提條件

原則的に毎回の出席を重要視し、必要な課題の提出も判断基準とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	0%	40%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから、将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から、最善の判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から、倫理的視点からほぼ近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ、グループディスカッションを通じて技術者としてのモラルまで発展させる能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し、自己の意思をほぼ伝えることができる。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について、紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築の職能と倫理 (科目ナンバリング：APT324038)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：君 興治)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。			
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日 teamsで、事前に予約すること。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築倫理用教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2010年2月1日	978-4-8189-2211-2 C3052	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方と到達目標について	シラバスの事前確認	授業内容の確認（90分）
2	建築職能論とは ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
3	建築の職能の歴史 ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
4	建築士の活動事例による社会的役割 ケーススタディとグループディスカッション#1	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
5	#1のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックす	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
6	建築計画の立場から見た職能論 ケーススタディとグループディスカッション#2	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
7	#2のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックす	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
8	都市計画の立場から見た職能論 ケーススタディとグループディスカッション#3	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
9	#3のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックす	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
10	景観・環境・歴史まちづくり法における建築士の役割 ケーススタディとグループディスカッション#4	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
11	#4のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックす	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
12	防災における建築士の責任 ケーススタディとグループディスカッション#5	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
13	#5のプレゼンテーション、発表 発表内容、レポートの提出に対し、コメントや講評を記載して各学生に渡すことで、フィードバックす	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
14	環境保全、修復に関わる活動や建築士の責任 ケーススタディとグループディスカッション#6	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
15	#6のプレゼンテーション、発表 安全や環境における建築業務へのあり方について、発表やレポート提出を行い、それについて講評	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
16	総括（レポート提出状況と解説・評価） 授業改善アンケートの実施、科目を修了して「身に付く力」についての検証	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（90分）	全体の振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本建築学会の技術者倫理教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2009年6月10日	978-4-8189-2221-1 C3052	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ゲロバ ^レ ヅネⅠ (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)・河野 善文(経営学科・教授)・後藤啓倫(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階(信濃)・1号館2階(河野)・1号館4階(後藤)	
単位数	2	(単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制		○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

概要

履修目標							
経営学を学ぶ上で必要となる、国際的な感覚と基礎知識を身に付ける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
国際的な場面で起きる様々な出来事に対して、自分なりの意見や考え方をしっかりとした理由付けの元、構築し自分の将来に役立てることができる。							
授業全体の内容と概要							
本講座は3人の教員によるオムニバス形式の講義である。配布物や板書が多いのできちんとノートにまとめ、その内容をしっかりと理解する。様々な場面・考え方を理解することによって国際関係がどのようにつながり発展しているのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」に関連科目。							
授業の方法							
講義形式で授業を行う。学習範囲の記事や資料を多用し、現在の国際社会を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に担当教員が指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次の回の授業までに必ずノートに記載すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに登録保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等オンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為および4点セットを持たない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとし、状況によっては評価対象外とすることがある。各担当者の最終授業において必ず小テストを実施する。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。							

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。各教員の講義で最大許容欠席は2回までとする。予習復習を心がけ、知らない・分らない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。最終評定は3回のテストの合計とノート提出に平常点を加味して行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	2 2 0%	0%	0%	20%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	テストで90点以上の得点を挙げた。	テストで80点以上の得点を挙げた。	テストで70点以上の得点を挙げた。	テストで60点以上の得点を挙げた。	テストで60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、意思決定や国際問題への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や国際理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら国際理解に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメンタ力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	グローバルビジネスⅠ (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)・河野 善文 (経営学科・教授)・後藤啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階 (信濃)・1号館2階 (河野)・1号館4階 (後藤)	
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション国際政治 (1) (後藤担当) 国際関係の成立ヨシ：シラパスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	専用のノートを準備し、高校「世界史」近現代部分を復習する (90分)	ノートによる情報のデータベース化すなわち授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
2	国際政治 (2) (後藤担当) 第一次世界大戦	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
3	国際政治 (3) (後藤担当) 第二次世界大戦	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
4	国際政治 (4) (後藤担当) 冷戦の始まり	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
5	国際政治 (5) (後藤担当) 冷戦の展開	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
6	国際政治 (6) (後藤担当) 冷戦後の国際政治	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える (90分)
7	国際政治 (7) (後藤担当) グローバル化と国際政治	分からない単語について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える (90分)
8	国際政治 (8) (後藤担当) まとめとテスト	分からない単語について調べ、テストの準備をする (90分)	テストの問題を復習する (90分)
9	経済のグローバル化 (1) (河野担当) 国境を超えるヒト・モノ・カネと情報	「経済のグローバル化」とは何か、グローバル化の言葉の意味を調べてノートにまとめる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
10	経済のグローバル化 (2) (河野担当) 日本経済のグローバル化 グローバル化の問題	日本経済のグローバル化の歴史について調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
11	経済のグローバル化 (3) (河野担当) 情報のグローバル化とその問題	情報のグローバル化の問題を調べる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
12	経済のグローバル化 (4) (河野担当) まとめと小テスト 演習に関するコメント (フィードバック)	経済のグローバル化についてこれまでのノートをまとめる (90分)	小テストの復習 (90分)
13	国際パートナーシップ (信濃担当)	国際化とグローバリズムについて考えをまとめる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
14	多国籍企業に求められるCSR (信濃担当)	グローバルビジネスにおける障害に関して考えをまとめる (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめる (90分)
15	経営のグローバル化 (信濃担当) 政治上のグローバル化とビジネス上のグローバル化 授業評価アンケートの実施	グローバリズムについて自分の考えをまとめてノートに記す (90分)	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える (90分)
16	経営と共生社会 (信濃担当) 結果の平等と機会の平等 まとめと小テスト+最終に関する説明	義務と権利・責任について自分の考えをまとめ、小テストに備える (90分)	本科目の総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技	必修・選択	教員の免許状	
科目名称	教育とICT活用 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 由水 伸)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワーク の構築・運用に必要な知識について講義を行う			
オフィスアワー	講義時間以外は随時実室可 (全講等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

概要

履修目標								
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を身に付けることを目的とする。								
授業の位置づけ								
－								
到達目標								
新しい時代の初等中等教育において、教師には情報機器及び 教材の活用能力、そしてICTを活用した指導力の向上が求められている。本科目ではそれらの基礎知識の修得とともに現場の実例を踏まえた上で以下の4つに大別された能力の修得を目指す。 ・A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 ・B 授業にICTを活用して指導する能力 ・C 児童生徒のICT活用を指導する能力 ・D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力								
授業全体の内容と概要								
テーマ別に以下の順に進める。 ・授業にICTを活用するための基礎知識の修得 ・授業にICTを活用して指導する能力の修得 ・児童生徒のICT活用を指導する能力の修得 ・教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力の修得 ・情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力の修得								
授業の方法								
授業は教科書および遠隔授業システムから配信される資料、インターネット上の資料や教育実践事例等を参考に進むが、丸暗記やコピーではなく、工夫した独自のアイデアを重要視する。 受講にあたっては、遠隔授業システムを使用するのでスマートフォン、PCを利用する。また、インターネット接続環境は必須となる。事前に準備しておくことが必要である。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。								
アクティブラーニングの実施方法								
○	プレゼンテーション	○	グループワーク			フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項								
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は5回以上。 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 授業中の課題も評価に含めるので、欠席をするとS評定の取得は困難となる点に注意すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	授業支援ソフトやICTツール（LMS、クラウド、データ管理等）を効果的に組み合わせ、教育効果の向上を具体的に説明・実践できる	授業支援ソフトやICTツールを適切に活用し、一定の教育効果を示すことができる	基本的なICTツールを使い、授業準備や校務に役立てることができる	指導の準備や校務でICTを使用するが、効率や効果の面で課題がある	ICTの活用が不十分、または適切に活用できていない
授業にICTを活用して指導する能力	模擬授業において、ICTを駆使し、児童生徒の学びを深める効果的な指導ができる	ICTを適切に活用した模擬授業を行い、指導の意図が明確である	基本的なICT機器・教材を用いた模擬授業を実施できる	指導の中でICTを利用するが、活用が限定的で十分ではない	授業でICTを適切に活用できず、授業設計が不十分である
児童生徒のICT活用を指導する能力	Scratch等の教材を活用し、児童生徒が自発的に学べるような工夫を施した指導ができる	児童生徒のICT活用を促すための適切な指導ができる	児童生徒のICT活用に関する指導の基礎を理解し、実践できる	児童生徒のICT活用に関する指導の基礎を理解し、実践できる	児童生徒のICT活用指導ができず、基本的な知識も不足している
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	著作権・肖像権・ネットモラル・セキュリティについて深い理解があり、議論や指導ができる	著作権やネットモラルに関する基礎知識を持ち、適切な指導ができる	情報倫理の基本を理解し、児童生徒に対して一定の指導ができる	情報倫理についての理解が不十分であり、指導に課題がある	情報倫理についての知識がなく、誤った指導をする可能性がある
授業態度・積極性、課題の提出と質	グループワークや模擬授業に積極的に参加し、リーダーシップを発揮する、または、すべての課題を期限内に提出し、内容が優れたものである	積極的に発言し、模擬授業や議論に貢献する。または、すべての課題を期限内に提出し、基準を満たしている	必要最低限の発言や参加ができていて、または、一部の課題に不備があるが、概ね提出できている	最低限の参加はするが、消極的な態度が見られる。または、課題提出が遅れる、または内容に大きな欠陥がある	授業に対する積極性がなく、課題提出や活動への参加が不十分、または、期限内に課題を提出せず、内容も不十分

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・2年			
開講時期	2Q	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技		必修・選択	教員の免許状
科目名称	教育とICT活用 (科目ナンバリング:)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワーク の構築・運用に必要な知識について講義を行う			
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可 (会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『無理なくできる学校のICT活用 (長谷川元洋 学事出無理なくできる学校のICT活用 (長谷川元					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	◇オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを確認し、新出の用語を理解する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
2	◇授業にICTを活用するための基礎知識 (1) ハードウェアとソフトウェア (OSとアプリケーション ン)	クラウドコンピューティングとは何かを予習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
3	◇授業にICTを活用するための基礎知識 (2) ソフトウェアとデータ形式 (「文字」「画像」「音 声」「動画」他)	コンピュータを構成する主な部品とその役割を予習 する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
4	◇授業にICTを活用して指導する能力 (1) 学習基盤の環境確立とICTを活用した授業デザイン 教材作成とプレゼンテーションの技法 (プロジェク ト)	インターネットの歴史的と背景について予習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
5	◇授業にICTを活用して指導する能力 (2) グループウェアとLMSを使った授業 遠隔授業 (オンライン授業とe-Learning) のポイン ト	VPNを予習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
6	◇児童生徒のICT活用を指導する能力 事例研究：特徴的な実施例を調査 (一斉学習、個人 学習、協業学習)	IaaS、PaaS、SaaSをそれぞれ予習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
7	◇教材研究・指導の準備・評価・校務など にICT を活用する能力 事例研究・教科外活動における利用法を調査 (教育 ICT活用)	Googleドライブと OneDriveについて比較する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
8	◇情報活用の基盤となる知識や態度について指導す る能力 知的財産権 (著作権・肖像権)、ネットモラル・マ ナー	クラウドアプリケーションの実例を調査する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ (科目ナンバリング：PSS122037)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2	(単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策に ついて講義をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

現代の精神保健の課題と支援Ⅰでの学習をもとに、精神保健の予防と支援の実際、差別や偏見に関する問題、精神保険に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携、諸外国やWHOなどの精神保健活動の現状について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①精神保健に関する予防の考え方について理解する。
②精神保健に関する諸問題に対する対策を理解する。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式が主だが、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の講義前に事前課題をMicrosoft Formsにて発信を行う。必ず確認してから、授業に臨むこと。
③毎回の確認小テストをMicrosoft Formsを通して発信する。
④授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングして管理を徹底すること（特段の理由が無い限り再配布はしない）。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（10点）、第16回目に実施する定期試験（90点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。	精神保健に関する予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方についておおむね説明できた。	予防の考え方について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策についておおむね説明できた。	精神保健に対する対策に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について種々の役割と連携についておおむね説明できた。	地域精神保健に関する偏見と差別等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね説明できた。	世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ (科目ナンバリング：PSS122037)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2	(単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2023	4805882535	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の課題と支援Ⅰの授業内容の復習	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	精神保健の予防の考え方	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	精神保健に関する発生予防と対策①(アルコール問題、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神保健に関する発生予防と対策②(うつ病と自殺予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神保健に関する発生予防と対策③(子育て支援と暴力、虐待予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神保健に関する発生予防と対策④(認知症高齢者に対する支援)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健に関する発生予防と対策⑤(社会的ひきこもりに対する支援)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健に関する発生予防と対策⑥(災害時の精神保健に対する対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題(関係法規、精神保健における偏見)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健に関する専門職①(国の機関と役割、精神保健に関する関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健に関する専門職②(地域精神保健に係わる行政の役割)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神保健に関する専門職③(啓発団体、セルフヘルプグループと市民団体)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	諸外国の精神保健活動の現状及び対策(世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバック	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	キャラクターデザインⅠ (科目ナンバリング：AEA222044)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
キャラクターデザインについての理解を深める。 キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ。 魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
キャラクターデザインについて知る。 キャラクターデザイナーの役割を実践形式で体験する。 オリジナルキャラクターを生み出す。							
授業全体の内容と概要							
2つのテーマ別課題に沿ったキャラクターをデザインし、発表する。制作はアナログ・デジタルどちらでも可。課題は授業内で説明、ラフデザインから完成まで段階を踏みながら制作する。完成したビジュアルはプレゼンボードにして展示する。							
授業の方法							
授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。 授業後にデジタル資料はTeam Sに保存するので振り返り可能。段階ごとにグループワークでのディスカッションを行い、また個別にも対応する。 完成作品は講評にてフィードバックする。発表後、パネルにして展示する。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
デジタルで課題制作を行う場合は教室で制作できるように機材を持参すること。 アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。 遅刻しないこと。 欠席する場合は事前に連絡すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数11回以上。 課題は期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることに努めた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。	
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことに努めた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。	
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	キャラクターデザインⅠ (科目ナンバリング：AEA222044)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」について	シラバスを読んでおくこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
2	ポーズについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
3	構図について	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
4	キャラクターデザイン制作①コンセプト	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
5	キャラクターデザイン制作①ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
6	キャラクターデザイン制作①ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
7	キャラクターデザイン制作①発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
8	キャラクターデザイン制作①ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
9	キャラクターデザイン制作②コンセプト	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
10	キャラクターデザイン制作②ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
11	キャラクターデザイン制作②ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
12	キャラクターデザイン制作②発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
13	キャラクターデザイン制作②ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
14	印刷	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
15	プレゼンボードの作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
16	展示 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して「身に付く力」についての検証。授業改善	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	測量学 (科目ナンバリング：CIE323037)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関する狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。							
授業全体の内容と概要							
初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。							
授業の方法							
授業は教科書と配布資料を中心にプロジェクターを利用した講義形式で行う。 建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
関数電卓持参すること。数学が不得意の学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
7 0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	3 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他の人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作でき、他の人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他の人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	測量学 (科目ナンバリング：CIE323037)					
授業担当者 (所属・職名)	長森 正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2（単位認定責任者：長森 正）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須亮	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
2	地球の形と地図の表し方	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
3	測量の基本（1） 基準点・三角測量	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
4	測量の基本（2） 距離測量・補正演習	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
5	測量の基本（3） 水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
6	測量の基本（4） 単角法・倍角法・方向法	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
7	衛星測位	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
8	トラバース測量	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
9	水準測量（1） 水準測量の基本	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
10	水準測量（2） 昇降式・器高式	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
11	地形測量・平板測量・建築工事測量	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
12	測量実技演習（1）水準測量	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
13	測量実技演習（2）水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
14	写真測量演習	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（90分）
15	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説を行いフィードバックする	授業内容全体について資料を整理して、定期試験の準備（90分）	定期試験問題を理解し復習する（90分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」についての検証	授業内容全体について資料を整理する90分）	授業内容全体について資料を整理する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ (科目ナンバリング: SWS123040)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者: 西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。							
授業全体の内容と概要							
①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要、過程、実際について学ぶ。 ②多職種連携多機関連携について学ぶ。 ③ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークソーシャルアクション等について学ぶ。 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目							
授業の方法							
①授業形態は講義形式で行う。 ②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 ③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。 ⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①教科書は必ず持参すること。 ②必要な資料等は適宜配布する。 ③20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ (科目ナンバリング：SWS123040)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 ソーシャルワークの構成要素について	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
2	ソーシャルワークの展開過程について①（インテーク～プランニング）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
3	ソーシャルワークの展開過程について②（インターベンション～アフターケア）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
4	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点について	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
5	アウトリーチについて	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
6	インテークについて（主訴の把握、スクリーニング、契約）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
7	アセスメント（本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
8	援助関係の形成技法について（自己決定、意思決定、パートナーシップ、バウンダリー）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
9	面接技術について(面接の構造、マイクロカウンセリング)	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ)についての事例分析	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
11	支援の展開（ケアマネジメント）について	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
12	精神障害者家族の課題について（ケアラー・ヤングケアラー支援）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
13	家族理解の変遷について（家族システム論、家族の感情表出研究）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
14	家族支援の方法について①（家族相談面接、家族関係における暴力への介入）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
15	家族支援の方法について②（家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
16	試験（60分の試験終了後、30分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証）	試験のための学習（90分）	試験の振り返りを行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年				
開講時期	4 Q	授業形態	実技		必修・選択	選択	
科目名称	キャラクターデザインⅡ (科目ナンバリング：AEA222045)						
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在		2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：		三上 いずみ)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、具現化する。 自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索する。 オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げる。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知る。 自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶ。 オリジナルのキャラクターを生み出し、立体作品に仕上げる。							
授業全体の内容と概要							
テーマに沿ったキャラクターを発想し、立体物として仕上げる。張り子技法で制作する。 完成後、作品を撮影し、発表する。その後、展示を行い講評にてフィードバックする。 「SDGs 12、つくる責任つかう責任」の関連授業。							
授業の方法							
授業内容は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後、デジタル資料はTeam sに保存するので繰り返し可能。共同使用する材料はこちらで準備する。個人で使用する物は各自で準備する。 ラフデザインの段階でグループワークで野ディスカッションを行い、学生相互でデザインのクオリティ向上を目指す。デザイン決定後、立体制作に入る。 課題は講評にてフィードバックする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題制作に真剣に取り組み、完成作品は必ず持ち帰ること。 ハサミ、カッター、ガムテープ、刷毛、筆、ボウル（入れ物）など、は各自で用意すること。 授業開始から30分で作業の説明をするので遅刻しないこと。 欠席した場合は次の授業までに同じ段階まで作業を進めておくこと。 欠席する場合は事前に連絡すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数11回以上。 作品が期日までに完成していること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造の理解	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解し、作品に活かすことができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することに努めた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができなかった。
表現方法	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索し、作品に活かすことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することに努めた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができなかった。
作品への情熱	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げる。完成度の高い作品ができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げるこができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げることに努めた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げるこができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げるこができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	キャラクターデザインII (科目ナンバリング：AEA222045)					
授業担当者 (所属・職名)	三上 いずみ (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：三上 いずみ)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・科目を修了して「身に付く力」についで	シラバスを読んでおくこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
2	ラフデザイン グループでのディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
3	立体造形 芯づくり①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
4	立体造形 芯づくり②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
5	立体造形 成形①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
6	立体造形 成形②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
7	立体造形 補強①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
8	立体造形 補強②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
9	立体造形 着色①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
10	立体造形 着色②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
11	立体造形 表面加工①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
12	立体造形 表面加工②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
13	立体造形 仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
14	立体造形 仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
15	撮影・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
16	展示・講評にてフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと (45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ (科目ナンバリング:SEW324058)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として、一般建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
1 級建築施工管理技士一次(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
国家資格である「1 級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。							
授業全体の内容と概要							
使用テキストに沿って「1 級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要な最低出席回数は1.1回以上とする。また、定期試験は実施せず、日常授業の8回の小テスト（課題）の結果成績を勘案して総合評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
1級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組み意志があった。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ (科目ナンバリング: SEM324058)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『令和5年度 1級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明 (小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
2	構造力学－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
3	計画原論・一般構造－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
4	計画原論・一般構造－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
5	建築材料－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
6	建築材料－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
7	躯体工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
8	躯体工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
9	躯体工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
10	躯体工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
11	仕上工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
12	仕上工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
13	仕上工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
14	仕上工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
15	設備工事・その他－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
16	設備工事・その他－解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネスリサーチⅠ (科目ナンバリング:)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授) 河野 善文 (経営学科・教授) 石山 玄幸 (経営学科・教授) 小林 大		研究室等所在	2号館6階	1号館2階 号館8階	1号館2階 2
単位数	2	(単位認定責任者: 信濃 吉彦)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること					

概要

履修目標						
本講座は、3年次以降に開講されるビジネスリサーチ演習の準備講座である。学生諸君は経営分析や企業リサーチ等をイメージしてその基礎的事項に関して強化・訓練をしてもらう。						
授業の位置づけ						
経営学部全てのDPに対応する科目						
到達目標						
本講義を履修した学生には調査・分析・報告を社会人として恥ずかしくないレベルで行えるようになってもらいたい。						
授業全体の内容と概要						
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業						
授業の方法						
担当教員の指示に従い、個人レベルやペアレベル、小グループ等さまざまな状況・状態で問題解決にあたってもらう。						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○
						PBL
						反転授業
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
4名の教員がオムニバスに担当する。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は11回以上とする。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前条件					
各教員が課したレポートやペーパー類はもちろん、調査内容や自分の意見は理由と共に文字化してノートまたはPC内に保存すること。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は11回以上とする。また、提出期限を過ぎてから提出された課題に関しては全て0点として最終評定に加える。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
％	40％	40％	％	20％	％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段の考え方に對する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、企業調査において必要となる知識や手段とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら調査・分析に取り組み、余った時間をさるる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学におけるマーケティング力の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
知識・技能	提出物の合計で90点以上の評価を受けた。	提出物の合計で80点以上の評価を受けた。	提出物の合計で70点以上の評価を受けた。	提出物の合計で60点以上の評価を受けた。	提出物の合計で60点以上の評価を得ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネスリサーチⅠ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授) 河野 善文 (経営学科・教授) 石山 玄幸 (経営学科・教授) 小林 大		研究室等所在	2号館6階	1号館2階 号館8階	1号館2階 2
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員の指示に従うこと	予習 (90分)	復習 (90分)
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング：SWS122053)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

1. なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解する。

2. スクールソーシャルワークとはなにかについて理解する。

3. スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解する。

4. 学校教育の特徴について理解する。

5. 教育（学校）が連携する機関とその機能について理解する。

6. スクールソーシャルワークの基礎理論について理解する。

7. スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解する。

8. スクールソーシャルワークの課題と展望について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

1. なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解できる。

2. スクールソーシャルワークとはなにかについて理解できる。

3. スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解できる。

4. 学校教育の特徴について理解できる。

5. 教育（学校）が連携する機関とその機能について理解できる。

6. スクールソーシャルワークの基礎理論について理解できる。

7. スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解できる。

8. スクールソーシャルワークの課題と展望について理解できる。

授業全体の内容と概要

1. なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて学ぶ。

2. スクールソーシャルワークとはなにかについて学ぶ。

3. スクールソーシャルワークの歴史と動向について学ぶ。

4. 学校教育の特徴について学ぶ。

5. 教育（学校）が連携する機関とその機能について学ぶ。

6. スクールソーシャルワークの基礎理論について学ぶ。

7. スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について学ぶ。

8. スクールソーシャルワークの課題と展望について学ぶ。

9. 「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」、「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

1. 授業形態は「講義」形式である。

2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明・板書を行う。

3. 適宜質問を促し、質問に対応する。

4. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 教科書は必ず持参すること。

2. 必要な資料等は適宜配布する。

3. 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。

4. 適宜質問に対応する。

5. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。

6. スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

7. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況15％・ノート確認15％の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40％以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70％	0％	0％	0％	0％	30％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に レベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング：SWS122053)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 / 3,080 (本体 / 2,800)
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について②－子どもの貧困・発達・マノリティ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について③－教員の実感、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について①－スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について②－人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について－日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メソレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メソレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より② スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョン	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	授業改善アンケートの実施 【定期試験】60分の試験	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)
16	授業全体・試験の解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証 試験等のフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 / 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅲ (科目ナンバリング：AEA223066)					
授業担当者 (所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授) 鴨 修平(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鴨 修平)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作できる。							
授業全体の内容と概要							
実際に漫画の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的～実践的な知識を身につける。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。							
授業の方法							
板書またはTeamsから資料を配布して課題等の説明をする。課題説明ののち各自で制作の実技を行う。適宜講師と打ち合わせを行いながら制作を進める。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。提出物にはコメントにてフィードバックする。その他授業に関する要望等にはTeamsのチャット及びForms等を使用し対応する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。（持参できない場合は講師と相談。） 3 回の遅刻で 1 回の欠席とみなす。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。 授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に課題作品を提出する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に レベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
漫画表現 (知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった 作品を提出できなかった。	
漫画制作 (ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できず、作品を創作できなかった。	
漫画制作 (作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	漫画III (科目ナンバリング：AEA223066)					
授業担当者 (所属・職名)	五十嵐 優美子 (デザイン学科・客員教授) 鴨 修平 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：鴨 修平)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
2	課題1「好きなモノのプレゼンイラスト」	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
3	クロッキーの説明と実技・課題2「人物のイラスト化とディフォルメ化」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
4	クロッキーの説明と実技・課題2「人物のイラスト化とディフォルメ化」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
5	アオリと俯瞰の説明・課題3「1コママンガとキャラクターの各アングルを描く」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
6	アオリと俯瞰の説明・課題3「1コママンガとキャラクターの各アングルを描く」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
7	アオリと俯瞰の説明・課題3「1コママンガとキャラクターの各アングルを描く」3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
8	アオリと俯瞰の説明・課題3「1コママンガとキャラクターの各アングルを描く」4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
9	背景表現 パースの説明と実技・課題4「教室周辺の背景を描く」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
10	背景表現 パースの説明と実技・課題4「教室周辺の背景を描く」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
11	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
12	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
13	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
14	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
15	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」5	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
16	ネームの描き方の説明・課題5「ネーム制作」6	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	課題6「ストーリー漫画制作」プロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
18	課題6「ストーリー漫画制作」プロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
19	いがらしゆみこ特別講座1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
20	いがらしゆみこ特別講座2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
21	課題6「ストーリー漫画制作」ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
22	課題6「ストーリー漫画制作」ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
23	課題6「ストーリー漫画制作」下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
24	課題6「ストーリー漫画制作」下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
25	課題6「ストーリー漫画制作」ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
26	課題6「ストーリー漫画制作」ベタ塗り・効果線・背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
27	課題6「ストーリー漫画制作」スクリーントーン1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
28	課題6「ストーリー漫画制作」スクリーントーン2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
29	課題6「ストーリー漫画制作」仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
30	課題6「ストーリー漫画制作」仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
31	授業に係る講評・授業改善アンケートの実施 解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」についての検証。	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
32	課題作品の添削・返却	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義全体の内容を振り返ること。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング：PHY322055)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。							
授業全体の内容と概要							
「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。 主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動3法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに3法則がどのように関わっているのかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。							
授業の方法							
授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。課題レポートにはコメントにてフィードバックする。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
5 0 %	2 5 %	0 %	0 %	2 5 %	0 %

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。
ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング：PHY322055)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：伊藤 裕康)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスと授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
2	ベクトルの大きさや表記について	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
3	ベクトルの合成・分解と作図法	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
4	ニュートンの運動第1法則	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
5	慣性系について	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
6	ニュートンの運動第2法則と第3法則	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
7	ケプラーの法則について	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
8	加速度運動問題についての討論	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
9	地球スケールの運動についての討論	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
10	質点の力のつり合い問題	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
11	力のモーメントと固体のつり合い	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
12	力のモーメントの計算	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
13	重心まわりのつり合い	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
14	固体のつり合い問題について	今回の授業範囲を予習する (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
15	まとめと演習 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容についての質問をまとめる (90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと (90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フィードバックする	試験範囲について復習しておくこと (90分)	試験内容について復習しておくこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネスリサーチⅡ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授) 河野 善文 (経営学科・教授) 石山 玄幸 (経営学科・教授) 小林 大		研究室等所在	2号館6階	1号館2階 号館8階	1号館2階 2
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること					

概要

履修目標							
本講座は、3年次以降に開講されるビジネスリサーチ演習の準備講座の後編である。学生諸君は経営分析や企業リサーチ等をイメージしてその基礎的事項からプレゼンテーションへと繋がる運用に関して強化・訓練をしてもらう。							
授業の位置づけ							
経営学部の全てのDPに対応する科目							
到達目標							
本講義を履修した学生には調査・分析・報告を社会人として恥ずかしくないレベルで行えるようになってもらいたい。特にプレゼンテーション力を磨いてもらう。							
授業全体の内容と概要							
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業							
授業の方法							
担当教員の指示に従い、個人レベルやペアレベル、小グループ等さまざまな状況・状態で問題解決にあたってもらう。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
この科目はビジネスリサーチⅠの単位未修得者は履修できない。4名の教員がオムニバスに担当する。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は11回以上とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各教員が課したレポートやペーパー類はもちろん、調査内容や自分の意見は理由と共に文字化してノートまたはPC内に保存すること。1教員の授業での最大欠席回数は2回までとし最低出席回数は11回以上とする。また、提出期限を過ぎてから提出された課題に関しては全て0点として最終評定に加える。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	40%	40%	%	20%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、企業調査において必要となる知識や手段の考え方に對する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、企業調査において必要となる知識や手段とバランスへの理解に對する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら調査・分析に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学におけるマーケティング力の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。
知識・技能	提出物の合計で90点以上の評価を受けた。	提出物の合計で80点以上の評価を受けた。	提出物の合計で70点以上の評価を受けた。	提出物の合計で60点以上の評価を受けた。	提出物の合計で60点以上の評価を得ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネスリサーチⅡ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授) 河野 善文 (経営学科・教授) 石山 玄幸 (経営学科・教授) 小林 大		研究室等所在	2号館6階	1号館2階 号館8階	1号館2階 2号館8階
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードを確認すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	担当教員の指示に従うこと	予習 (90分)	復習 (90分)
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅳ (科目ナンバリング：AEA223067)					
授業担当者 (所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授) 鴨 修平(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鴨 修平)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
漫画の基礎技術の向上と現代における表現技法の多様性を学習し、漫画雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身につけ、芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付けるとともに、芸術文化をとおし社会における使命・役割を理解する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
漫画の作業工程を理解し制作する中で、読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。							
授業全体の内容と概要							
いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら、雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行う。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。							
授業の方法							
板書及びTeamsから資料を配布して課題等の説明をする。課題説明ののち各自で制作の実技を行う。適宜講師と打ち合わせを行いながら制作を進める。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。提出物にはコメントにてフィードバックする。その他授業に関する要望等にはTeamsのチャット及びForms等を使用し対応する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。（持参できない場合は講師と相談。） 3回の遅刻で1回の欠席とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。 授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に作品を提出する。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
漫画表現（知識と理論の理解）	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった作品を提出できなかった。	
漫画制作（ストーリー創作技術）	ストーリーの組み立て方やオームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やオームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やオームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やオームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やオームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できなかった作品を創作できなかった。	
漫画制作（作画技術）	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	漫画Ⅳ (科目ナンバリング：AEA223067)					
授業担当者 (所属・職名)	五十嵐 優美子 (デザイン学科・客員教授) 鴨 修平 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 鴨 修平)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
2	課題1「好きなモノのプレゼンイラスト」	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
3	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
4	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
5	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
6	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
7	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」5	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
8	ストーリーのネームと実技・課題2「童話を元にしたネーム制作」6	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
9	背景表現 パースの説明と実技・課題3「背景と人物の作画」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
10	背景表現 パースの説明と実技・課題3「背景と人物の作画」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
11	背景表現 パースの説明と実技・課題3「背景と人物の作画」3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
12	背景表現 パースの説明と実技・課題3「背景と人物の作画」4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
13	原稿の制作手順の説明・課題4「漫画原稿制作」1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
14	原稿の制作手順の説明・課題4「漫画原稿制作」2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
15	原稿の制作手順の説明・課題4「漫画原稿制作」3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
16	原稿の制作手順の説明・課題4「漫画原稿制作」4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題5「ストーリー漫画制作」プロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
18	課題5「ストーリー漫画制作」プロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
19	課題5「ストーリー漫画制作」ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
20	課題5「ストーリー漫画制作」ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
21	課題5「ストーリー漫画制作」下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
22	課題5「ストーリー漫画制作」下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
23	いがらしゆみこ特別講座1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
24	いがらしゆみこ特別講座2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
25	課題5「ストーリー漫画制作」ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
26	課題5「ストーリー漫画制作」ペン入れ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
27	課題5「ストーリー漫画制作」ペン入れ3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
28	課題5「ストーリー漫画制作」背景・ベタぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
29	課題5「ストーリー漫画制作」スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
30	課題5「ストーリー漫画制作」仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
31	授業に係る講評・授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）
32	課題の添削・返却 授業に係る講評・解説によるフィードバック。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（45分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング: MAT322054)				
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標						
学生が微分積分の基礎知識を養う力を身につける。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
基本的な数学の知識から学び、微分積分の基礎知識までを修得する。さらに、それらのことを通して、答えだけではなく、計算過程（思考過程の説明）も大切であることを理解し、習慣づけることができる。						
授業全体の内容と概要						
数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数、極限値、導関数、微分法の公式、べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分、不定積分、置換積分法、部分積分法など、豊富な練習問題を計算することによって、微分積分の知識の定着を図る。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	PBL 反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	O	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。 授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	20%	0%	10%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微分積分の基礎知識の修得	極限及び微分積分の基礎知識が100%理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が90%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が80%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%も理解できなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を70%も記述したレポートにならなかった。
微分積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が100%理解できた。	基礎数学の知識が90%以上理解できた。	基礎数学の知識が80%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング：MAT322054)					
授業担当者 (所属・職名)	横山 哲也（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：		横山 哲也)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	極限值・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	微分法の公式1（極限值）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	微分法の公式2（導関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	初等関数の微分1（三角関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	初等関数の微分2（指数関数・対数関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	不定積分1（原始関数と不定積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	不定積分2（初等関数の積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	総合的な学習の時間の指導法（3年） （科目ナンバリング：ESS143162, ESS243110, ）					
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2	（単位認定責任者：西崎 毅）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸 事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815610	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
2	総合的な学習の時間の意義について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
3	総合的な時間の目標について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
4	各学校において定める目標及び内容について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
12	探究的な学習の指導上の留意点について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
13	総合的な学習の時間の評価について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課	
科目名称	教育原理（S） （科目ナンバリング：EDU121069, EDU241094, ）					
授業担当者 （所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 教育の目的と本質について	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育と人間の成長・発達について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	社会の変動と教育について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	日本の教育（歴史と展開）について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	世界の教育（歴史と展開）について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	日本の教育制度と行政について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	主要国の学校制度と教育改革について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	学校と教師について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	教育の内容及び教育課程について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	教育の方法と技術について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	外国語活動の原理と方法について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施 課題・発表のフィードバック	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験、20分の解説、講義のフィードバック、 科目を修了して「身に付く力」の検証	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: CHS122076)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席回数10回をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例と家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	
現代日本における子育てで家族が抱える課題について理解する。	子育てで家族が抱える諸課題と児童虐待発生との関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題と児童虐待発生との関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題と特に児童虐待発生との関係について説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明でき、さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング：CHS122076)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示板等を参照すること			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 身につく力・・・家庭支援における実践視点の獲得	乳児保育復習 (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
2	家族支援の意義と役割1 家族の意義と機能	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
3	家族支援の意義と役割2 家族支援の必要性	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
4	家族支援の意義と役割3 保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
5	家族生活を取り巻く社会的状況1 現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
6	家族生活を取り巻く社会的状況2 地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
7	家族生活を取り巻く社会的状況3 男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
8	子育て家族への支援体制1 子育て家族の福祉を回るための社会資源	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
9	子育て家族への支援体制2 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
10	多様な支援の展開と関係機関との連携1 子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
11	多様な支援の展開と関係機関との連携2 保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
12	多様な支援の展開と関係機関との連携3 地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
13	多様な支援の展開と関係機関との連携4 要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
14	多様な支援の展開と関係機関との連携5 子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの読み込み (90分)
15	多様な支援の展開と関係機関との連携6 子育て支援サービスの課題 (授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み (90分)	講義全体の総復習 (90分)
16	試験。60分の試験の後、30分の添削・解説を行いフィードバックする。 身につく力の確認・・・上記試験及びレポートの添削	講義全体の総復習 (90分)	自己総括 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	インテリアデザインⅡ (科目ナンバリング：SWS123223, HLS322051)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：安藤 淳一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

インテリアデザインは、建築の専門科目のなかでも学びの対象が実生活に近いものである。したがって履修学生は、インテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること、また人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対処しどのような計画が必要かを認識し理解すること、そして実践に結び付けていくことができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。

到達目標

一にセンスアップ、二にセンスアップ、三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

実務と現物に触れることによって、インテリアデザインの現状を把握する。また、内部空間、野外家具（ストリートファニチャー）、店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に、実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法

前半は、講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート（演習1）をとり授業終了後提出、演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し、コメントを記したものを後日返却する。後半は、インテリア関係メーカーのショールームの見学（フィールドワーク）を行い、商品や実作に触れインテリアデザインの実態を経験し、そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後、講評を記述して返却する。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席して、講義を聴かなければ意味がない。旅行、外出の際は、スケール・カメラまたはクローキープブックを所持し、参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は、各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、授業内で行う演習の評価点（平常点）と見学会レポート（レポート）が単位認定（成績評価）の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってあることから優れたデザインからセンスを磨く。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に修得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対どのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	インテリアデザインⅡ (科目ナンバリング：SWS123223, HLS322051)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：		安藤 淳一		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明，科目を修了して「身に付く力」についての説明，インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認 (90分)	授業内容の確認 (90分)
2	人間工学 家具への応用	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
3	人間工学 行動・動作	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
4	光と色	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
5	内装材・塗装	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
6	構法と納まり	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
7	家具デザイン	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
8	建具・金物	予習 (教科書確認) (90分)	演習2作成 (90分)
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習 (教科書確認) (90分)	模型作成 (90分)
10	見学会1 家具メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認 (90分)	レポート作成 (90分)
11	見学会2 テキスタイルメーカー ショールーム	見学場所と道具の確認 (90分)	レポート作成 (90分)
12	見学会3 住宅総合メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認 (90分)	レポート作成 (90分)
13	見学会4 家具卸会社 ショールーム	見学場所と道具の確認 (90分)	レポート作成 (90分)
14	見学会5 住宅設備メーカー 工場	見学場所と道具の確認 (90分)	レポート作成 (90分)
15	模型課題 提出・発表	発表準備 (90分)	発表内容の振り返り (90分)
16	総評 (提出課題・レポートの確認と講評)，授業改善アンケートの実施，フィードバック，科目を修了して「身に付く力」についての検証	提出作品の最終確認 (90分)	総評の振り返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻III (科目ナンバリング：AEA223070)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟彫刻研究室		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

この科目の（課題Ⅰ）では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私」とは何かという問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもり「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。（課題Ⅱ）ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

（課題Ⅰ）では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。
（課題Ⅱ）では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

（課題Ⅰ）は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもちながら、理解の手がかりになるものを探して調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。
（課題Ⅱ）はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

（課題Ⅰ）はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。
（課題Ⅱ）はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどとする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。
また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。	
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。	
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅲ (科目ナンバリング：AEA223070)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟彫刻研究室		
単位数	2	(単位認定責任者：梅田 力)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (課題Ⅰ)に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了し	シラバスを読んでおくこと (45分)	自分の周辺にある資料の収集 (45分)
2	(課題Ⅰ)に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと (45分)	自分の周辺にある資料の収集 (45分)
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集 (45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)
5	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)
6	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集 (45分)
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
13	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認 (45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと (45分)
14	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認 (45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと (45分)
15	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)
16	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)
19	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)
20	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく (45分)
21	アイディアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
22	アイディアスケッチの制作	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと (45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること (45分)
31	模型の完成・講評及び採点 提出作品へのフィードバック	提出すべき作品の確認 (45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと (45分)
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につく力の検証	提出すべき作品の確認 (45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	アントレﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅠ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 阿部 裕樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

本講義では社会にとっての起業・創業の意義、並びにアントレプレナーシップ（起業家精神）について理解する。起業して成功することは簡単ではないが、アイデアとビジネスモデルがあり、それを適切にマネジメントすることで、飛躍的に成長できる可能性があることを理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。

到達目標

授業を通して「起業・創業の面白さ」を感じ取るとともに、アントレプレナーシップとはどのようなことかをイメージし、合わせて実際の事業化にあたって必要な経営スキル等の要素について理解する。

授業全体の内容と概要

アントレプレナーシップ（起業家精神）とは何かということを経営・創業で成功した事例を紹介することで理解する。また、スタートアップから企業が成長する段階で超えなければいけないハードル、資金調達、チームづくり、リスクマネジメント、知的財産の管理等の理論を学ぶことで起業・創業に必要な知識を習得する。また、起業時のビジネスプランのつくり方にも触れていきたい。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。	
事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。	
事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	アントレ°レナ-シップ°Ⅰ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 阿部 裕樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
2	アントレプレナーシップとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
3	新しいビジネスの創造	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
4	企業の役割と社会的責任	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
5	マーケティングと販路開拓	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
6	組織づくりと人材育成	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
7	資金の調達について	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
8	お金の流れを管理する	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
9	スタートアップから企業成長段階へ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
10	ソーシャルビジネスの起業	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
11	知的財産とベンチャー	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
12	起業のリスクマネジメント	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
13	ビジネスプランのつくり方	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
14	ビジネスモデルについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（9 0 分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（9 0 分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・離脱によるフィードバック	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（9 0 分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（9 0 分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	彫刻Ⅳ (科目ナンバリング：AEA223071)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟彫刻室		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
(課題Ⅰ) では形として目で見ることのできないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。 (課題Ⅱ) では(課題Ⅰ) で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、その形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。							
授業全体の内容と概要							
(課題Ⅰ) では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ(粘土を素焼きにしたもの)として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。 (課題Ⅱ) では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材(金属、流木、石膏、粘土など)にて立体造形作品として制作する。							
授業の方法							
(課題Ⅰ) 抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。 (課題Ⅱ) 四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。							
アクティブラーニングの実施方法							
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	P B L
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐	反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項							
実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上とする。					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。	
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品にある程度反映させることができていて、又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。	
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅳ (科目ナンバリング：AEA223071)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 力 (デザイン学科・准教授)		研究室等所在	アトリエ棟彫刻室		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 力)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
2	(課題Ⅰ) についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞②。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
7	粘土にて制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
8	粘土にて制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
9	粘土にて制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
10	粘土にて制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
11	粘土にて制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
12	粘土にて制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
13	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点①。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
14	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点②。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
15	(課題Ⅱ) についてのオリエンテーション。東洋、西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説①。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
16	(課題Ⅱ) についてのオリエンテーション。東洋、西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説②。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	東洋、西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
21	各自が使う素材の収集①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
22	各自が使う素材の収集②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
23	実制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
24	実制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
25	実制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
26	実制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
27	実制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
28	実制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
29	実制作⑦。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
30	実制作⑧。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要なところまで制作作業を進めること。(45分)
31	作品の完成・プレゼンテーションへのフィードバック及び採点①。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
32	作品の完成・プレゼンテーションへのフィードバック及び採点②。 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築学特講Ⅰ (科目ナンバリング：0EN323080)					
授業担当者 (所属・職名)	柿沼 博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：柿沼 博彦）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事 してきたこと等を授業に関連させ教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、今後の授業・社会生活に役立てる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
イノベーションとデザインの理解を深め、イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。							
授業全体の内容と概要							
イノベーションとは何か、なぜイノベーションが必要なのかを講義する。 鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。 SDGsの全般的な内容について解説する。							
授業の方法							
パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
時間厳守、筆記具（黒板、口述の内容を各自メモ） 月1回程度の頻度で課題を報告							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢、授業態度等も評点に連動する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築学特講Ⅰ (科目ナンバリング：OEN323080)					
授業担当者 (所属・職名)	柿沼 博彦 (建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：柿沼 博彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事 してきたこと等を授業に関連させ教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『イノベーションへの挑戦 ハンディを個性に変える思考法』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何のこと？ ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回)破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回)破壊的イノベーション シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・3つのドライバー (技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境 (グローバル化・多様性・AI時代のイノベーションを考える)	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについてデザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特異性(公共・安全・サービス)について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
13	車両システムと形のデザイン 設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能 (Bf-U0) 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅 (デンマーク国鉄とのコラボ)	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体まとめ イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く (知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	アントレ [®] レナ [®] シップ II (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：阿部 裕樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
本講義では、アントレプレナーシップにおけるイノベーションの重要性を理解し、実践的な視点を養うことを目指します。具体的には、①イノベーションの概念とその役割を学ぶ、②市場や技術の変化を捉え、新たなビジネス機会を創出する思考力を養う、③成功事例や失敗事例を分析し、実践に活かせる知識を習得することを目的とします。これにより、受講者は変化の激しい社会において、自ら課題を発見し、価値を生み出す力を身につけることができます。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才のみが発明できるのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こすことが可能であることを理解する。							
授業全体の内容と概要							
イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせて新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となつた破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグローバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった	
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった	
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業像を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	アントレ°レオ°シップ II (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 阿部 裕樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	イノベーションとは何か？	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ドラッカーの「7つの機会」	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	知識創造理論（SECIモデル）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	破壊的イノベーション（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	破壊的イノベーション（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	オープンイノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	イノベーション実現のための戦略（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	イノベーション実現のための戦略（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	イノベーションを起こすマネジメント（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	イノベーションを起こすマネジメント（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る諸評・施設によるフィードバック	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（90分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅲ（ガラス工芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	楠本 祐弘（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ 棟2階クラフト教室		
単位数	2	（単位認定責任者：楠本 祐弘）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業、作品の説明までを一つの作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。							
授業全体の内容と概要							
コールドガラス（スタンドグラス・キルンワーク）のテクニック、素材等の理解と作品の製作。ホットガラス（バーナーワーク）による作品製作							
授業の方法							
講師による技術指導での製作実習 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。 成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席数 20 回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインを決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。
技術の習得	ガラスの切断が出来る	ガラスを削る事が出来る	デザインに合わせてガラスを切断、切削する事が出来る	工具の使い方を理解する	ガラスを扱うことが出来ない
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使いでできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（ガラス工芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	楠本 祐弘（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ 棟2階クラフト教室		
単位数	2	（単位認定責任者：楠本 祐弘）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・技法説明を行う。 科目修了後に「身に付く力について」の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	アイデアの素材収集する。（４５分）
2	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
3	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-2	アイデア、素材の収集（45分）	作業の準備（45分）
4	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
5	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-4	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
6	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
7	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-6	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
8	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキ ャッチャー等の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
9	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
10	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-2	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
11	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-3 ホットガラス（バーナーワーク等）-1	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
12	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-4 ホットガラス（バーナーワーク等）-2	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
13	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-5 ホットガラス（バーナーワーク等）-3	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
14	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-6 ホットガラス（バーナーワーク等）-4	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
15	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-7 ホットガラス（バーナーワーク等）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
16	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-8 ホットガラス（バーナーワーク等）-6	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-9 ホットガラス（バーナーワーク等）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
18	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-10 ホットガラス（バーナーワーク等）-8	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
19	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-11 ホットガラス（バーナーワーク等）-9	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
20	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の 製作）-12 ホットガラス（バーナーワーク等）-10	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
21	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
22	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-2	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
23	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
24	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-4	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
25	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
26	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-6	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
27	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
28	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-8	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
29	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-9	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
30	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体 物の製作）-10	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
31	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立 体物の製作）-11	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
32	講評会 「授業改善アンケートの実施」 授業内容のフィードバック	プレゼンテーション案（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（陶芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ 工棟		
単位数	2（単位認定責任者：中島 知之）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。							
授業全体の内容と概要							
2年次での工芸実習の内容をふまえ、これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し、電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども、作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物、各窯業地などの特色なども学ぶ。							
授業の方法							
課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業事前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など積極的な授業態度が出来る。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなした。	授業中の課題、作業をしていない。
陶芸の知識	授業内容を超える陶芸の知識を積極的に学び理解を深めた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解した。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解した。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解した。	授業内容における陶芸の知識を理解できていない。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組むくんだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させた。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（陶芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ 工棟		
単位数	2（単位認定責任者：中島 知之）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明・授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり、菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
3	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
4	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
5	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
6	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
7	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
8	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
9	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
10	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
21	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
22	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自で制作作業について振り返る（45分）
31	課題作品の批評会	人の作品を見て自分の作品との違い等についてイメージしておく（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
32	課題作品の批評会・まとめ・解説・授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	講義全体をふりかえり，まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ 工棟		
単位数	2（単位認定責任者：森迫 暁夫）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表 現の実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などに対応。					

概要

履修目標							
各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
版という制約を知り、制約による美を発見して自己の制作につなげる。							
授業全体の内容と概要							
間接的な表現や直接的表現など、様々な版を体験する。							
授業の方法							
授業においては、各課題の説明の後に、実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い、課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。 授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていけると望ましい。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。授業時間以外では、原画、版下などの制作が必要となる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
なし

評価方法・基準

評価前提条件					
自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となります。					
単位に必要な最低出席回数は、２２回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	５０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して率先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが何かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223074）						
授業担当者 （所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）			研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室・アトリ 工棟		
単位数	2（単位認定責任者：		森迫 暁夫）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表 現の実習を行う。				
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などで対応。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』に ついての説明 オリエンテーション	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
2	オリエンテーションと4版式についての講義。	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。 簡単なスタンプを作り、 遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、 遊ぶ。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を 学ぶ。プレゼンテーション。	各自資料を用意。（45分）	ケン版について考える（45分）
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
16	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	楽しかったことを思い出す。四版式について復習。 （45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手形	自分の手について考える。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
18	手形	自分の手について考える。（45分）	押されたものについて考える。（45分）
19	フロッターージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
20	フロッターージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	課題の意図について考える。（45分）
21	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画 描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
22	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画 描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
23	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
24	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
25	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
26	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
27	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
28	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
29	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
30	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
31	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
32	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品 を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り 。プレゼンテーション。授業改善アンケートの案	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。 （45分）	課題から。版面について考える。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（木工芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟		
単位数	2（単位認定責任者：島田 晶夫）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などに対応。					

概要

履修目標							
クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼ね備える器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。							
授業全体の内容と概要							
木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。							
授業の方法							
実際に作業を見せて説明し、実技を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
作品の制作が長期にわたるため、制作途中で欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、２０回以上。					

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真実に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にこなない理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発見させ、より良い提案ができ、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅲ（木工芸） （科目ナンバリング：AEA223074）					
授業担当者 （所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟		
単位数	2（単位認定責任者：島田 晶夫）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などに対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業説明 第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
2	第一課題 制作① デザインする	前回までの確認を済ませておく（45分）	制作状況の確認。（45分）
3	第一課題 制作② デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
4	第一課題 制作③ デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
5	第一課題 制作④ デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
6	第一課題 制作⑤ デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
7	第一課題 制作⑥ デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
8	第一課題 制作⑦ 象嵌作業を終わらせる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
9	第一課題 塗装 完成させる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）
10	第一課題 品評会	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）
11	授業説明 第二課題「三本脚スツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
12	第二課題 授業説明続き、計画を立てる	前回の説明の確認をしておくこと（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
13	第二課題 加工① 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
14	第二課題 加工② 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
15	第二課題 加工③ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
16	第二課題 加工④ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	第二課題 加工⑤ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
18	第二課題 加工⑥ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
19	第二課題 加工⑦ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
20	第二課題 加工⑧ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
21	第二課題 加工⑨ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
22	第二課題 加工⑩ 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
23	第二課題 加工⑪ 大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
24	第二課題 加工を終了させ、細部の確認をしておく	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	作業の遅れがないようにする。（45分）
25	第二課題 細部手直し、組み立て①	作業の準備をしておく。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
26	第二課題 細部手直し、組み立て②	前回の説明の確認をしておく（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）
27	第二課題 細部手直し、組み立て③	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れがないようにする。（45分）
28	第二課題 細部手直し、組み立て④	作業の準備をしておく。（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）
29	第二課題 細部手直し、組み立て⑤	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れがないようにする。（45分）
30	第二課題 塗装、完成	作業の準備をしておく。（45分）	完成へ向けた準備を行って置く。（45分）
31	第二課題 解説 授業改善アンケートの実施	全体を通しての質問事項を整理する。（45分）	質問と感想を自分で確認しておくこと（45分）
32	第二課題 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証	自分の質問と感想を整理しておくこと（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康) (科目ナンバリング: CHS122078)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を 深め、健康を考えた生活習慣と活動(遊び)について演習する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
養護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。 領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。							
授業全体の内容と概要							
保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。							
授業の方法							
講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。 テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（2回）を行う。その都度、コメントを返す。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必要な資料等は適宜配布するので講義に持参すること。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	4 0 %	4 0 %	0 %	1 0 %	1 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常によくまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点が子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、非情に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康) (科目ナンバリング:CHS122078)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を 深め、健康を考えた生活習慣と活動(遊び)について演習する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバス説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を終了して『身に付く力』についての説明	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく (90分)	授業で行った課題について調べておく (90分)
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴② (子どもの観察)	調べた課題の討議・発表の準備をしておく (90分)	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する (90分)
3	子どもの健康生活と習慣① (生理的欲求と習慣)	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む (90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく (90分)
4	子どもの健康生活と習慣② (基本的生活習慣の形成)	指定した参考図書・配布資料を読んでおく (90分)	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく (90分)
5	健康的な活動と環境構成① (健康的な遊びの計画)	指定した参考図書・配布資料を読んでおく (90分)	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する (90分)
6	健康的な活動と環境構成② (健康的な遊びの指導)	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む (90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく (90分)
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく (90分)	授業で行った課題について調べておく (90分)
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括する 授業改善アンケートの実施	これまで授業で行ったことを振り返り、準備しておく (90分)	子どもの健康問題や保育課題に今後も取り組んでいく (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『演習 保育内容「健康」—大人から子どもへつなぐ健康の視点』	井狩芳子	萌文書林	2018	978-4-89347-275-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築学特講Ⅱ (科目ナンバリング：0EN323081)					
授業担当者 (所属・職名)	柿沼 博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：柿沼 博彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事 してきたこと等を授業に関連させ教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、今後の授業・社会生活に役立てる。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
イノベーションとデザインの理解を深め、イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。							
授業全体の内容と概要							
イノベーションとは何か、なぜイノベーションが必要なのかを講義する。 鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。 SDGsの全般的な内容について解説する。							
授業の方法							
パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
時間厳守、筆記具（黒板、口述の内容を各自メモ） 月1回程度の頻度で課題を報告							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢、授業態度等も評点に連動する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの見方、考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方、考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築学特講Ⅱ (科目ナンバリング：OEN323081)					
授業担当者 (所属・職名)	柿沼 博彦 (建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：柿沼 博彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事 してきたこと等を授業に関連させ教授する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『イノベーションへの挑戦 ハンディを個性に変える思考法』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何のこと？ ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回)破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回)破壊的イノベーション シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・3つのドライバー (技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境 (グローバル化・多様性・AI時代のイノベーションを考える)	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについてデザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに必要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特殊性(公共・安全・サービス)について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
13	車両システムと形のデザイン 設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能 (Bf-U0) 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅 (デンマーク国鉄とのコラボ)	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体まとめ イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く (知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅰ (科目ナンバリング: CHS122089)				
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身 諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標						
乳児（３歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。						
到達目標						
3 歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。						
授業全体の内容と概要						
3 歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。						
アクティブラーニングの実施方法						
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐ PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐ 反転授業
☐	ディスカッション	☐	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。 教科書がない場合、受講できませんので必ず購入のこと（乳児保育Ⅱ／演習でも同じ教科書を活用）。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	０％	０％	０％	２０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	乳児保育Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122089)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身 諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育第4版』	志村聡子	同文書院	2025	9784810315288	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (履修により「身に付く力」の説明を含む) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
6	保育所以外の児童福祉施設 (乳児院等) における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
8	3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
9	3歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
10	3歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと (90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと (90分)
16	定期試験60分 残り30分で解説しフィードバック (「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく (90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅳ（テキスタイル） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	三上 いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：三上 いずみ）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
テキスタイルデザインについての知識を深める。 技法の特徴を理解し、習得する。 技法を活かした作品を制作する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
テキスタイルデザインについて知る。 技法を理解する。 技法を用いて作品を制作する。							
授業全体の内容と概要							
スクリーンプリント技法の特徴と制約を活かして制作する。 制作の目的を設定し、各自で作業計画を立てる。完成後、作品を発表し、展示する。 「SDG12・つくる責任つかう責任」の関連授業。							
授業の方法							
スクリーンプリント技法（孔版）を学ぶ。授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後、デジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。デザインはアナログ・デジタルどちらも対応する。テキスタイル作品についての調査をして作品制作の展開を図る。課題は講評にてフィードバックする。作品完成後、発表し、展示する。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必要な道具と生地は各自で用意する。 授業開始30分間で説明をするので遅刻しないこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は22回以上。 自分の作業日は欠席しないこと。 欠席する場合は事前に連絡すること。 作品を期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
テキスタイルデザインについての知識を深める。	テキスタイルデザインについての知識を深め、活かすことができた。	テキスタイルデザインについての知識を深めることができた。	テキスタイルデザインについて知り、その知識を深めることに努めた。	テキスタイルデザインについて知ることができた。	テキスタイルデザインについて知ることができなかった。	
技法の特徴を理解し、習得する。	技法の特徴を理解し、習得し、磨くことができた。	技法の特徴を理解し、習得することができた。	技法を理解し、習得することに努めた。	技法を理解することができた。	技法を理解することができなかった。	
技法を自己の作品に活かす。	技法を自己の作品に活かし、完成度の高いものができた。	技法を自己の作品に活かすことができた。	技法を用いて作品を制作し、作品に活かすことに努めた。	技法を用いて作品を制作することができた。	技法を用いて作品を制作することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（テキスタイル） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	三上 いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在		2号館8階	
単位数	2（単位認定責任者：		三上 いずみ）		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・「身に付く力」について テキスタイルデザインとはなにか	シラバスを読んでおくこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
2	スクリーンプリント技法について テキスタイル作品の調査	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
3	作品制作の目的を設定する	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
4	作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
5	ラフデザイン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
6	ラフデザイン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
7	素材研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
8	素材研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
9	技法研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
10	技法研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
11	デザイン決定①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
12	デザイン決定②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	原画作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	原画作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	版下作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	版下作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	版下作成③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	版下作成④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	製版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	製版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
21	刷り①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
22	刷り②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	落版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	落版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	作品加工①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	作品加工②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	展示計画①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	展示計画②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
31	展示・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
32	講評にてフィードバック・「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅳ（金工） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
金属の加工技法を理解して作品を制作することが出来る。							
授業全体の内容と概要							
工芸実習Ⅳ（金属）では、銅板（または真鍮板）を使って指輪制作（ろう付け技法）と、銅板レリーフ（打ち出し技法）、及び鉄の加工技法（溶接・溶断）を使ったオブジェ制作の３課題を通じて、実践的に金属の表現力を磨く。							
授業の方法							
スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	O	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目 教職課程（美術・工芸）必修科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。 評価は作品点(70%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。 講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解（知識・理解）	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の特性を活用した作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け、溶接・溶断技法が理解できず、作品が制作できなかった。
技術を応用したデザインの能力（思考力・表現力・判断力等）	習得した技術を生かした独自性のある美しいデザインをする事が出来た。	習得した技術を生かした独自性のあるデザインをする事が出来た。	習得した技術を使って自分なりにデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来なかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅳ（金工） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（45分）
2	金属工芸について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
3	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
4	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
5	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
6	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
7	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
8	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
9	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
10	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
11	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
12	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
13	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
14	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
15	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
16	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
18	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
19	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
20	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
21	オブジェ制作（鉄） ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
22	オブジェ制作（鉄） ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
23	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
24	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
25	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
26	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
27	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
28	オブジェ制作（鉄）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
29	オブジェ制作（鉄） 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
30	オブジェ制作（鉄） 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅳ（染色） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
孔版の2技法、スクリーンプリントと合羽摺り（ステンシル）を利用して、染色パネルを制作する。隣接する技法の組み合わせによって、生ずる効果を知り、合わせて染料と顔料の違いを学ぶ。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。 版と型、スキージと刷毛の使用法と効果の違いを知る。2つの技法を習得し、制作ができる。 用具、用材の実践的知識を身につけ正しく使用できる。							
授業全体の内容と概要							
異なる技法と道具の組み合わせに挑戦する。版を使ってプリントし、その上から型を通して刷毛染め施して完成する。							
授業の方法							
視聴覚メディアと板書、作例によって効果と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとにオリジナル作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
工具類、染料の使用に対応した服装の用意。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席と課題作品の完成，提出を求める。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
孔版とは何かを知る。	孔版とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	孔版とは何かを詳しく知っていた。	孔版とは何かを知っていた。	孔版とは何か、最低限のことを知っていた。	孔版とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
顔料と道具を正しく使用できる。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できた。	顔料と道具をある程度正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	工芸実習Ⅳ（染色） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
2	課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
3	実作業による作例	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
4	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
5	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
6	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
7	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
8	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
9	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
10	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
11	版下修正	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
12	製版準備	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
13	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
14	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
15	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
16	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
18	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
19	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
20	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
21	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
22	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
23	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
24	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
25	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
26	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
27	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
28	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
29	パネル製作	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
30	パネル貼り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品発表、講評、改善点のフィードバック	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（45分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施 科目を通じて身につけた力についての検証	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	鳴海 伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟2階版画教室		
単位数	2（単位認定責任者：鳴海 伸一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。					

概要

履修目標							
本講義では基本版種となる凹凸孔平、各版の知識と理解を深め、デザインの発想やイラストなどの表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を探索・追求する事を目的とする。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
版の知識と技術を深め、自身で正確で安全な制作が可能な実力を養う。 また、その版表現によって個性のある作品成果を目標とする。							
授業全体の内容と概要							
本講義では主要 4 版種の中から、「銅版画」と「リトグラフ」の小作品を制作する。美術家やイラストレーター、クリエイター、メディアアーティストを目指す方々の印刷技術の理解にも有意義な実技である。 作品づくりをとおして制作の喜びと楽しさ、難しさを実体験する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	70%	0 %	0 %	30%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
版の原理と制作工程を理解しようとしている。	知識と技術が伴って安全かつ正確な制作ができている。他版種にも関心を寄せ、作品発表につなげている。	知識だけではなく、実技としてほぼ正しい制作工程が可能である。	助言をもとに、制作工程を理解し、製版と向き合っている。	凹凸孔平の基本版種の原理を固として理解できている。	版表現に興味もてず、原理を理解しようとしていない。版が完成していない。
扱っている道具、材料の特性を理解しようとしている。	道具、材料を応用的に用いることが出来、経済的な制作とメンテナンスができる。	授業内容に準じた内容で道具と材料を自身で的確に使用することができている。	材料の特性を理解し、助言をもとに効率的な制作ができる。	授業内容に沿った内容で道具、材料の特性を理解し、助言をもとに制作ができる。	自身が扱っている道具や材料に関心をよせていない。道具を大切に扱えていない。
安全で正確な制作工程を理解している。	教室の安全維持、環境維持に積極的に取り組んでいる。	換気、環境、設備の理解と保護具の着用など安全に配慮した制作ができる。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	無頓着で雑な制作を行い、工程を把握しようとしていない。
作品の仕上りに成果が反映されている。	授業外の技法にも挑戦し、研究的な手法を身につけている。楽しんで制作ができている。	授業内の技法を理解し、画面の中に効果的に表現されている。	画題、サインなどが明記され、版表現の魅力を感じ取っている。	本刷りがされ、裁断も行われシート作品として完成している。	本刷りがされていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（版表現） （科目ナンバリング：AEA223075）					
授業担当者 （所属・職名）	鳴海 伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟2階版画教室		
単位数	2（単位認定責任者：鳴海 伸一）				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明とガイダンス／版画について 授業改善アンケート結果反映の説明 科目終了後に「身に付く力」についての説明	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
2	シラバスの説明とガイダンス／版表現の魅力と能性	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
3	凹版画制作①／エッチングー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
4	凹版画制作①／エッチングー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
5	凹版画制作③／エッチングー下絵と転写ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
6	凹版画制作②／エッチングー下絵と転写ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
7	凹版画制作③／エッチングー腐蝕製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
8	凹版画制作③／エッチングー腐蝕製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
9	凹版画制作④／エッチングー腐蝕製版と刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
10	凹版画制作④／エッチングー腐蝕製版と刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
11	凹版画制作⑤／エッチングー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
12	凹版画制作⑤／エッチングー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
13	凹版画制作⑥／エッチングー刷りとアクアチントー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
14	凹版画制作⑥／エッチングー刷りとアクアチントー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
15	凹版画制作⑦／エッチングー仕上げと署名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
16	凹版画制作⑦／エッチングー仕上げと署名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	平版画制作①／リトグラフー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
18	平版画制作①／リトグラフー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
19	平版画制作②／リトグラフー転写と描画ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
20	平版画制作②／リトグラフー転写と描画ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
21	平版画制作③／リトグラフー第１製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
22	平版画制作③／リトグラフー第１製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
23	平版画制作④／リトグラフー第２製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
24	平版画制作④／リトグラフー第２製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
25	平版画制作⑤／リトグラフー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
26	平版画制作⑤／リトグラフー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
27	平版画制作⑥／リトグラフー刷りと裁断ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
28	平版画制作⑥／リトグラフー刷りと裁断ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
29	平版画制作⑦／リトグラフー仕上げと署名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
30	平版画制作⑦／リトグラフー仕上げと署名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
31	まとめ／鑑賞と講評 授業改善アンケートの実施	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）
32	まとめ／鑑賞と講評 授業内容のフィードバック 科目終了後に「身に付く力」についての検証	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次の課題を把握すること（４５分程度）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅰ (科目ナンバリング: APT323060)				
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標						
国家資格である「一級建築士二次試験（製図試験）」における技量の修得を目的とする。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目						
到達目標						
一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。						
授業全体の内容と概要						
提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを上らせていく。						
授業の方法						
実際に一級建築士二次試験（製図試験）で使用するA2サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限内に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
☐	プレゼンテーション	☐	グループワーク	☐	フィールドワーク	☐ PBL
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ	☐	調査学習	☐ 反転授業
☐	ディスカッション	☒	実験・実習・実技	☐	双方向授業	☐ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
課題は、与えられた期限内に提出すること。平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。 配布したテキストとおびプリントは毎回持参すること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 11 回以上。課題はすべて提出のこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	100%	0 %	0 %	0 %

ルーズリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	一級対策製図Ⅰ (科目ナンバリング：APT323060)					
授業担当者 (所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 君 興治)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、 理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明、 授業ガイダンス テキスト・課題1の配布。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1 製図トレース 課題2 エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントな	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題3 製図トレース 課題4 エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントな	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題5 製図トレース 課題6 エスキスの方法 製図トレース、製図の留意点、描き方のポイントな	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	添削指導 エスキス 実際の過去問題などの課題を用いて、エスキスや計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	添削指導 エスキス 課題を通して作図できるよう、それぞれの学生の進	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	添削指導 エスキス これまでの内容を振り返り、試験への対策を踏まえ	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	乳児保育Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123090)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新 書機能の発達など乳児保育について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
乳児（3歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。							
授業全体の内容と概要							
3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。 「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
講義・演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。 「乳児保育Ⅰ」を履修した後に受講すること（教科書は引き続き使用する）。 遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。	
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	乳児保育Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123090)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新生児機能の発達など乳児保育について講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	乳児保育Ⅰで使用する教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (履修により「身に付く力」の説明を含む) オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
7	3歳未満児の発達を踏まえた生活と援助の実 際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
8	3歳未満児の発達を踏まえた遊びと援助の実 際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
9	子ども同士の関わりとその援助の実 際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための 配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
15	計画実践発表とまとめ・レポート	教科書を読み、学修しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
16	レポートに関する解説のフィードバック (「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。(45分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ (科目ナンバリング：FAH221080)					
授業担当者 (所属・職名)	苫名 真 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：)		苫名 真	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
日本美術史の大きな流れを概観するとともに、代表的な作品を深く考察することにより、日本美術を見る力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5 に対応する。(2021年度)							
到達目標							
1. 技法や表現、様式など日本美術に関する基礎的な知識を習得する。 2. 日本美術の展開を俯瞰的な視点で把握する。 3. 初めて目にする作品に対しても美術史上の位置付けを行うことができる。							
授業全体の内容と概要							
縄文時代から昭和戦後までの日本美術の流れを代表的な作品を通してたどる。							
授業の方法							
受講生は各回の授業で扱う時代の代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各時代の美術について講義する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。 授業の冒頭で各自発表してもらうので遅刻しないこと。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 高・美術 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしてこないことが何度あった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ (科目ナンバリング：FAH221080)					
授業担当者 (所属・職名)	苫名 真 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：		苫名 真)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』 についての説明、授業アンケート結果の反映のさせ 方についての説明	シラバスを読む。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
2	古墳・飛鳥・白鳳時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
3	奈良時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
4	平安時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
5	平安時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
6	平安時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
7	鎌倉時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
8	室町時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
9	桃山時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
10	江戸時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
11	江戸時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
12	江戸時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
13	明治・大正・昭和戦前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
14	昭和戦後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
15	風土と美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめてお く。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
16	レポートの発表とフィードバック、科目を修了して 『身に付く力』についての検証 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『入門 日本美術史』	山本陽子	筑摩書房	2024	978-4480076533	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ (科目ナンバリング：APT323061)				
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者：小笠原 健)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数22回以上。課題はすべて提出のこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	1 0 0 %	0 %	0 %	0 %

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題のある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。	
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。	
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ (科目ナンバリング：APT323061)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在		2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者：		小笠原 健)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業の進め方について説明。 テキスト・課題1の配布。 科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	課題1～課題製出 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	課題2～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	課題2～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	課題2～課題提出 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	課題3～課題提出 課題4～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	課題3～添削指導 課題4～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	課題4～課題提出	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	定期試験 (一級建築士製図試験に準ずる) 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業 改善アンケートの実施	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ (科目ナンバリング：FAH221081)					
授業担当者 (所属・職名)	苫名 真 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：)		苫名 真	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標						
様式の変遷、モチーフの意味、技法や風土と表現の関係などさまざまな角度から東洋日本美術にアプローチすることにより、その特質や魅力を理解する。						
授業の位置づけ						
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)						
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2023年度)						
デザイン学科のDP 1、DP 2に対応する。(2022年度)						
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2021年度)						
到達目標						
1. 様式、モチーフ、技法、風土性など美術に向き合うさまざまな視点があることを理解する。						
2. 東洋日本美術の特質や魅力を把握する。						
3. 初めて目にする作品に対しても自らさまざまな視点を立ててアプローチすることができる。						
授業全体の内容と概要						
さまざまな視点やテーマから東洋日本美術の特質や魅力にアプローチする。						

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程 高・美術 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしないことが何度あった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ (科目ナンバリング：FAH221081)					
授業担当者 (所属・職名)	苫名 真 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：)		苫名 真		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、科目を修了して『身に付く力』についての説明、授業アンケート結果の反映のさせ方についての説明	シラバスを読む。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
2	モチーフと意味「描かれた動物たち」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
3	聖なる造形「釈迦の生涯と仏教の主題」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
4	聖なる造形「仏涅槃図と阿弥陀聖衆来迎図」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
5	形式と表現「絵巻」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
6	形式と表現「屏風」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
7	風俗画を読む「上杉本洛中洛外図屏風」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
8	風俗画を読む「高雄観楓図屏風」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
9	絵は語る「湯女図」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
10	絵は語る「肖像画」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
11	連作の魅力「若冲と『動植綵絵』」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
12	連作の魅力「北斎と『富嶽三十六景』」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
13	技法と表現「木版画」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
14	技法と表現「ガラス」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
15	空間の芸術「日本庭園」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
16	レポートの発表とフィードバック、科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。(90分)	授業内容を復習する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『入門 日本美術史』	山本陽子	筑摩書房	2024	978-4480076533	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ (科目ナンバリング: BSM323062)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)・君 興治(建築学科・特任准教授)		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1	(単位認定責任者: 伊藤 裕康)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	君 興治(一級建築士)		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に合格できる学力の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

提示された一級建築士試験の学科Ⅱ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3．すべての人に健康と福祉を」と「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業。
一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に出題される内容について、小テストを実施し、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

建築学科建築プロフェッショナル専攻一級建築士特別養成コースのみ履修可能である。
毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則、全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ (科目ナンバリング：BSW323062)					
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康（建築学科・教授）、君 興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在		各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者：伊藤 裕康)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	君 興治（一級建築士）			
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1級建築士学科テキスト 学科Ⅱ 環境・設備』		日建学院	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明 問題（環境・換気・伝熱・結露）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
2	問題（環境・換気・伝熱・結露）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
3	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
4	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
5	問題（音響・環境工学融合）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
6	問題（音響・環境工学融合）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
7	問題（空気調和設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
8	問題（空気調和設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
9	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
10	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
11	問題（照明設備・消火防火設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
12	問題（照明設備・消火防火設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
13	問題（環境・設備融合）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
14	問題（環境・設備融合）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
15	定期試験／授業改善アンケートの実施（伊藤・君）	試験範囲全体の復習（45分）	試験内容の確認（45分）
16	定期試験を解説してフィードバック科目を修了して「身に付く力」についての検証（伊藤・君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ原理 (科目ナンバリング：DMB522054)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2	(単位認定責任者：高井 雅一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する					

概要

履修目標

スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理原則を学ぶための科目である。体育の定義、目的、内容、方法などに関する代表的な見解を学習しながら、私たちの生活の中におけるスポーツの意味や価値を知り、生涯にわたるスポーツ実践者としての基本的な知識を理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

・スポーツを取り巻く現状や問題点、そして今後生涯スポーツが個人や社会に果たす役割と意義について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

・人とスポーツとの多様な関わり方について知るとともに、スポーツの歴史と我が国のスポーツ振興方策の歴史を理解し、これからのスポーツの方向性を把握する。

・我が国のスポーツの実情と問題点、スポーツが人々にもたらすさまざまな便益や効果について、意見交換しながら自分の意見をまとめ発表する活動を行う。

・SDG4,質の高い教育をみんなに

授業の方法

・各回のテーマに関してのプリント等を使用して説明を行う。

・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、テーマの関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。

・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。

・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。

・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のあった場合のみ可。

・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの実情と問題点を理解する	現状や問題点を理解し、自分の意見を述べた。	現状や問題点を自分なりに説明できた。	現状や問題点を自分なりに理解できた。	現状や問題点を理解できた。	現状や問題点を理解できなかった。
スポーツのかかわり方について思考・判断できる	多様なかかわり方について思考・判断し、運用できた。	多様なかかわり方について思考・判断し、自分なりに意見を述べた。	多様なかかわり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断し、理解できた。	多様なかかわり方について思考・判断できた。	多様な関わり方について考えることができなかった。
スポーツの果たす役割・意義について回答できる	様々な便益や効果について自分の意見を述べた。	様々な便益や効果について自分なりに説明できた。	様々な便益や効果について理解できた。	様々な便益や効果について多少理解できた。	様々な便益や効果について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	スポーツ原理 (科目ナンバリング：DMB522054)					
授業担当者 (所属・職名)	高井 雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：		高井 雅一		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	体育やスポーツであなたが考えることはどんなこと か、具体的に考えておく	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
2	体育の理念はどのように変わってきたか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
3	体育とスポーツは何が違い	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
4	運動の持つ可能性について 体育における人間形成について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
5	体育とフェアプレイについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
6	体育と身体形成について 身体形成とは何か 身体からみた体育の可能性について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
7	体育で競争をどのように位置づけるか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
8	技術指導からみた体育について 体育と指導者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
9	子どもたちからみた体育の存在意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
10	社会変化と今後の体育について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
11	スポーツとグローバリゼーションについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
12	スポーツとドーピング、ナショナリズムについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
13	スポーツとオリンピズム、ルールについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
14	スポーツメディア・コミュニティについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることか できるよう準備する。（90分）
15	スポーツの制度化と暴力について スポーツとジェンダーについて スポーツ賭がい者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめて おく。（90分）	講義の内容を総復習する。（90分）
16	定期試験（60分）、終了後、試験の解説（30分）	全講義内容の復習（90分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教養としての体育理論』	岡出美則、友添秀則、	大修館	2016		
2	『「初めて学ぶ体育・スポーツ哲学」』	高橋徹	みらい	2018		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	映像表現Ⅰ (科目ナンバリング：AEA223046)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
映像制作を行う上で、一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。							
授業全体の内容と概要							
映像史を絡めた作品研究を行い、様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通じて適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。							
授業の方法							
1～10回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。 毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要なとされる知識を積み上げることを目的として作成する。 質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入に於いて講評を行う。 11～15回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。 その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計（ストーリーボードの作成）を行う。 完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。 質問には随時対応し、作画やト書きなどの表現の指導は個別に行う。 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能 「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ、実した表現を提案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関係が不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けした設計作業ができていない。	映像の成り立ちや理論が理解できず、設計作業ができなかった。	
思考力・判断力・表現力 「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。	
主体性・多様性・協働性 「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	映像表現Ⅰ (科目ナンバリング：AEA223046)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：北嶋 洋一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～映像の学び方、映像史の見方	シラバスを一読しておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か？	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
3	「トーキングピクチャー」 新旧技術の対比 結合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
4	「SFX (特殊効果撮影) の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
5	「VFX (特殊効果撮影) の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
6	「アニメーションの進化」 作画＋合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
9	「シナリオ・演出・撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
10	ストーリーボード (絵コンテ) 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと (45分)	レポート作成 資料の再確認 (45分)
11	映像の設計 ストーリーボードの作成 ①	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと (45分)	構想～ラフ作成 (45分)
12	映像の設計 ストーリーボードの作成 ②	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認 (45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと (45分)
13	映像の設計 ストーリーボードの作成 ③	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認 (45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと (45分)
14	映像の設計 ストーリーボードの作成 ④	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認 (45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと (45分)
15	映像の設計 ストーリーボードの作成 ⑤	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認 (45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと (45分)
16	映像の設計 ストーリーボードの講評 授業改善アンケートの実施	完成したストーリーボードの自己評価 (45分)	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング: CHS123076)				
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講 義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標						
１．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 ２．保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 ３．計画・実践・省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動態的にとらえ、理解する。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP5に対応する。						
到達目標						
保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。						
授業全体の内容と概要						
保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。 授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。 提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。 Microsoft Teams/Forms の諸機能も活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は、授業時間に説明する。 遅刻した場合、入室は可能だが20分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	０％	３０％	０％	２０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング：CHS123076)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講 義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	萌文書林	2 0 1 8	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育の計画と評価の基本（1）カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	保育の計画と評価の基本（2）保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	保育の計画と評価の基本（3）保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	保育の計画と評価の基本（4）計画，実践，省察・評価，改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	保育所における保育の計画（1）保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する（90分）。
7	保育所における保育の計画（2）保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	保育所における保育の計画（3）全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する（90分）。
9	保育所における保育の計画（4）指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	9回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
10	育の計画の作成と展開（1）保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく（90分）。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する（90分）。
11	保育の計画の作成と展開（2）指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（90分）。	1 1 回目の授業で理解した点を整理する90分）。
12	保育所における保育の評価（1）保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	1 2 回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	保育所における保育の評価（2）保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく（90分）。	1 3 回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
14	保育所における保育の評価（3）保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する（90分）。
15	保育所における保育の評価（4）生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく（90分）	授業の目的の達成度を自己評価する（90分）。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行い、提出された課題の総合評価をフィードバックする（「身に付く力」の検証）	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2 0 1 7	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年				
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択	
科目名称	一級建築士演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT323063)						
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授）		佐々木哲之（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1		(単位認定責任者：安藤 淳一)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし		左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		安藤淳一（一級建築士取得教員） 佐々木哲之（一級建築士取得教員）		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照						

概要

履修目標							
履修学生は、将来一級建築士試験（学科1計画）にを験し合格するための受験対策に向けた積極的な学びをおこなう。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
一級建築士学科試験（学科1計画）合格							
授業全体の内容と概要							
建築計画に係る内容が単元ごとにまとめられているテキストと問題集を用いて、試験問題に取り組む。終了後自己採点をおこない、単元ごとのポイント、出題問題のポイントについてテキストならびに問題集の解説をもとに説明をおこなう。							
授業の方法							
各自単元ごとの試験問題に取り組み、解答終了後自己採点をおこなう。終了後、問題内容の解説をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本科目を履修できるのは一級建築士特別養成コースの学生のみ テキストは毎回持参のこと							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則、全ての授業に出席すること。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各種建築に求められる役割とそのための空間構成が理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
各種建築の規模・空間の大きさ・高さをはじめとする数値に係ることが理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
社会状況の変化に伴い建築に求められる新たな課題や専門的用語を理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	一級建築士演習Ⅱ (科目ナンバリング：APT323063)					
授業担当者 (所属・職名)	安藤 淳一（建築学科・教授） 佐々木哲之（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者： 安藤 淳一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	安藤淳一（一級建築士取得教員） 佐々木哲之（一級建築士取得教員）			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1級建築士学科テキスト 学科 計画Ⅰ』		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明 担当 安藤 佐々木	事前配布資料の確認（45分）	ガイダンス説明内容の確認（45分）
2	第1章 建築基本計画 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
3	第2章 住宅建築計画 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
4	第3章 公共建築計画 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
5	第4章 商業建築計画 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
6	第5章 公共・商業建築計画融合 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
7	第6章 建築計画一般 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
8	第7章 建築積算 担当 佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
9	第8章 建築生産 担当 佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
10	第9章 都市計画 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
11	第10章 建築史 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
12	建築計画 振り返り1 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
13	建築計画 振り返り2 担当 安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
14	建築計画 振り返り3 担当 安藤 佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
15	建築計画 振り返り4 フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証 担当 安藤 佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振り返りと復習（45分）
16	総括	受講結果・成績の確認（45分）	最終結果の確認と振り返り（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	体育史 (科目ナンバリング：SPS522061)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：尾西 則昭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標						
近代体育に・スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め、体育の特徴と相違点について理解し身に付けることを目的とする。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
・我が国ならびに欧米における学校体育出現について理解している。 ・時代背景や因果関係をおさえながら体育・スポーツの発展・展開について具体例を示しながら説明できる。 ・近代オリンピック復興の思想について説明できる。 ・オリンピック・ムーブメントの概念と内容について説明できる。						
授業全体の内容と概要						
体育・スポーツの歴史について、主に日本や欧米諸国の通史を概説する。また、体育・スポーツと関連のある歴史にも触れ、広範な知識を身に付ける。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。						
授業の方法						
・資料に基づき、講述とパワーポイントによる解説を中心としながら授業を進める。 ・毎時間、学修した内容を確認するためのミニレポートを課す。 ・パワーポイントで1人1回課題を発表する。 ・災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。						
アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○・	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
・積極的に取り組むことを期待します。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなします。 ・中間テストを行います。 ・授業中の飲食および携帯電話の使用は厳禁。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 13 回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できる。	体育・スポーツについての概念についておおむね理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できる。	体育・スポーツについての概念について多少理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できていない。	
オリンピックの歴史と定義と理解	オリンピックの歴史について知識を深く理解できる。	オリンピックの歴史について知識をおおむね理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できる。	オリンピックの歴史について知識を多少理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できない。	
スポーツ競技の歴史の知識と理解	各スポーツ競技の歴史について深く理解できる。	各スポーツ競技の歴史についておおむね理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できる。	各スポーツ競技の歴史について多少理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できない。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	体育史 (科目ナンバリング：SPS522061)					
授業担当者 (所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：		尾西 則昭)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明、 本科目を修了して「身に付く力」について説明する 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (9 0分)
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(9 0分)
3	競技の歴史調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(9 0分)
4	競技の歴史調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(9 0分)
5	競技の歴史調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(9 0分)
6	競技の歴史調査発表録画①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
7	競技の歴史発表録画②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
8	競技の歴史発表録画③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
9	古代オリンピックと近代オリンピック	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)。
10	オリンピックの歴史①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
11	オリンピックの歴史②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
12	我が国における体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
13	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
14	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
15	各県のスポーツの歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (9 0分)	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバック、本科目を修了して「身に付く力」について検証	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。(9 0分)	解説の内容を確認する。(9 0分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	9784469261011	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	9784902109399	
3	『資料配布』					
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング：S0M123091)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常動講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。 子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制づくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。																								
授業全体の内容と概要																								
子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。 子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策、体制づくりの活動計画・評価の一連等の理解を深めるとともに、心身の状態や発達に即した適切な対応についての保健活動を具体的に学習する。																								
授業の方法																								
講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。 テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出を行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td></td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布するので講義に持参すること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもを取り巻く社会状況の把握と衛生・安全管理	体験した安全管理の活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて活発に討議し非常によい発表ができた。	体験した安全管理のための活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて概ね討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況について部分的に討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況に助言により討議・発表できた。	助言しても討議・発表ができなかった。
子どもの健康状態の把握	子どもの健康状態の把握の方法を詳しく調べ、正しく計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、概ね計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、部分的に計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法について、助言により計測できた。	助言しても計測できなかった。
子どもの体調や心身の状態把握の方法	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について詳しく説明できた。	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について概ね説明できた。	子どもの発達と、体調や心身の状態把握、その対応方法について部分的に説明できた。	子どもの体調や心身の状態把握、その対応について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング：S0M123091)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『子どもの健康と安全 改訂第2版』	大西文子	中山書店	2022	9784521749778	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく（90分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく（90分）
2	事故防止及び健康安全管理1 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（90分）
3	事故防止及び健康安全管理2 子どもの事故、危機回避と体づくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（90分）
4	子どもの健康に関する適切な対応1 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく（90分）
5	子どもの健康に関する適切な対応2 健康状態の把握 計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（90分）
6	子どもの健康に関する適切な対応3 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（90分）
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（90分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括する 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（90分）	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	映像表現Ⅱ (科目ナンバリング：AEA223047)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
映像制作の過程を通じて、作品の完成度を高めるために必要な要素は何か？ に気付かせ、それを実践できる。 映像メディアの必要性、映像ならではの表現を用いることができる。																								
授業全体の内容と概要																								
映像表現Ⅰの内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要最低限の技術を身に付けさせる。 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。																								
授業の方法																								
映像表現Ⅰで用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。 その後、実技として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。 毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。 ロケハンやロケのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。 これと並行して、前半の5週を目的にAfterEffectsの操作講習を行う。 質問には随時対応し、技術的な指導も随時行う。 制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせた後に全体講評を行う。 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td>○</td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td>○</td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
映像制作の実技になるので、全授業を通じてチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を中心掛けることが重要。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。 板書の量および方法等について配慮する。
資格指定科目
教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身につけている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得できており、制作時に効果的な応用作業が行える。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できており、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力 「映像作品制作において、グループ内の役割について、その必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の活用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できず、知識と技術の活用ができなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グループ制作作業における全工程を把握し、その中で与えられた工程に取り組む際に他の学生と積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めるよう心掛けることができた」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組んでいたが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての作業に対し取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	映像表現Ⅱ (科目ナンバリング：AEA223047)					
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)		研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者：		北嶋 洋一)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用 までを指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス～	シラバスを一読しておくこと (45分)	グループ設定について代表者が取り纏め、次週の授業開始時までに提出 (45分)
2	After Effects の操作講習① 「入力～出力」	授業用素材のダウンロードと確認 (45分)	授業内容の反復 (45分)
3	After Effects の操作講習② 「編集」	授業用素材のダウンロードと確認 (45分)	授業内容の反復 (45分)
4	After Effects の操作講習③ 「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認 (45分)	授業内容の反復 (45分)
5	After Effects の操作講習④ 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認 (45分)	授業内容の反復 (45分)
6	After Effects の操作講習⑤ 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認 (45分)	授業内容の反復 (45分)
7	映像制作 (180sec～) ① テーマ ～ コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確 にしておくこと (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
8	映像制作 (180sec～) ② シナリオ ～ 設計	映像表現Ⅰの授業内容を再確認すること (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
9	映像制作 (180sec～) ③ 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
10	映像制作 (180sec～) ④ 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
11	映像制作 (180sec～) ⑤ 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
12	映像制作 (180sec～) ⑥ 編集	設計図の再確認と修正 (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
13	映像制作 (180sec～) ⑦ 編集	設計図の再確認と修正 (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
14	映像制作 (180sec～) ⑧ 編集	設計図の再確認と修正 (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
15	映像制作 (180sec～) ⑨	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと (45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリューム を考える (45分)
16	映像制作 (180sec～) 発表 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておく (45分)	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時 までに提出する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	一級建築士演習Ⅲ (科目ナンバリング：AEN323064)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者：小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
国家資格である「一級建築士一次（学科）試験」に合格できる学力の修得を目標とする。 この講座では、特に一級建築士一次試験5科目のうち、「Ⅳ・施工分野」の傾向と対策を行う。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
提示された一級建築士試験の過去問題に対し、出題者の意図を探り、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。							
授業全体の内容と概要							
一級建築士学科試験（学科Ⅳ・施工分野）に出題される過去問題を毎回、小テストを実施し、その解説書に基づいて、復習を行う。							
授業の方法							
授業では、配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。なお、事前に小テストの出題範囲を予習していただく。 本測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
この一級建築士資格試験対策は、3年次までの専門科目の集大成の総まとめとして、建築業界最高峰の国家資格である「一級建築士試験」に挑戦するものである。 よって、覚悟を以って取り組むこと。 なお、毎回、テキストを必ず持参すること。 この講座の履修は、建築プロフェッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。 やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1.1回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
契約約款・施工計画の定義を理解	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をすべて正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をほぼ正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅲ (科目ナンバリング：AEN323064)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健（建築学科・専任講師）		研究室等所在		2号館6階	
単位数	1（単位認定責任者：小笠原 健）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『一級建築士学科IV施工（2025年度版）』	日建学院	㈱建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テスト	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	仕上り工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	仕上り工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	改修工事・設備工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事・設備工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	複合問題対策の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	複合問題対策の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	定期試験（一級建築士試験に準ずる）	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	定期試験の解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義,実技		必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を含む。) (科目ナンバリング:SPS522062)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階(米野) 天野	2号館7階(天野)
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		数年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワーキングなどにより、主体的に指導方法を身につける。							

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３０％	０％	３０％	３０％	１０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的多く得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識はおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学の基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとても豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクスの原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較できた。	理論に則った考えでの運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義,実技		必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を含む。) (科目ナンバリング：SPS522062)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階 (米野)	2号館7階 (天野)	
単位数	2 (単位認定責任者：米野 宏)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	数年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)	事前にシラバスを読んで確認する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
2	人体の構造 (骨格・骨格筋) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
3	バイオメカニクスの基礎 (エンジンとしての筋) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
4	バイオメカニクスの基礎 (エネルギー供給) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
5	バイオメカニクスの基礎 (運動の指令と調節) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
6	バイオメカニクスの基礎 (運動の力学と法則) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
7	バイオメカニクスの実際 (立つ) (担当：天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
8	バイオメカニクスの実際 (歩く) (担当：天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
9	バイオメカニクスの実際 (走る) (担当：天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
10	バイオメカニクスの実際 (跳ぶ①) (担当：天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
11	バイオメカニクスの実際 (跳ぶ②) (担当：天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
12	バイオメカニクスの実際 (投げる) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
13	バイオメカニクスの実際 (打つ) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
14	バイオメカニクスの実際 (蹴る) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
15	バイオメカニクスの実際 (その他の運動) (担当：米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する (90分)
16	まとめ 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する (90分)	課題の内容を確認し、準備する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公宥	杏林書院	2017	978-4-7644-1079-4c3047	
2	『スポーツバイオメカニクス20講』	阿江通良	朝倉書院	2017	978-4-254-69040c3075	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインIII (科目ナンバリング：DES223028)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照					

概要

履修目標							
モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。							
授業全体の内容と概要							
デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。							
授業の方法							
課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。	
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインIII (科目ナンバリング：DES223028)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：林 春生）		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明プロダクトデザインとは	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審査会	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
14	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
15	デザイン作業 造形確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
16	デザイン作業 プレゼンの方法を考える	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
20	デザイン修正 自分の意志は反映されているか確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
21	レンダリング 構図を考える	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
22	レンダリング 商品の特徴が出ているか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
23	レンダリング 効果的な表現か	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
24	レンダリング 色味、色彩構成確認	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
25	レンダリング 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
26	レンダリングフィニッシュに向ける	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
27	レンダリング完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト等考察	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 見せ方を考える	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	世の中の製品を良く調べておく。（45分）
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	世の中の製品を良く調べておく。（45分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間関係) (科目ナンバリング: CHS122079)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

概要

履修目標

授業の目的は、保育実践の内容を理解することである。そのための具体的内容は、保育者の専門性である。①養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること、②保育の内容5領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。

授業全体の内容と概要

授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。
授業内容の取扱いは、①保育の実践に必要な知識、理論、②保育現場でおこり得る事例、③事例を考える際の問題点、④事例の対応方法、の4観点から構成される。
「SDGs4..質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

テキストのワークシート「事例 考えてみよう」（66例）を利用し、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「保育内容演習Ⅱ（人間関係）」は、保育の内容（5領域）から「人間関係」を抽出する科目である。・保育の内容を統合する理解の視点がもとめられる。

・配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。

・授業は学生のみなさんと担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業貢献する。

・大学交付学生用メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。

・パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進める。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のための出席要件は、授業第1回から第8回までに計6回以上の出席が必要になる。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識に欠ける部分はあるが、理解することができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠けており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、充分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的、協同的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自分の役割を考えながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間関係) (科目ナンバリング:CHS122079)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係 第2版』	寺見陽子	教育情報出版	2 0 2 3	9784909378552	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本・乳幼児期の発達①（心理学的接近と教育的接近）	シラバスを熟読する。（45分）	今回の学習内容を復習する。（45分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達②（視聴覚教材の視聴）	テキストⅠ、Ⅱ章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
3	子どもと保育者①（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
4	子どもと保育者②（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども①（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキストⅢ、Ⅳ章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども②（視聴覚教材の視聴）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
7	幼児教育と課題 まとめ①（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
8	幼児教育と課題 まとめ②（保育学） 授業の総括とフィードバック、科目を修了して「身に着く力」について検証、授業改善アンケートの実	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（45分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（45分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針解説(2018) 』	厚生労働省	国立国会図書館	2 0 2 3		https://warp.da.ndl.go.jp/info:
2	『保育を支えるネットワーク：支援と連携 保育学講座5 』	日本保育学会	東京大学出版会	2 0 1 6	9784130522052	
3	『日本の保育の歴史』	汐見稔幸	萌文書林	2 0 1 7	9784893472557	
4	『年度版札幌市・帯広市・江別市 公立保育士採用試験対策シリーズ2025』	協同教育研究会	協同出版	2 0 2 4	9784319338467	
5	『子どもの経験から振り返る保育プロセス』	秋田喜代美	幼児教育映像制作委員会	2 0 1 0		DVD教材

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	建築学科・4年		
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅳ (科目ナンバリング: BSM323065)				
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (准教授)		研究室等所在	2号館 6 階	
単位数	1 (単位認定責任者: 赤木 良子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標						
将来受験する一級建築士試験（学科Ⅳ構造）に合格するための受験対策を目的とする。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
提示された一級建築士試験の学科Ⅳ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。						
授業全体の内容と概要						
各自単元ごとに小テストを実施し、自己採点した上で、その解説書に基づいて復習を行う。						
授業の方法						
授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、必要であれば、次回にその解説・フィードバックを行う。解説は原則的に学生自身が行い、理解を深める。 事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。 毎回、テキストを必ず持参すること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「力学（つりあい、反力、応力）、断面の性質、座屈、変形」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	理解することができなかった。
「構造設計」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「各種構造」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「地盤・基礎、その他の構造等」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	一級建築士演習Ⅳ (科目ナンバリング：BSM323065)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (准教授)		研究室等所在	2号館 6 階		
単位数	1 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士資格保有			
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明・授業ガイダンス 科目を修了して「身に付く力」についての説明 第1章 力の釣り合い・反力	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
2	第1章 力の釣り合い・反力 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
3	第2章 静定構造物の応力・第3章 断面の性質	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
4	第2章 静定構造物の応力・第3章 断面の性質 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
5	第4章 応力度・座屈・変形・第5章 不静定構造物の応力	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
6	第4章 応力度・座屈・変形・第5章 不静定構造物の応力 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
7	第6章 振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章 構造設計・構造計画	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
8	第6章 振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章 構造設計・構造計画 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
9	第8章 木質構造・第9章 鉄骨構造	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
10	第8章 木質構造・第9章 鉄骨構造 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
11	第10章 鉄筋コンクリート構造・第11章 鉄骨鉄筋コンクリート構造	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
12	第10章 鉄筋コンクリート構造・第11章 鉄骨鉄筋コンクリート構造 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
13	第12章 地盤と基礎構造・第13章 その他の構造等	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
14	第12章 地盤と基礎構造・第13章 その他の構造等 解説	試験範囲の学習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
15	定期試験／授業改善アンケートの実施	試験範囲全体の復習 (45分)	試験内容の確認 (45分)
16	定期試験の解説、フィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	試験問題の復習 (45分)	試験範囲の復習 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『一級建築士学科Ⅳ構造（2024年度版）』』	日建学院	㈱建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング：AHS522063)				
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：天野 雅斗)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、学校保健を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに包含される「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目。

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりが説明できる。

授業全体の内容と概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例の提示、アンケート調査結果から学生自身の考えについてグループワークを行い理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後20分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。
授業を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。毎回、小テストを実施し理解度を評価する。次の学習内容に関連する予習課題を提示するのでしっかり取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	40%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の発達と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例を列挙しながら説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について、学校保健活動を構成している「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史的変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の3領域を関連づけるながら説明できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について各法との関わりを整理できている。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できている。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できている。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための個別ならびに集団に対する具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング: AHS522063)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、学校保健を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反映の説明、学校保健の意義	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	学校保健の仕組み (担い手、組織活動、計画、行政)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	健康の考え方、学校保健の歴史と課題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	育成すべき保健の学力とその学習の進め方	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	保健の担当教員として求められる力量形成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	学校の教育活動全体を通じて行う健康に関する指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	学校における性教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	食育、がん教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	児童生徒の発育発達、疾病・異常、感染症	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	精神の健康、児童生徒の自殺、いじめ問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	児童生徒の健康状態の把握と指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	学校環境衛生、学校安全	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	応急手当 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	定期試験	教科書等を活用し、試験内容に関連する事項について事前に復習しておく。(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学校保健ハンドブック 第7次改訂』	教員養成系大学保健協議会	株式会社ぎょうせい	2019	9784324105771	
2	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	徳山美智子ほか	東山書房	2019	9784827815702	
3	『学校保健』	門田新一朗、大津一義	大学教育出版	2016	9784864294102	
4	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	9784990813048	
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインⅣ (科目ナンバリング：DES223029)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：林 春生)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照					

概要

履修目標							
モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。							
授業全体の内容と概要							
デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。							
授業の方法							
課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。	
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	プロダクトデザインⅣ (科目ナンバリング：DES223029)					
授業担当者 (所属・職名)	林 春生 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：林 春生)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	国際企業でデザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明プロダクトデザインとは	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	ブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ マーケット動向や見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 アイデアは反映されているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 レイアウト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング モック作成、効果的な方法考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング モック作成、何を表現するか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング モック作成、材料を検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モック作成、考えていたのと造形は合っているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング モック作成 完成に近づける	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング モック作成完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 表現として効果的か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 。科目を修了して『身に付く力』についての検証。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境) (科目ナンバリング：CHS122080)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 慶知 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師控室		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 慶知)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
1. 保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。 2. 保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について理解する。							
授業全体の内容と概要							
保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について学修する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は6回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通した保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通した保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明できた。	環境を通した保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境) (科目ナンバリング：CHS122080)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 慶知 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師控室		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 慶知)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解	保育指針の第一章を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント 保育の現場での危機管理、安全管理について	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（90分）	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。 回目の課題を作成する（90分）。
4	子どもの自主性、主体性を引き出す魅力的な環境とは。 環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章 乳児保育を事前読むこと（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（90分）	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	理想の保育環境を考える ①物的環境 ②自然環境	保育における物的環境について事前学習しておく（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	理想の保育環境を考える ③人的環境（保育者の資質、専門性）	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	まとめ 環境を通した保育とは レポートの作成 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容を確認しておく（90分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅰ (科目ナンバリング：APT324066)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。							
授業全体の内容と概要							
建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。							
授業の方法							
授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数 11 回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	8 0 %	0 %	10 %	1 0 %

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
一級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。	
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。	
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	二級対策製図Ⅰ (科目ナンバリング：APT324066)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)・向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：		向井 正伸		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表：各伏図1	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方：各伏図2	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング：MAN413006, MAN523016)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を 生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (講義全体の概要、講義のやり方、評価方法、科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反映の	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	財務諸表の見方① 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	財務諸表の見方② 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	会社の財務安全性① 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	会社の財務安全性② 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	会社の収益性① 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	会社の収益性② 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	会社の活性① 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	会社の活性② 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に向けて準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川莊二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 (科目ナンバリング：BAM522064)				
授業担当者 (所属・職名)	黒川 泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者：黒川 泰任）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳神経外傷指導医、病態栄養学会専門 医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標							
生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する医学の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考察し、生体の働きのメカニズムを理解し身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。							
授業全体の内容と概要							
われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。							
授業の方法							
板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。小テストの積み重ねが、広範な医学分野の理解に役立つ。定期試験は各講義の小テストのテーマの中から出題される。不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業、課題提出を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。 首席は表彰される。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上。 定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がいえる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相連性を理解する	ヒトという生物も、機械も活動のしくみは同じだと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾ける、書き取り、質問できる。	疑問点や不明点をメモできる。	板書はできている。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	生理学 (科目ナンバリング：BAM522064)					
授業担当者 (所属・職名)	黒川 泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 黒川 泰任)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳神経外傷指導医、病態栄養学会専門 医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション シラバスの説明【科目を修了して「身に付く力」の	シラバスを確認しておく（90分）	人の生理について興味ある点を、まとめておく（90分）
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
7	神経1 中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
8	神経2 脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
9	神経3 脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
13	消化器1 消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
14	消化器2 肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（90分）	当日の講義内容を小テストで確認する（30分）
16	定期試験 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験準備（90分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017	9784415306193	
2	『はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版』	照井直人／編	羊土社	2011	9784758120296	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅱ (科目ナンバリング：APT324067)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。							
授業全体の内容と概要							
建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。							
授業の方法							
授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数11回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。	
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。	
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	二級対策製図Ⅱ (科目ナンバリング：APT324067)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：		向井 正伸		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの確認。授業の進め方と課題提出までのスケジュール、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	建築士試験想定製図課題の設計	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: MAN413013, MAN523038)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標 経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深め身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ 経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標 経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。							
授業全体の内容と概要 教員作成の資料を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。PCを多用する。「SDG4、質の高い教育をみんなへ」の関連科目							
授業の方法 教員作成の資料を用いた講義に加え、PCを活用した調査課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項 学習を妨げる行為（私語等）は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はポイアントにまとめてノートに記載すること。							

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。
資格指定科目 教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上（出席数は自身で管理すること）。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。病気やケガを理由とした個人向けのリモート授業は原則行わない。対面で出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としそれ以上遅れた場合及び15分以上途中退席した場合は、欠席とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめることができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。	
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめることができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。	
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめることができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の偏害、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の偏害やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング：MAN413013, MAN523038)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション（人的資源管理とは） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
2	人的資源管理とは何か	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
3	組織構造と職場マネジメント	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
4	日本の経営の成り立ち	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
5	社員区分制度と格付け制度	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
6	人的資源確保 採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
7	人的資源確保 評価	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
8	人的資源確保 配置と異動	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
9	人的資源確保 育成とキャリア	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
10	人的資源確保 報酬管理	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
11	人的資源管理 労働環境①	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
12	人的資源管理 労働環境②	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
13	労働環境 健康管理と安全衛生	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	資料を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
15	まとめ（期末試験に向けて） 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	すべての資料を熟読すること（90分）	試験勉強に取り組むこと（90分）
16	試験（60分）と総括（30分）	試験勉強に取り組むこと（90分）	各自で科目総括・資料整理を行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『必要な資料を適宜チームズ上に掲載する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学 (科目ナンバリング：S0M522065)				
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館2階常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者：宮崎 剛司)			CAP制
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予 防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本21から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因そして予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的な取り組みについて理解する。							
授業全体の内容と概要							
各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確実なものにする。							
授業の方法							
各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。 双方向授業システム（クリッカー等）を利用、Teamsを利用した学習支援する。 「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻は講義開始後20分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。 20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。 復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	5 0 %	0%	3 0 %	2 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、目的について理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康課題の改善、取り組みに関する資料を整理、解釈できている。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できている。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理できていた。	健康課題の現状について列挙できていた。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を基に自分の考えを整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を整理できていた。	地域に特徴的な健康課題について列挙できていた。	各々のが抱えている健康課題について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	衛生学及び公衆衛生学 (科目ナンバリング：S0M522065)					
授業担当者 (所属・職名)	宮崎 剛司 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：宮崎 剛司)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション(当該科目を通じて日本におけ	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	公衆衛生の変遷：時代とともに変化する健康課題とその対策	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	地域による健康格差：地理的・社会的要因がもたらす健康の違い	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	個人の特性と健康リスク：遺伝・生活習慣・社会環境の影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	疾患の成り立ちと予防：病気の原因を探り、公衆衛生での対策を考える	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	感染症の疫学：感染症の流行を理解し、拡大を防ぐ仕組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	非感染性疾患の原因と対策：肺がんを例に考える環境要因と健康影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	人口統計と公衆衛生：統計データから読み解く健康の現状と未来予測	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	遺伝要因と健康：遺伝と生活環境の相互作用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	環境変化と健康影響：気候変動・都市化・公害が健康に与える影響	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	健康診断と予防医療：検診の意義とスクリーニングの役割	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	公衆衛生における法律と制度：人々の健康を守る法的枠組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	医療保険制度の意義と課題：健康格差をなくすための仕組みとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	健康な生活環境の整備：公衆衛生政策による住みよい環境づくり	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	ヘルスプロモーションの実践：健康づくりのための戦略とアプローチ レポートのフィードバック	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	まとめ 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『シンプル衛生公衆衛生学2024』	小山羊監修	南光堂	2024	978-4-524-21022-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング：CHS122088)					
授業担当者 (所属・職名)	太田 俊一 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：太田 俊一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の3つを授業の目的とする。 1. 学生自らが「学生主体の学び」を意識し、子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術を得得する。 2. 本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を得得する。 3. 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を通して、ステュデントスキル・スタディスキル・アカデミックスキルを得得する。 。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
(知識領域) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術に関係づけながら習得できる。 (態度領域) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を、他と協調して習得できる。 (技能領域) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、工夫して美演できる。							
授業全体の内容と概要							
子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術、 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学修する。「SDG4：質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。 児童文化財（人形劇やペープサート等）の制作を行い、発表してお互いを評価しあう時間も設定する。 課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題の内容及び提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。 児童文化財制作（人形劇やペープサートを予定）のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。 遅刻の場合は入室できるが、20分以上の遅刻は欠席となる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	20%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかおおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング：CHS122088)					
授業担当者 (所属・職名)	太田 俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：太田 俊一）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 児童文化財についての基礎的な知識や技能	指定した教科書を事前に読むこと（45分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
2	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター1	児童文化財の種類を理解しておく（45分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
3	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター2	児童文化財の種類を理解しておく（45分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
4	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター3	児童文化財の種類を理解しておく（45分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
5	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング1	素話の意味を理解しておく（45分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
6	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング2	素話の実演方法を理解しておく（45分）。	授業終了時に示す課題を作成する（45分）。
7	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング3	昼間テストに向け発表練習をしておく（45分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境1 中間テスト（制作発表）	昼間テスト（発表）の準備をしておく（45分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境2 中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する（45分）。	9回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境3	望ましい保育環境について事前学習する（45分）。	10回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開1	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（45分）。	11回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開2	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（45分）。	12回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開3	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（45分）。	13回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
14	学生による言語表現の展開1	言語発表の準備、練習をしておく（45分）。	授業終了時に示す課題を作成する（45分）。
15	学生による言語表現の展開2・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく（45分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（45分）。
16	提出されたレポート、課題の総合評価 児童文化財についての基礎的な知識や技能をフィードバック	15回の内容を振り返り復習する(45分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(45分)。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ (科目ナンバリング：SEM324068)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科Ⅰ「建築計画」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。	
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。	
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ (科目ナンバリング：SEM324068)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。科目を修了して「身に付く力」についての説明。環境工学・気象・室内環境・屋外気候・換気・通風、授業改善アンケート結果反映の	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学－伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学－採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学－環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画－独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画－集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画－商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画－公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画－計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画－都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備－用語・空調調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備－給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備－電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備－照明設備 指	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備－消火・防災・設備融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説。総括によるフィードバック。科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健Ⅰ (科目ナンバリング：PSS522066)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2	(単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健とはなにか、精神保健の諸課題に対する精神保健福祉士に必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①精神保健分野の動向と現代の課題を理解する。

②精神保健の基本的考え方を理解する。

③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①人間生態学における精神的健康概念について理解する。

②精神保健医療福祉の歴史と、精神障害にも対応した地域包括システムなどの現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解する。

③精神保健活動の3つの対象、精神の健康に関する心的反応について理解する。

④家族や各発達段階に関連する精神保健の課題と支援について理解する。

⑤勤労者への精神保健的課題とアプローチについて理解する。

「SDGs1. 貧困をなくそう」「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs5. ジェンダー平等を実現しよう」「SDGs8. 働きがいも経済成長も」「SDGs11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。

②毎回の振り返りをMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。

③毎回の授業前にMicrosoft Formsを通して事前学習を提示するため、必ず確認してから授業に望む。

④授業資料の配布にMicrosoft Teamsを活用する。

⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。

②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。

③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。

④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（10点）、第16回目に実施する定期試験（90点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の課題を医療・福祉・保健・教育・司法・産業・労働という生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の實際に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健Ⅰ (科目ナンバリング：PSS522066)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院のデイ・ケアの看護師の経験を活かして、医療機関や行政機関、他の在宅サービスとの情報共有や調整、医療との連携、精神障害のある人の在宅生活をどのように支えていくかなどの経験を活かして講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2023	4805882535	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要科目を修了して「身に付く力」についての説明	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
4	家族に関する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
5	家族に関する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
6	家族に関する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することと生じる精神保健上の課題、反復違法行為と）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
16	定期試験（60分の試験）、授業改善アンケートの実施、授業全体のフィードバックなど	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（90分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションIII (科目ナンバリング：AEA223042)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で水曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

概要

履修目標							
本科目は、デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性、表現方法を学び、イラストレーターの役割を実践形式で学び習得する。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
アドバタイジング、エディトリアル各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立できる。							
授業全体の内容と概要							
マチエール、下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ、コンセプトに合わせて個々の表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的創作過程を学び、画材表現、イラスト表現を習得する。							
授業の方法							
各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想、表現を考え、その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
遅刻3回で欠席1回とみなす。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。
イラストの多様性・実践的創作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的創作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的創作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションIII (科目ナンバリング：AEA223042)				
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。授業	シラバスを読んでおくこと。（45分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
2	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。（45分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
3	マチエール、下地の研究1。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（45分）	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。（45分）
4	マチエール、下地の研究1。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（45分）	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。（45分）
5	マチエール、下地の研究2。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（45分）	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。（45分）
6	マチエール、下地の研究2。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（45分）	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。（45分）
7	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
8	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
9	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
10	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
11	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
12	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
13	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
14	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
15	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
16	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブ フルア				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
18	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
19	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）
20	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
21	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）
22	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
23	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（45分）
24	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（45分）
25	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
26	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
27	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
28	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（45分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（45分）
29	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）
30	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（45分）
31	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）
32	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。授業改善のアンケート実施。授業に係る講評・解説によるフィードバック。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（45分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ (科目ナンバリング：SEM324069)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科Ⅱ「建築法規」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ (科目ナンバリング：SEM324069)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーションで配布した資料の熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	構造強度、構造計算	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	木造3階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
12	雑則・その他、基準法融合	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
15	品確法・長期優良住宅法	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
16	実力診断試験、授業改善アンケートの実施、総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	指定した資料を事前に熟読する（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健Ⅱ (科目ナンバリング：PSS522067)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
現代の精神保健の課題と支援1での学習をもとに、精神保健の予防と支援の実際、差別や偏見に関する問題、精神保険に関する専門職と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携、諸外国やWHOなどの精神保健活動の現状について理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。 ②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。 ③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。 ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。 ②精神保健に関する諸問題に対する対策を理解する。 ③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。 ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。 「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」「SDGs8.働きがいも経済成長も」「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式が主だが、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。 ②毎回の講義前に事前課題をMicrosoft Formsにて発信を行う。必ず確認してから、授業に臨むこと。 ③毎回の確認小テストをMicrosoft Formsを通して発信する。。 ④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。 ⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	
			ロールプレイ		調査学習	
	模擬授業					反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
①教科書は毎回持参すること。 ②配布資料は紛失しないよう、ファイリングして管理を徹底すること（特段の理由が無い限り再配布はしない）。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、平常点（10点）、第16回目に実施する定期試験（90点）の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神保健に関する予防の考え方について理解する。	精神保健に関する予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより予防の考え方についておおむね説明できた。	予防の考え方について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②アルコール問題、薬物依存問題、ギャンブル等の問題、うつ病と自殺防止、子育て対策と暴力、虐待予防、認知症高齢者、社会的引きこもり、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に対する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健に対する対策についておおむね説明できた。	精神保健に対する対策に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解する。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて地域精神保健に関する偏見と差別等についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより地域精神保健に関する偏見と差別等について種々の役割と連携についておおむね説明できた。	地域精神保健に関する偏見と差別等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤世界的な精神保健及び、WHOの動向について学ぶ。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いて世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することにより世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向についておおむね説明できた。	世界的な精神保健の実情やWHOなどの動向について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健Ⅱ (科目ナンバリング：PSS522067)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院看護師の経験をもとに、精神保健に関する予防と偏見・差別などの課題、対策について講義をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2023	4805882535	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の課題と支援①の授業内容の復習	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	精神保健の予防の考え方	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	精神保健に関する発生予防と対策①(アルコール問題、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神保健に関する発生予防と対策②(うつ病と自殺予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神保健に関する発生予防と対策③(子育て支援と暴力、虐待予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神保健に関する発生予防と対策④(認知症高齢者に対する支援)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健に関する発生予防と対策⑤(社会的ひきこもりに対する支援)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健に関する発生予防と対策⑥(災害時の精神保健に対する対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題(関係法規、精神保健における偏見)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健に関する専門職①(国の機関と役割、精神保健に関する関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健に関する専門職②(地域精神保健に係わる行政の役割)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神保健に関する専門職③(啓発団体、セルフヘルプグループと市民団体)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	諸外国の精神保健活動の現状及び対策(世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施 授業全体のフィードバック	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	知的障害教育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122107)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題につ いて指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等にに応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
特別支援学校学習指導要領等を基準として、知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性及び発達段階等を踏まえた教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的な知識を理解する。							
授業全体の内容と概要							
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史の変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し、総合的に構成する。「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。 ICT活用に関連して、授業についての質問などはチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
</					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。	
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	知的障害教育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122107)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題につ いて指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、知的	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	知的障害児教育の歴史① ～戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	知的障害児教育の歴史② ～戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	個別の指導計画と授業づくりについて ～ICTの活用を含む～	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害のある子どもの個別的教育支援計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害のある子どもの交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント、学習評価の方法について 講評及びフィードバック、科目を修了して「身に付	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
3	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
4	『教育の情報化に関する手引（追補版）』	文部科学省		2020		
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションⅣ (科目ナンバリング：AEA223043)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 佐藤 正人)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

概要

履修目標

大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性、表現方法を学び、完成度の高い作品造りを目指す。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な採求心、研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンベンなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要

個々のイラスト表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現，イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて各自のイラストの方向性の研究。

授業の方法

イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性等について講義を行った後、各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で、実技にて作品制作を行っていく。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）	
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。	
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。	
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。	
イラストの多様性・実践的製作への理解。	授業内容を深く理解して実践的应用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的製作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的製作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	イラストレーションⅣ (科目ナンバリング：AEA223043)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 正人 (デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：佐藤 正人)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をしデザインゼミ研究室①で木曜日5・6講目、金曜日5・6講目対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	制作への心構え，制作意識について，イラスト表現の多様性についてなど講義	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	作への取り組みを進めること。(45分)
4	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。(45分)
5	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
6	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
9	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
10	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
18	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
20	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート & 作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
22	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート & 作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
25	ビジュアル本制作－1。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
26	ビジュアル本制作－1。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
27	ビジュアル本制作－2。製本作業1	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
28	ビジュアル本制作－2。製本作業1	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	ビジュアル本制作－3。製本作業2	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
30	ビジュアル本制作－3。製本作業2	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	ビジュアル本制作－4，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート & 作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	ビジュアル本制作－4，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート & 作品提出。授業	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅲ (科目ナンバリング：SEM324070)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科III「建築構造」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	60%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	二級建築士演習Ⅲ (科目ナンバリング：SEM324070)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）			研究室等所在	2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造―耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	R C造―構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造―構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造―壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組積造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料―木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料―金属・ガラス・材料融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説。総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・担当	建築学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択
科目名称	アクションプログラムVI (科目ナンバリング: IRE323077)				
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1	(単位認定責任者: 小笠原 健)			CAP制
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士事務所などに特定建設業者、宅地建物取引業者であるデバロッパーでの勤務経験あり、リクルーターを担当、 前職の専門学校勤務時の就労担当としての実績を踏まえ就活サポートが可能。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
建設業界の各企業の実務担当者を招き、直接、業務内容等の建設業界の現状を理解することで、在学中の学習意欲の向上と就職意識の醸成を目的とする。						
授業の位置づけ						
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
建設業界は非常に幅広い業界であり、各分野ごとの建設業としての業務や立場を理解でき、就職活動に活かすことができる。						
授業全体の内容と概要						
建設業界の設計事務所・建設会社業者・設備業者・ハウスメーカー・デベロッパーなどの様々な業種に勤務する実務担当者から、実際の業務について経験をまじえて実体験の講演を実施。 また、講義後には、感想文などのアンケートを実施し、その内容による成績評価を行う。						
授業の方法						
各企業担当者を外部講師として招き、それぞれの業界について講義を実施する。 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	
						PBL
						反転授業
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
講義後、振り返りアンケートを実施するが、期限までに未提出の場合は、欠席扱いとする。 やむを得ない事情で欠席する場合には、必ず連絡をすることとし、無断欠席は認めないものとする。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	100%	0%	0%	0%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建設業界について、必要な知識を修得できる。	建設業界について必要な知識を修得できていた。	建設業界についてに必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界について必要な知識を知ることができた。	建設業界についての知識を知る意志がなかった。
建設業界における各業種について、必要な知識を修得できる。	建設業界における各業種について必要な知識を修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を知ることができた。	建設業界における各業種について必要な知識を知る意志がなかった。
建設業界への就職活動について、必要な知識を修得できる。	建設業界への就職活動について必要な知識を修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知ることができた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知る意志がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義,実習	必修・選択	選択	
科目名称	アクションプログラムVI (科目ナンバリング：IRE323077)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1	(単位認定責任者：小笠原 健)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士事務所ならびに特定建設業者、宅地建物取引業者であるデバロッパーでの勤務経験あり、リクルーターを担当。前職の専門学校勤務時の就活担当としての実績を踏まえ就活サポートが可能。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。 授業の進め方について説明。 授業改善アンケート結果に関する説明 (小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
2	企業2 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
3	企業3 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
4	企業4 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
5	企業5 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
6	企業6 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
7	企業7 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
8	企業8 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
9	企業9 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
10	企業10 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
11	企業11 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
12	企業12 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
13	企業13 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
14	企業14 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
15	企業15 (外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
16	企業16 (外部講師による建設業界についての講義) 授業に係る講評によるフィードバック、授業改善ア	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動 (科目ナンバリング：HSS522069)					
授業担当者 (所属・職名)	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：是枝 亮）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
自己の体に関心を持ち、体力づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるよう身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学校教育において「体づくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。							
授業全体の内容と概要							
自己の体を動かしながら、身体について考え、その働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や規律的な運動を学習する。							
授業の方法							
授業は実技を中心に行之い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。 中間課題評価は、体力づくりの基礎技術を見る。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。 上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中中等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協働生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻2回で一回の欠席とみなす。10分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	5 0 %	0%	4 0 %	1 0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体づくり運動についての理解・認識	体づくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができ、また自ら運動や指導法を見出すことができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動をとりあえず実施していた。	自分や他者の体に意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分ける、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることば少ないなど、積極性不足と受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動 (科目ナンバリング：HSS522069)					
授業担当者 (所属・職名)	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）			研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：		是枝 亮		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
2	体ほぐしの運動① ・基礎運動① 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
3	体ほぐしの運動② ・基礎運動② 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチ	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
4	体ほぐしの運動③ ・一人での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩 走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
5	体ほぐしの運動④ ・複数での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩 走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
6	体ほぐしの運動⑤ ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナワ、 縄、シャトル等）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
7	体力を高める運動① ・柔軟性向上の運動（ストレッチングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
8	体力を高める運動② ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
9	体力を高める運動③ ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
10	体力を高める運動④ ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
11	体力を高める運動⑤ ・総合的体力向上の運動（レベテーション、サーキ ット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
12	体力を高める運動⑥ ・総合的体力向上の運動（レベテーション、サーキ ット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
13	体力を高める運動⑦ ・有酸素運動（エアロビック）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
14	模擬授業①（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと （45分）
15	模擬授業②（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと （45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分） （45分）
16	課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと （90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深 めること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体づくり運動-授業の考え方と進め方-改訂版』		東洋館出版社	2013		
2	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
3	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育 編』	文部科学省	東山書房	2018		
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造 (デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者： 安田 祐造)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスについて、授業改善アンケートについて、科目を修了して「身に付く力」についての説明	予めシラバスに目をおし、出品予定の公募展について目下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。(45分)
2	オリエンテーションシラバスについて、公募展について II	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモチーフについて検討する。(45分)
3	支持体製作（支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択） 様々な基底材の特徴について	自らの新作の構想をまとめるに当たり、十分に教師や他の学生の意見や助言を取り入れる。(45分)	構想を取りまとめ下絵を作成する。(45分)
4	支持体製作 布や紙の貼り方、基底材の組み立てと接合について	自らの作品の描法に相応しい支持体を検討する。(45分)	ことに紙や布を使用する場合、満足のいかない状態にある場合は、手直しを行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方と地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材を予め決める。(45分)	支持体製作の進捗を確かめる。(45分)
6	支持体製作 地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材の塗り方を決める。(45分)	構想を下絵としてまとめ上げる。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨と仕上げについて	描法に相応しい地塗り面の仕上げ方について決める。(45分)	下絵の転写の仕方について検討する。(45分)
8	下絵の支持体への転写 その方法と転写作業について	下絵の転写の仕方について決める。(45分)	次回からの彩色の仕方について計画を立てる。(45分)
9	下描き(下描きの有無、その材料は任意選択) 描法に応じた様々な方法について I	各々の描法に応じた材料や用具を、各々自らが準備する。(45分)	本時の制作を振り返り、進捗を確かめる。(45分)
10	下描き 描法に応じた様々な方法について II	これまでの制作で、修正すべき点などを明らかにする。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
11	本制作 A（制作のための描法－技法－は任意選択）	大まかな色面把握ということについて予習する。(45分)	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。(45分)
12	本制作 B 大まかな色面把握について II	足りない点や過ぎた点について検討する。(45分)	他の学生の制作を参考として、自らの制作の進め方について検討する。(45分)
13	本制作 C 大まかな色面把握 III	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目やり、自らの制作の進捗を検討する。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
14	本制作 D 大まかな色面把握 IV	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する。(45分)	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。(45分)
15	本制作 E 上描きによる細部の表現について I	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目やるように注意する。(45分)	全体に目やり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。(45分)
16	本制作 F 上描きによる細部の表現について II	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。(45分)	ことに、写実的な描写を行う場合には、まず明度について、『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本制作 G 上描きによる細部の表現について III	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかを確認する。(45分)	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響も考慮し、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
18	本制作 H 上描きによる細部の表現について IV	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭いたりして後戻りすることを検討する。(45分)	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。(45分)
19	中間発表	これまでの自らの制作を振り返る。(45分)	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。(45分)
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。(45分)	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。(45分)
21	本制作 I さらなる描き込みについて(質感表現を主に) I	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。(45分)	明度差－コントラストやタッチにより質感が変化することに着目して検討する。(45分)
22	本制作 J さらなる描き込みについて(質感表現を主に) II	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。(45分)	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。(45分)
23	本制作 K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に) III	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。(45分)	次第に作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
24	本制作 L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に) IV	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように努める。(45分)	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。(45分)
25	本制作 M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に) IV	かたちや立体感などを追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目やる。(45分)	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。(45分)
26	本制作 N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に) IV	かたちを損なうことのないように色彩調和を求める。(45分)	立体感や奥行き感を損なうことなく、色彩調和を高めるための要点は何かについて検討する。(45分)
27	本制作 O 仕上げに向けて I	さらに全体を見渡して、部分どうしや全体とのバランスや調和について検討する。(45分)	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。(45分)
28	本制作 P 仕上げに向けて II	立体感や空気感が表現できているかを検討する。(45分)	明部と暗部について、かたちや色彩調和を損なうことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。(45分)
29	本制作 Q 仕上げに向けて III	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。(45分)	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行えているかを検討する。(45分)
30	本制作 R 仕上げに向けて IV	色彩調和について、全体調整を行う。(45分)	発表を前に、さらに全体に目やり、自らの構想に照らし調整を行う。(45分)
31	合評 A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点などについて検討する。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考とし、自らの作品についての自己評価を行う。(45分)
32	合評 B 授業改善アンケートの実施、科目を修了して『身に付く力』についての検証、そしてこれまでの取り組みをもとに、今後の学生たちの制作や生	他者との感性や価値観の相違、多様性を認め、社会生活のあり方についての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	病弱者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122106)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理 解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別な支援を必要とする病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理、行動特性等の基本的な知識を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理の各特性や行動特性等について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
病弱・身体虚弱児の身体的・心理的な特性や病理の特性について、できるだけ具体的な事例や視聴覚教材等を活用しながら構成する。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連科目。							
授業の方法							
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。具体的な事例のVTR視聴後にレポート提出を行う。レポートはコメントしてフィードバックする。質問等随時対応する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなします。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンライン及びオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱者の心理・生理・病理の理解	心理・生理・病理の理解について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	心理・生理・病理について関心をもって理解し学修できた。	心理・生理・病理についてほぼ学修できた。	心理・生理・病理について不十分ながら理解することができた。	心理・生理・病理について理解できなかった。
病弱者の心理・生理・病理についての思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで多少表現できた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断・表現にできなかった。
病弱者の心理・生理・病理に係る授業への関心・意欲・態度	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが多少参加できた。	授業への参加態度に課題が残った。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・病理 (科目ナンバリング：SNE122106)				
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理 解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020年	978-4863715486	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明とオリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱者の心理・生理・病理」について の課題を整理する (90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認する こと。(90分)
2	病弱者と病弱教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
3	小児慢性特定疾患についての理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
4	障がいの受容と支援の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
5	発達段階とプレパレーションの理解と方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
6	腎臓疾患の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
7	悪性新生物の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成 (90分)
8	こころの病の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
9	小児の心身症の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
10	てんかんと脳腫瘍の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
11	筋ジストロフィーの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
12	障がいの理解と支援・自立に向けて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
13	自立と進路指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
14	病弱者の「限界への挑戦」について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
15	緩和ケアとトータルケアの課題について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成 (90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説 しフィードバックする。)科目を修了して『身に付く力』についてを自己検証	講義内容の重要事項について整理しておくこと (90分)	試験の結果を見直す (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アニメーションⅠ (科目ナンバリング：PIP223048)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：梅田 真紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
アニメーション制作の基礎、およびアニメーションにおいて動きを描くための基本原則や表現方法を修得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
アニメーションにおける動画の基本原則を理解し、動画を作成できる。							
授業全体の内容と概要							
ウォルト・ディズニー・スタジオのアニメーターであるフランク・トーマスとオリイ・ジョンストンが共著書『Disney Animation / The Illusion of Life』(1981)にまとめたアニメーションの12の基本原則を元に、物理原則に沿った動きを理解し、キャラクターを生き生きと動かす表現力を修得する。動画は、紙と鉛筆による手描きで行い、カメラで撮影する。							
授業の方法							
授業は動画の基本原則について映像や配布資料などで説明した後、課題制作に取り組む。作画に必要な画材（主にアニメーションタップ、ライトボックスA4程度）については、初回の授業で詳細説明を受けた後、各自で準備（購入など）する。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内で課題制作に取り組むことができるよう、画材は毎回持参すること。課題作品提出は必須。 制作に必要な画材（アニメーションタップ、ライトボックスなど）は購入するなどして各自で必ず準備すること。価格の目安としては計3000円程度。動画撮影のために、各自でスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にアプリケーションのダウンロードを必要とする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
動画の基本技術	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本・本質を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解せず、作画ができなかった。
基本原則の表現力	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く豊かな表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、それに適した動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を学び、動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を元に、動画を描くことができなかった。
動画撮影	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成し、十分な撮影技術を身につけた。	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画を概ねカメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成できた。	動画の撮影ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アニメーションⅠ (科目ナンバリング：PIP223048)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：梅田 真紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明 アニメーションとは何か	シラバスを読んでくこと（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	アニメーションの基本原則について アニメーションの基本知識 動きの考察	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
3	【動きの観察1】 Slow In and Slow Out	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
4	【動きの演習1】 振り子の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
5	【動きの演習1】 フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
6	【動きの観察2】 Squash and Stretch	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
7	【動きの演習2】 バウンドするボールの動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
8	【動きの演習2】 バウンドするボールの動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
9	【動きの演習2】 フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
10	【動きの観察3】 Anticipation	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
11	【動きの演習3】 予備動作を含む人物の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
12	【動きの演習3】 予備動作を含む人物の動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
13	【動きの演習3】 フィードバック	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
14	【動きの観察4】 Follow Through and Overlapping Action	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）
15	【動きの演習4】 あとに続く動き	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
16	まとめ、課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Disney Animation : The Illusion of Life』	Frank Thomas, Ollie Johnston	Abbeville Press	1981	0896592332	
2	『The Animators Survival Kit: A Manual of Methods, Principles and Formulas for	Richard Williams	Faber and Faber	2001	0571202284	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ (科目ナンバリング：SEW324071)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎（建築学科・教授）・向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：向井 正伸）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科Ⅳ「建築施工」にターゲットを絞り、その傾向と対策演習を学ぶ。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ (科目ナンバリング：SEM324071)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)・向井 正伸 (建築学科・専任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者：向井 正伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表 授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」についての説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約・請負契約・契約図書	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説、授業改善アンケートの実施、 総括によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」についての検証	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動 (科目ナンバリング：HSS522070)				
授業担当者 (所属・職名)	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者： 廣田 修平)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2014年以降、地域スポーツクラブにて児童・生徒に器械運動の指導を継続的にこなしている。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の能力に適した課題をもって器械運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるような指導方法を身につけるため、器械運動の基礎技術の習得を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

当該種目の歴史・文化的に形成された意義や独自の技術、ルールを理解し、集団や社会に応じて実践できる力を養う。
各種目で修得した技術を発表する能力を養う。

授業全体の内容と概要

器械運動(マット、鉄棒、とび箱)で行われる基本技の技術構造を理解することで、自己の習熟度を高めるとともに、技の指導に関する基本的な知識を得る。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識する。

授業の方法

授業は実技中心に行う。安全性を重視しながら基本技術を習得し、出来ない生徒への指導方法や補助方法についても学ぶ。また、レポート課題や中間課題評価や最終課題評価も実施する。中間課題評価や最終課題評価は、マット運動、鉄棒、跳び箱の実技を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

上記のできる服装（上履が必須）。ピアス、ネックレス等は身に付けられないこと。携帯電話等は持ち込まないこと。
入退校の際には服装を整え、守れないピアスは授業に参加できない。又、授業中のこの携帯、連絡行為は、授業中中断等の態度、行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のないことをし、協調性に欠ける。授業に集中できない」とみなす場合として過半数で、授業中の授業は欠けられ、授業前に済ませることとし、授業中に欠席を希望する場合は許可を得ること。許可なく授業途中の欠席は欠けられず、その時点で着席することなし場合は遅刻とみなす。遅刻に滞って一回の欠席となる。10分以上の遅刻は欠席とみなす。但し、バリエーションが原因で遅延した場合当日延期証明書を出さず、中間課題評価や各種目の最終課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象とならない。課題提出を課された場合は定期試験、欠点等の場合、中間課題等を出すことも

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評價前提条件

授業回数の11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
遅刻は15分以上で欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とみなす。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	30%	20%	10%

ルーズブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
器械運動の基礎技術の習得	器械運動の基礎技術が優れたレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、十分なレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、自分の能力に適したレベルで身に付いた。	器械運動の基礎技術が、最低限度身に付いた。	器械運動の基礎技術が身に付かなかった。
技術習得に向けた思考力と実践力	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。また、周囲の学生に対しても自らの考えを助言や指導という形で表現できていた。	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。	技術習得の過程で、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	技術習得の過程で、考え方や解決に対する努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	取り組みにおける考え方や努力が不十分であった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常に行われ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることば少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	器械運動 (科目ナンバリング：HSS522070)					
授業担当者 (所属・職名)	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）			研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者： 廣田 修平)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	2014年以降、地域スポーツクラブにて児童・生徒に器械運動の指導を継続的に行なっている。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
2	マット運動 接転技群「前転」系の学習① ・マット運動の前転（開脚前転含む）に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
3	マット運動 接転技群「前転」系の学習② ・マット運動の「前転」系の発展技である「伸膝前転」や「側立前転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
4	マット運動 接転技群「後転」系の学習① ・マット運動の後転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
5	マット運動 接転技群「後転」系の学習② ・マット運動の「後転」系の発展技である「伸膝後転」や「後転側立」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
6	マット運動 「側立」及び「側方側立回転」の学習 ・マット運動の「側立」及び「側方側立回転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
7	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習① ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
8	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習② ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
9	鉄棒運動 後方支持回転技群「後方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の後方支持回転に必要な基本技術を理解	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
10	鉄棒運動 前方支持回転技群「前方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の前方支持回転に必要な基本技術を理解	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
11	鉄棒運動 懸垂振動技の学習 ・鉄棒運動の懸垂振動技に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
12	マット運動 発展技「前方側立回転とび」 鉄棒運動 発展技「け上がり」の学習① ・マット運動「前方側立回転とび」及び鉄棒運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
13	マット運動 発展技「前方側立回転とび」 鉄棒運動 発展技「け上がり」の学習② ・マット運動「前方側立回転とび」及び鉄棒運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
14	とび箱運動 切り返し系運動の学習 ・「開脚とび」などの切り返し系運動の基礎技能獲得と指導方法学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
15	とび箱運動 回転系運動の学習 ・「台上前転」などの回転系運動の基礎技能獲得と指導方法学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分）
16	最終まとめ、フィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『マット運動』	金子明友	大修館書店	1982		
2	『鉄棒運動』	金子明友	大修館書店	1984		
3	『教師のための運動学』	金子明友ほか	大修館書店	1996		
4	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
5	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	自然地理学Ⅰ (科目ナンバリング：GGR122127,)					
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鈴木 正章)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である。本講義では、地形学を中心に自然地理学の理解を深める。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表空間の地形の理解し身に付け、すなわち地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解することができる。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科ののDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
地表空間にはどのような地形が観られるのか、国土地理院発行の1：25,000の地形図の等高線から地形が判読できるようになる。また、その地形がどのような営力でできているのか理解できるようになる。							
授業全体の内容と概要							
自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表空間を理解する。また、地形の形成要因からどの結果としてどのような地形がつくれるのかを講述する。							
授業の方法							
①授業の具体的な形態：講義形式、②進行方法：おもにパワーポイントと板書、③使用する教材：配布資料及びビデオ、④課題に対する説明：地図作業を課題として予定しているので、赤色と青色の色鉛筆の用意、⑤要望への対応等：集中講義期間中随時対応します。⑥不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①受講者数の制限：なし、②受講条件：なし、③履修上必要な知識・学力等：本学の学生であれば全て可、④遅刻・欠席等のルール等：クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、⑤受講の心構え：受講を集中講義であるため、毎日に出される課題を復習として着実に取組むこと。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１５％	１５％	４０％	３０％	０％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地形図の作業（谷・尾根線及び断面図の作成）を通して地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。
現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。
人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	自然地理学Ⅰ (科目ナンバリング：GGR122127,)					
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鈴木 正章)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応。						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 講義内容と授業計画のガイダンス	本授業のシラバスの熟読しておくこと。（90分）	地理学とはどのような学問なのかインターネットで調べてまとめる。（90分）
2	地理学とその方法	地理学の系譜についてインターネットなどで調べておくこと。（90分）	地理学と地図の歴史をまとめる。（90分）
3	地形図の理解Ⅰ（道具としての地図の種類と用途）	身の回りにどのような地図があるのか調べてみる。	地理調査に使用する地図にどのようなものがあるのかまとめる。（90分）
4	地形図の理解Ⅱ（等高線から地形を読む）	国土地理院発行の地形図に盛り込まれている情報にどのようなものがあらかじめ確認しておくこと。（90分）	地形図に盛り込まれている等高線からどのような地形を読み取れるか習熟すること。（90分）
5	地形図の理解Ⅲ（谷尾根線や地形断面図の書き方）	地形図に含まれる高さ（標高）を表す地図記号を探しておくこと。（90分）	地形図の等高線や高低差を表わす地図記号を読み取り断面図や谷尾根線が描けるよう練習しておくこと。（90分）
6	地形を形成する営力Ⅰ	地形形成営力について調べておくこと。（90分）	地形形成営力にはどのようなものがあるのか整理しておくこと。（90分）
7	地形を形成する営力Ⅱ	マスマーブメントについて調べておくこと。（90分）	マスマーブメントにはどのようなものがあるのか整理しておくこと。（90分）
8	地形を形成する営力Ⅲ	河成作用について調べておくこと。（90分）	河成作用について整理をしてまとめておくこと。（90分）
9	地形を形成する営力Ⅳ	浸食輪廻とは何か調べておくこと。（90分）	浸食輪廻のプロセスについて整理しておくこと。（90分）
10	氷河地形	氷河の作用について調べておくこと。（90分）	氷河の作用について調べておくこと。（90分）
11	平野の地形Ⅰ（構造平野・ケスタ地形）	浸食平野のことにについて調べておくこと。（90分）	浸食平野についてまとめておくこと。（90分）
12	平野の地形Ⅱ（丘陵・台地）	堆積平野のことにについて調べておくこと。（90分）	浸食平野と堆積平野の違いについて整理しておくこと。（90分）
13	平野の地形Ⅲ（扇状地・氾濫原平野）	河川が形成する平野の地形について調べておくこと。（90分）	河川が作る地形についてまとめておくこと。（90分）
14	平野の地形Ⅳ（三角州・海岸地形）	海岸線で観られる平野の地形について調べておくこと。（90分）	河口付近や海岸付近で観られる地形について調べておくこと。（90分）
15	沖積平野の形成過程	氷河性海面変動と河岸段丘について調べて置くこと（90分）	沖積平野の形成と過去の海面変化の関係について調べておくこと。（90分）
16	まとめ及び講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまで授業のまとめをしていくこと。（90分）	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アニメーションⅡ (科目ナンバリング：PIP223049)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：梅田 真紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
アニメーションの制作工程において必要な基本知識、およびデジタル制作技術を身につける。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
アニメーション制作に必要なデジタル技術を理解し、動画を作成できる。							
授業全体の内容と概要							
作品の企画から最終的な書き出しまで、アニメーションの制作工程を演習を通して学ぶ。 演習を通して、CLIP STUDIO PAINT、Adobe Premiere、After Effects等アニメーション制作に必要なソフトウェアの基本技術を身につける。							
授業の方法							
授業は、パワーポイント及び配布物資料などで学習内容の説明をした後、制作過程、演習課題の進捗状況について個人指導を行う。 制作は、第1C室のPC・ソフトウェアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン、タブレットなどを持参しても良い。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業での取り組みを重視し、制作工程における提出物、および完成作品において評価する。 第1C室で利用できるアニメーションソフトウェアはCLIP STUDIO PAINTである。 CLIP STUDIO PAINT以外の私物のソフトウェアを使用しても良いが、アニメーション機能があるものに限る。 私物のタブレットやノートPCを使用する場合は、デバイスを授業に持参できるものに限る。 各制作工程チェックのため提出物が複数ある。授業内で提示された課題は、準備・事後学習の時間を使って次の授業までに必ず仕上げてくること。 「アニメーション1」を履修・修得していることが望ましい。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
制作過程	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求し、洗練させた。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、努力した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。	プロセスに沿った制作がほとんどできなかった。
授業外学修（準備学習・事後学習）の取り組み	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨み、授業のアドバイスを受けて、改善することができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題にある程度取り組みることができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題に取り組む努力をした。	準備学習、事後学習に全く取り組むことができなかった。
完成作品	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の高い作品を仕上げた。	アニメーションの技術力・表現力が認められる作品を仕上げた。	アニメーションの技術や表現を活かした作品を完成させた。	作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	アニメーションⅡ (科目ナンバリング：PIP223049)					
授業担当者 (所属・職名)	梅田 真紀 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：梅田 真紀)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでもくること (90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと (90分)
2	プリプロダクション① 企画・テーマ・コンセプト	作品の企画を考える (90分)	作品の企画をまとめる (90分)
3	プリプロダクション② あらすじ	作品の企画をまとめる (90分)	あらすじを考える (90分)
4	プリプロダクション③ 脚本	あらすじを仕上げる (90分)	脚本を進める (90分)
5	プリプロダクション④ 絵コンテ	脚本を仕上げる (90分)	絵コンテを進める (90分)
6	Adobe Photoshop・Premiere Proの基本操作 プリプロダクション⑤ アニマティック	絵コンテを仕上げる (90分)	アニマティックを進める (90分)
7	プリプロダクション⑥ キャラクターデザイン	アニマティックを仕上げる (90分)	キャラクターデザインを進める (90分)
8	CLIP STUDIO PAINTの基本操作 プロダクション① 背景デザイン	キャラクターデザインを仕上げる (90分)	背景デザインを進める (90分)
9	プロダクション② レイアウト	背景デザインを仕上げる (90分)	レイアウトを進める (90分)
10	プロダクション③ 動画	レイアウトを仕上げる (90分)	動画を進める (90分)
11	プロダクション③ 動画	動画を進める (90分)	動画を進める (90分)
12	Adobe Premiere Pro・After Effectsの基本操作 ポストプロダクション① 撮影	動画を仕上げる (90分)	撮影を進める (90分)
13	ポストプロダクション② 編集	撮影を仕上げる (90分)	編集を進める (90分)
14	Adobe Auditionの基本操作 ポストプロダクション③ 録音	編集を仕上げる (90分)	録音を進める (90分)
15	ポストプロダクション④ 書き出し	録音を仕上げる (90分)	作品を完成させる (90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 を (90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング：BSW324030)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：佐々木 哲之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し、かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中、建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築数量積算基準」，「建築工事内訳書標準書式」に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のDP3，DP4，DP5に対応する。							
到達目標							
建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り，建築生産の中で，数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに，建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。							
授業全体の内容と概要							
建築工事の各工法の理解度を高め，使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具，材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事費の構成を学ぶ。							
授業の方法							
テキストに加えて，プロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また各単元ごとに演習課題出題し，提出してもらう。課題返却後，それを解説する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
講義にはテキスト，ノート，電卓は必ず持参し，講義内容と資料を整理すること。4回目以降は演習課題を実施し，課題提出の評価配分は高いので遅刻，欠席には注意すること。 30分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
土工事・地盤工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな いが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
躯体工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな いが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
仕上げ工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ、さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではな いが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング：BSM324030)					
授業担当者 (所属・職名)	佐々木 哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：佐々木 哲之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2013	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して「身につく力」の説明 建築産業	シラバスにより次回の部分を予習すること (90分)	授業内容を復習すること (90分)
2	コストプランニング、コストコントロール、施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
4	積算数量：設計数量、所要数量、計画数量	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
5	建築数量積算基準－1 土工・地業の数量積算	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
6	建築数量積算基準－2 船体の定義と区分、計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
7	建築数量積算基準－3 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
8	建築数量積算基準－4 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
9	建築数量積算基準－5 鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
10	建築数量積算基準－6 鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
11	建築数量積算基準－7 仕上げの定義と区分、計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
12	建築数量積算基準－8 仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
13	市場単価と分掛り単価事	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
15	事例分析：部分別数量と船体の数量分析 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること (90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること (90分)
16	定期試験 (60分) 及び解説 (30分) をし、フィードバックする 科目を修了して「身につく力」についての検証	これまでの授業範囲を見直し予習すること (90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2017	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1年			
開講時期	前期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	陸上競技 (科目ナンバリング：HSS522071)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・石井 祐治（ 経営学科・特任講師）		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：		戸佐 晃一		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることが出来るようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切にす。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫出来るようにする。							
授業全体の内容と概要							
陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。							
授業の方法							
陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のDVDを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
注意事項及び詳細に関しては、7月中にガイダンスで説明。 大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。 怪我等で見学をする場合は診断書の提出をしてもらう場合もある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くてきた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くてきた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くてきた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1年		
開講時期	前期集中		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	陸上競技 (科目ナンバリング：HSS522071)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・石井 祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者：戸佐 晃一)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	2024	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	短距離走Ⅰ（戸佐 晃一）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
3	短距離走Ⅱ 100m走（各種スタート法と正しい走り方） （石井 祐治）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
4	短距離走Ⅲ 100m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル） （石井 祐治）	短距離走の確認をしておく（45分）	短距離走を理解しておく（45分）
5	ハードル走Ⅰ （ハードリングとインターバル・安全配慮） （戸佐 晃一）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
6	ハードル走Ⅱ （スターティングブロックを使用するスタート、インターバル5歩走～3歩） （石井 祐治）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
7	ハードル走Ⅲ （タイムトライアル） （石井 祐治）	ハードル走の確認をしておく（45分）	ハードル走を理解しておく（45分）
8	跳躍競技Ⅰ （走り幅跳び；助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐 晃一）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
9	跳躍競技Ⅱ （走り高跳び；助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐 晃一）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
10	跳躍競技Ⅲ （走り幅跳び・高跳びトライアル） （石井 祐治）	跳躍競技の確認をしておく（45分）	跳躍競技を理解しておく（45分）
11	投てき競技Ⅰ （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつきたし・安全配慮） （戸佐 晃一）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
12	投てき競技Ⅱ （砲丸投げトライアル） （石井 祐治）	投てき競技の確認をしておく（45分）	投てき競技を理解しておく（45分）
13	リレー種目（バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方） （石井 祐治）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理（45分）
14	リレー種目（4×100mのタイムトライアル） （石井 祐治）	リレー競技の確認をしておく（45分）	リレー競技を理解しておく（45分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など） （戸佐 晃一）	競技会の企画・運営などを確認しておく（45分）	競技会の企画・運営などを理解（45分）
16	フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証 授業改善アンケートの実施 （戸佐 晃一）	授業内容を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	自然地理学Ⅱ (科目ナンバリング：GGR122128,)					
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鈴木 正章)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
自然地理学Ⅰに引き続き、地形学を中心に自然地理学の理解を深めることと我々の生活の身の回りに発生する自然災害について理解し身に付けることを目的とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(地理歴史)必須科目。

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動と運動する原因について明でた。その結果として何のような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果として何のような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。
世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。
活断層についての理解。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か？さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か？説明できなかった。	活断層とは何か？説明できなかった。
火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それに由来する噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物について何のような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	自然地理学Ⅱ (科目ナンバリング：GGR122128,)					
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：鈴木 正章)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義内容と授業計画のガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	本授業のシラバスの熟読しておくこと。（90分）	世界の地震や火山がどのような所に多いのかまとめておくこと。（90分）
2	プレートテクトニクス（1）	大陸移動説について調べておくこと。（90分）	大陸移動説を提唱したウエグナーの業績について まとめておくこと。（90分）
3	プレートテクトニクス（2）	プレートのことについてインターネットなどで調べ ておくこと。（90分）	プレートと地殻やマントルの違いについて整理して おくこと。（90分）
4	日本列島の地質構造（プレートの運動との関係）	日本列島および周辺にはどのプレートが分布してい るのか調べておくこと。（90分）	日本列島の地質構造とプレートの関係をまとめてお くこと。（90分）
5	日本列島の生い立ち	日本列島の地質について調べておくこと。 （90分）	日本列島の生成過程についてまとめておくこと。 （90分）
6	活断層とは（断層、断層の運動と種類、活断層の定義）	断層にはどのような種類があるのか調べておくこと 。（90分）	活断層とどのような断層なのかまとめておくこと 。（90分）
7	日本の活断層の分布と特徴	日本列島の活断層の分布図を観て分布する特徴を考 えてみよう。（90分）	日本列島の活断層の分布の特徴を整理しておくこと 。（90分）
8	阿寺断層（1）（活断層としての特徴）	阿寺断層の日本列島における位置を調べておくこと 。（90分）	地図作業を通して阿寺断層がどのような性質をもつ 断層なのかまとめておくこと。（90分）
9	阿寺断層（2）（活断層としての運動の仕方）	河岸段丘のことについて調べておくこと。（90分）	活断層の運動の仕方を整理しておくこと。 （90分）
10	火山活動とは	火山の定義について調べておくこと。（90分）	世界の火山の分布の特徴とプレートの関係を整理し ておくこと。（90分）
11	火山の噴火現象	様々な火山の噴火の様子をインターネットで調べて おくこと。（90分）	火山ごとの噴火の様子の違いを整理しておくこと。 （90分）
12	火山の噴火様式	火山噴火の様式について調べておくこと（90分）	火山ごとに噴火様式の違う理由を整理しておくこと （90分）
13	日本列島における火山の特徴	火山フロントとは何か 調べておくこと。（90分）	日本列島に活動的な火山が多い理由をまとめておく こと。（90分）
14	日本列島における自然災害Ⅰ	日本列島でこれまで経験した地震災害について調べ ておくこと。（90分）	日本列島で地震災害が多い理由につてまとめておく こと（90分）
15	日本列島における自然災害Ⅱ	日本列島でこれまで経験した火山災害について調べ ておくこと。（90分）	日本列島で火山災害が多い理由につてまとめておく こと（90分）
16	まとめ及び講評 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの授業のまとめをしておくこと。（90分）	これまでの授業のまとめをして整理しておくこと。 （90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ (科目ナンバリング: SEM324059)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一般建築士として、一般建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。							
授業の位置づけ							
建築学科のD P3、D P4、D P5に対応する。							
到達目標							
国家資格である「1級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。							
授業全体の内容と概要							
使用テキストに沿って「1級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上とし、定期試験にて成績評価を行う。					

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
1級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組み意志があった。	1級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組み意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義, 演習	必修・選択	選択	
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ (科目ナンバリング: SEM324059)					
授業担当者 (所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	一級建築士として、一級建築士事務所ならびに特定建設業者である民間企業での勤務経験を 活かし、実践的かつ現実的な講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『令和5年度 1級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明 (小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
2	施工計画－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
3	施工管理・工程管理・品質管理1－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
4	施工管理・工程管理・品質管理1－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
5	品質管理2－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
6	品質管理2－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
7	安全管理・応用能力－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
8	安全管理・応用能力－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
9	法規1－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
10	法規1－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
11	法規2－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
12	法規2－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
13	模擬試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
14	模擬試験－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
15	定期試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)
16	定期試験－解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック、授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する (45分)	授業内容を整理して、復習する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	水泳 (科目ナンバリング：HSS522072)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・篠原 諒介（ 経営学科・専任講師）		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：		戸佐 晃一		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
水中運動は、水の特性である水温・浮力・水圧・抵抗など陸上環境と違う環境の中で運動を行うため、年齢を問わずに健康づくりに有益な効果をもたらす運動として多くの人に親しまれている。特に水泳においては技能の獲得が必要なことから、基本泳法のスキルを身につけることを第1の目標とする。また、指導者育成の観点から、水泳および水中運動の指導力を身につけることを第2の目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの技能を習得する。							
授業全体の内容と概要							
クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、横泳ぎの泳法及び各泳法のスタート・ターンを習得する。 最終日にクロール・平泳ぎ50m完泳の実技試験を実施する。 また、水泳事故防止のため健康・安全配慮に関して学習する。							
授業の方法							
水泳の4泳法におけるDVDを視聴することで特性や特徴などの理解を深め正しい泳法をイメージする。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではICT機器の活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
連絡はTeamsを利用します。 注意事項及び詳細に関しては、提示及びオリエンテーションで説明。 大学近郊のプールを利用し、集中授業として実施予定。 怪我等で見学をする場合は診断書の提出をしてもらう場合もある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4泳法の理解	4泳法を良く理解できた	4泳法をほぼ理解できた	4泳法をある程度理解できた	4泳法を理解できた	4泳法を理解できなかった
4泳法の実践	4泳法の実践が良くできた	4泳法の実践がほぼできた	4泳法の実践がある程度できた	4泳法の実践ができた	4泳法の実践ができなかった
4泳法の指導	4泳法の指導が良くできた	4泳法の指導がほぼできた	4泳法の指導がある程度できた	4泳法の指導ができた	4泳法の指導ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実技		必修・選択	必修
科目名称	水泳 (科目ナンバリング：HSS522072)					
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）・篠原 諒介（ 経営学科・専任講師）		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：		戸佐 晃一）		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	2024	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	水泳の基本Ⅰ 水の特性、水中運動処方（講義）	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
3	水泳の基本Ⅱ 水泳の基本泳法について、安全管理（講義）	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
4	水泳の基本Ⅲ 水慣れ・水中運動・クラス分け	水泳の基本を確認しておく（45分）	水泳の基本を理解しておく（45分）
5	クロールの基本 （バタ足・手の掻き・面かぶりクロール）	クロールの基本を確認しておく（45分）	クロールの基本を理解しておく（45分）
6	クロールの完成 （正しい泳法・呼吸法の習得・長い距離を泳ぐ）	クロールを確認しておく（45分）	クロールを理解しておく（45分）
7	平泳ぎの基本 （手の掻き・キック）	平泳ぎの基本を確認しておく（45分）	平泳ぎの基本を理解しておく（45分）
8	平泳ぎの完成 （正しい泳法の習得・長い距離を泳ぐ）	平泳ぎを確認しておく（45分）	平泳ぎを理解しておく（45分）
9	背泳ぎの基本 （背面キック・手の掻き）	背泳ぎの基本確認しておく（45分）	背泳ぎの基本理解しておく（45分）
10	背泳ぎの完成 （正しい泳法の習得）	背泳ぎの確認しておく（45分）	背泳ぎを理解しておく（45分）
11	バタフライの基本 （手の掻き・キック）	バタフライの基本確認しておく（45分）	バタフライの基本を理解しておく（45分）
12	バタフライの完成 （正しい泳法の習得）	バタフライを確認しておく（45分）	バタフライを理解しておく（45分）
13	横泳ぎ・立泳ぎ	横泳ぎ・立泳ぎを確認しておく（45分）	横泳ぎ・立泳ぎを理解しておく（45分）
14	スタート・ターン	スタート・ターンを確認しておく（45分）	スタート・ターンを理解しておく（45分）
15	クロール・平泳ぎ実技試験 授業改善アンケートの実施	クロール・平泳ぎの正しい泳法を確認しておく（45分）	クロール・平泳ぎの正しい泳法を理解しておく（45分）
16	まとめ フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	授業内容全体を振り返り確認しておく（45分）	授業内容を理解しておく（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122030)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)・大島 康雄 (社会		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること					

概要

履修目標							
ソーシャルワーク各領域（高齢、障がい、児童、地域・行政）の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他職種・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要な資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なジェネリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成する。							
授業全体の内容と概要							
2年次において「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生（面接を行う）に対し、「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、一体のものと理解すべきである。「相談援助実習指導Ⅲ」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導Ⅳ」は事後学習と考える。							
授業の方法							
高齢、障がい、児童、地域・行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
各領域実習担当教員の指示を厳守すること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なSWの視点と連携について説明できる。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なSWの視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
事前学習における実習領域の関係法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できる。	実習領域の関連法規の特徴を説明できる。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できる。	実習領域の関連法規を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習領域における具体的ソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法（面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携）が説明できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できる。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者と具体的にかかわる技法を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122030)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・大島 康雄(社会		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケートの結果反映。身につく力・・・各自が希望した実践実習領域に関する知識。	2年時の講義の復習（90分）	配布プリントの読み込み（90分）
2	事前学習（利用者理解②）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
3	事前学習（利用者理解③）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
4	事前学習（関連法規・制度理解①）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
5	事前学習（関連法規・制度理解②）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
6	事前学習（関連法規・制度理解③）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
7	事前学習（ソーシャルワーク技法①）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
8	事前学習（ソーシャルワーク技法②）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
9	事前学習（ソーシャルワーク技法③）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
10	事前学習（他職種・他機関連携①）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
11	事前学習（他職種・他機関連携②）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
12	事前学習（他職種・他機関連携③）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
13	事前学習（地域連携①）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
14	事前学習（地域連携②）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
15	事前学習（地域連携③）	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）
16	実習計画作成と修正 身につく力の検証・・・希望実習領域人と施設に関するレポート添削、議評・評価・	前回プリントの読み込み（90分）	前回プリントの読み込み（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅰ（バスケットボール） (科目ナンバリング：HSS522073)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1（単位認定責任者：天野 雅斗）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した 教育方法について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるよう指導能力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目。							
到達目標							
バスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルール、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を説明できる。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。							
授業全体の内容と概要							
バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。							
授業の方法							
基礎的練習およびゲーム等の中で、履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実技科目のため、運動できる服装および履内履きを用意すること。 その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。 授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。	
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける、役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を發揮することができなかった。	
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にすることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	球技Ⅰ(バスケットボール) (科目ナンバリング：HSS522073)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した 教育方法について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) ガイダンス、レクリエーション	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解 (45分)
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	基本技術① ドリブルシュート	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	基本技術② ジャンプシュート	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	基本技術③ パス・コンビネーション	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	オフェンス① 1対1での攻め方	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	オフェンス② アウトナンバー	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	ディフェンス① マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	ディフェンス② ゾーンディフェンス	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	戦術練習① ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	戦術練習② オールコートでの5対5	基本戦術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認 (45分)	試験課題の確認 (45分)
15	実技試験	試験課題の確認 (45分)	試験の出来の 振り返り (45分)
16	まとめ 授業の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業全体の振り返り (45分)	身に付いた事の確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ』	大修館書店編集部	大修館	2024		
2	『ステップアップ中学体育2024』	大修館書店編集部	大修館	2021		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：SWS123031)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・大島 康雄(社会		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること					

概要

履修目標

各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り（利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携）を行うことによって、実習中の行為がSW実践の具体的技法とどのような関連するか、SW諸理論とどのように関連するか、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

「相談援助実習Ⅲ・Ⅳ」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、1対のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導Ⅲ」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導Ⅳ」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また、「相談援助実習指導Ⅳ」の最終講義において「相談援助実習」の報告（各領域1名程度）、「相談援助実習指導Ⅱ」（2年生向け）での報告会（各領域から1名程度）を行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う（方法については担当教員に一任されるが、最低限シメの配布は行うこと）。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各領域担当教員の指示に従うこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関りについて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明でき、且つ、具体的な技法との関連を説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通しての自己認知ができる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の他職種・他機関連携をSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なSW理論に昇華できる。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・他機関と連携したかを説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の地域連携について説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務をSW理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できる。	実習中の地域連携について説明でき、どのような機関と連携し、どのようなSW実践を行ったかを説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：SWS123031)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・大島 康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：大島 康雄)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 事後学習(振り返り①) 身につく力・・・ソーシャルワーク実習において体得した実践技法。	実習の振り返り (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
2	事後学習(振り返り②)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
3	事後学習(振り返り③)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
4	事後学習(自己覚知①)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
5	事後学習(自己覚知②)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
6	事後学習(自己覚知③)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
7	事後学習(他職種・他機関連携①)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
8	事後学習(他職種・他機関連携②)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
9	事後学習(他職種・他機関連携③)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
10	事後学習(地域連携①)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
11	事後学習(地域連携②)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
12	事後学習(地域連携③)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
13	事後学習(ソーシャルワーク実践理論①)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
14	事後学習(ソーシャルワーク実践理論②)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
15	事後学習(ソーシャルワーク実践理論③)	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)
16	身につく力の検証・・・グループ内ディスカッション、及び全体発表会の実施。	前回プリントの読み込み (90分)	配布プリントの熟読 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222031)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：山腰 雅樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。					

概要

履修目標							
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を得得する為の科目である。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、基本的な知識・技術を得得する。							
授業全体の内容と概要							
制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS等の基礎的な知識・技術について習得する。							
授業の方法							
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。 また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
Adobe CCライセンス必須。 欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。 コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインⅠ (科目ナンバリング：DES222031)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：山腰 雅樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 制作ツールのインストール・設定 HTMLの基礎知識	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	HTML基礎演習	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	CSSの基礎知識 CSS基礎演習①	HTMLの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	CSS基礎演習②	CSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	マークアップ基礎演習①	HTMLとCSSの演習内容について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	マークアップ基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	デザインツールの基礎知識① ※Illustrator、XD、Figma	インターネット上で公開されているサイトを確認し、 代表的なレイアウトイメージを把握しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	デザインツールの基礎知識② ※Illustrator、XD、Figma	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	ページ制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
12	ページ制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
13	課題演習 (サイト制作演習) ①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
14	課題演習 (サイト制作演習) ②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
15	課題演習 (サイト制作演習) ③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
16	課題演習 (サイト制作演習) ④ フィードバック 授業改善アンケートの実施	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	演習内容を振り返り知識を定着させること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅱ(バレーボール) (科目ナンバリング: HSS522074)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した 教育方法について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・嗜好性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるよう指導能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目。

到達目標

バレーボールの基礎技術を履修者全員が習得する。競技の特性やルール、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を説明できる。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項および詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につく。ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につく。練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身に付き、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最過限度のレベルで身につけている。	バレーボールの技術が身につかなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言ができる場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける、役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を發揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	球技Ⅱ (バレーボール) (科目ナンバリング：HSS522074)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者：天野 雅斗)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した 教育方法について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)、ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解 (45分)
2	バレーボールの構造把握、スキルチェック	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
3	基本技術① オーバーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
4	基本技術② アンダーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
5	基本技術③ ボールヒット (サーブ) の習得・指導	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
6	基本技術④ スパイクの習得・指導	基本技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
7	応用技術① 実践的な場面におけるオーバーハンド パスの活用について	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
8	応用技術② アンダーハンドパスにおけるレセプシ ョン・ディグの実際	習得した技術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
9	応用技術③ ブロックの習得・指導、ディフェンス におけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
10	バレーボールにおける複合的練習① オフェンス (コ ンビネーション攻撃)	基本戦術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
11	バレーボールにおける複合的練習② ディフェンス (トータルディフェンス)	基本戦術の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み方	ゲーム展開の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認 (45分)	学習内容の復習 (45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認 (45分)	試験課題の確認 (45分)
15	実技試験	試験課題の確認 (45分)	試験の出来の振り返り (45分)
16	まとめ 授業の講評をし、フィードバックする 科目を修了して「身に付く力」の検証	授業全体の振り返り (45分)	身についたことの確認 (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ』	大修館書店編集部	大修館書店	2024		
2	『ステップアップ中学体育2024』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習Ⅰ (科目ナンバリング：SWS124032)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)・大島 康雄 (社会		研究室等所在		1号館2階	
単位数	6 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
実践現場における23日180時間以上の職場・職種・ソーシャルワーク実習を通して、選択した実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについての理解を深め、さらに、他職種・他機関連携、地域連携などを通してジェネリックソーシャルワークに対する理解を深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
・価値、職業倫理とワーカーの行動・態度の関係の理解、並びに価値の実現に関して具体的に理解する。 ・利用者自身の抱えるニーズを様々な社会資源との関係で分析・評価し援助計画を立てる能力を習得する。 ・援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得する。 ・利用者とその関係者の問題解決能力を高め、利用者と社会環境の調整を図る技術を習得する。 ・地域社会、当該施設・機関の特性を評価し、その組織化を促進する技術を習得する。 ・当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを開発し、活用するための技術を習得する。 ・恣意的な観察及び記録作成ができる。 ・自己理解を深め自己の意識・感情のコントロールができる。その領域の特殊技法等を理解する。							
授業全体の内容と概要							
「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」と「ソーシャルワーク実習」は3つの授業に分かれているが、一対のものと理解すべきである。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」は事前学習、「ソーシャルワーク実習」は実践現場実習、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」は事後学習と考える。したがって「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」および「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」の履修が必要不可欠である。「ソーシャルワーク実習」では、ソーシャルワーク理解を基本として、特に「ソーシャルワーク指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の事前学習において、しっかりと現場実習の目的や課題を持ち、その達成に向けて社会福祉実践現場（施設・機関）で23日間（180時間）以上にわたる現場実習を行うこととなる。 「SDG1. 貧困をなくそう」「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」「SDG5. ジェンダー平等を実現しよう」「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」「SDG16. 平和と公正をすべての人に」「SDG17. パートナリーシップで目標を達成しよう」の関連科目。							
授業の方法							
各領域の担当教員の指導、および配属された実習先の指導者の指示に従うこと。実習期間中は担当教員が訪問指導によって、質疑応答や相談に応じる。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
事前学習にあたる「相談援助実習指導Ⅲ」の履修態度によっては、実習配属がなされない場合があるので各領域担当教員の指導を厳守すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
23日間180時間以上の実習日程をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	
相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ、そのかわり方をSW理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	
相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明でき、ジェネリックソーシャルワークに消化できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習Ⅰ (科目ナンバリング：SWS124032)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・大島 康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	6 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	職場実習1 シラバスの説明 身につく力の説明・・・ソーシャルワーク現場における実践力。	オリエンテーション時に配布されたプリントの熟読（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
2	職場実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
3	職場実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
4	職場実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
5	職場実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
6	職種実習1	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
7	職種実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
8	職種実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
9	職種実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
10	職種実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
11	ソーシャルワーク実習1	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
12	ソーシャルワーク実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
13	ソーシャルワーク実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
14	ソーシャルワーク実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
15	ソーシャルワーク実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
16	実習全体の総括 身につく力の検証・・・現場におけるスーパービジョン及びケース研究発表会	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインII (科目ナンバリング：DES222032)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：山腰 雅樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、制作現場に即した実践的な知識・技術を習得する。							
授業全体の内容と概要							
制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得する。							
授業の方法							
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。 また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
Adobe CCライセンス必須。 欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。 コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 3年			
開講時期	4 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインII (科目ナンバリング：DES222032)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：山腰 雅樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 WEB制作にまつわる環境の基礎知識 サーバ・ドメインの基礎知識	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	jQueryの基礎知識 jQuery基礎演習①	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	jQuery基礎演習②	jQueryの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	アニメーションの基礎知識 アニメーション演習①	HTMLとCSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	アニメーション演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	レスポンシブWEBデザインの基礎知識 メディアクエリ基礎演習	CSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	SASSの基礎知識 SASS基礎演習	CSSとメディアクエリの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	ページ制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	ページ制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
12	課題演習 (サイト制作演習) ①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
13	課題演習 (サイト制作演習) ②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
14	課題演習 (サイト制作演習) ③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
15	課題演習 (サイト制作演習) ④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
16	課題演習 (サイト制作演習) ⑤ フィードバック 授業改善アンケートの実施	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	演習内容を振り返り知識を定着させること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技III(バドミントン) (科目ナンバリング：HSS522075)				
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標							
共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。							
授業全体の内容と概要							
バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。							
授業の方法							
バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫し進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	1 0 %	2 0 %	6 0 %	1 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術のある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技III(バドミントン) (科目ナンバリング：HSS522075)				
授業担当者 (所属・職名)	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1（単位認定責任者：戸佐 晃一）		CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	2024	9784469365638	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（科目を修了して「身につく力」の 説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	基本技術の理解と実践① グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
3	基本技術の理解と実践② アンダーハンド・プッシュ ング、ハイクリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
4	基本技術の理解と実践③ ドリブングリアー、ドロ ップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
5	基本技術の理解と実践④ スマッシュ・ヘアピン・ サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
8	戦術に関する理解と実践① シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
9	戦術に関する理解と実践② ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（45分）	バドミントンのルールを理解しておく（45分）
11	ゲーム シングルス①	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ゲーム シングルス②	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ゲーム シングルス③	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ゲーム ダブルス①	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ゲーム ダブルス② 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	実技試験 フィードバック 科目を修了して「身につく力」の検証	実技試験の準備をしておく（45分）	試験内容を練習しておく（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS124033)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福祉学科・准教授)・大島 康雄 (社会		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実勢についての指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
実践現場における8日間60時間時間以上の職場・職種・ソーシャルワーク実習を通して、選択した実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについての理解を深め、さらに、他職種・他機関連携、地域連携などを通してジェネリックソーシャルワークに対する理解を深める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科の、DP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
・価値、職業倫理とワーカーの行動・態度の関係の理解、並びに価値の実現に関して具体的に理解する。 ・利用者自身の抱えるニーズを様々な社会資源との関係で分析・評価し援助計画を立てる能力を習得する。 ・援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得する。 ・利用者とその関係者の問題解決能力を高め、利用者と社会環境の調整を図る技術を習得する。 ・地域社会、当該施設・機関の特性を評価し、その組織化を促進する技術を習得する。 ・当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを開発し、活用するための技術を習得する。 ・恣意的な観察及び記録作成ができる。 ・自己理解を深め自己の意識・感情のコントロールができる。その領域の特殊技法等を理解する。							
授業全体の内容と概要							
本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を終えた学生のみが、残り60時間の実習を学習するものである。したがって「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を何らかの理由で実施できなかった、あるいは途中で諦めた学生は履修できない。併せて「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ・Ⅳ」の単位を取得できなかった学生も履修はできない。 「SDG1. 貧困をなくそう」「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」「SDG5. ジェンダー平等を実現しよう」「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」「SDG16. 平和と公正をすべての人に」「SDG17. パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。							
授業の方法							
各領域の担当教員の指導、および配属された実習先の指導者の指示に従うこと。実習期間中は担当教員が訪問指導によって、質疑応答や相談に応じる。場合によってはICTを活用した実習指導もありうる。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
事前学習にあたる「相談援助実習指導Ⅲ」の履修態度によっては、実習配属がなされない場合があるので各領域担当教員の指導を厳守すること。 不測の事態がある場合、オンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
8日間60時間以上の実習日程をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ、そのかわり方をSW理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明でき、ジェネリックソーシャルワークに消化できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS124033)					
授業担当者 (所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・大島 康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	現場実習1 身につく力の説明・・・ソーシャルワーク現場における実践力	オリエンテーション時に配布されたプリントの熟読（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
2	職場実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
3	職場実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
4	職場実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
5	職場実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
6	職種実習1	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
7	職種実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
8	職種実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
9	職種実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
10	職種実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
11	ソーシャルワーク実習1	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
12	ソーシャルワーク実習2	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
13	ソーシャルワーク実習3	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
14	ソーシャルワーク実習4	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
15	ソーシャルワーク実習5	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）
16	実習全体の総括 身につく力の検証・・・実習におけるスーパービジョン及びケース研究発表会	前回プリントの読み込み（90分）	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	1		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221141)				
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)			CAP制	☐
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
1 1 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 (先述のように正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻2回を1回欠席とみなす。)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができています。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	図学 (科目ナンバリング：AEA221141)					
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者：赤木 良子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験 一級建築士、インテリアコーディネーター資格保有			
オフィスアワー	Teamsにて事前連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス：シラバスの説明、「授業改善アンケート」結果反映の説明、授業の進め方、科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	課題の復習 (90分)
2	自己紹介作品	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
3	描画演習	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
4	課題1 (装飾)	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
5	課題1 (装飾)	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
6	課題2 (装飾)	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
7	課題2 (装飾)	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
8	中間講評によるフィードバック	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
9	課題3 立体表現1	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
10	課題3 立体表現1	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
11	課題4 立体表現2	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
12	課題4 立体表現2	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
13	課題5 立体表現3	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
14	課題5 立体表現3	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
15	課題5 立体表現3	課題の予習 (90分)	課題の復習 (90分)
16	総評によるフィードバック・授業評価アンケート科目を修了して「身に付く力」についての検証	未提出課題等の仕上 (90分)	全体の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築図法 立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	イノベーションマネジメント論 (科目ナンバリング：MAN423036, MAN523039)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：阿部 裕樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	イノベーションとは何か？	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ドラッカーの「7つの機会」	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	知識創造理論（SECIモデル）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	破壊的イノベーション（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	破壊的イノベーション（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	オープンイノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	イノベーション実現のための戦略（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	イノベーション実現のための戦略（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	イノベーションを起こすマネジメント（1）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	イノベーションを起こすマネジメント（2）	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 授業に係る諸評・施設によるフィードバック	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（90分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅳ(ソフトボール) (科目ナンバリング：HSS522076)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在		1号館3階	
単位数	1（単位認定責任者：米野 宏）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	本授業の経験年数は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通じてルールや審判法を習得する。							
授業全体の内容と概要							
前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。							
授業の方法							
ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。 授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施する。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努める。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	球技Ⅳ(ソフトボール) (科目ナンバリング：HSS522076)					
授業担当者 (所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：米野 宏)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	本授業の実験年数は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読んで確認する。(45分)	資料は保管し、ノートで確認する。(45分)
2	基本技術 (送球・捕球)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
3	基本技術 (ゴロ捕球・飛球の捕球)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
4	基本技術 (打撃)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
5	応用技術 (攻撃・守備・走塁)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
6	戦術に関する理解と実践 (攻撃、走塁)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
7	戦術に関する理解と実践 (守備)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
8	審判法とゲームの進行 (実技テスト兼ねる)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
9	審判法とゲームの進行 (実技テスト兼ねる)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
10	審判法とゲームの進行 (実技テスト兼ねる)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
11	審判法とゲームの進行 (実技テスト兼ねる)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫 (10人制のゲーム)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫 (10人制のゲーム)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫 (6人制のゲーム)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫 (6人制のゲーム)	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	技術の未熟なところは個人的に練習する。(45分)
16	ふりかえり、達成度の子エック 授業改善アンケートの実施 最終回において講評をし、フィードバックする	シラバスを確認し、準備をする。(45分)	学んだことを再確認する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	造形論 (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者： 浩而 魅諭)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	細密画家、復元画家 (パレオアーティスト)、野生動物画家 (ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験と実績を活かし、実践に即した授業を展開する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、授業の進め方、単位認定について、シラバスの説明、準備学習・事後学習について、当該科目を修了して身につく力について	シラバスの確認(90分)	自分の最も好きな形選択(90分)
2	造形とは 形とは 「自分の最も好きな形」の発表	自分の最も好きな形、なぜ惹かれるのかどこに惹かれるのかを考える(90分)	授業内容継続(90分)
3	造形とは 形とは ディスカッション	授業内容継続 (90分)	授業内容継続(90分)
4	レオナルド・ダ・ヴィンチ1	授業内容継続 (90分)	レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる(90分)
5	レオナルド・ダ・ヴィンチ2	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)
6	レオナルド・ダ・ヴィンチ3	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)
7	レオナルド・ダ・ヴィンチ4	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)	授業内容継続 レオナルド・ダ・ヴィンチについて調べてまとめる (90分)
8	レオナルド・ダ・ヴィンチ5 レポート作成	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
9	アントニ・ガウディ レポート作成	授業内容継続 アントニ・ガウディにつて調べてまとめる (90分)	授業内容継続 アントニ・ガウディにつて調べてまとめる (90分)
10	エミール・ガレ レポート作成	授業内容継続 エミール・ガレについて調べてまとめる (90分)	授業内容継続 エミール・ガレについて調べてまとめる (90分)
11	剣持勇 レポート作成	授業内容継続 剣持勇について調べてまとめる (90分)	授業内容継続 剣持勇について調べてまとめる (90分)
12	エスキース制作	造形について蓄積した知識を自らの作品に反映させる方法を考える (90分)	授業内容継続 (90分)
13	エスキース制作	授業内容継続 (90分)	授業内容継続 (90分)
14	エスキース完成 プレゼンテーション資料作り	授業内容継続 (90分)	プレゼンテーションの準備 (90分)
15	講評会 (フィードバック) プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備 (90分)	プレゼンテーションの準備 (90分)
16	講評会 (フィードバック) プレゼンテーション 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備 (90分)	学んだことを振り返る (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅳ (科目ナンバリング: SWS123041)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者: 西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎と なる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。							
授業全体の内容と概要							
①ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。 ②ソーシャルアクションについて学ぶ。 ③各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目							
授業の方法							
①授業形態は講義形式で行う。 ②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 ③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。 ⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①教科書は必ず持参すること。 ②必要な資料等は適宜配布する。 ③20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 ④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅳ (科目ナンバリング：SWS123041)					
授業担当者 (所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法〔精神専門〕』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
2	コミュニティワークについて①（精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
3	コミュニティワークについて②（地域における精神保健福祉の向上）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
4	ソーシャルアクションについて①（基本的視点・体制整備）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
5	ソーシャルアクションについて②（政策提言・政策展開）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
6	多職種連携について①（意義・目的・留意点など）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
7	多職種連携について②（チームビルディング・チーム形態と特徴）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
8	多職種連携について③（連携における精神保健福祉士の役割）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
9	ソーシャルアドミニストレーションについて①（概念・意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
10	ソーシャルアドミニストレーションについて②（組織と精神保健福祉士の関係性）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
11	ソーシャルアドミニストレーションについて③（実践モデル・組織運営管理の実践）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
12	実践展開について①（学校・教育分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
13	実践展開について②（産業分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
14	実践展開について③（司法分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
15	実践展開について④（災害・その他）	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと（90分）
16	試験（60分の試験終了後、30分でフィードバックを行い、科目を修了して『身に付く力』についての検証）	試験のための学習（90分）	試験の振り返りを行うこと（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	コンテンツデザインⅠ (科目ナンバリング：DES223050)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：上坂 恒章)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
学生がコンピュータを用いwebデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし、実際のコンテンツ制作の基礎、応用まで可能なスキルを修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
コンセプト設定、情報の構造化、ページデザイン、インターフェース、画像処理手法等の講義とHTML、CSSのコーディングを学び、その成果を作品として制作し発表する。							
授業の方法							
授業では、テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
「デジタルデザインⅠ、Ⅱ」の知識が必要なので、履修済みであること。 コンピュータを利用するため、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 WEBデザイナー検定（CG-ARTS）の積極的な受検を推奨する。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。 検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。	
Webコーディングの理解	HTML5やCSS3を完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解し、検定に合格できるレベルに達している。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。	
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおり、Webサイトを制作することができた。	Webサイトを制作することができた。	Webサイトを概ね制作することができた。	Webサイトを最低限制作することができた。	Webサイトを制作することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	コンテンツデザインⅠ (科目ナンバリング：DES223050)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：上坂 恒章)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門Webデザイン 第四版』	画像情報教育振興協会		2022	9784903474663	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明, コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	情報の構造化とアクセサルート、画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	Webページを実現する技術の基礎 (HTMLの基本構成)	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	Webページを実現する技術の基礎 (画像表示、リンク処理)	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	Webページを実現する技術の基礎 (表組処理)	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	Webページを実現する技術の基礎 (文字の装飾)	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	オリジナルWeb制作 1	レイアウトのラフを完成させること (90分)	Web制作 (90分)
12	オリジナルWeb制作 2	Web制作 (90分)	Web制作 (90分)
13	オリジナルWeb制作 3	Web制作 (90分)	Web制作 (90分)
14	オリジナルWeb制作 4	Web制作 (90分)	Web制作 (90分)
15	オリジナルWeb制作 5 プレゼンテーション	プレゼン用レジユメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施 科目を終了して「身に付く力」についての検証	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	球技Ⅴ(ラグビー) (科目ナンバリング：HSS522077)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。							
授業全体の内容と概要							
ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。 「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィードバックしながら技術に反映できるように工夫し進めていく。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
服装は実技にふさわしい物を着用して下さい。グラウンドでの実技はアップシューズを使用します。 雨又は雪の場合は体育館で実技を行います。その際に屋内運動靴を必ず用意する。 ※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	30%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動技能（基本技能）	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。
競技知識（ルールの理解）	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。
社会的行動（挑戦する姿勢）	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択	
科目名称	球技Ⅴ(ラグビー) (科目ナンバリング：HSS522077)					
授業担当者 (所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：佐藤 和裕)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の	事前にシラバスを読んで確認しておく (45分)	ガイダンスの内容を理解しておく (45分)
2	基本技術の理解と習得 (ボールコントロール・パス)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
3	基本技術の理解と習得 (ボールコントロール・キック)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
4	本技術の理解と習得 (タックル)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
5	基本技術の理解と習得 (スクラム)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
6	基本技術の理解と習得 (ラインアウト)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
7	基本技術の理解と習得 (モール・ラック)	ラグビーの競技特性を確認しておく (45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく (45分)
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく (45分)	ラグビーの応用技術を理解しておく (45分)
9	戦術に関する理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃について 確認しておく (45分)	ラグビーの攻撃について 理解しておく (45分)
10	術に関する理解と実践 守備編	ラグビーの守備について 確認しておく (45分)	ラグビーの守備について 理解しておく (45分)
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて 確認しておく (45分)	ラグビーのルールについて 理解しておく (45分)
12	試合形式による戦術の理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく (45分)	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく (45分)
13	試合形式による戦術の理解と実践 守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく (45分)	ラグビーの守備の戦術について理解しておく (45分)
14	試合形式 (少人数でのゲーム)	少人数でのゲームについて確認しておく (45分)	少人数でのゲームについて理解しておく (45分)
15	試合形式 (ゲーム)	ゲーム運営について確認しておく (45分)	ゲーム運営について理解しておく (45分)
16	総合評価、到達度確認 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ラグビーの特性やルールについて確認しておく (45分)	指導における留意点を復習し理解しておく (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林 雅人	実業之日本社	2009	4408452548	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング：)				
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 上坂 恒章)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標							
コンピュータを用いてデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
Adobe社Illustratorを使用し、学生が作品制作のスキルを修得できる。							
授業全体の内容と概要							
基本機能からレイヤー、グラデーション、テキスト処理など、演習を通して学ぶ。							
授業の方法							
授業では、各ステップに進った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれを解決しながら学習する。提出された課題をプレゼンテーションを通して評価しフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
デザイン学科デザイン専攻は推奨し、アート専攻のみ選択履修可能である。 積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。	
資格指定科目 教職課程（美術）選択科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
PCの基本的操作スキル	パーソナルコンピュータ(PC)を、十分適切に使うことができ、更に学習を深めることができる。	パーソナルコンピュータ(PC)を、適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を概ね使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を最低限使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を使うことができなかった。	
ソフトウェアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを十分使うことができ、応用することができる。	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができた。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができた。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができた。	学習したコンピュータソフトを使うことができなかった。	
学習したソフトを利用した作品の制作と表現	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を最低限制作でき、他者に伝えるための最低限の作品となっている。	自分が表現したい作品を作できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 上坂 恒章)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『授業時に指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 PC (Macintosh) の基本操作及画面の基本 授業改善アンケート結果反映の説明	PCについての語句を調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	アートボード及び図形、線の基本	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	ペンツールの修得	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	色彩基本、イラストレータの基本	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	パスファインダ、ブレンドについて	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	テキスト処理①	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	テキスト処理②	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	トリムマーク、紙面のデザイン	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	マップの作成	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	グラデーションの作成	下絵を完成させること (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
11	デジタル作品の制作1	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
12	デジタル作品の制作2	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
13	デジタル作品の制作3	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
14	デジタル作品の制作4	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品返却 講評 まとめ 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Illustrator CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング：SWS123042)					
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在		未定	
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院にて勤務。精神障害リハビリテーションを実施した経験をもとに講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

リハビリテーションの理念と歴史・定義、精神障害リハビリテーションについて学び、ソーシャルワークとの関係について理解する。また、リカバリーの概念を基盤とした精神障害リハビリテーションについてその内容を理解する。さらに、ピアサポーター、ケアラー支援、依存症治療についての理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係・役割を理解する。

②リハビリテーションの歴史と定義、精神障害リハビリテーションの理念と特性について理解する。

③医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容について理解する。

④リハビリテーションに用いられる手法について理解する。

⑤ピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援について理解する。

授業全体の内容と概要

①精神障害リハビリテーションが医学的な回復にとどまらず、一人の人として尊厳のある社会生活を送ることを保障するものであることを学ぶ。

②精神障害リハビリテーションの歴史と現状、精神障害リハビリテーションプログラムの内容について学ぶ。

「SDGs8.働きがいも経済成長」「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」「SDGs8.働きがいも経済成長も」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。

②毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。

③第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。

④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。

⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。

②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。

③ロールプレイを実施するときには各役割を真剣に演じ、それぞれの気持ちの理解に努めるよう努力する。

修学サポート（合理的配慮）
・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１６回目に実施する定期試験（９０点）の結果を総合して評価する。					

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係・役割を理解する。	関係するキーワードを用いてについて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について、具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおむね説明できた。	精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割に理解が不十分だった。
②リハビリテーションの歴史と定義、精神障害リハビリテーションの理念と特性について理解する。	関係するキーワードを用いてリハビリテーションと精神障害リハビリテーションについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いてリハビリテーションと精神障害リハビリテーションについておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することによりリハビリテーションと精神障害リハビリテーションについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することによりリハビリテーションと精神障害リハビリテーションについておおむね説明できた。	リハビリテーションと精神障害リハビリテーションに理解が不十分だった。
③医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容について理解する。	関係するキーワードを用いて医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容についておおむね説明できた。	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの種類とその内容に理解が不十分だった。
④リハビリテーションに用いられる手法について理解する。	関連するキーワードを用いてリハビリテーションに用いられる手法について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いてリハビリテーションに用いられる手法についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することによりリハビリテーションに用いられる手法について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することによりリハビリテーションに用いられる手法についておおむね説明できた。	リハビリテーションに用いられる手法についてキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤ピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援について理解する。	関連するキーワードを用いてピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援について具体的に説明できた。	関連するキーワードを用いてピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援についておおむね具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することによりピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援について具体的に説明できた。	関連するキーワードを提示することによりピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援についておおむね説明できた。	ピアサポート、ケアラー支援、依存症治療と生活支援に理解が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング：SWS123042)				
授業担当者 (所属・職名)	近藤 亜弥 (社会福祉学科・講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者：近藤 亜弥)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科病院にて勤務。精神障害リハビリテーションを実施した経験をもとに講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882542	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神障害リハビリテーションソーシャルワーク① (精神障害リハビリテーションとソーシャル)	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク② (精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則① (精神障害リハビリテーションの理念と定義)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則② (医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則③ (精神障害リハビリテーションの基本原則、地域およびリカハリー概念を基盤としたリハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神障害リハビリテーションの構成および展開① (精神障害リハビリテーションの対象)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神障害リハビリテーションの構成および展開② (チームアプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神障害リハビリテーションの構成および展開③ (精神障害リハビリテーションのプロセス)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関① (医学的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関② (職業的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③ (社会的リハビリテーションプログラム、教育的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④ (家族支援プログラム、リハビリテーションプログラムに用いられるその他の手法・プログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験 (60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施 授業関連のフィードバック	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	コンテンツデザインII (科目ナンバリング：DES223051)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：上坂 恒章)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
コンピュータプログラムを用いメディアアート制作の基礎の学び、表現手法を修得する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。							
到達目標							
メディアアート作品を創作するための基礎技術を修得することができる。							
授業全体の内容と概要							
メディアアートの現状を紹介し、実施にプログラム（Processing）を学び、各自のメディアアート作品を創作する。							
授業の方法							
授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
「デジタルデザインⅠ、Ⅱ」の知識が必要なので、履修済みであること。 遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 事前、事後学習を積極的に行うこと。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
プログラムのコーディングの理解	学んだコーディングを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	学んだコーディングを理解していた。	学んだコーディングを概ね理解していた。	学んだコーディングを最低限理解していた。	学んだコーディングを理解できなかった。	
プログラムの操作スキル	学習したプログラムを適切に使うことができ、応用することができた。	学習したプログラムを適切に使うことができた。	学習したプログラムを概ね使うことができた。	学習したプログラムを最低限使うことができた。	学習したプログラム使うことができなかった。	
メディアアート作品の制作	オリジナルのメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容を活用して、メディアアート作品を制作することができた。	学習した内容の知識でメディアアート作品を制作することができた。	非常に簡単なメディアアート作品を制作することができた。	メディアアート作品を制作することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	コンテンツデザインII (科目ナンバリング：DES223051)					
授業担当者 (所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：上坂 恒章)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『Processingをはじめよう 第2版』』	Casey Reas , Ben Fry	オライリー・ジャパン	2016	9784873117737	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション ーシラバスの説明 メディアアートとは	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	Processingの基礎	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	計算と変数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	繰り返しとランダムについて	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	条件分岐命令について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	データの読み込みと画像の取り扱い	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	変換について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	関数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	アニメーション	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	配列	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	オリジナルメディアアート作品の制作 1	作品の構想を完成させること (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
12	オリジナルメディアアート作品の制作 2	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
13	オリジナルメディアアート作品の制作 3	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
14	オリジナルメディアアート作品の制作 4	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施 科目を終了して「身に付く力」についての検証	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング：MAN422021, MAN522023)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：阿部 裕樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT（とりわけインターネット）の活用価値について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標

近年、ビジネスにおいてインターネットの活用は当たり前と言えるが、特にスマートフォンの普及によりビジネスモデルそのものが多様化しつつある。本講義では、企業がインターネットを活用することで、いかに生産性向上を図ることができるかを認識することができる。あわせて、現在、注目が集まっているDXの概念についても理解し身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

インターネットビジネスの多様性とその価値について理解し、安全かつ効果的な活用ができるための基礎知識を習得し、社会に出てから実践に役立つようなスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

本講義ではeビジネスの基本から理解し、ビッグデータ、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、RPA、キャッシュレス社会といった最新のトレンドの動向にも触れることでこれからのインターネットの活用価値と可能性について理解する。またソーシャルメディアの台頭により、情報発信・コミュニケーションを主目的としたインターネット利活用へのパラダイムシフトが急速に進行していることについても認識を深める。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
eビジネスについての理解	eビジネスで成果を上げている企業について経営戦略と関連付けて説明することができた	eビジネスで成果を上げている企業について成功要因について説明することができた	eビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた	eビジネスとは何かについて理解していた	eビジネスについて全く理解していなかった
eビジネスを実践している企業の調査	eビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた	eビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた	eビジネスを実践している企業を調査し結果をレポートとしてまとめることができた	eビジネスを実践している企業の調査をすることができた	eビジネスを実践している企業の調査ができなかった
eビジネスの現在と未来の可能性についての理解	eビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた	eビジネスの可能性について説明することができた	eビジネスの現在について説明することができた	eビジネスの現在について理解していた	eビジネスの現在について全く関心がなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	eビジネス論 (科目ナンバリング：MAN422021, MAN522023)					
授業担当者 (所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：阿部 裕樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	現役のITコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるIT（とりわけインターネット）の活用価値について実例を挙げて解説する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む） 本授業における概要とガイダンス	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	eビジネスとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	D X（デジタル・トランスフォーメーション）の動向	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	デジタルマーケティングの動向	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ソーシャルメディア概論	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	クラウドコンピューティング	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	I o T（モノのインターネット）とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	I o T（モノのインターネット）のビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	フィンテック（Fintech）とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	I T－B C Pについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	A I（人工知能）の基本とビジネスへの応用	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	生成A Iの価値と可能性	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	デジタルレイバー（R P A）について	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	eビジネスに必要な情報セキュリティ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施 （科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（90分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅵ(サッカー) (科目ナンバリング：HSS522078)					
授業担当者 (所属・職名)	木島 敦 (経営学科・非常勤講師) (経営学科・非常勤講師)		小助川 真木	研究室等所在	1号館1階スポーツ課	
単位数	1 (単位認定責任者：木島 敦)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。					

概要

履修目標							
基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るよう指導能力を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。							
授業全体の内容と概要							
サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。							
授業の方法							
実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決し（模擬授業を含む）、確認テスト等でより深くサッカー理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
①服装はトレーニングウェア等を着用。 ②グラウンドでの実技はアップシューズで行う。 ③雨天の場合は体育館で行う。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得・ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定の達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践・守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でおおむね理解できていた。	導入練習の中ではおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定的理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を超えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定の達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・3年			
開講時期	前期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	球技VI(サッカー) (科目ナンバリング：HSS522078)					
授業担当者 (所属・職名)	木島 敦(経営学科・非常勤講師)		小助川 真木	研究室等所在	1号館1階スポーツ課	
単位数	1 (単位認定責任者：		木島 敦)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスの確認（４５分）	シラバスの再確認（４５分）
2	基本技術の理解と習得 ①ドリブル・パス	試合映像確認（４５分）	ドリブル・パスの練習（４５分）
3	基本技術の理解と習得 ②シュート・ヘディング	試合映像の確認（４５分）	シュート・ヘディングの練習（４５分）
4	基本技術の理解と習得 ③ボールコントロール	試合映像の確認（４５分）	ボールコントロールの練習（４５分）
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習（４５分）	試合映像の確認（４５分）
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習（４５分）	応用技術の確認練習（４５分）
7	戦術に関する理解と実践 ①守備における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備における基本と原則の確認（４５分）
8	戦術に関する理解と実践 ②攻撃における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による攻撃における基本と原則の確認（４５分）
9	戦術に関する理解と実践 ③攻撃における戦術	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認（４５分）
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認（４５分）
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリーの確認（４５分）
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
15	試合	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
16	実技試験 フィードバック 授業改善アンケートの実施	基本・応用のトレーニング（４５分）	試合映像の確認（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者： 堤 美穂子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの实務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとに、社会や生活に役立つ広義 のデザインについて指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
かたちのデザインのみならず、身近なモノやコトに込められた人間の意図を読み解き、社会のために役立つ、または自身の生活に役立つ広義のデザインを理解する。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
デザインを人間の創意工夫として広く捉え、生活力・思考力・社会課題に向き合う力としてのデザインを獲得する。							
授業全体の内容と概要							
授業では、モノやコトにあるデザインの構造を分析しながら、目に見えない意図のデザインを発見する。次に、外的および内的な問題意識からはじまるデザインを学び、社会や自分の様々な問題にデザイン力をもって向き合うよう試みる。							
授業の方法							
最初、色や形・空間といったデザインに埋め込まれた「意図のデザイン」についてレクチャー。次に、かたちだけでなく、時間・記憶・コレクション・編集、コミュニケーション・ディレクション・言葉など、あらゆる「コト」に施されたデザイン性に気づき、広く社会でどのようにデザインが活用されているかについても見ていく。都度、ワークショップ形式で議論を行うことで、一人ひとりが身近な事象について思考をめぐらせ、知識化できるよう促す。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
自分および他者に敬意を払った態度で授業に臨む。他の学生とともに学ぶことへの責任を果たす。常に学ぶことを面白がろうと努力する。理解できなかったことがあれば、その場で積極的に質問する。 毎回授業後にリフレクションを提出（成績評価に反映）、次の授業までに教員からのフィードバックを読んでくる。 不測の事態が発生した際には、オンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を履えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「かたちのないデザイン」について理論を理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを自ら読み解くことができています。	理論を十分に理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを自ら読み解くことができた。	理論を十分に理解し、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを学友とともに読み解くことができた。	理論を理解したが、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くまでは至らなかった。	理論の理解が不十分で、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くまでには至らなかった。	理論の理解ができず、自分の身の回りのあらゆるモノやコトに埋め込まれた意図のデザインを読み解くことができなかった。
「生活力としてのデザイン」について理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見出し、デザインでアプローチすることによって、何らかの成果をあげられている。	理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見出し、デザインでアプローチすることによって、何らかの成果があった。	理論を十分に理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見出し、デザインでアプローチすることができた。	理論を理解でき、社会や自分の周辺または自らに問いを見出すことができた。	理論の理解が不十分で、社会や自分の周辺または自らに問いを見出すまでには至らなかった。	理論を理解できず、社会や自分の周辺または自らに問いを見出すこともできなかった。
ワークショップにおける気づき・他者の共感を得ようとする表現力が養われている。	自分が考えるかたちのないデザインについて積極的発言し、自らの気づきを他者と共有することで、共感を得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言し、自らの気づきを他者と共有することで、理解を得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言し、自らの気づきを得ることができた。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言したが、自らの気づきを得ることはできなかった。	自分が考えるかたちのないデザインについて発言することもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	堤 美穂子 (デザイン学科・特任講師)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者： 堤 美穂子)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	デザインの实務経験と研究実績のある教員が、その経験をもとに、社会や生活に役立つ広義 のデザインについて指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス～シラバスの説明 「モノに埋め込まれたデザインの意図を読み解く」 科目を修了して「身に付く力」についての説明	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる (45分)	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる (45分)
2	「モノに埋め込まれたデザインの意図を読み解く」 事例・グループ分け・ワークショップ・発表	シラバスを一読し、身近なモノのデザインをじっくり見ることを試みる (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
3	「かたちのないデザイン」① 関係のデザイン (企業ブランディングを例に)	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
4	「かたちのないデザイン」①身近な関係のデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
5	「かたちのないデザイン」② 時間・記憶のデザイン (伝統行事・イベント)	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
6	「かたちのないデザイン」②身近な時間・記憶のデザイン グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
7	「かたちのないデザイン」③ コレクター・ディレクター (蒐集・編集・制作指揮・人と人をつなぐ)	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
8	「かたちのないデザイン」③身近なコレクション・ディレクション グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
9	「かたちのないデザイン」④ 言葉 (コピーライティングを例に)	フィードバックの確認。身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
10	「かたちのないデザイン」④炎上する言葉 グループ分け・ワークショップ・発表	身近なモノ・コトのデザインをじっくり見て自分なりの考えを持つよう心がける (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
11	「社会課題とデザイン」 (コミュニティデザイン事例)	フィードバックの確認。自分が日頃感じている世の中に関する違和感を見つけてくる (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
12	「社会課題とデザイン」 身近な社会課題の発見とデザインの可能性 グループ分け・ワークショップ・発表	自分が日頃感じている世の中に関する違和感を見つけてくる (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
13	「自分の内面の課題とライフデザイン」 (ライフデザイン事例)	フィードバックの確認。自分がなりた未来をめざすとき課題となりそうな自分の特性について考えてくる (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
14	「自分の内面の課題とライフデザイン」 自分の内面的な課題とデザインの可能性 ベアリング・対して議論・発表	自分がなりた未来をめざすとき課題となりそうな自分の特性について考えてくる (45分)	リフレクションの記載。授業の内容を復習すること (45分)
15	「自分の内面の課題とライフデザイン」 個人発表(全2シート (シート1/自分の課題、シート2/課題に対してデザインで導き出した解)	フィードバックの確認。自分の課題について発表用の資料を準備する (45分)	授業の内容を復習すること (45分)
16	講評～フィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」についての検証	自分の課題について発表用の資料を準備する (45分)	リフレクションの記載。授業全体を振り返ること (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『芸術教育シリーズ18 時間のデザイン―経験に埋め込まれた構造を読み解く』	中西 紹一	幻冬舎	2014		
2	『芸術教育シリーズ20 編集学―つなげる思考・発見の技法』	紫牟田伸子	幻冬舎	2014		
3	『コミュニティデザイン』	山崎亮	学芸出版社	2011		
4	『文化とコミュニケーション 構造人類学入門』	エドモンド・リーチ	紀伊國屋書店	1981		
5	『幸福を見つめるコピー完全版』	岩崎俊一	東急エージェンシー	2018		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122044)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
1. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 2. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。 3. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 4. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。 5. 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

1. ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
2. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。

授業全体の内容と概要

- 1、2年次のソーシャルワーク演習で学んできた、自己覚知（自己理解と他者理解）、基本的なコミュニケーション技術（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）、非言語技術（表情、態度、身振り、位置取り等））基本的な面接技術（面接の構造化、場の設定（面接室、生活場面、自宅等）、ソールの活用（電話、e-mail等）、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見、インターク・アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、ソーシャルワークの記録（支援経過の把握と管理）、グループダイナミクスの活用（グループワークの構成（グループリーダー・コリーダー・グループメンバー）、グループワークの展開過程（準備期・開始期・作業期・終結期）、プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループレゼンテーション）について、精神保健福祉分野の教材を活用して復習する。
- 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

1. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。
2. 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
3. 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
4. Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 教科書は毎回持参すること。
2. 演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
3. 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
4. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート（50点）、平常点（50点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	5 0 %	0 %	0 %	5 0 %	0 %

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむね具体的に説明・記述が不十分だった。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる。
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122044)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2 0 2 1	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
2	自己覚知（自己理解と他者理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
3	基本的なコミュニケーション技術①（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
4	基本的なコミュニケーション技術②（非言語技術（表情、態度、身振り、位置取り等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
5	基本的な面接技術①（面接の構造化）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
6	基本的な面接技術②（場の設定（面接室、生活場面、自宅等））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
7	基本的な面接技術③（ツールの活用（電話、e-mail等））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
8	ソーシャルワークの展開過程①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
9	ソーシャルワークの展開過程②（事例検討：医療）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
10	ソーシャルワークの展開過程③（事例検討：地域）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
11	ソーシャルワークの記録①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
12	ソーシャルワークの記録②（実習日誌の作成）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
13	グループダイナミクスの活用①（グループワークの構成（グループリーダー・コリーダー・グループメンバー））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
14	グループダイナミクスの活用②（グループワークの展開過程（準備期・開始期・作業期・終結期））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
15	プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 授業全体の解説	15回分の内容を復習する。 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424016, MAN524018)				
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。

到達目標

本講義は、①事業計画の重要性を理解する。②企業（経営者）がとるべき戦略について理解する。③経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の3つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。科目を修了して、自分な事業を起こすために必要なことを身に付けることを期待する。

授業全体の内容と概要

本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法

本講義の前半は、パワーポイント及び配布資料で講義を進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらう。最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評價前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。
課題（創業計画）を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わった。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容をについて、身振り手振りを加え、制限時間内に相手に伝える発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞きやすい言葉で制限時間内に発表することができた。	ビジネスプランの内容を時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追従しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追従する内容であった。	創業計画書が完成していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424016, MAN524018)					
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者: 猪尾 紀幸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (講義全体の概要、講義のやり方、評価方法、科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反映の	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	起業・創業とはどういうことか? ビジネスプランキャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	創業・事業計画のから何かわかるのか? 何のために計画を策定するのか?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	企業理念、ビジョンとは? 端的な言葉が人を動かす	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	ビジネスモデルと業態 どんな働き方をするのか?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	マーケティングの基本的な考え方	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	マーケティング分析のフレームワーク (4P、3C分析など)	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	マーケティング分析のフレームワーク (SWOT分析、STP分析など)	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	ビジネスプラン作成【ビジョン・コンセプトの設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
11	ビジネスプラン作成【ターゲット・商品の設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
12	ビジネスプラン作成【営業戦略を考える一販路・販売手法ー】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
13	ビジネスプラン作成【運営組織・生産体制を考える】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
14	ビジネスプラン作成【損益計算書・資金繰り計画】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
15	プレゼンテーションの基本 伝えるではなく「伝えることの重要性	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。(90分)
16	ビジネスプランのプレゼンテーションの後、講評してフィードバックする。課題提出、授業改善アンケートの実施。科目を修了して、「身に付く力」の	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『MBAビジネスプラン』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	9784478014745	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス (科目ナンバリング：HSS522079)				
授業担当者 (所属・職名)	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：是枝 亮）			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標							
学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持てるようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
ダンスに親しみ、楽しめることができる。ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。							
授業全体の内容と概要							
ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようになる。							
授業の方法							
毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。 単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
実技科目のため、運動できる服装で参加すること。 その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる出席回数は、11回以上。 授業に対する意欲・態度・技術の上述等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自己の持つ考えや決められたモチーフについて表現することを楽しみを見え、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフについて表現することがあり、ダンスに対して親しみを持てる場面もあった。	音楽に合わせて表現することを楽しみ、発表会等に向けて表現や創作をすることができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に、積極的に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提案し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分でなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	ダンス (科目ナンバリング：HSS522079)					
授業担当者 (所属・職名)	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：是枝 亮）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む） ガイダンス・レクリエーション	シラバスの確認（45分）	ガイダンス内容の理解（45分）
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
3	ダンスへの導入 リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
4	ダンスへの導入 誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
5	ダンスへの導入 動きから作品へ	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
6	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
7	即興による表現 ものをを使った表現	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
8	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
9	即興による表現 空間を活かした表現	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
10	作品創作への導入 イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
11	作品創作への導入 テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
12	作品創作	作品創作の準備（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
13	作品創作	発表会へ向けた創作（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
14	作品創作	発表会へ向けた創作（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
15	発表会	発表会への準備（45分）	作品の振り返り（45分）
16	まとめ 科目を修了して「身に付く力」の検証 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（45分）	身に付いた事の確認（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『『学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及び ダンス指導の手引』』	文部科学省	東洋館出版社	2013 年	9784491029771	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122045)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
1. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 2. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。 3. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。 4. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。 5. 精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

1. ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
2. 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーク演習を踏まえ、精神保健福祉士による実践の専門性を習得するために、事例検討を中心に進める。具体的には、事例に登場する精神保健福祉士が勤める職場と支援対象となるクライアントを理解したうえで、問題の発生経過や支援経過をたどりながら、自分が精神保健福祉士として支援する立場になった時の状況をどう捉え、どのような資源を活用しながら支援を展開していくのか、個人ワークやグループワークを通して検討を行う。
※SOG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

1. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。
2. 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
3. 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
4. Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 教科書は毎回持参すること。
2. 演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
3. 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
4. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート（50点）、平常点（50点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を概したレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的に説明・記述が不十分だった。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできる
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基礎を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS122045)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規出版	2 0 2 1	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容 を確認する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
2	ソーシャルワークの課題を通じた演習①（個人に対 する相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
3	ソーシャルワークの課題を通じた演習②（グループ における相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
4	ソーシャルワークの課題を通じた演習③（コミュニ ティソーシャルワークの理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
5	支援の場に応じた相談援助の理解①（精神科医療機 関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
6	支援の場に応じた相談援助の理解②（精神科医療機 関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
7	支援の場に応じた相談援助の理解③（精神科医療機 関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
8	支援の場に応じた相談援助の理解④（障害福祉サー ビス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
9	支援の場に応じた相談援助の理解⑤（障害福祉サー ビス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
10	支援の場に応じた相談援助の理解⑥（障害福祉サー ビス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
11	支援の場に応じた相談援助の理解⑦（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
12	支援の場に応じた相談援助の理解⑧（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
13	支援の場に応じた相談援助の理解⑨（教育機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
14	支援の場に応じた相談援助の理解⑩（司法）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
15	支援の場に応じた相談援助の理解⑪（産業・労働）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等か ら復習する。（45分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。（45分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 授業の解説	15回分の内容を復習する。 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自 分で検証をしておくこと（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復 習や疑問点等を確認する。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング：LAW422018, LAW522020)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

法令違反が企業の存亡をも左右する現在、法律を守りそれに従って行動することが強く求められる。ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付けることとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

基本的法律知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。ビジネス実務法務検定試験（東京商工会議所主催）を通して、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することにより、ビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。ビジネス活動で日常起こりうる法的な問題点の認識。具体的には、民法・商法・経済刑法・知財法・独禁法・労働法・税法等、コンプライアンス・CSR（企業の社会的責任）・内部告発、ビジネス実務法務検定試験受験対策講座。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業（第3回から第4回の計2回）は、資料をパワーポイントで投影し、資料を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。問題演習を行う授業（第5回から第14回の計10回）は、資料を配布して実施する。
①確認テストは、講義の理解を深めるために2回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回（前年実績なし）。（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③小テストは、講義の理解を深めるために1回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Microsoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 私語などの迷惑行為は厳禁。
- 講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- 六法を持参することを推奨。
- 確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 ※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えた。	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング：LAW422018, LAW522020)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (90分)	復習 (90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 ビジネスに関わる法律とは コンプライアンス能力とは	シラバスの確認 コンプライアンス能力についての調べ学習 (90分)	復習 (90分)
3	民法の概要1 民法の基本原則 契約とは 賃貸借・使用貸借・消費貸借	民法の基本原則、契約 (賃貸借・使用貸借・消費貸借) についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
4	民法の概要2 民法の基本原則、契約 (諾成契約と要物契約) 契約の一般的なきまり (承諾、条件・期限)	民法の基本原則、契約、契約のきまりについての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
5	問題演習 契約・不動産物権変動 確認テスト2 (前年実績) 確認テスト1講義内で解説 (フィードバック)	契約、物権変動についての調べ学習 (90分)	問題演習の復習 (90分) 確認テストの復習
6	問題演習 債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担 確認テスト2講義内で解説 (フィードバック)	債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担についての調べ学習 (90分)	問題演習の復習 (90分)
7	問題演習 未成年者、成年被後見人、意思表示 (心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫)	制限行為能力者、意思表示についての調べ学習 (90分)	問題演習の復習 (90分)
8	制限行為能力者の法の見方・考え方	制限行為能力者についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
9	錯誤・詐欺の法の見方・考え方 問題演習 賃貸・賃借人の義務、借地・借家・賃借権	賃貸・賃借人の義務、借地・借家・賃借権についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 問題演習の復習 (90分)
10	電子消費者契約特例法・消費者契約法の見方・考え方 問題演習 債権譲渡、物権 (留置・質・抵当権)	債権譲渡、物権 (留置・質・抵当権)、保証債務についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 問題演習の復習 (90分)
11	不法行為についての演習問題 ビデオ視聴1	不法行為についての調べ学習 (90分)	問題演習の復習 (90分) 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
12	問題演習 代理 (表見・無権)、不法行為 ビデオ視聴1講義内で解説 (フィードバック)	過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効についての調べ学習 (90分)	問題演習の復習 (90分) 小テスト1の復習 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
13	問題演習 過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効 ビデオ視聴2	第5回から第13回まで復習 (90分)	問題演習の復習 (90分) 小テスト2の復習
14	まとめ 問題演習の復習 小テスト1 (前年実績) ビデオ視聴2講義内で解説 (フィードバック)	第5回から第13回まで復習 (90分)	問題演習の復習 (90分)
15	まとめ 問題演習の復習 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第5回から第13回まで復習 (90分)	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習 (90分)
16	定期試験 (60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習 (90分)	復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ポケット六法 令和7年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	2025年	9784641009257	
2	『民法 第2版 (ファーストトラックシリーズ 2)』	伊藤真	弘文堂	2020年	9784335314612	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング：HSS522080)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の旨 指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
柔道の技術（礼法、基本動作、対人技能の投技・固技等）を自から身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を身につける。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、嘉納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できる」する素養を身につける。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。 基本動作、対人的技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。 また、安全指導のあり方を学習する。							
授業全体の内容と概要							
基本動作、基本的な技術を実践し習得する。 安全指導への注意点を学び実践する。 試合運営の方法を習得する。							
授業の方法							
授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作（礼法・受身・技）を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
初回講義を欠席した場合は履修を認めない。 柔道衣を正しく清潔に着用する。柔道衣はJF規格若しくは全日本柔道連盟規格に適合するものを用意する。 武道の精神である、礼節を大切に励行する。 ルールで決められている、危険な物は身につけない（時計・指輪・ピアス・ミサンガ等）。 体調の悪い時は、事前に申し出ること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	０％	６０％	１０％

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に行い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていなかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。	
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事がた	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。	
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	実技		必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング：HSS522080)					
授業担当者 (所属・職名)	三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：三嶋 康嗣)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史) シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反	事前にシラバスを読み確認をおこなう (45分)	ガイダンスの内容を理解する (45分)
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身 (後受身、横受身、横転受身)	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する (45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う (45分)
3	基本動作、受身の復習 (前回受身)、安全な投げ方、固技 (袈裟固)	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする (45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う (45分)
4	投技 (膝車、支釣込足)、固技 (横四方固)	事前に膝車、支釣込足、横四方固の学習を行う (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
5	投げ技 (体落、大腰)、固技 (上四方固)、固技のゲーム	事前に体落、大腰、上四方固の学習を行う (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
6	投技 (小内刈、大内刈、大外刈)、固技 (縦四方固)、固技のゲーム	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固の学習を行う (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
7	投技、固技の復習、約束練習、固技の簡易試合	事前に今まで習得した技の復習を行っておく (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
8	投技 (背負投、一本背負投)、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合	事前に背負投、一本背負投の投げ方を学習する (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法	事前に練習方法の学習を行う (45分)	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する (45分)
10	投技 (払腰、内股)、固技 (絞技と関節技の原理と安全指導)	事前に払腰、内股、絞技、関節技の学習をする (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
11	投技11・固技6つの復習、約束練習	事前に、今までに学習した技を復習しておく (45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める (45分)
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習	事前に試合の方法、審判法を学習する (45分)	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める (45分)
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する (45分)	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する (45分)
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ	事前に13時間目の復習をしておく (45分)	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする (45分)
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ	スムーズに大会を行えるよう手順を学習する (45分)	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする (45分)
16	実技試験、到達度確認、授業に係る講評・解説によるフィードバック、科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	実技試験のための用具等の準備を行う (45分)	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『柔道上達BOOK』	小俣幸嗣	成美堂出版	2004		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122047)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じ て精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。

②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。

③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。

④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。

②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。

③精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。

④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

①教科書をもとに、実習事前・実習中・実習事後の学習方法を理解する。

②事前には、実習の目的と構造（実習および実習指導の意義や目的、実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価、実習の構造、実習におけるリスクマネジメント）、実習先に向けた準備（情報収集の方法、実習記録の書き方、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）、実習先決定後の準備（実習先決定後の学習の内容と方法、実習計画の作成、事前訪問・事前打ち合わせ）を行い、実習中には、実習スーパービジョン、実習中の評価、実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題から学び、事後には、実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告（実習報告会）を通じて振り返りを行う。

③SDG 3、すべての人に健康と福祉を」、「SDG 4、質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

①教科書の主要な内容をまとめたレジュメを作成し報告することを通して、実習前・中・後に必要となる準備を行う。報告の分担は授業開始後に決定する。

②実習配属先が決定後、実習に向けた事前学習・実習計画書の作成を通して、自らの実習課題を設定すること。事前学習・実習計画書は個別指導を実施する。

③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

④Microsoft Teams、Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。

②実習準備を行うことから出席を重視する。やむを得ず遅刻や欠席をするときには事前に連絡をすること。

③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師による講義等も実施の予定である。実習生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。

④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。成績は、レジュメの作成・報告（20点）、事前学習・実習計画書の作成（50点）、平常点（30点）で総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：SWS122047)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク実習指導－ソーシャルワーク実習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び科目を終了して『身に付く力』についての説明オリエンテーション、講義－演習－実習の循環	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造①（実習および実習指導の意義と目的）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造②（実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造③（実習における教育評価、実習の構造）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
5	実習先決定に向けた準備①（情報収集の方法、実習記録の書き方）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
6	実習先決定に向けた準備②（精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
7	実習先決定後の準備①（実習先決定後の学習の内容と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
8	実習先決定後の準備②（実習計画の作成、事前訪問／事前打ち合わせ）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
9	実習中の学習①（実習スーパービジョン、実習中の評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
10	実習中の学習②（実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
11	実習後の学習①（実習後に行う評価、事後学習の目的と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
12	実習後の学習②（実習成果の報告）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
13	実習の実際①（実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
14	実習の実際②（精神科医療機関における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
15	実習の実際③（障害福祉サービス事業所における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）
16	実習の実際④（行政機関における実習）、まとめ科目を終了して『身に付く力』についての検証実施した授業のフィードバック	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（90分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (科目ナンバリング：S0P123059, S0P423042,)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：吉澤 英里)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標

産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会（産業や福祉領域など）の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ

経営学部のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目

到達目標

①産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。
②産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。
③学んだ知識的枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要

心理学は医療・保健、教育、福祉、司法、産業と、さまざまな領域で応用されている。産業心理学では、そのような基礎心理学の知見が産業分野でどのように応用されているのかを理解する。さらに、産業が抱える問題に対して心理学がどのように貢献できるのかについても知る。
「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライド資料（PowerPoint）や板書を提示しながら講義形式を中心に進行する。講義の最後にオンラインアンケートを活用した振り返りを実施する。質問には随時対応し、授業内課題①および②にはコメントによるフィードバックをする。授業内課題③へは授業内で口頭によるフィードバックをする。授業で使用するスライド資料はオンライン上で共有する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語、大学で認められたもの以外の飲食、代返 等）が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある
不測時における授業や補講等でオンラインを活用する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 1 1 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
5 5 %	0 %	4 5 %	0 %	0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9 割以上理解できた。	専門知識について、8 割程度理解できた。	専門知識について、7 割以上理解できた。	専門知識について、6 割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用と応用	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を複数挙げ、その根拠についても非常によく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を複数挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業・福祉）活動を挙げることができなかった。
アカデミック・スキル（文章表現）	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、非常に表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、かなり表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、やや表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、最低限表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	産業心理学 (科目ナンバリング：S0P123059, S0P423042,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)			研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：		吉澤 英里)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『経営・ビジネス心理学』	松田幸弘	ナカニシヤ出版	2018	9784779512636	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケート結果反映、産業心理学の歴史と研究領域、科目を修了して「身に付く力」についての説明)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる (90分)	産業心理学で扱う内容について確認する (90分)
2	リーダーシップ	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	フォローアップ	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	ワークモチベーション	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	組織コミットメント	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	授業内課題① (リーダーシップ～組織コミットメント)	2回から5回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
7	ストレスとメンタルヘルス	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	心の健康	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	経営・組織の意思決定 授業内課題①のフィードバック	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
10	人間関係とコミュニケーション	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
11	授業内課題② (ストレスとメンタルヘルス～人間関係とコミュニケーション)	7回から10回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
12	消費者行動の心理学	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
13	ファッションの心理学	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
14	組織神経科学 授業内課題②のフィードバック	教科書の該当する箇所を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
15	授業内課題③ (消費者行動の心理学～組織神経科学) 授業改善アンケートの実施	12回から14回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。 「科目を修了して「身に付く力」についての検証	資料等を確認し、自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する (90分)	試験でわからなかったことを再確認する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅰ (科目ナンバリング: SWS123050)				
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子(社会福祉)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 西野 克俊)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標					
① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術を体得する。 ② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。 ③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。					
授業の位置づけ					
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。					
到達目標					
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					
授業全体の内容と概要					
① 障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 ② 実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。					
授業の方法					
①各機関により、実践的な知識、経験の習得を目的とした学び。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連科目					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					PBL
					反転授業
					その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項					
①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。 ②精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを前提とする。					

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前条件					
単位認定に必要な最低実習時間は６０時間以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅰ (科目ナンバリング：SWS123050)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：		西野 克俊)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャル ワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』精神福 祉教育学校連盟	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体、 住民やボランティア等との基本的なコミュニケーシ ョンや人との付き合い方などの円滑な人間関係の	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計 画の作成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
3	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) と の相談支援関係の形成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
4	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) へ の権利擁護及び相談支援 (エンパワメントを含む。)	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
5	施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関 する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任へ の自覚	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会へ の働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキン グ、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上の ための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味 の考察と等価 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』に	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	民法 (科目ナンバリング：LAW122131, LAW422033,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館 4階		
単位数	2 (単位認定責任者：青山 浩之)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標

民法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。さらに、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる知識を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる読解力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は、市民生活や経済活動を送るうえで基本となる法律であり、最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第3回から第14回の計12回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは、講義の理解を深めるために7回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回（前年実績なし）。（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は、講義の理解を深めるために1回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 私語などの迷惑行為は厳禁。
- 講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- 六法を持参することを推奨。
- 確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 ※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べることができた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べることができた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができた。	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを含えていたが、解答は答えていた。	改善すべき点があったが、解答を一通り答えていた。	的確ではないが、解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	民法 (科目ナンバリング：LAW122131, LAW422033,)					
授業担当者 (所属・職名)	青山 浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：青山 浩之）		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (90分)	復習 (90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習 (90分)	復習 (90分)
3	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者 (未成年者 , 成年被後見人) 確認テスト1 (前年実績)	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者についての 調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
4	成年被後見人, 意思表示 (錯誤・心裡留保・通謀虚 偽表示・詐欺・強迫) 確認テスト1講義内で解説 (フィードバック)	成年被後見人, 意思表示についての調べ学習 (90 分)	配布資料の復習 (90分)
5	代理 (代理, 表見代理, 無権代理) 確認テスト2 (前年実績)	代理 (代理, 表見代理, 無権代理) についての調べ 学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
6	代理 (無権代理) 確認テスト3 (前年実績) 確認テスト2講義内で解説 (フィードバック)	代理 (無権代理) についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効 (取得時効, 消滅時効) 確認テスト4 (前年実績)	時効 (取得時効, 消滅時効) についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
8	物権－物権法の概観 確認テスト4講義内で解説 (フィードバック)	物権法についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
9	物権－用益物権 (地上権, 永小作権, 地役権, 入会 権), 物権の変動 (動産, 不動産), 即時取得 確認テスト5 (前年実績)	用益物権, 物権の変動, 即時取得についての調べ学 習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
10	物権－物権の変動 (登記), 担保物権 (留置権, 先 取特権, 質権, 抵当権) 確認テスト6 (前年実績)	物権の変動 (登記), 担保物権 (留置権, 先取特権 , 質権, 抵当権) についての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
11	債権－法定地上権, 保証契約 確認テスト6講義内で解説 (フィードバック)	保証契約, 連帯保証についての調べ学習 (90分)	課題の作成 配布資料の復習 (90分)
12	答案練習 債権－手付, 担保責任 課題1講義内で解説 (フィードバック)	課題の作成 手付, 担保責任についての調べ学習 (90分)	答案練習の復習 配布資料の復習 (90分)
13	債権－債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担 確認テスト7 (前年実績)	債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担につい ての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分), 確認テストの復習
14	債権－不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責 任 確認テスト7講義内で解説 (フィードバック)	不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任につ いての調べ学習 (90分)	配布資料の復習 (90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	第3回から第14回まで復習 (90分)	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習 (90分)
16	定期試験 (60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 科目を修了して「身に付く力」の検証	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習 (90分)	復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ポケット六法 令和7年版』	荒木尚志・森田宏樹／編集代表	有斐閣	2025年	9784641009257	
2	『民法 第2版 (ファーストトラックシリーズ 2)』	伊藤真	弘文堂	2022年	9784335314612	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123051)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実 践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

概要

履修目標							
① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術を体得する。 ② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。 ③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。							
授業全体の内容と概要							
① 障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 ② 実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。							
授業の方法							
① 各機関により、実践的な知識、経験の習得を目的とした学び。 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
① 精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。 ② 精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを前提とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低実習時間は60時間以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123051)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャル ワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』精神専 門教育学校連盟	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体、 住民やボランティア等との基本的なコミュニケーシ ョンや人との付き合い方などの円滑な人間関係の	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計 画の作成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
3	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) と の相談支援関係の形成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
4	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) へ の権利擁護及び相談支援 (エンパワメントを含む。)	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
5	施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関 する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任へ の自覚	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会へ の働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキン グ、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上の ための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味 の考察と遵守 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』に	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング：MAN423037)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：石山 玄幸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

概要

履修目標							
本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成立から、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。科目を修了して、農業経済に関する基礎知識を身に付けることを期待する。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。							
到達目標							
本講義終了時の達成目標は、以下の3つである。①農業における必要性・特殊性を述べることができる。②農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。③今後の農業関連ビジネスの展望について述べるができる。							
授業全体の内容と概要							
本講義は、農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。							
授業の方法							
本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10％は講義ノートの評価とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を創造性の高い自分の言葉で述べる事ができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べる事ができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング: MAN423037)					
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者:		石山 玄幸)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「アグリビジネス論」ガイダンス シラバスの説明 (講義の進め方、評価方法、科目を修了して「身に 付く力」の説明含む)、授業改善アンケート結果反映	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講 すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
4	農業協同組合の仕組み①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
5	農業協同組合の仕組み②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
6	農業政策について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
7	農業政策について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
8	農業市場について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
9	農業市場について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
10	農産物の流通について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
11	農産物の流通について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
13	アグリビジネスの事例①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
14	アグリビジネスの事例②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
15	アグリビジネスの事例③、授業改善アンケートの実 施	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読 むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成 すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック。科目を修了して「身に 付く力」の検証	定期試験に向けた準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、アグリビジ ス論を総括すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科 書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	2020年	9784297113636	
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業 ビジネス推進室	プレジデント社	2017年	9784833451178	
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	1998年	4641085943	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング: ESS323056, S0E423051)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岩立 顕一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコンサルタントとして活動した経験に基づき、自己理解及び職業理解を深める内容を取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

概要

履修目標

経済環境の変化により、企業・業界のビジネス環境は大きく変化している。
また、個人の就業環境や勤労観も変化しており、企業に努めつつ副業を行ったり、フリーランスとして活躍したりするチャンスも増えている。
本講義では、業界・企業分析を通じて、職業を学び、「働くこと」に対する意識向上を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

- ・様々な業界・業種の特徴を学ぶ。
- ・企業分析の手法を習得する。
- ・自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

授業全体の内容と概要

本講義では、「職業観・労働観の醸成」と「業界・企業分析」という2本柱に基づいて、職業について学ぶ。
講義の序盤は、総論部分として、職業やキャリア教育について学習する。
講義の中段では、業界分析、経営分析および財務諸表分析の手法について学習し、実践する。
講義の終盤では、これまでの総仕上げとして、業界分析と企業分析を組み合わせた総合分析について学ぶ。
本授業科目は、「SDG8 経済成長と雇用」の関連授業である。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。
日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して講義を進める。
授業では、リアクションペーパーを毎回配布し、その回答内容は、次回以降の授業で取り上げる。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践的に分析する機会を設けるので、出席を重視する。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。
また、業界・企業分析に際しては、受講者が積極的・能動的に取り組む姿勢を求める。財務分析の際には、計算が必要となるので、計算機の特参を推奨する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。 「平常点」は、リアクションペーパーの回答内容で評価する。 「レポート」に関しての具体的な提出時期は、授業内で説明する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。	
企業分析（経営・財務諸表分析）の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。	
自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング: ESS323056, SOE423051)					
授業担当者 (所属・職名)	岩立 顕一郎 (経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岩立 顕一郎)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	北海道の地域金融機関に勤務し、金融支援やマネジメント業務に従事する他、キャリアコン サルタントとして活動した経験に基づき、自己理解及び職業理解を深める内容を取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『学部生のための企業分析テキスト―業界・経営・財務分析の基本（改定版）』	高橋聡・福川裕徳・三浦敬 編著	創成社	2024年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、アンケートによる受講者の意向調査） シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の	シラバスとテキストの序文を読んでおく（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
2	働く目的	事前配布資料を予習する（90分）	配布資料の内容を復習する（90分）
3	キャリア教育・職業選択理論	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
4	業界・業種の概要①	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
5	業界・業種の概要②	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
6	業界分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
7	職業興味と自己理解	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
8	経営分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
9	財務諸表分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
10	財務諸表分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
11	特別講演	事前に指示した内容を調べておく（90分）	講演の内容を復習する（90分）
12	就職活動	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
13	業界・企業の総合分析①	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
14	業界・企業の総合分析②	テキストの指定箇所を予習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
15	まとめ講義	これまでの内容を復習する（90分）	テキストと配布資料の内容を復習する（90分）
16	課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施 科目を修了して「身に付く力」の検証	これまでの内容を復習する（90分）	授業で取り上げた解説の内容を復習する（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (科目ナンバリング：CLP123058, CLP423047,)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：吉澤 英里)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標

学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

経営学部のDP 3、DP 4、DP 5に対応する科目
社会福祉学部のDP 3、DP 4、DP 5に対応する科目

到達目標

①コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。
②実際のコミュニティ活動を通した問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら他学生へ説明する。
③コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて発表する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。
「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント（スライド資料）、配布印刷物等を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には口頭およびチャット形式で随時対応する。授業の最後にアンケート形式で要望や質問・コメントを集める。集めた要望や質問に対しては、次の授業回で全体に向けてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等）が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。
プレゼンテーション発表の枠は、6枠×3回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い（概ね20名以上）の場合、グループでの発表になることがある。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	90%	0%	0%	10%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ、その理由を詳しく説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	コミュニティ心理学 (科目ナンバリング：CLP123058, CLP423047,)					
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者： 吉澤 英里)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバス及び授業改善アンケートの結果反映、本科目のコミュニティの定義、科目を修了して『身に付く力』についての説明)	コミュニティについて調べる (90分)	本授業で扱うテーマを確認する (90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	授業内課題 (コミュニティ心理学の基礎知識の確認)	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
10	プレゼンテーション① (テーマ、発表順の決定、準備)	関連する文献を読む (90分)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)
11	プレゼンテーション② (準備、ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する (90分)	スライド資料をまとめる (90分)
12	プレゼンテーション③ (準備、ディスカッション)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション① (第1グループ) 授業内課題へのフィードバック	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション② (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする (90分)	発表された内容を振り返る (90分)
15	プレゼンテーション発表とディスカッション③ (第3グループ)	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)
16	プレゼンテーション予備日および自己相互評価、科目を修了して『身に付く力』についての検証、授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る (90分)	疑問点をまとめる (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『授業内で適宜紹介する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	経営学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング: L1H422046, L1H522045)				
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	地方地域の中小企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。 課題を提出した学生。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報管理（文献・情報検索）	一観点に対して図書館等の文献調査から得た資料を基に必要な情報を整理（短文等）できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料を閲覧し必要な情報を取得できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料（3つ以上）を入手できた。	図書館等の文献調査ができた。	図書館等の文献調査ができなかった。
ICTスキル・情報リテラシー	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた効果的な論文やレポート・プレゼンテーション資料の作成、データ分析、授業内外で効果的にICTを活用。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート・プレゼンテーション資料の作成でき、ICTを活用した。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート・プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセス・統合して使用できた。	PC等を活用して論文やレポート・プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できなかった。必要な情報・データにアクセスできなかった。
情報整理	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点・こと（機械統一表記）作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点・ことにとまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等を別にまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究関連としてまとめた。	文献や電子資料の情報整理を行っていないかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング：LIH422046, LIH522045)					
授業担当者 (所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：		猪尾 紀幸)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の説明含む) 授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
2	地域情報論・総論① (経営的観点からみた地域活性化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
3	地域情報論・総論② (地域活性化と地域情報)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
4	北広島市の概要① (地域の歴史、文化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
5	北広島市の概要② (地域の産業、企業)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
6	北広島市の地域情報の例① (地域の特産品)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
7	北広島市の地域情報の例② (地域のビジョン)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
8	北海道の他地域情報の例① (移住推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
9	北海道の他地域情報の例② (観光推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
10	情報発信手法① (メディアミックス)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
11	情報発信手法② (トリプルメディア)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
12	情報発信手法③ (IT普及と消費者行動の変化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
13	情報発信手法④ (インターネット、ホームページ、SNS)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
14	情報発信手法⑤ (その他の手法)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
15	情報発信手法⑥ (注意点、商標権、著作権)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
16	講義全体のまとめ、課題提出 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	学習内容に基づき課題を作成	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング：SWS122054)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 / 3,080 (本体 / 2,800)
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	事例検討：スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	事例検討：スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	事例検討：スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	事例検討：スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	事例検討：スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	事例検討：スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークと『新たに求められていること』への対応～演習に取り組んできた事後エッセンス～	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義, 演習, 実習, 実技		必修・選択	選択
科目名称	プログラミング論 (科目ナンバリング: S0F422055, S0F522050)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可 (会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

概要

履修目標						
コンピュータとプログラミングに関する基本的な知識を身に付け、問題解決のための基礎的なアルゴリズムやプログラミングの開発手順について理解を深める。						
授業の位置づけ						
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。						
到達目標						
(1) プログラミング言語の種類と用途がわかる。 (2) アルゴリズムとプログラミングの関係を理解する。 (3) Microsoft Excelのマクロ言語VBAを使い、業務の自動化を考えることができる。						
授業全体の内容と概要						
プログラミング言語の各種概念の理解と課題の作成を通して、問題解決のアルゴリズムを考える力を養い、プログラミング技法の基礎を学ぶ。本講義ではExcel上のマクロ言語VBAを使って授業を進める。 「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。						
授業の方法						
1、2、14回目は講義形式で行う。 3から10回目まではコンピュータを使い、基本的なアルゴリズムを例示し、プログラム作成、動作確認を行う。 11から13回目で、各自オリジナルのプログラムを設計し作成する。 15、16回目は成績判定のための修了課題を作成する。 実習中は教員および学生同士で対話しながら質問やアドバイスを受けながら進める。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
・受講にあたり、情報システム論の単位を取得しておくことが望ましい。 ・受講者数は教室の機器台数より上限45名となる。 ・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 課題については授業中に毎回評価・採点し、最終評価に加算する。 修了課題はプログラミング実技である。 S評価は原則として全授業出席者に限られる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に あるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
問題解決のためのアルゴリズムを組み立て、フローチャートなどの方法で図式化できる。	問題解決のためのアルゴリズムを自分で考え、図式化やプログラミングができる。また、他人のプログラムを分析し、的確なアドバイスが行えるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを自分で考え、図式化やプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受けつつ、自分で考え、図式化しプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受け、図式化やプログラミングができるようになった。	問題解決のためのアルゴリズムを他者からのアドバイスを受けず、自分で考え出すことができない。
アルゴリズムの基本形の理解	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、悩むことなく速やかに自分のプログラム中で利用できるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、自分のプログラム中で利用できるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、書籍、メモネットなどの情報を利用してプログラミングできるようになった。	条件分岐や繰り返しを使って、ソート、検索、ファイル処理などの基本となる形を、他人の支援を受けながらなんとかプログラミングできるようになった。	他者の支援を受けてもアルゴリズムを理解できず、プログラミングもままならない。
プログラミング言語の特徴を生かしたシステム開発とプログラミングができる。	複数のプログラミング言語を用途によって使い分け、動作が正確で、無駄な処理がなく、可読性や拡張性、保守性に優れたプログラミングができるようになった。	プログラミング言語の特徴を生かし、動作が正確で、可読性が高く、保守性に配慮したプログラミングができるようになった。	プログラミング言語の特徴を生かし、動作が正確なプログラミングができるようになった。	プログラミング言語を理解し、動作するプログラミングができるようになった。	プログラミングのものができず、動作するプログラムの作成ができない。
Microsoft Excelのマクロ言語VBAの理解	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるようになるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるようになるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるようになるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるようになるようになった。	オブジェクト、プロパティ、メソッドなどVBAの特徴を理解し、効率的で実用的なプログラムを書くことができる。また、他者に説明し支援できるようになるようになった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年			
開講時期	前期集中	授業形態	講義,演習,実習,実技		必修・選択	選択
科目名称	プログラミング論 (科目ナンバリング: S0F422055, S0F522050)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かしてコンピュータプログラミングに必要な知識について講義を行う。			
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可 (会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明(科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)、授業改善アンケート結果反映の説明	プログラミング言語の種類歴史について (90分)	講義内容の整理と確認 (90分)
2	アルゴリズムとフローチャート、プログラミング	アルゴリズムについて (90分)	講義内容の整理と確認 (90分)
3	Excelとマクロ Excelのマクロ開発環境の構築 マクロのサンプルを通した、全体像の理解	コンピュータにおける文字、数値の取り扱い (90分)	Microsoft Excelの操作練習 (90分)
4	オブジェクト・プロパティ・メソッドの理解	オブジェクト、プロパティ、メソッドについて予習 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
5	変数と計算処理、処理と条件分岐	整数、浮動小数点とは (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
6	繰り返し処理、Loop文 (WhileとUntil)、For～ Went文、For～Each	IF文とSelect文 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
7	指定された課題に沿ったプログラミング (基本的指導) 出題された課題を、教員の解説を聞きながら、完成	オブジェクトと操作可能なプロパティ、メソッド (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
8	指定された課題に沿ったプログラミング 出題された課題を、自らの力で完成させる	Do while と Do Untilの使い方 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
9	応用編：さまざまなプロパティとメソッドの使い方	ExcelにおけるWorkSheetの取り扱いについて (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
10	基本的なアルゴリズムの学習 データーの検索 線形探索 (リニアサーチ) と二分探索 (バイナリサーチ) とプログラミング	7回目の授業の復習 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
11	基本的なアルゴリズムの学習 ソート技法 バブルソート、クイックソートなどのデーター並べ 替える技法と特徴、プログラミング	VBAにおける文字列の扱いについて (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
12	ファイル処理 テキストファイルの読み込み、書き出しのプログラ ミング	ソート技法とその特徴 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
13	図形オブジェクトの扱い 画像や図形の表示、位置指定、サイズ変更のプログラ ミング	検索技法とその特徴 (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
14	修了課題作成 (指定された内容に従い、プログラム 課題を作成する)	日本語 (漢字) 文字コードについて (90分)	授業で行なった事例プログラムの作成と動作確認 (90分)
15	修了課題作成 (指定された内容に従い、プログラム 課題を作成する)	Excelで扱える画像形式について (90分)	修了課題作成 (90分)
16	修了課題完成 (指定された内容に従い、プログラム 課題を完成し、提出する) 授業に係る講評・解説によるフィードバック	修了課題作成 (90分)	総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122071)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標							
以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。 ①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤社会的養護の現状と課題について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。 ⑤社会的養護の現状と課題について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。 ③社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。 ⑤社会的養護の現状と課題について学ぶ。							
授業の方法							
授業は、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
次の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支援する保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会的養護Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122071)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：杉本 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー						
研究室前の掲示ボード等を参照すること						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認、授業改善アンケート結果反映の説明） 身につく力・・・社会的養護に関係する法令、期	社会的養護とは（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
2	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史の変遷（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
3	社会的養護の基本①子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
4	社会的養護の基本②社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
5	社会的養護の基本③社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
11	社会的養護の現状と課題①社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況（90分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（90分）
12	社会的養護の現状と課題②施設等の運営管理	施設等の運営管理（90分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（90分）
13	社会的養護の現状と課題③被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
14	社会的養護の現状と課題④社会的養護と地域福祉	地域福祉とは（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
15	まとめ（事例研究）授業改善アンケートの実施	文献学習（90分）	ノート整理、疑問点の解消（90分）
16	試験の実施。60分の試験の後、30分の添削、開設を行う。 身につく力の検証・・・上記試験及びレポートの添	文献学習（90分）	文献学習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	社会的養護Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123094)					
授業担当者 (所属・職名)	中瀬 陽一 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：中瀬 陽一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉法人での実務経験をもとに実践に必要な知識と能力を身につける。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応する。					

概要

履修目標							
以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 ①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解することができる。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができる。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。 ②施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。 SDG1、「貧困をなくそう」の関連授業							
授業の方法							
授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行う中で主体的に参加して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を踏えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。	
施設養護及び家庭養護の実際について	施設養護及び家庭養護の実際について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができなかった。	
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができなかった。	
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。	
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	社会的養護Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123094)					
授業担当者 (所属・職名)	中瀬 陽一 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：中瀬 陽一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉法人での実務経験をもとに実践に必要な知識と能力を身につける。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応する。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ソーシャルワーク実践の事例分析第20号』	北川清一・内田実希・藤本拓己	ソーシャルワーク 研究所	2024	21889767	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (シラバス確認及びレポートの提出に関する説明を含む)、社会的養護における子どもの理解	社会的養護とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
2	社会的養護の内容①日常生活支援	日常生活とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
3	社会的養護の内容②治療的支援	治療とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
4	社会的養護の内容③自立支援	自立とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
5	社会的養護の実際①施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
6	社会的養護の実際②家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
8	記録及び自己評価	記録のあり方について (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について (90分)	レポート作成 (90分)
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について (90分)	レポート作成 (90分)
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究 (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備 (90分)	演習の記録と自己覚知 (90分)
15	まとめ (授業改善アンケートの実施)	文献学習 (90分)	文献学習 (90分)
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う「身に付く力」の検証	文献学習 (90分)	文献学習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉) (科目ナンバリング: CHS122081)					
授業担当者 (所属・職名)	太田 俊一 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 太田 俊一)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 学生自らが「学生主体の学び」を意識し、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「言葉」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶことで、スチューデントスキル・スタディスキル・アカデミックススキルを習得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。（2025・2024年度） 社会福祉学科のDP 1、DP 3、DP 4 に対応する。（2023・2022年度）							
到達目標							
「言葉」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に演技したり述べるができる。							
授業全体の内容と概要							
保育における領域「言葉」を学修する。「SDG4：質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。 最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。 なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。 遅刻の場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席扱いとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。	
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉) (科目ナンバリング：CHS122081)					
授業担当者 (所属・職名)	太田 俊一 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者：太田 俊一)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育者のための言語表現技術』	古橋和夫	萌文書林	2 0 1 9	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケートの結果反映の説明 子どもの言葉と育ち	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか-	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	言葉について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ①（児童文化財）	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ②（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ③（児童文化財）	ここまでで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施	「言葉」の意義を事前学習しておく（90分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現) (科目ナンバリング: CHS122082)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「表現」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度) 社会福祉学科のDP 1、DP 3、DP 4に対応する。(2023・2022年度) 社会福祉学科のDP 1、DP 3、DP 5、DP 6、DP 9に対応する。(2021年度)							
到達目標							
「表現」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。							
授業全体の内容と概要							
保育における領域「表現」を学修する。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。 最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。 なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。 遅刻の場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席扱いとする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。	
思考力判断力表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現) (科目ナンバリング:CHS122082)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（履修により「身に付く力」の説明を含む） 子どもの姿に学ぶ	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育内容「表現」と他領域の関係 表現とICT	指針「表現」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	保育室における表現① 保育室における表現②	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	保育室における表現③ 屋外における表現①	表現の基礎について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	屋外における表現② 屋外における表現③	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	地域・行事における表現① 屋外における表現②	保育の阻害環境について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	屋外における表現③ 幼児期からみた連携プログラム	ここまで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	児童期からみた連携プログラム 授業最終回で講評し、フィードバックする（「身に付く力」の検証）	「表現」の意義を事前学習しておく（90分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング：EHS122075)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在		1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：		湯浅 頼佳)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『子どもの食生活 第6版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2022	9784903355986	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 この科目を履修し終了した時に「身に着く力」の説	シラバスを読む。子どもの食生活に関係した話題を調べる。(90分)	シラバスの確認をする。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について考察する。(90分)
2	子どもの健康と食生活の意義ー子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
3	栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
4	栄養に関する基本的知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
5	子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
6	子どもの発育・発達と食生活（2）幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
7	子どもの発育・発達と食生活（3）学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
8	食育の基本と内容（1）食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
9	食育の基本と内容（2）食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
10	食育の基本と内容（3）地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく。(90分)	小テストの振り返りを行う。授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)
13	調理実習（1）	調理実習に必要な要件について調べておく。(90分)	授業後にノート整理を含めた復習を行い、自身の修得目標達成度を測定する。うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える。(90分)
14	調理実習（2）	調理実習についてレポートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)	
15	まとめ(授業最終回において調評し、フィードバック実施。第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施)	小テストについて確認しておく。子どもの栄養について理解したことをまとめる。(90分)	受講後の考察をレポートにまとめる。試験範囲についてノートを整理する。「身に着く力」について再度考察する。(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び定期試験実施 60分の試験終了後、残りの30分で解説を実施	試験準備（90分）	試験の振り返りを行い、自身の修得目標達成度を測定する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	障害児保育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122092)					
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応					

概要

履修目標																								
共生社会の創造のために以下の5つの観点で幅広い教養を身に付ける 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP3、DP 4、DP 5に対応する。																								
到達目標																								
障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べることができる。 「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。																								
授業全体の内容と概要																								
障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。																								
授業の方法																								
教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で講義形式とし、教科書の内容の確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着を図る。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>P B L</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・ 具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のDVD 教材を視聴した後に事例に基づいたレポート作成を求め るので、授業を欠席することのないよう留意すること。 ・ 教科書を必ず持参すること。 ・ 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
障害児保育Ⅰの理解	障害児保育Ⅰについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育Ⅰについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅰについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、理解できなかった。	
障害児保育Ⅰの思考・判断・表現	障害児保育Ⅰについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	障害児保育Ⅰについて、思考しようとする事はできた。	障害児保育Ⅰにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業への関心を示すことはできた。	授業への積極的な参加ができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	障害児保育Ⅰ (科目ナンバリング：SNE122092)					
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『障がいのある子どもの保育・教育の実践』	中山智哉・濱田尚志・未成妙子	学文社	2022年	978-4-7620-3121-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育Ⅰの概要	シラバスを確認しておくこと（90分）	「障害」についての概念を確認する（90分）
2	障害の理解と保育における発達援助（1）肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
3	障害の理解と保育における発達援助（2）知的障害児の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
4	障害の理解と保育における発達援助（3）発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
5	障害の理解と保育における発達援助（4）発達障害児の理解と援助②（PDD、自閉症スペクトラム等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
6	障害児保育の実際（1）保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
7	障害児保育の実際（2）個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
8	障害児保育の実際（3）子ども同士のかかわりと育ち合い	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
9	障害児保育の実際（4）職員間の協働	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
10	家庭及び関係機関との連携（1）保護者や家族に対する理解と支援	教科書の「家族への支援と保育者の役割」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
11	家庭及び関係機関との連携（2）地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
12	家庭及び関係機関との連携（3）小学校等との連携	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
13	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（1）保健・医療における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（2）福祉・教育における現状と課題の概要、DVDの視聴	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	DVD視聴時のメモを元に整理すること（90分）
15	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（2）福祉・教育における現状と課題「授業改善アンケートの実施」	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
16	定期試験「60分の試験終了後、残り30分で解説をし、フィードバックする」 科目を修了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと（90分）	試験の結果を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインIII (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 山腰 雅樹)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等での対応。					

概要

履修目標							
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を得得する為の科目である。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、基本的な知識・技術を得得する。							
授業全体の内容と概要							
制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS等の基礎的な知識・技術について得得する。							
授業の方法							
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。 また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
Adobe CCライセンス必須。 欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。 コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインIII (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 山腰 雅樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 制作ツールのインストール・設定 HTMLの基礎知識	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	HTML基礎演習	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	CSSの基礎知識 CSS基礎演習①	HTMLの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	CSS基礎演習②	CSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	マークアップ基礎演習①	HTMLとCSSの演習内容について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	マークアップ基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	デザインツールの基礎知識① ※Illustrator、XD、Figma	インターネット上で公開されているサイトを確認し、 代表的なレイアウトイメージを把握しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	デザインツールの基礎知識② ※Illustrator、XD、Figma	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	ページ制作演習③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
12	ページ制作演習④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
13	課題演習 (ポートフォリオページ制作) ①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
14	課題演習 (ポートフォリオページ制作) ②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
15	課題演習 (ポートフォリオページ制作) ③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
16	課題演習 (ポートフォリオページ制作) ④ フィードバック 授業改善アンケートの実施	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	演習内容を振り返り知識を定着させること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ (科目ナンバリング：SNE123093)				
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をととして習得するとともに、子ども1人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育場で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようにする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP 4、DP 5 に対応する。

到達目標

障害のある乳幼児の障害特性を知るとともに、障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な知識・技術について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

統合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実践を学び、保育士としての心構えを取得する。
「SDGs4．質の高い教育をみんなに」に関連科目。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着をはかる。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- ・ 具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR 教材を視聴した後に、事例に基づいたレポート作成を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
- ・ 指定教科書は必ず持参して授業を受けること。
- ・ 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。	
資格指定科目 保育士養成課程科目	

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	10%	10%	10%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
障害児保育Ⅱの理解	障害児保育Ⅱについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとしていることができた。	障害児保育Ⅱについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅱについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、理解ができなかった。	
障害児保育Ⅱの思考・判断・表現	障害児保育Ⅱについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考活動に取り組み表現しようとしてすることができた。	障害児保育Ⅱについて、思考することができた。	障害児保育Ⅱにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業へのいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ (科目ナンバリング：SNE123093)				
授業担当者 (所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）に ついて指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実戦事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ 保 育現場における特別支援』	松井剛太・七木田敦編著	教育情報出版	2023年	978-4-909378-49-1	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの 説明、障害児保育Ⅱの概要	シラバスを確認しておくこと（90分）	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる （90分）
2	保育場面の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「障害のある子どもの保育とは」を事前に 読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
3	保育場面の事例を通して学ぶ②（保育計画の立案）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでお くこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
4	保育場面の事例を通して学ぶ③（保育計画の立案 2）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでお くこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
5	保育場面の事例を通して学ぶ④（ロールプレイ 個 別援助）	教科書の「かかわりの基本・ていねいなかかわり」 を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
6	保育場面の事例を通して学ぶ⑤（ロールプレイ 集 団援助）	教科書の「学習に障害のある子どもの保育」を事前 に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
7	家族支援の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと （90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
8	家族支援の事例を通して学ぶ②（面接場面のロール プレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと （90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
9	家族支援の事例を通して学ぶ③（保護者会運営のロ ールプレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと （90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
10	スーパービジョンとチームワーク①（所内ケース検 討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前 に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
11	スーパービジョンとチームワーク②（所内ケース検 討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前 に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
12	DVDの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	DVD視聴時のメモを元に整理する。（90分）
13	他機関連携の事例を通して学ぶ②（児童相談所・保 健所）	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
14	他機関連携の事例を通して学ぶ③（早期療育システ ム）	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
15	障害児保育にかかわる保育士の資質について総合的 に検討する。 「授業改善アンケートの実施」	配布した資料を事前に読んでおくこと（90分）	配付資料に基づき復習しておくこと（90分）
16	定期試験「60分の試験終了後、残り30分で解 説をし、フィードバックする」 科目を終了して『身に付く力』についての検証	指定した教科書や講義内容について整理しておくこ と（90分）	試験の結果を見直す（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	WEBデザインⅣ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 山腰 雅樹)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。							
授業の位置づけ							
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、制作現場に即した実践的な知識・技術を習得する。							
授業全体の内容と概要							
制作現場で利用される代表的な制作ツールを用いた演習を通してHTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得する。							
授業の方法							
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い（必要があれば資料を配布）演習を行う。 また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
Adobe CCライセンス必須。 欠席した場合は次の授業までに制作内容を補完しておくこと。 コンピュータを利用する為、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 4年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	WEBデザインⅣ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	山腰 雅樹 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者： 山腰 雅樹)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する 技術や知識を実践を通して指導する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 WEB制作にまつわる環境の基礎知識 サーバ・ドメインの基礎知識	シラバスを読んでおくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	jQueryの基礎知識 jQuery基礎演習①	PC内の制作環境に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	jQuery基礎演習②	jQueryの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	アニメーションの基礎知識 アニメーション演習①	HTMLとCSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	アニメーション演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	レスポンシブWEBデザインの基礎知識 メディアクエリ基礎演習	CSSの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	SASSの基礎知識 SASS基礎演習	CSSとメディアクエリの基本について再確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	ページ制作演習①	前回までの制作データを整理しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	ページ制作演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	PHPの基礎知識 PHP基礎演習①	前回までの制作データを整理しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	PHP基礎演習②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
12	課題演習 (サイト制作演習) ①	前回までの制作データを整理しておくこと・該当資料を確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
13	課題演習 (サイト制作演習) ②	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
14	課題演習 (サイト制作演習) ③	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
15	課題演習 (サイト制作演習) ④	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
16	課題演習 (サイト制作演習) ⑤ フィードバック 授業改善アンケートの実施	前回までの制作内容に不備がないことを確認しておくこと (90分)	演習内容を振り返り知識を定着させること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学 (科目ナンバリング：SPS522054)					
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：天野 雅斗）		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的 活用方法について講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する科目。							
到達目標							
人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を説明できる。運動・スポーツにおける生理学的変化を理解し、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。							
授業全体の内容と概要							
前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG5. ジェンダー平等を実現しよう」の関連授業。							
授業の方法							
各回のテーマについてパワーポイント及び配布物資料で講義する。また、スポーツ現場で起こる生理的要因が影響するシーンを題材にしてグループディスカッションを行い理解を深める。双方向授業を展開するためにMentimeterやMicrosoft Teams を活用したExcelやPower Pointでの意見集約・共同作業を行う。また、確認テストをMicrosoft Forms で時間内に実施し学生全体の理解度を把握し、指導する。フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で1回の欠席とする。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	40%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学 (科目ナンバリング：SPS522054)				
授業担当者 (所属・職名)	天野 雅斗（経営学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2（単位認定責任者：天野 雅斗）			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的 活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学について シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の 説明含む）	スポーツ生理学とはどのような分野であるかを予習 し理解しておくこと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
2	筋収縮とエネルギー 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
3	筋線維の種類と特徴 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
4	筋の収縮様式と筋力 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
5	神経系の役割 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
6	運動と循環 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離） 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量） 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
9	運動とホルモン 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
10	身体組成と肥満 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
11	運動と体温 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
12	運動と疲労 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
13	運動と栄養 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
14	老化と身体機能 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを 実施するので、復習しておくこと。（90分）
15	運動と生活習慣病 小テストの結果について授業内でコメントをしてフ ィードバックする	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておく こと。（90分）	学習内容の復習をしておくこと。（90分）
16	試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説をし、フ ィードバックする	試験範囲を復習し、スポーツ生理学の専門知識を説 明できるようにしておくこと。（90分）	学習内容の復習（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	2015	9784764411593	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング：CHS122095)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードなどを参照すること			
オフィスアワー						

概要

履修目標																								
以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解する。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP 3，DP 4，DP 5に対応する。																								
到達目標																								
①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解することができる。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。																								
授業の方法																								
授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td></td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのために「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。					

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。	
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。	
保育士の行う子育て支援の内容について	保育士の行う子育て支援の内容について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができなかった。	
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング：CHS122095)					
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：杉本 大輔)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボードなどを参照すること			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認、履修による「身につく力」の説明をきむ）・子育て支援の特性①子どもの保育とともに行う保護者の支援	保護者の支援について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
2	子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
3	子育て支援の特性③保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	多面的な理解について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
4	子育て支援の特性④子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
5	子育て支援の展開①子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライアントの状況・状態の把握について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
6	子育て支援の展開②支援計画と環境の構成	支援計画について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
7	子育て支援の展開③支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
8	子育て支援の展開④社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
9	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所等における支援	保育所等における支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
10	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
11	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（４５分）
12	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（９０分）
13	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応（９０分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
14	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
15	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑦多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとめ（授業改善アンケートの実施）	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭（４５分）	事例研究（４５分）
16	課題（レポート）に対する解説を行いフィードバックする。レポート提出により身につく力の検証を行う。	事例研究（４５分）	事例研究（４５分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122096)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		湯浅 頼佳 (	研究室等所在	1号館2階 (吉江 湯浅)	1号館3階 (
単位数	2 (単位認定責任者：)		吉江 幸子		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行 う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
1. 保育実習の意義と目的を理解する。 2. 実習実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 児童虐待について理解を深める。 5. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。							
到達目標							
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。							
授業全体の内容と概要							
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について学修する。 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他 (授業の方法参照)
履修上の注意事項							
「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。 ①レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日報、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を基準に則り評価する。 ②正当な理由なき遅刻や欠席及び保育者の資質に欠けると判断された学生は、実習をとりやめとする。 ③実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。 ④実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出1回課す。 なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。 ⑤実習履修要件として2年次後期の実習選考試験の合格及び次の科目を取得している事を原則とする。 「児童・家庭福祉」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「保育内容演習Ⅰ～Ⅲ」等。詳しくは年度初めのオリエンテーション時に説明する。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
通年科目であるが、単位認定に必要な最低出席回数は、前期１１回以上及び後期１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	保育の専門的知識について十分理解していた。	保育の専門的知識について概ね理解していた。	保育の専門的知識について理解していた。	保育の専門的知識について多少は理解していた。	保育の専門的知識について理解していなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習指導Ⅰ (科目ナンバリング：CHS122096)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授) 社会福祉学科・専任講師		湯浅 頼佳 (	研究室等所在	1号館2階 (吉江) 湯浅	1号館3階 (
単位数	2 (単位認定責任者：		吉江 幸子)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容		保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行 う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林 幸範 編著	同文書院	2020年	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 履修によって「身に付く力」の説明を含む (吉江・湯浅)	保育所実習の目的について考え、教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
2	保育所実習の意義 (1) 実習の目的 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
3	保育所実習の意義 (2) 実習の概要 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
4	保育所実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
5	保育所実習の内容と課題の明確化 (2) 実習の課題 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
6	保育所実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
7	保育所実習に際しての留意事項 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
8	保育所実習に際しての留意事項 (3) 実習生としての心構え (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
9	保育所実習の計画と記録 (1) 指導計画の作成 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
10	保育所実習の計画と記録 (2) 指導計画の実践 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
11	保育所実習の計画と記録 (3) 指導計画の改善 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
12	保育所実習の計画と記録 (4) 実習における記録及び評価 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
13	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 保育所実習の総括と自己評価 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
14	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化 (吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
15	保育所実習報告会 (吉江)	保育所実習報告会の資料を作成する (45分)	保育所実習報告会のまとめと反省を行う (45分)
16	保育所実習のまとめと振り返り 「身に付く力」の検証 (吉江)	保育所実習のまとめと振り返りの準備をする (45分)	施設実習の目的について考える (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実習の手引き』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	施設実習のオリエンテーション 履修によって「身に付く力」の説明を含む (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
18	施設実習の意義 (1) 実習の目的 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
19	施設実習の意義 (2) 実習の概要 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
20	施設実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
21	施設実習の内容と課題の明確化 (2) 実習の課題 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
22	施設実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
23	保育所実習に際しての留意事項 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
24	施設実習に際しての留意事項 (3) 実習生としての心構え (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
25	施設実習の計画と記録 (1) 指導計画の作成 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
26	施設実習の計画と記録 (2) 指導計画の実践 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
27	施設実習の計画と記録 (3) 指導計画の改善 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
28	施設実習の計画と記録 (4) 実習における記録及び評価 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
29	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 保育所実習の総括と自己評価 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
30	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化 (湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく (45分)	ノート整理を含めた復習を行う (45分)
31	施設実習報告会 (湯浅)	施設実習報告会の資料を作成する (45分)	施設実習報告会のまとめと反省を行う (45分)
32	施設実習のまとめと振り返り 「身に付く力」の検証を含む (湯浅)	施設実習のまとめと振り返りに向けて準備をする (45分)	施設実習について振り返り考察する (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	クラウド [®] コンピ ューティング [®] (科目ナンバリング：MUD423059)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者： 由水 伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワーク の構築・運用に必要な知識について講義を行う			
オフィスアワー	講義時間以外は随時実室可 (会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

概要

履修目標																								
・クラウドコンピューティングの理論知識、実践的スキル、クリティカルシンキングと問題解決力を身に付ける科目である。 ・インターネットを支える技術を基盤とした応用性の高い仕組・技術を理解する。																								
授業の位置づけ																								
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
・クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデルおよびクラウドの利点と課題に関する知識を修得する。 ・クラウドサービスプロバイダーの基本的操作、クラウドリソース管理、アプリケーションのデプロイメントとモニタリングを行うことができる。 ・クラウドコンピューティングを用いたビジネスや技術的課題の解決策の考案ができる。 ・クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティを考慮に入れた提案ができる。																								
授業全体の内容と概要																								
基礎から応用まで段階的に学習を進め、クラウドコンピューティングの重要性とその応用を理解する。 「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。																								
授業の方法																								
授業の中ではパソコンやモバイル端末などを利用した実践的な学習機会を提供し、理論と実践の橋渡しを図る。 また、プロジェクトやケーススタディを取り入れることで、自発的な学習につなげる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td>○</td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td></td><td>ロールプレイ</td><td>○</td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td>○</td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td>○</td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。 ・公欠や病欠などやむを得ない事情による欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は11回以上。 30分未満の遅刻・早退は出席0.5回分として扱い、30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。 授業中の課題も評価に含めるので、欠席をするとS評定の取得は困難となる点に注意すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	60%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理論知識の理解 クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデル (IaaS、PaaS、SaaS)、およびクラウドの利点と課題に関する知識。	理論知識を正確に理解し、実社会での利活用事例を参考に、さまざまな問題解決の仕組みを構築できる。	理論知識を正確に理解し、実社会での利活用事例を参考に、身の回りの問題解決の仕組みを構築できる。	理論知識を正確に理解し、実社会での利活用事例を参考に、身の回りの問題解決の仕組みを考案できる。	理論知識の基本は理解している。	クラウドコンピューティングの基本概念の理解が不十分。授業内容の基本的な事項も理解していない。
実践的スキル クラウドサービスプロバイダーの基本的な操作、クラウドリソースの設定と管理、簡単なアプリケーションを利用可能とし、モニタリングを行う能力。	実践的な操作やタスクの実行が完全にできたと、効果の良い最適な利用方法を構築・提案できる。	実践的な操作やタスクの実行が完全にでき、他者に説明、支援することができる。	実践的な操作やタスクの実行が十分でき、応用することができる。	実践的な操作やタスクの実行が十分できる。	実践的な操作やタスクの実行が十分にできない。
クリティカルシンキングと問題解決 クラウドコンピューティングを用いたビジネスや技術的課題の解決策の提案、クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティの考慮。	複雑な問題に対して、正確な知識から確実な対応ができる。	複雑な問題の解決ができる。また、さまざまな事象に対して対応することができる。	基本的な問題解決はできる。また、よく起きる事象に対して対応することができる。	単純な問題に対してのみ解決策を提案できる。	問題解決能力が不足しており、課題に対して効果的な解決策を提案できない。
クラウドコンピューティングのセキュリティ管理	ネットワークの高度な知識を持ち、クラウドコンピューティングの特性を理解した上で、システムレベルでのセキュリティ対応ができる。	ネットワークの知識を持ち、クラウドコンピューティングの特性を理解した上で、システムレベルでのセキュリティ対応ができる。	ネットワークの知識を持ち、クラウドコンピューティングの特性を理解した上で、ユーザーレベルでのセキュリティ対応ができる。	ネットワークの知識を持ち、ユーザーレベルでのセキュリティ対応ができる。	ネットワークおよびセキュリティの知識が不十分である。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	クラウドコンピューティング (科目ナンバリング：MUD423059)					
授業担当者 (所属・職名)	由水 伸 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：由水 伸)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワーク の構築・運用に必要な知識について講義を行う			
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可 (会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)と受講の注意点、授業の概要、授業改革	シラバスを確認し授業内容を理解する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
2	クラウドコンピューティングのための基礎知識 ハードウェアとソフトウェア コンピューターネットワーク	コンピュータを構成する主な部品とその役割を予習 する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
3	クラウドコンピューティングとインターネット LANとインターネット VPN (Virtual Private Network) とクラウドネット	インターネットの歴史について調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
4	クラウドコンピューティング クラウドサービスモデル (IaaS、PaaS、SaaS) CDN (Content Delivery Network)	クラウドとは何かを予習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
5	クラウドストレージとアプリケーション (1) OneDriveとSharePoint、 Microsoft365を題材にした演習 Officeアプリケー	クラウドサービスにはどのようなものがあるかを予 習する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
6	クラウドストレージとアプリケーション (2) Microsoft365を題材にした演習 Officeアプリケー ションを利用したコラボレーション	Office365のクラウド版とデスクトップPC版の機能 の違いを調べる (90分)	授業内容の復習をする (90分)
7	クラウドストレージとアプリケーション (3) Google のクラウドサービスについて アカウントID配布、サービス内容の確認	Office365とGoogleのクラウドアプリケーションを 比較する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
8	クラウドストレージとアプリケーション (4) Google のクラウドサービスを利用した演習 Googleアプリケーションを利用したコラボレーショ	Googleアプリケーションをより理解する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
9	クラウドストレージとアプリケーション (5) 様々なクラウドサービスの利用	MicrosoftとGoogle以外のクラウドサービスの調査 (90分)	授業内容の復習をする (90分)
10	生成AIの種類と特徴、利用と注意点 データ分析とクラウド、AIと機械学習サービス 演習 AIによるコンテンツ生成 (文章、画像、ブレ	AIによって生成されたインターネット上のコンテン ツを探す (90分)	授業内容の復習をする (90分)
11	クラウドの経済性とビジネスモデル クラウドコンピューティングの将来とトレンド クラウドとIoT (Internet of Things)	AWS、Azure、Google Cloudについて調査する (90 分)	授業内容の復習をする (90分)
12	クラウドのセキュリティとプライバシー セキュリティの基礎、暗号化とデータ保護 知的財産権の問題、法規制と標準	インターネット上の最近の情報流出事件と原因につ いて調査する (90分)	授業内容の復習をする (90分)
13	クラウドを使ったコラボレーション演習 (1) グループ分け 事例研究テーマ決定 利用ツールの 選択	事例研究テーマの候補を考える (90分)	授業内容の復習をする (90分)
14	クラウドを使ったコラボレーション演習 (2) プレゼンテーション資料の作成	企業におけるクラウドコンピューティングの事例を 調査する (90分)	発表資料の作成を続ける (90分)
15	クラウドを使ったコラボレーション演習 (3) グループ別発表 フィードバックと質疑応答	発表資料を完成させる (90分)	定期試験に備えて全講義内容を復習する (90分)
16	定期試験 (60分) と解答・解説 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	定期試験に備えて全講義内容を復習する (90分)	総復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅰ (科目ナンバリング：CHS123099)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授) 社会福祉学科・専任講師		湯浅 頼佳 (	研究室等所在	1号館2階 (吉江 湯浅)	1号館3階 (
単位数	4 (単位認定責任者： 吉江 幸子)				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。

2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。

3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。

4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

保育所実習、児童福祉施設等実習を通して、保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す。

授業全体の内容と概要

保育所実習（10日以上）、保育所以外の児童福祉施設等実習（10日以上）を通して、保育士の役割や機能、計画と記録について学修する。専門職としての保育士の役割と職業倫理について学修する。「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

前期に保育所実習（10日以上：2単位）と後期に保育所以外の児童福祉施設等（10日以上：2単位）の実習合計4単位を履修する。実習先の保育士から指導を受け、また実習期間中は大学の担当教員の訪問指導を受けることができ、質問や相談の時間を設定し、実習先の指導者からのコメント等をフィードバックする。実習中でであってもMicrosoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①レポート、課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を基準に則り評価する。

②正当な理由なき遅刻や欠席及び保育者の資質に欠けると判断された学生は、実習をとりやめとする。

③実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。

④実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出1回課す。なお、詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。

⑤保育実習履修要件として2年次後期の実習選考試験の合格及び次の科目を取得している事を原則とする。
「児童・家庭福祉」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「保育内容演習Ⅰ～Ⅲ」等詳細は年度初めのオリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等を評価方法の基準に則り総合的に評価する。 ※評価基準は、「保育実習指導のミニマム・スタンダード」（全国保育士養成協議会）に則り評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
10%	10%	20%	10%	10%	40%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門知識の活用について十分に理解した。	保育の専門知識の活用について概ね理解した。	保育の専門知識の活用について理解した。	保育の専門知識の活用について多少は理解した。	保育の専門知識の活用について十分に理解できなかった。	
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できなかった。	
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。	
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習Ⅰ (科目ナンバリング：CHS123099)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授) 社会福祉学科・専任講師	湯浅 頼佳 (	研究室等所在	1号館2階 (吉江 湯浅)	1号館3階 (	
単位数	4 (単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範編著	同文書院	2020	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 シラバス及び科目の履修を通して「身に付く力」の説明を含む (吉江・湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
2	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
3	保育所保育指針に基づく保育の展開 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
4	子どもの観察とその記録による理解 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
5	子どもの発達過程の理解 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
6	子どもへの援助や関わり (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
7	保育の計画に基づく保育内容 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
8	子どもの発達過程に応じた保育内容 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
9	子どもの生活や遊びと保育環境 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
10	子どもの健康と安全 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
11	全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
12	記録に基づく省察・自己評価 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
13	保育士の業務内容 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
14	職員間の役割分担や連携・協働 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
15	保育士の役割と職業倫理 (吉江)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
16	保育所実習のまとめ 科目を履修して「身に付く力」の検証 (吉江)	実習の総括と課題の明確化を行い、実習最終日に備える (45分)	日誌を全日程完成させ提出する (45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実習の手引き』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	施設実習オリエンテーション (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
18	施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
19	施設の役割と機能 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
20	子どもの観察とその記録 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
21	個々の状態に応じた援助や関わり (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
22	計画に基づく活動や援助 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
23	子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
24	子どもの活動と環境 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
25	健康管理、安全対策の理解 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
26	支援計画の理解と活用 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
27	記録に基づく省察・自己評価 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
28	保育士の業務内容 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
29	職員間の役割分担や連携 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
30	家庭・地域社会に対する理解と連携 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
31	保育士の役割と職業倫理 (湯浅)	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える (45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる (45分)
32	施設実習のまとめ 科目を履修して「身に付く力」の検証 (湯浅)	実習の総括と課題の明確化を行い、実習最終日に備える (45分)	日誌を全日程完成させ提出する (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング：SNE122111)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理 解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を修得する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	２０％	０％	０％	２０％	１０％

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
病弱教育の基礎的な知識・ 技能の習得	知識・技能についての基礎 的内容について高い関心をも って理解し、さらに深める ことができた。	知識・技能の基礎的内容に ついて関心をもって理解し 、学修できた。	知識・技能の基礎的内容に ついてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分 ながら理解することができ た。	知識・技能の基礎的内容に ついて理解できなかった。	
病弱教育に関する思考・判 断・表現	テーマに基づき、積極的に 思考・判断し、個人やグル ープで工夫して積極的に表 現できた。	テーマに基づき、積極的に 思考・判断し、個人やグル ープで意欲的に表現でき た。	テーマに基づき、積極的に 思考・判断し、個人やグル ープで表現できた。	テーマに基づき、思考・判 断し、個人やグループで取 り組みができた。	テーマの受け止め方が不十 分で思考・判断に課題がみ られ、表現できなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加 することができた。	授業に積極的に参加するこ とができた。	授業に関心をもって参加す ることができた。	授業への関心が低いが参加 できた。	授業への態度に課題があり 、参加できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング：SNE122111)					
授業担当者 (所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：千葉 聡美)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理 解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-543-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス説明とオリエンテーション 科目を修了して『身に付く力』についての説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する (90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。 (90分)
2	病弱教育の歴史の変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
4	教育課程と学習指導要領 (1)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
5	教育課程と学習指導要領 (2)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
6	個別的教育支援計画と個別の指導計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
7	教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成 (90分)
8	自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
9	病弱教育におけるICTの活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
10	病気等の状態に応じた指導と配慮	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
11	重度重複児の指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
12	訪問教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
13	保護者との連携	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
14	多職種連携と医療的ケア	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する (90分)
15	進路指導と自立 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する (90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成 (90分)
16	定期試験 (60分の試験終了後、残りの30分で解説しフィードバックする。) 科目を修了して『身に付く力』を自己検証	講義内容の重要事項について整理しておくこと (90分)	試験の結果を見直す (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	知的障害教育Ⅱ (科目ナンバリング：SNE123108)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障 害教育）について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等にに応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
特別支援学校学習指導要領等を基準として、知的障害教育における教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの考え方、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育における自立活動の指導や各教科等の授業づくりにあたって、効果的な指導を行うために必要な指導内容・方法や児童生徒理解の方法等についての基礎的知識を理解する。							
授業全体の内容と概要							
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係わる教育課程の編成や個別の指導計画の作成、授業づくりの仕方、各種検査の理解について、具体的な事例や演習方式も取り入れながら行う。 「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。 ICTに関連して、授業についての質問などは、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学習することができた。	専門的な内容を学修することができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅱ (科目ナンバリング：SNE123108)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障 害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、科目を終了して「身に付く力」についての説明	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	知的障害教育の基礎知識、関係する法令・制度等（教育基本法や学校教育法、学習指導要領等）の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	特別支援学校学習指導要領のポイントとカリキュラム・マネジメントについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	特別支援学校や特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	知的障害教育の歴史の変遷～戦前・戦後の教育、学習指導要領等の変遷等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	教育課程（1） ～教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	教育課程（2） ～各教科等の指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	教育課程（3） ～各教科等を合わせた指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	教育課程（4） ～自立活動の指導と個別の指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	教育課程（5） ～学習指導案の作成と教材・教具の工夫、ICTの活用等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害に関する理解（1） ～児童生徒理解と就学相談等の実際	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	知的障害に関する理解（2） ～発達検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害に関する理解（3） ～社会生活能力検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害に関する理解（4） ～知能検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	まとめと今後の課題 ～講評、フィードバック～ 科目を終了して「身に付く力」についての検証、授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の授業づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治 ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
4	『教育の情報化に関する手引』	文部科学省		2019		
5	『教育の情報化に関する手引（追補版）』	文部科学省		2020		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング：SNE122114)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に応じた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する科目							
到達目標							
重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。							
授業全体の内容と概要							
重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握（アセスメント、心理検査）、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する。 「SDGs 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、プレゼンテーションソフトによるスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。 一授業の前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。 資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。 内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。 一授業の終了前には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。 Microsoft Forms等のオンライン調査ツールを活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。 学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内容に関するプレゼン資料の補足説明や、レポート課題の出題、重要部分の小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容及び授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。 中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
重複障害及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、さらに深化させたり、発展的な学習ができた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について部分的に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング：SNE122114)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション (シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付く力」の説明、重複	シラバスを読む (90分)	内容を振り返る (90分)
2	重複障害と発達障害等の理解について	状態像を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
3	重複障害と発達障害等の定義と診断基準について	定義と診断基準を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
4	重複障害と発達障害等の行動の特徴と原因等の変遷について	行動の特徴と原因論を調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
5	重複障害及び自閉スペクトラム症等の状態像とその理解について	高機能自閉症等について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
6	重複障害及び限局性学習症の状態像とその理解について	学習障害について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
7	重複障害及び注意欠如多動症の状態像とその理解について	注意欠陥多動性障害について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
8	知的障害と重複障害等について	知的発達の遅れについて調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
9	知的障害児及び重複障害児への学習支援について	知的障害児について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
10	発達障害児の学びと状態状態の変化について	二次的な障害について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
11	限局性学習症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
12	注意欠如多動症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
13	自閉スペクトラム症（高機能自閉症、アスペルger症候群）等の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
14	自閉スペクトラム症（アスペルger症候群）の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
15	アセスメントと実態把握等について 科目を修了して「身に付く力」の検証、授業改善アンケートの実施	アセスメント等について調べる (90分)	重要事項を整理する (90分)
16	定期試験 (50分間の筆記テスト、終了後15分間の解答解説の実施)	全内容を整理する (90分)	全内容を振り返る (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2	『新版子どもの発達障害事典』	原 仁	合同出版	2019	978-4-7726-1382-8	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(3年) (科目ナンバリング：SNE123116)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別支援学校の校種、教育の概要等について理解し、対象児童生徒の特徴、適切な教育的なかわり、配慮等について理解する。 特別支援学校における教育実習に必要な基本的な事項、授業設計に関することなど、模擬体験の演習を通して、体験的に理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
特別支援教育の制度や概要を理解するとともに、特別支援学校の校種、対象、教育内容等がわかる。 特別支援学校における対象児童生徒の特徴、児童生徒に対する教育的なかわり、配慮等がわかる。 特別支援学校における教育実習に必要な体験の意義、模擬授業体験の演習を通して授業設計と授業を実施できる。							
授業全体の内容と概要							
特別支援教育の理念、障害のある児童生徒の教育の意義について指導する。 特別支援学校の校種、教育の概要等、対象児童生徒の特徴、児童生徒に対する教育的なかわり、配慮等について指導する。 教育実習に必要な基本的な知識、態度について模擬体験により指導する。 特別支援学校における教育課程や授業設計について指導し、学習指導案の作成、授業実施、授業反省等、教育実習中に実施する一連の取組について、模擬授業体験の演習を通して指導する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイント及び配布資料による講義形式とするが、模擬授業に関する授業設計や学習指導案の作成、模擬授業の実施については、実際の学校教育現場に近い形で進ずる。 模擬授業の学習指導案、授業反省会等には、コメントレフィードバックする。 夏季休業中には、学校教育現場の見学や公開授業研究会等の参加を通して指導する。 学生の不明点等については、チャットにより迅速に解決できるようにする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
4年次に体験する特別支援学校の教育実習（事前・事後指導）の単位取得に必修科目であること。 日常的に障害のある児童生徒の生活情報や教育情報に関心をもって把握しておくこと。 通年の授業時間以外に、特別支援学校の参観や研究授業等には参加すること。 特別支援学校に在籍する児童生徒の障害の状態や行動特徴について事前に理解しておくこと。 特別支援学校における授業のメインティーチャーとしての姿を想定して授業に臨むこと。 授業の構想、設計、学習指導案の作成にかかわる情報の収集、思考を繰り返すこと。 模擬授業の実施では、授業を多角的に観望したり考えたりに授業改善を行う実践的態度を身に付けるために、授業を進行するメインティーチャーをはじめ、生徒役や観客者の役割を担い、事前期日までに関与な準備をすること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。
資格指定科目
教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。 模擬授業において、メインティーチャー及びサブティーチャー、障がいのある生徒役、オブザーバーを最低1度は体験することとする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	10%	60%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的内容について高い関心をもつて理解し、さらに深めてようとすることができた。	知識・技能に関する基礎的内容について、関心をもつて理解し、学修することができた。	知識・技能に関する基礎的内容を学修することができた。	知識・技能に関する基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的内容の理解ができなかった。
授業設計及び実施にあたっての思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分にできなかった。
日常の授業や模擬授業体験への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(3年) (科目ナンバリング：SNE123116)					
授業担当者 (所属・職名)	堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、科目を修了して「身に付いた」の説明等	シラバスを読む (90分)	重要事項を整理する (90分)
2	特別支援学校における教育実習の意義や目的について	意義や目的を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
3	教育実習のスケジュール、留意点と心構え（挨拶、服従規律、注意点）	実習の留意点や心構えを考える (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
4	実習日誌の書き方、文章の書き方	実習日誌の目的、書き方を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
5	特別支援学校における教育の概要、学習指導の在り方について	特別支援学校の教育の概要を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
6	授業の在り方（チーム・ティーチングなど）と学習指導案の作成方法について（学習指導案の構成と要素、記入方法等）	特学校の学校の特別疎遠学校の授業の在り方を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
7	模擬授業体験の実施方法について（役割分担、説明と反省会等の在り方）	模擬授業の実施模擬授業の方法や役割分担、留意点を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
8	教科等を合わせた授業について 学習指導案の作成方法について	学習指導案の作成方法を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理すること (90分)
9	模擬授業の実施と反省会1	模擬授業の方法や役割分担、留意点を調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
10	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会2	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
11	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会3	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
12	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会4	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
13	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会5	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
14	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会6	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
15	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 授業改善アンケートの実施7	学習指導案から模擬授業の展開について知る (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
16	模擬授業（前半）のまとめと今後の課題 新たな指導の形態による模擬授業実施の説明 模擬授業実施方法の確認	模擬授業の改善点を確認する (90分)	まとめと課題を整理する (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎 猛 小泉博明	小学館	2015	978-4-09-105015-1	
3	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	授業の在り方（チーム・ティーチングなど）について 授業の展開と教材教具の開発と作成	授業の在り方について調べる (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
18	学習指導案の作成方法について（学習指導案の構成と要素、記入方法等）	学習指導案の作成方法について調べる（90分）	授業内容と課題等を整理する (90分)
19	模擬授業の実施と反省会7	模擬授業の展開を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
20	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会8	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
21	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会9	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
22	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会10	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
23	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会11	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
24	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会12	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
25	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会13	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
26	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会14	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
27	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会15	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
28	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会16	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
29	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会17	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
30	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会18	前回の模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業内容と課題等を整理する (90分)
31	模擬授業（後半）の改善点のまとめ	模擬授業の改善点を確認する (90分)	授業の改善点のまとめを整理する (90分)
32	模擬授業（後半）の改善点のまとめ 学習指導案の作成のまとめ 教育実習の留意点、心構え等の確認、科目を修了し	模擬授業の改善点を確認する (90分)	教育実習に必要な事項を整理する (90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(4年) (科目ナンバリング：SNE123116)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階(木村)・2号館7階(千葉)		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)				CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事前指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別支援教育の趣旨や内容を理解するとともに、特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な教育実習の意義を理解する。模擬授業等の演習では、教育実習を見据え、学校現場で教壇に立つ教師の役割を意識して学ぶ。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
特別支援学校教育の概要および授業の実践について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようにする。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業はパワーポイント等の配布物資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
1 常に障害のある子どもの前に立って指導する姿を想定して授業に臨むこと。 2 4年生での特別支援学校の教育実習（事前・事後指導）の単位取得に必修科目であること。 3 普段から障害児のある子どもの生活や教育に関する新聞記事やテレビ情報を収集すること。 4 学習指導案作成にかかわる情報の収集に努め、教育実習に備えること。 5 下記の授業以外に特別支援学校の参観や研究授業等に参加するようにすること。 6 模擬授業を行う際には、授業者以外は生徒役を实践して授業案の作成・授業展開等について学ぶこと。 7 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容を学修することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。
授業づくりに対しての思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分にできなかった。
授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	特別支援教育実習(事前指導)(4年) (科目ナンバリング：SNE123116)					
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階(木村)・2号館7階(千葉)		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)			CAP制	×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事前指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 「シラバスの説明」「身に付く力」「授業改善アンケート結果反映の説明」「講義の	教育実習に臨む心構えを発表する準備をしておくこと。(90分)	オリエンテーションの重要事項を整理すること。(90分)
2	特別支援学校の教育実習の意義や目標 教育実習の実際(挨拶、服務規律、注意点)	事前に意義や目標を調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
3	実習のスケジュールと心構え 実習日誌の書き方、文章の書き方	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
4	学習指導案の作成Ⅰ ・学習指導案の構成と要素 ・学習指導案の記入の方法	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
5	学習指導案の作成Ⅱ ・学習指導案の記入の実際	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
6	学習指導案の作成Ⅲ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
7	模擬授業の実際Ⅰ(各教科を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
8	模擬授業の実際Ⅱ(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
9	模擬授業の実際Ⅲ(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
10	模擬授業の実際Ⅳ(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
11	学習指導案の作成Ⅳ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
12	学習指導案の作成Ⅴ ・各自で作成	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
13	模擬授業の実際Ⅴ(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
14	模擬授業の実際Ⅵ(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
15	模擬授業のまとめと今後の課題 ・振り返りレポート	模擬授業の反省点等を明確にして発表できるよう準備しておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
16	事前指導のまとめ(フィードバックと身に付く力の検証) *学校投書	講義等の内容を整理しておくこと。(90分)	講義内容を整理すること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎 猛 小泉博明	小学館	2015	978-4-09-105015-1	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング：S0P122057)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

概要

履修目標
社会心理学は私たちの日常生活をあつかう学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学習する。 理解するためのアプローチは大きく2つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心进行ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的变化をあつかう「社会学的社会心理学」(中村隆吉：2006)である。 ここでは、社会学的理解と心理学的理解の2つの観点から、社会意識、実験社会心理学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

①社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。
②社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。

評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたま、合格最低レベル(Q)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が勘案される規定があるので留意する。

授業全体の内容と概要

「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会心理学における自己選択、自己決定について学習する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時におこなっている、その情報の解釈過程について考察する。

授業の方法

「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。
文献精読は縮約(大野晋『日本語練習帳』岩波書店、1999)、三色線引き読み(齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)、論理的文章；段落と全体の要旨把握(遠藤・渡辺：2021)の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解(下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。
「使用教材」：授業はテキスト、副教材(プリント資料、映像資料)を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。
「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。
個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席要件は11回(全授業回数2/3以上)である。
文献精読の分担報告(本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語をについて、例をあげて説明記述する)をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	60%	0%	0%	0

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	文献の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容のいづつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でいねいに説明した。	文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいづつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。	文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、説明することが難しく、半分ではないが、自分の言葉で説明をおこなうことができた。	文献の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選り引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング：S0P122057)					
授業担当者 (所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：)		松下 守邦	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、属修学生と授業者の属修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	2 0 1 4	9784167901554	文春文庫S13-1
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果 反映と、本科目を修了して「身に付く力」について 説明をする。学生報告の役割分担を確認する。	シラバスを熟読する（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
2	自我の3側面（C・H・クレーリー）「人間の自我 は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって 生じる自己感情からなっている」（船津衛）	配布資料を読んで予習をする。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境 とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講Ⅰ～Ⅳを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の 自己認識	テキスト第2講Ⅰ～Ⅵを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己 認識	テキスト第2講Ⅴ～Ⅷを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講Ⅰ～Ⅱを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会 資本の変化とエコーチェンバー効果がもたらす自己 認識	テキスト第3講Ⅲ～Ⅳを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
8	マシュマロテスト、ヒューリスティック、提示方法 バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講Ⅰ～Ⅳを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講Ⅰ～Ⅲを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講Ⅳ～Ⅵを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテ ールと自己認識	テキスト第6講Ⅰ～Ⅲを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選 択の飽和と自己認識	テキスト第6講Ⅳ～Ⅵを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対 的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講Ⅰ～Ⅲを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラン ア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講Ⅳ～Ⅶを予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
15	三元（選択、偶然、運命）の連立、直感、熟考、選 択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。（90分）	今回の学習内容を復習する。（90分）
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括 授業の総括とフィードバック、本科目を修了して「 身に着く力」について検証、授業改善アンケート	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を 整理する。（90分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期 日までに提出する。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『自分とは何か-「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	2 0 1 1	9784769912415	
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	2 0 1 2	9784163756004	
3	『THINK BIGGER』	S・アイエンガー	NewsPicksパブリッ シング	2 0 2 3	9784910063348	
4	『新 心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	2 0 0 6	9784892428401	
5	『現代文解釈の基礎』	遠藤嘉基・渡辺実	筑摩書房	2 0 2 1	9784480510730	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年 経営学科・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (科目ナンバリング：POL123133, POL422050)				
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の歴史と現状および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。
経営学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。

到達目標

①国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。

②国際政治に関する理論を理解し説明することができる。

③国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日、世界の国々はますます相互に依存し合うようになっていく。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会）の選択科目、教職課程（公民）の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を高いレベルで理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する理論を高いレベルで理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論をある程度理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができなかった。
国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができる。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて高いレベルで考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて十分に考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いてある程度考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができた。	国際社会の諸問題について国際政治の理論を用いて考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年 経営学科・3年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (科目ナンバリング：POL123133, POL422050)				
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 後藤 啓倫)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
4	第二次世界大戦－ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
5	第二次世界大戦－アジア	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
8	冷戦後の国際政治－湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
9	冷戦後の国際政治－9・11アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
10	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
11	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
12	東アジアの国際情勢 (朝鮮半島)	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
13	東アジアの国際情勢 (中国)	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分の試験終了後、残りの解説 30分で解説をし、フィードバックする) 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング：MAN423025, MAN523027)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	☐		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
国際経営の歴史的变化、全体像、国際経営の成果、課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、グローバル企業として成長していく為の資質を考え身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
国際経営についての基礎的知識の修得。							
授業全体の内容と概要							
国際経営について座学で学び、実際の動きや将来の課題等について調査学習を行い全員で最善策を考える。							
授業の方法							
板書、PCを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。定期試験の解説等のフィードバック（テストリビュー）を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本科目は出席を重視する。テキスト、ノート、筆記用具を持参しない学生は欠席とする。中間テストはこれを行わない。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には試験日を含めて最低11回以上の出席が必要です。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力・表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング：MAN423025, MAN523027)					
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者： 信濃 吉彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「はじめての国際経営」』	中川 功一, 林 正 他	有華閣ストウディ ア	2015	9784641150171	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	授業全般・評価方法についてガイダンス シラバスの説明 (科目を修了して「身に付く力」の 説明含む)	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
2	国際経営とは何か ② 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
4	多国籍企業による国際競争の歴史 多国籍企業の栄枯盛衰 ①	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
5	多国籍企業による国際競争の歴史 第二次世界大戦前後 ②	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
6	多国籍企業の組織デザイン 組織デザインから見えること ①	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
7	多国籍企業の組織デザイン 多国籍企業の戦略と組織 ②	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
8	海外子会社の経営 ①	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
9	海外子会社の経営 ② 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
10	国際マーケティング ① マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
11	国際マーケティング ② 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
12	ものづくりの国際拠点展開 ① 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
13	ものづくりの国際拠点展開 ② 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
14	国際的な人的資源管理 ① グローバル人材の時代 ノートチェック	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
15	国際的な人的資源管理 ② 海外駐在員のマネジメント ノートチェック&授業改善アンケートの実施	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。 (90分)
16	総合評価 定期試験60分、総評他30分	総復習を行い試験に備える。(90分)	必ず振り返りを行う。 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、経営学科・2年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	国際経済論 (科目ナンバリング：ECP123134, ECP422030,)					
授業担当者 (所属・職名)	小早川 俊哉 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

概要

履修目標							
経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き（特に要因）を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。							
授業の位置づけ							
「社会福祉学部の（DP2）、（DP3）、（DP4）に対応する科目」 「経営学部の（DP2）、（DP3）、（DP4）に対応する科目」							
到達目標							
国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。 国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。 地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、APEC・EUの経済統合の大枠を理解する。							
授業全体の内容と概要							
グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合（EU・ユーロ圏）の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。 「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」の関連授業							
授業の方法							
①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。 ②開始5分程は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、レジュメの空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。 ③復習を兼ねて、授業中のメモと書籍などを参考にノートにまとめることを推奨する。 ④中間試験（論述）を採点后返却する際、解答の仕方など個別に指導する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業中の積極性（質問、質問への解答など）は、その場で確認することで成績に反映させる。 遅刻3回で欠席1回とみなす。 尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。 講義で使用したパワーポイントは、單元終了後にteamsのファイルに格納する。
資格指定科目
中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11／16回以上（16回目は定期試験）。 積極的な授業参加（発言する、質問する、回答する、メモを取る、など）を平常点とする。 論述の中間試験と定期試験、平常点の統計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を履えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎理論を理解する。	どの国の経済政策が、どのように、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	日本の経済状況と経済政策の関連を説明することができた。	総需要と総供給の関連を理解できた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替について理解できた。	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合について理解できた。	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として、通関手と通関手との関係性を説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、経営学科・2年		
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (科目ナンバリング：ECP123134, ECP422030,)				
授業担当者 (所属・職名)	小早川 俊哉 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（特に、科目を終了して「身に付く力」についての説明を含む）、授業改善アンケート結果反映の説明、及びオリエンテーションとして市	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
2	総需要と総供給（GDP、GNI、など）及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
3	経済活動と物価（インフレーションとデフレーション）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
4	財政政策（政府の役割を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
5	金融政策（中央銀行の役割・機能を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
6	ポリシー・ミックス（財政政策と金融政策）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う（90分）中間試験のため見直しを行う（90分）
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト（小試験）	中間試験の準備をする（90分）	自身の解答を振り返る（90分）
8	中間小試験のフィードバックとして、答案を採点后返却すると共に解答の仕方など個別に指導する。貿易理論（比較	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える（90分）
9	外国為替理論（中央銀行のスタンスなど）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
10	貿易と外国為替（為替リスク、多国籍企業の行動）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
11	ブレトンウッズ体制（IMF、世界銀行、GATT、WTO、変動相場制など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
12	経済統合Ⅰ（FTA・EPA、ASEAN、TPP、APEC、EU、など概要）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
13	経済統合Ⅱ（統合の深化およびメリットとデメリット）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス試験範囲の提示と共に、中間試験での各自へのフィードバックの再確認と「何が身に付いたか」の	ポリシー・ミックスを復習してくる（90分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする（90分）	試験の振り返り（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	金融論 (科目ナンバリング：MOF424026, MOF524028)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2	(単位認定責任者：小林 大州介)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。					

概要

履修目標							
昨今の世界経済における金融の役割は非常に大きくなっている。貿易額を見ても、実物取引よりも金融取引の方がはるかに規模が大きい。こうした金融のダイナミクスは取引の電子化により、世界経済の変転を加速しつつある。世界経済に大きな影響を与える金融のメカニズムについて、その歴史とシステムを良く理解し、今後の世界経済を分析する目を養う事を身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
日本の金融システムを理解し、現状の世界経済を分析・説明出来る。							
授業全体の内容と概要							
1. 金融の歴史 2. 日本の金融 3. 金融システムの理解 4. 金融システムとマクロ経済学の関係の理解							
授業の方法							
パワーポイントによる講義・必要に応じて板書。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
本講義は教科書を使用せず、板書と配付資料によって行うので、必ず出席する事。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数 1 1 回。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金融の歴史について	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史や、日本の金融史を網羅的に把握している。	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史を把握している。	貨幣の発生から金融システムの成立に至る歴史を把握している。	金融システムの成立について、把握している。	金融システムの成立について、理解が見られない。
金融システムについて	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題について網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割について理解している。	金融システムに関する理解が見られない。
金融とマクロ経済について	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して、網羅的に理解している。	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して理解している。	景気循環やインフレ、デフレに関して理解している。	金融と景気循環の関係を理解している。	金融と景気の関係に関して理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	金融論 (科目ナンバリング：MOF424026, MOF524028)					
授業担当者 (所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：小林 大州介)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション：本講義の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明 講義内容と到達目標(身に付く力)について説明す	シラバスを良く読み、金融に関するネットニュース や新聞を良く読んでおく。（90分）	今後のスケジュールをよく確認しておく。（90分）
2	「金融」とは何か	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
3	金融システム発達の歴史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
4	日本の金融システム1：日本の金融史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
5	日本の金融システム2：日本の金融システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
6	「貨幣」とは何か：交換と貯蔵	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
7	資産と金融1：不確実性の回避手段としての金融	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
8	資産と金融2：金融市場と資産価格	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
9	銀行の役割と「利子」	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
10	イノベーションと金融：資金はどこから来るのか？	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
11	マクロ経済学から見た金融の役割1：金融と景気	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
12	マクロ経済学から見た金融の役割2：マクロ経済システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
13	バブル経済と金融：日本の経験を踏まえて	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
14	昨今の金融ニュースを読む：日本と世界の情勢	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
15	講義全体のまとめ	これまで講義で学んだ事を復習し、まとめておく（90分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（90分）。
16	定期試験（60分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施 授業を通しての講評を行う	試験の準備をする（90分）。	これまで講義で学んだ事を復習する（90分）。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目 展開科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング：SOC422043, SOC522042)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について考察する力を身に付ける。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分で80%以上90%未満の正答であった。	同部分で70%以上80%未満の正答であった。	同部分で60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目 展開科目	対象学科・配当	経営学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング：SOC422043, SOC522042)					
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)			研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：山本 一彦)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス……全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法・シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）、前年度授業	シラバス内容の事前確認（90分）	目的とねらいについての復習・確認（90分）
2	I．近代化と産業社会の成立 ……インダストリアリズムの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察（90分）	近代化における産業化・工業化についての復習・理解（90分）
3	II．産業社会の構造 ……基礎社会の衰耗、エンプロイ化、市場化、	産業化・工業化が社会に何をもたらしたかの事前考察（90分）	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解（90分）
4	III．高度産業社会への移行 1．脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代産業社会の特質に関する事前考察（90分）	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解（90分）
5	III．高度産業社会への移行 1．脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察（90分）	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解（90分）
6	III．高度産業社会への移行 1．脱工業化社会の到来 (2) 知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察（90分）	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解（90分）
7	III．高度産業社会への移行 1．脱工業化社会の到来 (3) 資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察（90分）	解決すべき問題の復習・確認（90分）
8	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (1) グローバリゼーションと産業	グローバリゼーションとはどのような過程かについての事前考察（90分）	グローバリゼーションによる産業・地域社会の変化についての復習・理解（90分）
9	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本的経営システ	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察（90分）	近代組織が官僚制であることの復習・確認（90分）
10	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本的経営システ	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察（90分）	産業官僚制とは何かについての復習・理解（90分）
11	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本的経営システ	日本的経営システムの特質についての事前考察（90分）	日本的経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解（90分）
12	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本的経営システ	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（90分）	日本的経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解（90分）
13	III．高度産業社会への移行 2．生産の高度化と労働・職業の変容 (3) 就業者のネットワーク	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（90分）	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解（90分）
14	IV．新しい「生産世界」へ ……産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察（90分）	インダストリアルイズムとは何であったかの復習・再確認・理解（90分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施 授業に係る講評・解説によるフィードバック 科目を修了して「身に付く力」の検証	ノートの整理と重要事項のチェック（90分）	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解（90分）
16	※試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備（90分）	解説内容の確認・理解（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング：PHE122138,)				
授業担当者 (所属・職名)	尾崎 有紀 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 尾崎 有紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方についての知識を得る。また、現代的な問題に照らしてこれらの考え方を自ら評価することで、社会における倫理的問題について主体的に思索していく能力を身につける。この際、学生主体の学びを意識し、実践的に学習する。また、これらことによって、大学生に求められる一般常識や態度を学習面及び生活面で活用できるスチューデントスキル、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できるスタディスキルを取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方について説明することができる。具体的な問題に照らして各立場の考え方についての自らの見解を述べ、他者と議論し、協調することができる。大学生に求められる一般常識や態度を学習面及び生活面で活用でき、学びを深めるために必要となる基本的な技能を学習面で活用できる。

授業全体の内容と概要

はじめに、規範倫理学について考えるきっかけを与えるため、倫理学における有名な問題である「トロッコ問題」を紹介する。続いて、規範倫理学における主要な立場である功利主義と義務論の考え方について概説する。この知識に基づいて「トロッコ問題」について再考することで、倫理的問題について主体的に思索するための機会を設ける。「トロッコ問題」という古典的な問題に加え、現代的な問題への応用も扱う。

授業の方法

授業は板書とパワーポイント資料を用いた講義形式で行う。また、グループワーク（1回）、レポート課題（1回）を実施する。レポート課題については、フィードバックとして、回収後に講評を行う。不測時における授業や補講等で、オンラインにて授業を実施する場合がある。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に関係のない私語を禁止する。レポートは、「関連文献が適切に押さえられているか」、「論理的な破綻がないか」、「オリジナルな考察が見られるか」、の3点から評価する。優先順位もこの順とする。講義で扱っていない内容や、自分の主観的な考えのみを書いたものには点数を与えない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、12回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
規範倫理学に関する基礎概念の習得	規範倫理学に関する基礎概念を深く理解でき、これらを自らの具体的な事例に適用することができ、実践に応用することができた。	規範倫理学に関する基礎概念を深く理解でき、これらを自らの具体的な事例に適用することができた。	規範倫理学に関する基礎概念をよく理解できた。	規範倫理学に関する基礎概念を理解できた。	規範倫理学に関する基礎概念を理解できなかった。
規範倫理学の主要な説についての知識の習得	規範倫理学の主要な説について深く理解でき、自ら批判的に考察することができた。	規範倫理学の主要な説について深く理解でき、自らの見解を持つことができた。	規範倫理学の主要な説についてよく理解できた。	規範倫理学の主要な説について理解できた。	規範倫理学の主要な説について理解できなかった。
具体的な事例における道徳的判断についての考察	自らの具体的な事例を考え、そこにおける道徳的判断について考察することができた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について深く考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断についてよく考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的な事例における道徳的判断について考察できなかった。
ディスカッションにおける発表	ディスカッションにおいて積極的に質の高い発表ができた。ディスカッションにおいて中心的役割を演じた。	ディスカッションにおいて積極的に質の高い発表ができた。	ディスカッションにおいて積極的に発表できた。	ディスカッションにおいて発表できた。	ディスカッションにおいて発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング：PHE122138,)					
授業担当者 (所属・職名)	尾崎 有紀 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：尾崎 有紀)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (45分)	講義内容の復習 (90分)
2	トロッコ問題	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
3	ベンサムの功利主義	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
4	洗練された功利主義 (1)	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
5	洗練された功利主義 (2)	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
6	カントの義務論 (1) 善意志	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
7	カントの義務論 (2) 義務	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
8	カントの義務論 (3) 道徳的法則	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
9	カントの義務論 (4) 仮言的命法と定言的命法	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
10	カントの義務論 (5) 自律	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
11	カントの義務論 (6) 自由	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
12	因果関係と自由意志	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
13	作品鑑賞	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
14	科学者の社会的責任 (1) ラッセル＝アインシュタイン宣言とバグウォッシュ会議	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
15	科学者の社会的責任 (2) 「責任」概念の現代的分析	主題について事前に調べておく (90分)	講義内容の復習 (90分)
16	レポートに対するフィードバック・授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	これまでの授業内容について復習しておく (90分)	講義内容の復習 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『道徳形而上学原論』	イマニユエル・カント	岩波書店	1960	4-00-336251-9	
2	『功利主義』	J. S. ミル	岩波書店	2021	978-4003900048	
3	『科学者の社会的責任』	藤垣裕子	岩波書店	2018	978-4-00-029679-3	
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	人文地理学Ⅰ (科目ナンバリング：HUG122125,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者：塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

概要

履修目標							
本授業は地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なモノの見方を身につける。また地域と災害の関係を地理学的に学ぶことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP4に対応する。							
到達目標							
1. 人文地理学の基礎を理解し、基本的な知識を説明できること。 2. 災害関連情報を収集し、活用するスキルを身に付ける。							
授業全体の内容と概要							
地理学とは土地と人との関係を議論する学問である。高等学校教育までの地理教育は「どこ」に「なに」があるのかを知識として学んできた。この授業ではそこから一歩先に進み「なぜ」そこにあるのかを考える力を養うことを目的とする。 本講義は地理学の中でも人文地理学の基礎を解説する。地理学は学際的な分野と言われ、その研究対象は幅広い。そこでまず地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」および「SDGs11. 住み続けられるまちづくりを」の関連科目。							
授業の方法							
授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。また授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。その過程で国土地理院地理院地図や地域分析ソフトRESASといった、WebGISの活用方法を解説する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
授業内で適宜連絡する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、 11 回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	5 0 %	5 0 %	0 %	0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
多面的多角的な視点	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を深く理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）をやや理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができなかった。
災害情報の活用	災害情報を地理的に理解し、高いレベルで活用することができた。	災害情報を地理的に理解し、活用することができた。	災害情報を地理的に理解することができた。	災害情報を地理的にやや理解することができた。	災害情報を地理的に理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当		社会福祉学科・3年	
開講時期	1 Q		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅰ (科目ナンバリング：HUG122125,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者： 塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
2	地理学概説① 地理学の成り立ち	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
3	地理学概説② 系統地理学と地誌学	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
4	立地論	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
5	工業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
6	都市地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
7	商業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
8	観光地理学	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
9	開発地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
10	地図の歴史	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
11	地理学とフィールドワーク	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
12	地理学と災害	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
13	北海道における災害リスク	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
14	地域防災とハザードマップ	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
15	これからの地理学	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施 全体を講評し、フィードバックする	事前にテキストの範囲を読んでいること。（90分）	まとめの振り返り。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築学科 4年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント (科目ナンバリング：SWS124139)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授) ・市内包括連携 施設職員ほか		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明)、これからの社会福祉法人・施設の役割と経営のあり方	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
2	・今日の社会福祉施設長に求められるものとは ・社会福祉施設の経営管理	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
3	・社会福祉施設におけるサービスの質と権利擁護 ・社会福祉施設のサービス管理	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
4	・地域共生社会の実現における社会福祉施設の役割と実践	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
5	・社会福祉施設の財務管理	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
6	・社会福祉施設の人事労務管理	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
7	・社会福祉施設におけるリスクマネジメント ・レポート課題課題の発表	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
8	・レポート提出 ・授業改善アンケートの実施 ・まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ (科目ナンバリング：SWS124028)					
授業担当者 (所属・職名)	・大島 康雄(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本 大輔(社会福		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会 常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講 義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解する。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 7. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。
到達目標
1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解できる。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力について学ぶ。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解できる。 4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解できる。 5. ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解できる。 6. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 7. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解できる。
授業の方法
1. 授業形態は演習形式で、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. 適宜、質疑応答を交える。 3. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 4. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業もある。 5. 大学のペーパレス化に伴い、資料はなるべく少なく対応する。
履修上の注意事項
1. 必要な資料等は適宜配布する。 2. 配布資料は必ず持参すること。 3. 授業は8回であり、5回は出席すること。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 出席回数は最低5回なければ単位の認定はできない。 2. その他については、80％は出席40％、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度40％で評価します。20％は授業内で作成した作成物で評価します。 3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40％以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0％	0％	20％	0％	％	80％

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解するー実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できたー実習経験をふまえー	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できたー実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できたー実習経験をふまえー	自己覚知の概念を言語で明確に理解できたー実習経験をふまえー	左記の専門用語を一つも説明できなかったー実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおける面接技法を理解するー実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できたー実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できたー実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できたー実習経験をふまえー	面接における身体技法を実践できたー実習経験をふまえー	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかったー実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の役割をロールプレイングで実践できたー実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の役割をロールプレイングで実践できたー実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できたー実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できたー実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できたー実習経験をふまえー	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかったー実習経験をふまえー

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ (科目ナンバリング：SWS124028)					
授業担当者 (所属・職名)	・大島 康雄(社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会 常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講 義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映について。シラバスの説明。 科目終了時に身につく力・・・ジェネリック・ソ	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
2	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
3	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
4	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
5	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
6	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
7	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
8	ソーシャルワークの展開過程～児童分野・地域分野・高齢分野・障害分野をソーシャルワークのグローバル定義を用いて－実習経験をふまえて－	資料を事前に読んでおくこと（90分）	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ (科目ナンバリング：PSS123034)					
授業担当者 (所属・職名)	伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師))			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基 づいて、授業を展開する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
1．精神医学、精神医療の歴史を説明する。2．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3．代表的な精神障害について説明する。							
授業全体の内容と概要							
精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。 「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目							
授業の方法							
講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 筆記試験で規定の成績を得たもの。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ (科目ナンバリング：PSS123034)					
授業担当者 (所属・職名)	伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師))			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基 づいて、授業を展開する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 「科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
2	精神医学、精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
6	診断法① 診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
7	診断法② 精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
8	診断法③ 心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
9	代表的な精神障害① 症状性を含む器質性精神障害（老年性認知症を含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
10	代表的な精神障害② 精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
11	代表的な精神障害③ 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
12	代表的な精神障害④ 気分（感情）障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
13	代表的な精神障害⑤ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
14	代表的な精神障害⑥ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと（90分）
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説しフィードバックをする	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと（90分）	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神医学と精神医療Ⅱ (科目ナンバリング：PSS123035)					
授業担当者 (所属・職名)	伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師))			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基 づいて、授業を展開する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2025年度）							
到達目標							
1．精神医学、精神医療の歴史を説明する。2．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3．代表的な精神障害について説明する。							
授業全体の内容と概要							
精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。							
授業の方法							
講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 筆記試験で規定の成績を得たもの。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。	
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。	
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神医学と精神医療Ⅱ (科目ナンバリング：PSS123035)					
授業担当者 (所属・職名)	伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：伊東 隆雄 (社会福祉学科・非常勤講師))			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基 づいて、授業を展開する。			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
2	代表的な精神障害① 成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
3	代表的な精神障害② 精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
4	代表的な精神障害③ 心理的発達障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
5	代表的な精神障害④ 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
6	代表的な精神障害⑤ 神経系の疾患（てんかんを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
7	治療法① 身体的療法 薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
8	治療法② 身体的療法 電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
9	治療法③ 精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
10	治療法④ 環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
11	治療法⑤ 精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
12	病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
13	精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと (90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説し、フィードバックする	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと (90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅲ (科目ナンバリング：SWS122046)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

1. 精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。

2. 記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で通用する社会性・主体性を身につけて実践できる。

3. 福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。

授業全体の内容と概要

1. 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。

2. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により学ぶ。

3. 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

1. 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。

2. 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。

3. 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

4. Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

5. 基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 教科書は毎回持参すること。

2. 演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。

3. 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート（50点）、平常点（50点）で総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助演習Ⅲ (科目ナンバリング：SWS122046)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)、大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習「精神専門」』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (授業内容・シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
2	退院支援、地域移行・定着支援に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
3	退院支援、地域移行・定着支援に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
4	地域精神保健に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
5	地域精神保健に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
6	精神科リハビリテーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
7	精神科リハビリテーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
8	インテーク・アセスメント・プランニングに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
9	インテーク・アセスメント・プランニングに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
10	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
11	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
12	ケアマネジメントに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
13	ケアマネジメントに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
14	チームアプローチに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
15	チームアプローチに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと (90分)
16	まとめ (具体的習得知識・技術) 授業全体解説 科目を修了して『身に付く力』についての検証	授業を振り返り学習内容をまとめておくこと 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと (90分)	復習・資料整理を行うこと。 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123048)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実 践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 ② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ 実際の理解し実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談 援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力 を涵養する。

授業全体の内容と概要
①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 ②精神保健福祉における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 ③SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目領域

授業の方法
①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。 ②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。 ③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 ⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
					その他（授業の方法参照）	

履修上の注意事項
①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。 ②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 ③Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：SWS123048)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉学科・准教授)			研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：		西野 克俊)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習「精神専門」』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映及び 科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
2	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導 における個別指導及び集団指導の意義	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
3	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に 関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
4	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に 関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
5	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域 社会等に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
6	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体 験	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
7	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体 験	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
8	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体 験	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
9	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体 験	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
10	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
11	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
12	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
13	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソー シャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
14	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソー シャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
15	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に 関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）
16	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に 関する理解 科目を終了して『身に付く力』についての検証	教科書を事前に読んでおくこと。（90分）	ノート・資料整理を行うこと。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：SWS123049)				
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実 践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 ② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ 実際の理解し実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談 援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力 を涵養する。

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談 援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力 を涵養する。

授業全体の内容と概要
①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 ②精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 ③「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法
①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。 ③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 ⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	☐	グループワーク		フィールドワーク	
☐	模擬授業	☐	ロールプレイ		調査学習	
☐	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	
					その他（授業の方法参照）	

履修上の注意事項
①精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱを修了していることを前提とする。 ②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 ③Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
</					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：SWS123049)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：		西野 克俊)	CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャル ワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』精神専 門教育学校連盟	一般社団法人日本ソーシャルワ ーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映及び 科目を終了して『身に付く力』についての説明	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
6	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
8	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
9	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
10	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
11	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
12	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
13	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
14	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
15	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート・資料整理を行うこと (90分)
16	総まとめ 科目を終了して『身に付く力』についての検証、授 業評価アンケートの実施	個人の振り返りをしておくこと (90分)	実習資料・日誌などの整理を行うこと (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習Ⅲ (科目ナンバリング：SWS124052)					
授業担当者 (所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)、西野 克俊 (社会福祉学科・准教授)、畠山 明子 (社会福祉		研究室等所在		1号館2階	
単位数	3 (単位認定責任者：		西野 克俊)		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』精神福祉教育学校連盟	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	利用者やその関係者、施設・機関、事業者・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
2	利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
3	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) との相談支援関係の形成	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
4	利用者やその関係者 (家族・友人・近隣住民等) への権利擁護及び相談支援 (エンパワメントを含む。) とその評価	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
5	施設・機関、事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
6	地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
7	施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
8	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 フィードバック、科目を修了して『身に付く力』に	自己学習と目標設定 (90分)	1日の振り返り・記録作成 (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	講義,演習		必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング：SWS123055)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	実習前指導：オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	実習前指導：スクールソーシャルワーク実習の理解	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	実習前指導：スクールソーシャルワーク実習に必要な事前書類の作成～エントリーシートと誓約書	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	実習前指導：スクールソーシャルワーク実習の実習先の理解と必要なソーシャルワークの視点について	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習に必要な事前書類の作成～実習計画書の作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	実習前指導：スクールソーシャルワーク実習の記録について	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	実習前指導：スクールソーシャルワーク実習のケース研究について	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	実習前指導：教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力について	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	実習後指導：実習体験を踏まえた振り返り	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	実習後指導：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール（学校）ソーシャルワーク	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習報告書の作成～実習の概要の報告と発表、作成～	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習の報告書の作成～目録と評価、実習の学んだこと～	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習報告会の準備～資料の作成～	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習報告会の準備～資料の作成と発表の準備～	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	実習後指導：スクールソーシャルワーク実習報告会・授業改善アンケートの実施・授業全体の解説	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 / 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	スクールソーシャルワーク実習 (科目ナンバリング：SWS124056)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

学校教育法第1条で定める学校のうち原則として18歳未満の児童生徒を対象とした学校。同法で定める学校に関する施設・機関等、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で定める教育委員会等、その他教育基本法及び地方公共団体の条例等で定める学校教育に関する施設・機関、組織その他の施設・機関等（以下、「学校現場等」という。）において、学校及び日常での生活を営む上で課題の解決を要する児童生徒とその家庭及びその児童を取り巻く環境・学校・社会・制度等を「実習を通して体験的」に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

1. 日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解する。

2. スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。

3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

1. 日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的にについて学ぶ。

2. スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を学ぶ。

3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に学ぶ。

4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について学ぶ。

5. 3・4年次において、社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を単位取得もしくは単位取得見込みの学生に対し、更に将来、教育の分野でスクールソーシャルワーカーとして就職を希望する学生に対して本実習を開講する。

6. 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

7. 最低10日（80時間）以上の実習を行うことになり、ジェネリック実習は社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習で、すでに習得していることを前提に、スペシフィック・ソーシャルワーク実習と位置づけ授業が行われる。

8. 実習科目であり、大学生と大学教員、また実習先でのスーパーバイザーやクライアントなど、多くの方の悩みやスキル、経験から学ぶ。

授業の方法

1. 授業形態は「実習形式」である。

2. 週1回の実習巡回時に資料を適宜配布し、ポイントとするべきことは説明を行う。

3. 週1回の実習巡回時に適宜質問を促し、対応する。

4. 自然災害などの状況により、講義・演習、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1. 必要な資料等は適宜配布する。

2. 3・4年次に社会福祉士もしくは精神保健福祉士の実習を履修し、単位を取得済みもしくは単位取得見込みの学生が履修できる。

3. 将来、教育の分野でスクールソーシャルワーカーとして勤務することを強く願う、意欲のある学生に開講される。

4. 実習科目であり、大学生と大学教員、また実習先でのスーパーバイザーやクライアントなど、多くの方の悩みやスキル、経験から学ぶことから、守秘義務を守る必要があることから、知りえた情報は外部に漏らさない等、気をつけなくてはならない。

5. 実習中は部活やアルバイトはできないことから、事前に部活の期間やバイト先に相談すること。

6. 単位の取得後、社会福祉士もしくは精神保健福祉士国家試験の受験・合格をした後、大学を通し日本ソーシャルワーク教育学校連盟に対し、手続きを行い、その結果として「スクールソーシャルワーク養成課程における認定証」が認定される。

7. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

8. 大学のペーパレス化に伴い、教科書など指定した場合は、必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程課程

評価方法・基準

評価前提条件					
・実習10日間(80時間)を実施することで、単位取得となる。 ・別途、実習に行くにあたりスペシフィックな視点が必要なことから、事前・事後学習の科目がある。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ループリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
【知識・技術】実習前に、スクールソーシャルワーカーについての知識を習得する。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習前に、スクールソーシャルワークについておおむね知識を習得できた。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習前に、スクールソーシャルワークについての知識の習得が大きくなかった。	
【知識・技術】実習終了時スクールソーシャルワークについての知識を習得する。	実習終了時、スクールソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習終了時、スクールソーシャルワークについて知識をおおむね習得できた。	実習終了時、スクールソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習終了時、スクールソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習終了時、スクールソーシャルワークについての知識の習得が大きくなかった。	
【知識・技術】実習終了後、スクールソーシャルワークについての技術を習得する。	実習終了後、スクールソーシャルワークについての技術を非常に習得できた。	実習終了後、スクールソーシャルワークについて技術を習得できた。	実習終了後、スクールソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習終了後、スクールソーシャルワークについての技術の習得ができなかった。	実習終了後、スクールソーシャルワークについての技術の習得が大きくなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク実習 (科目ナンバリング：SWS124056)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	事前課題を別途指定する。	事後課題を別途指定する。
2	実習10日間(80時間)	翌日の実習で学ぶべき目標等を日誌に書きこんでおく(90分)	その日実習で学んだことを日誌に書きこんでおく(90分)
3	実習終了後、授業改善アンケートの実施。授業全体の解説科目を修了して『身に付く力』についての検証	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 / 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123097)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
この科目は、以下の5つを授業の目的とする。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科の、DP 3、DP 4、DP 5に対応する。							
到達目標							
保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、具体的に述べる。							
授業全体の内容と概要							
保育実習Ⅱ（保育所実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。 また、模擬保育を取り入れ、お互いを評価しあう時間を設定する。 提出されたレポートにはコメントをつけてフィードバックする。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためレポート提出を1回課す。なお、詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。保育実習Ⅱを選択した場合は、必ず保育実習指導Ⅱを選択すること。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は1 1 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	2 0 %	2 0 %	0 %	6 0 %	0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育実習の総合的な学びの意義について深く理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義についておおむね理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について多少理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解することができなかった。
保育実習に向けた思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育実習の総合的な学びと実践力について十分に考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力についておおむね考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について多少考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をわかりやすく説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をおおむね説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を多少説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明することができなかった。
パフォーマンス（知識、スキルを使いこなす活用、応用）	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって具体的に報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによっておおむね報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって多少報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって報告することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習指導Ⅱ (科目ナンバリング：CHS123097)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：吉江 幸子)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂しりたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2020	9784810314755	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション（履修によって「身に付く力」の説明を含む）	指定した教科書を事前に読むこと（45分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
2	事前指導① 保育実習Ⅰのふりかえり	保育実習Ⅰの記録を読み返しておく（45分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
3	事前指導② 保育実習Ⅱの目的・内容・方法	実習の手引きについて事前学習しておく（45分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
4	事前指導③ 実習課題の設定	保育実習Ⅰの課題を省察する（45分）。	授業終了時に示す課題を作成する（45分）。
5	事前指導④ 指導計画の立案について	2年次履修「保育課程論」を読み返しておく（45分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
6	保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	教科書の「実習の準備」を事前学習しておく（45分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
7	保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援	教科書の「保育実技」を事前学習しておく（45分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
8	保育実践力の育成（1）子どもの状態に応じた適切なかわり	教科書の「保育実技」を事前学習しておく（45分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
9	保育実践力の育成（2）保育の表現技術を生かした保育実践	教科書の「保育実技」を事前学習する（45分）。	9回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
10	保育実践力の育成（3）未満児・以上児における指導案の作成と事前準備	乳児及び未満児対応について事前学習する（45分）。	10回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
11	計画と観察、記録、自己評価（1）保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	教科書の「記録」を事前学習しておく（45分）。	11回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
12	計画と観察、記録、自己評価（2）保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	実習記録用紙書式をよく確認しておく（45分）。	12回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
13	事後指導① 保育園における保育士の職務	実習のまとめ・報告準備を進める（45分）。	13回目の授業で理解した点を整理する（45分）。
14	事後指導② 実習報告会の実施	報告会の準備、練習をしておく（45分）。	報告会の自己評価をする（45分）。
15	事後指導③ 実習の総括と今後への課題、レポート	実習で学んだ事、課題を整理しておく（45分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（45分）。
16	提出レポート・課題の解説（「身に付く力」の検証）	実習内容を振り返り課題抽出（45分）。	課題の解説に基づき復習し整理する（45分）。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：CHS123098)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標																								
本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科の DP3、DP4、DP5に対応する。																								
到達目標																								
・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル） ・保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解する。（スタディスキル）																								
授業全体の内容と概要																								
保育実習Ⅲ（施設実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。																								
授業の方法																								
授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table><tr><td>○</td><td>プレゼンテーション</td><td>○</td><td>グループワーク</td><td></td><td>フィールドワーク</td><td></td><td>PBL</td></tr><tr><td></td><td>模擬授業</td><td>○</td><td>ロールプレイ</td><td></td><td>調査学習</td><td></td><td>反転授業</td></tr><tr><td></td><td>ディスカッション</td><td>○</td><td>実験・実習・実技</td><td></td><td>双方向授業</td><td></td><td>その他（授業の方法参照）</td></tr></table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。10回以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。保育実習実施後、原稿用紙（400字）約3枚程度のレポート提出を1回課す。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするため原稿用紙（400字）約4枚程度のレポート提出を1回課す。なお、詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。「保育実習指導Ⅲ」は、保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習指導Ⅱ」が「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを必ず選択すること。																								

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目 保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
授業回数の3分の2（11回）以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ね理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導Ⅲ (科目ナンバリング：CHS123098)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在		1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者：		湯浅 頼佳)		CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明	シラバスを読む。「保育実習Ⅰ」の報告書や日誌などを再読する。(45分)	シラバスの確認をする。「保育実習Ⅰ」での課題を明確にする。「身に着く力」について考察する。(45分)
2	事前指導① 保育実習Ⅰのふりかえり	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
3	事前指導② 保育実習Ⅲの目的・内容・方法	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
4	事前指導③ 実習課題の設定	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
5	事前指導④ 援助計画の立案について	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
6	保育実習による総合的な学び(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
7	保育実習による総合的な学び(2)子どもの保育と保護者支援	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
8	保育実践力の育成(1)子どもの状態に応じた適切なかわり	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
9	保育実践力の育成(2)保育の表現技術を生かした保育実践	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
10	計画と観察、記録、自己評価(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
11	計画と観察、記録、自己評価(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
12	事後指導① 児童福祉施設等における保育士の職務	前回の授業で出された課題について予習する。(45分)	授業後に課題についての復習を含め授業ノートを作成し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
13	事後指導② 実習報告会の実施	報告会のシミュレーションをしてお。(45分)	報告会について振り返りを行う。自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
14	事後指導③ 実習評価と自己覚知	自己評価表を作成する。(45分)	実習評価と自己評価について考察する。自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
15	事後指導④ 実習の総括	「保育実習Ⅲ」のまとめを行う。(45分)	「保育実習Ⅲ」について考察し、自身の修得目標達成度を測定する。(45分)
16	保育実習のまとめと振り返り 授業最終回において講評し、フィードバック実施 第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実施	「保育実習Ⅰ・Ⅲ」をまとめる(45分)	「保育実習Ⅰ・Ⅲ」について考察し、自身の修得目標達成度を測定する。「身に着く力」について再度考察する。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習Ⅱ (科目ナンバリング：CHS124100)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	×		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
この科目は、以下を授業の目的とする。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5 対応する。							
到達目標							
保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解と実践ができる。							
授業全体の内容と概要							
保育実習Ⅱ（保育所）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
保育実習先施設に出勤し、保育実習指導担当保育士の指示のもと、日々の目標にそって実習を行う。 実習期間中、担当教員による訪問指導を行い、課題の明確化や相談の時間を設定し、実習指導者との面談内容等のフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能も活用し、個別に実習相談や意見交換等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
保育実習手引きに記載している実習生心構えを基本として、保育実習に積極的に取り組むこと。 遅刻・欠席・早退は、その分実習日数の延長となる。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
10日間以上の実習を行うこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
10%	10%	20%	10%	10%	40%

ルーブリック						
評価項目	評価基準					
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
保育の専門的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の専門的知識の活用について十分に理解した。	保育の専門的知識の活用についておおむね理解した。	保育の専門的知識の活用について理解した。	保育の専門的知識の活用について多少は理解した。	保育の専門的知識の活用について理解することができなかった。	
保育技術獲得に向けた思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習による総合的な学びを、記録を通して積極的に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通しておおむね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して表すことができなかった。	
パフォーマンス（知識、スキルを使いこなす活用、応用）	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化におおむね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅱ (科目ナンバリング：CHS124100)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在		1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2020	9784810314755	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。履修によって「身に付く力」の説明を含む。 保育所の保育内容の各領域とその全体を實踐に照ら	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
2	保育士倫理要綱に照らし合わせた実践を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
3	実践における指導技術を身につける。養護と教育が一体となって行われる保育について理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから養護と教育の一体性について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
4	保育計画、年間・月間・週間及び1日の指導計画の体系と立案の方法を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから「保育の計画」について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
5	保育士の指導のもと乳幼児の保育を担当し、保育実践を総合的に学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
6	乳幼児の集団を全体的にとらえる視点と、個別の発達の方角付けを具体的に学習する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから集団と個別性について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
7	子どもの発達の課題や保育所の生活に慣れにくい状態などへの具体的な対応方法を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから子どもの発達課題について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
8	家族とのコミュニケーションの方法、子育て支援の実態を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから家族との関わりについて振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
9	保育所の社会的役割と責任について学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから保育所の役割について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
10	子どもの心身の状態や活動の観察を通して保育者の援助を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてからアセスメントの重要性を振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
11	環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから環境保育について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
12	入所している子どもの保護者に対する子育て支援について学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから子育て支援について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
13	関係機関や地域社会との連携・協働について理解を深める。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）。	実習を終えてから地域との連携について振り返り1日の日誌を完成させる（45分）。
14	作成した指導計画に基づく保育の実践と評価を体験する。	指導計画に基づくシミュレーションの実施（45分）。	実習の総括と課題の明確化を行い、反省会の準備をする（45分）。
15	多様な保育の展開と保育士の業務についてまとめ、職業倫理を理解する。実習先における評価・反省会の実施	保育士の専門性について再度理解する（45分）。	保育士の職業倫理についてまとめる（45分）。
16	実習のまとめ・レポートの実施（「身に付く力」の検証） 授業最終回において議評をし、フィードバックする	実習全日程の振り返りをまとめる（45分）。	日誌を全日程完成させ提出する（45分）。

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習Ⅲ (科目ナンバリング：CHS124101)				
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)			CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照		
オフィスアワー					

概要

履修目標

本学の「初年次教育」として位置付ける本授業を受講し、スチューデントスキル、スタディスキル、 アカデミックスキル等を修得することにより、大学生として生活面や学習面等で必要となる多様な能力を身に付ける。

既習の今日科目や保育実習の経験を踏まえ児童福祉施設における保育を実践し、保育士としての必要な資質、能力、技術を習得し深めるとともに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要な能力を養う。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標

・大学生に求められる一般常識や態度を学習面、生活面で活用できる。（スチューデントスキル）

・保育士としての職業倫理を理解し、児童福祉施設等において保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。（スタディスキル）

授業全体の内容と概要

児童福祉施設等において10日間以上の実習を行う。保育全般に参加し、子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。指導計画を立案し、実際に実践し、家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。学内において、実習の事前・事後指導を行う。SDG4、「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。「保育実習Ⅱ」か「保育実習Ⅲ」のいずれかを必ず選択すること。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめとする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価（単位認定）しない。保育実習実施後、発表の場を設け原稿用紙（400字）約3枚程度のレポート提出を1回課す。発表会終了後、実習全体のまとめとしての原稿用紙（400字）約4枚程度のレポート提出を1回課す。なお、詳細（レポート課題・提出方法等）は授業時間に指示する。実習期間中は訪問指導を行い、質問等には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート、課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を上記の基準で評価する。「保育実習Ⅲ」は保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習Ⅱ」か「保育実習Ⅲ」のいずれかを必ず選択すること。

修学サポート（合理的配慮） 事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目 保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
レポート、課題、その他（実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等）を下記の基準で評価する。実習は10日以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
10%	10%	20%	10%	10%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を概えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ねに理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実習Ⅲ (科目ナンバリング：CHS124101)					
授業担当者 (所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：		湯浅 頼佳		CAP制	×
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 本学ディプロマ・ポリシーの説明 この科目を履修し終了した時に「身に着く力」の説	シラバスを読む。座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	シラバスを確認する。実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる。「身に着く力」について考察する。（45分）
2	児童福祉施設等における援助プログラムの立案をする	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
3	児童福祉施設等における援助プログラムにもとづく援助実践を行う	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
4	児童福祉施設等における保育士の職務と技術を習得する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
5	児童福祉施設等における保育士と他職種との連携を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
6	児童福祉施設等における利用児・者の権利擁護をすすめる取り組みについて、具体的な対応方法を学ぶ	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
7	児童福祉施設等における種別ごとの特徴と種別を越えて共通する課題が存在することを実践を通して学習する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
8	児童福祉施設等における権利擁護と守秘義務を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
9	実習の計画と記録（1）実習における計画	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
10	実習の計画と記録（2）実習における実践	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
11	実習の計画と記録（3）実習における観察	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
12	実習の計画と記録（4）実習における記録	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
13	実習の計画と記録（5）実習における評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
14	実習の総括と自己評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
15	実習の総括と課題の明確化	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える（45分）	実習を終えてから振り返りを行い、1日の日誌を完成させる（45分）
16	実習の総括と振り返り 授業最終回において講評し、フィードバック実施 第1回目にあげた「身に着く力」について検証を実	実習の総括と振り返りを行い、反省会の準備をする（45分）	反省会の振り返りを行う。日誌を全日程完成させ提出する。「身に着く力」について再度考察する。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング：CHS124102)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標							
保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通して理解した課題を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力が身につく。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力が身につく。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。							
授業全体の内容と概要							
保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通し、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。 「SDGs 4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。 遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。 学外の保育現場等へ出向くこともあるため、社会人としてふさわしい態度を求める。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の実践方法の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育実践について基礎的な知識を深く理解できた。	保育実践について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解できた。	保育実践について基礎的な知識を多少理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題をおおむね明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して多少自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング：CHS124102)					
授業担当者 (所属・職名)	吉江 幸子 (社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：吉江 幸子)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション (履修により「身に付く力」の 説明を含む)	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
2	学びの振り返り①保育士の意義、役割についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
3	学びの振り返り②保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
4	学びの振り返り③社会性、対人関係能力についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
5	学びの振り返り④子どもやその家庭の理解についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
6	学びの振り返り⑤職員間、関係機関との連携についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
7	学びの振り返り⑥保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
8	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク①課題について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
9	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク②要因、背景について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
10	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク③課題解決の内容と方法	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
11	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
12	これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
13	これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
14	自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
15	保育士としての資質、能力についての研究発表とまとめ	資料を読み、学修しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
16	レポートに関する解説しフィードバックする(「身に付く力」の検証) 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 (科目ナンバリング：SNE122103, SNE124115)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・ 今日的課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特別支援学校教諭を希望する学生が、講義等をおして得た教育内容・方法の理論や技術を教育現場で体験的に理解するとともに、教職に対する新たな課題の発見をおして自己認識を高める。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
教育実習をおして、教育実習校の組織・教員間の協働意識・児童生徒の安全指導・保護者との連携等を理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
①教育実習校の教育活動・教育課程・学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談の理解 ②教育実習校における授業参観、参観をおした生徒理解と実習授業の実際 ③学習指導案の作成と研究授業における指導 ④教職に対する使命感・責任感と自己の理解 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
特別支援学校において教育実習を行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教育実習生としての心得を守るとともに、教育実習校の指示に従うこと。 不測の事態が起きた際の授業等をオンラインで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数を満たしていること。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育実習校の教育活動の理解	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し、主体的な実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能をほぼ習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得した実習が実施できなかった。
教育実習校での実習授業	授業参観等をおとして児童生徒理解を積極的回り、的確な思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおとして児童生徒理解を図り、思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおとして児童生徒理解を回ようこころがけ、思考力・判断力を大いに学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおとしての児童生徒理解は十分ではなかったが、学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおとして児童生徒理解を図ることができず、学習指導案に基づいた授業が展開できなかった。
教職に対する自己認識	教職に対する使命感・責任感を持って、新たな課題を発見するなど、自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って、課題発見に取り組むなど、自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って取り組むなど、自己認識を高めよう努めることができた。	教職に対する責任感を持って取り組むなどの姿勢ができた。	教職に対する責任感を持って取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	後期集中	授業形態	実習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 (科目ナンバリング：SNE122103, SNE124115)					
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)、堀川 厚志 (社会福祉学科・特任教授)、千葉 聡美 (社会福		研究室等所在		2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日の課題への対応を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	1～32回 ・講話支援（校長・副校長・教頭・主幹教諭・教務主任・生徒指導主事・養護主任等）	教育実習に係る諸事項についての計画的，継続的な準備（各45分）	教育実習に係る諸事項についての計画的，継続的な整理（各45分）
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020	9784863715486	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義,演習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事後指導) (科目ナンバリング：SNE123126)					
授業担当者 (所属・職名)	木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)、千葉聡美(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階(木村)・2号館7階(千葉)		
単位数	1 (単位認定責任者：木村 浩紀)		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。							
</							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11 回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	2 0 %	0 %	0 %	7 0 %	1 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できなかった。
授業テーマに関するレポートの記述・発表	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述・発表ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年			
開講時期	後期	授業形態	講義,演習		必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事後指導) (科目ナンバリング：SNE123126)					
授業担当者 (所属・職名)	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階（木村）・2号館7階（千葉）		
単位数	1（単位認定責任者：木村 浩紀）		CAP制		×	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション「シラバスの説明」「身に付く力」「授業改善アンケート結果反映の説明」・「講義の	関連する資料の収集に努めること。（90分）	オリエンテーションの重要事項を整理すること。（90分）
2	学習指導方法の研究（1） ・教育課程の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（90分）	調査内容を整理すること。（90分）
3	学習指導方法の研究（2） ・生徒指導の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（90分）	調査内容を整理すること。（90分）
4	学習指導方法の研究（3） ・特別活動・学校行事の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（90分）	調査内容を整理すること。（90分）
5	模擬授業の実際Ⅶ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。（90分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（90分）
6	模擬授業の実際Ⅷ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。（90分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（90分）
7	模擬授業の実際Ⅸ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。（90分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（90分）
8	模擬授業の実際Ⅹ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。（90分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（90分）
9	学習指導方法の研究（4） ・キャリア教育の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（90分）	調査内容を整理すること。（90分）
10	学習指導方法の研究（5） ・「保護者や地域との連携」の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（90分）	調査内容を整理すること。（90分）
11	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（90分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（90分）
12	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（90分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（90分）
13	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（90分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（90分）
14	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（90分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（90分）
15	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（90分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（90分）
16	特別支援教育実習（事後学習）のまとめ（フィードバックと身に付く力の検証） ・教職員としての心構え	調査や報告内容を整理しておくこと。（90分）	講義内容を整理すること。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング：HUG122130,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者：塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
身近な地域の地誌を学ぶことによって、その地域性を理解し、また地域を多面的多角的に議論する能力を身に付ける。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
1. 北海道の地域性を説明することができ、他地域の地域性を学ぶ力を身につける。 2. 地域をマイクロスケールからミクロスケールで見ること学び、多面的多角的な視点を養う。							
授業全体の内容と概要							
本授業では北海道と対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また、北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず北海道の自然条件と歴史に着目し、その地域性を俯瞰する。そして北海道の市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。そうした中で近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなったニセコエリアを対象とし、ミクロナ地域の差を解説する。 「SDG4．質の高い教育をみんなに」および「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連科目。							
授業の方法							
授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。スライド資料を中心に映像資料を交えながら講義を進める。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
講義内で適宜連絡する。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的背景を踏まえ、北海道の地域性を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的背景を踏まえ、北海道の地域性を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的背景を踏まえ、北海道の地域性を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング：HUG122130，)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者： 塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
2	北海道の地理的条件① 気候と地形	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
3	北海道の地理的条件② 土地成因	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
4	北海道の地理的条件③ 北海道の開発	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
5	北海道とアイヌ文化	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
6	北海道の農業	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
7	北海道の工業	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
8	北海道の商業	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
9	広域中心都市の形成	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
10	港湾都市の形成と再開発	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
11	災害とまちづくり	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
12	自然環境の保全と共存	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	レポート課題等を作成すること。（90分）
13	ニセコエリア①～インバウンド観光と新たなまちづくり～	レポート課題等を作成すること。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
14	ニセコエリア②～土地利用変化～	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
15	ニセコエリア③～近年のスキーリゾート開発～	前回の授業内容を復習しておくこと。（90分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（90分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 全体を講評し、フィードバックする 科目を終了して『身に付く力』についての検証	まとめの準備。（90分）	まとめの振り返り。（90分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本政治史 (科目ナンバリング：POL122120)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者：後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標						
近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身に付け、説明することができる。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。						
到達目標						
①近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。 ②事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。 ③現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。						
授業全体の内容と概要						
本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。 「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業。						
授業の方法						
授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。 TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。						

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を高いレベルで理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実をある程度理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を高いレベルで説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開をある程度説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を高いレベルで歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を十分に歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点をある程度歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本政治史 (科目ナンバリング：POL122120)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2	(単位認定責任者： 後藤 啓倫)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
10	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
11	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
12	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
13	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
14	終戦過程	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分の試験終了後、残りの解説 30分で解説をし、フィードバックする) 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本文化史 (科目ナンバリング：HIS122122)					
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者：及川 琢英)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

概要

履修目標							
人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
1. テーマに沿った文献や資料を提示することができる。 2. 文献を批判的に考察することができる。 3. 考察した内容を適切に表現できる。							
授業全体の内容と概要							
1. 人と動物との関わり合いの歴史について考察する。 2. 日本独特の文化とは何かを考える。							
授業の方法							
受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。 毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を拾選して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を拾選して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を拾選して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていないかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていないかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	日本文化史 (科目ナンバリング：HIS122122)					
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2	(単位認定責任者： 及川 琢英)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおく (90分)	基礎的事項の確認 (90分)
2	猫の世界史1	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
3	猫の世界史2	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
5	明治初期の認識	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
6	文筆家と猫	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
7	猫絵	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
8	猫の需要	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
9	猫獲り	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
10	虐待と愛護	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
11	震災と戦争	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
12	猫食い	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
13	猫文化	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
14	生活の変化	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
15	猫ブーム	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施 フィードバック 科目を修了して『身に付く力』についての検証	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅱ (科目ナンバリング: HUG122126,)				
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

[illegible]

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（地理歴史）必修科目 （社会）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	５０％	０％	０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
地理空間情報・GISスキル	右の記述を高いレベルで実現していた。	地理空間情報およびGISを活用し、たいへんわかりやすく説明ができた。	地理空間情報およびGISを活用し、説明することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができなかった。
資料収集・活用	統計情報等の資料収集を行い、高いレベルで活用し、説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用し説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用することができた。	統計情報等の資料収集を行った。	統計情報等の資料収集を行っていないかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年			
開講時期	3 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	人文地理学Ⅱ (科目ナンバリング：HUG122126,)					
授業担当者 (所属・職名)	塩崎 大輔 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階		
単位数	2	(単位認定責任者：塩崎 大輔)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『フリーGISソフトMANDARA10入門 増補版：かんたん!オリジナル地図を作ろう』	谷 謙二	古今書院	2022	4772281231	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	身の回りのGIS	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地理空間情報とGIS	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	統計情報とオープンデータ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	統計情報の収集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	統計情報の編集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	統計情報の可視化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	GISの基礎① 測地系と座標系	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	GISの基礎② 地図の作成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	GISの基礎③ 地理空間情報の可視化・地図化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	GISの基礎④ 地理空間情報の整理	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	GISの基礎⑥ 地理空間情報の統合	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	GISの基礎⑤ 地理空間情報の活用	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
14	地理空間情報の活用成果発表①	成果発表の準備学修。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
15	地理空間情報の活用成果発表②	成果発表の準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施 全体を議評し、フィードバックする	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	4 Q	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択	
科目名称	社会福祉事業史 (科目ナンバリング：SWS124119)					
授業担当者 (所属・職名)	小早川 俊哉 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応					

概要

履修目標							
①福祉概念の変遷を時代背景と共に理解する。 ②其々の時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解する。 ③第二次世界大戦後の我が国の福祉の変遷を理解する。 ④現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができるようになる。							
授業の位置づけ							
社会福祉学部のDP3、DP4、DP5に対応する科目							
到達目標							
①福祉に関する自身の考えを論理的に述べる力を獲得する。 ②時代背景と社会の在り方を理解することから、社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方の関連性を理解する。 ③ファシリテーターとしてグループワークを取りまとめることができる。							
授業全体の内容と概要							
①学んできたことを基盤として、更なる福祉観の醸成を図る。 ②1つのテーマを講義、グループワーク、プレゼンテーションを通して、背景（要因・理由）とその内容（考え方・概念）を論理的に考察する。 ③現代の課題をテーマとした際は、社会背景（要因・理由）から解決策を考察する。 「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業。							
授業の方法							
①3コマを1パッケージとして（15コマ÷3コマ=5パッケージ）展開する。 ②1コマ目を講義、2コマ目は講義を基本にグループワーク、3コマ目はグループワークから結論等をプレゼンする。 ③テーマにより、3コマ目のプレゼンをディベートに置き換える。 ④講義のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。							
アクティブラーニングの実施方法							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
これまでに学んできたこと、例えば社会保障、社会福祉の原理と政策など、他の授業との関わりに注意する。 授業中の積極性（質問、質問への回答、課題提供、ファシリテーションなど）は、その場で確認することで成績に反映させる。 遅刻3回で欠席1回とみなす。 尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回／16回以上 積極的な発言・質問・回答、課題提供、ファシリテーション、プレゼンテーションなどと、平常点（授業への真摯な取り組み）の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0 %	0 %	0 %	0 0 %	2 0 %	8 0 %

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉に関する自身の考えを論理的に述べるこができた。	自身の福祉観を構築することができた。	論理性に時代背景、社会背景が含まれていた。	福祉に関する自身の考えを論理的に述べるこができた。	福祉に関する自身の考えを述べるこができた。	福祉に関する自身の考えを述べるこがでなかつた。
時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた。	具体的な関連性を例を使い説明することができた。	時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた	社会システムが変化することが理解できた。	時代背景とは何かを理解することができた。	時代背景とは何かを理解することがでなかつた。
現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	昨今、なぜソーシャルポリシーが必要なのかを説明できた。	現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	ソーシャルポリシーの概念を理解できた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。	現代の福祉的社會課題を提示することがでなかつた。
社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方を関連付けられる。					

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義,演習	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 (科目ナンバリング：SWS124119)				
授業担当者 (所属・職名)	小早川 俊哉 (非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)		CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、特に授業修了において「身に付く力」について説明、授業改善アンケート結果についての説明	シラバスの読み込みとレジュメの下調べ（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
2	欧米の歴史的時代背景と福祉体制の関連についてのグループワーク グループワークのフィードバック	講義の復習（90分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（90分）
3	プレゼンと討議 プレゼンと討議に対するフィードバック	プレゼン及び討議の準備（90分）	次回講義テーマの下調べ（90分）
4	戦前日本の福祉について（講義）	レジュメの下調べ（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
5	戦前日本の福祉についてのグループワーク グループワークのフィードバック	講義の復習（90分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（90分）
6	プレゼンと討議 プレゼンと討議に対するフィードバック	プレゼン及び討議の準備（90分）	次回講義テーマの下調べ（90分）
7	保険制度と税金によるサービス（講義）	レジュメの下調べ（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
8	保険制度と税金によるサービスについてのグループワーク グループワークのフィードバック	講義の復習（90分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（90分）
9	ディベートについての説明 保険or税金？ ディベート ディベートに対するフィードバック	プレゼン及び討議の準備（90分）	次回講義テーマの下調べ（90分）
10	戦後日本の福祉の歴史（講義）	レジュメの下調べ（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
11	戦後日本の福祉の歴史についてのグループワーク グループワークのフィードバック	講義の復習（90分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（90分）
12	戦後日本の福祉の歴史についてのプレゼンと討議 プレゼンと討議に対するフィードバック	プレゼン及び討議の準備（90分）	次回講義テーマの下調べ（90分）
13	現代日本の福祉の課題（講義）	レジュメの下調べ（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（90分）
14	現代日本の福祉的課題と対策についてのグループワーク グループワークのフィードバック	講義の復習（90分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（90分）
15	現代日本の福祉的課題と対策についてのプレゼンと討議 プレゼンと討議に対するフィードバック	プレゼン及び討議の準備（90分）	これまでのまとめと自身の福祉観をまとめる（90分）
16	本授業を通して「何が身に付いたか」を発表・フィードバック	本授業を通して得たものを各自確認	これまでに得たものと今後の課題を確認

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	2 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会思想史 (科目ナンバリング：SOC122121)					
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者：後藤 啓倫)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	研究室前の掲示ボード等を参照			
オフィスアワー						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明科目を修了して『身に付く力』についての説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
6	ユダヤ教とキリスト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
10	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
11	カント	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
12	ホッブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
13	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
14	現代の社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布資料の整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分の試験終了後、残りの解説30分で解説をし、フィードバックする) 科目を修了して『身に付く力』についての検証	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年, 社会福祉学科・4年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法 (科目ナンバリング：LAW122132, LAW423035,)				
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 細川 光法)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標							
国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め、国際社会のルールについて学び、身に付けることを目的とする。							
授業の位置づけ							
経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。 社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。							
到達目標							
「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め、更に高度な知識を得るための基礎をつくる。							
授業全体の内容と概要							
国際法の存在意義について考え、国際法に関する基礎知識の習得を目指す。 「SDG 16. 平和と公正をすべての人に」の関連科目。							
授業の方法							
板書、プリントなどを用い、講義形式・学生参加型授業を実施する。 レポートの解説等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。							

修学サポート (合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要なとなる最低出席回数は16回の授業（定期試験を含む）のうち11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割未満。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力・表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当		経営学科・4年，社会福祉学科・4年		
開講時期	4 Q		授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	国際法 (科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，)						
授業担当者 (所属・職名)	細川 光法（経営学科・非常勤講師）			研究室等所在		1号館1階非常勤講師室	
単位数	2		(単位認定責任者：細川 光法)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容					
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応						

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。シラバスの説明（科目を修了して「身に付く力」の説明含む）	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際公法と国際私法	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	国際法の主体と法源	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	国際法の歴史	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	条約、条約の改定・修正	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	国際紛争と法的解決	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	日米間の条約と問題点	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	北方領土問題の歴史的経緯と法的問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	国家領域「領土」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	日本の領土問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	国会領域「領海」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	領空と国際空域 宇宙空間	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	国際連合の成立とその役割	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際法と個人の関係①	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際法と個人の関係②	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験 授業改善アンケートの実施 授業に係る講評・施設によるフィードバック	これまで学んだことを確認(90分)	試験の内容を復習(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『はじめての国際法 第3版』	尾崎 哲夫著	自由国民社	2016年	9784426122775	
2	『よくわかる国際法 第2版 やわらかアカデミズム・くわかる>シリーズ』	大森 正仁編著	ミネルヴァ書房	2014年	9784623069781	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	講義		必修・選択	選択
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅰ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 上原 正希)				CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標							
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。 3. 社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解する。							
授業の位置づけ							
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する (2025年度)。							
到達目標							
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。 3. 社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解することができる。							
授業全体の内容と概要							
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について学ぶ。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について学ぶ。 3. 社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について学ぶ。 4. 「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。							
授業の方法							
1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。 2. 国家試験に大切な重要力所、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜質問を促し、質問に対応する。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。 5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。							
アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項							
1. 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。 2. 適宜質問に対応する。 3. 自然災害などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。 4. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。 5. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。							

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30%の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができなかった。
社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について理解することができる。	社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解を深めた。	社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解することができた。	社会保険、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策、ソーシャルワークの基盤と専門職の5科目の重要な部分について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅰ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 上原 正希)		CAP制	○		
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明) 国家試験の現状について	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
2	福祉士試験共通対策基礎講座～社会保障 前編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
3	福祉士試験共通対策基礎講座～社会保障 後編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
4	基礎力テスト(社会保障編) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
5	福祉士試験共通対策基礎講座～心理学と心理的支援 前編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
6	福祉士試験共通対策基礎講座～心理学と心理的支援 後編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
7	基礎力テスト(心理学と心理的支援) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
8	福祉士試験共通対策基礎講座～社会学と社会システム 前編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
9	福祉士試験共通対策基礎講座～社会学と社会システム 後編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
10	基礎力テスト(社会学と社会システム) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
11	福祉士試験共通対策基礎講座～社会福祉の原理と政策 前編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
12	福祉士試験共通対策基礎講座～社会福祉の原理と政策 後編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
13	基礎力テスト(社会福祉の原理と政策) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと (90分)	テストの振り返りを行うこと (90分)
14	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職 前編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
15	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの基盤と専門職 後編	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	ノート整理を行うこと (90分)
16	基礎力テスト(ソーシャルワークの基盤と専門職) 基礎力テストのフィードバック 授業改善アンケートの実施	テスト勉強をしておくこと 科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと 科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅱ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 上原 正希)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。 3. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解する。 4. 精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について理解する。 5. 社会福祉士の国家試験の高齢者福祉、児童・家庭福祉の2科目の重要な部分について理解する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。

到達目標
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。 3. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解することができる。 4. 精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について理解することができる。 5. 社会福祉士の国家試験の高齢者福祉、児童・家庭福祉の2科目の重要な部分について理解することができる。

到達目標
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解することができる。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解することができる。 3. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解することができる。 4. 精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について理解することができる。 5. 社会福祉士の国家試験の高齢者福祉、児童・家庭福祉の2科目の重要な部分について理解することができる。

授業全体の内容と概要
1. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について学ぶ。 2. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について学ぶ。 3. 社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について学ぶ。 4. 精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について学ぶ。 5. 社会福祉士の国家試験の高齢者福祉、児童・家庭福祉の2科目の重要な部分について学ぶ。 6. 「SDG3. すべての人に健康と福祉を」「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。
授業の方法
1. 授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。 2. テキストを使用した場合、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜質問を促し、質問に対応する。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。 5. ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項
1. 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。 2. 適宜質問に対応する。 3. 自然災害などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。 4. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。 5. 大学のバーベキューに伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 教科書は必ず持参する。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 出席回数は最低10回なければ試験を受験できない。 4. その他については、出席状況30%の評価である。 5. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を題えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格に向けた勉強の仕方について、理解することができなかった。
社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について理解する。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解することができた。	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験のソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)、ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)、医学概論、権利擁護を支える法制度、障害者福祉の5科目の重要な部分について、理解することができなかった。
精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について理解する。	精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について、理解を深めた。	精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について、ほぼ理解を深めた。	精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について、やや理解を深めた。	精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について、理解することができた。	精神保健福祉士の国家試験の精神保健福祉の原理、現代の精神保健の課題と支援の2科目の重要な部分について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年			
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	福祉士試験対策基礎講座Ⅱ (科目ナンバリング：)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授)・杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者： 上原 正希)			CAP制	○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー団体役員としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） 国家試験の現状について	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
2	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの 基盤と専門職(専門含む) 前編	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
3	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの 基盤と専門職(専門含む) 後編	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
4	基礎力テスト(ソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）
5	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの 理論と方法(専門含む) 前編	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
6	福祉士試験共通対策基礎講座～ソーシャルワークの 理論と方法(専門含む) 後編	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
7	基礎力テスト(ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）
8	精神保健福祉士試験対策基礎講座～精神保健福祉の 原理 前編 もしくは 精神保健福祉士試験対策基礎講座～精神保健福祉の 原理 後編 もしくは	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
9	精神保健福祉士試験対策基礎講座～精神保健福祉の 原理 後編 もしくは	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
10	基礎力テスト(精神保健福祉の原理)もしくは基礎力 テスト(高齢者福祉) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）
11	精神保健福祉士試験対策基礎講座～現代の精神保健 の課題と支援 前編 社会福祉士試験対策基礎講座～児童・家庭福祉 前	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
12	精神保健福祉士試験対策基礎講座～現代の精神保健 の課題と支援 後編 社会福祉士試験対策基礎講座～児童・家庭福祉 後	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
13	基礎力テスト(現代の精神保健の課題と支援)もしくは 基礎力テスト(児童・家庭福祉) 基礎力テストのフィードバック	テスト勉強をしておくこと（90分）	テストの振り返りを行うこと（90分）
14	福祉士試験共通対策基礎講座～医学概論	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
15	福祉士試験共通対策基礎講座～権利擁護を支える法 制度	教科書を事前に読んでおくこと（90分）	ノート整理を行うこと（90分）
16	福祉士試験共通対策基礎講座～障害者福祉 授業改善アンケートの実施 科目を修了して『身に付く力』についての検証	科目が修了するにあたり『身に付く力』について自分で検証をしておくこと(90分)	科目が修了して『身に付く力』について自分で振り返ること(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・担当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策プログラム (科目ナンバリング: SWS124140)				
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授) 杉本 大輔、 (社会福祉学科・准教授)・櫻井 美帆子 (社会福		研究室等所在	1号館2階	
単位数	4 (単位認定責任者: 上原 正希)			CAP制	○
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標						
社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身につける。						
授業の位置づけ						
社会福祉学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する科目。						
到達目標						
過去3年間の過去問の8割程が正解できる。						
授業全体の内容と概要						
科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行う。また、宿題を課し、問題毎に説明ができるようになる。 「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。						
授業の方法						
過去問を回答してもらい、領出分野を解説する。板書や資料などを用いて学習を進める。質問や疑問点などは解説を行い、そのつと対応する。ICT活用（双方向型授業・自主学習支援など） Microsoft Teams/Forms の機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 基本は対面授業の実施だが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業の実施をおこなう。						
アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	
						PBL
						反転授業
						その他（授業の方法参照）
履修上の注意事項						
受検科目になるため、基本的には毎回出席をすること。						

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は１２回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２５％	２５％	５０％	０％

ループリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができる。	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができた。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第35回、36回の共通科目を8割以上の点数で回答できる。	第35、36回の共通科目の点数が8割以上できた。	第35、36回の共通科目の点数が7割できた。	第35、36回の共通科目の点数が6割できた。	第35、36回の共通科目の点数が5割できた。	第35、36回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
第36回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説を行うことができた。	9～10科目の解説を行うことができた。	7～8目の解説を行うことができた。	5～6科目の解説が行うことができた。	解説を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年			
開講時期	通年	授業形態	演習		必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策プログラム (科目ナンバリング：SWS124140)					
授業担当者 (所属・職名)	上原 正希 (社会福祉学科・教授) 杉本 大輔、 (社会福祉学科・准教授)、櫻井 美帆子 (社会福		研究室等所在		1号館2階	
単位数	4 (単位認定責任者：上原 正希)		CAP制		○	
実務経験のある 教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務 経験と授業関連内容	実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2025 (共通科目編)』		中央法規	2024		
2	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2025』		中央法規	2024		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明。 科目終了後に身につく力についての説明 医学編論	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
2	心理学と心理的支援	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
3	社会学と社会システム	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
4	社会福祉の原理と政策	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
5	社会福祉調査の基礎	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
6	地域福祉と包括的支援体制	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
7	社会保障	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
8	障害者福祉	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
9	権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
11	中間テストを返却し、解説を行いフィードバックする ソーシャルワークの基礎と専門職	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
12	福祉サービスの組織と経営 高齢者福祉	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
13	児童・家庭福祉 貧困に対する支援	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
14	保健医療と福祉 ソーシャルワークの理論と方法 (専門)	過去問の学習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
15	第36回過去問のテスト	第35回の予習 (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)
16	第36回過去問のテストを返却し、解説を行いフィードバックする 科目を修了して『身に付く力』についての検証	解説のロールプレイ (90分)	過去問の振り返り、解説 (90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『社会福祉士国家試験過去問題解説集 2024』		中央法規	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			